沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第４集

伊佐前原第一遺跡

－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う
緊急発掘調査報告書（Ⅲ）－

平成13年（2001年）3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

「伊佐前原第一遺跡」 正誤表

頁	行	正誤箇所	誤	正
13	9	本文中	確認できた、	確認できた。
14	24	本文中	中央部の凹みの方向へ傾斜するものの、凹みの部分は水平方向の堆積である。	中央部の凹みに沿って、水平に堆積している。
17	4〜5	本文中	判然としなくなる。	判然としない。
49	2	本文中	面を持つ。	面を持ち、
54	5	本文中	および錐状土製品	および錘状土製品
61	25	註1	横田・森田	横田賢次郎・森田勉
67	1	本文中	比較を行った(註1)	比較を行った(註1)。
67	3	本文中	よって、分類は	為って、分類は
77	38	本文中	(鍔状突帯)を囲撓させる	(鍔状突帯)を囲繞させる
80	21	本文中	銘刈原遺跡でも	銘苅原遺跡でも
82		第43図19「器面調整」	器面に微かに	器面に僅かに
129	6	本文中	海産種は巻貝88種	海産が巻貝88種
134	22	本文中	本州の中世遺跡では	本土の中世遺跡では

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第４集

伊佐前原第一遺跡

－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う
緊急発掘調査報告書（Ⅲ）－

平成13年（2001年）3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

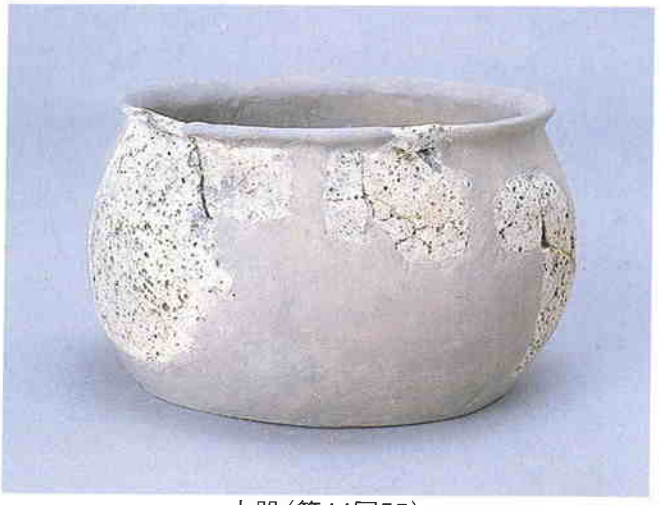
遺跡周辺の航空写真

巻首　図版1

上：列状ピット群（植栽痕群）　　下：埋葬遺構１検出人骨

巻首　図版２

土器（第43図11）



土器（第44図55）

土器（第45図27）正面

土器（第45図27）側面

白　磁

青　磁

類須恵器

鉄鏃

滑石製品

巻首　図版3

目　　次

巻首図版
序
例　　言
報告書抄録

第Ⅰ章　調査経緯と体制 ……1
第１節　調査に至る経緯 ……1
第２節　調査体制 ……1

第Ⅱ章　調査経過 ……4

第Ⅲ章　位置と環境 ……5

第Ⅳ章　層序 ……8

第Ⅴ章　遺構 ……13
第１節　Ⅰ期（グスク時代相当） ……13
第２節　Ⅱ期（近世以降） ……48

第Ⅵ章　出土遺物 ……54
第１節　白磁 ……54
第２節　青磁 ……60
第３節　青白磁 ……66
第４節　類須恵器 ……67
第５節　産地不明須恵器・陶器 ……76
第６節　土器 ……77
第７節　土製品 ……80
第８節　石器・石製品・石材 ……89
第９節　滑石製鍋・転用製品 ……90
第10節　玉類 ……92
第11節　鉄製品 ……93
第12節　銭貨 ……93
第13節　近世以降の人工遺物 ……94

第Ⅶ章　人骨 ……125

第Ⅷ章　自然遺物 ……129
第１節　軟体動物遺存体（貝類） ……129
第２節　脊椎動物遺存体 ……129

第Ⅸ章　総括 ……133

参考文献 ……138

附編１　ナンバリング一覧 ……183
附編２　伊佐前原第一遺跡の自然科学分析 ……207
附編３　伊佐前原古墓群（追補報告） ……223

図 目 次

第１図　沖縄本島及び宜野湾市位置図 ……6
第２図　調査遺跡と周辺遺跡分布図 ……7
第３図　層序　上：27ライン・下：しライン ……9
第４図　調査範囲とグリッド設定図 ……11
第５図　地形測量図(第９層：地山) ……12
第６図　焼土遺構１(第６層中) ……13
第７図　焼土遺構２(第６層中) ……13
第８図　遺構検出状況(第８層) ……21
第９図　第８層上面検出遺構出土の主な遺物 ……23
第10図　炉跡１(第８層) ……20
第11図　溝状遺構Ａ-①･② (第８層) ……20
第12図　柵列状ピット群(第８層) ……25
第13図　列状ピット群検出状況(第８層) ……27
第14図　列状ピット群断面(第８層) ……26
第15図　主要遺構分布図(第９層) ……37
第16図　第９層上面検出遺構出土の主な遺物 ……38
第17図　遺構検出状況(第９層：地山) ……別紙
第18図　炉跡１(す-21・第９層) ……39
第19図　炉跡２・溝状遺構Ｇ(そ-23・第９層) ……39
第20図　掘立柱建物跡　プラン１(第９層) ……40
第21図　掘立柱建物跡　プラン２(第９層) ……41
第22図　掘立柱建物跡　プラン３(第９層) ……41
第23図　埋葬遺構１(第９層) ……42
第24図　埋葬遺構２(第９層) ……43
第25図　埋葬遺構３(第９層) ……43
第26図　埋葬遺構４(第９層) ……44
第27図　溝状遺構　平面図(第９層) ……45
第28図　溝状遺構Ｂ･Ｃ 断面図(第９層) ……46
第29図　溝状遺構Ｄ･Ｅ･Ｆ 断面図(第９層) ……47
第30図　近世～現代遺構分布図 ……50
第31図　石列１(ａ･ｂ)、石列２、石列３、溝１ ……51
第32図　石列４、石列５、溝４、溝５、掘込１ ……52
第33図　白磁(１) ……58
第34図　白磁(２) ……59
第35図　青磁(１) ……64
第36図　青磁(２) ……65
第37図　青白磁 ……66
第38図　類須恵器(１) ……72
第39図　類須恵器(２) ……73
第40図　類須恵器(３) ……74
第41図　類須恵器(４) ……75
第42図　産地不明須恵器・陶器 ……76
第43図　土器(１) ……86
第44図　土器(２) ……87
第45図　土器(３)・土製品 ……88
第46図　石器・石製品 ……89
第47図　滑石製鍋・転用製品 ……91
第48図　玉類 ……92
第49図　鉄製品・銭貨 ……93
第50図　染付(１) ……95
第51図　染付(２)・青磁染付・黄釉磁器・緑釉磁器
　　瑠璃釉磁器・近代白磁・近代青磁
　　中国系陶器 ……96
第52図　褐釉陶器・本土産陶器・本土産磁器
　　産地不明陶磁器 ……99
第53図　沖縄産施釉陶器(１) ……100
第54図　沖縄産施釉陶器(２) ……103
第55図　沖縄産施釉陶器(３) ……104
第56図　沖縄産施釉陶器(４) ……106
第57図　沖縄産施釉陶器(５) ……108
第58図　沖縄産無釉陶器(１) ……110
第59図　沖縄産無釉陶器(２) ……111
第60図　沖縄産無釉陶器(３) ……112
第61図　沖縄産無釉陶器(４) ……114
第62図　沖縄産無釉陶器(５) ……116
第63図　陶質土器(１) ……118
第64図　陶質土器(２) ……119
第65図　円盤状製品･煙管 ……122
第66図　簪(ジーファー)・青銅製品・銭貨
　　貝製品・ガラス製品 ……124
第67図　人の骨格 ……126
第68図　歯冠計測値の偏差グラフ
　　(関東現代人基準) ……127

図版目次

図版１　遺跡遠景・調査中(１)調査完了後(２)発見された戦車の砲塔(３)
　　す･せ-27層序〈東側より撮影〉(４)発掘調査風景(５～８) ……141
図版２　パイプラインより東側完掘状況(１)９層ピット検出状況(２～５)柱痕完掘(２)遺物検出(３)
　　木炭破片検出(４)ピット断面(５)６層焼土遺構(６)８層炉跡(７)９層炉跡３(８) ……142
図版３　埋葬遺構１･平面検出(１)人骨検出(２)埋葬遺構２･木棺？と上下歯骨検出(３)完掘(４)埋葬遺構３･
　　平面検出〈天=南〉(５)上下歯骨検出〈天=北〉(６)埋葬遺構４･人骨検出(７)完掘(８) ……143
図版４　列状ピット群･近景(１･２)断面(３)完掘状況(４)
　　溝状遺構･溝Ｇ(５)溝Ｂ(６)溝Ｄ(７)完掘状況(８) ……144
図版５　石列１-ａ(１)石列２(２)石列２下掘込遺構(３)石列４及び溝４(４)
　　石列６-ａ(５)溝状遺構完掘状況(６)レンガ敷遺構(７)掘込２(８) ……145
図版６　白磁(１) ……146
図版７　白磁(２) ……147
図版８　青磁(１) ……148
図版９　青磁(２) ……149
図版10　類須恵器(１) ……150
図版11　類須恵器(２) ……151
図版12　類須恵器(３) ……152
図版13　類須恵器(４) ……153
図版14　土器(１) ……154
図版15　土器(２) ……155

図版16　土器(3)・土製品 ……156
図版17　青白磁 ……157
図版18　石器・石製品 ……157
図版19　滑石製鍋・転用製品 ……158
図版20　染付(1) ……159
図版21　染付(2)・青磁染付・黄釉磁器・緑釉磁器
瑠璃釉磁器・近代白磁・近代青磁
中国系陶器 ……160
図版22　褐釉陶器·本土産陶器·本土産磁器
産地不明陶磁器 ……161
図版23　近·現代本土産磁器 ……162
図版24　沖縄産施釉陶器(1) ……163
図版25　沖縄産施釉陶器(2) ……164
図版26　沖縄産施釉陶器(3) ……165
図版27　沖縄産施釉陶器(4) ……166
図版28　沖縄産施釉陶器(5) ……167
図版29　沖縄産無釉陶器(1) ……168
図版30　沖縄産無釉陶器(2) ……169
図版31　沖縄産無釉陶器(3) ……170
図版32　沖縄産無釉陶器(4) ……171
図版33　沖縄産無釉陶器(5) ……172
図版34　陶質土器(1) ……173
図版35　陶質土器(2) ……174
図版36　円盤状製品・煙管 ……175
図版37　簪(ジーファー)・青銅製品・銭貨
貝製品・ガラス製品 ……176
図版38　巻貝(1) ……177
図版39　巻貝(2) ……178
図版40　二枚貝 ……179
図版41　脊椎動物遺存体(1) ……180
図版42　脊椎動物遺存体(2) ……181
図版43　脊椎動物遺存体(3) ……182
図版44　産地不明須恵器・陶器 ……76
図版45　玉類 ……92
図版46　滓類 ……93
図版47　鉄製品・銭貨 ……93
図版48　薬莢 ……94
図版49　伊佐前原第一遺跡埋葬遺構２人骨 ……128

表　目　次

第１表　第８層ピット観察一覧 ……15
第２表　列状ピット法量一覧 ……18
第３表　①～③プラン法量一覧(第９層) ……29
第４表　第９層ピット観察一覧 ……32
第５表　出土遺物一覧 ……53
第６表　白磁出土状況 ……55
第７表　白磁観察一覧 ……56
第８表　青磁出土状況 ……61
第９表　青磁観察一覧 ……62
第10表　類須恵器観察一覧 ……69
第11表　類須恵器出土状況 ……71
第12表　類須恵器出土状況(遺構出土) ……71
第13表　土器出土状況(遺構出土) ……80
第14表　土器出土状況 ……81
第15表　土器観察一覧 ……82
第16表　滑石製品・石材出土状況 ……90
第17表　玉類観察一覧 ……92
第18表　染付(1)観察一覧 ……94
第19表　染付(2)·その他の中国系陶磁器
観察一覧 ……97
第20表　本土産陶磁器·沖縄産施釉陶器(1)
観察一覧 ……98
第21表　沖縄産施釉陶器(2)観察一覧 ……101
第22表　沖縄産施釉陶器(3)観察一覧 ……102
第23表　沖縄産施釉陶器(4)観察一覧 ……105
第24表　沖縄産施釉陶器(5)観察一覧·沖縄産無釉
陶器(1)観察一覧 ……107
第25表　沖縄産無釉陶器(2)観察一覧 ……109
第26表　沖縄産無釉陶器(3)観察一覧 ……113
第27表　沖縄産無釉陶器(4)·陶質土器(1)
観察一覧 ……115
第28表　陶質土器(2)観察一覧 ……117
第29表　近・現代本土産磁器観察一覧 ……120
第30表　円盤状製品観察一覧 ……121
第31表　煙管·貝製品·ガラス観察一覧 ……121
第32表　簪(ジーファー)観察一覧 ……123
第33表　青銅製品観察一覧 ……123
第34表　伊佐前原第一遺跡人骨の歯冠計測(㎜) ……127
第35表　歯冠計測値２２項目のＱ相関係数 ……127
第36表　歯冠計測値１６項目のＱ相関係数 ……127
第37表　貝類出土状況(巻貝) ……131
第38表　貝類出土状況(二枚貝) ……132
第39表　魚類出土量 ……130
第40表　ニワトリ、トリ、ネズミ出土一覧 ……130
第41表　ジュゴン？出土一覧 ……130
第42表　イノシシ歯出土量 ……130
第43表　イノシシ出土量 ……130
第44表　ブタ出土量 ……130
第45表　ヤギ歯出土量 ……130
第46表　ヤギ出土量 ……130
第47表　ウシ歯出土量 ……130
第48表　ウシ出土量 ……130
第49表　ウマ出土一覧 ……130
第50表　ウシ・ウマ出土一覧 ……130
第51表　種不明出土量 ……130

序

本報告書は平成10年度と11年度に実施しました伊佐前原第一遺跡の緊急発掘調査成果をまとめたものであります。発掘調査は県道宜野湾北中城線道路改築工事に伴うもので、県土木部からの依頼により、県教育庁文化課が分任事業として実施致しました。出土品の整理につきましては、平成１２年度に開所しました県立埋蔵文化財センターが引き続き実施し、報告書を刊行することになりました。

宜野湾北中城線道路改築工事に係る発掘対象遺跡は喜友名貝塚、喜友名グスク、喜友名泉石畳道、喜友名山川原丘陵古墓群、伊佐前原古墓群、伊佐前原第一遺跡の６遺跡で、前５遺跡の発掘調査成果につきましては、すでに、その成果が報告されており、今回の伊佐前原第一遺跡の報告が最後となります。

伊佐前原第一遺跡は国道58号と新設された宜野湾北中城線が交差する地域に立地する遺跡です。発掘調査の結果、夥しい量の柱穴、炉跡、穴を掘って埋葬した人骨、畑跡、それを区画するような溝などの遺構、グスク系土器、青磁・白磁などの中国磁器、類須恵器などの遺物が多く出土し、13世紀頃の集落・墓地・畑地などの様子の一端を知ることのできる成果を上げました。

先人たちの残した貴重な遺跡の発掘調査成果をまとめた本報告書が、多くの県民が埋蔵文化財に対する認識と理解を深め、さらに、文化財保護思想の普及に活用されることはもとより、地域の歴史研究などの学術研究資料として、多方面に活用されることを期待します。

最後になりましたが、発掘調査および資料整理に際し、ご助言・ご指導をいただきました諸先生方に厚く御礼申し上げるとともに、発掘調査現場や資料整理作業にご協力いただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成１３年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所　長　　知念　勇

例　言

1．本報告書は平成10年度から平成12年度にかけて実施した宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に係る伊佐前原第一遺跡緊急発掘調査の成果をまとめたものである。
2．発掘調査は、沖縄県土木建築部からの分任事業として平成10・11年度まで沖縄県文化課が実施、平成12年度は沖縄県立埋蔵文化財センターが行った。
3．資料整理は、平成12年度に県立埋蔵文化財センターで行った。
4．本書に掲載した地形図は、国土地理院発行1／2,500を使用し、グリッド設定図は道路改築工事設計図に加筆した。
5．本書に表した高度値は海抜高である。表記は「EL」、数値単位は“m”である。
6．遺構図版のトーンは次のことを示す。なお、図版によって異なる場合は、各々に凡例を記す。
　　[redacted]・・・・地山
7．層序及び遺構覆土の土色は『新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局監修）』を参照した。
8．土壌分析等はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、同社による分析結果を附編２に掲載している。
9．発掘調査で出土した各資料の同定及び鑑定、また分析については下記の方々による。記して謝意を申し上げます。
　陶磁器類・・・・・・・・・・・・・・・・・・鈴田　由紀夫氏（佐賀県立九州陶磁文化館）
　類須恵器・・・・・・・・・・・・・・・・・・新東　晃一氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）
　　義　　憲和氏（伊仙町立歴史民俗資料館）
　　池田　榮史氏（琉球大学法文学部）
　人　　骨・・・・・・・・・・・・・・・・・・土肥　直美氏（琉球大学医学部）
　地質・石質・・・・・・・・・・・・・・・・・神谷　厚昭氏（沖縄県立博物館）
10．各章の執筆分担は下記のとおりである。なお、本書の編集は安座間充、仲與根ゆかりの協力を得て當銘清乃が行った。
　鶴元　　寿充・・・・・・第Ⅰ～Ⅲ章
　當銘　　清乃・・・・・・第Ⅳ章、第Ⅴ章、第Ⅵ章（第4・5・11～13節）、第Ⅷ章、第Ⅸ章
　當銘　　由嗣・・・・・・第Ⅳ章、第Ⅸ章
　安座間　　充・・・・・・第Ⅵ章（第1・3・6～9節）
　新垣　　力・・・・・・第Ⅵ章（第2節）
　中山　　晋・・・・・・第Ⅵ章（第13節）
　片桐　千亜紀・・・・・・第Ⅵ章（第13節）
　岸本　　竹美・・・・・・第Ⅵ章（第10節）
　石田　肇・土肥　直美・譜久嶺　忠彦・・・・・・第Ⅶ章
11．本書に掲載した遺物挿図と写真図版の番号は一致するように配置している。
12．土器及び陶磁器等の集計は、主に口縁部と底部資料を対象とした。
13．本書に掲載された現場の写真撮影は當銘由嗣・當銘清乃・安座間充が行った。出土遺物の撮影及び現像･焼付は長田剛・宮崎典子による。鉄製品・銭貨のＸ線写真撮影については青山奈緒（奈良大学大学院）が行った。
14．発掘調査で得られた遺物及び実測図・写真等の記録は、すべて沖縄県立埋蔵文化財センターに保管してある。

報告書抄録

ふりがな	いさまえはらだいいちいせき
書名	伊佐前原第一遺跡
副書名	宜野湾北中城線(伊佐～普天間)道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書(Ⅲ)
巻次	
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第4集
編著者名	鶴元寿充・當銘清乃・當銘由嗣・安座間充・新垣力・中山晋・片桐千亜紀・岸本竹美 石田肇・土肥直美・譜久嶺忠彦
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7 TEL 098-835-8751～8752
発行年月日	2001(平成13)年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
いさまえはら 伊佐前原 だいいちいせき 第一遺跡	おきなわけん 沖縄県 ぎのわんし 宜野湾市 いさこあざまえはら 伊佐小字前原	47205		26° 15′ 58″	127° 44′ 29″	1998.5.17 ～ 2000.4.28	900	宜野湾北中城線 道路改築事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伊佐前原第一遺跡	集落	グスク時代	掘立柱建物跡 埋葬遺構 列状ピット群 溝状遺構 炉跡 ピット群	グスク土器 類須恵器 青磁 白磁 石器 滑石製品 獣骨	畑跡と考えられる、400余の列状ピット群が検出。
	耕作地？	近世～現代	溝状遺構 石列遺構	沖縄産陶器 本土産磁器 中国染付	客土中から、沖縄戦で使用された米軍戦車の砲塔が出土。

第Ⅰ章　調査経緯と体制

第１節 調査に至る経緯

本土復帰以来、沖縄県内においてはリゾート開発を中心とした大型の開発事業が増加し、これにともない沖縄本島を縦横に走る国道・県道はもとより市町村道にいたる交通網の整備が急ピッチで行われている。

近年、大型・多様化する諸開発事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについての協議・調整の件数は急増し、それに比例するように埋蔵文化財の緊急発掘調査の件数も増加している。

今回の緊急発掘調査の契機も同様で、宜野湾北中城線（県道81号線）の拡幅、一部路線の変更を行う道路改築事業である。その事業の中で、宜野湾市伊佐から普天間までの工事範囲内に６遺跡が確認され、その取扱いについての経緯はすでに述べた通りである。(註１)

平成８年度の喜友名貝塚の現場調査業務から始まった宜野湾北中城線（伊佐―普天間間）に係る緊急発掘調査事業は、平成12年4月末日の現場引き渡し、今回の報告書刊行で、すべての業務を完了した。

註１．沖縄県教育委員会『喜友名泉石畳道・喜友名山川原丘陵古墓群・伊佐前原古墓群』沖縄県文化財調査報告書第137集　2000年

第２節 調査体制

発掘調査から資料整理及び報告書の刊行まで、下記の体制で実施した。

平成10年度

事業・調査主体・・・沖縄県教育委員会

教育長	安室　肇
文化課課長	大城将保
文化課副参事兼課長補佐	稲嶺靖子
〃　課長補佐	當眞嗣一

調査事務

文化課管理係主幹兼係長	大浜　節
〃　〃　主査	村山佐代・砂川邦子
〃　〃　副主査	當間清美

調査総括

文化課埋蔵文化財係長	島袋　洋

調査員

文化課埋蔵文化財係充指導主事	比嘉　聡　(現沖縄県立那覇国際高等学校教諭)
〃　〃　〃	鶴元寿充

調査補助員

文化課嘱託員	當銘由嗣（現那覇市教育委員会文化財課主事）

発掘調査作業員

山畑キミ・小波津夏子・呉屋光子・小橋川恵子・大宜味より子・上間チエ
真志喜千代子・小濱信子・新垣良子・田場喜久子・上間清美・金城京子
桃原隆信・高江洲朝三・砂川　司・當眞　寛・城間かおり・世持　緑
浦崎直和・呉屋ヨシ子・島袋智之・名嘉真朝紀・城間幸子・儀間三枝子
新川智子

平成11年度

事業・調査主体・・・沖縄県教育委員会

教育長	翁長良盛
文化課課長	當眞嗣一
文化課課長補佐	名嘉政修・千木良芳範

調査指導

文化庁文化財保護部記念物課主任調査官	岡村道雄

調査事務
文化課管理係主幹兼係長　大浜　節
〃　〃　主査　砂川邦子・當間清美
〃　〃　主任　横山さゆり
調査総括
文化課埋蔵文化財係長　島袋　洋
調査員
文化課埋蔵文化財係充指導主事　鶴元寿充
〃　〃　〃　西銘　章
〃　〃　専門員　當銘清乃・藤崎　京・古屋聡洋・田里一寿
調査補助員
文化課嘱託員　安座間　充・稲嶺真紀江・又吉純子・長田　剛
前田一舟・大島　誠・矢沢秀雄
発掘調査作業員及び協力者
山畑キミ・小波津夏子・呉屋光子・小橋川恵子・上間チエ・真志喜千代子
小濱信子・新垣良子・上間清美・金城京子・桃原隆信・高江洲朝三
當眞　寛・城間かおり・浦崎直和・呉屋ヨシ子・名嘉真朝紀・城間幸子
儀間三枝子・新川智子・比嘉　豊・宮城道代・砂川正幸・安里美紀
岸本竹美・宜保章太・松本信光・城間盛安・友利久美子・嘉陽美弥子
具志幸姿郎・友利美佐江・呉屋史彦・松本義光・小橋川マサ子・喜屋武盛陽
喜友名　輝・田場直樹・大城安志・遠藤千恵子・金城恵子・荻堂美香
増泰隆

平成12年度
事業主体・・・沖縄県教育委員会
教育長　翁長良盛
沖縄県教育庁文化課課長　當眞嗣一
〃　文化課課長補佐　名嘉政修・千木良芳範
〃　〃　記念物係長　盛本　勲
〃　〃　記念物係主任専門員　金城亀信
〃　〃　〃　専門員　仲座久宜
調査主体・・・沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　知念　勇
調査事務
副所長兼庶務課課長　知念廣義
庶務課主事　上原　浩・城間千賀
調査総括
調査課課長　島袋　洋
調査員
調査課充指導主事　鶴元寿充
〃　専門員　片桐千亜紀・新垣　力・中山　晋
調査補助員
埋蔵文化財センター嘱託員　當銘清乃・天久朝海・又吉純子・長田　剛
城間　肇
発掘調査作業員
金城京子・友利久美子・新川智子・上間清美・嘉陽美弥子・吉岡育子
桃原隆信・當眞　寛・喜友名　輝
資料整理作業員及び協力者
玉寄智恵子・瑞慶覧尚美・池原直美・玉城恵美利・比嘉孝子・金城恵子

上良早美・新城　恵・井上亜紀・比嘉公子・仲間留美・島袋春美
友利久美子・新川智子・嘉陽美弥子・新垣裕子・譜久村泰子・幸地真弓
平良貴子・玉城照美・高良三千代・比嘉登美子・大城勝江・與古田　愛
青山奈緒・梅田倫代・岸本竹美・仲與根ゆかり

調査協力

石田　肇　（琉球大学　医学部　教授）
土肥直美　（琉球大学　医学部　助教授）
池田榮史　（琉球大学　法文学部　教授）
黒田登美雄　（琉球大学　理学博士）
江上幹幸　（沖縄国際大学　文学部　助教授）
高宮広土　（札幌大学　先史人類学・人類学博士）
田辺昭三　（神戸山手大学　人文学部　教授）
宇田津徹朗　（宮崎大学　農学部　助教授）
義　憲和　（伊仙町立歴史民俗資料館　館長）
新東晃一　（鹿児島県教育庁文化財課　文化財係長）
鈴田由紀夫　（佐賀県立九州陶磁文化館　学芸課　普及係長）
神谷厚昭　（沖縄県立博物館　指導主事）
呉屋義勝　（宜野湾市教育委員会文化課　文化財保護係長）
中村　愿　（北谷町教育委員会文化課　係長）
東門研治　（北谷町教育委員会文化課　主事）
下地安広　（浦添市教育委員会文化課　文化財係長）
渡久地政嗣　（浦添市教育委員会文化課　文化財係　主事）
島　弘　（那覇市教育委員会文化財課　埋蔵文化財係　主査）
仲宗根　啓　（那覇市教育委員会文化財課　埋蔵文化財係　主事）
當銘由嗣　（那覇市教育委員会文化財課　埋蔵文化財係　主事）
當間麻子　（那覇市教育委員会文化財課　埋蔵文化財係　主事）
譜久嶺忠彦　（琉球大学　医学部　大学院生）

（順不同）

第Ⅱ章　調査経過

本調査は、第1次（1998年5月6日～12月28日）と第2次（1999年4月14日～2000年4月25日）にわたって現地調査を実施し、延べ19ヶ月の期間を費やした。

第1次調査は、ゴールデンウィーク明けの5月6日から開始した。作業は、事前に造成土（客土）の除去を行っていたパイプライン東側（さ～つ－19～24グリッド）部分の遺物包含層の掘り下げから始めた。梅雨明け間近の6月下旬からは、調査区の東側に隣接する伊佐前原古墓群（古墓2基）の発掘調査も同時に実施した。遺物包含層の掘り下げ作業は、台風の襲来や長雨などの天候不順や先述の古墓調査を優先させたことから、11月下旬までかかり、その後に遺構の検出作業に取りかかった。翌12月に入ると、柱穴を中心とする遺構の検出と合わせて実測作業も行った。しかしながら、遺物包含層の発掘に予想以上の時間を費やしたこともあり、時間的な都合により、今回の調査を終了せざるを得なくなった。そのため、ブルーシートで遺構の上面や遺物包含層などを覆う措置を施し、12月28日に現地調査を終了した。

第2次調査は、平成11年4月14日、国道58号線沿いに植えられたキョウチクトウ（調査範囲内）の移植作業の立ち会いで始まり、ゴールデンウィーク明けには、パイプライン西側（国道58号線との間）の造成土の除去作業を開始した。この時に、た－27・28グリッドの撹乱土中から、沖縄戦時に米軍が使用したと考えられるシャーマン戦車の砲塔が出土した（図版1-3）。現在、この砲塔は南風原町文化センターにて保管している。

5月17日、19名の発掘調査作業員を投入し、発掘作業にとりかかった。前年度の調査範囲の遺構の再確認と並行し、新たに客土を除去した範囲の掘り下げ作業を行った。7月からは柱穴遺構が検出された、せ～つ－25～27グリッドの調査を優先して行った。しかし、台風の襲来や大雨が10月まで断続的に続き、発掘中の遺構に土砂が流入してはそれを取り除くという作業が繰り返され、調査の進捗は足踏み状態となった。

また、入念な遺構の検出作業を進める中で、柱穴遺構群の中に4基の埋葬遺構が確認され、よりいっそう詳細な観察を行いながらの発掘となった。特に下層から検出された4基の埋葬遺構については、琉球大学医学部の土肥助教授の指導により、当時の埋葬の様子を知る手がかりとして大きな成果があった。パイプライン東側（さ～つ－19～24グリッド）の遺構の検出及び実測作業は、12月末には終了した。

年明けて平成12年1月5日から、重機による地山の最終確認を実施した。下層の確認が終了した時点で県中部土木事務所に対して調査地域の一部（パイプライン東側）引き渡しを行い、中断していたパイプライン西側の調査を再開した。しかし、新設道路の共用開始まで時間的な制約があり、当遺跡の中心的な時代であるグスク時代に重点を置いた調査になった。グスク時代の包含層の掘り下げ作業及び遺構の検出作業を進めていったが、2月・3月は非常に雨が多く、作業を中断せざるを得ない日々が続いた。検出した遺構の中でも、植物植栽穴と推測される列状ピット群は自然科学分野など他分野からのアプローチも必要と考え、遺構内覆土のサンプル採取や遺構の切り取りを行った。3月末日を目処に実施してきた調査であるが、その時点で遺構の検出と実測作業を残していた。県中部土木事務所と1ヶ月間の調査期間延長を調整して継続調査を行い、地山面において検出された溝状遺構の実測作業を4月18日に終了し、4月末日には完掘状況の測量を実施した。平成12年4月25日付で県土木建築部に対し、現地における全ての調査作業が完了したことを報告するとともに、現場からの発掘道具等の搬出や現場事務所の解体撤去を行い今回の発掘調査を完了した。

第Ⅲ章　位置と環境

宜野湾市は、沖縄本島中部の西海岸に所在する。北から南へ東周りに北谷町・北中城村・中城村・西原町・浦添市の５市町村に隣接し、西側には東シナ海が広がる。

東西6.1㎞・南北5.2㎞のやや長方形を呈す市の面積は、19.37㎢で、その33%にあたる約6.4㎢が、普天間飛行場やキャンプ瑞慶覧という米軍基地である。普天間飛行場は市の中央部に位置し、それを取り囲むように市街地が形成される。キャンプ瑞慶覧は市の北西部から北谷町と北中城村にかけて所在する。沖縄本島の主要幹線である２本の国道（58号・330号）が市域を南北に貫き、それらと交差するように、市の北側に県道81号（宜野湾北中城線）、南側に県道34号が走っている。また、沖縄自動車道の西原と北中城の両インターチェンジも市域に隣接することから、南北に長い沖縄本島において、北部地域と那覇を中心とする中南部地域を結ぶ交通の要所となっている。

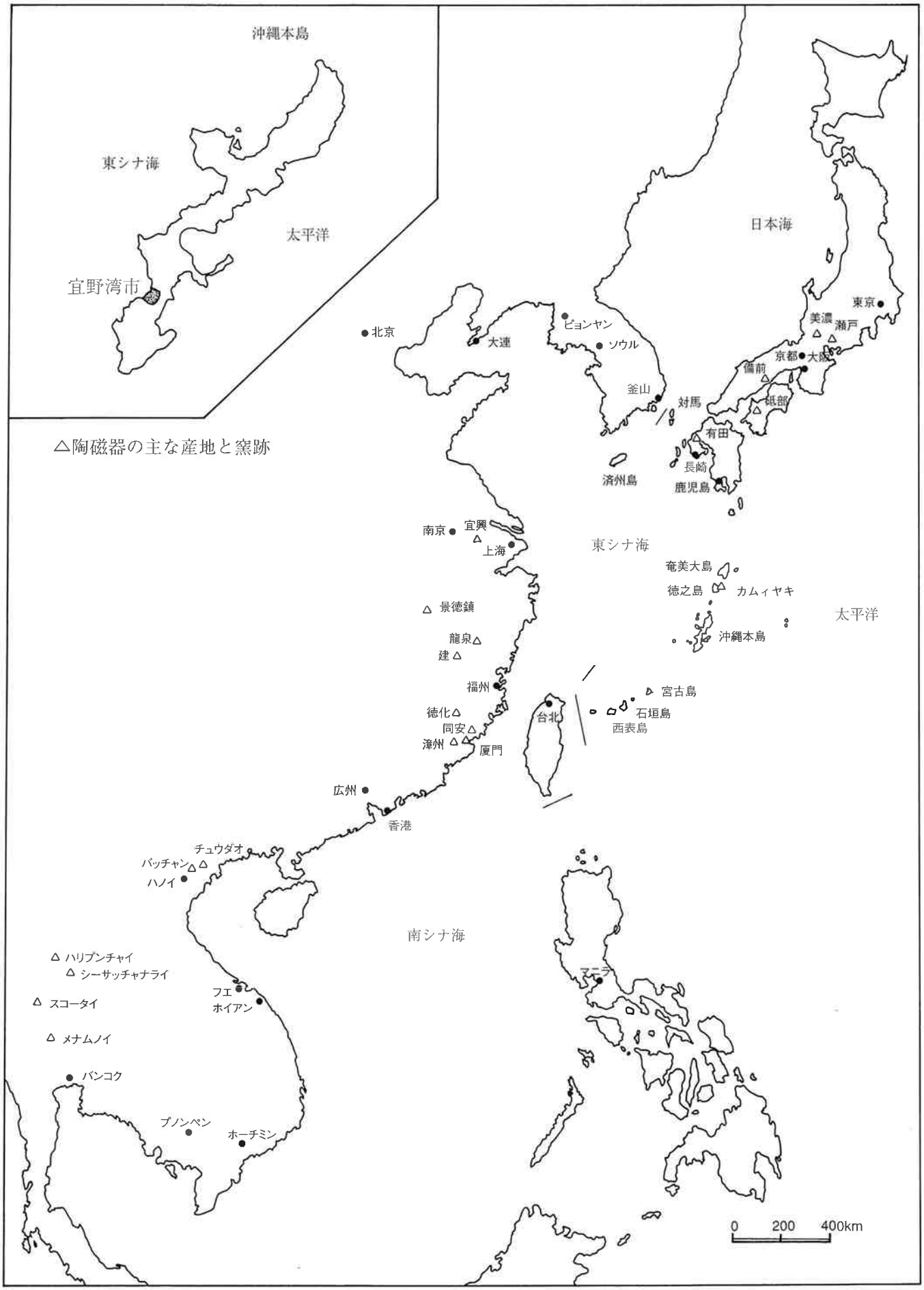
宜野湾市の地形は雛壇状の４つの段丘面からなる。海岸線には沖積低地が広がり、イノーと呼ばれる平坦な礁原を形成しているが、近年の埋め立てによる開発のために、その景観は少しずつ変容してきている。内陸部の段丘は、クチャと呼ばれる島尻層群がみられる東側を除き、その大部分が石灰岩部層で形成され、段丘縁辺には洞窟や湧泉が多く分布する。また、湧泉からの豊富な湧水が流れ込む海岸沿いの沖積低地には田圃が形成され、特産のターンム（田芋）の栽培が行われている。

文献にみえる「宜野湾間切」は、1671年に浦添・北谷・中城の３間切から割いた13ヶ村に１村（大川、のちの真志喜）を加え14ヶ村をもって設立されている。1908年には『沖縄県及島嶼町村制』の施行により、「宜野湾間切」を改め、「宜野湾村」が誕生し、1943年に字の再編を行って現在の形になっている。去る沖縄戦では、他村と同様に宜野湾村も壊滅的な被害をうけた。また、戦後には、米軍基地建設を目的とした市域の主要な部分の接収が行われ、それに伴い集落の強制移動を余儀なくされた。このような状況下で、1962年には市制が施行され、「宜野湾市」となる。その後は人口の流入も著しく、現在は８万６千人余を抱える、沖縄県内で４番目に大きい都市となった。

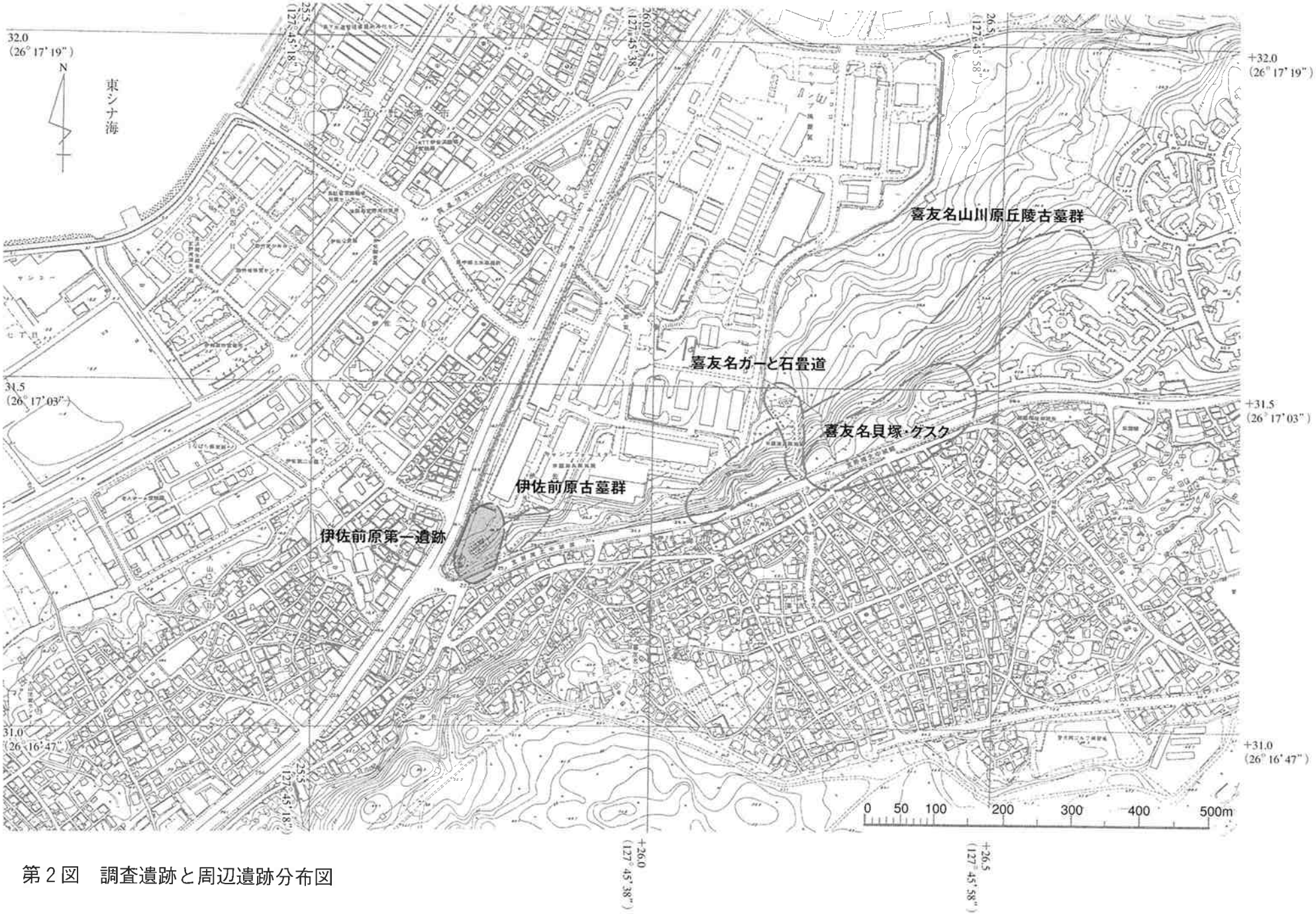
伊佐前原第一遺跡は、国道58号と県道81号（宜野湾北中城線）が交差する“メーバルアジマー”と称される伊佐三叉路（現在は十字路）の北東側で、道路改築工事に係る以前の在沖米軍海兵隊基地キャンプ瑞慶覧の南西端に所在する。北東ー南西方向に延びる標高12ｍ～28ｍ程の琉球石灰岩段丘の前縁に形成されている遺跡で、南西側には大山オーグムヤー洞穴を基口とする入り江状の海岸低地（オーグムヤーガーラ）が広がり、北東側には遺跡の一角に連なる沢状凹地が湾入する。

また、西方にはフンシガー湧泉、北方にはウブガーとウフガー湧泉が位置するほか、北東部には喜友名の七湧泉と呼ばれる湧水群が散在することから、これらの豊富な水脈が、各時代の当遺跡の在り方に大きな影響を与えている。周辺の文化財としては、遺跡の北に隣接する様に伊佐前原第二遺跡、後背部の微高地（カンジャーヌウィー）には先に報告した伊佐前原古墓群とする亀甲墓が遺跡に向かって連座する。また、基地造成以前には、この微高地の延長である小丘には村落の拝所であるウガン・ウガングゥー・ウカミヤーが所在した。

後背の小丘から見渡す戦前の宜野湾市伊佐は、遺跡地の北側に集落が位置し、それを取り囲むように畑地と原野が広がり、その西側には東シナ海につづく遠浅の浜辺が広がっていた。牧港から残波岬までが一望できる風光明媚な場所であった当地は、去る沖縄戦で上陸した米軍の南下ルートに当たり、両軍の激しい攻防が行われた場所でもある。今回の調査で、基地建設の際の造成土中から戦時中に使用された形式の米軍製戦車の砲塔が、廃棄された状態でみつかり話題となった。戦後、この地は米国民政府の「土地収用令」（1953年4月公布）による強制土地収用により、大規模な基地建設工事が行われ、遺跡地である前原一帯はもとより、その北辺にあった伊佐の集落や人々の生活の拠り所であった湧泉や拝所などはその姿を消し、現在の景観となる。そして、県道81号の道路改築工事により、ロータリー化されたフェンス内に伊佐前原第一遺跡の一部と伊佐前原古墓群の亀甲墓１基が残存した状況である。この亀甲墓は、中部土木と米軍海兵隊の調整により埋め戻しは行わず、国道側からその姿を垣間見ることができる。



第１図　沖縄本島及び宜野湾市位置図



第２図　調査遺跡と周辺遺跡分布図

第Ⅳ章　層序

今回の発掘調査区は、米軍基地の一部として利用されていた場所であり、その際の造成工事に伴う客土が全体を覆っていた。表土層であるこの客土を重機により除去した結果、グスク時代の遺物を主体とする遺物包含層及び近世から米軍に土地接収される直前までの遺物包含層が確認された。調査区全体の地形は東側で高く、西側の方へゆるやかに低くなる。土層の堆積状況をみると、東側で薄く、西側にいくに従い厚くなる傾向がみられ、地形の傾斜から考えて2次的な堆積層であると考えられた。以下の基本層序の説明で述べる第3～第5層がそれで、この3枚の土層はグスク時代のプライマリーな生活層ではなく、流水等の作用により、この場所に堆積した可能性が考えられる。第3層以下の遺物包含層は、グスク時代の遺物を主体とするが、新石器時代前Ⅳ期（縄文後期相当）や後期（弥生時代～平安時代相当）後半の土器も少量出土している。

米軍の設置した送油管（通称：パイプ・ライン）が調査区内の層序を東西に地山まで分断しているため、東西の層序の対応関係を判断するのには難があった。今回確認できた層序は概ね以下で述べるように整理できると考える。

また、調査区の北西部（す・せ・そ―25～27グリッド付近）には、地山直上まで近·現代の遺物を含む土層が堆積する窪地があり、この窪地の地山上面には遺構が確認できた。検出された遺構としては、沖縄戦以後の掘り込みが数カ所で確認されているが、近代以前の遺構とみられる石積み遺構や溝状遺構もある。窪地内の堆積層は、グスク時代から現代にかけての遺物が混在しているが、沖縄戦の直後から米軍による土地接収直前までに形成されたものと思われる。窪地内の堆積層である第Ⅱ・第Ⅲ層には、水田地帯の土層に確認できるラミナ模様がみられたが、畦等の水田に伴う遺構は残念ながら検出できなかった。窪地内の堆積層の層序については、調査区全体の基本層序とは別に分層し、以下で基本層序の次に説明する。

なお、以下の文章中では調査区を次のように区切って述べる。「東側」は19～21グリッド付近。「中央」は22～24グリッド付近。「西側」は25～27グリッド付近を指す（第3図・第5図）。

(A) 基本層序（第３図）

第１層　表土層。客土。

第２層　茶褐色土層で、石灰岩の小礫を多く含む。調査区北東側と南西側に分布し、溝状遺構１（以下、溝１と表記）の遺構内覆土でもある。近世から近・現代までの遺物が出土するが、層の上下で遺物の出土傾向が多少異なる。上部では近・現代の遺物の出土量が多く、下部では近・現代の遺物がみられず、遺物の出土量も少ない（第５表参照）。

第３層　黄褐色土層。調査区東側から中央にかけてみられるが、溝１によって分断されている。

第４層　暗茶褐色土層。調査区北東側の一部と、溝１より南の中央から西側にかけて堆積する。

第５層　暗褐色土層。第３・第４層に比べ、含まれる遺物の量は増加する。西側にいくに従って厚みを増し、西側では層中に赤色土粒が集中する間層がみられ、層が上下に細分できる。

第６層　黒色土層。遺物包含層。調査区東側にみられた。

第７層　黒色土層。遺物包含層。調査区西側にみられた。

第８層　暗褐色土層。遺物包含層。層上面に、炉跡や柱穴と思われるピット群等が検出された。

第９層　地山。調査区東側では第８層との識別が難しい暗褐色土で、西側にいくに従い、徐々に橙褐色土に変化する。層上面には、柱穴と思われるピット群が検出され、掘立柱建物跡のプランがいくつか想定できた。その他、埋葬遺構（４基）・溝状遺構（７基）が確認されている。

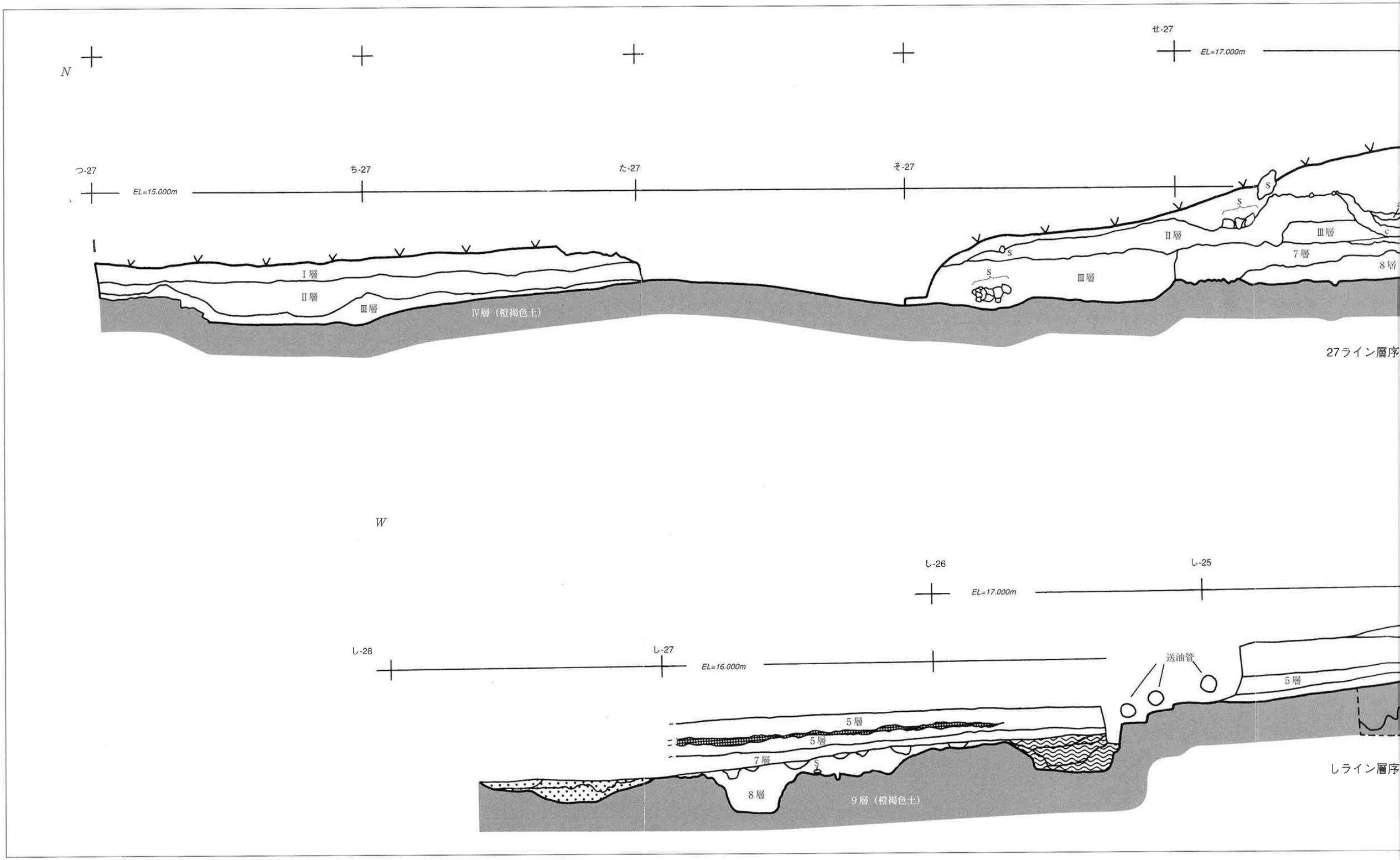
(B) 調査区北西部窪地内堆積層（第３図）

第Ⅰ層　表土層。客土。

第Ⅱ層　茶褐色土を主体に白色砂粒・小礫が混ざる層。

第Ⅲ層　にぶい黄褐色土層。

第Ⅳ層　橙褐色の地山。溝状遺構が確認できる。



第３図　層序　上：27ライン・下：しライン

せ-27　す-27　し-27　さ-27　こ-27

EL=17.000m　EL=16.000m

S

1層
2層
4層
5層
7層
9層（暗褐色土）
Ⅱ層
Ⅲ層
8層
a
b
c
s

27ライン層序

溝４堆積土

a：鈍い黄褐色土、細砂粒が顕著で締まりのある土。

b：鈍い黄褐色土、粗砂粒が顕著で微粒な赤色土粒・炭粒を含む。

c：鈍い黄褐色土と褐色土が混ざる。

掘方

溝Ｂ：第27図参照

溝Ｃ：第27図参照

溝Ｄ：第27図参照

５層間層

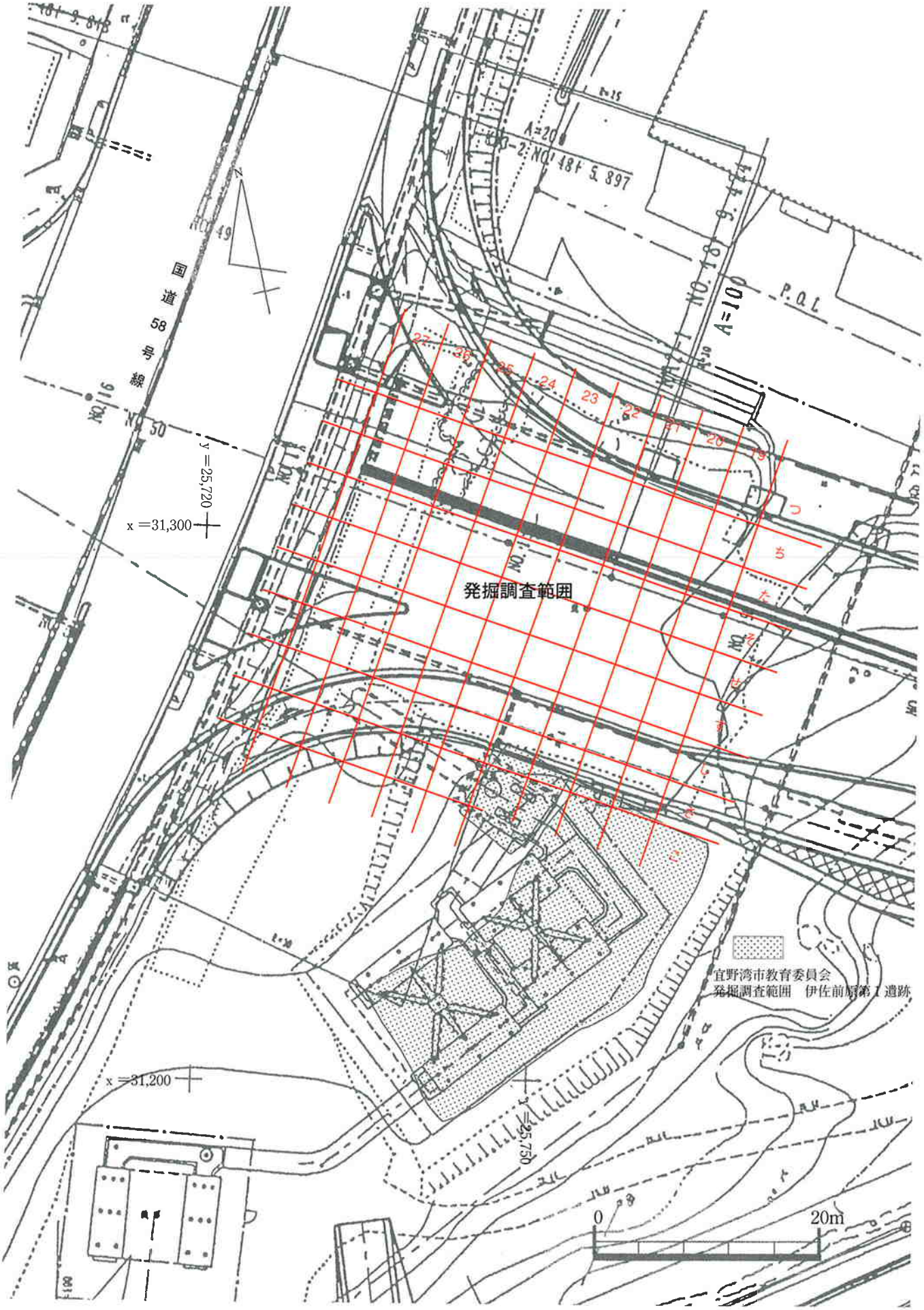
E

し-25　し-24　し-23　し-22

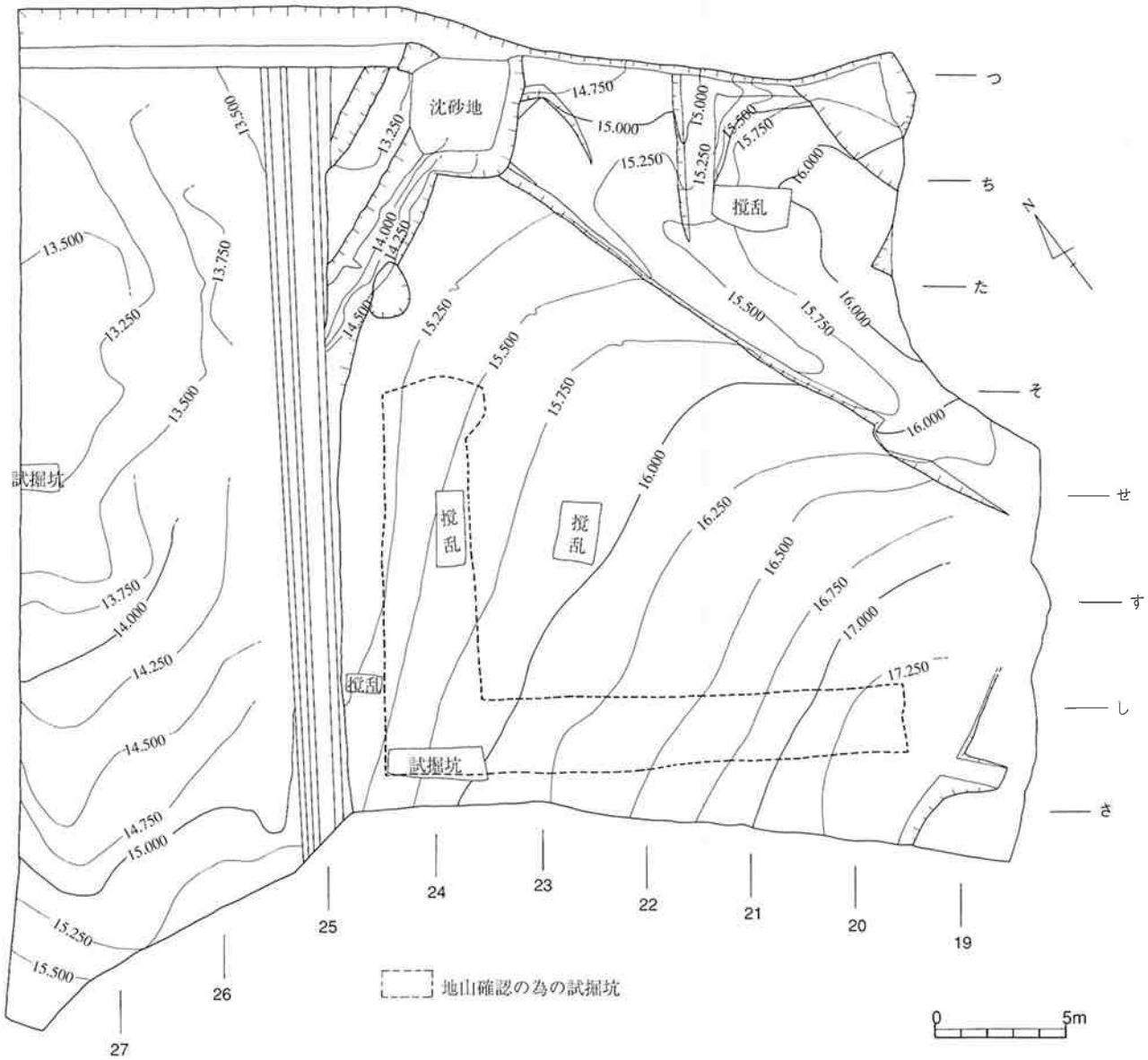
3層
4層
5層
6層
8層
9層（暗褐色土）
9層（橙褐色土）
送油管

しライン層序

0　5m



第4図　調査範囲とグリッド設定図



第5図　地形測量図（9層：地山）

第Ⅴ章　遺　構

本調査では第６層中・第８層上面・第９層（地山）上面において、グスク時代に相当するとみられる遺構が検出され、また調査区北・北西側で、近世以降のものと考えられる遺構が確認できた。前者をⅠ期、後者をⅡ期として、各遺構の概要について述べる。

なお、遺構番号については、調査中に付けたグリッド単位の通し番号で掲載し、炉跡や埋葬遺構、列状ピット群、溝状遺構、掘立柱建物跡のプランについては、ピットと区別して番号を付けている。

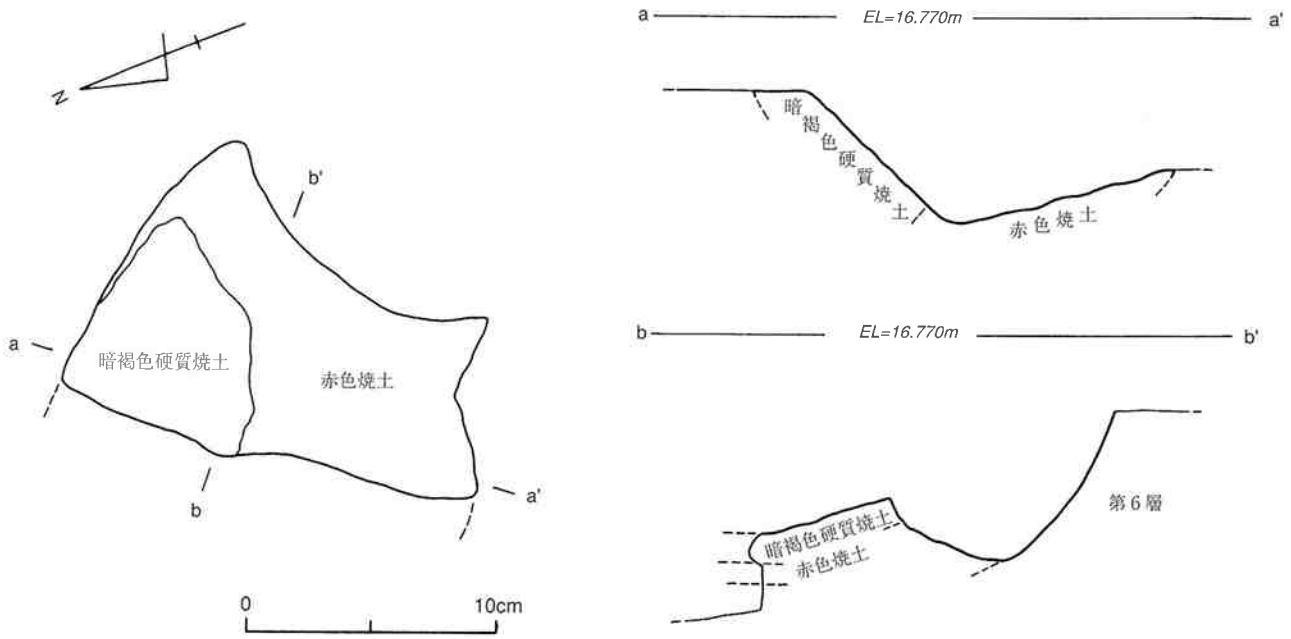
※第1･3･4表のELは、ピット最深部の数値である。

第１節　Ⅰ期（グスク時代相当）

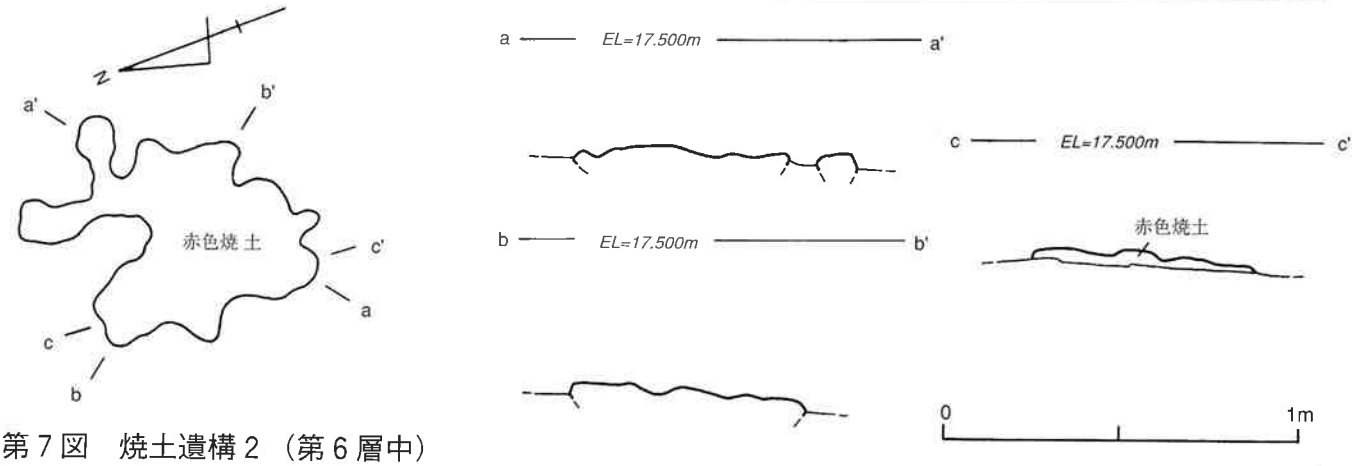
A　第６層中検出の焼土遺構

第６図は、す―21グリッドで検出したが、発掘中に一部破壊している。遺構は西側に傾斜しながら中央部分が落ち込む形状を呈しており、遺構内には暗褐色土と焼土が混ざる土が堆積し、その下部に赤色化した焼土が確認できた。検出レベルは標高16.74～16.71ｍを測る。

第７図は、し―20グリッドで検出された。形状が不定形で、長径は南北方向で約80㎝、短径は東西方向で約40㎝を測る。赤色焼土の厚みは１～２㎝程度、厚い部分では約５㎝であった。検出レベルは標高17.20～17.10ｍである。



第６図　焼土遺構１（第６層中）



第７図　焼土遺構２（第６層中）

B　第８層上面検出遺構

ピット群・炉跡・列状ピット群などの遺構が検出された。なお、ピット群の内、第８層上面の検出であるが、ピットの重複が多く、調査の際に地山のピットまで掘り下げた可能性があるピットを、第９層のピット群と一括して掲載した。それらのピット番号は下記の通りである。

さ－20グリッド…pit16～pit29、さ－21グリッド…pit１～pit11、し－20グリッド…pit７・pit９

し－20グリッド…pit37～pit54、し－21グリッド…pit１～pit39

（１）ピット群（第８図）

調査区の中央から東側に400余のピットが検出された。ピットの覆土は、概ね暗褐色土を呈し、橙褐色土粒（マージ土粒）や炭破片などが混在していた。各ピットの法量などの詳細については、一覧表（第１表）に記載する。

掘立柱建物跡のプランとして１棟を想定しているが、せ－21pit７・10の２本を中心柱とした、3.9ｍ×6.4ｍの長方形の掘立柱建物跡が考えられる（第８図）。類例遺構は、北谷町後兼久原遺跡（註１）で確認されており、平地住居と考えられている。縦約４ｍ×横約６ｍの長方形プランで、中央に２本の太い中柱をもち、周辺に32本の柱がめぐらされている。この住居には内と外に炉跡を有している。

その他に、せ－22pit１では、牛骨破片が数点まとまって検出されており、獣骨の埋納遺構の可能性がある。このような牛骨埋納する遺構については、大阪市長原遺跡で柱穴に牛の四肢骨が埋まっていた遺構が数基確認され、久保和士氏によって動物祭祀の可能性が検討されている（註２）。遺跡の年代が６～７世紀頃と本遺跡とはかなりの時代差があるが、参考例として記載した。せ－22pit１は隅丸方形を呈し、東西方向に長軸があり、長径60㎝、短径48㎝を測る。深さは12㎝と浅い。遺構直下には埋葬遺構１が埋まっており、またプラン６のピットせ－21pit１とも隣接し、さらに、南側約２ｍのところには炉跡も検出している。せ－22pit１がいずれかの遺構と関連している可能性もある。

（２）炉　跡　（第10図）

す－22グリッドで検出。形状はほぼ楕円形を呈し、長軸は南北方向、長径67㎝、短径40㎝を測る。ほぼ中央が凹み、北側に炭を多く含んだ黒色土、南側に赤色の焼土が堆積する。堆積土の厚さはいずれも約５㎝で、堆積状況は中央部の凹みの方向へ傾斜するものの、凹みの部分は水平方向の堆積である。遺構検出面では約15㎝大の琉球石灰岩と、遺構北側の縁辺に沿うように類須恵器とグスク土器の胴部破片が出土。その下部には、遺構全面に２～５㎜の微細骨片が点々と出土したが、残念ながら種を同定できるほどの大きさの骨は検出されなかった。

（３）柵列状遺構　（第12図）

調査区のほぼ中央23ライン付近で、南北方向に並列するようにピットが検出された。20㎝前後の間隔幅が多いが、間隔は均等ではなく、４～130㎝と幅がみられる。ピットの直径は10～30㎝のものがほとんどで、深さは15～20㎝前後のものが多い。この柵列状遺構の西側に列状ピット群が展開している。

（４）列状ピット群　（第13・14図、第２表）

調査区の西側にほぼ円形のピットが370余、列になって展開していた。このような列状ピットは植栽痕とも称され、名護市宇茂佐古島遺跡（註３）や那覇市シーマ御嶽遺跡（註４）などでも報告例があり、掘り棒による耕作痕だと考えられている。本遺跡で検出された列状ピット群は、直径約28㎝のほぼ円形のピットが等間隔で並び、間隔は約10㎝ほどである。柵列状遺構の西側、せ－24グリッドでも北西－南東方向に並ぶ、４列の列状ピットが検出された。しかし、送油管によって分断され、西側の列状ピット群との繋がりは不明瞭であった。

国道58号線に平行する送油管の西側にまとまって検出された列状ピット群は、北西－南東方向が22列（アルファベット列）、北東－南西方向が７列（カタカナ列）確認できた。ピットの大きさや深さについては第４表にまとめて記す。

ピット内の覆土は基本的に、黒っぽい暗褐色を呈しているが、なかには覆土を分層できるピットもあった。ピットの深さは10～20㎝の深さのものが多く、浅いものでは4㎝、深いものは27㎝を測る。断面図（第14図）にも明らかなように、ピット群の検出面は緩やかに北西に傾斜しており、また、低地から検出されたピットは直径が小さく浅い傾向にある。

列状ピット群については、ピット内の覆土内容を探ることと、栽培種を明らかにすることを目的として、今回土壌分析を行った（試料サンプル：Ｒ列13）。植物珪酸体分析の結果、ピット内覆土及びピット周辺土壌からは、イネのプラント・オパールなど数種類の植物珪酸体が検出されているが、遺構断面を切り取って、軟X線写真撮影による断面観察（堆積物微細形態解析）等の分析結果では、列状ピット群は稲作によるものとは判断しがたく、栽培種を解明するには至らなかった。しかし遺構の土壌形態から、人為的に掘り返された痕跡と推測できる状況

第１表　第8層ピット観察一覧（1）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
し-22	1		16	14	30.5	16.080	カムィヤキ片	
	2		21	17.5	22.5	16.120		
	3		21	17	46	15.880		
	4		20.5	16.5	31	16.110		
	5		21	17	20	16.200		
	6		12.5	10	14	16.290		
	7		13.5	13	30.5	16.120		
	8		16.5	14	33	16.080		
	9		18	15	16	16.140		
	10		50.5	48	11	16.300		
	11		18	14.5	29	16.100		
	12		16.5	17	12.5	16.360		
し-23	1		44	29	46	15.740		
す-20	1		62	41	4	17.040		
	2		18	16	26	16.560		
	3		20	14	21	16.850		
	4		18	16	17	16.940		
	5		61	39	40	16.790		
	6		61	40	62	16.610		プラン1
	7		36	20	40	16.870		上部で木根痕らしきpitと重なっている
	8		26	24.5	39	16.770		
	9		36	18	54	16.580		
	10		53	31.5	55	16.750		
	11		18	14	23	16.840		
	12		63	59	48	16.530		プラン1
	13		22	10.5	13.5	16.650		
	14		17	11.5	12	16.640		
	15		20	15.5	17	16.740		
	16		11	10	10	16.740		
	17		36	33	38	16.670		断面に柱痕を確認(柱痕幅15cm、深さ36cm)。プラン1
	18		22	14	23	16.770		
	19		33	19	32	16.680		一部木根痕も重複
	20		20	18	20.5	16.820		
	21		35	24.5	32	16.650		
	22		40	29	87	16.090		
	23		26.5	26.5	37	16.290		
	24		35	22	28	16.320		
す-21	1		111	82	27	—		炭集中
	2		28	17	29	16.220		
	3		72	11	—	—		
	3	a	21	20	45	16.260		
	3	b	—	—	15	16.540		
	3	c	21	19	41	16.250		
	4		25	16	21	16.550		
	5		11	10	22	16.530		
	6	a	31	29	9	16.770		
	6	b	—	—	14	16.720		
	7		18	18	20	16.590		柱痕らしき黒色土部分、幅13cm、深さ17cm
	8		21	15	24	16.540		
	9		16	15	24	16.520		
	10	a	77	23	14	16.710		
	10	b	—	—	7	16.640		
	11		45	30	34	16.230		
	12		15	12.5	4.5	16.550		
	13		26	21.5	22	16.320		
	14		23	19	30	16.230		
	15		20	17.5	21	16.220		
	16		16	11.5	6	16.360		
	17		14	10.5	7	16.340		
	18		19	16.5	19.5	16.230		
	19		13	12	17.5	16.200		
	20		18	13	9.5	16.300		
	21		25.5	13	12	16.240		
	22		11.5	9	20	16.200		
	23		23	14	40	16.000		
	24		17.5	15	14	16.280		
	25		20	16	20	16.160		
	26		16	15.5	46.5	15.880		
	27		20	13	13.5	16.200		
	28		54	40	10	16.160		pit内底面は、いびつ
す-21	29		21	18	13	16.360		
	30		90	64	—	—		
	30	a	48	32	42	16.000		
	30	b	56	46	20	16.240		
	30	c	56	45	47	15.900		プラン2
	31		37	19	27	16.170		
	32		13	10.5	24.5	16.380		
す-22	3		50	49	66	15.340		プラン2
	4		26.5	22.5	22	16.020		
	5		19	14	13.5	16.000		
	6		55	44	44	15.640		プラン2
	7		21	20	23.5	16.040		
	8		15.5	14	23.5	16.070	グスク系土器片	
	9		20	17	25	16.010		
	10		11	9	18	16.140		
	11		19.5	16	19	16.090	カムィヤキ片	
	12		19	18	20.5	16.060		
	13		25.5	20	40.5	15.800		
	14		17	12	12	16.060		
	15		23.5	20.5	25.5	15.900		
	16		52	10	8	16.080		pit17とつながる。木根痕と思われる
	17		119	8.5	4	16.070		
	18		18.5	14.5	8.5	15.920		
	19		54	33	4	15.920	グスク系土器	
	20		18.5	16	13	16.040		
	21		20	15	12	16.060		
	22		20	13	5.5	16.130		
	23		20	15.5	18	16.070		
	24		14	13.5	14.5	16.200		
	25		60	32	18	16.170		
	26		13	10	16	16.200		
	27		17.5	17	31	15.990		
す-23	1		35	34	5	16.060	土器片	
	2		24	17.5	6	16.040		
	3		16.5	12.5	15	15.880		
	4		34	32.5	17	15.860		
	5		22	18	31	15.610		
	6		27	14	26.5	15.850		
	7		30	13	6.5	15.920		
	8		23.5	12	4	15.750		
	9		19.5	18	2	15.690		
	10		18	13.5	3	16.650		
す-24	1		23	16	3	15.630		
	2		23	18	4	15.510		
	3		18.5	12	5	15.500		
	4		57	32	26	15.280		
	5		20	16	9	15.360		
	6		23	20	21	15.270		
	7		16	11	13	15.370		
	8		46	20	11	15.440		
	9		34	31	21	15.300		
	10		38.5	28.5	8	15.360		
	11		25.5	19.5	19	15.380		
	12		21	16.5	30	15.290		
	13		22	18	14	15.400		
	14		20	18	12	15.440		
	15		21	19.5	26	15.310		
	16		26	17	4	15.380	カムィヤキ片	
	17		13	10.5	7.5	15.340		
	18		50	5.5	6	15.320		
	19		104	46	6	15.270	滑石混和土器(鍋・a-1)、滑石製品(転用品)、グスク系土器片、カムィヤキ片	深さ1.5cmから滑石粒混和の石鍋模倣土器
	20		24	22	13	15.140	土器片	
せ-20	5		32	28	24	16.550		複数pitの集合の可能性
	6		24	23	24	16.370		pit7と接する
	7		20	20	33	16.280		
	8		16	10	7	16.550		
	9		31	20	19	16.410		
	10		18	13	13	16.510		
	11		39	12(26)	10	16.460		
	12		46	20	18	16.360		
	13		24	20	15	16.340		

第１表　第8層ピット観察一覧（2）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
せ-20	14		19	18	29	16.200		柱痕らしき暗色部も確認。(柱痕径約12～13cm)
	15		20	12	13	16.360		
	16		18	14	10	16.380		
せ-21	1		56	54	48	15.680	グスク系土器片	プラン2
	2		5.5	5	7	16.180		
	3		30	26	27	15.970	カムィヤキ片	
	4		19	16	9	16.110		
	5		41	30	10	16.110		
	6		20	18	15	16.040		
	7		66	62	82	15.260	カムィヤキ(把手付壺、壺類・有文・I-c)、獣骨片、グスク系土器片	柱痕の可能性のある黒色土の範囲、長径42cm、短径27cm、深さ32cm。プラン2
	8		16	14	7	16.060		
	9		20	19	21	15.900		
	10		65	58	84	15.430	カムィヤキ(小壺)	
	11		24	22	8	16.190		
	12		21	19	17	16.100		
	13		10	10	7	16.300		
	14		16	11	13.5	16.300		
	15		18	16	17	16.200		
	18		31	19	10	16.140		
	19		31	27	14	16.130		
	20		15	13	4.5	16.270		
	21		13	12	4	16.290		
	22		14	12	13	16.170		
	23		238	112	29	16.300	グスク系土器片	
	24		17	15	7.5	16.120		
	25		14	12	15.5	16.040		
	26		14	12	10	16.080		
	27		17	8	12	16.000		
	28		10.5	10	2	16.120		
	29		16.5	12	11	16.040		
	30		35	19	—	—		
	30	a	19	14	—	—		
	30	b	—	—	14	—		
	31		13	11	9	—		
	32		17	15	21	—		
せ-22	1		60	48	12	16.100	カムィヤキ片、獣骨	
	2	a	22	20	9	16.090		
	2	b	22	21	31	15.880		
	3		58	41	40	15.740		
	4		19	16	16	16.030	グスク系土器片	
	5		20	18	24	15.970		
	6		58	35	45	15.680		
	7		32	24	13	16.010		
	8		20	18	34	15.630		
	9		38	34	14	15.860		
	10		22	16	25	15.760		
	11		32	27	19	15.780		
	12		44	38	8	15.920		
	13		28	26	13	15.930		
	14		10.5	9	27	15.770		
	15		16	15	16	15.900		
	16		16	13	12	15.940		
	17		15	11	12	15.940		
	18		23	21.5	13.5	15.920		
	19		27	20	15	15.940		
	20		16	13	22	15.890		
	21		37	36	6	15.860		
せ-23	1		29.5	24.5	32	15.580	石材	
	2		21.5	21.5	5	15.780		
	3		81	60	22	15.800	石器	
	4		24.5	24	17.5	15.840		
	5		16	10.5	19.5	15.610		
	6		20	18	18	15.400	グスク系土器片	
	7		12	10	10	15.610		
せ-24	1		58	49	14	15.410		
	2		12	10	16.5	15.290		
	3		36	26	14	15.140		
	4		30	20	21.5	15.260		
	5		93	41	36	15.080		
	6		24	21	27	15.230		
	7		24	21.5	29.5	15.200	グスク系土器片	
	8		17	15	6.5	15.410	カムィヤキ片	
	9		—	22	7.5	15.440		検出面でpit20と繋がっている。

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
せ-24	10		21.5	21.5	9	15.300		
	11		24.5	22	18	15.190	グスク系土器片	
	12		27.5	21	15.5	15.160		
	13		29	28	14	15.190		
	14		23.5	23	5.5	15.300		
	15		24	21	11.5	15.240		
	16		19	14.5	4.5	15.340		
	17		21	17	4	15.360		
	18		23.5	18	8	15.380		
	19		23	21.5	6	15.230		
	20		25.5	21	26	15.260		
	21		19	17	2	15.250		
	22		25	22	13	15.250		
	23		30.5	27	5(10)	15.240		
	24		24	23	8.5	15.240		
	25		26	24	8	15.280	グスク系土器片	
	26		22.5	21.5	4.5	15.360		
	27		29	28	8	15.190		
	28		34.5	27.5	7	15.220		
	29		28	26	7	15.140		
	30		57	51	13	15.010		
	31		32	31	8.5	15.160	土器片	
	32		18.5	14.5	4.5	15.420		
	33		29	16	13	15.320		
	34		37	30	6	15.370		
	35		16	15	23	15.220		
	36		28	26	7.5	15.200		
	38		36	24	6.5	15.220		
	39		50	44	9	15.170		
	40		28	16	16.5	15.120		
そ-21	1		15	9	18.5	15.810		
	2		15	10.5	30	15.730		
	3		13	11	25	15.780	土器片	
	4		18	17	17	15.910		
	5		13	10.5	8	15.930		
	6		23	11	10.5	15.980		
	7		13	8	13	15.960		
	8		23	14.5	10.5	16.070	土器片	
	9		16	13.5	20	15.940		
	10		19.5	12.5	12	16.070		pit内にニービ塊
	11		13	12	6	16.120		
	12		24.5	10	9.5	16.060		
	13		16	12.5	5	16.140		
	14		22.5	18	20	15.980		
	15		14	13	9	16.180		
	16		20	9	9.5	16.200		
	17		18	13.5	23	15.950		
	18		25	24	12	16.160		
	19		14.5	14	18.5	15.990	石灰礫	深さ15.5cmで焼土が混在。
	21		12	9.5	18	15.940		
そ-22	1		22	20	33	15.720		
	2		29	26	22	15.790		
	3		20	18	34	15.690		
	4		122	96	40	15.520	焼石、炭片、土器片	底面付近(深さ39cm)より焼石および炭片を確認。プラン3
	5		22	18	11	15.800	土器片	深さ9cmで土器片確認。
	6		23.5	20.5	20.5	15.730		
	7		21	18	33	15.650		
	8		26.5	23	14	15.820		
	9		15.5	14.5	17.5	15.740		
	10		18	16	22	15.610		
	11		24.5	22	19	15.720	青磁片、石材	深さ6.5cmで青磁片出土。
	12		14	12	16	15.780		
	13		19.5	16	36.5	15.540	土器片	深さ24cmで土器片確認。
	14		16	13.5	37	15.630		
	15		25.5	24	22.5	15.660		
	16		22	19	13	15.750		
	17		15	13	35	15.560		
	18		27.5	25	23	15.600	土器片	下位では赤色土粒が混在。
	19		16	14	28.5	15.710		
	20		28	22	53	15.450		
	21		19	9	19	15.700		

第１表　第8層ピット観察一覧（3）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
そ-22	22		16	9.5	14	15.690	石、グスク系土器片	深さ4cmで石
	23		21.5	21	25.5	15.500		
	24		17.5	15	29.5	15.420		
	25		19	17	28	15.450	土器片	深さ6.5cmで土器片
	26		20	17.5	20	15.570		
	27		24	17	14	15.620		
	28		21	14	23	15.590		
	29		24	13	9	15.720		
	30		24.5	12	3	15.820		
	31		46	41	78	14.990		プラン3
	32		12.5	10	5	15.850		
	33		17	12	3.5	15.840		
	34		17	13.5	33	15.620	土器片	
	35		26	20	13	15.840		
	37		16	12	18.5	15.760		
	38		13.5	12	15	15.690		
	39		16.5	12.5	16	15.700		
	40		24	12	5	15.780		
	41		12	9	31	15.570		
	42		13	12.5	22	15.770		
	43		16.5	15.5	24	15.780		
	45		19	16	8.5	15.690		
	46		30.5	27	22	15.570	カムィヤキ片	
そ-23	1		48	40	36	15.360		プラン3
	2		15.5	11	17.5	15.560		
	3		14	11	6	15.620		
	4		23	17	27	15.450	土器片	深さ13cmで土器片出土。
	5		26	21	40.5	15.320		
	6		17	13	16	15.610		
	7		28.5	22	37	15.380	土器片、カムィヤキ片	底面付近(深さ33cm)で土器片出土
	8		22	15.5	18	15.520		
	11		50	21.5	6.5	15.560		
	12		23	12.5	21	15.450	焼石	北西側に赤い焼石が深さ9cmで2点出土
	13		14.5	11	13	15.470		
	14		14	11	20	15.400		
	15		26	21	25	15.380	土器片	土器片1点
	16		16	12	13.5	15.460		
	17		53	51	67	14.830	石器、土器	プラン3
	18		18	18	20	15.400		
	19		20	18	9	15.570		
	20		15	14	13	15.600		
	21		13	13	6.5	15.640	土器片	深さ3cmで土器片
	22		14	13	13	15.620		
	23		36	19	5	15.440		
	24		20	11.5	3.5	15.410		
	25		20	18	19	15.250		
	26		12.5	11.5	13	15.270		
	27		22.5	20.5	9.5	15.320		
	28		11.5	8	29	15.140		
	29		11.5	10	20	15.230		
	30		29	27	16	15.220		そ-24 pit9と切り合い
	31		30	22.5	17	15.590	土器片	深さ10cmで土器片確認
そ-24	1		18	10	25	15.180		
	3		22	21	10.5	15.270		
	4		30	15.5	18	15.240		
	5		15	13.5	12	15.260		
	6		20	16.5	11	15.300		

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
そ-24	7		19	16.5	18	15.240		
	8		16	13	9.5	15.160		
	9		37	26	15	15.260		
た-22	1		27.5	24	33	15.390		
	2		30	26	24	15.520		
	3		15	13	20	15.620		
	4		33	24	40.5	15.480		
	5	a	32	26	11	15.630		覆土は黒色土
	5	b	38	31	13	15.610		
	6		17	13.5	16	15.690		
	7		21	18	44	15.420		
	9		26	23.5	29	15.540		
	10		20.5	15	45	15.320		
	11		17	13	16	15.560		
	12		22	20	44	15.280		
	13		52	37	8	15.630	グスク系土器片	
た-23	1		24	18	12.5	15.480		
	2		26.5	21	16	15.510		
	3		20	5	19	15.420		
	4		30	30	10	15.480		
	5		14	10.5	12.5	15.460		
	6		16	14.5	10.5	15.500		
	7		21	16	4.5	15.500		
	8		22	11	7	15.350		
	9		14	12.5	23	15.200		
	10		23	19	14	15.290		
	11		11.5	8	15	15.300		
	12		18.5	13	15	15.290		
	13		20	15.5	25	15.170		pit14と切り合い
	14		21	13.5	16	15.260		pit13と切り合い
	15		19	15	19	15.120		
	16		16.5	13.5	18	15.220		
	17		54	33	36.5	15.040	土器片	深さ7.5cm、11.5cmのところから土器片出土。
	18		34	32.5	38	15.040		
	19		38	29	10	15.290		
	20		19	17	15	15.240		
	21		13.5	12	19	15.080		
	22		25	21	16	15.260		
	23		26	20	48	15.080		
た-24	1		122	47	3～4	―	炭	炭の集中
	2		29	16	10	15.300		
	3		26	14	16	15.220		
	4		29	21.5	17	15.240		
	5		21	14	35	15.200		
	6		15	12	18	15.170		
	7		16	14	15.5	15.160		
	8		19	15	17	15.140		
ち-22	1		14	13	12	15.490		
	2		23	22	14	15.440		
	3		28	22	22	15.300		
ち-23	1		12	11	11	15.290		
	2		12	11	18	15.220		
	3		49	46	23	15.190	カムィヤキ片	柱痕とみられる落ち込み確認。複合pitの可能性も有
	3	a	20	18	41	15.030		
	4		33	20	20	15.220		
	5		16	14	11	15.380		
	6		43	24	6	15.440		

が確認されている。詳細については附編２を参照して頂きたい。

（５）溝状遺構　（第11図）

列状ピット群の南側に走る溝状遺構Aは、さ－25グリッドの東から西へ向かって低くなっており、平面検出の際には第９層の溝C・D・Eと合流していたが、し－26グリッドから西へ行くに従い溝が浅くなり、状況は判然としなくなる。溝の北側に列状ピット群が広がっている。列状ピットのイ列５・６、ウ列６・７、エ列６・７、オ列７・８、U列13～15は溝の覆土下から検出され、溝が列状ピット群より後に形成されたことが窺がえる。また、溝はさ－25の壁面に続きがみられ、今回の調査対象範囲外にも延びているものと考えられる。

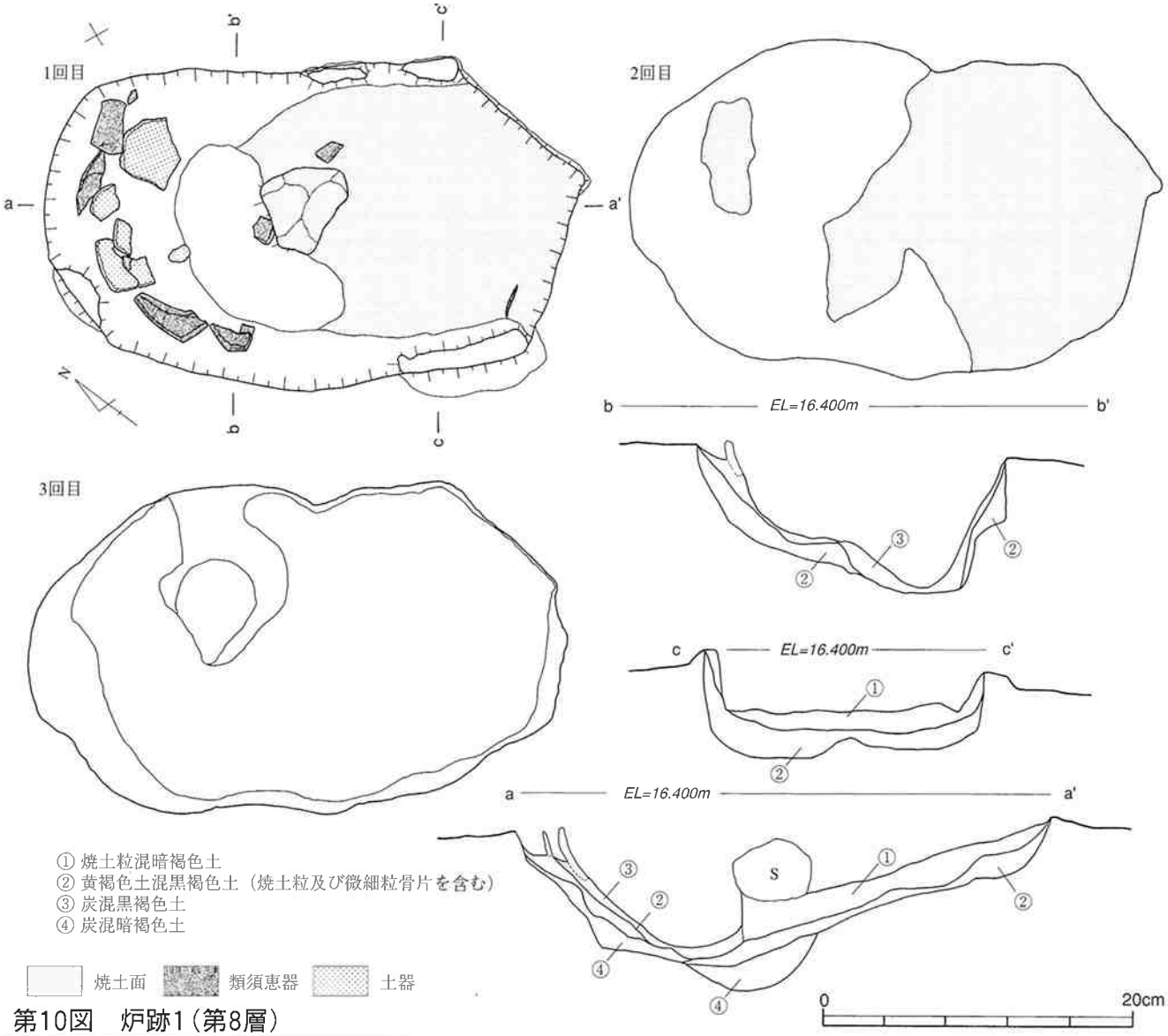
第２表　列状ピット法量一覧（１）

遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	遺物	備考
A列1	24	16	6		
B列1	52	18	6		
B列2	20	16	12		分層　黒褐色/褐色
B列3	25	24	9		
B列4	24	23	9		
B列5	20	15	27		分層　暗褐色/黒褐色
C列1	26	26	10		
C列2	25	23	5		
C列3	23	19	2		
C列4	18	16	2		
C列5	30	28	4		
D列1	24	15	7		
D列2	26	24	8		
D列3	31	27	7		
D列4	26	23	9		
D列5	30	28	5		
D列6	26	23	11		
D列7	18	18	2		
E列1	34	20	9		
E列2	24	21	7		
E列3	25	22	10		
E列4	23	19	8		
E列5	25	24	7		
E列6	26	26	2		
E列7	25	23	3		
E列8	18	17	4		
F列1	50	36	19		
F列2	26	22	8		
F列3	30	24	9		
F列4	19	16	4		
F列5	62	24	8		
F列6	62	20	13		
F列7	21	19	6		
F列8	18	18	5		
G列1	27	21	9		
G列2	26	25	6		
G列3	26	25	10		
G列4	26	25	12		
G列5	27	27	9		
G列6	26	22	5		
G列7	27	23	5		
G列8	20	18	5		分層　暗褐色/褐色
G列9	26	24	9		
G列10	30	24	10		
G列11	24	23	7		
G列12	20	18	2		
H列1	26	26	11		
H列2	26	25	8		分層　黒褐色/褐色
H列3	33	31	10		分層　暗褐色/褐色
H列4	31	31	17	ﾀﾞｽｸ系土器	分層　暗褐色/褐色
H列5	28	28	10		
H列6	29	24	8		
H列8	17	16	5		
H列9	20	19	4		
H列10	22	21	5		
H列11	26	24	6		
H列12	29	26	8		
I列1	25	25	6		
I列2	28	26	11		
I列3	21	20	9		
I列4	31	29	13		
I列5	30	30	15		
I列6	29	28	12		
I列7	30	28	14	カムィヤキ	
I列8	30	28	14		
I列9	27	24	8		
I列10	28	25	11		
I列11	28	27	4		
I列12	26	23	11		
J列1	24	22	14		
J列2	27	23	7		
J列3	29	26	9		
J列4	33	30	9		
J列5	33	30	12	カムィヤキ	
J列6	30	24	10		
J列7	30	29	14		
J列8	30	28	18		
J列9	35	29	12		
J列10	30	28	22	ﾀﾞｽｸ系土器	
J列11	28	27	14		
J列12	23	22	6		
K列1	13	—	6		
K列2	12	—	9		
K列3	17	—	6		
K列4	10	—	11		
K列5	11	—	7		分層　暗褐色/褐色
K列6	16	—	8		
K列7	9	—	12		
K列8	17	—	15		
K列9	15	—	16		
K列10	15	—	15		
K列11	14	—	11		
K列12	8	—	9		
K列13	11	—	10		分層　黒褐色/褐色
L列1	14	—	9		
L列2	20	—	2		
L列3	13	—	9		分層　暗褐色/褐色
L列4	10	—	8		分層　暗褐色/褐色
L列5	14	—	9		
L列6	16	—	10		分層　暗褐色/褐色
L列7	11	—	9		
L列8	14	—	11		
L列9	18	—	11		
L列10	15	—	11		
L列11	15	—	12		分層　暗褐色/褐色
L列12	12	—	8		分層　暗褐色/褐色
L列13	12	—	8		分層　暗褐色/褐色
M列1	24	22	11		
M列2	23	21	6		
M列3	26	23	11		
M列4	26	25	7		
M列5	25	23	8		
M列6	29	25	8		
M列7	26	25	14		
M列8	32	28	7	カムィヤキ	
M列9	30	27	15		
M列10	30	28	17		
M列11	30	29	15		
M列12	26	24	15		
M列13	33	32	12		
M列14	25	24	5		
N列2	25	24	8		分層　暗褐色/褐色
N列3	28	25	20		
N列4	25	24	6		
N列5	20	18	11		
N列6	23	23	5		
N列7	29	27	8		
N列8	29	25	18		
N列9	28	23	10		
N列10	30	27	16		
N列11	30	28	18		
N列12	30	30	22		
N列13	31	30	7		
N列14	30	28	10		分層　暗褐色/褐色
N列15	35	26	7		
O列1	19	17	13		
O列2	22	18	5		
O列3	23	22	7		
O列4	30	24	16		
O列5	24	23	9		分層　暗褐色/褐色
O列6	27	24	12		
O列7	30	28	16		
O列8	27	24	8		
O列9	27	23	9		
O列10	30	27	8		
O列11	29	28	21		分層　暗褐色/褐色
O列12	27	27	23		
O列13	27	26	15		
O列14	30	26	11		
O列15	28	26	9		
P列1	24	24	7		
P列2	29	26	10		
P列3	27	26	12		
P列4	27	26	7		

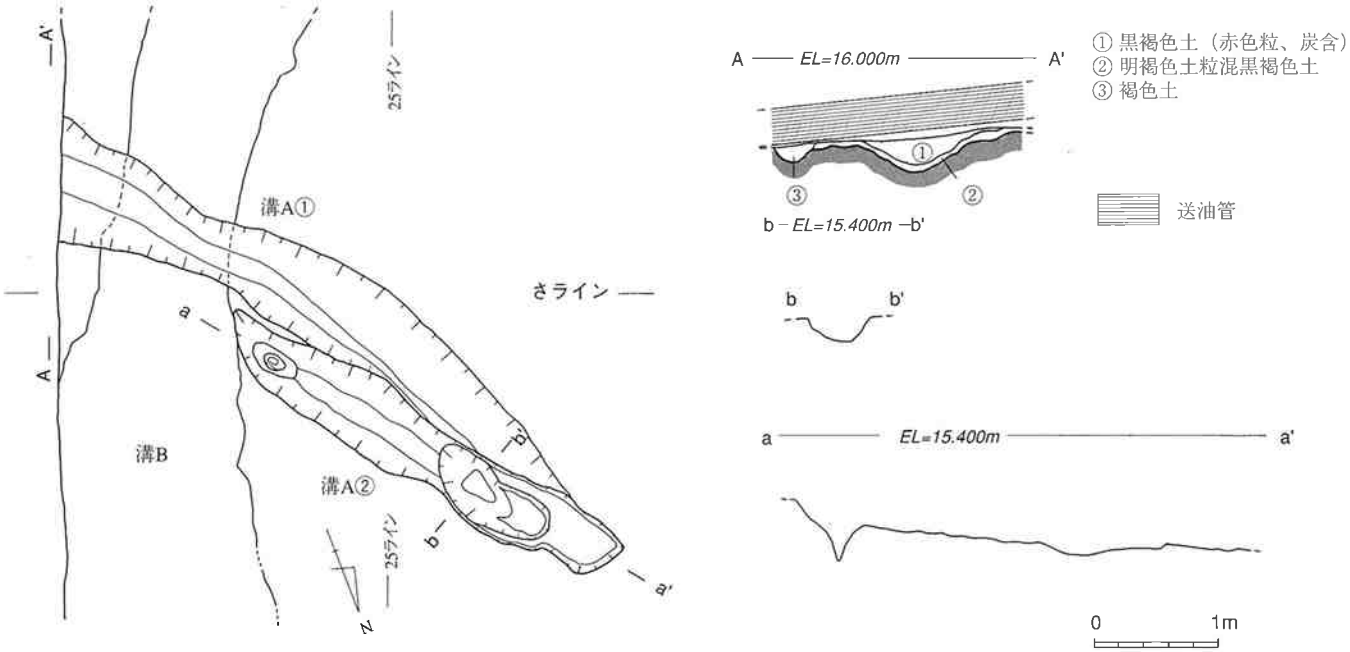
第2表　列状ピット法量一覧（2）

遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	遺物	備考
P列5	25	22	10		分層　暗褐色/褐色
P列6	27	27	10		
P列7	31	30	10		
P列8	33	29	12		
P列9	32	31	16		
P列10	33	32	18	青磁	
P列11	32	30	13		
P列12	27	25	10		
Q列1	23	20	12		分層　暗褐色/褐色
Q列2	24	20	6		
Q列3	20	16	7		
Q列4	31	22	7		
Q列5	27	26	8		
Q列6	32	28	11		
Q列7	28	26	11		
Q列8	27	23	10		
Q列9	30	30	12		
Q列10	27	27	17		
Q列11	32	30	9		
Q列12	32	31	15		分層　暗褐色/褐色
Q列13	33	29	20		
Q列14	32	9	19		
Q列15	34	31	12		
Q列16	37	33	11		
R列1	29	28	9		
R列2	28	22	14		分層　暗褐色/褐色
R列3	19	19	9		
R列4	20	18	6		
R列5	24	21	16		
R列6	27	26	12		
R列7	26	25	11		
R列8	28	27	6		
R列9	31	30	16		分層　暗褐色/褐色
R列10	33	30	14		
R列11	29	28	14		
R列12	31	30	12		
R列14	33	33	15		
R列15	32	30	15		
R列16	35	34	12		
S列1	31	27	9		
S列2	27	25	7		
S列3	16	15	10		
S列4	26	24	8		分層　暗褐色/褐色
S列5	27	25	11		
S列6	30	29	6		
S列7	30	28	6		
S列8	25	23	9		
S列9	30	26	7		分層　暗褐色/褐色
S列10	29	27	9		分層　暗褐色/褐色
S列11	27	27	11		
S列12	33	29	15		分層　暗褐色/褐色
S列13	33	32	16		
S列14	32	32	15		
S列15	33	32	14		
S列16	32	32	12		
S列17	32	31	11		
T列1	31	30	18		
T列2	34	34	18		
T列3	28	28	9		
T列4	24	23	8		分層　暗褐色/褐色
T列5	24	22	5		分層　暗褐色/褐色
T列6	26	25	2		
T列7	26	24	6		
T列8	22	22	6		
T列9	28	25	12		
T列10	32	30	9		
T列11	29	28	10		
T列12	30	28	9		
T列13	32	30	11		
T列14	27	24	8	ｸﾞｽｸ系土器	
T列15	28	28	6		
T列16	33	28	9		
T列17	34	32	28		
T列18	31	30	15		
U列1	26	25	9		分層　暗褐色/褐色

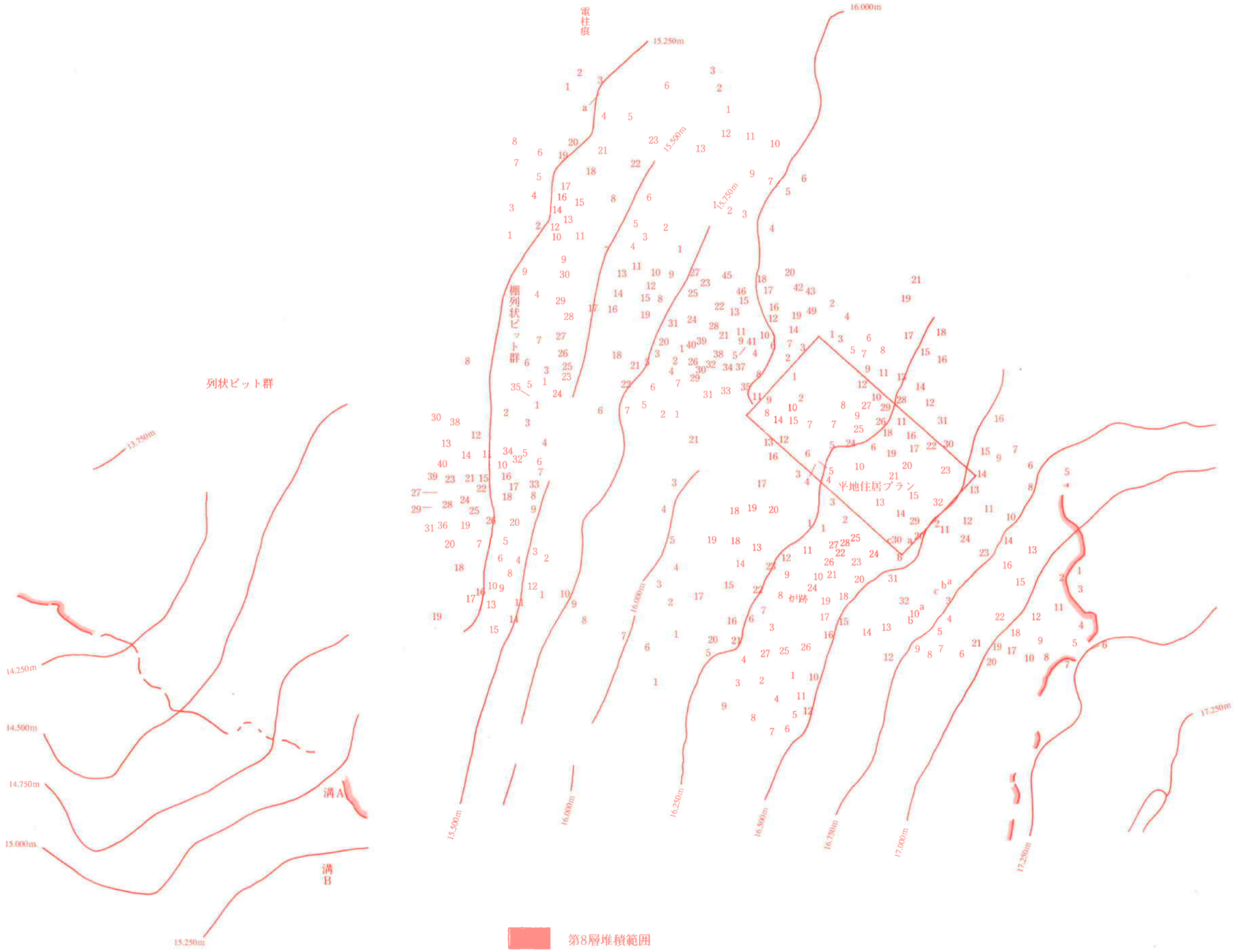
遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	遺物	備考
U列2	22	22	4		
U列4	26	18	4		
U列5	25	24	7		
U列6	26	26	6		
U列7	28	20	7		
U列8	26	25	8		
U列9	34	30	8		
U列10	34	24	12		
U列11	31	26	10		
U列12	32	28	8		
U列13	23	20	10		
U列14	36	26	14		
U列15	28	24	9		
V列1	24	21	7		
V列2	24	24	8		
V列3	22	18	3		
V列4	16	14	4		
V列5	21	14	4		
V列6	20	20	3		
V列7	23	19	12		
V列8	26	26	9		
V列9	23	20	6		
V列10	29	26	8		
V列11	26	26	10		
V列12	27	26	11		
V列13	32	28	16		
W列2	24	21	16		
W列3	23	22	11		
X列1	24	14	7		
X列2	20	20	11		
X列3	19	15	10		
Y列1	18	12	11		
Y列2	23	19	4		
Y列3	22	11	9		
Y列4	23	21	4		分層　暗褐色/暗褐色混褐色
ア列1	28	28	15		
ア列2	26	24	11		
ア列3	25	24	7		
ア列4	26	25	9		
ア列5	21	18	8	青磁	
イ列1	16	—	11		分層　暗褐色/暗褐色混褐色
イ列2	13	—	13		分層　暗褐色/暗褐色混褐色
イ列3	13	—	6		
イ列4	16	—	14	ｸﾞｽｸ系土器	
イ列5	26	26	15		
イ列6	30	26	6		
ウ列1	12	—	5		
ウ列2	16	—	4		
ウ列3	13	—	7		
ウ列4	18	—	6		
ウ列5	13	—	7		
ウ列6	31	21	10		
ウ列7	28	27	7		
エ列1	28	28	17		
エ列2	25	24	11		
エ列4	27	26	10		
エ列5	27	26	8		
エ列6	24	23	9		
エ列7	32	30	9		
オ列1	21	20	5		
オ列2	29	28	11		
オ列3	30	27	13		
オ列4	28	28	11		
オ列5	28	25	18		
オ列6	25	25	13		
オ列7	25	25	10		
オ列8	27	26	14		
カ列1	21	20	7		
カ列2	26	26	17		
カ列3	32	31	6		
カ列4	32	30	13		
カ列5	35	31	10		
キ列2	27	25	8		
キ列3	35	30	12		



第10図　炉跡1（第8層）

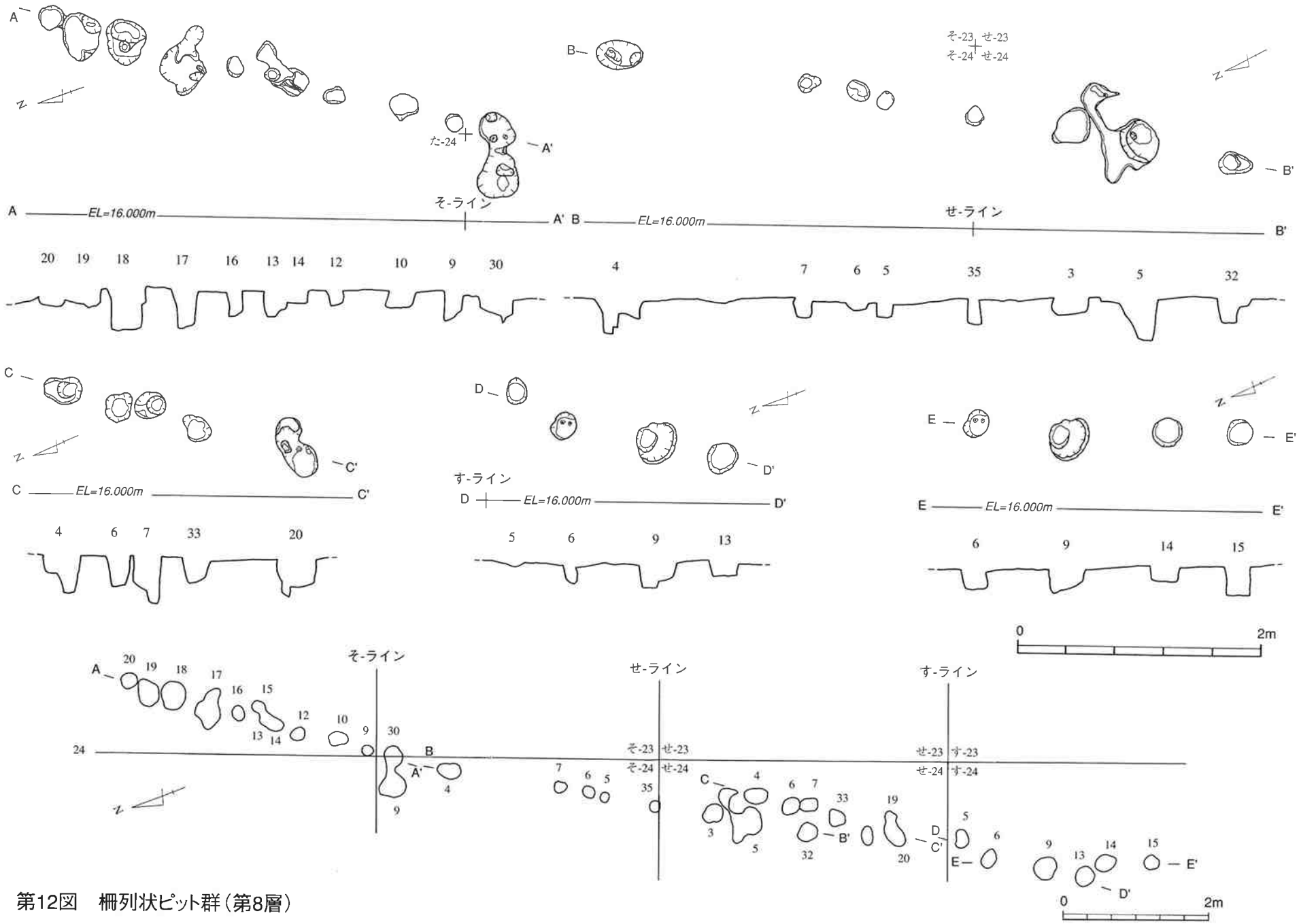


第11図　溝状遺構 A-①・②（第8層）

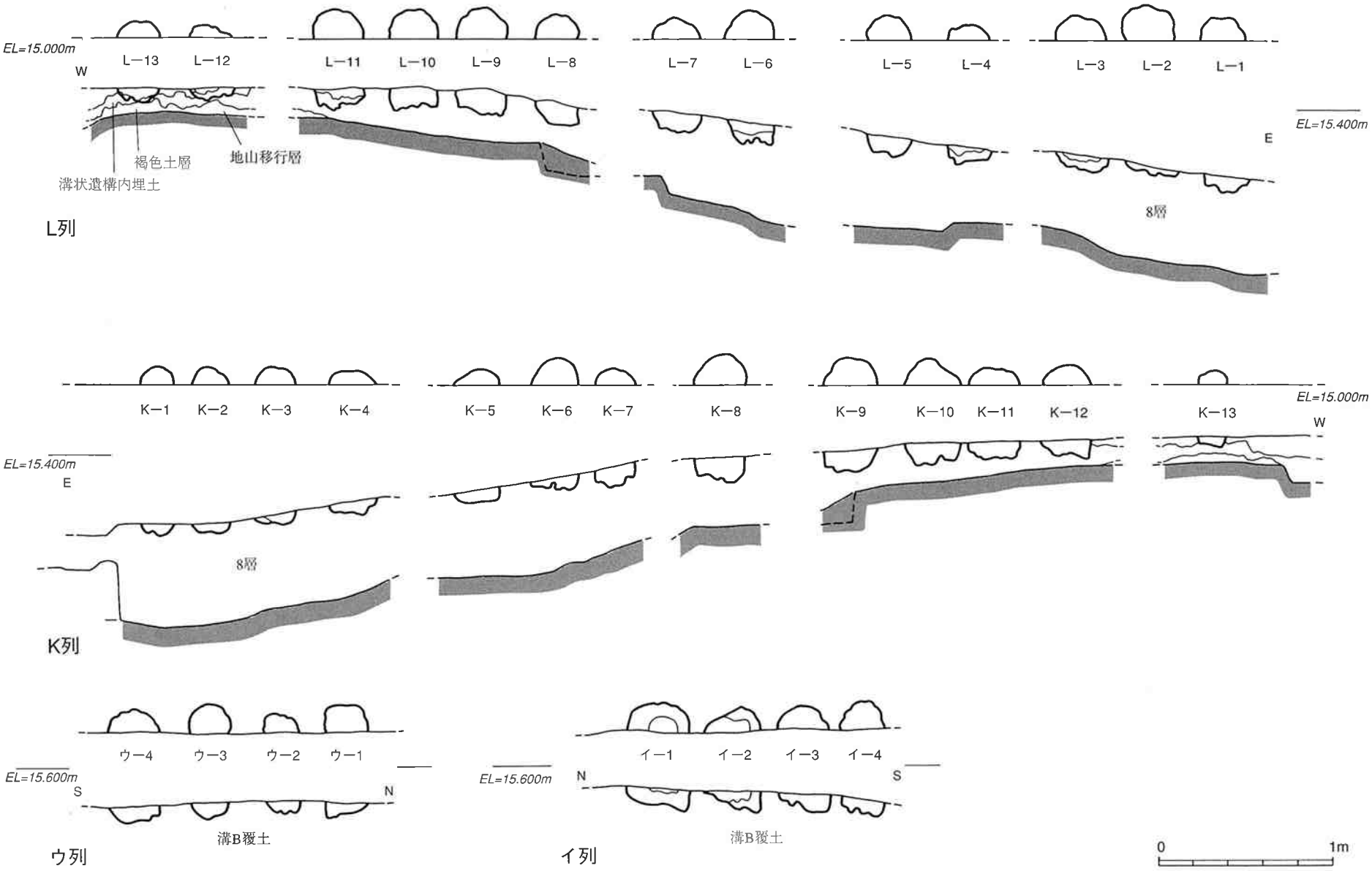

電柱痕
15.250m
16.000m
15.500m
15.750m
棚列状ピット群
列状ピット群
13.750m
平地住居プラン
カマド跡
16.000m
14.250m
14.500m
14.750m
15.000m
溝A
溝B
15.250m
15.500m
16.000m
16.250m
16.500m
16.750m
17.000m
17.250m
第8層堆積範囲

第8図　遺構検出状況（第８層）

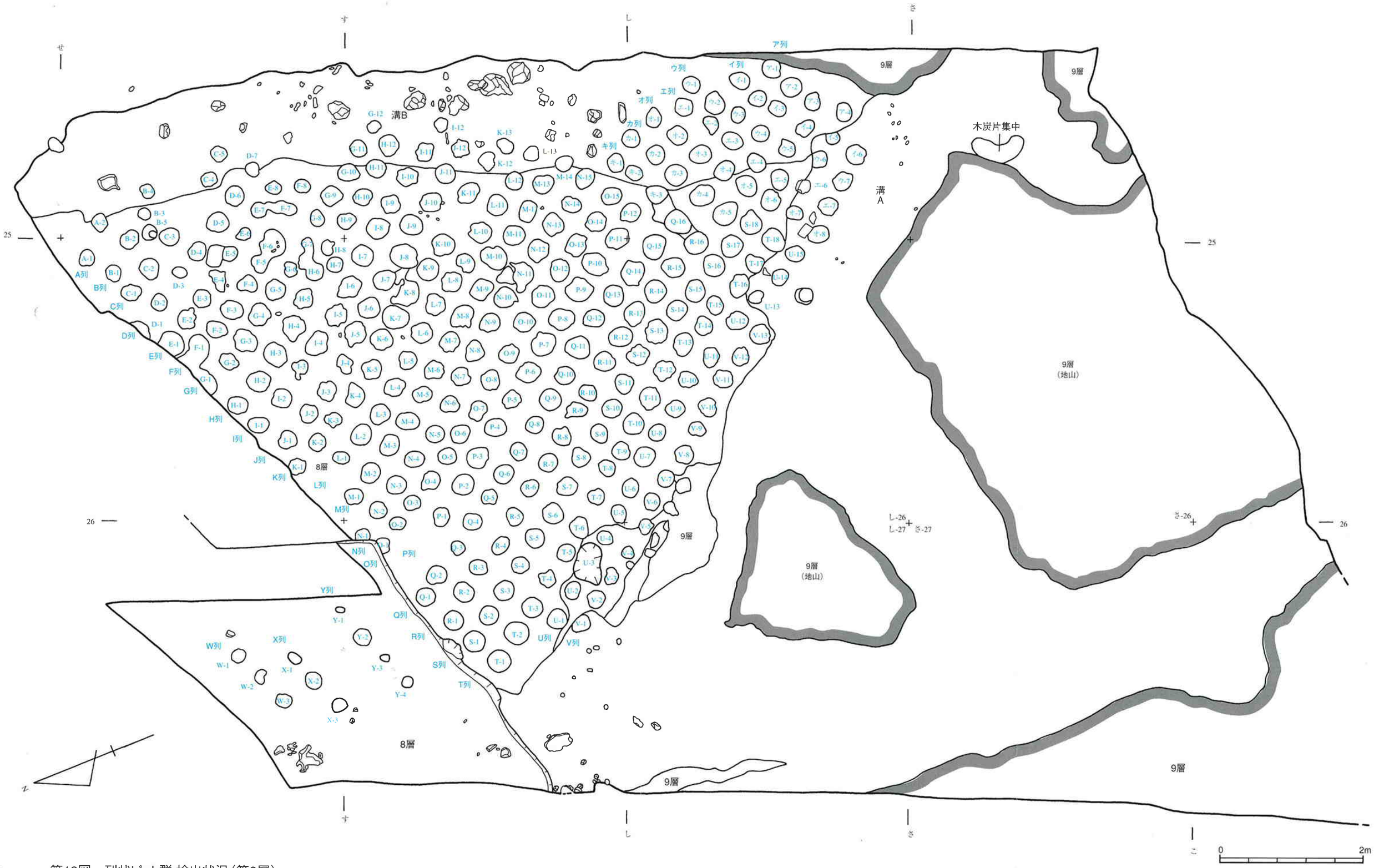
第9図　第8層上面検出遺構出土の主な遺物



第12図　柵列状ピット群（第8層）



第14図　列状ピット群 断面（第8層）



第13図　列状ピット群 検出状況（第8層）

C　第９層上面検出遺構（第15図）

ピット群及び掘立柱建物跡、炉跡、埋葬遺構、溝状遺構などがある。

（１）ピット群及び掘立柱建物跡

800余のピット群が検出された。特にさ・し－20・21、そ－22・23はピットが集中しており、ピットが重複しているものも多い。ピットの覆土は第８層と同様に、暗褐色土を基調とし、橙褐色土粒（マージ土粒）や炭破片などを含むものが主体であった。各ピットの法量等については第４表に記載する。ピット番号は第17図（別添）を参照されたい。

ピット群の中にはいくつかのプランが想定されるが、プランを構成しているピットには、第８層検出のピットが含まれる場合もある。

まず、掘立柱建物跡プランとして、９本柱で構成される掘立柱建物跡プランが３棟確認できた。規模は平均値４ｍ×３ｍの長方形を呈し、東西に縦列するように並んでおり、プランの長辺は南北に面している。プランの形態として四隅のピットは深く大きいという特徴をもっている。各プランの法量は第３表にまとめて記載する。

一番東に位置するプラン１（第20図）は最もピットが重複しており、幾度かの立て替えや別の建物跡が重なったものと思われる。大きさは約４ｍ×約３ｍ（第３表）で、四隅のピットの直径が約57～73㎝、深さは約39～72㎝。中柱（第９層し－20pit５）は直径約29㎝、深さ約35㎝。間柱は直径約35～51㎝、深さは約38～62㎝であった。プラン１のピットの内、柱痕幅が確認できたのは２本で、第９層し－20pit16が約20㎝。第９層し－20pit50ａ－３が約30㎝であった。

プラン２（第21図）は大きさ約４ｍ×約2.9ｍ（第３表）、４隅のピットの直径が約47～64㎝、深さは約66～82㎝。中柱（第９層せ－21pit21ａ）は直径約48㎝、深さ約37㎝。間柱は直径約50～61㎝、深さは約44～84㎝であった。その内、北側角柱にあたる第８層せ－21pit７と、それと並行する第８層せ－21pit10は、第８層の平地住居プランの中柱と考えられるピットである。

プラン３は３棟の中でも若干大きく、約4.7ｍ×約3.1ｍを測る。プラン３を検出したせ－22～そ－23グリッドはピットが集中し、ピットの重複もいくつか確認された地点である。

プラン３のピットの法量は、４隅のピットの直径が約40～80㎝、深さは約40～78㎝。中柱（第８層そ－23pit１）は直径約44cm、深さ36㎝。間柱は直径約42～62㎝、深さは約41～78㎝であった。その内、間柱にあたる第９層そ－22pit22では、柱を支えるために入れられたとみられる10～20㎝大の石灰岩礫が、柱痕と推察できる黒褐色土の周辺に数個詰められていたのが確認できた。さらに黒褐色土の中心部分で、直径約５㎝ほどの炭化したかつての柱と考えられるサンプルを検出した。分析の結果、広葉樹コナラ属アカガシ亜属（ブナ科）で、年代測定値は９世紀頃に切り出されたことが推定されている（附編２）。その他に柱痕幅が確認できたピットは、９層そ－22pit31で直径約18㎝を測る。

その他に、６本柱で構成される掘立柱建物跡プランが２棟が確認されたが、検出面の地山直上にグスク時代の遺物包含層が堆積していない為、時期は不明である。プラン４はす－18～せ－19グリッドで検出。北東－南西方向に長軸を持つ長方形を呈し、大きさは3.2ｍ×2.3ｍである。ピットの直径は10～18㎝で平均値約15㎝。深さは５～15㎝で、平均値約10.5㎝である。

プラン５は、さ－19～し－20グリッドで検出された。正方形を呈し、大きさは2.4ｍ×2.4ｍであるが南側に延びる可能性がある。ピットの直径は22～30㎝、平均値25.4㎝。深さは30～50㎝、平均値約40㎝を測る。

第３表　①～③プラン法量一覧（第9層）

① プラン1

	9層し20 pit6	9層し20 pit50a3	9層し20 pit37c3	e－e’ 410
直径	57	51	73	
深さ	65	52	39	
EL	16.64	16.64	16.60	
	9層し19 pit14e	9層し20 pit5	8層す20 pit17	b－b’ 400
直径	44	29	35	
深さ	56	35	38	
EL	16.77	16.84	16.67	
	9層し19 pit4	8層す20 pit6	8層す20 pit12	a－a’ 410
直径	64	51	61	
深さ	72	62	48	
EL	16.58	16.61	16.53	
	f－f’302	g－g’310	h－h’300	

② プラン2

	8層せ21 pit7	9層せ21 pit10	9層し21 pit10	a－a’ 418
直径	64	62	47	
深さ	82	84	72	
EL	15.26	15.40	15.60	
	8層す22 pit6	9層せ21 pit21a	8層す21 pit30c	b－b’ 410 (460)
直径	50	48	51	
深さ	44	37	47	
EL	15.64	15.87	15.90	
	8層す22 pit3	8層せ21 pit1	9層す21 pit11	c－c’ 400
直径	49	55	57	
深さ	66	48	81	
EL	15.34	15.68	15.57	
	d－d’284	e－e’284	f－f’290	

③ プラン3

	9層そ23 pit28	8層そ22 pit31	8層そ22 pit4	e－e’ 470
直径	40	45	80	
深さ	52	78	40	
EL	14.92	14.99	15.52	
	9層そ23 pit17	8層そ23 pit1	9層そ22 pit22	f－f’ 480 (518)
直径	52	44	42	
深さ	41	36	65	
EL	15.15	15.36	15.24	
	8層そ23 pit17	9層そ23 pit18	9層せ22 pit7	g－g’ 476
直径	51	62	52	
深さ	67	57	78	
EL	14.83	15.13	15.07	
	a－a’304	b－b’310	c－c’340(372)	

※ 計測値単位はcm、直径は平均値を表記、( )は最長計測値。

（2）炉　跡

2基確認できた。炉跡1（第18図）はす－21グリッドにあり、形状はほぼ円形、大きさは長径68㎝、短径53㎝、遺構中央から小さな巻貝が1点、土器破片が1点出土している。赤い焼土は遺構検出面のみで、直下には焼土が混じった暗褐色土が厚さ約3㎝堆積し、中央部分は凹んでいた。炉跡1の下部からは、掘立柱建物跡プラン2のピットが検出されている。

炉跡2（第19図）はそ・た－23グリッドで検出された。炉跡2とその南西側にある溝状遺構G周辺には、木炭破片の拡がりが確認できた。炉跡2は形状が隅丸方形、大きさは長径約60㎝、短径約45㎝、遺構内覆土の厚さは約10㎝を測る。炉跡内の南西側で丸い砂岩が検出され、上面は若干赤色に変色していた。炉跡内には、木炭を含む黒褐色土が北側、焼土面が南側にみられる。更に掘り下げると中心は木炭を含む黒褐色土で、それを囲むように堅い焼土面が検出された。炉跡の中からはグスク土器の小破片や石の剥片などが出土した。

（3）埋葬遺構

埋葬遺構は4基確認されたが、人骨の残存状況は全体的に悪い。埋葬形態は埋葬遺構1と埋葬遺構4は土壙墓、埋葬遺構2と埋葬遺構3は木棺墓とみられ、木棺墓の2基は埋葬姿勢の頭位方向が一致している。埋葬人骨はすべて成人で、土壙の大きさや検出状況から埋葬姿勢は屈葬とみられる。

検出状況について以下に述べるが、人骨の詳細については第Ⅶ章に譲る。

埋葬遺構1（第23図）はせ－22グリッドで検出。頭位が北東を向く仰臥屈葬で埋葬されていたとみられる。検出した埋葬遺構の中では、最も骨の保存状況が良かった。性別は女性のようである。隅丸方形を呈する土壙墓で、土壙の大きさは165㎝×65.8㎝、深さは45㎝を測る。

埋葬遺構2（第24図）はす－22グリッド検出。木棺に納められていたと推測される埋葬遺構で、埋葬遺構1に比べ人骨の残存部分が少ないが、上・下歯骨と四肢骨の検出状況から頭位は東南に位置する。土壙の大きさは200㎝×110㎝、深さ50㎝である。

遺構平面検出の際、暗褐色土中に黒褐色土の直線的な幅約3㎝ほどの筋が長方形を描き、四つ角が交差しているのが確認できた。黒褐色土の直線を木棺が朽ちた痕跡と推察すると、おそらく木棺のサイズは140㎝×55㎝で、組合式木棺の可能性が高い。観察畦でみる木棺の高さは約20㎝であるが、実際の棺の高さはそれよりも若干高いものであったと思われる。木棺の蓋については確認ができなかった。また、遺構内から鉄釘や留め具などは検出されなかった。

埋葬遺構内、木棺の外側にあたる部分から類須恵器の5㎝大の破片が1点出土したが、これは棺を埋める際に混入したものと推測される。

た－23グリッド検出の埋葬遺構3（第25図）は、埋葬遺構2と同様で木棺に納められていたと思われる。埋葬人骨の残存部位は極めて少ないが、埋葬遺構の方向と検出人骨の歯骨の位置が、埋葬遺構2とほぼ一致しており、頭位は東南と推測される。土壙の大きさは185㎝×95㎝で、深さは25㎝。木棺のサイズの長辺は判然としないが短辺幅は66㎝、残高23㎝である。

埋葬遺構4（第26図）は遺跡の北側にあり、ち・つ－23グリッドで検出。頭位は北西に向く。ほぼ楕円形の土壙墓で大きさは110㎝×61㎝、深さは60～68㎝で検出した埋葬遺構の中では最も深い。埋葬遺構4が位置するち・つ－20～23グリッドは、後世の遺構である溝1が第3・4層から地山面まで掘り込んで形成された為、凹地状になっている。埋葬を行った当時、地山面は現状よりも若干高かったと考えられ、埋葬遺構4はもっと深かったと考えられる。また、検出した埋葬人骨は他の埋葬人骨と異なり、頭蓋骨と共に大きさ約10～15㎝大のグスク土器破片が出土した。

（4）溝状遺構

溝状遺構は全部で8基検出できた。溝状遺構については第8層検出の遺構から任意に付けた遺構番号で表記している。では、第9層上面で検出した溝状遺構を遺跡の東側からみていくことにする。

遺跡の最も東側さ・し－19グリッドで検出した溝Hは、南北方向に延びている。幅約150㎝を測るが、深さは20㎝未満と浅い。溝Hの遺構内には第2層土が堆積しており、近世以後の遺構になる可能性がある。

そ－23グリッド検出の溝G（第19図）は、東西方向を軸に幅20～40㎝、深さ18㎝、全長は約2ｍと細くて浅い溝で、覆土には焼土や木炭破片が多く含まれていた。

その他の溝状遺構は調査区の西側にあり、全てほぼ平行して南北に走っているが、せ～そ－25～27グリッドで、近代以降の土地利用によって断ち切られている。

その内、最も東側にある溝B（第27・28図）は黒色の覆土中から牛骨やグスク土器、玉縁白磁碗、鎬蓮弁文青

磁碗、類須恵器、滑石製バレン状製品などの遺物が出土している。溝Bは確認できた全長が約16m、幅1.5～2m、深さは約40～60cmである。地山面が北西へ下る緩い傾斜面になるのに対し、溝底面は傾斜がほとんどなく平坦である。

溝C（第27・28図）は、全長約11m、幅約160cm、深さは約70～100cmで、今回検出した溝状遺構の中で最も深く、底面は溝B同様にほぼ平坦である。

溝C内の覆土は数枚の土層に分層可能である（第28図A－A'）。遺構内からの出土遺物は、第8層に相当する堆積土から検出されたものが多く、グスク土器や類須恵器、産地不明陶器、白磁、青磁、牛骨、鍛冶関連遺物の可能性がある滓類などがある。

溝状遺構D・E・F（第27・29図）の底面は、地山上面の傾斜にあわせて、平行するように高低差を有している。

溝Dの平面上の広がりは、第8層上面検出の列状ピット群、溝Aとともに検出しているため、第8層の遺構とも考えられるが、地山面に掘られた溝なので第9層の遺構として扱った。溝Dは、始点・終点がそれぞれ調査区外に延びている。確認できた全長は約12m、幅100～130cm、深さ約30cmである。出土遺物は青磁や類須恵器、グスク土器破片が得られている。

溝Eは、確認できた長さが最も短く、深度も浅い。溝の続きは西壁に延びている。全長約1.5m、幅12～30cm、深さ約10cm。遺物はほとんど出土していない。

溝Fは、底面の傾斜が最もきつく、全長約4.5m、幅約40～84cm、深さ約10～40cmである。覆土には焼土や木炭破片が含まれ、遺物は土器の細破片が出土するのみであった。

（5）土　坑

3基の土坑が検出された。せ－22の土坑は、第8層上面の炉跡直下で検出、長軸は南北方向にあり、長辺約100cm、短辺約45cm、深さ約20cmを測る。

た－23の土坑は埋葬遺構3の北側で検出。長辺約230cm、短辺約170cm、深さ約8cm。

こ・さ－27の土坑は溝Dの一部を掘り込んでいる。長辺約230cm、短辺約90cm、深さ約52cm。土坑内からは土器細破片が集中して出土したが、一個体になるものではなかった。

<註>

註1　『後兼久原遺跡展』　北谷町教育委員会　1997年10月30日

註2　『動物と人間の考古学』　久保和士　真陽社　1999年12月1日

註3　「宇茂佐古島遺跡」『名護市史　資料編・4　考古資料集』　名護市史編さん委員会　1998年3月

註4　『識名シーマ御嶽遺跡』　那覇市教育委員会　1997年3月

第４表　第9層ピット観察一覧（1）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
さ-19	2		25	19	50	16,850		プラン5
	3		25	23	42	16,960		
	4		26	23	22	17,180		
	5		18	17	14	17,240		
さ-20	1		16	15	19	17,170		
	2		36	34	33	16,980	表面から石器	柱痕幅12cm、深さ33cm
	3		65	26	38	16,940		す－20pit3の一部の可能性
	4		35	25	31	16,970		柱痕幅10cm、深さ35cm
	5		20	17	36	16,990		
	6		25	14	10	17,150		
	7		57	27	39	16,880		上部はレンズ状に広がる。プラン5
	8		14	11	14	17,160		
	9		48	17	8	17,220		
	10		37	31	19	17,100		
	11		50	24	45	16,820		
	12		20	20	30	16,950		
	13		36	21	8	17,180		
	14		18	13	7	17,170		
	15		－	－	4	17,190		調査区南側土手に入り込む
	16		70	9	－	－		複数のpitの複合。
	16	a	17	13	30	16,930		
	16	b	19	18	34	16,890		
	16	c	11	10	18	－		
	16	d	20	18	25	16,960		
	17		25	23	40	16,780		柱痕幅10cm、深さ40cm
	18		31	21	9	17,170		
	19		29	16	28	16,920		
	20		14	13	23	16,900		
	21		48	14	－	－		下位のみbの複合
	21	a	24	22	26	16,900		
	21	b	28	22	19	16,960		
	22		78	5	－	－		複数pitの複合。
	22	a	21	18	22	16,880		
	22	b	20	17	22	16,880		
	22	c	16	15	14	16,960		
	22	d	20	13	19	16,920		
	24		23	17	19	16,910		
	25		18	15	18	16,900		
	26		15	13	10	16,960		
	28		20.5	18	36.5	16,850		マージ混入比較的少ない、焼土粒が顕著、炭粒も若干有。
	29		17	12.5	21	16,970		深度は中央部凹みで計測。マージ混じり。pit内かなりいびつ。
さ-21	1		31	－	24	16,760		さ-20pit27と合併。長軸ラインは調査区南壁面にぶつかる。
	2		14	13	12	16,880		
	3		16	13	13	16,880		一部は南壁面にぶつかる。
	4		20	13	21	16,780		pit5を切っている
	5	a	23	19	34	16,650		
	5	b	16	15	31	16,660		
	5	c	20	20	29	16,670		
	6		49	21	－	－	石材	
	6	a	25	23	27	16,710		
	6	b	23	17	43	16,570		
	7		16	13	13	16,820		
	8		17	16	35	16,620		
	9		33	24	29	16,610		
	10		47	9	－	－		
	10	a	22	19	36	16,510		
	10	b	23	14	12	16,740		
	11		38	18	10.5	－		
し-19	2		11	11	7	17,200		
	3		21	19	33	16,960	グスク系土器片	
	4		74	54	72	16,580		プラン1
	5		27	11	10	17,200		
	6		13	12	9	17,200		
	7		11	9	4	17,260		
	8		70	18	－	－		pitの複合
	8	a	31	22	32	16,980		
	8	b	20	18	16	17,080		
	9		22	18	37	16,920		
	10		23	20	28	17,080		
	11		25	24	34	17,000		
	12		24	13	9	17,230		
	13		18	15	26	17,080		

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
し-19	14		－	－	－	－		
	14	a	21	18	18	17,150		
	14	b	13	11	14	17,140		aにより大きくきられている
	14	c	16	16	35	16,970		bをきっている
	14	d	15	15	20	17,080		
	14	e	60	28	56	16,770	ヒレジャコ	プラン1
	15		16	16	10	17,250		
	16		16	15	16	17,160	石材	
	17		20	16	15	17,170		
	18		106	7	－	－		
	18	a	25	24	29	17,080		
	18	b	97	7	7	17,320		
	19		13	12	7	17,290		
	20		37	22	31	17,060		プラン5
	21		58	5	14	17,240		
	22		15	11	5	17,310		
	23		14	8	12	17,260		
	24		16	15	12	17,280		
	25		46	8	－	－		
	25	a	25	24	21	17,160		
	25	b	21	8	4	17,340		
	26		37	22	40	16,960		プラン5
	27		25	18	13	17,240		
	28		14	9	10	17,280		
	29		14	12	10	17,200		
	30		10	9	8	17,240		
	31		42(21)	10(18)	40	16,930		上面は三日月形状であるが、下部で円柱痕状に、( )内数値はその部分
し-20	1		15	12	12	17,110		
	2		15	15	45	16,770		
	3		135	26(50)	－	－		( )内は長軸に対して最大幅。中央部の断面で柱痕確認(柱痕幅は7～16cm)
	3	a	14	12	12	17,100		
	3	b	－	28	36	16,900		柱痕幅7～16cm、深さ35cm
	3	c	24	22	64	16,600		
	4		148	20	－	－		複数pitの複合と見られる(a～eを確認)
	4	a	17	10	27	16,940		
	4	b	19	16	30	16,920		
	4	c	16	15	34	16,900		
	4	d	20	18	41	16,800		
	4	e	22	18	43	16,780		
	4	f	16	15	27	16,930		
	4	g	21	18	47	16,740		
	4	h	36	31	46	16,720		
	5		30	29	35	16,840		プラン1
	6		20	17	17	17,000		
	7		21	18	33	16,800		断面に柱痕？らしき黒色土部分見られる
	8		19	18	15	17,020		
	9		49	17	－	－		複数pitの複合(a･bの2つ)
	9	a	20	18	23	16,940		
	9	b	28	23	25	16,930		
	9	c	8	7	40以上	－		木根痕の可能性
	10		33	22	－	－		
	10	a	－	13	14	17,000		
	10	b	－	－	32	16,830		
	11	a	43	6	13	17,000		
	11	b	24	20	33	16,800		
	12		24	22	41	16,780		
	13		17	16	14	17,130		
	14		15	13	27	16,970		
	15		13	10	8	17,190		
	16		60	54	65	16,640		柱痕幅18×21cm、深さ66cm。プラン1
	16	a-1	23	17	45	16,720		柱痕幅16cm、深さ45cm
	16	a-2	26	24	40	16,850		柱痕幅22cm、深さ40cm
	16	b-1	26	20	28	16,990		
	16	b-2	23	18	35	16,870		プラン5
	16	b-3	19	17	34	16,890		
	16	b-4	26	23	50	16,740		
	16	b-5	13	10	9	17,120		
	17		21	20	43	16,760		
	18		16	15	7.47	17,160		
	19		16	15	20	17,070		
	20		103	54	－	－		

第４表　第9層ピット観察一覧（2）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
し-20	20	a	17	13	21	17.130		
	20	b	19	15	22	17.080		
	20	c	18	18	19	17.160		
	20	d	26	26	42	16.910		
	21		20	14	—	—		pit20覆土に掘り込まれたpitの可能性
	22		15	12	15	17.140		
	23		30	28	40	16.870		プラン5
	24		18	13	8	17.220		
	25		26	25	40	16.870		
	26		58	54	—	—		
	26	a	18	—	13	17.120		
	26	b	18	16	33	16.970		
	26	c	14	13	33	16.970		
	26	d	18	17	27	17.000		
	26	e	22	19	49	16.810		
	27		41	36	51	16.770		柱痕幅10cm、深さ50cm
	28		23	11	12	17.140		
	29		41	15	—	—		
	29	a	22	18	42	16.810		
	29	b	18	17	39	16.860		
	29	c	—	15	23	16.980		
	30		26	21	42	16.830	カムィヤキ(小壺)	
	34		30	22	29	16.890		
	37		—	—	—	—		複数pit群の集合でa～cの3群に区別、各群別に任意に番号をふっている。
	37	a	69	48	—	—		a-1～4のpit重複を確認
	37	a-1	25	24	56	16.560		
	37	a-2	24	22	49	16.580		
	37	a-3	24	21	41	16.690		
	37	a-4	18	14	32	16.790		
	37	b	—	—	—	—	グスク系土器片	b-1～3のpitを確認。一部に木根痕らしき凹みも有。
	37	b-1	22	15	29	16.860		
	37	b-2	29	27	66	16.440		
	37	b-3	21	22	48	16.560		
	37	c	—	—	—	—	グスク系土器片	c-1～6のpitを確認。一部に木根痕らしき凹みも有。
	37	c-1	24	20	33	16.690		
	37	c-2	41	33	62	16.410		隣接のc-3をきっている
	37	c-3	95	50	39	16.600		プラン1
	37	c-4	20	17	21	16.800		
	37	c-5	29	20	40	16.540		
	37	c-6	34	32	27	16.710		
	38		33	26	54	16.540		中央主体部(柱痕？)の幅15cm×13cm
	40		12	11	16	16.800		
	41		19	15	19	16.750		
	42		37	24	19	16.820		
	43		28	16	29	16.720		
	44		10	9	14	17.050		
	45		31	23	28	16.860		
	47		23	21	33	16.740		
	49		21	19	37	16.540		
	50	a	65	60	—	—		複数pitの集合群でa～c群に区別。
	50	a-1	21	20	37	—		
	50	a-2	—	23	49	16.780		
	50	a-3	56	45	52	16.640		柱痕幅30cm、深さ51cm。プラン1
	50	a-4	30	27	51	16.660		柱痕の深さ30cm
	50	a-5	18	13	29	16.880		a-4で一部掘込まれている
	50	a-6	18	16	22	16.940		
	50	a-7	20	18	14	17.020		
	50	b-1	48	36	66	16.370		
	50	b-2	23	20	37	16.660		
	50	c-1	14	13	15	16.860		
	50	c-2	21	17	26	16.780		断面に柱痕状を呈す、黒色土の落込を確認。(深さ30cm)
	50	c-3	32	30	50	16.420		断面に柱痕状を呈す、黒色土の落込を確認。(深さ13cm)
	50	c-4	29	27	30	16.600		
	50	c-5	11	8	—	—		
	50	c-6	21	19	29	16.780		
	51		18	16	29	16.800		

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
し-20	52		27	21	49	16.630	石器？	
	53		20	16.5	9	16.980		マージ混入顕著、炭粒(炭化物)微量有。
	54		13	13	15.5	17.020		
し-21	1		37	17	—	—		
	1	a	—	—	27	16.600		
	1	b	—	—	25	16.660		
	1	c	—	—	17	16.700		
	2		21	19	20	16.700		
	3		57	8	—	—		
	3	a	21	18	25	16.690		
	3	b	21	18	20	16.710		
	3	c	27	13	26	16.660		
	4		21	16	21	16.670		
	5		35	18	—	—		
	5	a	23	22	40	16.480		
	5	b	—	—	23	16.620		
	6		59	20	—	—		
	6	a	24	21	50	16.320		
	6	b	20	11以上	37	16.460		
	6	c	21	16	24	16.610		
	6	d	—	—	16	—		
	6	e	—	—	24	16.600		
	7		20	17	25	16.590		
	8		29	19	32	16.440		
	9		13	11	33	16.450		
	10		56	47	72	15.600		プラン2
	10	a	25	20	17	16.640	後期系土器(無文・a-ⅰ)、グスク系土器(底部資料・a)	
	10	b	16	14	26	16.520		
	10	c	14	12	15	16.640		
	10	d	23	19	32	16.530		
	11		20	17	—	—		
	11	a	—	—	27	16.580		
	11	b	—	—	15	16.680		
	12		95	23	—	—		
	12	a	22	19	23	16.640		
	12	b	—	—	11	16.780		
	12	c	—	—	13	16.770		
	13		62	54	—	—		
	13	a	28	22	49	16.430		
	13	b	18	17	22	16.760		
	13	c	14	13	18	16.760		
	14		25	21	40	16.530		
	15		10	9	25	16.680		
	16		16	15	20	16.780		
	17		25	17	28	16.640		
	18		32	17	27	16.630		
	19		16	14	24	16.650		
	20		16	15	13	16.740		
	21		28	18	39	16.530	グスク系土器片	
	22		18	13	36	15.580		
	23		26	17	21	16.700		
	24		18	15	21	16.690	カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c)	
	25		14	12	5	16.840		
	26		38	25	64	16.250	石	
	27		54	44	17	16.420	土器片	
	28		22	21	14	16.620		
	29		39	24	54	16.320	グスク系土器片	
	30		35	8	—	—		
	30	a	22	22	44	16.430		
	31		16	15	13	16.760		
	32		52	44	57	16.180		
	33		34.5	25	11.5	16.530		
	34		15.5	14.5	12.5	16.500		
	35		27	25.5	16.5	16.410		
	36		46	31	10.5	16.340		
	37		38	33	24	16.160		
	38		16	14.5	10	16.680		
	39		17.5	17	10	16.650		
し-22	1		40	30	43	16.060		
	2		28	19	8	16.350		
	3		12.5	12	10.5	16.320		
	4		12	8	14	16.280		
	5		21	20	14	16.250		
	6		31	22	16	16.180		
	7		11	9.5	19	16.120		
	8		11.5	10.5	3	16.240		内部中央(深さ3cmの所)より焼土塊を確認。

第４表　第9層ピット観察一覧（3）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
し-22	9		12	10	17	16.080		
	10		14	10.5	18	16.040		
	11		23	13	11	16.110		
	12		20	16	28	—		
	13		14.5	10	19	16.120		
	14		17	12	25	16.030		
	16		94	7.5	12	16.210		木根痕と思われる(pit15に続くものか)。
	17		25	20	46.5	—		
	18		64.5	14	11.5	16.220		木根痕の可能性
	20		14.5	9.5	24	16.110		
	21		13	9.5	7.5	16.290		
	22		27.5	14.5	26	15.950		
	23		15	10	19.5	16.000		
し-23	2		11	10.5	11	15.980		
	3		8.5	7	11.5	16.000		
	4		24	16	32	15.730		
	5		30.5	20.5	20.5	15.950		
す-18	1		14	12	11	17.080		プラン4
す-19	1		10	10	5	17.180		プラン4
	2		15	14	15	17.120		
	3		14	14	11	17.120		プラン4
	4		18	14	4	17.240		
	5		15	11	3	17.220		
	6		17	13	6	17.180		
	8		21	19	5	17.130		
	9		30	13	10	17.080		
	10		9	9	14	17.000		木根痕の可能性
	11		30	23	14	17.120		
	12		12	10	4	17.210		
	13		10	9	13	17.110		
	14		18	18	12	17.100		
	15		29	23	26	16.940	グスク系土器(壺形・c、底部資料・b)	
	16		31	22	20	17.060		
	17		11	10	4	17.160		
	18		16	14	9	17.080		
	19		21	18	15	17.040		
	20		12	11	8	17.140		
	21		19	19	11	17.100	グスク系土器片	
	22		17	17	23	16.940		断面で柱痕確認(柱痕幅6cm、深さ23cm)
	23		19	16	6	17.120		
	24		18	15	7	17.100		
	25		20	16	14	17.000		
	26		19	18	15	17.010		
	27	a	19	17	24	17.010		pitと木根痕の重複の可能性
	27	b	60	9	7	17.190		
	28		39	23	—	—		
	28	a	23	21	29	16.970		
	28	b	11	8	11	17.160		
	29		29	28	36	16.840		
	30		14	13	9	17.100		
	31		26	21	25	16.920	グスク系土器片	
	32		35	—	—	—		複数のpitの複合と思われる
	32	a	16	13	17	16.980		
	32	b	22	21	44	16.700		
	33		31	18	10	17.020		
	34		15	13	11	17.000		プラン4
	35		28	25	12	16.980		
	36		15	14	16	16.970		
	37		23	17	19	16.910		
	38		19	17	12	16.980		プラン4
	39		11	11	10	16.950		
す-20	1		24	22	31	16.410		
	2		33	26	38	16.520	土器片	土器片、遺構面下34cmで出土。
	3		22	21	37	16.430		
	4		33	16	34	16.410		
	5		15.5	14	4.5	16.720		
	6		27	18	42.5	16.240	カムィヤキ片、グスク系土器片	
	7		31	18	34	16.390		
	8		23	19	31.5	16.420	白磁片	
	9		19	13	18	16.750		
	10		95	66	10	16.500	カムィヤキ片	
	11		23	18	25	16.420		
	13		13	11	14	16.810		
	14		17	14.5	23	16.830		
	15		16	15	25	—		

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
す-20	16		17	12	6.5	16.900		
	17		17	14	6.5	16.860	土器	
	19		28.5	19	29	16.480	カムィヤキ片	柱痕幅10cm、深さ29cm
	20		16	10.5	11	16.780		
	21		15	12	8	16.800		
	22		16.5	11.5	9.5	16.750	グスク系土器片	
	23		13	10	9.5	16.710		
	24		37	31	36	16.360		
	25		25	18	26	16.460		
	26		17	15.5	10	—		木根痕の可能性
	27		33	26	15	16.660		
す-21	1		20	17	28	16.430		
	2		20	14	6	16.670		
	3		27	14	7	16.620	グスク系土器片	
	4		15	14	30	16.300		
	5		17.5	14	31	16.280		
	6		16	13	10.5	16.460		
	7		22	18	25.5	16.260		
	8		42	36	25	16.250	土器片	
	9		32	30	30	16.180		
	10		15	14.5	14	16.260		
	11		60	54	81	15.570	軽石、青磁片、グスク系土器片	赤色焼土粒混入。炉跡の下から検出。プラン2
	12		40	35	39	15.960		
	13		15.5	15	2	16.320	焼石2点	pit中央部に2つの焼石あり。pit14を切っている。
	14		23	20	27	16.020		
	15		14	10	27.5	16.250	カムィヤキ片	底面からカムィヤキ片出土。
	16		21	19	26	16.230		炭化物も若干有。
	17		33	29	36	16.140	土器片	
	20		17	12	5	16.370		
	21		29	27	31.5	16.070		
	22		34	32	32	16.080		
	23		18	12	15.5	16.440	石	
	24		15	14	13	16.220		
	26		32	6	12	16.450		
	27		41	20	10	16.440		
	28		13	11	—	—		上層のpit21による掘り込みで深度は不詳
	29		46	30	34	15.880		
	30		9	6	9	16.400		
	31		10	8	8	16.410		
	32		12	10	8	16.380		
	33		22	10	8	16.480		
	34		22	10	12	16.440		
	35		10	10	10	16.380		
	36		18	16	10	16.470		
	38		18	12	16	16.300		
	39		18	12	34	16.020		
	40		54	24	36	16.100		8層検出のpit13とpit14を合併。
	43		24	22	19	16.410	石	柱痕幅12cm、深さ19cm。
	44		46	—	—	—		
	44	a	—	24	12	16.400		
	44	b	—	22	12	16.380		
	47		34	34	38	16.120		炭粒が若干混ざる。pit4と重複。
す-22	1		36	29	37	15.900	カムィヤキ片、グスク系土器片	覆土上層は北側で炭粒・赤色焼土を多く含み、南側ではマージ混入、炭粒等含まない。下層はマージ混入比較的顕著。
	2		26	22	23	15.880		
	3		49	—	—	—		
	3	a	—	24	35	15.800		
	3	b	—	37	30	15.840		
	4		15	13	11	16.050		
	5		20	19	40	15.540		埋葬遺構2に掘り込まれている。
	6		18	17	34	15.760		
	7		19	18	27	15.840		
	8		17	16	17	16.120		
	11		19.5	17	16.5	16.180	貝製玉	
	12		17	16.5	19.5	16.140		
	13		28	11	23	16.050		
	14		61	55	19	16.060		
	15		7.5	5	6.5	16.240		
	17		14	12	23.5	15.900		
	18		28.5	7.5	14.5	15.800	グスク系土器片	

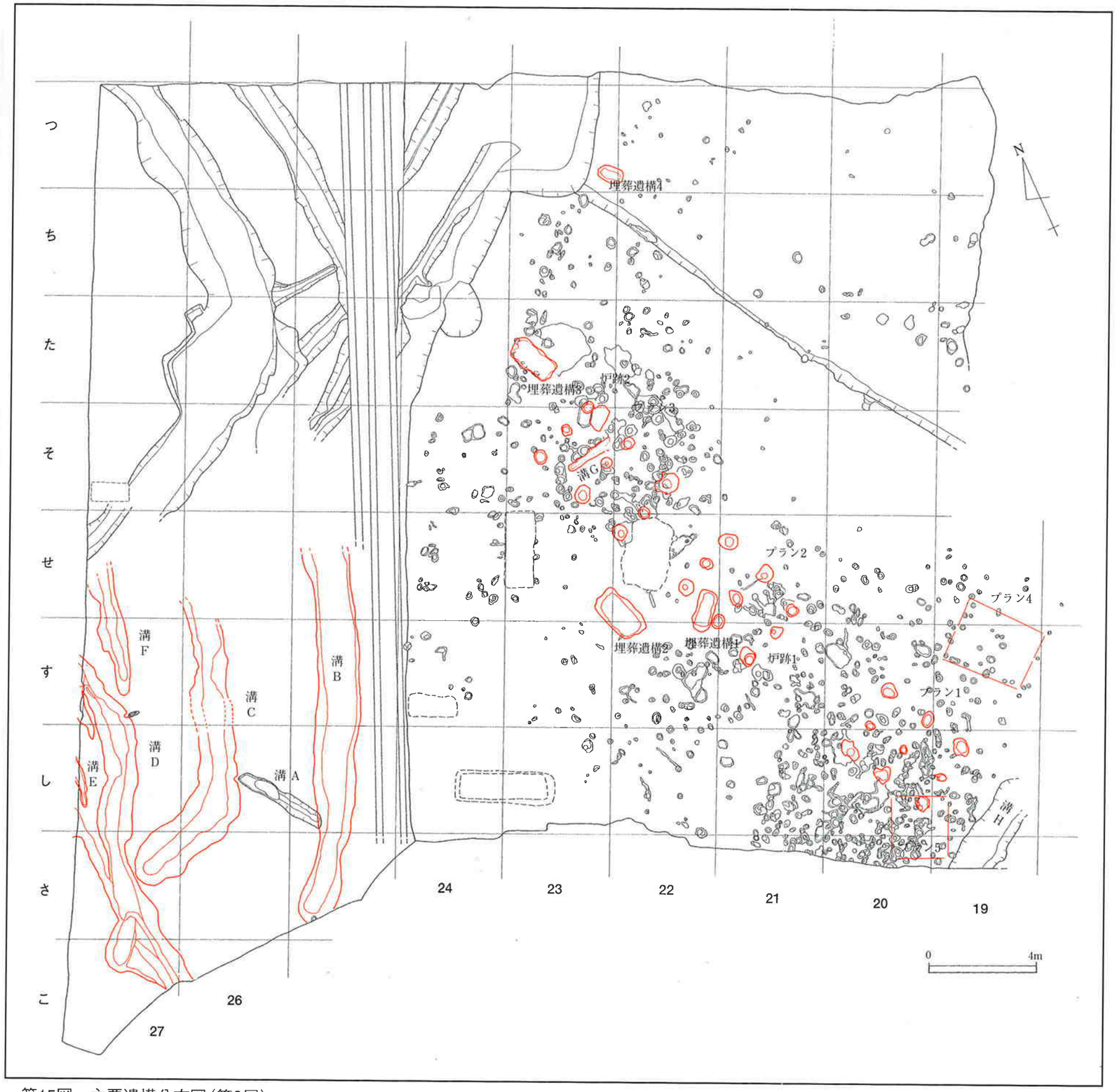
第４表　第9層ピット観察一覧（4）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
す-22	19		11	9.5	19.5	16.040		
	20		13.5	7.5	16.5	16.050		
	21		56	33	14	16.160	カムィヤキ片、グスク系土器片	
	22		24	11	9.5	16.210		
	24		36	28	47	15.640		
	25		46	6	22	—		木根痕の可能性
す-23	1		29	20	30	15.720		
	2		12	11	18.5	15.820		
	3		10	7	5.5	15.800		
	4		20	11	8	15.810		
	5		10.5	10	1.5	15.760		
	6		31	9.5	10	15.840		
	7		30	20	19	15.680		
	8		26	21	20	15.690		
	9		17	11	30	15.540		
	10		12	6	4.5	15.790		
	11		12	5.5	11.5	15.590		
	12		11	10.5	25.5	15.600		
す-24	1		12	10.5	13	—		
	2		19.5	18.5	9.5	—		
	3		34	29.5	7.5	—		
	4		26	24	14	—		
	5		31	19	—	—		
	6		29	27	—	—		
	7		21	15	—	—		
せ-18	1		16	11	6	17.060		
せ-19	1		17	16	6	16.940		
	2		19	17	13	16.920		
	3		28	13	12	17.000		
	4		15	10	4	16.900		
	5		14	13	5	16.940		
	6		22	19	42	16.580		
	7		16	14	9	16.980		プラン4
	8		10	10	8	17.000		
	9		17	14	16	16.900		
	10		28	13	19	16.860		
	11		32	27	20	16.760		
	12		26	25	15	16.760		
	13		14	13	14	16.710		
	14		17	11	3	16.700		
	15		22	12	4	16.740		
	16		14	14	12	16.760		
	17		21	20	28	16.590		
	18		18	16	18	16.780		
	19		20	15	12	16.920		
せ-20	1		16	15	9	—		
	3		34	22	14	—		
	4		18	16	25	—		
	5		31	29	—	—	獣骨	
	5	a	13	12	24	—		
	5	b	15	13	16	—		
	5	c	—	—	9	—		
	6		24	21	23	—		
	7		20	18	32	—		
	8		15	12	8	—		
	9		38	20	18	—	青磁片	
	10		16	14	14	—		
	11		40	27	13	—		
	12		46	—	—	—		
	12	a	—	23	16	—		
	12	b	—	24	14	—		
	13		24	20	15	—		
	14		20	19	36	—		
	15		12	10	12	—		
	16		16	15	10	—		
	17		14.5	12.5	2.5	16.480		赤色焼土粒を割合含む。
	18		31	25	30	16.250		pit3と切りあっている
	19		34.5	19.5	5.5	16.530		
	20		31	16.5	6	16.500		
	21		25	20	13	16.360		
	22		19.5	14	11	16.640		
	23		17	15	4	16.800		
	24		20	18	17.5	16.800		
	25		43	34	35	16.350		
せ-21	1		39	37	27	16.140		
	2		28.5	27.5	28	16.080	土器片(把手部)	土器片、遺構面下10.5cmにて出土。
	3		17	15	15	16.200	後期土器片	
	4		18	16	16	16.160	土器片	
	5		18	18	25	16.120		
	6		20	17	23	16.040		
	7		25	23	20	16.080		
	8		27	25	12.5	16.090		
せ-21	9		35	28.5	9	16.100		
	10		100	42.5	—	—	土器片	
	10	a	67	57	84	15.400		柱痕幅40cm。プラン2
	10	b	18	16	21	16.140		
	11		14	12	18	16.240		
	12		15	8	4	16.340		
	13		113	67	16	16.200	土器片、焼石	土器片、深さ3cmで出土。
	14		20.5	15.5	34	16.040	カムィヤキ	カムィヤキ、遺構面下32cmで出土。
	16	a	12	9	13	16.220		
	16	b	29	24	42.5	15.920	土器片	土器片、深さ12.5cmで出土
	18		34(55)	26	48.5	15.860	カムィヤキ(把手付壺)	
	19		22	20	22	16.380		
	20		22	18	9	16.200		
	21	a	49	47	37	15.870		柱痕の周囲と下に10cm大の石を詰める。柱痕幅14cm、柱痕深16cm。プラン2
	21	b	38	22	38	—		
	22		17	11	10	16.460		
	23		16	14	18	16.360		
	24		17	14	29	16.000		
	25		14	13.5	11	16.180		
	27	a	24	21	6	16.460		
	27	b	22	—	8	16.400		
	27	c	34	24	32	16.120		
せ-22	2		34	22	35	15.690	グスク系土器片	
	3		16	14.5	22	15.820	グスク系土器片	
	4		16	13	16.5	15.840		
	5		13	12.5	19	15.780		
	7		56	54	78	15.070	白磁(底部)貝製玉(図48-2)	掘立柱建物跡プラン。試掘坑で一部不詳。プラン3
	9		15	13.5	44	—		
	12		45	26	7.5	—		
	13		9	7.5	24.5	—		
	14		11	10	13.5	—		
	15		10	9	20.5	—		
	16		16.5	15.5	5	—		
	17		57.5	7.5	15	—		
	18		25	15	12.5	—		
せ-23	1		17	13	12	15.100		
	2		18	11	3	15.180		
	3		11	10	2	15.750		
	4		14.5	11.5	3	15.740		
	5		11	10	5	15.700		
	6		14.5	13	5	15.720		
	7		19	15	10.5	15.710		
	8		30	23	4	15.650		
	9		10	8	4	—		
	10		29.5	23	3.5	—		
	11		25.5	17	7	—		
	12		14.5	13.5	13.5	—		
	13		35.5	17	22	—		
	14		30	28	10	—		
せ-24	1		39	17	12	15.360		
	2		21	17	27	15.200		
	3		25	19	19	15.240		
	4		10.5	9	13	15.300		
	5		26	18	11.5	15.300		
	6		19.5	18	13.5	15.320		
	7		19	18	9	15.060		
	8		15.5	13	12.5	15.030		
	9		19	23	16	15.030		
	10		14	10	8	15.060		
	11		23.5	15.5	9.5	—	石	
	12		35	27	21	—	土器片、骨片	
	13		25	10	15	—		
	14		36	31	21	15.340		
	15		37	26	5.5	15.120		
	16		19	8	4.5	15.110		
	17		14.5	6	8	15.100		
	18		18	7.5	7.5	15.100		
	20		20	16.5	21.5	15.240		隣接するpit24と内部で繋がる。
	21		18.5	13	14	15.300		
	22		46	20	32	15.070		
	23		41	24	18.5	15.200		
	24		24	6	12.5	15.300		木根痕と思われる。
	25		54	5	10	15.310		
そ-21	1		31.5	25.5	6	16.020	土器片	土器片、深さ5.5cm(pit中心付近)で出土。

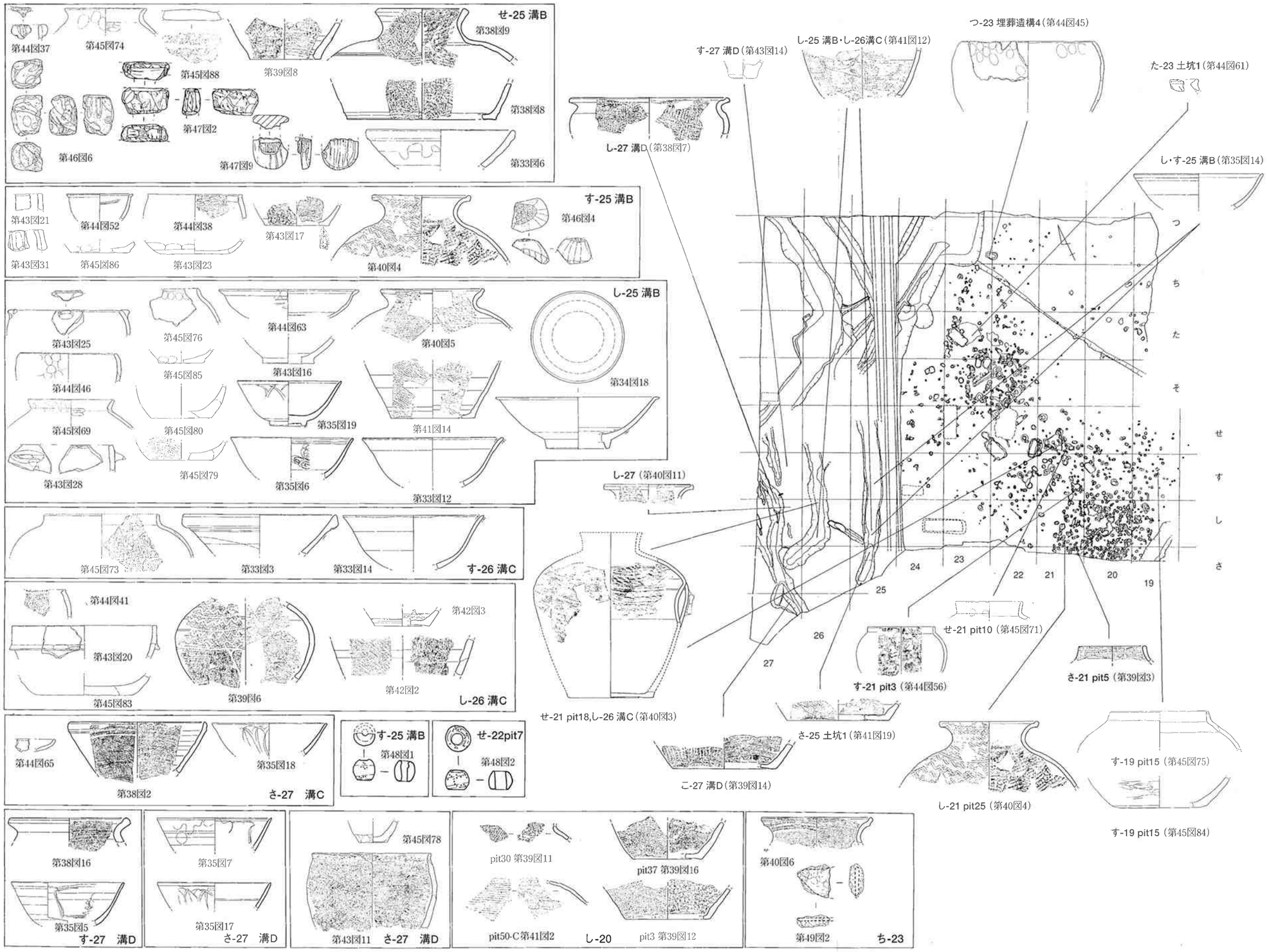
第４表　第9層ピット観察一覧（5）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
そ-21	2		13	9.5	10	16.060		
	3		17	13.5	11.5	16.060		
	4		16	12.5	17	16.140		
そ-22	1		36	31	7	15.920	グスク系土器片	
	2		13.5	13.5	14	15.840		
	3		15.5	13	8	15.920		
	4		16	15.5	21.5	15.750		
	5		68	31.5	2.5	15.920		
	6		26.5	18	13	15.840	カムィヤキ(把手付壺)	
	7		21	16	4	15.980		
	8		21.5	19.5	7	15.850		
	9		16.5	14.5	26	15.680		
	10		18	18	4.5	15.740		
	12		18	17	5.5	15.780		
	14		41	36	15	15.640		
	16		37	27	20	15.600		
	17		19	16	4	15.760		
	18		24	22	18	15.570		
	20		28	24	27.5	15.660		
	22		50	40	65	15.240	根石	柱痕の可能性のある木炭サンプル検出。ピット内から複数の根石の可能性のある石が出土。プラン3
	23		28	27	42	—		pit22の上に掘り込まれたピット
	24		22	20.5	13	15.700		
	25		37	31	21	15.610		
	26		54	6(20)	—	—		
	27		16	13	15	15.700		
	28		27	17	25.5	15.610		
	29		16.5	14	11	15.780		
	30		52	22	4	15.700		
	32		28	22	20.5	15.500		
	34		26	21	18	15.580		
	35		13	10	16	—		
	36		22	8	7	—		
	37		108	34	3.5	—		
	38		15	14	3	—		
	39		17	13	4	—		
	40		15	9.5	3.5	—		
	41		15.5	14.5	10.5	—		
	42		18.5	10.5	4	—		
	43		32	—	—	—		
	43	a	22	19	10	15.850		
	43	b	27	20	14	15.810		
そ-23	1		14	12	24.5	15.400		
	2		21	19	25	15.460		
	3		13	12	3.5	15.640		
	4		23	20.5	30	15.360		
	5		43	29	42.5	15.160	礫	底面中央にレキ。
	6		47	41	62	15.060	礫	
	7		21	18	16	15.470		
	8		19	18	26	15.300		
	9		27	19	15	15.380		
	10		21.5	19.5	18.5	15.280		
	11		16.5	16	18	15.280		
	12		12	8	6	15.460		
	13		10	9	6	15.420		
	14		14.5	9.5	14	15.380	土器片	
	15		20.5	14	10.5	15.380		
	16		34	27.5	54	14.980		
	17		58	50	41	15.150		プラン3
	18		65	52	57	15.130		プラン3
	19		25	23	24	15.220		
	20		17	16	13	15.420		
	21		19	17	10	15.500		
	22		52	—	—	—		
	22	a	24	16	10.5	—		
	22	b	14	11.5	27.5	15.360		
	25		20.5	16	7	—		
	26		23	5	8	—		
	27		44	20	11.5	—		柱穴痕幅、長径17cm、短径10cm、深さ11.5cm。
	28		42	36	52	14.920	グスク系土器片、貝製玉	炉跡の下から検出。最下部から貝製玉が出土。プラン3
そ-24	1		44	26	12	15.230		
	3		17	8	9	15.260		
	4		17	12	10	15.240		
	5		55	45	2	15.260		
	6		12	11	8	15.220		
	7		21	19	6	15.330		
	8		18	17	10	15.100		

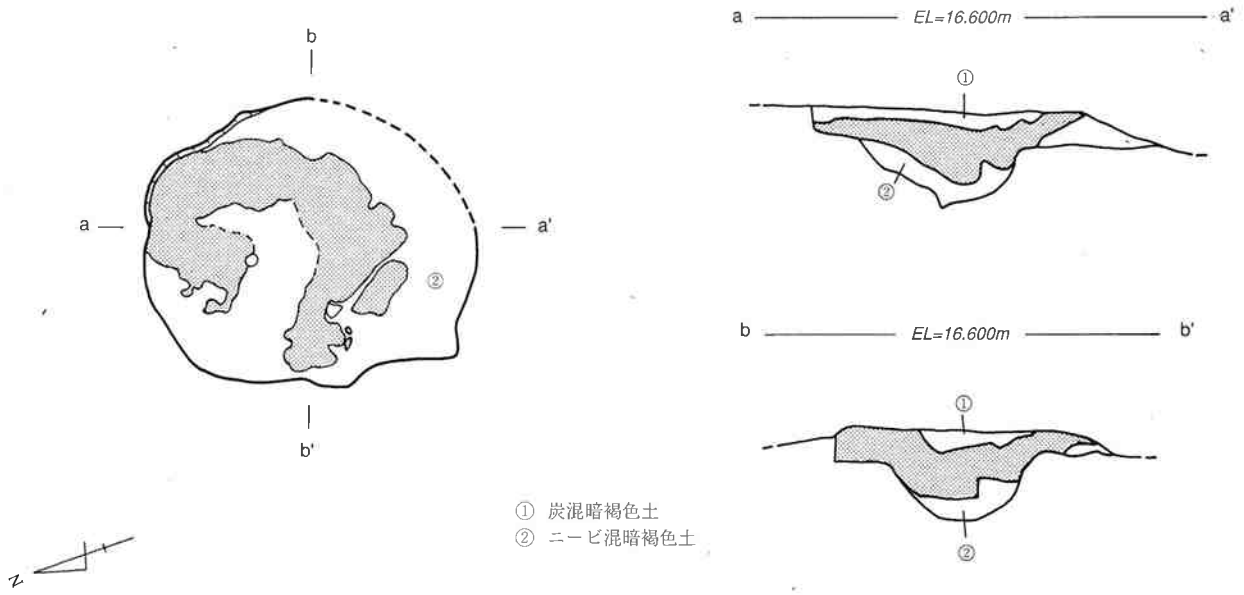
グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
そ-24	9		20	18	8	15.120		
	13		37	36	7.5	15.200		
	14		18.5	12.5	6	—		
	15		55	45	2	—		
	17		21	20.5	15	15.300		
	18		14	9	10	15.120		
	19		60	8	24	14.920		
	20		20	10	17	14.970		
	21		28	19	16	15.010		
	22		55	40	7	—		
	23		14	12	5	—		
た-19	1		22	21.5	8	15.800		
	2		25.5	25.5	12	15.780		
	3		46.5	41.5	23.5	15.740		炭集中部サンプル採取。
	5		22.5	15	3	15.950		
	6		32	26	2.5	16.000		
	7		33.5	20	2	16.000		
	8		21	18	4	16.060	カムィヤキ片	
	9		41	25.5	3	16.110		
た-20	1		25	20	6.5	15.520		
	2		40.5	36.5	7	15.680		
	3		50	24	12	15.670		
	4		39	29.5	20	15.620		
	6		18	16	2.5	16.000		
	7		33	19	3	16.040		
た-21	1		16	12	6	14.850		
	2		28	27	15	15.050		
	3		18	8	5.5	15.150		
	4		13	11	3.5	15.210		
	5		13	10.5	6	15.250		
	6		11	10	11	15.320		
た-22	1		12	11	21	15.740		
	2		22	17	11	15.820		
	3		18	16	24	—		
	4		23	17	27	—		
	5		52	—	—	—		
	5	a	41.5	35	16	—		
	5	b	31	27	15	—		
	8		24	22	18	—	グスク系土器片	
	9		12	11	7	—		
	10		35	10	6	—	カムィヤキ片	
	11		15	11	15	—		
	12		33	31	22	15.580		
	13		34	26	5	—		
	14		16	12	5	—		
	15		75	8	7	—		
	16		20	19	27	—		
	17		12	9	19	—		
	18		32	26	20	15.380		
	19		21.5	11	5	—		
	20		21.5	20	21.5	—	グスク系土器片	グスク土器片、遺構検出面下4cmにて出土。
	22		29	18	17	—		
	23		15	11	10	—		
	24		22	20	11	—		
	25		16	12	12	—		
	26		11	9.5	2.5	—		
	27		19	16.5	3.5	—		
	28		21	13	—	—		
	28	a	18	15	—	—		bを切っている
	28	b	34	16	—	—		
た-23	1		26	19	14	—		
	2		23	21	9	—		
	3		22	20	14.5	—		
	6		41	39	—	—		
	7		38	18	8	15.240		
	8		11	10	—	—		
	9		21	20	12	—		
	11		9	8	17	—		
	12		22	10	9	15.240		
	14		17	12	8	15.210		
	15		44	18	9	15.240		
	17		47	26	14	15.140		
	20		13	12	17	—		
	21		16	15	9	—		
ち-19	1		58	30	24	16.160		マージ混入の有無で分層可能。上位は黒褐色土、下位はマージ混じりの暗褐色土。
	2		16	15	12.5	16.200		
	3		24.5	23	12	16.050		
ち-20	1		27	26	8.5	16.100		
	2		31	26	14	16.080		



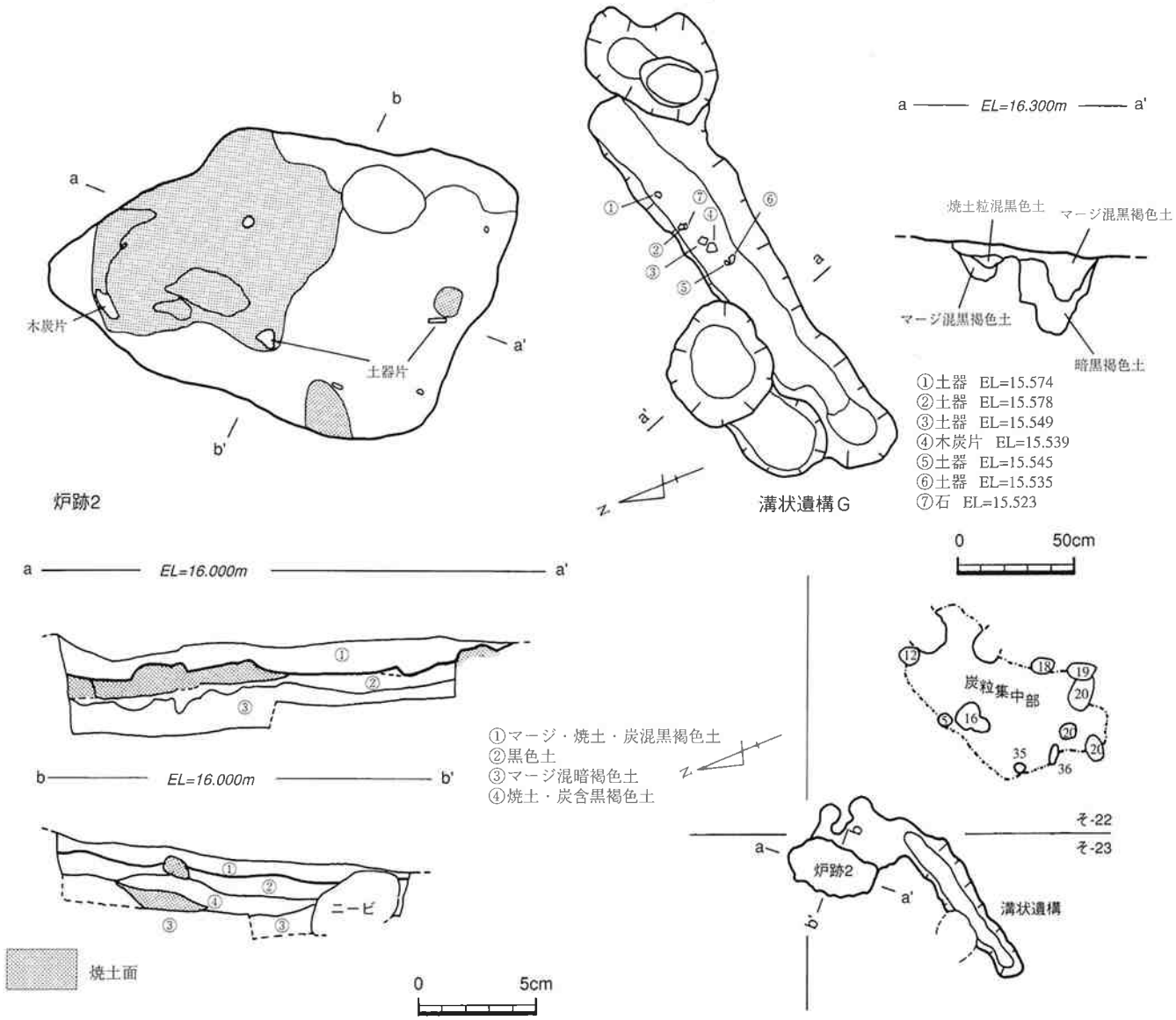
第15図　主要遺構分布図（第9層）



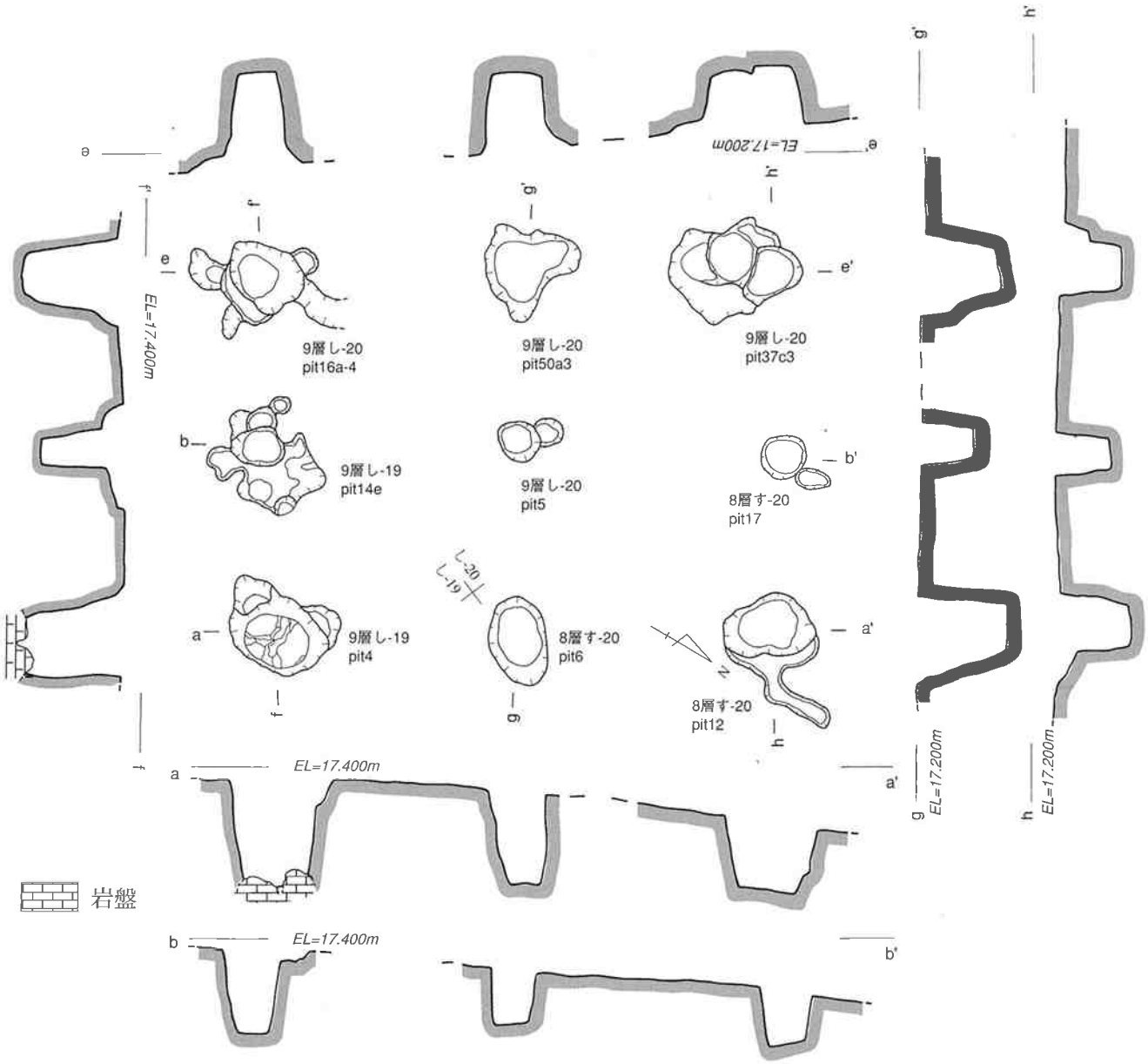
第16図　第9層上面検出遺構出土の主な遺物



第18図　炉跡1（す-21・第9層）

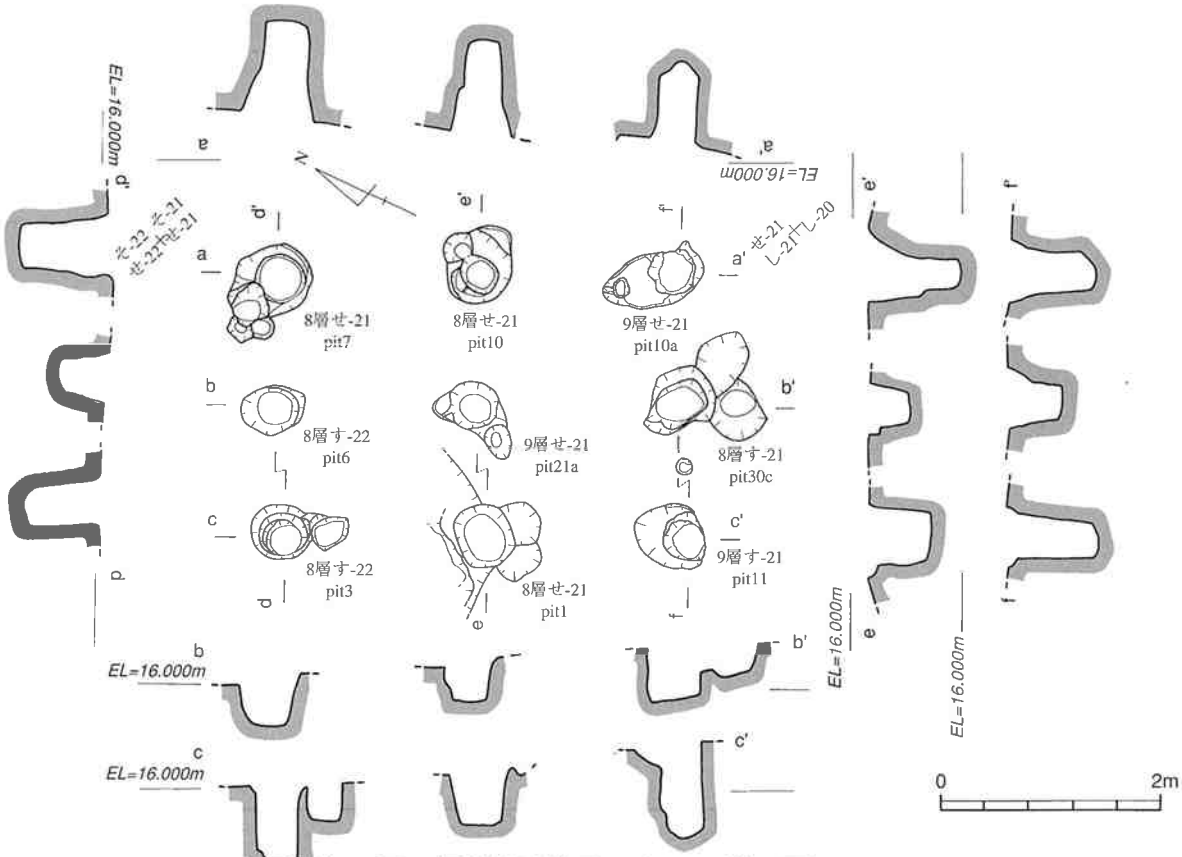


第19図　炉跡2・溝状遺構G（そ-23・第9層）

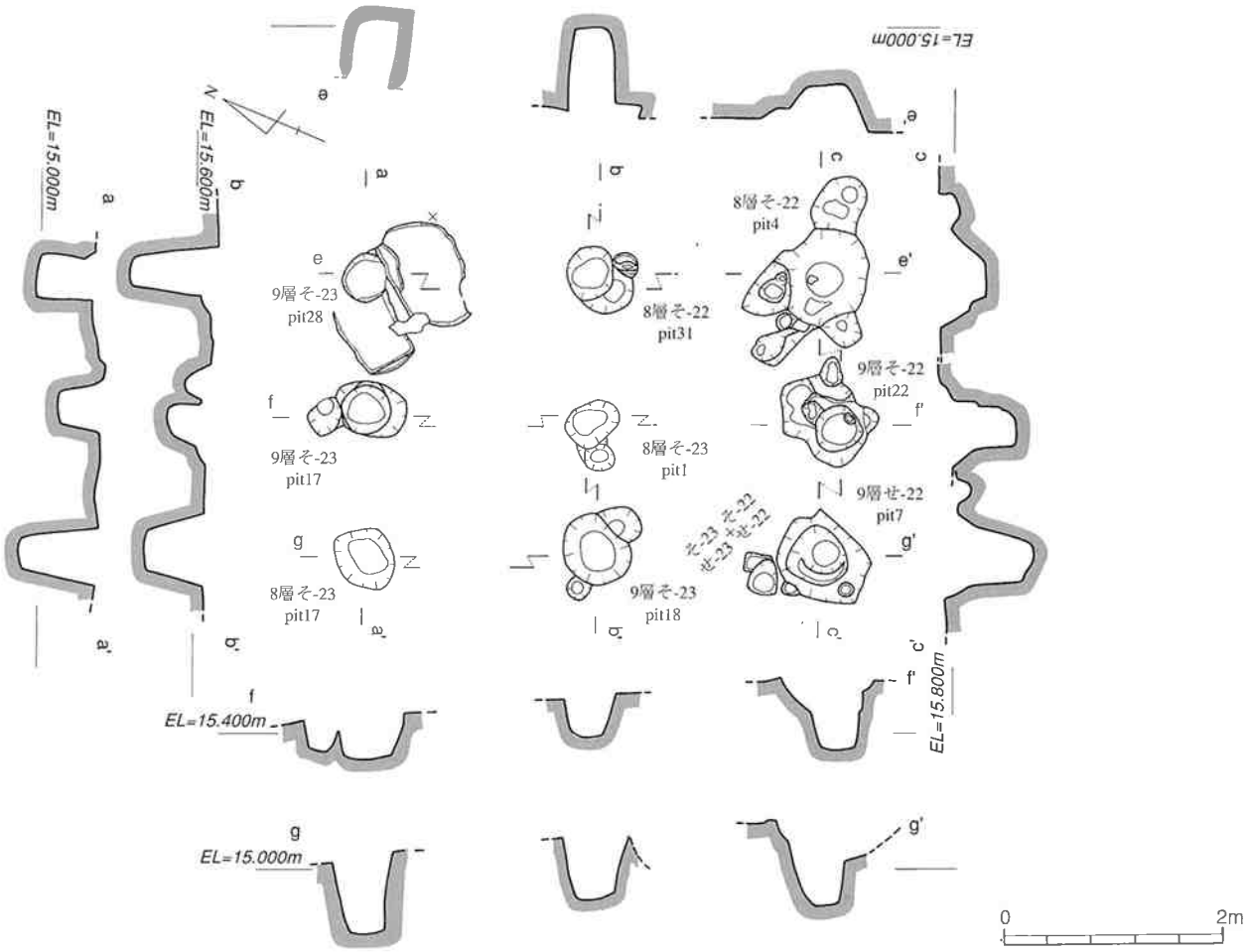


第20図　掘立柱建物跡 プラン1（第9層）

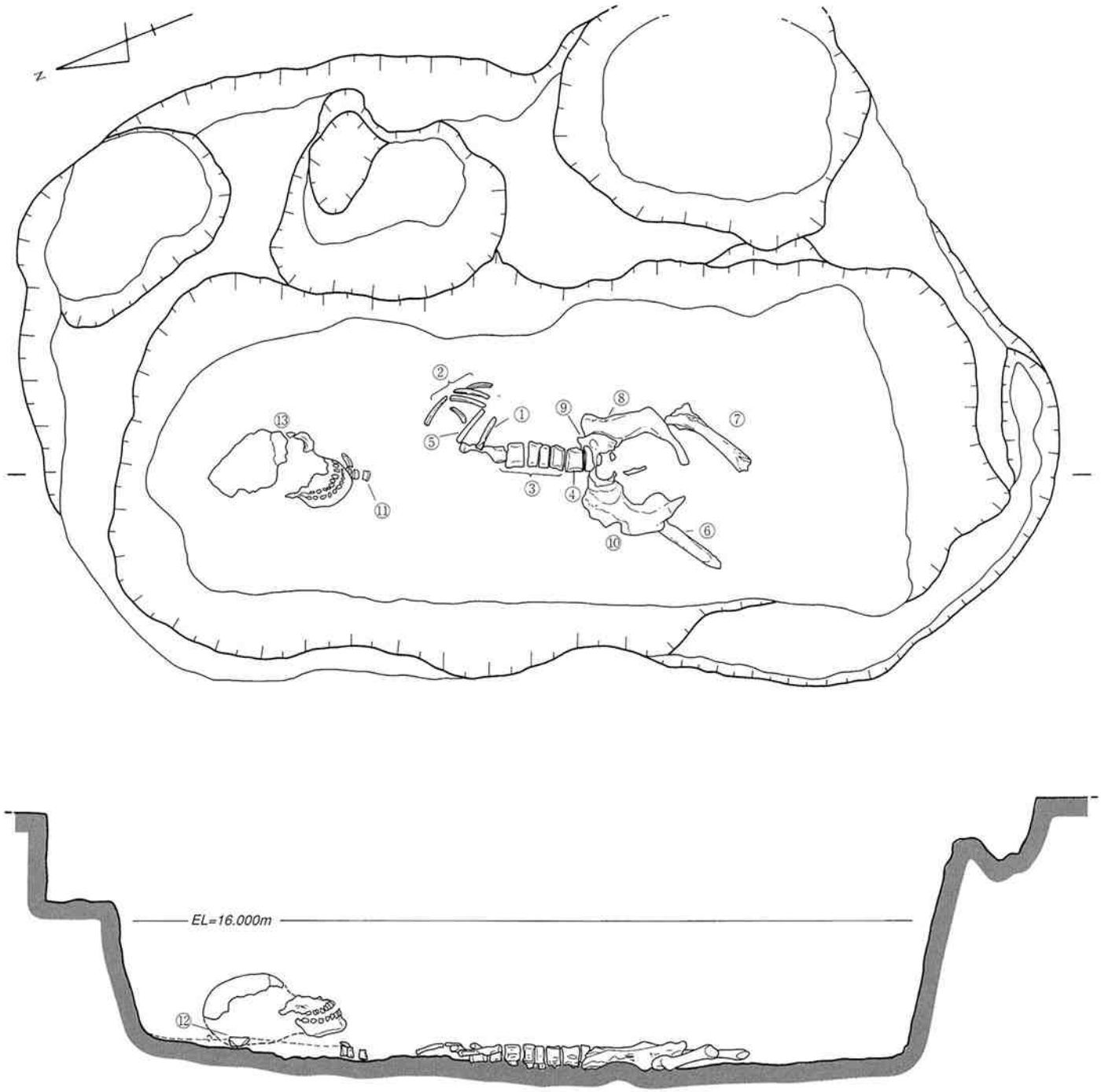
0　2m



第21図　掘立柱建物跡 プラン2（第9層）

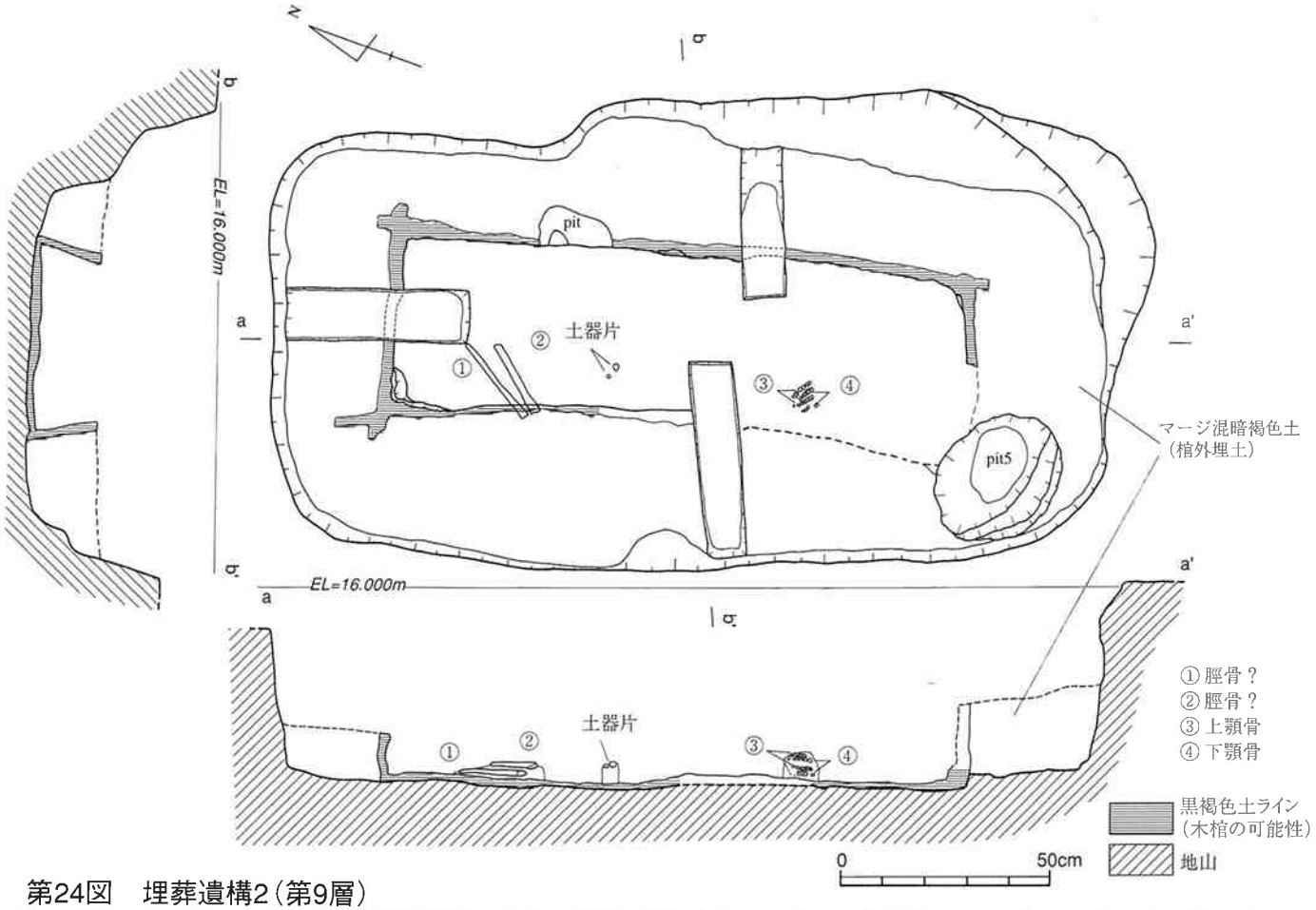


第22図　掘立柱建物跡 プラン3（第9層）

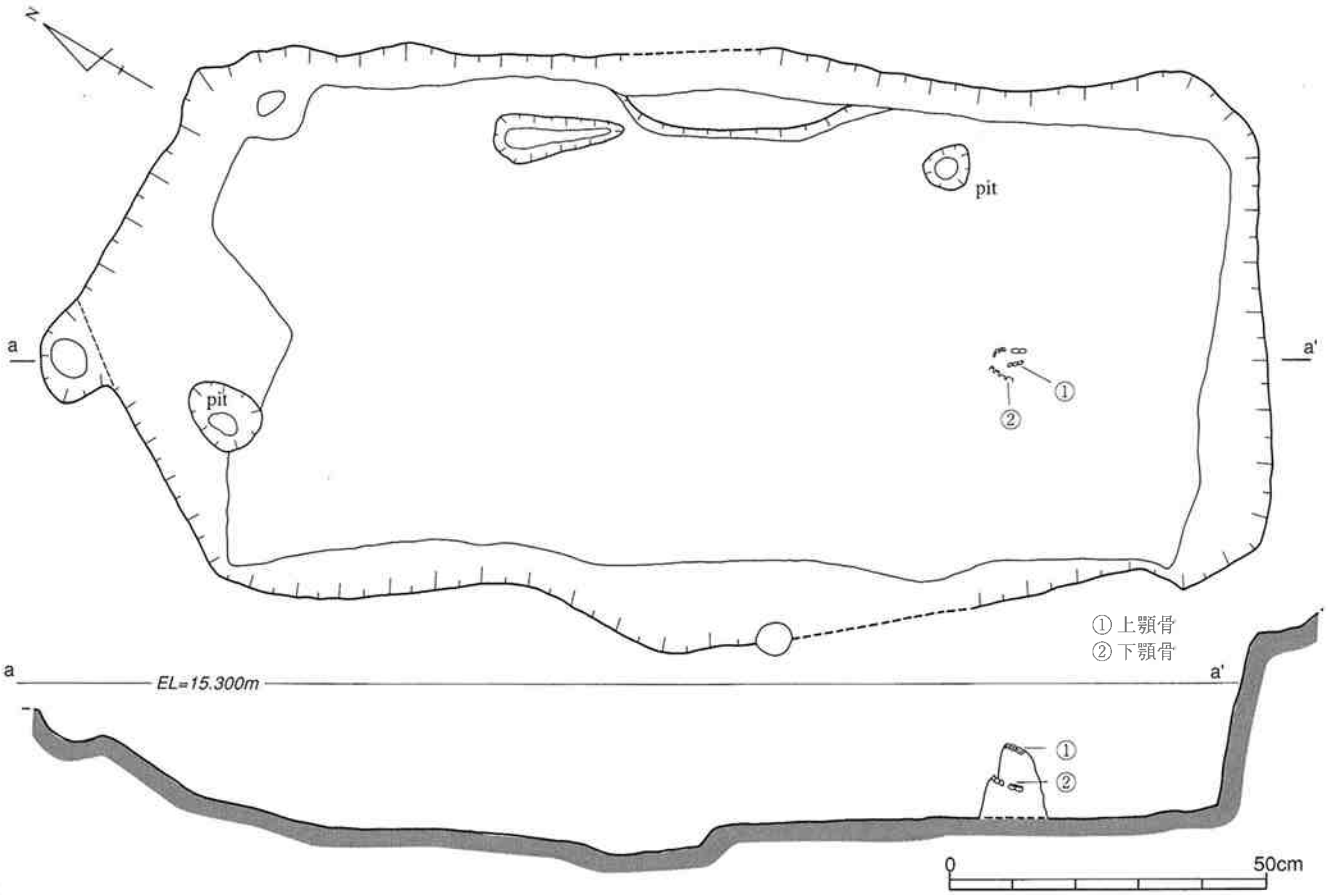


①左上腕骨
②肋骨
③胸椎
④腰椎
⑤橈骨
⑥右大腿骨近位部
⑦左大腿骨近位部
⑧左寛骨
⑨仙骨
⑩右寛骨
⑪頸椎
⑫左前頭部
⑬頭蓋骨

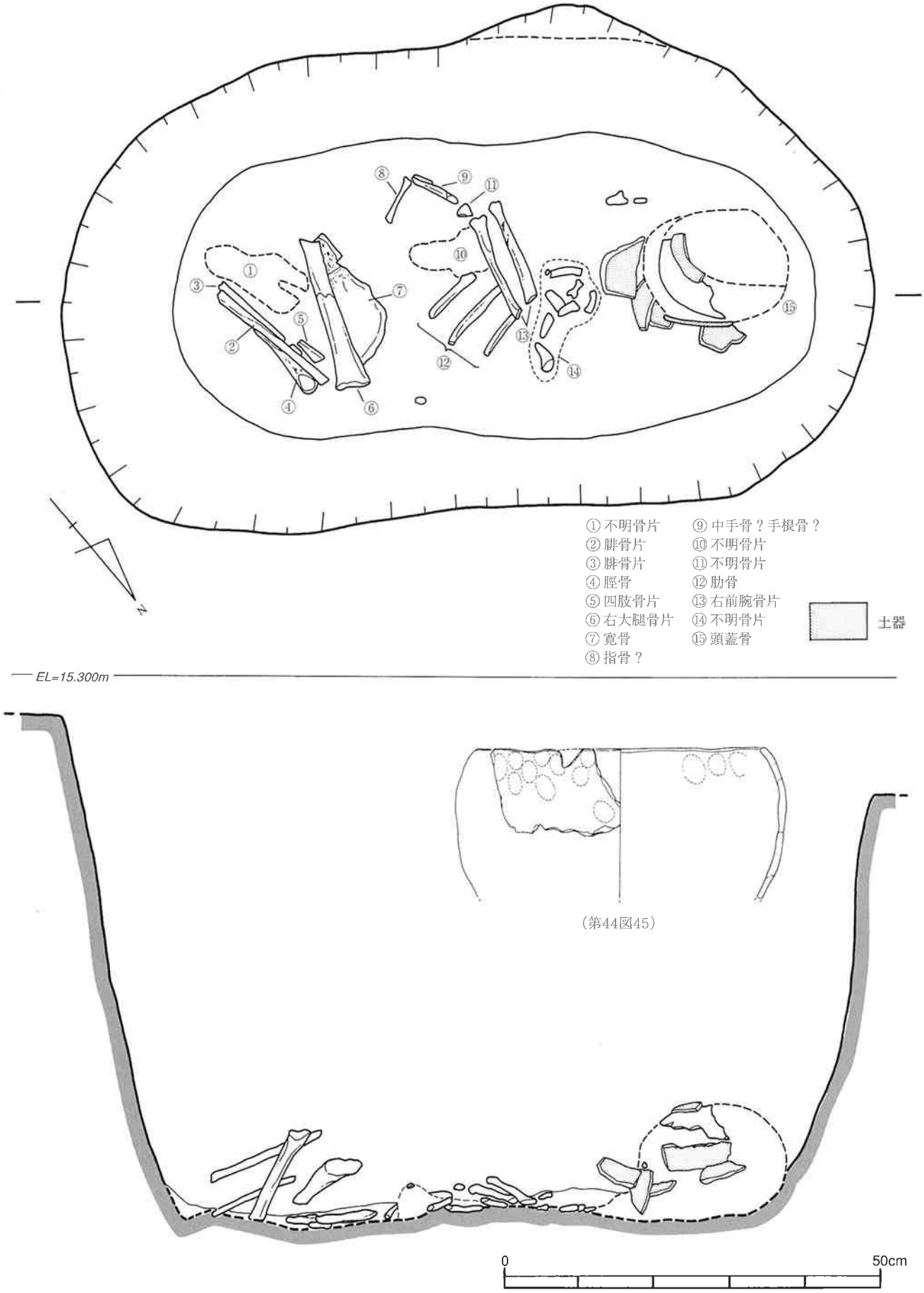
第23図　埋葬遺構1（第9層）



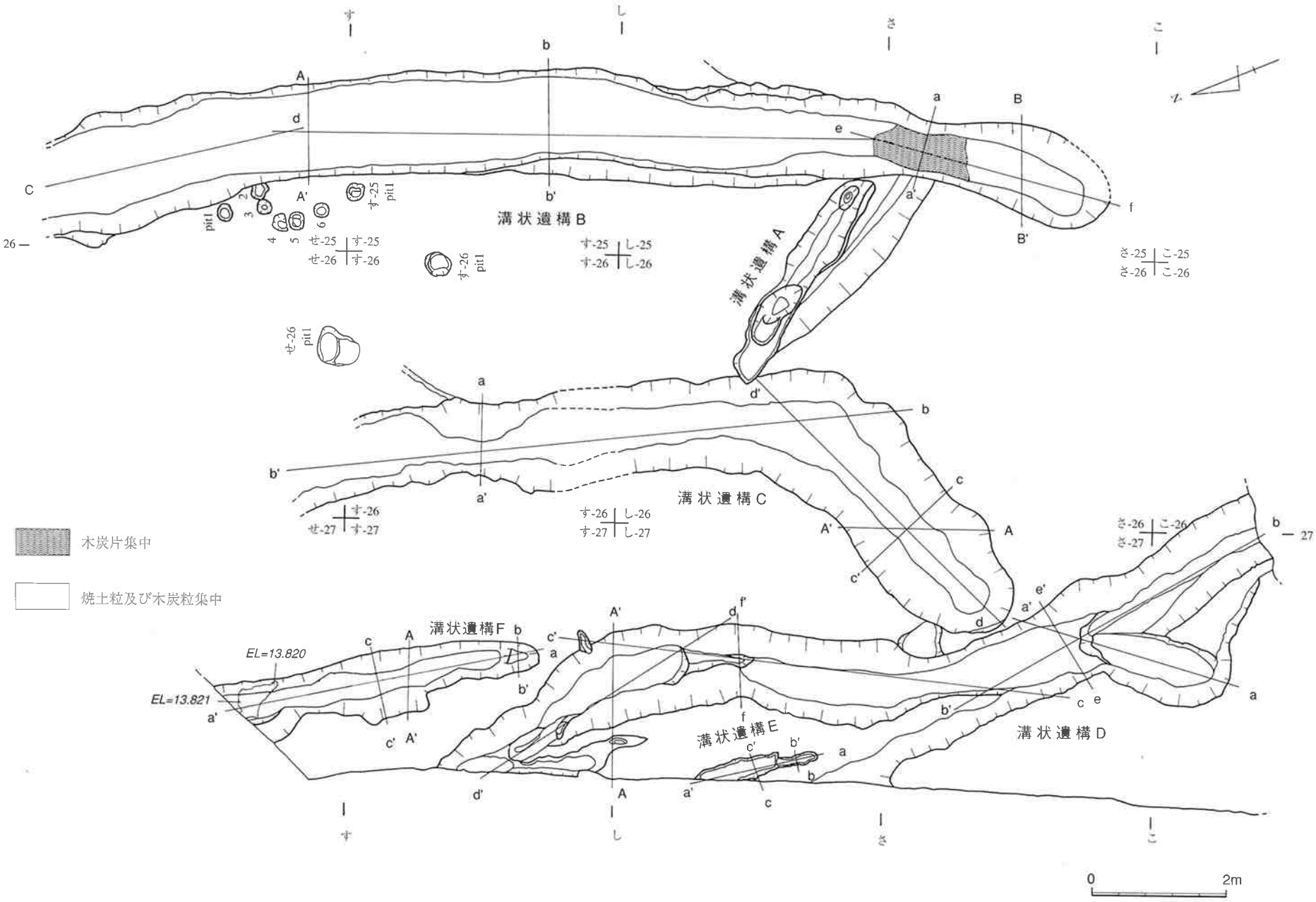
第24図　埋葬遺構2（第9層）



第25図　埋葬遺構3（第9層）

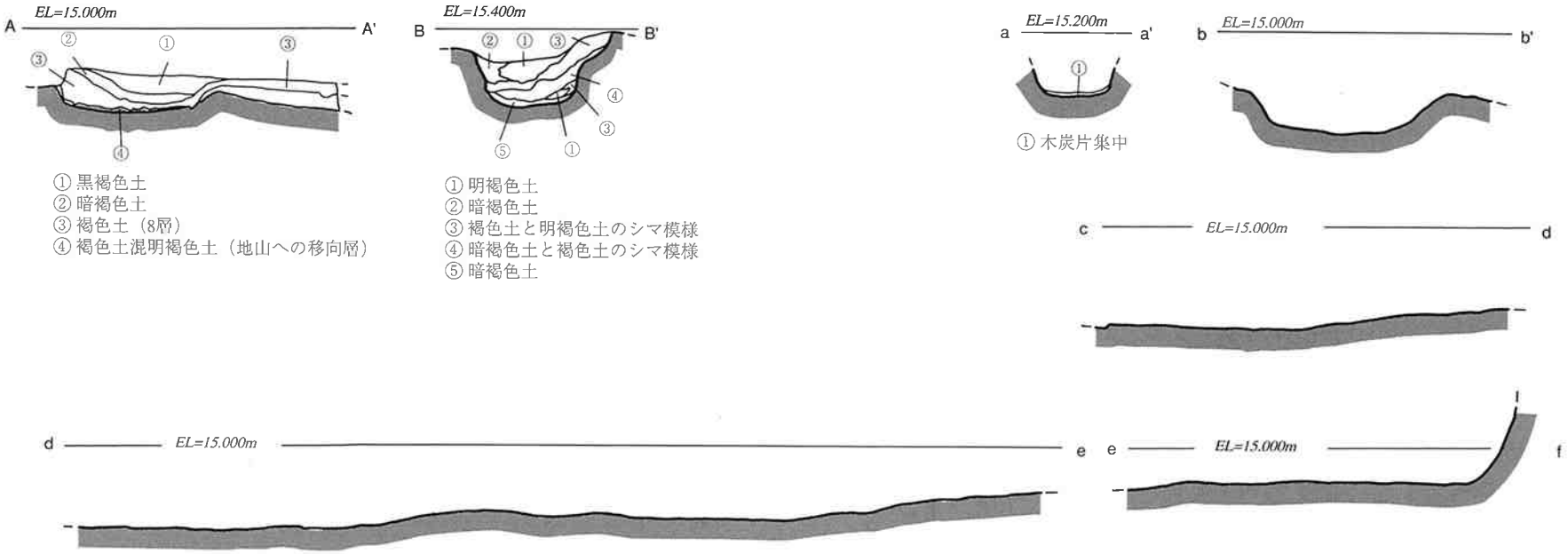


第26図　埋葬遺構4（第9層）



第27図　溝状遺構 平面図（第9層）

溝状遺構B（A—A', B—B', a—a', b—b', c—d—e—f ）

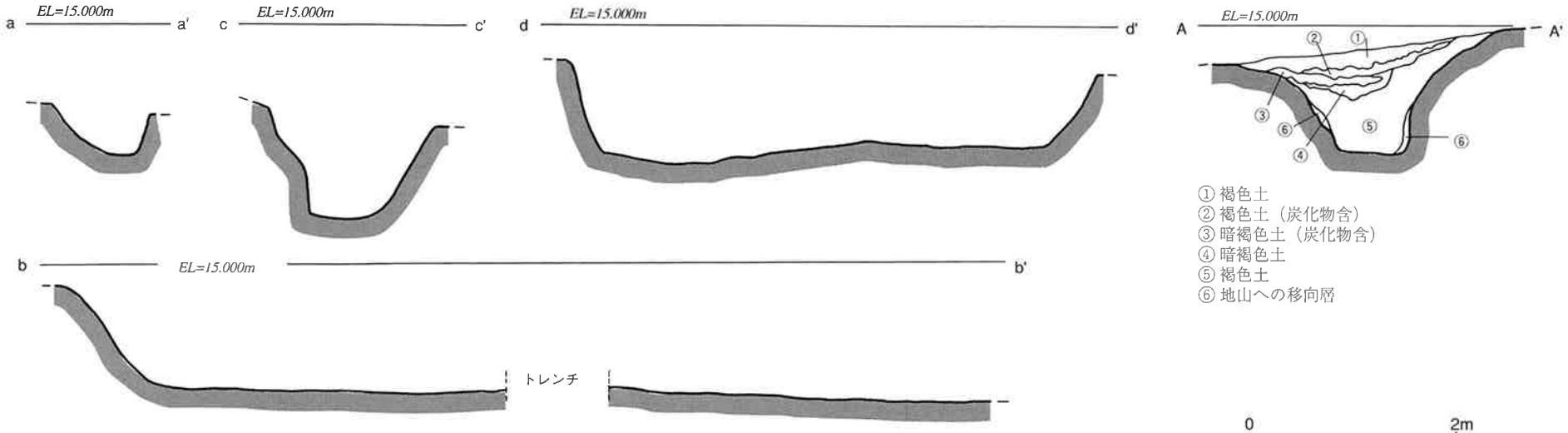


① 黒褐色土
② 暗褐色土
③ 褐色土（8層）
④ 褐色土混明褐色土（地山への移向層）

① 明褐色土
② 暗褐色土
③ 褐色土と明褐色土のシマ模様
④ 暗褐色土と褐色土のシマ模様
⑤ 暗褐色土

① 木炭片集中

溝状遺構 C（ A—A' a—a', b—b', c—c', d—d' ）

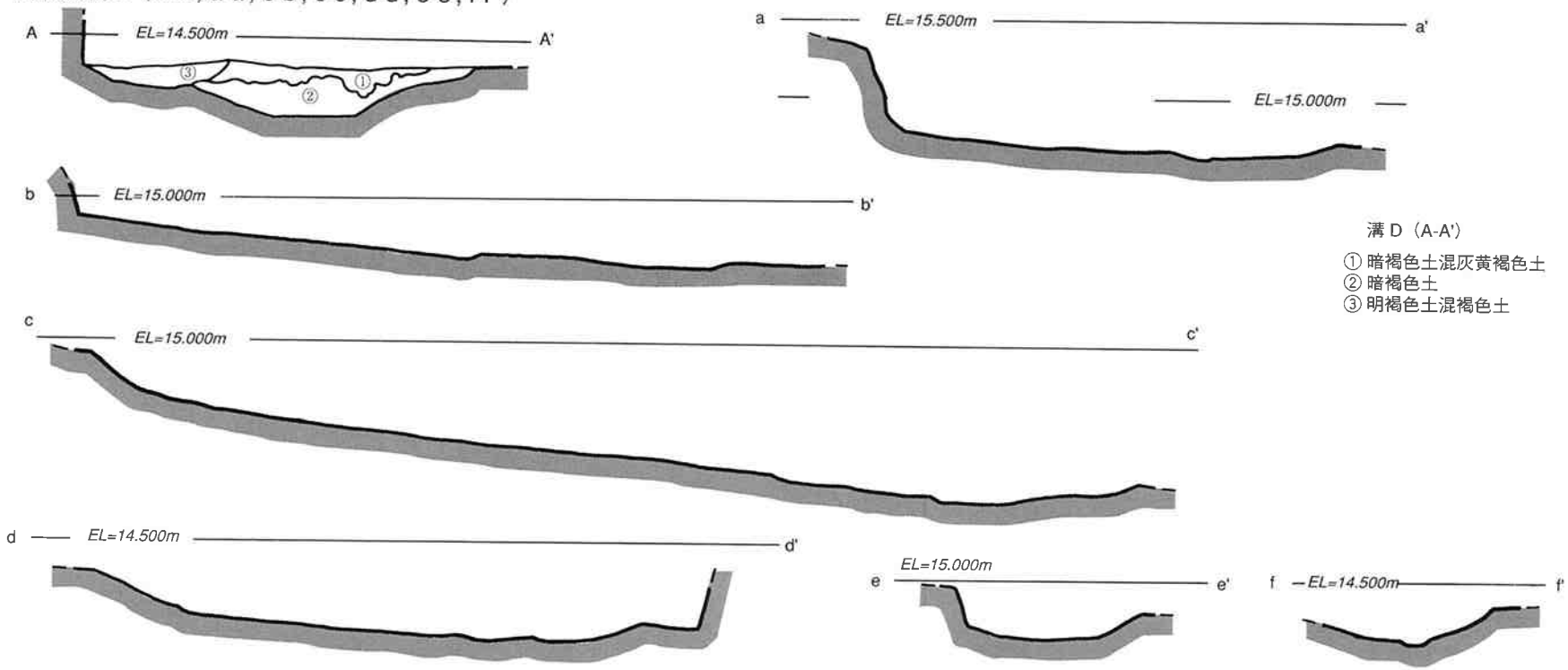


① 褐色土
② 褐色土（炭化物含）
③ 暗褐色土（炭化物含）
④ 暗褐色土
⑤ 褐色土
⑥ 地山への移向層

0 2m

第28図　溝状遺構B・C 断面図（第9層）

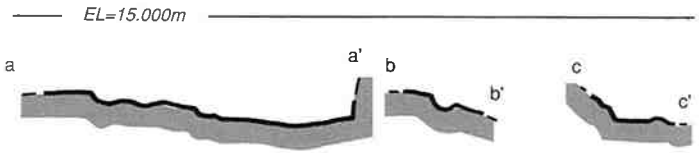
溝状遺構D（A-A', a-a', b-b', c-c', d-d', e-e', f-f'）



溝 D（A-A'）

① 暗褐色土混灰黄褐色土
② 暗褐色土
③ 明褐色土混褐色土

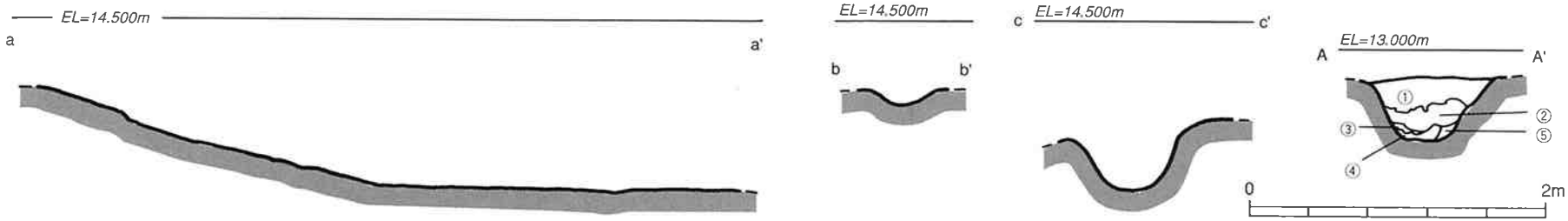
溝状遺構 E（a-a', b-b', c-c', A-A'）



溝 F（A-A'）

① 褐色土
② 炭混黄褐色土
③ ニービ
④ 炭・土器細破片混褐色土
⑤ 地山への移向層

溝状遺構 F（a-a', b-b', c-c'）



第29図　溝状遺構D・E・F断面図（第9層）

第４表　第9層ピット観察一覧（6）

グリッド	遺構番号	サブ番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	EL(m)	出土遺物	備考
ち－21	1		25.5	21	13.5	15.550		
	2		35	31	21	15.400	土器片	
	3		31	30	7.5	15.260		
ち－22	1		14	13	4	15.160	炭化物	
	2		13.5	10.5	27	14.750		
	4		9	9	10	15.140		
	6		16	13	12.5	15.190		
	7		15	15	10	15.210	炭化物	炭化物は中位以下より検出。
	8		12	11	41	14.880		
	9		43	31	10	－		
	10		44	29	14	－		
	11		42	30	8	－		
	12		12	11	15	－		
	13		13.5	13	7	－		
	14		121	25	22	15.160		後世の土地利用により、半裁された状態で検出。
ち－23	1		22	17	12.5	15.300		
	2		11.5	10.5	15	15.250		
	3		20	18	12.5	15.250		
	4		15	8	11	15.240		
	5		26	14	41	14.940		
	6		10	9	36.5	14.990		
	7		42	31	7	15.240		
	8		13	7.5	9.5	15.280		
	9		16	11	26	15.000		
	10		16	12	24	15.030		
	11		42	39	19	15.080		
	12		12	11	16	15.100		
	13		12	10	24	15.020		
	14		14	11	11	15.140		
	15		36	30	14	15.080	カムイヤキ(小壺)	
	17		23	19.5	16	16.140		
	18		18.5	14.5	10.5	－		
	19		11	7.5	19	－		
	20		22.5	20	23.5	16.030		柱痕幅10cm。
	21		15	9	9	－		
	22		34	27	31	15.940		
つ－20	1		16.5	12	11	15.700		
	2		8.5	8.5	14	15.630		
	3		24	19.5	30	15.520		
	4		17.5	14	24	15.910		
つ－21	1		21	15	4	－		
	2		19	14	9	－		
	3		15.5	14	5.5	－		
つ－22	1		15	15	33	14.740	土器片	遺構検出面下8cmで出土。
	2		16.5	10.5	35	17.720		
	3		10	9	4	15.200		
	4		16	8.5	2.5	15.250		
	5		16	13	20	14.820		
	6		11.5	8	12	14.730		
	7		34	30.5	40	14.340		
	8		13	10	29	14.520		
	9		22.5	17.5	14.5	14.880		
	10		18	15.5	2	15.240		

※①8・9層のピット及び、列状ピット観察一覧の表中で、長径・短径ともカッコ内は最大幅、深さはその最深部である。
②第8、12、16図で番号があり、表に記載されていないピットは消滅したものである。

第２節　Ⅱ期（近世以降）

近世から近・現代にかけての遺構が、調査区の北側と北西側で検出されている。溝状遺構とそれに伴う石積み遺構、そして現代のものと考えられる掘り込み遺構が確認できた。しかし、戦後行われた米軍による土地接収後の造成工事や、送油管の埋設等の破壊により遺構の保存状況はあまり良くない。以下、各遺構についての詳細を記す。

（１）溝状遺構（第30図）

全部で６基の溝状遺構が確認できた。各溝状遺構について概略を記す。

溝１は、そ－20～ち－23グリッドで検出。グスク時代の遺物包含層である第３・４層から地山面まで掘り込み、その底面は東から西へ向かって低くなる。溝幅約３ｍ、底面幅約20～70cm、深さは約40cm、確認できた全長は約15ｍ。第２層土が遺構内に堆積し、石列１－ａ・ｂを伴っている。

溝２は、ち・つ－24グリッドで検出。保存状況は悪く溝の底面に近い部分のみが残っていた。底面幅約30cm、確認できた全長は約７ｍ。石列２・３を伴っている。底面は、北から南へ向かって僅かに低くなっている（溝底面の南北端各々の高低差は約10cm）。溝内には第Ⅰ層土（客土）が堆積していた。

溝３は、つ－24グリッド地山面に検出された溝で、溝幅約90cm、底面幅約30cm、確認できた全長は約3.5ｍ。溝内には第Ⅲ層土が堆積し、東西方向へ延びる溝であるが、底面はほとんど傾斜しない。

溝４は、せ－26～た－25グリッド、た－25～つ－26グリッドにかけて、東側にカーブしながら南北方向に走る。検出した溝状遺構の中では保存状況が良く、溝内の覆土は砂質の白っぽい黄褐色土を基調に、概ね３枚の堆積層に分けられる。ち・つ－26グリッドでは、溝４の底面に沖縄産陶器や本土産現代磁器などの遺物が散在する様子や、小石が一面に堆積する状況が確認された（第32図）。

溝幅は約100cm、底面幅約40～70cm。検出全長は約17ｍ、深さは約100cm。溝底面は南から北へ下がっており、高低差は117cmである。

溝５は、た－25グリッドの地山面で検出した。溝幅約80cm、底面幅約30cm、確認できた全長は約２ｍ。遺構内には第Ⅲ層土が堆積、溝４と撹乱によって溝５の両端は切られている。

溝６は、地山面で検出され、せ－27グリッド～た－26グリッド、た－26グリッド～つ－27グリッドにかけて、溝４同様に東側にカーブしながら南北方向に延びている。覆土は第Ⅲ層土で、ち－26グリッドでは地山面直上に、大きさ10～20cm大の石灰岩礫が集中して検出され、沖縄産陶器が共伴出土している。溝幅約1.6～２ｍ、底面幅約100cm～150cm、確認された全長は約20ｍ。南から北へ向かって 低くなっており、溝底面の南北端の高低差は約24cm。せ・そ－26・27グリッドで底面が段をなしているが段差は低い。

（２）石積み遺構　（第31・32図）

すべて溝状遺構に伴って検出され、残存状況は前述したように良くない。溝の内側に面を持つ。石列に使用している石材は、琉球石灰岩が主である。以下、概略を記す。

石列１（第31図）は、溝１に伴う遺構で、石積みには小石と15㎝大の石灰岩礫を使用している。石列１ａは、長さ約３ｍ、幅約40㎝。た－21・ち－22グリッド検出。石列１ｂは長さ約70㎝、幅約40㎝。ち－22グリッド検出。

石列２（第31図）は、溝２に伴うように検出され、底面から２段の石積みが確認できた。積まれている礫は20～30㎝程度の大きさが主体だが、最大長60cm程の大きな石もはめ込まれている。石列２の南側底面には５㎝大の小礫の集中が検出されており、石列２と関連するものと推測される。石列２は、長さ約280㎝、幅約30～50㎝で、ち－24グリッド検出である。

石列３（第31図）は、石列２と同様に溝２に伴っている。根石から２段の石積みが確認できたが、石列２に比べ、積まれている礫の大きさが小さく、10～20㎝程度のものが主体である。確認できた石列の長さは約2.8ｍ、幅約20㎝。ち・つ－24グリッド検出である。

石列４（第32図）は、溝４の東側（ち・つ－25グリッド）に長さ約６ｍ、幅約30㎝で、検出された遺構である。ち－25グリッドでは、20㎝大の礫を２・３段積み上げているのが確認できる。つ－25グリッドでは、石列が崩れている部分があり、10㎝大の小さい礫が連なっている。

石列５（第32図）は、溝４の南側（そ－25グリッド）に位置する。送油管埋設によって撹乱を受けており、確認できた長さは約１ｍである。幅約20㎝。積まれている礫の大きさは約20～30㎝。石列周辺には10～20㎝の礫が散在しており、石列が崩れたものと見られる。

石列６（第30図）は、溝４で検出（す－27・せ・そ－26グリッド）。石列６ａ・ｂは、積み石に加工を施すものが多く、面を有するものがある（図版５－５）。積み石の大きさは、約20～40㎝大を測る。石列６ａの長さ約7.5ｍ、幅約20㎝。石列６ｂは、長さ約5.5ｍ、幅約20㎝である。

（３）掘り込み遺構（第30図）

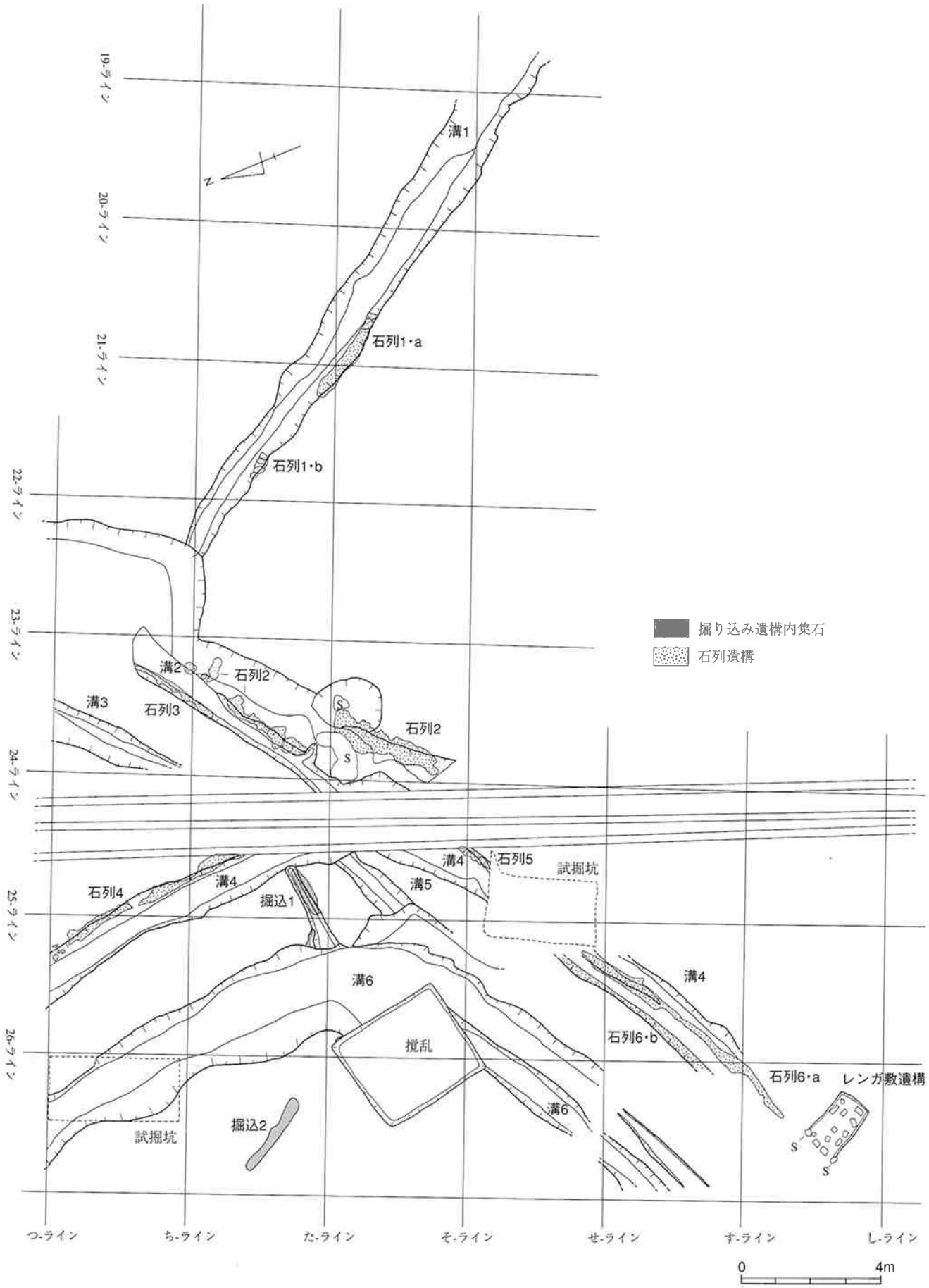
掘り込み遺構はすべて地山面からの検出で、遺構の性格は明確ではない。ち－25グリッドで検出された掘込１は、長さ約2.7ｍ、幅約30㎝、深さ約20㎝で、拳大の石灰岩礫が集中していた。僅かに、沖縄産施釉陶器や青磁などの遺物が検出されている。

ち－27グリッドの掘込２には、錆びた缶詰と英語で書かれた聖書と思われる印刷物の破片、同じく英語がプリントされているアルミホイル製の薬紙のようなものが礫と共に確認された。長さ約2.5ｍ、幅約30㎝、深さ約10㎝である（図版５－８）。

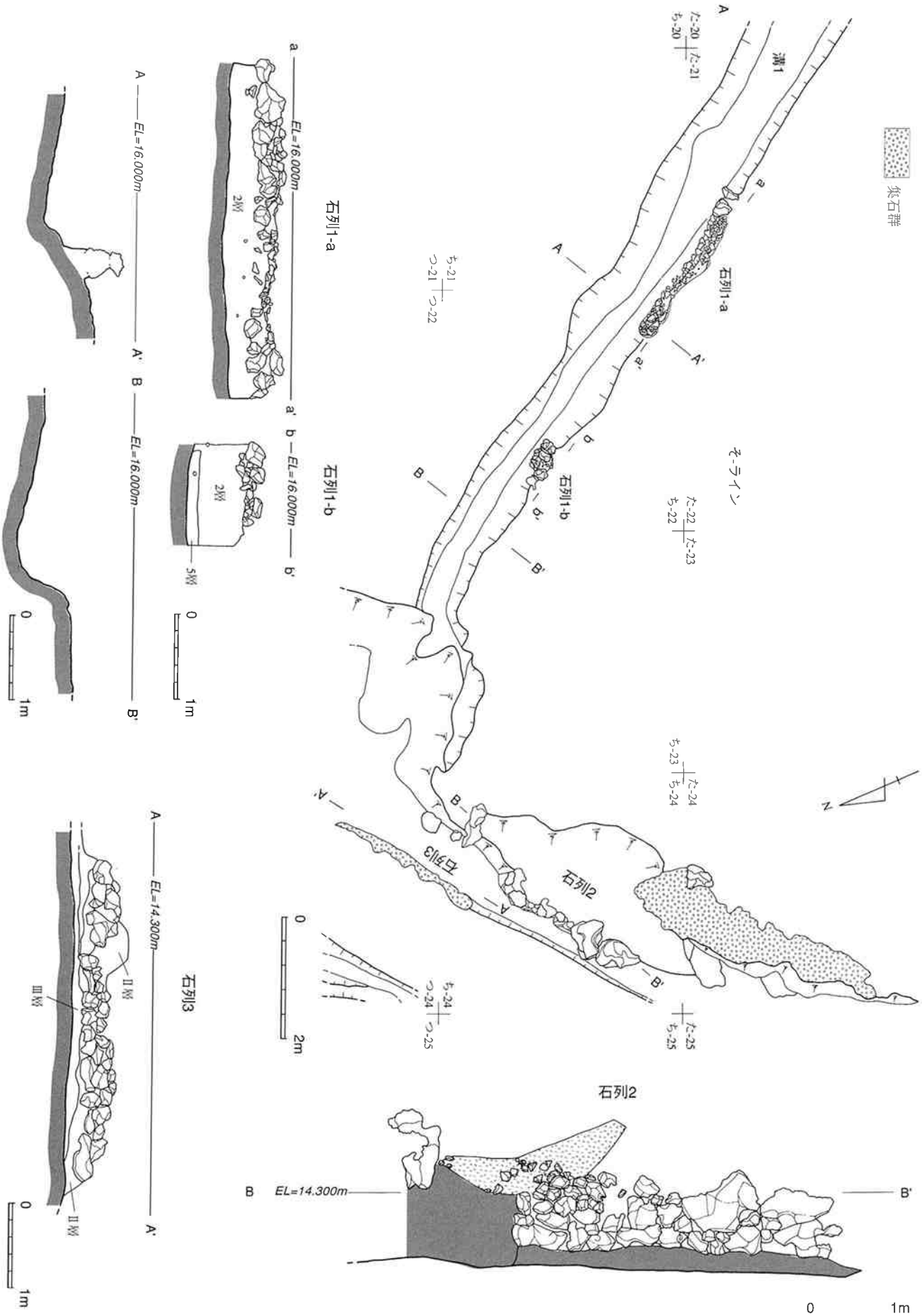
また、掘込３がそ－27グリッドで、掘込１と同じ方向を長軸として検出されている。石灰岩礫を主体に沖縄産陶器やシャコガイの破片等が出土していた。

（４）レンガ敷遺構（図版５－７）

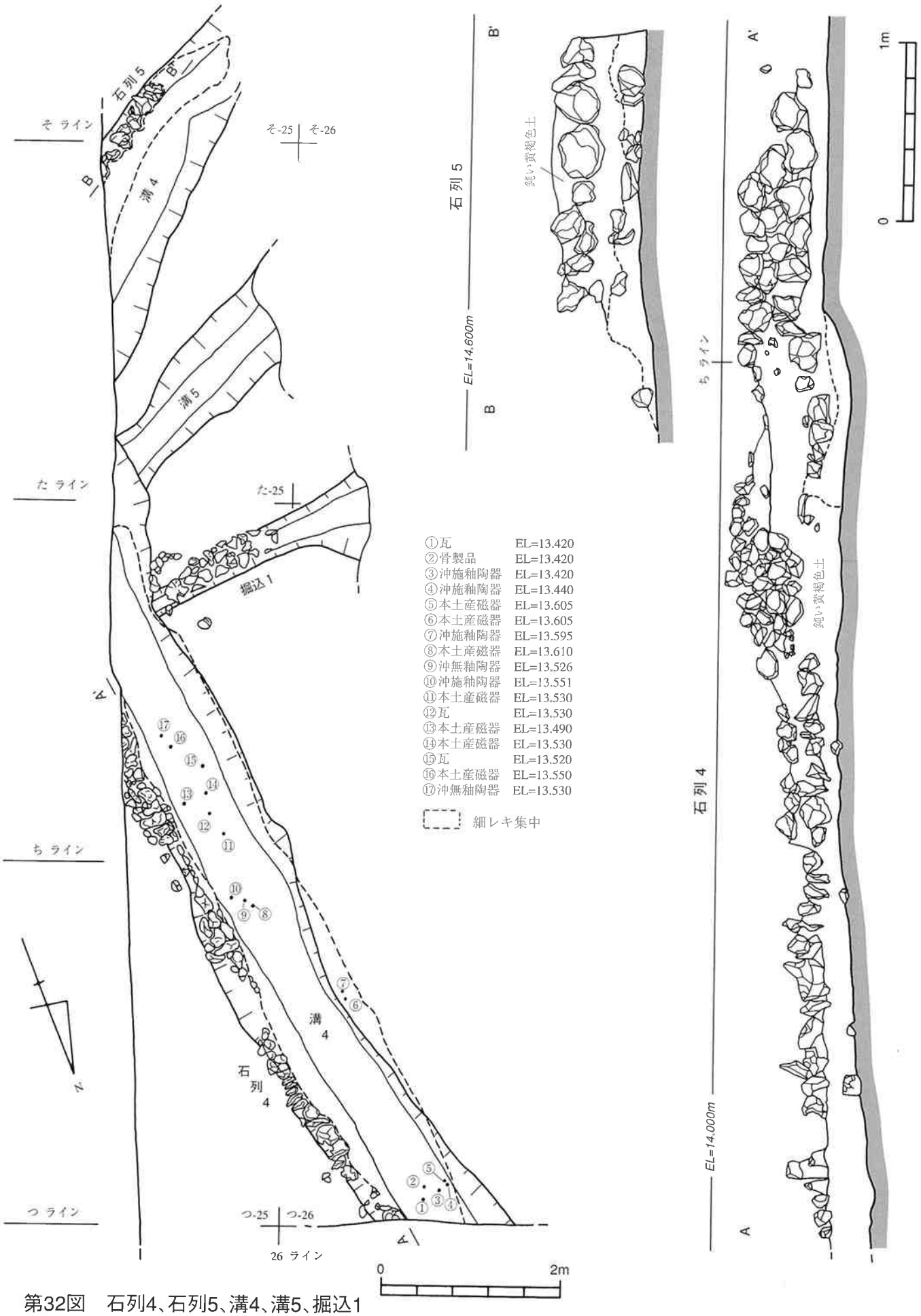
し－27グリッドで約２×１ｍの長方形に掘り込んだ遺構が検出された。遺構内底面から、計12点の明茶褐色のレンガを各々間隔をあけて配置した状況で検出されている。配置されたレンガには、完形品の他、破損品もあった。完形品は直方体で、大きさは縦23.7×横11.5×高さ6.2㎝である。遺構としての性格は不明である。レンガ敷遺構が埋没した後に溝４が形成されている。



第30図　近世～現代遺構分布図



第31図　石列1(a･b)、石列2、石列3、溝1



第32図　石列4、石列5、溝4、溝5、掘込1

第５表　出土遺物一覧

種類＼出土地	1層	2層	2層 上	2層 中	2層 下	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	溝A	溝B	溝C	溝D	溝E	溝F	I層	II層	III層	IV層	溝1	溝2	溝3	溝4	溝6	掘込1	掘込3	石列1・b	石列2	石列4	石列5	試掘No.3	客土	覆土	盛土	撹乱	不明	合計
白磁	13	6	29	3		19	20	31	11	10	3	1		4	3	4			4	4	9		1	3	3	3	1				1				5	2	12	4	7	216
青磁	24	9	24	3	1	34	53	69	14	18	11	4	2	8	2	7			2	8	6					2	3	1			2				3		13	4	7	334
青白磁			2			1	1	3																																7
類須恵器	13	9	25	3	1	22	41	94	18	30	27	18	4	19	10	1		1	2	7	5		8			4									3		8	2	12	387
土師								1			1	3		1																										6
前期土器	1											1																												2
後期土器	1	4				7	5	27	3	13	9	10		12	3	2				3	1														1		2		1	104
不詳土器											3			1	1																									5
滑石混入土器	1							4	1	4	1			5	1	1	1				1															1	1			22
グスク(系)土器	19	7	12	5	3	37	34	201	60	130	111	70	7	151	51	16	8		9	7	2		2	1		4				1					4		25	8	18	1003
石器											1			2		1										1														5
滑石製品		1					1	2	1		2			2						1																				10
石材	2						1	5	3		6	6		13	1	2				1	1					1		1			1	1		1	1			1		48
軽石														2																										2
滓類							3	2		3	1	3		2	2											1														17
鉄石	1							2	1											1	1														1					7
鉄製品									1	1		1																												3
中国染付	11	3	20	4	2														6	3	9	1	2	2		7	3					1	1	1	6	1	3	4	2	92
青磁染付			2																		1																			3
緑釉磁器		1	1																																			1		3
褐釉磁器			1	1																1																				3
中国系陶器			2																																	1				3
褐釉陶器	1		5	1		1	1	2	1	1									2	1	3													1	1		1	1	1	24
本土産陶器	5		5					2											2	1				1		2						3						2		23
産地不明須恵器								2		2	2			1	1					1																	1			10
産地不明陶器															1																									1
中国産磁器(黄釉)				1																															1					2
本土産磁器	17		8	2															13	9	3		1			20	1					1			28		12	7	17	139
産地不明陶磁器	2		3																2		1														1					9
沖縄産施釉陶器	81	36	271	50	21														98	51	54	7	18	1	3	45	37	4	1		1	4	1	2	68	6	26	30	66	982
沖縄産無釉陶器	12	11	50	5	4														25	12	9	2	5	1		9	12		1		4	7		1	23	1	5	6	14	219
陶質土器	22	10	74	12	1														16	7	9	3	2			5	4				1				11		17	8	15	217
煙管	4		8	1															2																1				2	18
円盤状製品	1		2	1															1		2			1		3	4								2			1	3	21
簪(ジーファー)	1	3	4	3															3		1					1									1					17
青銅製品			1																																1					2
銭貨		7		1																																		1	2	11
貝製品																			1																					1
ガラス製品	8																		7	1	5	1				3	1								5		1	9	2	43
巻貝(個体数)	116	8	127	12	1	4	4	7	6	—	3		—		2				107	149	60	4	8	3	2	182	17	1			—	7	—		47	1	47	40	57	1022
二枚貝(個体数)	17	5	44	10	—	2		3	1	—	—	1		—	—				26	29	13	1	—	5	2	41	7	1	—		2	3	—		67	3	13	14	11	321
脊椎動物遺存体	12	2	21	6	3	1	1	9		6	7	3	1	30	9				5	14						6								1	3		1	5	9	155
合計	385	122	741	124	37	128	165	466	121	218	188	121	14	253	87	34	9	1	333	311	196	19	47	18	10	340	90	8	2	1	12	27	2	7	284	16	188	148	246	5519

※ 溝:溝状遺構、巻貝・二枚貝の一は破片の出土である。

第Ⅵ章　出土遺物

今回の発掘調査では、一般に「グスク時代」と汎称される時期および近世～近・現代の遺物が得られており、前者のグスク時代相当遺物群とあわせて沖縄新石器時代に属すると思われる土器も一定量得られている。確認された遺物群は、第Ⅳ章で既述した堆積土層の様相を反映するように冒頭の２時期に大別される。グスク時代相当とみられる遺物群では、中国産陶磁器(白磁・青白磁・青磁)や類須恵器、九州産滑石製鍋の舶載容器類、グスク土器と呼ばれる在地土器および錐状土製品、石器・石材、玉製品等が検出されている。

以下、本章では出土遺物の主勢を占めるグスク時代相当遺物について(土器についてはグスク土器範疇以外の資料もあわせて)種類別にその概要を記す。なお、近世以降とみられる遺物群については、諸般の事情により今回は本章第13節にまとめ、各種類とも観察表の記述に留めることを予め了されたい。

第１節　白磁

中国産とみられる白磁は216点検出された。該資料を器種別にみると、碗・皿・合子・蓋・袋物の５種が認められる。これまで知られている他の当該期遺跡と同様、碗と皿が量的に主勢を占めており、前者が132点、後者は48点出土している（第６表参照)。白磁碗については、金武正紀氏分類(註１)の玉縁口縁碗や端反碗・口折碗、ビロースクタイプ碗など、概ね12世紀～14世紀に編年的に位置づけられるグループにおさまる。以下、器種別に分類概要を述べる。本報告では、口縁部形態を主に分類を行い、特に主勢となる碗・皿の２器種については横田賢次郎・森田勉両氏の分類案(いわゆる「大宰府分類」、註２)との相関も付した。なお、個々の残存状態や釉調・成形技法等の特徴は第７表の観察表中に記載している。

１．碗（第33図１～第34図29)

Ⅰ類 玉縁口縁碗（第33図１～９）

口縁端側部を玉縁状に肥厚させるタイプで、一般に玉縁口縁碗と呼ばれるグループである。大宰府分類のⅣ類に相当。口縁部の肥厚形態(玉縁部分)および器体の膨らみ具合などから、下記のａ～ｄ類に細分類を行った。

ａ　器体は直線的で逆「ハ」字状に開き、器肉は薄手。玉縁も厚さ６～７㎜程度の小さな造り。(1、2)

ｂ　全体の器形はａ類に近似するが、玉縁肥厚部は９㎜とａ類に比べ大きい。玉縁部形状の断面観からｉ～iiiに細分類を試みた。

ｉ．玉縁の形状が丸みを持つもの。(3)

ii．玉縁の形状が略三角形を呈するもの。(4)

iii．玉縁形状は丸みを帯びるが外面に稜線を強調するもの。(5)

ｃ　器壁厚および口縁部玉縁の形状はａ・ｂとほぼ同様だが、器体が若干膨らみ口縁部が立ち上がり気味になるもの。(6、7)

ｄ　器壁は概ね厚手で、口縁部の玉縁状肥厚も大きいもの。(8、9)

なお、ａ～ｃが金武氏分類の白磁玉縁碗Ⅰ、ｄ類が同じく玉縁碗Ⅱに相当するものと思われる。

Ⅱ類　外反口縁タイプ（第33図10～第34図21)

口折碗・端反碗・口禿碗など口縁部形態上、外反させるものを外反口縁タイプにまとめた。口縁部成形および施釉状況から、下記のＡ～Ｄグループに群別した。

Ａ　口唇部に丸みを持たせて僅かに端部を外反させる、一般に端反碗と呼称されるグループ。大宰府分類のⅤ類相当。口縁部形態からａ・ｂ種に細分類した。

ａ　口唇端を舌状に尖らせるもの。(10)

ｂ　胴部からの器厚を口縁端までそのまま持続させるもの。(11)

Ｂ　口唇部の釉薬を掻き取って露胎させる、いわゆる口禿碗の範疇に属するもの。大宰府分類Ⅸ類に相当。器体の傾き度合で下記のａ～ｃに細分類を試みた。

ａ　腰部から丸味を帯び、膨らむ器体を持つもの。(12～14)

ｂ　器体はａ種とほぼ同様だが、口縁部下位で開くもの。(15)

ｃ　腰部から口縁端部までスムーズかつ大きく開くもの。(16)

Ｃ　口縁部が外へ短く折れ、口唇上面の平坦面整形や屈曲部の明瞭な稜形成がみられる、一般に口折碗と呼称されるグループ（17～20)。器体は逆「ハ」字状に開き、概ね器壁厚は薄手となる。大宰府分類のⅤ類およびⅧ-1類に相当。

Ｄ　一般に櫛描文碗(金武氏分類でいう櫛目文碗)と呼ばれるもので、器面内外に櫛描き・篦描きなどによる

描画文様を持つ(21、22)。基本的には外反口縁タイプで、口縁部形態は概ねAグループ即ち端反碗に近似するが、Dグループ(櫛描文グループ)とし区別した。大宰府分類Ⅶ類に相当。

Ⅲ類　直口口縁タイプ（第34図24～27）

薄手の直口口縁碗で逆「ハ」字状に開く器形。口縁端部を舌状成形するものや、逆に外側に肥大させるものがある。器面には明瞭な轆轤成形痕が認められる。

Ⅳ類　内彎口縁タイプ（第34図28、29）

一般にビロースクタイプの呼称で知られる、器肉厚手の内彎口縁碗である。本遺跡出土の該資料は口唇部内端がやや内向し比較的明瞭な稜を伴う特徴から、金武氏分類のビロースクタイプ碗Ⅱの範疇に含められる。

2．皿（第34図30～40）

皿も前述の碗と同様に口縁部形態や器形･施釉の特徴等から外反口縁皿・直口口縁皿・口禿皿および底部資料に類別し、各々Ⅰ～Ⅳ類とした。

Ⅰ類　外反口縁皿（30、31）

全体に器肉薄手な外反口縁タイプの皿で、口唇端まで施釉される。端部を舌状に尖らせるもの(30)や逆に微弱な肥大がみられるもの(31)があり、口縁部成形からさらに細分し得る。

Ⅱ類　直口口縁皿（32、33）

薄手直口皿で、胴部器厚を口縁端までそのまま保持するもの、口縁端に向かって次第に薄くする舌状成形がみられるものがある。

Ⅲ類　口禿皿（34、35）

薄手成形のいわゆる口禿皿である。外反口縁タイプ(Ⅲ-a類)と直口口縁タイプ(Ⅲ-b類)の両者が認められるが、口縁部の露胎を共通する点より本報告ではⅢ類(口禿皿)と扱った。大宰府分類の皿Ⅸ類に相当。

Ⅳ類　皿底部（36～40）

底部形態や高台の有無などから、下記のA～Cグループに類別を行った。

A　いわゆるベタ底状を呈するグループ(36、37)。施釉状況から外底面を露胎させるタイプ(a)と全面施釉タイプ(b)に細分類が可能である。

B　碁笥底状を呈するグループ（38）。

C　高台を持つグループ（39、40）。高台の形態的特徴から細分も可能かと思われる。

3．合子（第34図41）　合子の身が1点出土している。クニンドー遺跡出土の類例資料(註3)と比較すると、口径･底径値など推算法量は若干大きくなるように思われる。

4．蓋（第34図42）　蓋の庇部破片が1点検出されている。推算されるサイズから小口径器種(瓶か)と類推される。

5．袋物（第34図43）　袋物とみられる破片資料が数点得られているが、器種同定および残存部位の図上復元ができたのは、43に示す小型の長頸瓶と目される口縁部片のみである。

〈註〉

註1．金武正紀「沖縄における12・13世紀の中国陶磁器」『沖縄県立博物館紀要』第15号 沖縄県立博物館 1989年

註2．横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『研究紀要』第4号 九州歴史資料館 1978年

註3．金城亀信・島袋洋 他『クニンドー遺跡』南風原町文化財調査報告書第2集 南風原町教育委員会 1996年

第6表　白磁出土状況

器種	部位	分類	細分	1層	2層	2層・上	2層・中	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層す-20 Pit8	溝B	溝C	溝D	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	溝1	溝2	溝3	溝4	溝6	石列2	客土	覆土	盛土	撹乱	不明	合計
碗	口縁部	Ⅰ	a	1		2		2	4	3		1			1				1	1						1			2		1	20
碗	口縁部	Ⅰ	b i		1	2			2	1	1	1	1			1	2		1	1				1					2			17
碗	口縁部	Ⅰ	b ii	1					2	2				1					1													7
碗	口縁部	Ⅰ	b iii							2																						2
碗	口縁部	Ⅰ	c i	1				2							1																	4
碗	口縁部	Ⅰ	c ii								1									1												2
碗	口縁部	Ⅰ	d					1																					1		1	3
碗	口縁部	Ⅱ A	a					1		1																						2
碗	口縁部	Ⅱ A	b			1			1									1														3
碗	口縁部	Ⅱ B	a			2	1	4	2	5	1				1		1	1									1					19
碗	口縁部	Ⅱ B	b									1																	1			2
碗	口縁部	Ⅱ B	c					1																								1
碗	口縁部	Ⅱ	C	1	1				1	4	2	4	1				1			2								1			1	19
碗	口縁部	Ⅱ	D							1																						1
碗	口縁部	Ⅲ			1	5		1				1																				8
碗	口縁部	Ⅳ							2																							2
碗	口～胴	Ⅱ B	a													2																2
碗	口～底	Ⅰ	d					1	1	1																						3
碗	口～底	Ⅱ	C							1		1	1		1																	4
碗	底部	Ⅰ		1			1	2		3								1	1						1							10
碗	底部	Ⅱ	D								1																					1
皿	口縁部	Ⅰ		1	1	1			1		1	1								1			2							1		10
皿	口縁部	Ⅱ				3		1	1																		1		1			7
皿	口縁部	Ⅲ	a																									1	1			2
皿	口縁部	Ⅲ	b	1						1	1																		1			4
皿	底部	Ⅳ	A	3	1	3		1	3	2	1										1		1						2		1	19
皿	底部	Ⅳ	B			1														1												2
皿	底部	Ⅳ	C	1				2																						1		4
杯	口縁部				1	3				1										2		2		1			1		1		3	15
杯	口～底					1				1	2																					4
杯	底部			2		4	1											1				1					2					11
合子																								1								1
蓋						1				1																						2
瓶・袋物	口縁部									1																				2		3
合計				13	6	29	3	19	20	31	11	10	3	1	4	3	4	4	4	9	1	3	3	3	1	1	5	2	12	4	7	216

※ 溝:溝状遺構。

第７表　白磁観察一覧（1）

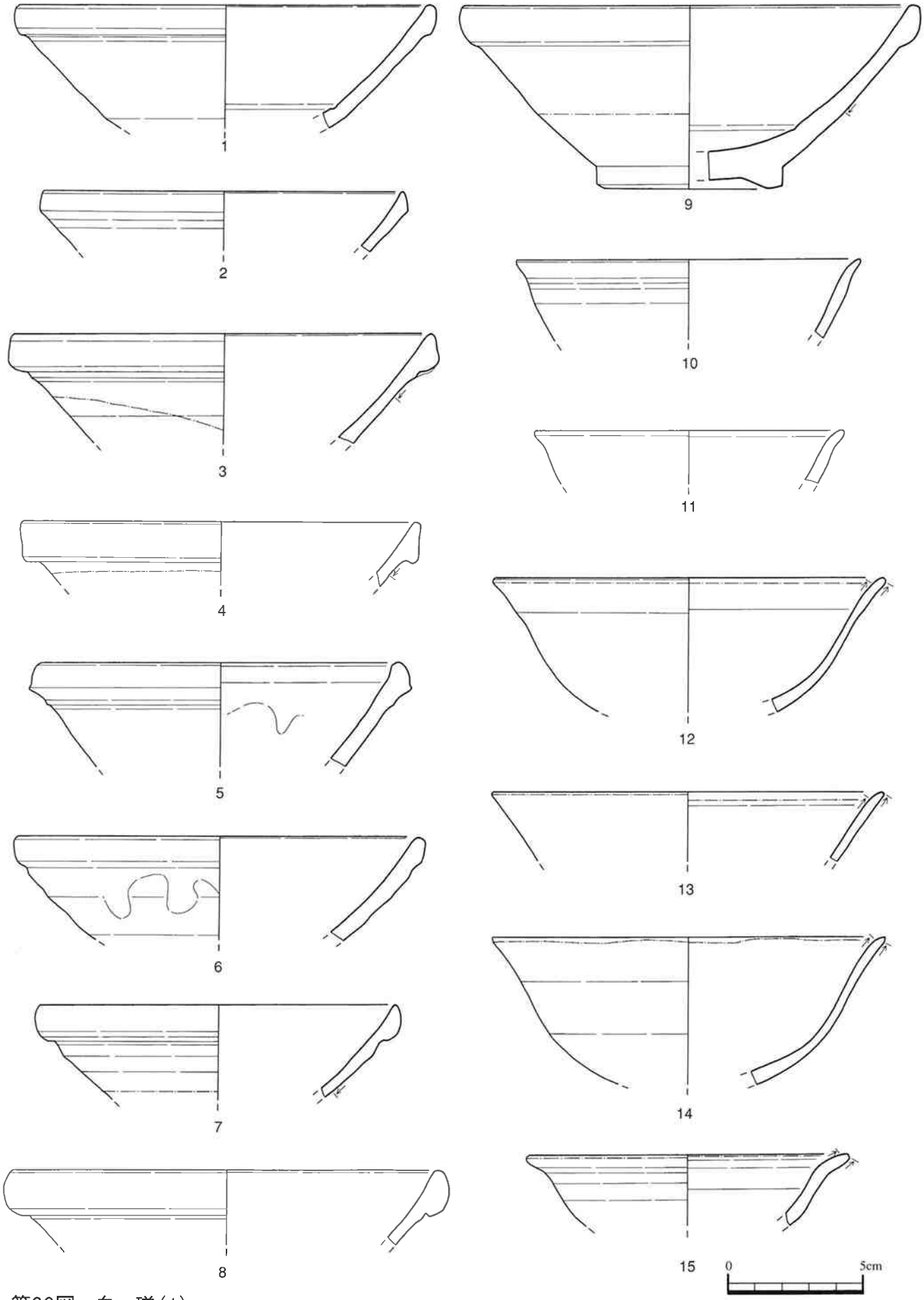
単位：cm

挿図番号 図版番号	器種／分類 種類名称	残存 部位	口径 器高 高台径	器形・成形技法・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地区・ 出土層／遺構
第33図１ 図版６	碗／Ⅰ－a 玉縁口縁碗	口縁	13.3 — —	逆「ハ」字状に開く器形。玉縁下部を篦状工具で抉り、稜を成す。見込部に深い圏線を巡らす。	淡灰白色の細粒子で、やや緻密（僅かに気泡痕）。黒色鉱物粒を僅量含む。	灰白色釉を内外面に施釉。玉縁下部の篦成形部分や内面圏線に釉だまり。	せ-25　４層
第33図２ 図版６	碗／Ⅰ－a 玉縁口縁碗	口縁	13.6 — —	全体的に器肉薄手。玉縁状肥厚部はかなり小さく、中央部に鈍い稜線。玉縁下に篦削り痕みられる。	灰白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒もごく少量含有。	灰白色釉を内外面施釉。	ち-24 溝状集石 ２号遺構
第33図３ 図版６	碗／Ⅰ－b－i 玉縁口縁碗	口縁	15.2 — —	やや下膨れ気味の玉縁肥厚部。器外面口縁下を回転篦削りで成形し、明瞭な段を形成。	淡灰白色の微粒子で、黒色鉱物粒を僅量含有。気泡痕も若干みられる。	灰白色釉を内外面施釉（外面は器体中位まで露胎）。玉縁部分に釉垂れ。	す-26　９層 溝状遺構Ｃ 盛土中
第33図４ 図版６	碗／Ⅰ－b－ii 玉縁口縁碗	口縁	14.7 — —	玉縁形状は口唇端部へやや間延びしつつ、内端はやや鋭角気味。内外面に轆轤痕（回転篦削りか）。	淡灰白色の微粒子。微細な黒色鉱物粒を僅量含み、気泡痕も認められる。	灰白色釉を内外面施釉（器外面は口縁下まで、その下位は露胎）。一部に釉垂れ。	す-25 ５層上部
第33図５ 図版６	碗／Ⅰ－b－iii 玉縁口縁碗	口縁	13.3 — —	玉縁中央に明瞭な稜線。玉縁下部には、回転篦削りによる微弱な稜。断面観察では玉縁成形痕も確認。	灰白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒を比較的多く含有。	灰白色釉を内外面施釉。口縁部内面に釉垂れ。外面及び内面上端に粗い貫入。	し-25　５層
第33図６ 図版６	碗／Ⅰ－c－i 玉縁口縁碗	口縁	15.1 — —	腰部から口唇端へ緩やかな膨らみをもつ。器外面は回転篦削り整形。	白色の微粒子でやや緻密。黒色鉱物粒の含有、微細な気泡痕が若干みられる。	灰白色釉を内外面施釉。玉縁下部に釉垂れ。	せ-25　９層 溝状遺構Ｂ
第33図７ 図版６	碗／Ⅰ－c－ii 玉縁口縁碗	口縁	13.3 — —	外斜上にストレートに開口。器外面には回転篦削り整形痕が比較的明瞭に残存。	淡灰白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒を僅量含む。	灰白色釉を内外面施釉（器体下部より露胎）。器面には、あばた状に気泡痕。	た-27　Ⅲ層
第33図８ 図版６	碗／Ⅰ－d 玉縁口縁碗	口縁	16.0 — —	器肉は比較的厚手（５㎜内外）で、玉縁も大きい。断面観察で玉縁肥厚部の成形過程を示す接合痕がみられる。	淡灰白色の細粒子で、細かい気泡痕が若干認められる。	黄色味を帯びた白色釉を内外面施釉。玉縁下部に釉垂れ。器面内外に細かい貫入及び気泡痕。	せ-25 層序不明
第33図９ 図版６	碗／Ⅰ－d 玉縁口縁碗	口/底	16.8 6.9 6.1	見込部に圏線。高台は低く幅広に成形。断面観察から器外面に回転篦削り痕が認められる。	白色の細粒子で比較的緻密。微細な黒色鉱物粒もごく僅量含む。	やや黄色味を帯びた灰白色釉を内外面施釉。内外面に細かい貫入、外面には気泡痕。	そ-24　５層 せ-23　３層 す-24　４層
第33図10 図版６	碗／ⅡＡ－a 端反碗	口縁	12.9 — —	薄手成形。器外面に回転篦削り痕がみられる。	淡灰白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒を含有。	灰白色釉を内外面施釉。	し-25　３層
第33図11 図版６	碗／ⅡＡ－b 端反碗	口縁	11.4 — —	全体に薄手成形。口唇端まで器厚を保持しつつ、緩やかに外反。断面観察より口縁内端部に篦削り痕。	白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒をきわめて僅量含む。	灰白色釉を内外面施釉。両面には粗い貫入もみられる。	ち-27　Ⅰ層
第33図12 図版６	碗／ⅡＢ－a 口禿碗	口縁	14.6 — —	全体に薄手成形。やや膨らむ器体下部から口縁へ緩やかにのび、上位は回転削り調整でにぶい稜を形成。内面に陰圏線をめぐらす。	灰白色の細粒子で微細な黒色鉱物粒を若干含有。僅かに気泡痕も確認。	灰白色釉を内外面施釉、口唇端及び内端部の釉を掻き取っている。内外面に粗い貫入。	し-25　９層 溝状遺構Ｂ 遺構内埋土
第33図13 図版６	碗／ⅡＢ－a 口禿碗	口縁	14.5 — —	体部薄手で、口縁部の器肉は微弱に厚手。口縁端は釉掻き取りで削られ、外端部（露胎部と施釉部の境）がやや鋭角気味となる。	白色の細粒子。微細な黒色鉱物粒を若干混入。	灰白色釉を内外面施釉した後、口唇端から内端部を丁寧に掻き取る。	し-25　９層 溝状遺構Ｂ 遺構内埋土
第33図14 図版６	碗／ⅡＢ－a 口禿碗	口縁	14.5 — —	全体に薄手成形。腰部は若干膨らみ、口唇にかけ緩やかに開口。釉掻き取りで口縁端削られ、唇部が舌状に尖る。外面体部に回転削り痕。	白色の細粒子で、黒色鉱物粒を僅かに含有する。	灰白色釉を内外面施釉。口唇から口縁内端の釉をやや雑に掻き取り、口禿とする。	す-26 溝状遺構Ｃ 遺構内埋土
第33図15 図版６	碗／ⅡＢ－b 口禿碗	口縁	11.8 — —	朝顔状に開く器形。外器面の口縁部直下に回転篦削り痕が認められる。	白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒をごく僅量含む。	灰白色釉を内外面施釉。口唇から口縁内端の釉を掻き取る。	盛土中
第34図16 図版７	碗／ⅡＢ－c 口禿碗	口縁	14.4 — —	器壁かなり薄手。緩やかな外反口縁で、口唇端及び内端の釉を掻き取る。断面観察より体部は回転篦削り整形。口縁端の一部欠失。	灰白色の細粒子で、微細な黒色鉱物粒を僅量含む。	灰白色釉を内外面施釉した後、口縁端部の釉を掻き取り、口禿にしている。	し-25　３層
第34図17 図版７	碗／ⅡＣ 口折碗	口縁	— — —	口縁端を短く折り、口縁上は平坦整形だが、施釉厚く微弱に丸みを帯びる。屈曲部先端は舌状に尖る。	白色の細粒子。微細な黒色鉱物粒を若干含む。	ややオリーブ色を帯びた灰白色釉を内外面施釉。	さ-20　７層
第34図18 図版７	碗／ⅡＣ 口折碗	口/底	17.4 4.5 5.6	微弱に膨らむ器体は薄手成形で、口縁端を外側に屈折する。器体は回転篦削り整形。内底は釉剥ぎ部分の周囲に陰圏線。	灰白色の細粒子で微細な黒色鉱物粒を若干含む。僅かに気泡痕も確認。	灰白色釉を内外面施釉。体部下部から外底は無釉。内底面、輪状に釉を掻き取る。内外面に細かい貫入。	し-25　９層 溝状遺構Ｂ す-20　８層 せ-20　７層 そ-22　５層
第34図19 図版７	碗／ⅡＣ 口折碗	口縁	16.1 — —	器壁薄手。口縁端僅かに折れるが、明瞭な平坦面及び稜を形成せず、一見、Ⅱａ類（端反碗）に似る。	白色の細粒子でやや緻密（僅かに気泡痕）。微細な黒色鉱物粒を含有。	灰白色釉を内外面施釉。器面内外に気泡痕があばた状に若干みられる。	し-27　９層 溝状遺構Ｄ内 地山直上
第34図20 図版７	碗／ⅡＣ 口折碗	口縁	17.3 — —	口縁端は短く折れ、口唇上を平坦に仕上げる。口縁下端（屈曲部外面）を篦で抉り、口縁下には回転篦削り整形痕が認められる。	灰白色の微粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒を僅量含む。	灰白色釉を内外面施釉。微細な気泡痕僅かに有。口縁部内面には釉垂れ。	し-26　５層
第34図21 図版７	碗／ⅡＤ 櫛描文碗	口縁	— — —	口折碗に似た外反口縁だが、稜形成・平坦面整形は認められない。器外面口縁下に斜位の櫛描文。	乳白色の細粒子で緻密だが、微細な気泡痕も若干有。	白色釉を内外面施釉。器面内外に粗い貫入。	す-25　５層

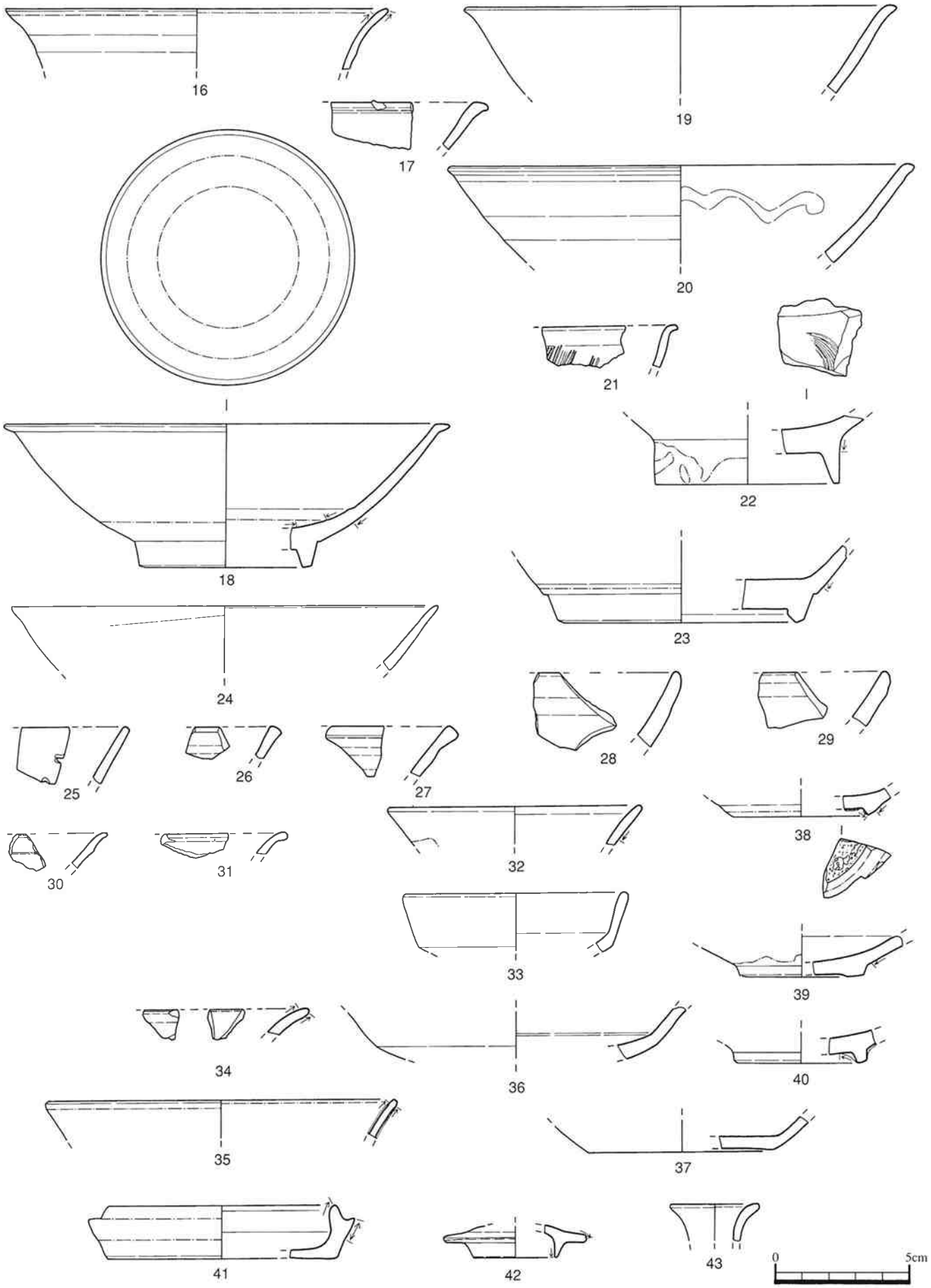
第７表　白磁観察一覧（2）

単位：cm

挿図番号 図版番号	器種／分類 種類名称	残存部位	口径 器高 高台径	器形・成形技法・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地区・ 出土層／遺構
第34図22 図版７	碗／ⅡＤ 櫛描文碗	底部	— — 6.9	底部の器肉厚く、高台部は細く高い。内底に櫛描き花文（櫛歯単位＝９本単位）。高台露胎部に轆轤痕。	灰白色の細粒子で、微細な黒色鉱物粒を比較的よく混入。僅かに気泡痕も有り。	灰白色釉を内面及び外面の体部と高台境付近まで施釉。高台部外面に釉垂れ。	せ-25　６層
第34図23 図版７	碗／底部	底部	— — 9.2	畳付部内外端を削り出し、尖り気味に成形。底部器肉やや厚手。内底に沈線状の段形成。露胎部に回転篦削り痕、高台脇に鉋目みられる。	灰白色の微粒子で緻密だが、僅かに微細な気泡痕もみられる。	器体下部まで施釉（高台脇付近の釉を丁寧に篦掻き取り）。福建・広東系の染付の可能性。	つ-25　Ⅲ層
第34図24 図版７	碗／Ⅲ 薄手直口碗	口縁	— — —	かなりの薄手成形。器体下部より直線的に立ち上がり、口縁断面観は舌状に尖らす。	白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒をごく僅量含む。	灰白色釉を内外面施釉。器内面及び外面の一部に粗い貫入。	そ-21　７層 せ-21　３層
第34図25 図版７	碗／Ⅲ 薄手直口碗	口縁	— — —	薄手成形。器体下部より器厚を保ちながら口唇へストレートに移行。	灰白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒を僅量含む。	灰白色釉を内外面施釉。	す-25 ２層上部
第34図26 図版７	碗／Ⅲ 薄手直口碗	口縁	— — —	胴部からストレートに開く器形態。口縁端部が外側へ微肥厚し、内外端には明瞭な稜形成。	淡灰白色の微粒子で緻密。	灰白色釉を内外面施釉。	す-19 ２層上部 （０～10）
第34図27 図版７	碗／Ⅲ 薄手直口碗	口縁	— — —	形態は26同様、胴から大きく開口。口縁端は外側へ肥大し、丸みを帯びる。内端部は鋭角気味で明瞭な稜をもつ。外面に回転篦削り痕。	淡灰白色の細粒子で緻密。	灰白色釉を内外面施釉。器外面及び内面の一部にやや粗い貫入。	せ-20 ２層上部 （10～20）
第34図28 図版７	碗／Ⅳ 内彎口縁碗	口縁	— — —	微弱に膨らむ器体。口唇部は丸みを帯び、内端に角をもつ。器外面に轆轤痕を確認。	灰白色の細粒子。微細な気泡痕が僅かにみられるも、全体に緻密。	灰白色釉を内外面施釉。	せ-23　４層
第34図29 図版７	碗／Ⅳ 内彎口縁碗	口縁	— — —	基本的形態は28と同様。外面の口縁下から器体部にかけて回転篦削り整形痕を確認。	淡灰白色の細粒子。微細な黒色鉱物粒及び気泡痕が若干みられる。	灰白色釉を内外面施釉。	せ-24　４層
第34図30 図版７	Ⅲ／Ⅰ 外反口縁皿	口縁	— — —	舌状口縁を端反りさせ、器外面頸部に篦削り出しによる稜線（陽圏線）をもつ。	白色の細粒子で緻密。	灰黄色釉を内外面施釉。内外とも部分的に微細な貫入。	つ-24 溝状遺構３号 遺構内埋土
第34図31 図版７	Ⅲ／Ⅰ 外反口縁皿	口縁	— — —	薄手成形。緩やかな外反口縁の外端部を如意状に微肥厚。口縁部上面を緩やかな波状に成形。	淡灰色の細粒子で緻密。	灰白色釉を内外面施釉。	つ-25　Ⅲ層
第34図32 図版７	Ⅲ／Ⅱ 直口口縁皿	口縁	9.4 — —	断面観察から口縁内端部に回転篦削り整形が認められる。	淡灰白色の細粒子で緻密。	灰白色釉を内外面施釉。内外面とも部分的に粗い貫入がみられる。	盛土中
第34図33 図版７	Ⅲ／Ⅱ 直口口縁皿	口縁	8.1 — —	無高台の腰折皿で、体部屈曲部から口縁端に直線的に開口。内面屈曲部に明瞭な段形成みられず。	白色の微粒子で緻密。	やや黄色味を帯びた灰白色釉を内外面施釉。器面全体に細かい貫入。	せ-19 ２層上部 （０～10）
第34図34 図版７	Ⅲ／Ⅲ-a 口禿皿（外反タイプ）	口縁	— — —	緩やかなカーブを描く外反口縁。釉掻き取り整形で口縁端部は若干尖り気味。口縁下に浅い圏線を囲撓。	白色の微粒子で緻密。	灰白色釉を内外面施釉した後、口唇端から口縁内端部にかけ釉を掻き取る。	し-27　覆土
第34図35 図版７	Ⅲ／Ⅲ-b 口禿皿（直口タイプ）	口縁	13.0 — —	体部から口縁端へストレートに開口。釉掻き取りで口縁断面はやや舌状を呈す。外面体部は回転篦削り。	白色の細粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒をごく僅量含む。	白色釉を内外面施釉した後、口縁端内外の釉を掻き取る。	盛土中
第34図36 図版７	Ⅲ／Ⅳ　A-b ベタ底か	胴 下部	— — —	無高台で、器体と底面の境は緩やかなカーブを描く。見込の器体屈曲部に沈線状の段形成（陰圏線）。	淡灰白色の細粒子で、僅かに気泡痕あるが緻密。微細な黒色鉱物粒を含む。	オリーブ色を強く帯びた灰白色釉を内外に全面施釉。	た-27　不明
第34図37 図版７	Ⅲ／Ⅳ　A-b ベタ底	底部	— — 6.8	全体に器肉やや薄手の平底。外底面中央部は僅かに窪む。内底の屈曲部に沈線状の段形成。底部形態・施釉等から口禿皿の可能性。	白色の細粒子で、緻密。微細な黒色鉱物粒を僅量含む。	ややオリーブ色を帯びた白色釉を全面施釉。内面及び外面の一部に粗い貫入。	せ-26　６層
第34図38 図版７	Ⅲ／Ⅳ　B 碁笥底状	底部	— — 5.0	畳付部から器体下部にかけ微弱にくびれ、一見碁笥底状を呈す。砂粒熔着が顕著。15・16Ｃ頃の可能性。	淡灰白色の細粒子で緻密。	灰白色釉を全面施釉した後、外底面外縁を篦状工具にて釉を掻き取る。	ち-27　Ⅲ層
第34図39 図版７	Ⅲ／Ⅳ　C	底部	— — 4.6	高台部は回転篦削りで成形し、きわめて低い造り。外底面中央（高台内）は僅かに窪む程度。	乳白色の微粒子で緻密。微細な黒色鉱物粒を比較的含む。	灰白色釉を器体下部（畳付脇付近）及び内底面に施釉。器外面にやや粗い貫入及び微細な気泡痕。	し-27 撹乱層
第34図40 図版７	Ⅲ／Ⅳ　C	底部	— — 5.0	畳付外端部を削り出しにより面取り。	白色の細粒子で緻密。	オリーブ色を帯びた白色釉を内底面から高台内に全面施釉（部分的に露胎）。	た-22　３層
第34図41 図版７	合子	身	8.4 9.9 8.5	底部の器肉薄手。型成形と思われる。器体内部は緩やかな内彎形状。	白色の微粒子。僅かに気泡痕がみられるが緻密。	オリーブ色を帯びた灰白色釉を器内面及び外面蓋受け部の下位に施釉。	せ-26 溝状遺構４号 遺構内埋土
第34図42 図版７	蓋	庇部	庇外端 5.4	蓋の甲は緩やかに膨らみ、庇部との境は比較的明瞭に成形されるが、釉が溜まりなだらかになる。滑り止め端部は細く尖り気味の成形。	白色微粒子。部分的に僅かな気泡痕がみられるも、全体に非常に緻密。	ややオリーブ色を帯びた灰白色釉を全面施釉の後、庇端部から滑り止め外側面部の釉を掻き取る。やや細かい貫入がみられる。	し-24　５層
第34図43 図版７	袋物（瓶か）	口縁	3.2 — —	頸部が細くのび、ラッパ状に外反。口縁内端に篦整形が認められる。長頸瓶の器形になるものと類推。	白色の細粒子。微細な黒色鉱物粒をごく僅量含有。	乳白色の釉を器面内外に施釉する。口縁部内外に粗い貫入。	そ-27　撹乱層



第33図　白　磁(1)


16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
0
5cm

第34図　白　磁(2)

第２節　青磁

青磁は量的に白磁の約1.5倍の量（総点数334点）が検出されている。時期的には劃花文碗や櫛描文皿などの12世紀後半から13世紀前半に相当するものが多数を占め、14世紀以降に位置付けられるものは少ない。出土状況としては遺物包含層からの出土例が圧倒的に多く、遺構に伴う形での出土例は僅かである。器種は碗・皿・盤・瓶などが確認されている。以下に各器種の分類概念を記し、個々の観察所見は第９表に、各分類の出土状況や点数については第８表に記載した。また、最も多く出土した碗と皿の２器種については、今回実施した分類と大宰府分類（註１）との相関関係も示した。

１．碗（第35図、第36図33～37）

碗は器形や文様の特徴などから、Ⅰ類からⅤ類に大きく分類した。この中でさらに細分類が可能なものについてはａ、ｂなどに分類した。

Ⅰ類　内外面に櫛描文を施す同安窯系の青磁碗で、俗に珠光青磁とも称される。器形の特徴から２種類に細分される。大宰府分類の同安窯系青磁椀Ⅲ類に相当する（第35図１～３）。

ａ　高台からやや内彎気味に立ち上がり口縁端部をわずかに外反させるもので、成形は粗雑。外面に櫛描きの条線文を施す。内面は無文（１、２）。

ｂ　全体的な器形はａに似るが、ａに比して丁寧に成形される。外面に丸彫りの条線文、内面に櫛描きの弧線文を施す。本資料は同時期の白磁碗の可能性もあるが、類例に乏しいため今回は青磁として扱うこととする（３）。

Ⅱ類　一般に劃花文碗と呼ばれる龍泉窯系の青磁碗で、高台刳りの浅い底部から腰部を強く張り、斜上方に立ち上がる器形を呈する。文様の有無及び特徴から３種類に細分される。大宰府分類の龍泉窯系青磁椀Ⅰ類に相当し、細分類はａがⅠ－２に、ｂがⅠ－４に、ｃがⅠ－１にそれぞれ対応する（第35図４～16）。

ａ　内面胴部を片切り彫りで５または６つに区画して器全体で花弁を表現し、区画の中に飛雲文を施す。内底は片切り彫りの文様（霊芝文・捻花文）を施すものと、無文のものがある（４～８）。

ｂ　内面胴部に片切り彫りの蓮華文を施す。内底は片切り彫りの文様（蓮華文・霊芝文・放射状捻花文）を施すものと、無文のものがある（９～11）。

ｃ　ａやｂに比して器高の低いもので、両面とも無文である（12～14）。

Ⅱ類底部　内底にスタンプによる字款「金玉満堂」を施すものと無文のものがある。胴部の文様との関係が不明なためⅡ類底部と分類する（15、16）。

Ⅲ類　外面に鎬蓮弁文を施すもので、器形はⅡ類に似るが腰部の張りが弱い。施文方法の差異から２種類に細分される。大宰府分類の龍泉窯系青磁椀Ⅰ類に相当し、細分類はａがⅠ－５・ｂに、ｂがⅠ－５・ａにそれぞれ対応する（第35図17～21）。

ａ　外面に箆描きによる蓮弁文を施す。蓮弁の間隔は密で隙間に間弁が確認される。また、蓮弁には鎬が丁寧に削り出されている。内面は無文（17、18）。

ｂ　外面に箆描きの蓮弁文を施すが、蓮弁の間隔はａに比して開き、間弁も確認できない。鎬の削り出しも雑で不明瞭である。内面は無文（19～21）。

Ⅳ類　口縁部が外反する大振りの碗。外面口縁部に圏線を数条巡らす（第36図33）。

Ⅴ類　直口口縁を呈する碗。文様の種類から２種類に細分される（第36図34、35）。

ａ　外面に線彫りの細蓮弁文を施す。内面は無文（34）。

ｂ　外面胴部に弁先を除いた蓮弁文を施し、弁先の部分に波濤文帯を巡らす。内面は無文（35）。

碗底部　施釉方法や高台造りなどの点で特徴的な資料を図化した（第36図36、37）。

２．皿（第36図22～32、38～42）

皿も碗と同じく器形や文様等の特徴からⅠ類からⅣ類に分類し、細分類が可能なものはａ、ｂなどに分類した。また、底部資料のうち特徴的な資料は皿底部として図示した。

Ⅰ類　一般に同安窯系の櫛描文皿と称されている平底皿で、碗Ⅰ類とセット関係にある。文様の有無及び特徴により３種類に細分される。大宰府分類の同安窯系青磁皿Ⅰ類に相当する（第36図22～26）。

ａ　内底に櫛描きによる之字形の点綴文（ジグザグ文様）のみを施す（22、23）。

ｂ　内底に櫛描きによる之字形の点綴文（ジグザグ文様）と弧線文を施す（24）。

ｃ　内面、外面ともに無文のもの（25、26）。

Ⅱ類　龍泉窯系の平底皿で、全体的な器形はⅠ類に似る。碗Ⅱ類とセット関係にあるもので、内底に線彫りの魚文や櫛描きの花文を施す。大宰府分類の龍泉窯系青磁皿Ⅰ類に相当する（第36図27、28）。

Ⅲ類　口縁端部を外側に折り曲げる口折の皿。文様の有無により２種類に細分される。大宰府分類の龍泉窯系青磁皿Ⅲ－４類に相当すると思われる（第36図29～31）。

ａ　外面に鎬蓮弁文を施すもので、鎬は釉が厚いため不明瞭。内面の文様の有無は不明（30、31）。

ｂ　外面が無文のもの。内面の文様の有無は不明（29）。

Ⅳ類　口縁部が外反する皿。内面に箆描きによる唐草文（牡丹唐草文か？）を施す。外面は無文（第36図32）。

皿底部　碗底部と同じく、施釉方法や高台造りなどの点で特徴的な資料を図化した（38～42）。40は袋物の底部の可能性もある。

３．盤（第36図43）

盤の腰部と思われるもので、外面に丸彫りの圏線を１条巡らす。腰部以下は露胎。

４．瓶（第36図44）

玉壷春瓶の頸部が出土している。外面に圏線を巡らし、直下に片切り彫りの唐草文を施す。内面は無文。

小結

本遺跡出土の青磁を概観すると、劃花文碗・鎬蓮弁文碗・櫛描文皿の出土点数が全体の約82％を占める状況が認められる。これを本遺跡の後背丘陵地に立地する喜友名グスク（註２）の例と比較すると、前述の３製品の割合が全体の約２％と対照的な数値が示される。この傾向は白磁についても同様に認められ、11世紀後半～13世紀に属する玉縁口縁碗・口折碗・口禿碗・ビロースクタイプ碗の出土点数が本遺跡では全体の約54％を占めるのに対し、喜友名グスクでは全体の10％にも満たない。以上の点から、各々の遺跡の盛期に時間差が存在することが窺い知れる。

また注目される資料として、皿Ⅱ類に分類した龍泉窯系の平底皿（第36図27、28）が挙げられる。管見では県内初の出土例と思われるが、既に櫛描文皿として報告されている過去資料のなかにも混在している可能性は高く、今後注意が必要な資料である。

〈註〉

註1. 横田・森田「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」九州歴史資料館 1978年

註2. 城間　肇　他『喜友名貝塚・喜友名グスク』沖縄県文化財調査報告書第134集 沖縄県教育委員会 1999年

第８表　青磁出土状況

器種	部位	分類	1層	2層	2層・上	2層・中	2層・下	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	8層 す-26 P穴10	8層 し-25 ア穴5	9層 し-20 Pit3	9層 す-21 Pit11	9層 せ-20 Pit9	溝A	溝B	溝C	溝D	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	溝4	溝6	掘込1	石列2	客土	盛土	攪乱	不明	合計
碗	口縁部	Ⅰ			1			1		1		1																							4
碗	口縁部	Ⅰ a									1	1																							2
碗	口縁部	Ⅰ b	1																																1
碗	口縁部	Ⅱ								1		1																							2
碗	口縁部	Ⅱ a			1			2	6	6	2				1					1	1		2						1					2	25
碗	口縁部	Ⅱ b	2	2	4	1		6	19	15	1	6	1				1		1		1	1	3		1					1		2		1	69
碗	口縁部	Ⅱ c	3	2	2			4	2	5	2	3												1	1	1						1	2	1	30
碗	口縁部	Ⅲ a	1	1	1			1	5	5	2											1	1								2	2		1	23
碗	口縁部	Ⅲ b	4		1			2	5	8	2	1		1		1					2				1			1				2			31
碗	口縁部	Ⅳ	1								1																								2
碗	口縁部	Ⅴ b			1																							1							2
碗	口縁部	Ⅴ c		1	1																												1		3
碗	口縁部	Ⅵ																							1										1
碗	口～胴	Ⅱ a							1												1		1												3
碗	口～胴	Ⅱ c																			2														2
碗	口～底	Ⅲ b							1	1											1					1									4
碗	胴部	Ⅱ a											1																						1
碗	胴部	Ⅱ b						1		1																1									3
碗	底部	Ⅱ			1					1	1																								3
碗	底部	Ⅱ a										1	1																						2
碗	底部	Ⅱ b	1							2		1																					1		5
碗	底部	Ⅱ c											1																						1
碗	底部	Ⅲ a	1					1																											2
碗	底部	Ⅲ b			1																														1
碗	底部	Ⅳ	1		1		1																		1										4
碗	底部	Ⅴ a											1																						1
碗	底部	不明			1			1		1			1											1				1							6
皿	口縁部	Ⅰ	4	1	1	1		7	8	8	1	1													2					1	1	1			37
皿	口縁部	Ⅰ b								2																	1					1			4
皿	口縁部	Ⅰ c								2										1												1			4
皿	口縁部	Ⅲ				1																													1
皿	口縁部	Ⅲ b			1																														1
皿	口縁部	Ⅳ a						1																											1
皿	口縁部	Ⅳ b						1										1																	2
皿	口～底	Ⅰ a			1			1	1	1		1														1									6
皿	口～底	Ⅰ b								1		1																				1			3
皿	口～底	Ⅰ c								1	1																								2
皿	胴～底	Ⅰ	1																																1
皿	底部	Ⅰ a		1																															1
皿	底部	Ⅰ b						1																	1	2								2	6
皿	底部	Ⅰ c	1						2	2			1																						6
皿	底部	Ⅱ			1			2	1	2																									6
皿	底部	Ⅲ						1																								1			2
皿	底部	Ⅲ a							1																							1			2
皿	底部	Ⅳ		1																															1
皿	底部	Ⅳ b	1																																1
皿	底部	不明	1		3			1	1	3			1														1								11
盤			1																																1
瓶	口縁部				1																														1
瓶	胴部												1																						1
合計			24	9	24	3	1	34	53	69	14	18	9	1	1	1	1	1	1	2	8	2	7	2	8	6	2	3	1	2	3	13	4	7	334

註 溝：溝状遺構

第９表　青磁観察一覧（１）

単位：cm

挿図番号 図版番号	器種・分類	部位	口径 器高 底径	器形・成形・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第35図1 図版８	碗／Ⅰ－a	口	14.6 — —	外面に轆轤痕が残る。外面に丸彫りの条線文を施す（破片では3本確認）。	灰白色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	淡黄緑色の釉を両面に施釉。内面にわずかに釉垂れあり。	し-27　6層下部（50～70）
第35図2 図版８	碗／Ⅰ－a	口	— — —	外面に櫛描きの条線文を施す（櫛歯の単位は不明）。	灰黄色の細粒子で緻密。	鈍黄色の釉を両面に施釉するが、口唇部を中心に剥落が顕著。	せ-21　7層
第35図3 図版８	碗／Ⅰ－b	口	16.2 — —	外面に轆轤痕が残る。外面に櫛描きの条線文（5本単位）、内面に陰圏線、櫛描きの弧線文（16本前後）を施す。	灰白色の細粒子で緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	さ-26　1層（0～20）
第35図4 図版８	碗／Ⅱ－a	口	16.2 — —	内面に陰圏線、線彫りの曲線文（区画か？）を施す。	浅黄色の細粒子で緻密。	淡黄緑色の釉を両面に施釉。両面に釉垂れや剥落あり。両面に細かい貫入。	8層植栽痕P列-10 し-26　5層 さ-25　5層
第35図5 図版８	碗／Ⅱ－a	口	15.8 — —	外面口縁部に回転篦削り痕、両面に轆轤痕が残る。内面を片切り彫りで区画し、その中に飛雲文を施す。	灰白色の微粒子で緻密。	淡黄緑灰色の釉を両面に施釉。	す-27　9層溝状遺構D内埋土
第35図6 図版８	碗／Ⅱ－a	口	16.0 — —	内面を片切り彫りで区画し、その中に飛雲文を施す。	灰黄色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	す-26　4層（20） し-25　9層溝状遺構B内埋土
第35図7 図版８	碗／Ⅱ－a	口	16.2 — —	外面に轆轤痕が残る。内面を片切り彫りで区画する。	灰黄色の細粒子でやや緻密。	浅黄色の釉を両面に施釉。口縁部に釉垂れや剥落あり。外面に細かい貫入。	さ-27　9層溝状遺構D し-24　4層 せ-23　4層
第35図8 図版８	碗／Ⅱ－a	胴	— — —	外面に轆轤痕が残る。内面は片切り彫りで区画しその中に飛雲文、内底に陰圏線、線彫りの霊芝文を施す。	灰白色の細粒子で緻密。黄褐色の鉱物が混入。	淡黄緑灰色の釉を両面に施釉。両面に粗い貫入。	し-25　8層イ・ウ列試掘（20前後）
第35図9 図版８	碗／Ⅱ－b	胴	— — —	外面に轆轤痕が残る。内面に片切り彫りの蓮華折枝文、内底に片切り彫りの蓮華文を施す。	灰黄色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	す-27　Ⅲ層 せ-20　3層 そ-24　5層
第35図10 図版８	碗／Ⅱ－b	底	— — 5.9	外面に轆轤痕が残る。内面に片切り彫りの蓮華折枝文、内底に陰圏線、片切り彫りの蓮華文を施す。	灰黄色の細粒子で緻密。気泡痕あり。	暗灰黄緑色の釉を内底から高台脇まで施釉。	し-27　5層
第35図11 図版８	碗／Ⅱ－b	底	— — 5.7	内面に片切り彫りの蓮華折枝文、内底に陰圏線、片切り彫りの蓮華文を施す。外底に目跡が付着する。	淡黄色の細粒子で緻密。	灰黄緑色の釉を内底から高台外面まで施釉。両面に細かい貫入。	し-26　5層（0～20）
第35図12 図版８	碗／Ⅱ－c	口	12.0 — —	外面に轆轤痕がわずかに残る。	灰白色の細粒子で緻密。	薄緑灰色の釉を両面に施釉。	そ-24　4層
第35図13 図版８	碗／Ⅱ－c	口	14.2 — —	内面に轆轤痕がわずかに残る。	灰白色の細粒子で緻密。	淡黄緑色の釉を両面に施釉。	し-24　1層
第35図14 図版８	碗／Ⅱ－c	口	18.0 — —	外面に轆轤痕が残る。内面に圏線を巡らすが不明瞭。	灰白色の細粒子で緻密。	鈍黄色の釉を両面に施釉。	し-25　9層溝状遺構B内埋土 す-25　9層溝状遺構B
第35図15 図版８	碗／Ⅱ	底	— — 6.9	内底に「金玉満堂」の字款を施す。外底に目跡が付着する。	浅黄色の細粒子でやや緻密。わずかに気泡痕あり。	鈍黄色の釉を内底から畳付まで施釉。両面に細かい貫入。	し-27　5層
第35図16 図版８	碗／Ⅱ	底	— — 6.2	外底に目跡（？）が付着する。	灰白色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	灰黄緑色の釉を内底から高台外面まで施釉。両面に粗い貫入。	せ-26　6層 せ-20　2層上部（0～20）
第35図17 図版８	碗／Ⅲ－a	口	15.8 — —	外面に陰圏線、篦描きの蓮弁文を施す。蓮弁は弁先が尖り鎬は明瞭。間弁も丁寧に施す。	灰白色の細粒子で緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	さ-27　9層溝状遺構D内埋土　す-27　5層（10以下）
第35図18 図版８	碗／Ⅲ－a	口	16.0 — —	外面に篦描きの蓮弁文を施す。蓮弁は弁先が丸く鎬は明瞭。間弁は比較的丁寧に施される。	灰白色の細粒子で緻密。	薄緑灰色の釉を両面に施釉。	さ-27　9層溝状遺構C内埋土
第35図19 図版８	碗／Ⅲ－b	口・底	14.6 (6.3) 5.2	外面に片切り彫りの蓮弁文を施す。弁先は尖り鎬は不明瞭。間弁はなし。内底に陰圏線を施す。	灰白色の細粒子でやや緻密。気泡痕あり。	灰黄緑色の釉を内底から高台外面まで施釉。全体に気泡が目立つ。	す-25　5層　す-23　4層　し-27　Ⅲ層　し-25　9層溝状遺構B
第35図20 図版８	碗／Ⅲ－b	口	14.0 — —	外面に片切り彫りの蓮弁文を施す。弁先は尖り鎬は不明瞭。間弁はなし。	明褐灰色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	暗灰黄色の釉を両面に施釉。	す-26　4層
第35図21 図版８	碗／Ⅲ－b	口	15.5 — —	外面に片切り彫りの蓮弁文を施す。弁先は尖り鎬は不明瞭。間弁はなし。	鈍黄橙色の細粒子でやや緻密。	黄褐色の釉を両面に施釉。	せ-23　5層
第36図22 図版９	皿／Ⅰ－a	口～底	10.6 2.0 4.2	外底は削り調整でわずかにくぼむ。内底に陰圏線、櫛描きのジグザグ文（14本前後）を1対施す。	灰白色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	灰黄緑色の釉を内底から外面腰部まで施釉。	し-26　5層上部（0～10）

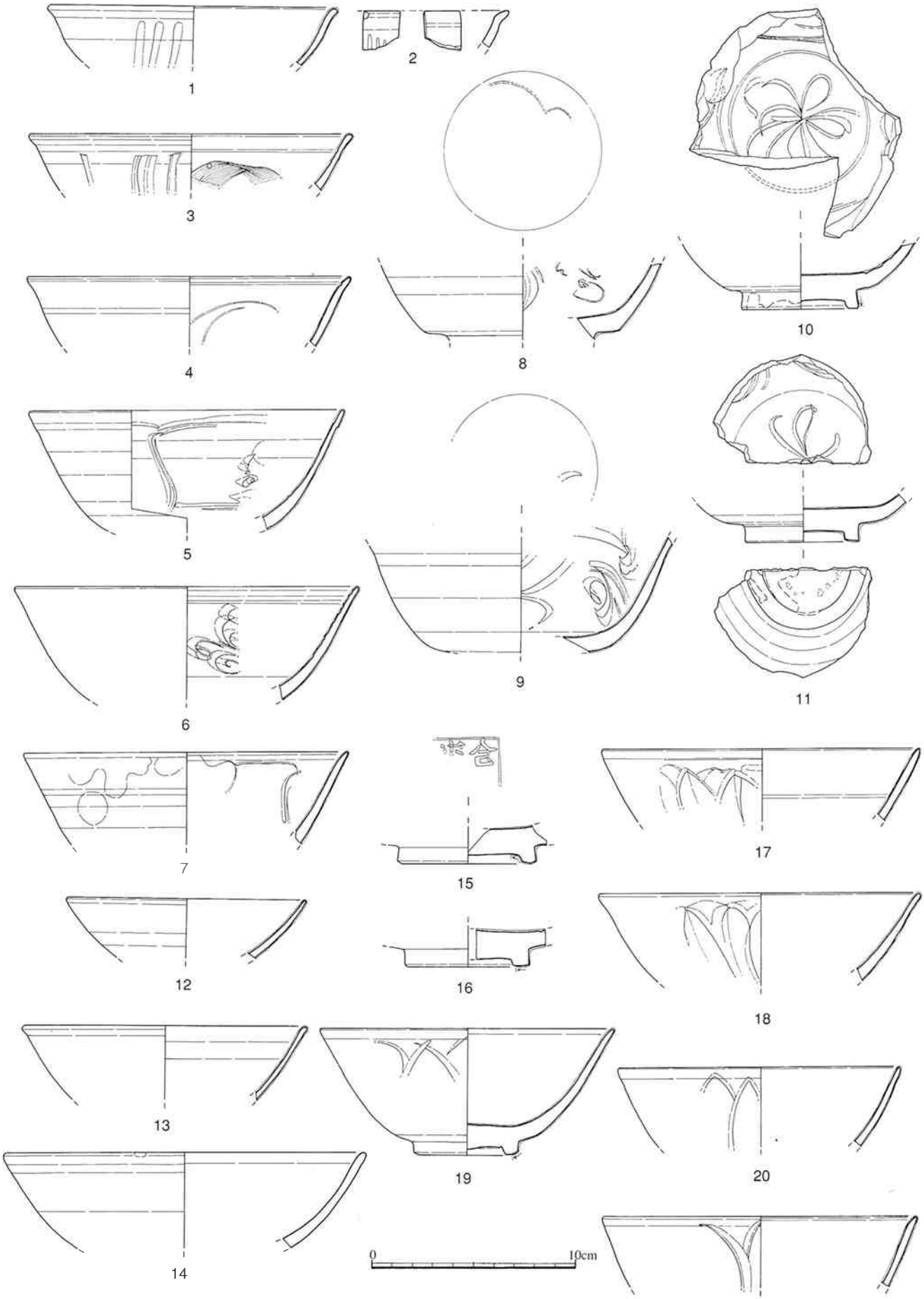
※（　）内の数値は推定値を表す。

第９表　青磁観察一覧（２）

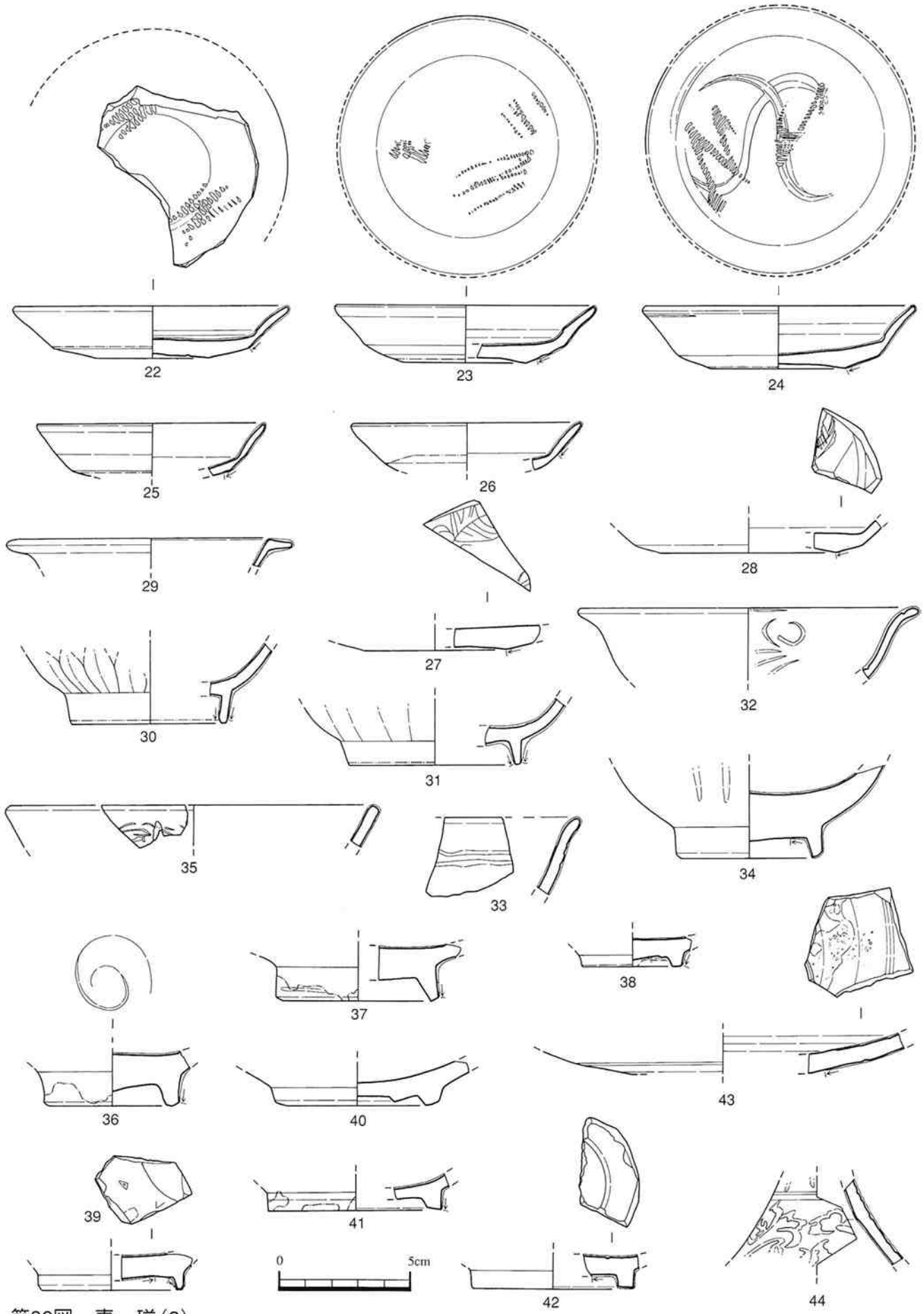
単位：cm

挿図番号 図版番号	器種・分類	部位	口径 器高 底径	器形・成形・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第36図23 図版９	皿／Ⅰ－a	口～底	10.0 2.2 4.6	外底は削り込みでわずかにくぼむ。内底に陰圏線、櫛描きのジグザグ文(25本前後)を3つ施す。	灰白色の細粒子で緻密。	明緑灰色の釉を内底から外面腰部まで施釉。両面に粗い貫入。	す-21 2層(0～10) ち-24 Ⅲ層 す-24 3層 し-25 4層 す-21 7層
第36図24 図版９	皿／Ⅰ－b	口～底	10.2 2.4 5.2	外底は削り込みでくぼみ目跡が付着。内底に陰圏線、十字弧線文、櫛描きのジグザグ文(20本前後)を1対施す。	灰白色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	明黄緑灰色の釉を全面に施釉後、外底の釉を掻き取る。内面に粗い貫入。	す-25 5層 せ-21 7層 盛土中
第36図25 図版９	皿／Ⅰ－c	口	8.7 — —	外面に轆轤痕が残る。内底に陰圏線を巡らす。	淡黄色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	明黄緑灰色の釉を内底から外面腰部まで施釉。両面に粗い貫入。	盛土中 し-27 5層(15～20)
第36図26 図版９	皿／Ⅰ－c	口	8.8 — —	内底に陰圏線を施す。	灰黄色の微粒子で緻密。	鈍黄緑色の釉を内底から外面胴部まで施釉。内面に細かい貫入。	し-25 8層溝状遺構A内埋土 し-27 5層
第36図27 図版９	皿／Ⅱ	底	— — 5.4	Ⅰに比してやや肉厚。外底は削り込みでわずかにくぼむ。内底に線彫りの魚文を施す。	灰黄色の細粒子でやや緻密。気泡痕あり。	灰黄緑色の釉を全面に施釉後、外底の釉を掻き取る。	せ-24 4層
第36図28 図版９	皿／Ⅱ	底	— — 6.6	Ⅰに比してやや肉厚。外底は削り込みでわずかにくぼむ。内底に陰圏線、櫛描きの花文(4本単位)を施す。	灰白色の細粒子で緻密。	灰黄緑色の釉を全面に施釉後、外底の釉を掻き取る。両面に細かい貫入。	た-23 3層
第36図29 図版９	皿／Ⅲ－b	口	11.0 — —	口折皿の口縁部片。鍔上面及び両面とも無文。	灰白色の微粒子で緻密。	薄緑灰色の釉を両面に施釉。	そ-19 2層上部(0～10)
第36図30 図版９	皿／Ⅲ－a	底	— — 6.0	外面に箆描きの蓮弁文を施す。蓮弁は鎬が明瞭に残る。内底に陽圏線を巡らす。	灰白色の微粒子で緻密。	薄緑灰色の釉を全面に施釉後、畳付の釉を掻き取る。	し-24 4層
第36図31 図版９	皿／Ⅲ－a	底	— — 6.6	外面に蓮弁文と鎬らしき文様がみられるが、釉が厚く不明瞭。	浅黄色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	暗黄緑色の釉を全面に施釉後、畳付の釉を掻き取る。	盛土中
第36図32 図版９	皿／Ⅳ	口	13.0 — —	外反皿の口縁部片。内面に箆描きの唐草文(ラマ式蓮弁文か？)を施す。	淡黄色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	す-24 3層
第36図33 図版９	碗／Ⅳ	口	— — —	外反碗の口縁部片。外面に圏線を2条巡らす。	灰黄色の細粒子でやや緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。両面に粗い貫入。	し-26 6層
第36図34 図版９	碗／Ⅴ－a	底	— — 5.6	外面に線彫りの細蓮弁文を施す(弁先の形態は不明)。外底に目跡や砂粒がわずかに付着する。	灰白色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	明緑灰色の釉を内底から畳付まで施釉。両面に細かい貫入。	試掘No.3
第36図35 図版９	碗／Ⅴ－b	口	16.0 — —	直口碗の口縁部片。外面に線彫りの波濤文帯を巡らす。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	す-19 2層上部
第36図36 図版９	碗	底	— — 5.1	直口碗の底部片。内底に左回転の轆轤痕が残り、わずかに砂粒が付着する。外底は灰色を呈する。	淡黄色の粗粒子で緻密。	暗黄緑色の釉を内底から高台外面まで施釉。両面に細かい貫入。	ち-26 溝状遺構6号埋土
第36図37 図版９	碗	底	— — 5.2	直口碗の底部片である。畳付に面取りを施す。外底は鈍褐色を呈する。	灰黄色の細粒子でやや緻密。わずかに気泡痕あり。	淡黄緑色の釉を内底から高台脇まで施釉。両面に細かい貫入。	つ-26 Ⅰ層上部(0～5)
第36図38 図版９	皿	底	— — 3.8	内底に陰圏線(？)を巡らす。外底に目跡が付着する。	灰白色の細粒子でやや緻密。気泡痕あり。	明緑灰色の釉を内底から高台外面まで施釉。	こ～せ-25～27 8層
第36図39 図版９	皿	底	— — 5.6	内底に線彫りの文様(花文か？)を施すが不明瞭。外底に釉剥ぎ時の削り痕が残る。	灰白色の微粒子で緻密。	淡緑灰色の釉を全面に施釉後、外底の釉を掻き取るが徹底していない。	せ-26 溝状遺構4号内埋土
第36図40 図版９	皿	底	— — 5.2	内底は削り込みで中央にくぼみ、調整痕が残る。外底の成形(高台刳り)は粗雑。	淡黄色の細粒子でやや緻密。黄褐色の鉱物が混入。	施釉部は欠損しており、残存部は露胎。	た-22 2層上部(10～20)
第36図41 図版９	皿	底	— — 6.6	内底がくぼむ皿の底部。両面に轆轤痕が残る。	淡黄色の細粒子でやや緻密。わずかに気泡痕あり。	灰黄緑色の釉を内底から高台外面まで施釉。両面に細かい貫入。	し-19・20 1層
第36図42 図版９	皿	底	— — 6.2	内底に陰圏線(？)を巡らす。	浅黄橙色の細粒子でやや緻密。	薄緑灰色の釉を全面に施釉後、外底の釉を掻き取る。両面に細かい貫入。	ち-22 2層上部(0～20)
第36図43 図版９	盤	胴	— — —	外面に丸彫りの陰圏線を巡らす。両面に轆轤痕が残り、内底にわずかに砂粒が付着する。	灰白色の細粒子で緻密。わずかに気泡痕あり。	薄緑灰色の釉を内底から外面腰部まで施釉。内底の釉は剥落する。	グリッド不明 1層
第36図44 図版９	瓶	胴	— — —	内面に轆轤痕が残る。外面に陰圏線、片切り彫りの唐草文(牡丹か？)を施す。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。全体にわずかに気泡がみられる。	し-27 8層

※(　)内の数値は推定値を表す。



第35図　青　磁(1)


22
23
24
25
26
28
29
27
32
30
31
35
34
33
37
38
36
40
43
39
41
42
44
0
5cm

第36図　青　磁(2)

第３節　青白磁

中国産の青白磁と目される資料が計13点出土している。概して明オリーブ灰色からオリーブ灰色の釉が施される。確認された器種は皿・合子・蓋・袋物の４種で、小破片資料７点を除く６点を図化した（第37図１～６･図版17)。

１は、器肉薄手の端反口縁皿である。断面観察から口縁部内端に回転箆削りが認められる。素地は淡灰白色で緻密、黒色混入物（鉱物粒か）が僅かにみられる。推算口径12.2㎝。す-25第２層上部(０～10cm)出土。

２は、口縁部･底部を欠く腰折皿の胴下部である。乳白色の細粒子で全体に緻密、僅かに黒色混入物や気泡痕がみられる。内面の腰折部分は輪状に抉られ、内底面がやや高くなる造りである。器外面の底部脇には回転削り痕が認められる。せ-21第５層出土。

３は、口縁端部の施釉を剥いだ口禿皿と目される。素地は白色細粒子で緻密、丁寧な薄手成形である。露胎部には轆轤痕が残る。小破片のため推算口径は不明である。さ-21第３層出土。クニンドー遺跡に類例（註1)。

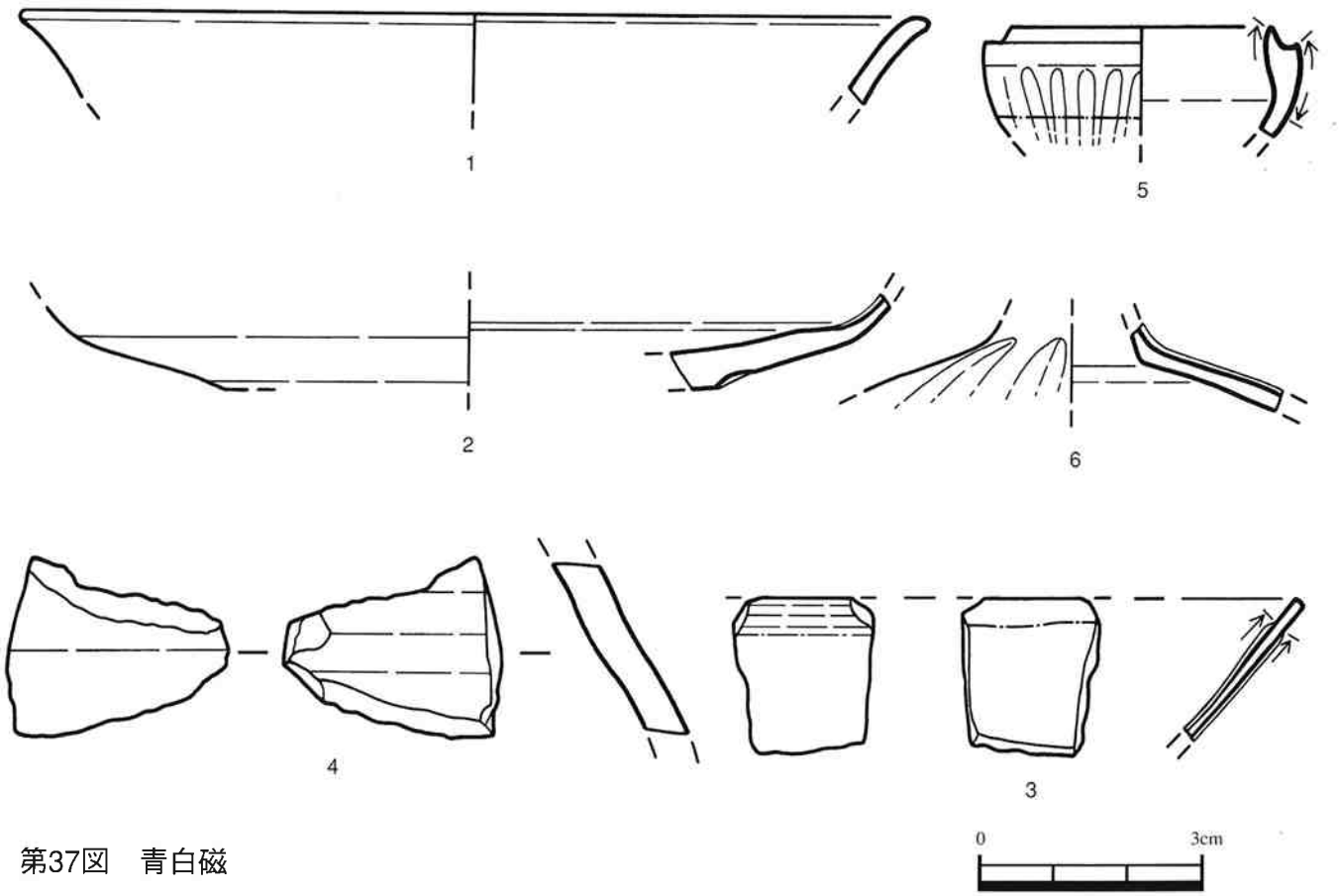
４は袋物(壺？)と目される胴部片である。施釉色調の濃淡および断面観察から、削り痕が容易に認められる。淡灰白色の細粒子のかなり緻密な造りで、器面にはやや粗めの貫入がみられる。し-22第２層(０～10cm）出土。

５は合子の身である。推算口径3.5cmと小振りだが、成形および施釉・施文など全体に丁寧である。素地は白色微粒子で緻密。淡青緑色の釉を全面施釉した後、蓋受け部分および器体下部は掻き取りを行っている。器外面に縦位の連続文がめぐる。内外面には貫入もみられる。せ-24第４層出土。

６は蓋と思われる。素地は乳白色の細粒子で緻密、造りも丁寧な印象を受ける。器外面には縦位の連続文がめぐり、釉溜まりによる釉調の濃淡が目立つ。内面は露胎で、輪状の轆轤痕が明瞭に残る。し-25第５層。

〈註〉

註１．金城亀信 他『クニンドー遺跡』南風原町文化財調査報告書第２集　南風原町教育委員会　1996年



第37図　青白磁

第４節　類須恵器

今回、類須恵器の資料整理を行う際に、実際に徳之島カムィヤキ窯から得られた陶片との比較を行った（註１）その結果、器形・器色・素地・器面調整の特徴などで多くの類似点が見出された。本節に分類した類須恵器は、概ねカムィヤキ窯の須恵器であろうと考えられた。よって、分類はカムィヤキ古窯跡群Ⅱ（註２）を参考に行ったが、壺の分類は口縁形態を基準に独自に行った。

今回得られた類須恵器は壺を主体に碗・鉢の３器種が確認できた。出土量は387点を数え（第11表）、確認できる個体数は54～100点である。近年の県内における発掘調査報告例では、那覇市銘苅原遺跡（註３）に次いで多い出土量といえる。また、隣接する喜友名グスク（註４）の出土状況と比較すると、本遺跡からの類須恵器の出土状況は、出土量も多く、器種構成が多様で資料的にまとまっている。以下、出土した類須恵器の特徴を、器種構成・素地・製作技法の３つの視点からまとめる。

器種構成：壺を主流に碗・鉢の器種が得られている。器種ごとの特徴を以下に記すが、個別資料の計測値や詳細などについては第10表の観察一覧にまとめる。また器形のバリエーションが認められた器種は分類を行った。有文資料の割合は全体の２割で、壺が主で鉢が僅かに確認された。文様は波状沈線文と平行沈線文があり、両者を組み合わせるものと、波状沈線文のみを施すものがある。

（１）碗（第38図１～４）

碗は２種類の器形があり、すべて無文で還元焼成であった。玉縁口縁（Ⅰ類）と直口口縁（Ⅱ類）の資料が確認でき、以下のように分類を行った。第38図４は、口唇が欠損しているため分類からは除外した。

＊口縁分類概念

Ⅰ類－（第38図１・２）玉縁口縁碗で、底部はベタ底であるが、内側に凹むような形で碁笥底になる可能性もある。内外面は横方向にヘラ調整が施される。

Ⅱ類－（第38図３）口縁部は薄く、口唇が方形状に作られる碗。内外面は横方向にヘラ調整を施すが、外面はナデ調整されている。

（２）鉢（第38図５～８）

鉢は基本的に口縁部が外反し、肩が張る器形である。有文は図６のみで波状沈線文が施される。すべて還元焼成で、器面調整は５・６が両面ともにヘラ削りの上ナデ調整を行っている。７・８は外面に綾杉文、内面には格子文の叩き調整が施される。

（３）壺（第38図９～18・第39～41図）

壺には有文と無文の資料があり、把手付壺（第40図１～３）や長頸壺の可能性がある資料（第39図16・17）が確認された。また小破片であるがヘラ記号が刻まれていると思われる資料が得られている（第39図20）。

前述したように、壺の分類は、基本的に口縁部の断面形態で行いⅠ～Ⅲ類にまとめた。また、小壺とそれより大きい壺類としての器種分類も試みた。器形の特徴や口径・口唇・器厚・底径の計測結果を基準にしているが、器高が明らかな資料が得られていないので、カムィヤキ古窯跡群（註２）での報告資料や他遺跡からの出土例を参考に、器高が20㎝以下になりそうなものを小壺、それ以上の可能性があるものを壺類とした。

口径・口唇厚・底径の計測結果は次のようになる。小壺は口径7.8～12.3㎝で平均値10㎝、口唇厚は0.4～0.9㎝で平均値0.7㎝、底径７～15.1㎝で平均値９㎝である。壺は口径11.2～20.8㎝で平均値15㎝、口唇厚は0.7～1.7㎝で平均値1.1㎝、底径12.8～19㎝で平均値16㎝である。小壺は第37図９～18・第38図、壺類は第39・40図にまとめた。

文様形態は小壺と壺類に大きな違いはないようである。有文の施文部位は頸部下位から胴部最大径部の範囲に施されるのが主体であるが、第38図８の小壺は胴部から底部にかけての一面に波状沈線文を施している。文様構成は波状沈線文のみのもの・波状沈線文と平行沈線文を組み合わせるものがあり、第40図４は胴部に平行沈線文を施している資料であるが、小破片であるため文様構成の種類の一つとして捕らえるのは差し控えたい。波状沈線文のみの資料は第38図４・５・８、波状沈線文と平行沈線文を組み合わせるものは第37図９・第38図６・第39図４で、ほとんどが器面を叩き締めた後、外面はナデ調整を行いその上に施文している。第39図４は外面に斜め沈線の叩き痕が部分的に残っている。波状沈線文と平行沈線文を組み合わせた施文方法は、平行沈線文を引いた中に波状沈線文を描く手法が取られている。

＊口縁分類概念

Ⅰ類ー口縁部は大きく外反し、口唇は厚みがあり断面形態を下記のように細分類が可能である。

a：口唇の断面形が三角形状に肥厚し、中央が凸になる形。(第40図８参照)

b：口唇の断面形が上下端もしくは上端か下端を強調した形。（第40図６参照)

c：口唇の断面形が玉縁状になる。(第40図４参照)

Ⅱ類ー口縁部は外反するが、口唇には厚みがなく頸部はⅠ類に比べ短い。(第40図５参照)

Ⅲ類ー頸部が直行になる器形で、口唇の断面形態は下記のような種類に分けられる。

a：口唇端が折れ曲がり、僅かに外面が凸状に肥厚している。(第39図２参照)

b：直口の口縁。(第39図１参照)

素地：素地は粗く砂粒のような白色粒子を多く含む特徴がある。資料のなかには白色粒子が割合多く含まれるものもある（第38図８・第39図11・12)。器色は黒灰色・青灰色・黒茶色を呈する還元焼成が主流で全体の８割を占めるが、残り２割は触ると手に粉がつくような焼成不良の類須恵器があり、器色は灰色・暗茶色・黒灰色・茶色・にぶい橙色と多色で、にぶい橙色は土器や陶質土器と見間違うほどである。また僅かだが、焼成不良の資料の中でもとりわけ焼成が悪く、土器のように脆い土質の資料（第38図４）が１点出土した。

製作技法：器面調整には叩き締めとヘラ削り・ナデ調整などの技法がみられる。成形に伴う叩きや押さえの技法を一括して叩き締めと表記した。叩き目には綾杉文（第41図６外面）・格子文（第40図４内面）・横沈線文（第41図２外面）・斜め沈線文（第41図14外面）などがある。轆轤痕が明瞭に残るものでも、器面の成形が施されているものをヘラ削り、器面の轆轤痕や叩き締めを消しているものはナデ調整とした。器種別にみると碗はヘラ削りとナデ調整が施される。鉢・壺は底部から胴部にかけて内外面を叩き締め、胴部の最大径部分で器壁を薄く成形する傾向にある。底部外面は横方向にナデ調整されるが、底径が大きいものは若干ひずみがみられる。頸部から口縁部はヘラ削りやナデ調整によって成形されるが、口縁部が歪むものが多い。

類須恵器計測値及び観察一覧等の凡例

（１）壺の口唇厚計測部位は図Aに示した部分である。

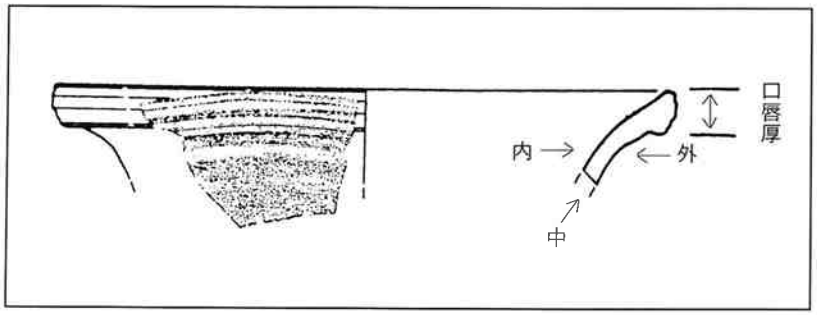
（２）観察一覧の残存部位表記は次のとおりである。
　口＝口縁部、首＝頸部、胴＝胴部、底＝底部

（３）観察一覧の計測単位はcmで、表記は次のとおりである。
　上段は左＝口径・右＝器高、下段は左＝底径・右＝胴部径（頸部片の場合、頸部径）

（４）観察一覧の器色（外・中・内）は図Aに示すとおりである。

（５）観察一覧の文様表記は次のとおりである。
　波状沈線文＝波状文、平行沈線文＝沈線文

（６）出土状況表には他の出土遺物同様、基本的には胴部は集計に含んでいないが、図示した資料のみ出土状況表に記載した。



図A

〈註〉

註１．今回、資料整理の際に、新東晃一氏、義　憲和氏、池田榮史氏にご教示を賜わった。特に義　憲和氏のご厚意により、資料の比較を行うことができた。記して謝意を申し上げる。

註２．新東晃一・青崎和憲 他『カムィヤキ古窯跡群II』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書（５）鹿児島県大島郡伊仙町教育委員会　1985年

註３．金城正紀 他『銘苅原遺跡』那覇市文化財調査報告書第35集　那覇市教育委員会　1997年

註４．島袋 洋 他『喜友名貝塚・喜友名グスク』沖縄県文化財調査報告書第134集　沖縄県教育委員会　1999年

第10表　類須恵器観察一覧（1）

挿図番号 図版番号	図番	焼成	器種	分類	残存部位	計測値	器色（外）	器色（中）	器色（内）	備考	出土地
第38図 図版10	1	還元焼成	碗	Ⅰ	口～底	13.2・5.6 6.8・—	黒	茶	黒	両面ともにヘラ削りによる調整	す—25　5層
第38図 図版10	2	還元焼成	碗	Ⅰ	口～胴	14.8・— —・—	暗茶	茶	暗茶	両面ともにヘラ削りによる調整	さ—27　溝C
第38図 図版10	3	還元焼成	碗	Ⅱ	口	16.6・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りを行い、外面はさらにナデ調整を施す。	す—24　5層
第38図 図版10	4	還元焼成	碗？		口～胴	11.8・— —・—	黒灰	茶	黒灰	両面ともにヘラ削りを行い、さらにナデ調整を施す。	し—27　5層・せ—23　3層
第38図 図版10	5	還元焼成	鉢？		口～首	16・— —・—	黒灰・暗茶	茶	黒灰・暗茶	両面ともにヘラ削りを行い、さらにナデ調整を施す。	し—21　3層
第38図 図版10	6	還元焼成	鉢		口～首	15.6・— —・—	黒茶	茶	黒茶	外面口唇部直下に波状文が2本確認できる。	す—23　4層
第38図 図版10	7	還元焼成	鉢		口～胴	17.3・— —・—	黒茶	茶	黒茶	外面は綾杉文の叩きのあとにナデ調整を施し、内面は格子文の叩き調整を施す。	し—27　溝D
第38図 図版10	8	還元焼成	鉢		底	—・— 12.4・—	黒茶	茶	黒茶	外面は綾杉文の叩きの後ナデ調整を施し、内面は格子文の叩き調整を施す。	せ—25　溝B・す—23　4層 そ—21　2層上
第38図 図版10	9	還元焼成	小壺？	Ⅱ	口～胴	10・— —・—	黒に近い灰	黒に近い灰	黒に近い灰	内面は格子文の叩き調整。外面はヘラ削りの上、ナデ調整を行い文様を施す。頸部直下から波状文5本を施し、その下に沈線文を2本施す。	せ—25　溝B
第38図 図版10	10	還元焼成	小壺	Ⅰc	口	11.3・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後、ナデ調整を施す。	し—25　5層
第38図 図版10	11	還元焼成	小壺	Ⅰa	口	9.6・— —・—	青灰	青灰	青灰	両面ともにヘラ削りの後、ナデ調整を施す。頸部直下に波状沈線文を施す。	せ—24　8層
第38図 図版10	12	還元焼成	小壺	Ⅰa	口	10.6・— —・—	黒灰	茶	黒灰	両面ともにヘラ削りの後、ナデ調整を施す。	ち—23　4層
第38図 図版10	13	還元焼成	小壺	Ⅰc	口	12.2・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後、ナデ調整を施す。	そ—24　4層
第38図 図版10	14	還元焼成	小壺	Ⅰc	口	11.4・— —・—	青灰	茶	青灰	外面はヘラ削りの後にナデ調整。内面は格子文の叩き調整を施す。	そ—24　4層・せ—25　2層
第38図 図版10	15	還元焼成	小壺	Ⅰc	口	9.5・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。	し—24　5層
第38図 図版10	16	還元焼成	小壺	Ⅱ	口	12.3・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。	す—26　5層
第38図 図版10	17	還元焼成	小壺	Ⅱ	口	8.8・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。	せ—22　7層
第38図 図版10	18	還元焼成	小壺	Ⅰa	口	—・— —・—	黒灰	茶	黒灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。	す—25　5層上
第39図 図版11	1	焼成不良	小壺	Ⅲb	口	8.2・— —・—	灰	灰	灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。	せ—23　4層
第39図 図版11	2	還元焼成	小壺	Ⅲa	口	7.8・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。	せ—23　4層
第39図 図版11	3	還元焼成	小壺	Ⅲb	口	8・— —・—	黒灰	黒灰	黒灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。	せ—23　4層
第39図 図版11	4	焼成不良	小壺		胴	—・— —・—	茶	茶	茶	内面は叩きの後、ナデ調整を施す。外面はナデ調整を行い、波状文を4本施す。	し—25　5層
第39図 図版11	5	還元焼成	小壺		胴	—・— —・17	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後にナデ調整。外面は波状文を2本施す。	す—26　1層
第39図 図版11	6	焼成不良	小壺		胴	—・— —・15.4	灰	灰	灰	外面はヘラ削りの後にナデ調整。内面は叩き調整のあとナデ調整。外面の文様構成は、波状文と沈線文の組み合わせ。	そ—22　7層・せ—20　2層上 せ—20　7層・せ—21　8層 し—26　溝C
第39図 図版11	7	焼成不良	小壺		底	—・— 15.1・—	灰	灰	灰	第39図6と素地の特徴が共通しており、同一固体の可能性がある。	す—25　5層・す—26　1層 せ—20　2層上・す—22　溝1
第39図 図版11	8	還元焼成	小壺		胴～底	—・— 8.7・—	青灰	茶	青灰	外面はヘラ削りの後ナデ調整し、胴部から底部にかけての波状文が2本施されている。内面は格子文の叩き調整。	せ—25　溝B
第39図 図版11	9	還元焼成	小壺		肩	—・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともに格子文の叩き調整。	す—25　6層
第39図 図版11	10	還元焼成	小壺		首～胴	—・— —・—	黒	茶	青灰	両面ともに叩き締めた後、ナデ調整を施す。	盛土
第39図 図版11	11	還元焼成	小壺		首	—・— —・—	青灰	青灰	青灰	外面はヘラ削りの後、ナデ調整。内面は格子文の叩き調整を施す。	し—20　9層
第39図 図版11	12	還元焼成	小壺		底	—・— 10・—	青灰	青灰	青灰	外面はヘラ削りの後、ナデ調整。内面は格子文の叩き調整を施す。	し—20　9層
第39図 図版11	13	還元焼成	小壺		胴～底	—・— 7.1・—	青灰	茶・青灰	青灰	外面は叩き後、ナデ調整。内面はヘラ削りの後、叩き調整。	し—25　6層
第39図 図版11	14	還元焼成	小壺		底	—・— 12.4・—	黒灰	茶	黒灰	外面は叩き締めた後、ナデ調整。内面は格子文の叩き調整を施す。	こ—27　溝D
第39図 図版11	15	還元焼成	小壺		底	—・— 7・—	青灰	茶→灰→茶	暗茶	両面ともにヘラ削りの後、ナデ調整。	ち—23　8層・し—26　5層
第39図 図版11	16	焼成不良	小壺		底	—・— 8.2・—	にぶい橙	にぶい橙	にぶい橙	外面は叩き締めた後、ナデ調整。内面は格子文を施す。	さ—25　9層
第40図 図版12	1	還元焼成	把手付壺		把手	—・— —・—	黒・青灰	茶	黒・青灰	第40図1～3・5は同一固体の可能性が高い。	グリッド不明8層

第10表　類須恵器観察一覧（2）

挿図番号 図版番号	図番	焼成	器種	分類	残存部位	計測値	器色（外）	器色（中）	器色（内）	備考	出土地
第40図 図版12	2	還元焼成	把手付壷		胴	—・— —・—	黒・青灰	茶	黒・青灰		せ—25　1層・す—25　5層 せ—24　5層・せ—21　8層
第40図 図版12	3	還元焼成	把手付壷		胴と底	—・— 14・25	青灰	茶→黒・茶	青灰	胴部外面には横沈線の叩き調整。内面には点刻状の叩き調整が施される。	す—26 8層J列5・す—25 5層 せ—26 8層D列4・せ—21 8層pit7
第40図 図版12	4	還元焼成	壷	Ⅰc	口～胴	16・— —・27.9	黒灰	茶	黒灰	外面は斜め沈線文の叩き締め後ナデ調整をし、文様を施文。文様構成は波状文と沈線文の組み合わせ。内面は格子文の叩き調整。	す—25　溝B・せ—21　8層pit7 し—21　9層pit25
第40図 図版12	5	還元焼成	把手付壷	Ⅱ	口	16.8・— —・—	黒・青灰	茶	黒・青灰	外面は叩き締めた後ナデ調整を施すが、内面はヘラ削りの後叩き調整	す—27　Ⅱ層・し—25　5層 こ—27　溝C・す—26　5層 し—25　溝B
第40図 図版12	6	焼成不良	壷	Ⅰb	口	18・— —・—	灰	茶	灰	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	ち—23　9層
第40図 図版12	7	焼成不良	壷	Ⅰb	口	16・— —・—	灰	灰	灰	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	し—27　Ⅱ層
第40図 図版12	8	還元焼成	壷	Ⅰa	口	20.8・— —・—	黒灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	不明
第40図 図版12	9	焼成不良	壷	Ⅰb	口	17.3・— —・—	茶	茶	茶	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	す—26　5層
第40図 図版12	10	還元焼成	壷	Ⅰa	口	14・— —・—	黒灰	茶	黒灰	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	盛土
第40図 図版12	11	焼成不良	壷	Ⅰa	口	14.4・— —・—	暗茶	茶	暗茶	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	し—27　9層
第40図 図版12	12	還元焼成	壷	Ⅰb	口	14・— —・—	青灰	茶	青灰	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	し—26　不明
第40図 図版12	13	還元焼成	壷	Ⅰb	口	14.2・— —・—	黒灰	暗茶	黒灰	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	盛土
第40図 図版12	14	還元焼成	壷	Ⅰb	口	—・— —・—	黒灰	茶	黒灰	外面ヘラ削り、内面は叩き締め後ナデ調整。	す—26　4層
第40図 図版12	15	焼成不良	壷	Ⅰc	口	11.2・— —・—	黒灰	黒灰	黒灰	両面ともにヘラ削りの後ナデ調整。	す—26　5層
第40図 図版12	16	還元焼成	長頸壷？		首	—・— —・—	黒灰	茶	黒灰	外面はヘラ削りの後ナデ調整。外面に沈線が1本施される。内面は叩き後ナデ調整。	す—19　2層上
第40図 図版12	17	還元焼成	長頸壷？		首	—・— —・12	青灰	茶	青灰	外面はヘラ削りの後ナデ調整。内面は頸部をナデ調整、肩部は格子文の叩き調整。	し—25　5層
第40図 図版12	18	還元焼成	壷		肩	—・— —・—	青灰	茶	青灰	外面は綾杉状文、内面の頸部はナデ調整、胴部は格子文の叩き調整。	す—25　5層
第40図 図版12	19	還元焼成	壷		胴	—・— —・15.6	黒灰	暗茶	灰	外面は横沈線の叩き調整。内面はナデ調整。	す—25　5層
第40図 図版12	20	還元焼成	壷		首	—・— —・—	黒灰	茶	黒灰	外面にヘラ記号と思われるものが部分的に残る。外面は叩き調整後、ナデ調整を施す。	す—26　5層
第41図 図版13	1	還元焼成	壷		肩	—・— —・—	黒灰	暗茶	黒灰	外面には細い格子文の叩き調整。内面には叩き締め後ナデ調整。	グリッド不明　1層
第41図 図版13	2	還元焼成	壷		肩	—・— —・—	黒灰	暗茶	灰	外面は横沈線の叩き調整。内面は叩き締め後ナデ調整。	そ—20　2層上・盛土 せ—22　3層・し—20　9層
第41図 図版13	3	還元焼成	壷		肩	—・— —・—	黒灰	暗茶	灰	外面は横沈線文の叩き調整後ナデ調整、内面はナデ調整。	す—25　5層
第41図 図版13	4	焼成不良	壷		胴	—・— —・—	灰	にぶい橙	灰	外面はヘラ削り後ナデ調整し、沈線文が1本施されている。内面は叩き締めた後ナデ調整。	せ—22　7層
第41図 図版13	5	還元焼成	壷		胴	—・— —・—	黒灰	茶→灰→茶	灰	外面は横方向に点刻文の叩き調整、内面はヘラ削り。	さ—26　6層・し—26　6層
第41図 図版13	6	還元焼成	壷		胴	—・— —・22.7	黒灰	茶	黒灰	外面は綾杉文の叩き調整だが、胴部最大径部分はさらにナデ調整を施す。内面は叩き調整を施す。	た—21　2層上・し—25　5層 す—24　8層・す—26　1層 す—26　5層・せ—24　5層
第41図 図版13	7	焼成不良	壷		胴	—・— —・—	黒灰	黒灰	黒灰	外面は綾杉文の叩き後、ナデ調整を施し、内面は格子文の叩き調整。	し—26　溝C・し—25　溝B
第41図 図版13	8	還元焼成	壷		胴	—・— —・—	青灰	茶	青灰	外面は綾杉文、内面は格子文の叩き調整。	す—25　6層
第41図 図版13	9	還元焼成	壷		胴	—・— —・—	黒灰	茶	黒灰	外面は横沈線と斜め線の叩き調整、内面はヘラ削りの後、叩き調整。	し—26　溝C・し—25　溝B
第41図 図版13	10	還元焼成	壷		胴	—・— —・24	黒灰	茶	灰	外面は横沈線文の叩き調整、内面はナデ調整。	せ—26　8層
第41図 図版13	11	焼成不良	壷		胴	—・— —・—	灰	灰	灰	外面は綾杉文、内面は格子文の叩き調整。	さ—26　6層・し—26　6層
第41図 図版13	12	焼成不良	壷		胴	—・— —・19.8	灰	灰	灰	外面はナデ調整、内面は叩き調整。	す—25 5層・し—21 7層 し—26 8層溝A・し—25 9層溝B 溝C EL=14.336
第41図 図版13	13	還元焼成	壷？		胴～底	—・— —・13.8	灰	灰	灰	外面はナデ調整、内面は格子文の叩き調整。	す—27　5層・せ—26　5層
第41図 図版13	14	還元焼成	壷		胴～底	—・— 14.2・—	灰	茶	灰	外面は斜め線文の叩き締めを施すが、部分的にナデ調整を施す。内面は叩き締められているが叩き目は明瞭ではない。	し—26　6層・し—27　6層 し—25　溝B
第41図 図版13	15	還元焼成	壷		底	—・— 14.4・—	青灰	茶	青灰	外面上部は斜め叩き、下部はナデ調整。内面は格子文の叩き調整。	す—20　7層・せ—20　7層

第10表　類須恵器観察一覧（3）

挿図番号 図版番号	図番	焼成	器種	分類	残存部位	計測値	器色（外）	器色（中）	器色（内）	備考	出土地
第41図 図版13	16	焼成不良	壷		底	—・— 12.8・—	灰	茶	黒灰	外面は叩き締めた後ナデ調整。内面は4つの四角が連結した叩き目が入り、0.8×1.4cmを測る。	そ—24　5層・せ—25　1層 せ—25　4層
第41図 図版13	17	還元焼成	壷？		底	—・— 19・—	青灰	茶	青灰	外面はナデ調整。	た—23　4層
第41図 図版13	18	還元焼成	壷		底	—・— 17.6・—	黒灰	茶	青灰	外面は縦沈線の叩き後、底部立ち上がりは横方向にナデ調整。内面は叩き調整。	す—27　5層・せ—26　5層
第41図 図版13	19	焼成不良	壷		底	—・— 17.2・—	灰	にぶい橙	灰	外面は斜め叩き後、底部立ち上がりは横方向にナデ調整。内面はナデ調整。	さ—25　9層

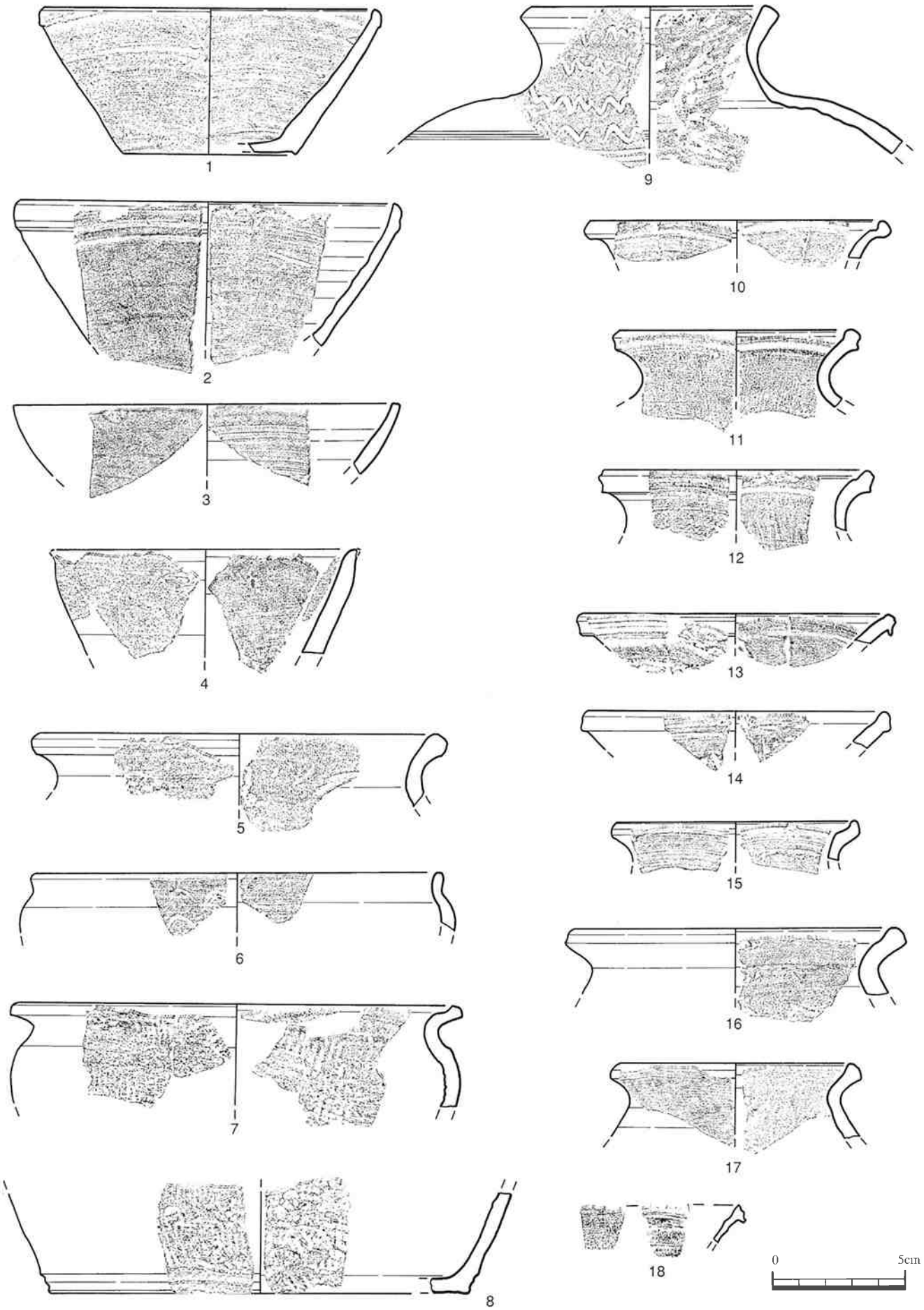
第11表　類須恵器出土状況

部位			出土地	1層	2層	2層・上	2層・中	2層・下	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	溝A	溝B	溝C	溝D	溝F	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	溝1	溝4	客土	盛土	撹乱	不明	小計
壺類	有文	首							1																					1
		首～肩																				1								1
		肩				1			1	1	1																			4
	無文	口縁部 Ⅰ a				1					1	2										1					1		2	8
		口縁部 Ⅰ b							1	2		2										1					1			7
		口縁部 Ⅰ c									1																			1
		口縁部 Ⅱ				1								1																2
		口縁部 Ⅲ a								2																				2
		口縁部 Ⅲ b									1																		1	2
		首				1			1	2	1		1																	6
		肩								1	1																			2
		把手		1					1		1			1																4
		胴部		1	1	1					6											1							1	11
		底部		1	1	2	1		1	2	3		1	4								1		1			1		1	20
小壺	有文	口縁部 Ⅰ c							1																					1
		口～頸 Ⅱ																										1		1
		頸部		3	1	3			1	2	3	1						1			2		2					1		20
		胴～底		2				1			10	1	1		1		2										1			19
		底部								1				1																2
	無文	口縁部 Ⅰ a								1	2			1	1								1						1	7
		口縁部 Ⅰ b								1	2																1			4
		口縁部 Ⅰ c			2					3	1						2													8
		口縁部 Ⅱ							1		1			1																3
		口縁部 Ⅲ a								1	1																			2
		口縁部 Ⅲ b								1	1				1															3
		首							1	2					2		1													6
		首～肩		1					1	1	3			1													2		1	10
		肩									1																			1
		胴部		1	1	8	1		3	5	16	4	12	1	4	2		1		1		1	1	1	1		1		1	66
		底部			1				1	2	2	1	1	2	1		2													13
把手付壺	無文	口縁部 Ⅱ								1	3	1	1	1			3					1		1	1					13
		胴部		1		2	1		1	2	6	5	7	5	3		5	2						2	1	1				44
		底部									1			3										1						5
長首壺	無文	首								1	1																			2
鉢	有文	口縁部									1																			1
	無文	口縁部			1				1		1		1						1				1							6
		胴部				1			2		2																		1	6
		底部				1				1							1													3
椀	無文	口縁部 Ⅱ									1																			1
		口～頸 Ⅰ																1								1				2
		口～底 Ⅰ								1	1																			2
		口～頸							1		1																			2
器種不明	無文	口縁部 Ⅰ b								1																				1
焼成不良 壺類	有文	頸部											1																	1
	無文	口縁部 Ⅰ b									1				1															2
		口縁部 Ⅰ c								1	1																		1	3
		把手									1																			1
		胴部								1	2			2			1	2											1	9
		底部	1							2	2	1		1	1		2								1					11
焼成不良 小壺	有文	胴部			2				1		4		4	1	2	2		3								1			1	21
	無文	口縁部 Ⅲ b			1																									1
		底部	1		1				1		6			1	1									2						13
小計				13	9	25	3	1	22	41	94	18	30	27	18	4	19	10	1	1	2	7	5	8	4	3	8	2	12	387

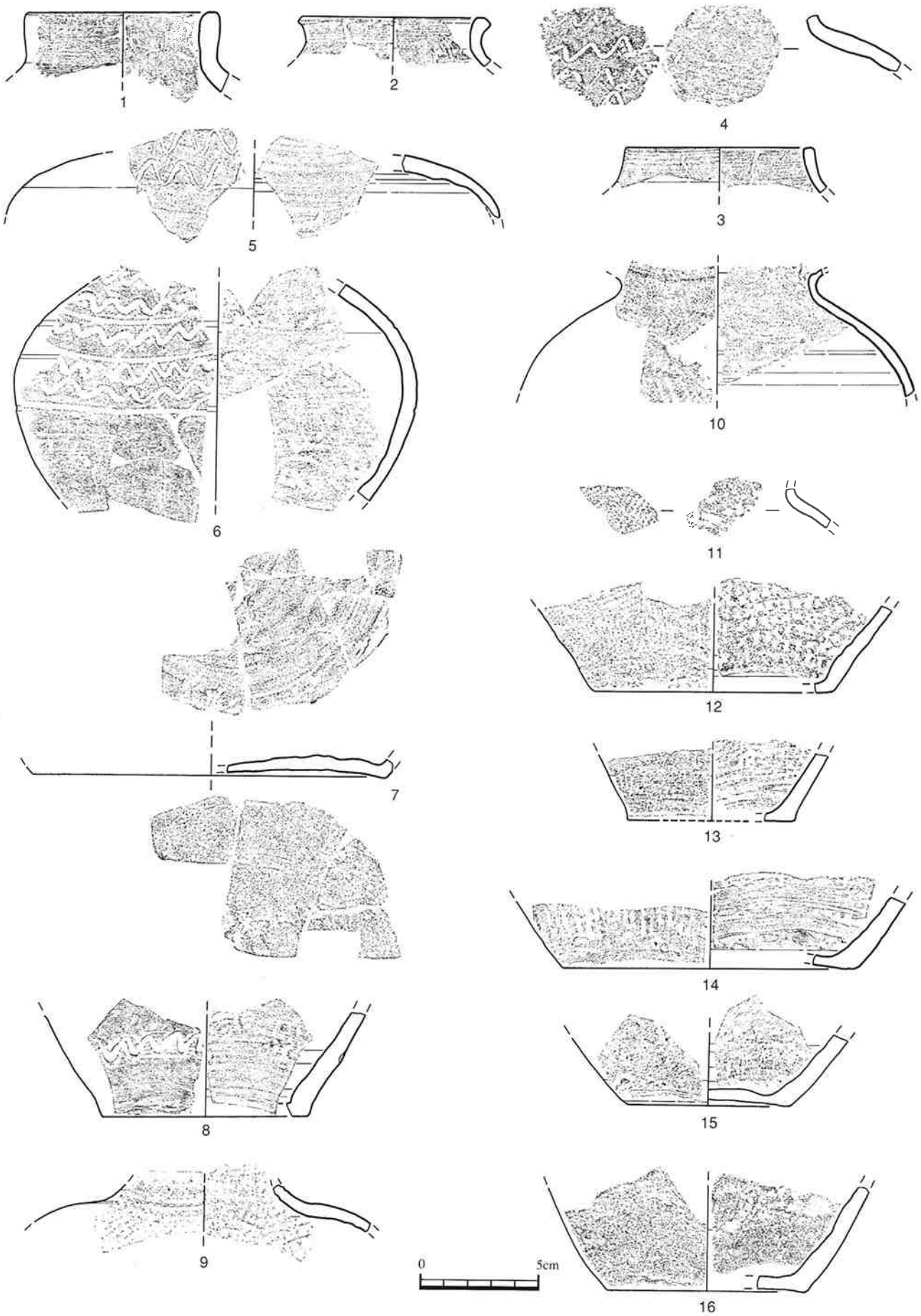
※　溝：溝状遺構。

第12表　類須恵器出土状況（遺構出土）

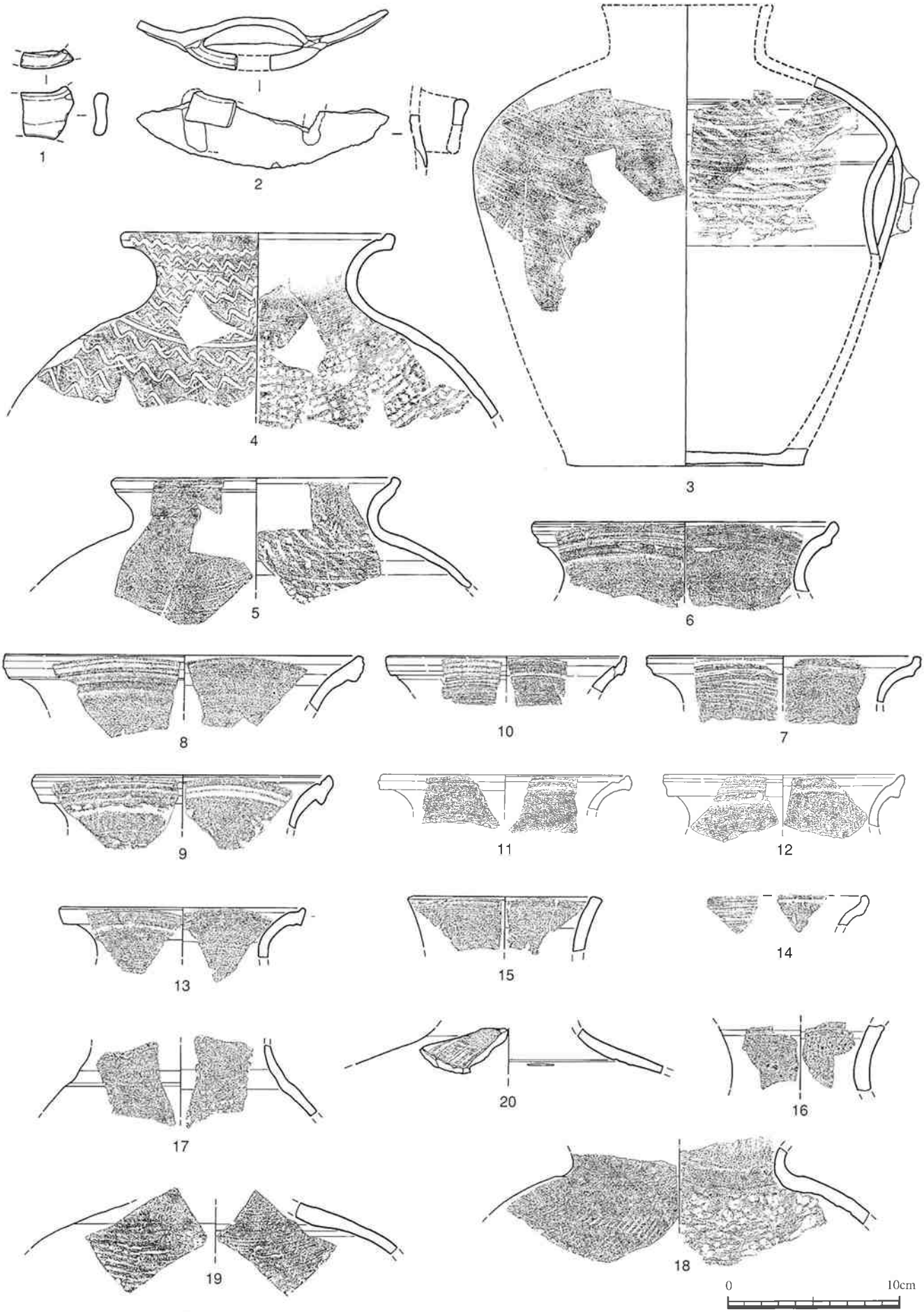
出土地		器種/部位	小壺 有文 胴～底	小壺 有文 底部	小壺 無文 口縁部 Ⅰ a	小壺 無文 口縁部 Ⅱ	小壺 無文 口縁部 Ⅲ b	小壺 無文 首	小壺 無文 胴部	小壺 無文 底部	把手付壺 無文 胴部	把手付壺 無文 底部	焼成不良 壺類 無文 底部	焼成不良 小壺 有文 胴部	焼成不良 小壺 無文 底部
8層	す-22	Pit11								1					
		炉跡										1			
	す-24	Pit19		1											
	す-26	Ⅰ列7										1			
		J列5										1			
		M列8				1									
	せ-21	Pit7									3				
		Pit10												1	
9層	さ-21	Pit5-a					1								
	し-20	Pit3							2	1					
		Pit37													1
		Pit30						1							
	し-21	Pit3							1						
	す-20	Pit10							1						
		Pit19												1	
	す-22	Pit21									1				
	せ-21	Pit18									1				
	そ-22	Pit6									1				
	た-22	Pit10						1							
	ち-23	Pit15	1												



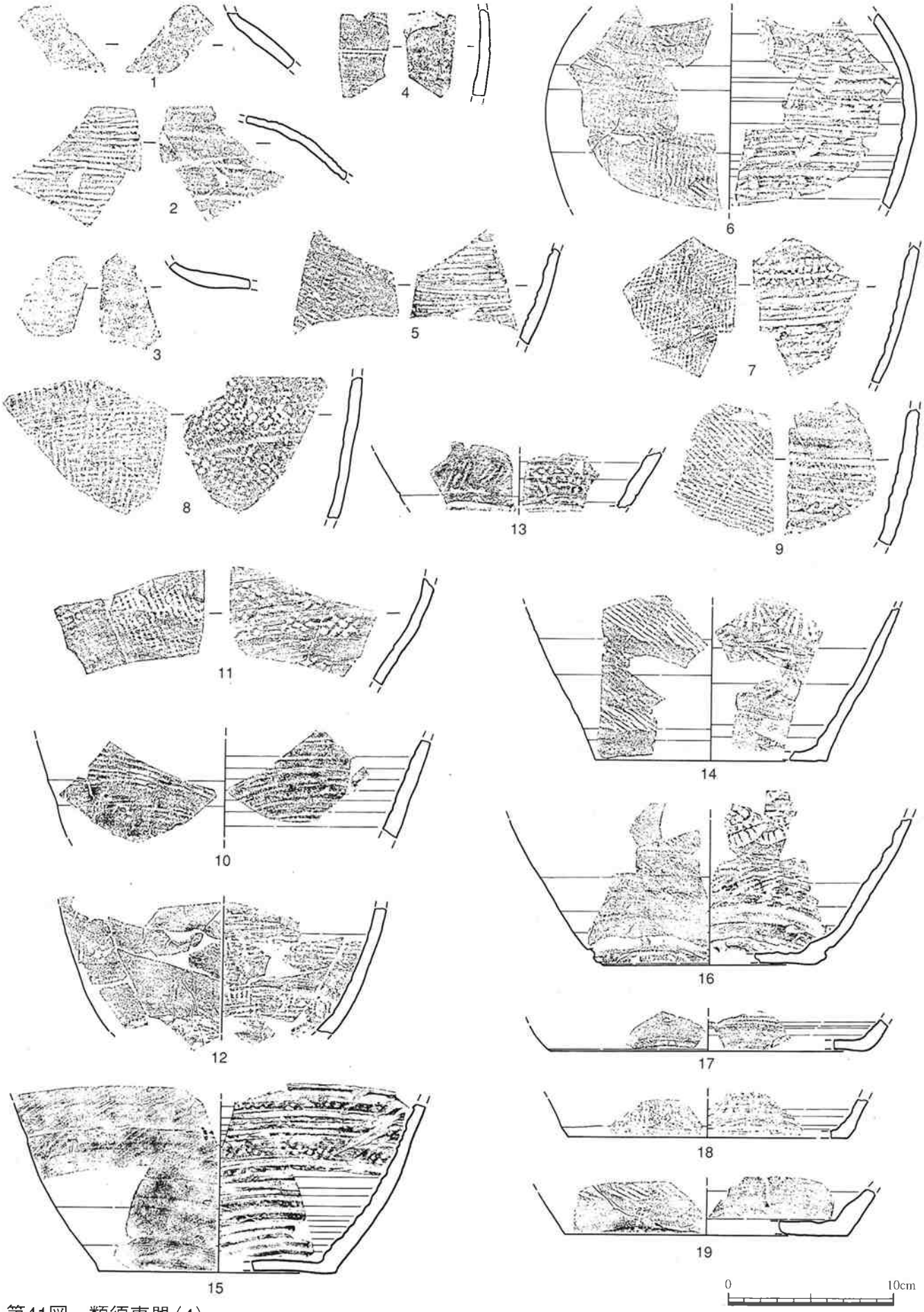
第38図　類須恵器（1）



第39図　類須恵器(2)



第40図　類須恵器(3)



第41図　類須恵器(4)

第５節　産地不明須恵器・陶器

本節では、グスク時代の遺物包含層及び遺構から出土した、産地不明須恵器及び陶器について紹介する。

１.産地不明須恵器

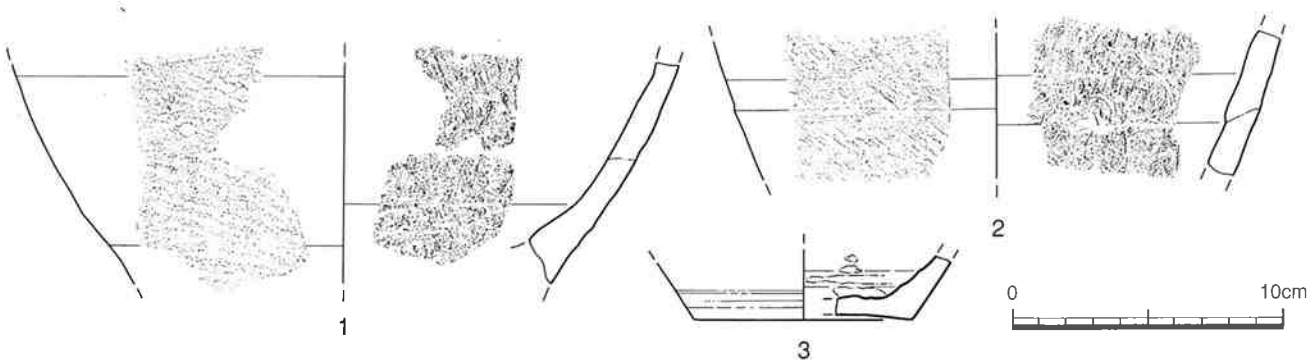
第42図（図版44）１・２は壷類の胴部片で、還元焼成で叩き調整が施されるなど類須恵器との類似性がみられるが、素地や調整技法で特徴が異なっている。器内外面は淡青灰色で、素地は淡桃色を帯びた白色で土質は粗い印象を受ける。素地には暗褐色と白色の粒が含まれ、1㎜以下～5㎜前後の大小の素粒子が観察できる。器面調整は外面をヘラ等で横方向に成形した後、斜め沈線の叩きを施す。沈線の長さは2～3㎝前後で１本の幅が２㎜程度である。内面の調整は荒く、縦方向にナデ上げる調整を施しているが、輪積みの痕を完全に消すほどではない。なお、第42図１は肩部片の可能性も考えられ、その場合、図は天地逆になる。

出土状況は第５層・第８層・溝状遺構B・Cから得られているが、溝B・Cから出土したものも、出土レベルから第８層とみるのが妥当で、すべて遺物包含層中からの出土といえる。

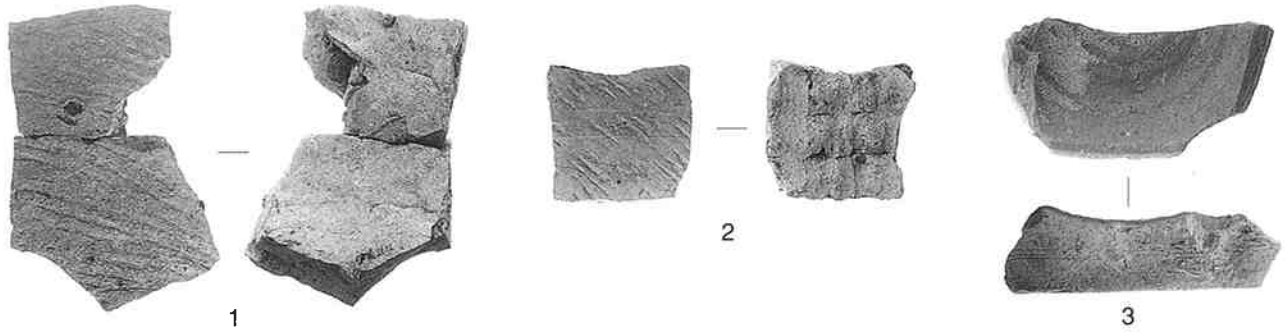
２.産地不明陶器

第42図（図版44）３は壷類の底部片で底径が８㎝を測る。器面調整は丁寧で、内外面ともにヘラ削りを施す。外面は無釉だが、内面には淡黄褐色の自然釉が薄らと残っている。外面が灰色、内面はくすんだ小豆色を呈する。素地は締りが良く白色と黒色の微粒子を多く含むが、僅かに２㎜程度の小石もみられる。

出土地点は溝状遺構Cに堆積した第８層中（EL＝14.439）からの出土である。



第42図　産地不明須恵器・陶器



図版44　産地不明須恵器・陶器

第６節 土器

今回の調査で膨大な数(60×40×15cmの中コンテナで約15箱分：大コンテナを1.5箱、小コンテナを0.5箱に換算)の土器が出土しており、器種が窺え得る口縁部･底部資料のみでも1134点得られた。該資料の報告に際し、基本的に２つの土器群に区別した。いわゆる「グスク（系)土器」と汎称されるグループと、それより時間的に遡ると目されるグループに分けられる。本遺跡出土土器の量的主勢を占めるのが前者のグスク土器(第Ⅰ群土器)であり、他の出土遺物とあわせて検出遺構の時期に用いられていたものと考えられる。他方、本遺跡では「沖縄後期土器」「後期土器」と広く呼ばれる土器群を中心に、グスク(系)土器以外の土器も一定量得られており、これを第Ⅱ群土器・第Ⅲ群土器(前期系)として扱った。特に、第Ⅱ群土器は沖縄新石器時代後期の土器と目されるもので、胎土観察や器形の観点から区別が可能と考えられる。

以下、口縁部･頸部付近および底部など器形上の特徴が現出しやすい部位を中心に、主なものを第43図～45図に図示した。なお、文中記載の点数は口縁部や底部付近の資料に限定した数量であり、胴部片は除くものである。

第Ⅰ群. グスク(系)土器

当該土器については、器種の類別作業を行い、続いて各器種の分類に関して鍋形器種の把手状･瘤状突起や羽釜の鍔状突帯を除いては無文が主勢となるため、主に口縁部形態をもとに分類を行った。本遺跡出土の第Ⅰ群土器の胎土を俯瞰すると、軟質泥胎の一般に「あばた状」と表現される多孔質で、赤色土粒･褐色土粒や石灰質粒を主に混入するものが多い傾向にある。これは安里進氏の胎土分類におけるＤ類(註1)、森川原遺跡報文中のＡロ類およびＡハ類(註2)に相当すると思われる。なお、上記以外の分類項に相当すると思われる土器も少量だが存在する。他方、当該期土器の胎土混入鉱物において、特に滑石粒の有無は滑石製鍋の模倣や土器の保温性との関わりでも留意される属性である。第Ⅰ群土器を観察した結果、滑石混入土器は21点を数える。該資料には、(Ⅰ)胎土中混入と(Ⅱ)器表面塗布の二者が認められ、前者は混和量の多寡からイ～ハに細分を行った。

（Ⅰ）滑石粒の胎土混入土器(第43図23･第44図55)

イ．精選された滑石粒を多量に混和するグループ。概ね硬質で金属的な光沢を帯びた青灰色を呈し、手触りも非常にツルツルとしたものが多い。第43図23が当該分類に属する。

ロ．滑石粒の混入は明らかに認められるが、ａほど多量ではないグループ。得られた資料はすべて小破片のため図化は省略している。

ハ．ごく微量の滑石粒の混入が認められるグループ。第44図55が当該分類にあたる。

（Ⅱ）滑石粒を混入せず器面に塗布する土器

器面観察において滑石粒の含有がみられるも、破損面では滑石粒の胎土中混和が認められない土器片が２点得られている。２点ともし-25第９層検出の溝状遺構Ｂ埋土より出土だが、いずれも胴部小破片であるため今回はその図化を省略している。滑石粒の表面塗布土器の出土例としては我謝遺跡があげられる(註3)。

過去刊行の報告書において滑石粒以外の混入物の分類を行ったものもあるが、本報文では個々の観察にその記載を留めることを了されたい。色調の表記は標準土色帳を参考にした。以下に各器種の分類概要を記す。

１．**鍋形**（第43図24～第44図49)

概ね内彎･内傾に広口、広底を基調とした煮沸形態で、量的観点からも当該期土器の主要器種と考えられる。

鍋形については把手･突起部分および口縁部形態から分類を試みた。以下にその概要を記す。

1-1．把手･突起部の分類

鍋形器種において、特徴的な把手･突起部分も編年的指標と捉えられるため、その平面観および成形具合で、下記の①～⑤類に細分類を行った。①～④類は、滑石製鍋の形態模倣の段階的な推移を示すものと理解される。なお、広口･広底器形で特徴づけられる鍋形において、口縁部下位に鍔状把手(鍔状突帯)を囲撓させる「羽釜」が存在することが、我謝遺跡や銘苅原遺跡(註4)、糸数グスク(註5)の類例から知られている。本遺跡でも、鍔状突帯を伴う断片資料(下記分類の⑤類)が複数個体出土しているが、いずれも図上復元が困難な小破片である。

①類：方形状把手　平面観が方形･長方形を呈し、重厚感を伴う丁寧な成形が特徴。

②類：瘤状把手　平面観は方形を意識した意匠だが、成形はやや粗雑となり全体に丸みを帯びる。

③類：把手状突起　把手の形骸化が上記②類より進行したものとみられるグループで、平面観もかなりくずれており、円形や長楕円形状(縦型／横型)を呈する。

④類：瘤状小突起　③類の把手状突起がさらに矮小化した小突起。

⑤類：羽釜･鍔状突帯

1-2．器形態の分類

続いて、当該器種の形態について主に口頸部の内彎・内傾度合および口縁端部の成形によって分類を試みた。

a類　内彎・内傾度合は弱く、直口気味になるグループ。概して、口唇端部は平坦面を持ち、上述の把手・突起分類の①方形状把手ないし②瘤状把手を付すものが多い。

b類　内彎・内傾するグループ。付される把手・突起も、上述分類の③把手状突起や④瘤状小突起が多く、また、それらを持たないものも多数認められる。口縁端部の成形具合から、下記のi～ivに細分類を試みた。

i．口唇端部に意識的な平坦面の形成が認められるもの。口縁端の外縁を突出させ、口唇面を広くさせるものも認められる。屋良グスク(註6)、銘苅原遺跡(註4)などで同様な口縁部資料が得られている。

ii．口唇端部に面を形成せず、丸みを持たせるもの。

iii．口縁部の内端を尖らす舌状成形。

iv．口唇端部に粘土を補填することで、当該部位を強調する意識が認められるもの。

2．**鉢形**（第44図50～57）

最大径の位置や頸部以下の器体様相から、下記のa・bに類別が可能と思われる。

a類　胴部はさほど膨らまず、頸部以下は肩を形成せずに緩やかに移行、最大径が口縁部に位置するため甕・深鉢の外傾器形に近似するグループ。銘刈原遺跡報文の鉢形Ⅰ類に相当。口縁部成形および屈曲部における稜線の有無等で細分類を試みた。

i．口縁部の屈曲度合が緩く、内面の稜線も明瞭ではない。

ii．外反口縁の意識的な成形が明らかで、内面の稜線も明瞭に見られるもの。

b類　膨らむ胴部に続く頸部は幾分締まり、最大径が頸部以下にくるグループ。概して口縁部は屈曲し、内面には稜線を伴う。銘刈原報文の鉢形Ⅱ類(註4)に相当。口縁部の形態から細分類も可能と思われる。

3．**浅鉢形・皿形**（第44図58～65）

基本的に広口で、推定器高が鉢形器種より浅く、推定法量(サイズ)も小さくなると思われるものを浅鉢形、さらに器高：口径の割合差が大きくなるもの(口径に対して器高がより浅めになるもの)を皿形と捉えた。

4．**碗・杯形**（第44図66～68）

推定法量(サイズ)がかなり小さくなるグループで、本報告ではいわゆる「ミニチュア土器」も含意している。なお、グスク時代相当遺跡における碗形・杯形・ミニチュア土器の出土例としては、我謝遺跡や糸数グスク、屋良グスク、喜屋武グスク(註7)、阿波根古島遺跡(註８)、銘苅原遺跡などが挙げられる。

5．**壺形**（第45図69～77）

概ね外反・外傾する口縁部をもつが、他の器種に比べ口径が狭く頸部も締まり、胴部は膨らんだ貯蔵形態を呈する器形。口縁部から胴部にかけての形態およびその立ち上がり具合をもとに、下記のａ～ｃに分類を試みた。

a類　口頸部の屈曲度合は強く、断面観が「く」字状を呈するもの。口縁部は直線的に外傾し、口唇端から頸部まで概して短い。

b類　頸部の屈曲が上記のａ類に比べて緩く、口縁部は丸みをもって外反し、ナデ肩を呈する。

c類　口縁部は概して短く、直口状に立ち上がり、頸部から丸みを帯びてナデ肩気味に胴部に移行していく。

他方、第45図77は孔を有する把手状の突起部分で、器部の彎曲度合もあわせ壺形の肩部付近と目される。

6．**底部資料**（第45図78～88）

口頸部資料と接合困難な断片的資料をここで総括的にまとめた。概ね当該期土器に普遍的に見られる、底径の広い平底形態である。外底面の立ち上がり際や胴部への開き具合で分類を試みた。

a類　外底面からの立ち上がり際に明確な稜を伴うグループ。

b類　底面際の立ち上がりが緩やかなカーブを描き、明瞭な稜を形成しないグループ。

c類　底面際の直上付近で僅かにくびれ、胴部へほぼ直線的に移行していくグループ。

第Ⅱ群．グスク(系)土器以外の土器

本遺跡では、器面胎土の肉眼観察から第Ⅰ群のグスク(系)土器とは様相の異なる土器も得られている。概ね泥質だが第Ⅰ群に比べ重厚で色調も暗く、いわゆる「後期土器」と呼ばれるものの特徴を持つ。その出土量もあわせて遺跡外からの流れ込みのみと言い難い点もあるので、本報告では「グスク(系)土器以外の土器」として扱った。

Ⅱ-1．沖縄新石器時代後期(弥生時代～平安時代初頭併行期)に属すとみられる土器

いわゆる「後期土器」と呼ばれるもので、胴部片を除く出土点数は104点と一定量の出土が認められる。当該期

の土器様相は、甕形・深鉢形と壺形の２器種が主勢との見方が一般的であるが、本遺跡出土資料で器種が推定し得たのは、概ね前者の甕形・深鉢形である。壺形や浅鉢形・碗形、小型土器の可能性が考えられる資料も数点あるが、すべて小破片で確実な器種類別には至らなかった。本報告では、口頸部の資料は有文・無文で区別し、底部資料に関しては、最近の当該期土器研究を意識し、尖底土器様式とくびれ平底様式の二者に類別した。

有文土器（第43図３～７）

有文土器は量的に少ない。横位の粘土突帯を口縁部の下位に巡らすもの（ａ類）と、口唇部刻目文や沈線文様が施されるもの（ｂ類）の二者に類別できる。なお、前者の突帯文主体の土器についてはグスク（系）土器の羽釜と文様形態等で似るが、器面観察から第Ⅰ群グスク（系）土器と区別が可能と捉え、第Ⅱ-１群土器のなかで扱った。

ａ類　突帯文を主体とするグループ（第43図３、４）

口縁部の下位に粘土突帯を巡らせるものである。

ｂ類　沈線文・口唇部刻目文を主体とするグループ（第43図５～７）

無文土器（第43図８～12）

当該土器の大部分を占める。口縁部形態および口縁・頸胴部の移行具合から、下記のａ・ｂ類に分類を行った。口縁部形態において、さらなる細分類も可能と思われる。

ａ類　外反・外傾する口縁部を基調とするグループ（第43図８、９、11、12）

i.　略「く」字状を呈し、内面に明瞭な稜線を伴う直線的な外反が認められるもの。

ii.　緩やかな弧状外反で、上記ｉのような口縁屈曲部に明瞭な稜形成がみられないもの。

iii.　直口気味の口縁端部に粘土を充填し、外側へ肥大気味に成形するもの。

ｂ類　直口ないし微弱な内彎・内傾の傾向が認められるグループ（第43図10）

底部資料

尖底と平底が認められる。本報告では伊藤慎二氏の様式区分名称（註9）などを参考に下記のａ・ｂに分類した。

ａ類　無文尖底様式に属するもの（第43図13、14）

無文尖底様式に包摂されると思われる乳房状尖底の底部資料が２点得られている。いずれも平坦面の形成が認められることから、くびれ平底様式と編年的に近位置にある蓋然性が高い。

ｂ類　くびれ平底様式に属するもの（第43図15～17）

Ⅱ-２．不詳土器

ここで報告する土器（第43図18～22）は、器面胎土の肉眼観察では上述の第Ⅱ-１群土器（後期土器）に酷似し、第Ⅰ群のグスク（系）土器とは明瞭に区別ができながら、形態の観点からはグスク（系）土器の鍋形器種に似る印象を受ける。いわば両者の特徴を併せ持つグループとも捉えられる。当該土器は、未だ不鮮明な後期土器とグスク（系）土器の系譜関係を考える上で重要な意味を帯びていると思われることから、本報告では項を設けて扱った。

18は、底部を欠くも残存部の推定器形から第Ⅰ群土器の鍋形に似た広口器種になるものとみられる。20および22は胴最大径付近に横位の粘土突帯を巡らせ、羽釜状を呈した器形が窺えるものである。

第Ⅲ群．沖縄新石器時代前期（縄文時代相当期）に属すとみられる土器

本遺跡では沖縄新石器時代前期（高宮暫定編年前期）に属すとみられる資料も２点出土している（第43図１、２）。ともに器面保持が脆弱な砂質の土器で、砂粒・透明色鉱物粒等の露出が目立つ。

１は、その口縁部形態および文様帯構造から、前Ⅳ期（縄文後期相当）の伊波式・荻堂式系列の型式範疇に含め得ると考えられる資料である。緩やかな外反口縁で、口縁上端付近に押捺刻文で横位に３条、その下部に２条単位の斜位沈線文が鋸歯状に続く文様構成となっている。最下層（第９層）検出面から得られているが遺跡後背の丘陵部付近からの流れ込みと類推される。２は、胴部の小破片であるが、器外面に棒状工具による連続文が認められる。１に近い時期かと思われるが、文様構成については判然としない。

小結

本遺跡出土の土器は、先にも述べたように第Ⅰ群土器が量的趨勢において主体となっており、また九州産滑石製石鍋や類須恵器、中国産白磁玉縁碗などの搬入遺物群からみて、グスク時代と呼ばれる時期でも古手の時期に属するものと類推される。以上の点にいわゆる後期土器（第Ⅱ-１群）が一定量出土している事も踏まえると、沖縄新石器時代の後期後半からグスク時代の初期段階にかけての様相を考えるうえで有益な資料と目される。特に本報告中の第Ⅱ-２群土器は、後期後半のくびれ平底様式群とグスク土器のいわゆる広底様式群、両者の系譜的な関係を考えるうえで留意すべき資料と思われる。本遺跡の主勢となるグスク土器に、滑石製鍋の模倣以外に、糸数

グスク出土の鉄鍋模倣土器(報文中の鍋形Ⅴ類，註5)や稲福遺跡の白磁玉縁碗を模したとみられる碗形土器(註10)、我謝遺跡出土の中国産磁器皿を模倣したと目される皿形土器(註3)などがあり、舶載容器の形態模倣ならびに、その器種バリエーションの多様化も当該期土器の特徴のひとつといわれる。本遺跡でも滑石製石鍋の模倣とみられるグループ(第43図24や同図29、30など)が一定量得られている。第45図77の胴部片資料もあるいは舶載陶器外耳壷(褐釉陶器外耳壺か)の形態模倣の可能性も考えられる。他方で、胎土混入鉱物と器種の相関関係について、特に滑石粒混入土器では器種が窺えるものは鍋形にほぼ収束される結果(21点中17点)となった。この傾向は銘苅原遺跡や森川原遺跡でも同様にみられるようである。

〈註〉

註1. 安里進 他「グシク土器の地域色と『くに』・『世』」『日本民族文化とその周辺』国分直一博士古稀記念論集編纂委員会 1980年

註2. 呉屋義勝・山里昌次・豊里友哉 他『真志喜森川原遺跡』宜野湾市文化財調査報告書第18集 宜野湾市教育委員会 1993年

註3. 大城慧 他『我謝遺跡』西原町文化財調査報告書第5集 西原町教育委員会 1983年

註4. 玉城安明・仲宗根啓 他『銘苅原遺跡』那覇市文化財調査報告書第35集 那覇市教育委員会 1997年

註5. 金城亀信 他『糸数グスク—発掘調査報告書』玉城村文化財調査報告書第1集 玉城村教育委員会 1991年

註6. 島袋洋 他『屋良グスク』嘉手納町文化財調査報告書第1集 嘉手納町教育委員会 1994年

註7. 大城剛 他『喜屋武グスク』具志川市教育委員会 1988年

註8. 金城亀信 他『阿波根古島遺跡』沖縄県文化財調査報告書第96集 沖縄県教育委員会 1990年

註9. 伊藤慎二「沖縄編年の現状と諸課題」『史学研究集録』第19号 國學院大學大学院日本史学専攻大学院会 1993年

註10. 當眞嗣一・金城亀信 他『稲福遺跡発掘調査報告書』沖縄県教育委員会 1983年

第7節 土製品（第45図89・図版16）

土錘に似た製品が1点出土している。ややいびつな円筒状で長軸方向に孔を貫通させるが、垂飾品など錘以外での用途の可能性も考えられる。銘刈原遺跡でも類例が確認されている(註1)。計測重量6.9ｇ。し-25 5層出土。

註1. 玉城安明 他『銘苅原遺跡』那覇市文化財調査報告書第35集 那覇市教育委員会 1997年

第13表　土器出土状況（遺構出土）

層	出土地	遺構	第I群 滑石粒混入土器 鍋形 底部 (I)-イ類	第I群 鍋形 口縁部 a類	鍋形 口縁部 b類 i	鍋形 口縁部 b類 ii	鍋形 口縁部 b類 iii	鍋形 把手・突起部 ②類	鍋形 把手・突起部 ③類	鍋形 把手・突起部 ④類	鉢形 口縁部 b類	浅鉢・皿形	壺形 口縁部 a類	壺形 口縁部 c類	底部資料 底部 a類	底部資料 底部 b類 i	底部資料 底部 b類 ii	底部資料 底部 c類	器種不詳 口縁部	器種不詳 底部	第II-1群 無文 口縁部 a類 i	第II-1群 無文 口縁部 a類 iii	第II-1群 無文 口縁部 b類
8層	し-25	イ列4																		1			
	し-26	T列11																	1				
	す-22	Pit1									1												
		Pit8																	1				
		炉跡														1				1			
	す-21	Pit19	1																				
	す-25	J列10																1					
	せ-21	Pit1				1				1							1		1				
		Pit7																	1	2			
		Pit23																	2				
	せ-22	Pit2														1							
	せ-23	Pit6					1																
	せ-24	Pit7								1													
		Pit11		1																			
		Pit25							1														
	せ-26	H列4														1							
	そ-22	Pit22				2																	
	た-23	Pit17															1						
9層	し-19	Pit3															1						
		Pit8				1																	
	し-20	Pit3																	1				
		Pit4					1										1						
		Pit37-b									1						1	1	1	2			
		Pit37-c				1											1						
		Pit50															1						
		Pit50-b															1						
	し-21	Pit5					1																
		Pit6				1													1				
		Pit12							1							1							
		Pit13															1		1				
		Pit21					1																
		Pit10-a													1						1		
		Pit29																	1				
	す-19	Pit15												1			1						
		Pit21															1						
		Pit31															1		1				
		Pit32															1						
	す-20	Pit6															1						
		Pit22																		1			
	す-21	Pit3									1												
		Pit11																			1	1	
		炉跡				1																	
	す-22	Pit1								1													
		Pit18															1						
		Pit21																					1
	せ-21	Pit2						1															
		Pit3																				1	
		Pit10											1										
	せ-22	埋葬遺構1																		1			
	そ-22	Pit1			1																		
	そ-23	Pit28		1																			
		土坑1																	1				
	た-22	Pit8																	1				
		Pit20						1															
	た-23	土坑1								1													
		埋葬遺構3										1				1		1					
	た-24	炉跡		1																			
	つ-23	埋葬遺構4								1									1	1			

注 溝:溝状遺構。

第14表　土器出土状況

土器分類				出土地点	1層	2層	2層・上	2層・中	2層・下	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	溝A	溝B	溝C	溝D	溝E	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	溝1	溝2	溝4	石列1・b	客土	覆土	盛土	撹乱	不明	合計
第Ⅰ群	鍋形	口縁部	a類							1		4		4	9	2		10	1				1											32
			b類	i						2	1	7	2		5	3	1	10	4	1							1				1	1	1	40
				ii	2					3	1	2	2	10	4	4		13	6		2										1			50
				iii								6	1	1	4	3		7	3		1													26
				iv								2		1				1													1			5
		口～胴	b類	ii												3																	1	4
		把手・突起部	①類							1	1				1			1					1											5
			②類		1					1		6	1	1	3	2		2	1	1						1					1			21
			③類		1			2		1	5	16	4	4	4	4	1	1	2	1			2						1		3	1	1	54
			④類		6	2	5	2	1	6	8	28	5	10	10	3		4	1	5	1	2	1	2					1		3	1	5	112
			⑤類			1	1			1	1	3	1	2	2								2								2			16
	鉢形	口縁部	a類	i	1						1							1															1	4
				ii										2				1														1		4
			b類									3		1	1	4																		9
			分類不詳											1				1	1												1			4
		口～胴	b類				1					1		1											2		1							6
	浅鉢形・皿形						1					2		1	1	1	1	1	1															9
	碗・杯形	口縁部										1		1	1			1				1												5
		底部										1																						1
	壺形	口縁部	a類								1	3	2	2	1	1		3															1	14
			b類									3		4	2			1																10
			c類							1					1	1																		3
	底部資料	底部	a類									3	2	2		1		7	1												1			17
			b類	i								6	4	8	6	3		8	4														1	40
				ii		1				4	4	20	7	11	10	13		25	10	4	2	1					1				4		2	119
				iii	1							1					1		1															4
			c類				1			2		6	2	1	5	3		5	2	1											1		1	30
			分類不詳															1																1
	土製品											1																						1
	器種不詳	口縁部			7	2	2	1	2	10	9	52	17	52	22	13	1	24	7	2	2	4						1	1		5	4	3	243
		底部				1	1			4	2	24	10	10	19	6	2	23	6	1		1					1		1		1		1	114
	合計				19	7	12	5	3	37	34	201	60	130	111	70	7	151	51	16	8	9	7	2	2	1	4	1	4	0	25	8	18	1003
滑石粒混入土器	鍋形	口縁部	(Ⅰ)	c類	1							4	1	4					1	1				1						1	1			15
		底部	(Ⅰ)	a類											1			1			1													3
	底部資料	底部	(Ⅰ)	b類														2																2
			(Ⅱ)															2																2
	合計				1	0	0	0	0	0	0	4	1	4	1	0	0	5	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	22
第Ⅱ-1群	有文	口縁部	a類									2																						2
			b類							1	1																							2
	無文	口縁部	a類							1									1				1	1										4
				i						1	1	3			2	1																		8
				ii								2		5	1			1	2				1								1			13
				iii						1		1		2	1	1		2											1					9
			b類		1	4				3	3	17	3	6	5	5		7		2			1								1		1	59
		口～胴	a類	i												1																		1
	底部資料	底部	a類									2				1																		3
			b類													1		2																3
	合計				1	4	0	0	0	7	5	27	3	13	9	10	0	12	3	2	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	104
第Ⅱ-2群	口縁部														3			1	1															5
	合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
第Ⅲ群	口縁部															1																		1
	胴部				1																													1
	合計				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

※ 溝:溝状遺構。

第15表　土器観察一覧(1)

単位：cm

挿図番号 図版番号	群	土器分類	口径 底径 器高	胎土質 混和材 器面観察	器形態・成形・文様等の特徴	器面調整	色調 ①器外面 ②器内面	出土地 層/遺構
第43図1 図版14	第Ⅲ群・前期系	伊波・荻堂式系列	— — —	砂質/混和材が器表面露出。粗砂粒主体に石灰質粒・透明色鉱物粒を混和。	若干開く口縁部形態。口縁端には区画文様帯として横位に連続短沈線文を3条配し、下位に斜位沈線を鋸歯状構成で施文。	器面保持悪く、調整痕は不詳。	①明赤褐色 ②明赤褐色	そ-22 9層検出面
第43図2 図版14		—	— — —	砂質/砂粒主体に赤色土粒・透明色鉱物粒を混和。	棒状工具による押引に似た連続点刻文を規則的?に施文。	器面保持悪く、調整痕は不詳。	①にぶい橙色 ②橙褐色	せ-26 1層
第43図3 図版14	第Ⅱ-1群・いわゆる後期土器の範疇	後期系 有文a類	口=18.2 — —	泥質/石灰質粒・細砂粒	ほぼ直口器形だが、口縁部外端は突出し、頸部以下は微弱に膨らむ。口縁下部に、粘土突帯を横位に囲繞貼付。	器面内外ともに横位ナデ。	①明赤褐色 ②明赤褐色(外面より若干暗め)	せ-24 5層
第43図4 図版14		後期系 有文a類	— — —	泥質/石灰質粒	基本的形態は3と同様、口縁下に粘土突帯を鍔状に巡らすが、サイズは小振り。	器面内外ともに横位ナデ調整。	①橙褐色 ②明赤褐色	し-25 5層
第43図5 図版14		後期系 有文b類	— — —	泥質/石灰質微粒・黒色鉱物粒を僅量混和。	緩やかな外反口縁で、口唇端に刻目を施文。	内外面ともにナデ調整、口縁下部に指圧痕?	①橙色 ②にぶい黄橙色	す-24 3層
第43図6 図版14		後期系 有文b類	— — —	泥質/石灰質粒	全体の器形態は不詳。口縁部はほぼ直口。口縁下に豆瘤状の粘土充填、その輪郭を沈線で強調する。	器面内外ともに横位ナデ調整。	①明赤褐色 ②灰褐色	せ-24 4層
第43図7 図版14		後期系 有文b類	— — —	砂泥質/赤色土粒・細砂粒・黒色鉱物粒	全体の器形態は不詳だが、横位方向にやや粗雑に沈線を施す。	器外面は横位ナデ、内面は器面保持悪く不詳。	①にぶい橙色 ②にぶい橙色(一部、橙色)	す-23 5層
第43図8 図版14		後期系 無文a-i類	— — —	泥質/石灰質粒を主体に黒色鉱物粒を僅量混和。	「く」字状の外反口縁をもち、先端に尖り気味の断面観を呈す。	器面内外ともに、横位ナデ。口縁直下に指頭圧痕を確認。	①明赤褐色 ②明赤褐色	ち-23 8層検出面
第43図9 図版14		後期系 無文a-i類	— — —	泥質/微砂粒・赤色土粒を少量混和。	同図8と同様、略「く」字状の外反口縁だが、口縁端は逆に肥大気味となる(内端にも微弱に突出)。	器面内外ともに、横位ナデ調整。	①明赤褐色 ②暗褐色	さ-26 5層10～20
第43図10 図版14		後期系 無文b類	— — —	泥質/石灰質微粒をごく僅量混和。	微弱な内彎器形。口縁部上端の平坦面整形で、内外端部が略「T」字状に、特に口縁内端が突出する。	器外面および口唇上面には、比較的丁寧な横位ナデ。	①褐灰色 ②灰赤色	す-21 3層
第43図11 図版14		後期系 無文a-i類	口=18.6 — —	泥質/細砂粒・黒色鉱物粒・赤色土粒。	若干膨らむ器体に、微弱な外反口縁を伴う深鉢器形と類推。口縁部成形は雑で、粘土接合痕も比較的明瞭。	内外ともナデ調整。器内面に植物質調整具の痕跡とみられる条痕。	①大部分が火熱作用で黒褐色に ②にぶい黄褐色	し-21 9層 pit10-a
第43図12 図版14		後期系 無文a-ii類	口=22.4 — —	泥質/赤色土粒・石灰質微粒を少量混和。	頸部で若干締まり、緩やかな外反口縁がつづく。口唇端部の面整形により、外端が微弱に突出している。	横位ナデ主体。外面に条痕、内面の頸部付近で削り整形痕確認。	①にぶい赤褐色 ②赤褐色	し-27 Ⅱ層
第43図13 図版14		後期系 底部a類	— — 底=4.0	砂泥質/細砂粒・赤色土粒を混和。器面の混和材露出もみられる。	平坦面をもつ尖底に似た底部。底面縁部は丸みを帯びる。内底には明確な面の形成みられず。	内面の保持悪く、調整は不詳だが、器外面にはナデ。	①にぶい橙色 ②明赤褐色	せ-25 5層
第43図14 図版14		後期系 底部a類	— — 底=4.4	砂泥質/石灰質微粒・黒色鉱物粒をごく僅量混和。	同図13に似た、やや重厚な造りの尖底状平底。内面には意識的な面形成が認められる。	器面内外ともに、ナデ仕上げ。	①にぶい橙色 ②明赤褐色	す-27 9層
第43図15 図版14		後期系 底部b類	— — 底=6.2	砂質/細砂粒・石灰質粒・赤色土粒・透明色鉱物粒(石英か)	円盤状に似た、若干厚手の平底底部から側部が若干くびれ胴部に移行。	内外面ともナデ仕上げ。(器外面には斜位・横位方向)。	①にぶい橙色(底面は明赤褐色) ②浅黄橙色	そ-23 9層
第43図16 図版14		後期系 底部b類	— — 底=8.6	砂泥質/赤色土粒・石灰質粒	底面縁部が張り出し、くびれた底部から膨らむ器体に移行。	器外面はナデ主体。内面の底部には、削りらしき調整痕。	①にぶい橙色 ②橙色	し-25　9層 溝状遺構B
第43図17 図版14		後期系 底部b類	— — 底=10.4	泥質/黒色鉱物粒・透明色鉱物粒を比較的多量に混和。	くびれ度合の弱い平底で、全体に薄手成形だが、殊に底面部は器厚薄い(約5㎜)。	外面はナデ調整および指圧痕。内面には刷毛目状の条痕みられる。	①にぶい黄褐色 ②にぶい黄橙色	す-25　9層 溝状遺構B
第43図18 図版14	第Ⅱ-2群・不詳土器	不詳土器 無文	口=24.2 — —	泥質/細砂粒・石灰質微粒	微弱な内彎を呈する広口器形。口縁上端は平坦整形され、内端部が若干内側へ突出。	内外とも横位ナデ主体、口縁端部(内外面)には指圧整形痕が並列。	①明赤褐色 ②明赤褐色	せ-24 8層検出面
第43図19 図版14		不詳土器 無文	— — —	泥質/細砂粒・石灰質粒を少量混和。器面に微かに小孔認められる。	緩やかな内彎口縁。口唇端の平坦面に浅い沈線をもつ。口縁外端に粘土を充填し、比較的丁寧に仕上げる。	器面内外ともに横位・斜位のナデ仕上げ。	①にぶい赤褐色 ②明赤褐色	す・せ-27 8層検出面
第43図20 図版14		不詳土器 鍔状突帯	口=24.1 — —	泥質/石灰質粒・黒色鉱物粒・赤色土粒を少量混和。	器体下部から緩やかに開く広口器形。口縁上端の平坦整形で内端部が微弱に突出。口縁下に断面三角粘土帯を鍔状に貼付。	器面内外とも丁寧な横位ナデ仕上げ。内面の口縁部付近には篦削りらしき整形痕みられる。	①大部分はスス受け、赤灰色 ②赤褐色	し-26 9層 溝状遺構C
第43図21 図版14		不詳土器 無文	— — —	泥質/石灰質微粒・透明色鉱物粒を僅量混和。	直口に近い器形で、口縁端は丁寧に平坦面を形成している。断面観では口唇直下部が微弱に薄くなる。	器面内外ともに横位ナデ調整	①灰褐色(口縁ススぬけ黒褐色) ②にぶい赤褐色	す-25　9層 溝状遺構B 地山直上
第43図22 図版14		不詳土器 鍔状突帯	— — —	泥質/黒色鉱物粒・赤色土粒・透明色鉱物粒	同図20と同様の器形と類推。粘土突帯を横位に貼付する。	器面保持悪く、調整痕は不詳。	①明赤褐色 ②赤褐色	グリッド不明 8層
第43図23 図版14	第Ⅰ群・グスク(系)	滑石粒混和土器 (Ⅰ)-1類	— — 底=10.2	細かい滑石粒をかなり多量に混和(金属質な光沢帯びる)。細砂粒・透明色鉱物粒も少量混入。	底面立ち上がり比較的緩やかなカーブ描き、境部に稜を形成せず。全体に丁寧な薄手成形(底面部で約6㎜)。	器外面は横位の篦削り整形後、横位ナデ。内面は器面状態は良くないが、ナデによる平滑整形。	①明褐色(底面は灰褐色に近い) ②灰黄褐色～灰黄色	す-25　9層 溝状遺構B す-24 8層pit19 検出面直下
第43図24 図版14		把手・突起 ①類 鍋形a類	口=26.6 — —	泥質/赤色土粒・褐色土粒を多量に混和、微砂粒・黒色鉱物粒もごく僅量混入。	器体下部から緩やかに開き微弱に内彎。口縁上端・把手上面は平坦整形され、外端が突出。長方形状の把手縁部は明瞭な角をもつ。	内外面とも横位ナデ主体。内面(特に口縁部付近)では横位・斜位の篦削り痕。	①明赤褐色 ②赤褐色	そ-24 8層検出面

第15表　土器観察一覧(2)

単位：cm

挿図番号 図版番号	群	土器分類	口径 底径 器高	胎土質 混和材 器面観察	器形態・成形・文様等の特徴	器面調整	色調 ①器外面 ②器内面	出土地 層/遺構
第43図25 図版14	第Ⅰ群・グスク(系)土器	把手・突起 ④類-ヨコ 鍋形b-ii	口=17.0 — —	泥質/赤色土粒を少量混和。器面は僅かにあばた状を呈す。	胴部より緩やかなカーブを描き内彎。口縁部断面観は丸みもち、端部側面には横形突起を貼付。	器面内外とも横位・斜位ナデが主体。	①明赤褐色 ②明赤褐色	し-25 9層 溝状遺構B
第43図26 図版14		把手・突起 ③類-ヨコ 鍋形b-i	— — —	泥質/褐色土粒・黒色鉱物粒をごく僅量混和。あばた状の器面。	内彎口縁で、口縁端側面に横形の把手状突起。口唇上面は雑な平坦整形、外端部が突出。	内外とも横位ナデ主体。器外面、部分的に篦整形痕みられ、突起部直下には指圧痕が並列。	①橙色 ②にぶい黄橙色 (口縁部付近は橙色)	す-22 7層
第45図27 図版14		把手・突起 ④類-ヨコ 鍋形b-ii	口=13.9 胴最大 =24.5 底=15.0	泥質/透明色鉱物粒・赤色土粒をごく微量に混和。器面は多孔質で、あばた状を呈す。	広口・広底器形。底部からほぼ垂直方向に胴部が立ち上がり、口縁部は内彎する。口縁部断面観は舌状を呈し、側面部に小さな横形突起を付す。器全体に歪みが若干見られ、上部から俯瞰するとやや楕円形呈す。	器外面保持悪いが、体部下位に篦削り痕(ナデ仕上)。内面は横位・斜位の刷毛目状条痕が内底面際までみられる。	①明赤褐色 ②灰黄褐色～にぶい黄褐色	せ-22 7層
第43図28 図版14		把手・突起 ③類-ヨコ 鍋形a類	— — —	泥質/赤色土粒をごく僅量混和。多孔質の器面であばた状呈す。	直口に近い微弱な内傾器形。口縁下部には大きな横形の把手状突起をもつ(先端部欠失)。	器面保持はあまり良好ではないが、内外ともナデ主体。把手部直下に指圧痕みられる。	①明赤褐色 ②明赤褐色	し-25 9層 溝状遺構B
第43図29 図版14		把手・突起 ①類	— — —	泥質/細砂粒・透明色鉱物粒(石英か)・黒色鉱物粒を少量混和。	ほぼ直口器形。口縁端側面に略長方形の大形把手を貼付。口唇上端・把手上面を平坦に整形。	器外面・把手部は比較的丁寧なナデ。内面は器面保持悪く、整形不詳。	①橙色 ②明赤褐色	す-24 4層
第43図30 図版14		把手・突起 ①類	— — —	泥質/赤色土粒・微砂粒を僅量混和する。ややあばた状を呈した器面。	直口器形で、口唇上端・把手上面を平坦整形。口唇内端はわずかに内彎。把手は規格的な稜形成だが、中央部は若干くぼむ。	器面内外とも丁寧なナデ仕上げ。把手の基部で僅かに指圧整形痕が残存。	①にぶい赤褐色 ②明赤褐色	し-20 3層
第43図31 図版14		把手・突起 ①類	— — —	泥質/微砂粒・赤色土粒を少量混和する。	口縁部は内彎し、内端が突出。口縁上端・把手上面は平坦整形。把手の両端をつまみ中央がくぼむ。	内外とも比較的丁寧なナデ主体だが、内面には指圧痕も若干みられる。	①褐灰色 ②明赤褐色	す-25 9層 溝状遺構B
第43図32 図版14		把手・突起 ①類	— — —	泥質/褐色土粒・微砂粒を僅量ながら混和。器面は僅かに小孔みられ、あばた状を呈す。	内彎器形で、口縁内端が内側にやや突出。略長方形の把手は下方が突き出るかたち。	内外とも丁寧なナデ。把手前面には磨き調整(滑沢あり)。内面に横位の篦削りらしき整形痕。	①にぶい赤褐色 ②明赤褐色	ち-26 Ⅱ層15～20
第43図33 図版14		把手・突起 ②類	— — —	泥質/赤色土粒を主体に、微砂粒・黒色鉱物粒を少量混和。	口縁端が欠失し、傾き度合などは不詳だが、口縁上端は平坦整形。把手は比較的重厚なつくり。	器面内外・把手部ともナデ仕上げ。	①橙色 ②にぶい黄橙色	し-27 8層
第43図34 図版14		把手・突起 ③類-タテ	— — —	泥質/赤色土粒・微砂粒を少量混和。	微弱な内彎器形。口縁上端はやや雑な平坦整形で、断面観は丸みをもつ。	外面は口縁部付近に横位の篦削りが施され、全体的に磨きに似たナデ仕上げ。把手部・内面ナデ。	①にぶい褐色 ②にぶい赤褐色	せ-25 5層
第44図35 図版15		把手・突起 ②類	— — —	泥質/細砂粒・赤色土粒を少量混和。	緩やかな内彎器形。把手中央部に指圧痕がみられ、下部はやや突出している。	器面内外ともにナデ仕上げ(内面横位ナデ)。	①明赤褐色 ②明赤褐色	す-22 8層
第44図36 図版15		把手・突起 ③類-タテ	— — —	砂泥質/赤色土粒を主体に微砂粒・石灰質粒をごく僅量混和。	微弱な内彎口縁で、内端部が若干突出。口唇上端及び突起部上面は入念な平坦整形。突起部の平面観は長楕円形を呈す。	内外ともナデ主体(内面は横位ナデ)。内面に篦削り整形痕、同じく口縁部付近に指圧痕が並列。	①明赤褐色(内面より若干暗め) ②明赤褐色	そ-23 8層0～5
第44図37 図版15		把手・突起 ④類	— — —	砂質/赤色土粒を少量混和。ややあばた状を呈した器面(内面でより顕著)。	微弱な内傾口縁。上端部の平坦整形なく、断面観は丸みを帯びる。	器面保持悪く、整形痕は不詳だが、内面には僅かに横位ナデ痕。	①橙色 ②にぶい赤褐色	せ-25 9層 溝状遺構B 地山直上
第44図38 図版15		鍋形a類	口=15.6 — —	砂泥質/微砂粒を主体に、赤色土粒も微量混入。あばた状を呈した器面。	胴部から口縁部にかけては緩やかに内傾するが、端部付近で直口。口唇上面は平坦面整形され、口唇部外端が外側へ微弱に突出。	器面内外とも比較的丁寧な横位ナデを主体。内面の口縁部付近に横位の篦削り痕を確認。	①灰白色(内面に比べ、やや灰黄色に近い) ②灰白色	す-25 9層 溝状遺構B
第44図39 図版15		鍋形a類	— — —	泥質(砂泥質に近い)/赤色粒・微砂粒をごく僅量ながら混和する。	直口器形。口唇上面の平坦面整形により、内外両端がやや広がり微弱な肥厚を呈す。	器面内外とも横位ナデ仕上げ。外面の口縁直下に指頭痕あり。	①明赤褐色 ②明赤褐色(やや明るめ)	た-24 8層
第44図40 図版15		鍋形a類	— — —	砂泥質/赤色土粒を主体に、微砂粒もごく僅量混入。	ほぼ直口器形を呈す、ごく微弱な内彎口縁。	器外面は横位ナデ主体で、口縁外端付近に指圧痕が並列。内面は器面保持悪く不詳。	①にぶい黄(内面色調ややオリーブ色帯びる) ②にぶい黄橙色	し-20 7層
第44図41 図版15		鍋形b-i類	— — —	泥質/石灰質粒・褐色土粒をごく僅量混和。	内彎口縁。口縁端部に意識的な平坦面整形が施され、内外両端が拡がり略「T」字状を呈す。	全体に粗雑な整形。器面内外とも横位・斜位の篦削り整形後に、ナデ仕上げ。	①明赤褐(部分的にぶい褐色) ②明赤褐(やや明るめ)	し-26 9層 溝状遺構C 埋土0～5
第44図42 図版15		鍋形b-ii類	— — —	泥質/黒色鉱物粒をごく僅量混和。	やや厚手で、緩やかな内彎器形。口縁端部は平坦面をもたず、丸みを帯びる。	器面保持悪く、調整は不詳だが、内面一部に横位の篦削りらしき整形痕。	①にぶい黄橙色 ②にぶい黄橙色	せ-20 7層
第44図43 図版15		鍋形b-ii類	口=22.4 — —	泥質/僅かだが器面には小孔みられあばた状を呈す。細砂粒を混入、透明色鉱物粒らしき混和粒も僅量有り。	口縁下部に最大径を持つ内彎器形。口縁端部に意識的な面整形が窺えるが、全体に簡略的で、丸みを帯びる。	内外とも部分的に篦削り痕がみられ、全体ではナデ主体。	①灰褐色(口縁部は明赤褐色) ②明赤褐色	せ-25 9層 溝状遺構B
第44図44 図版15		鍋形a類	口=21.9 胴最大 =22.8	泥質/赤色土粒・褐色土粒を主体に混和し、微砂粒もごく僅かに含む。内外とも、あばた状の器面。	器体下部から口縁にかけ緩やかなカーブを描く内彎器形。口縁上端は雑な平坦整形。	全体にやや雑な整形。外面は横位・斜位の篦削り後、ナデ仕上げ。内面の口縁付近には横位方向に刷毛目状条痕をもつ。	①明赤褐色 ②にぶい橙色	さ-20 7層
第44図45 図版15		鍋形b-ii類	口=22.2 胴最大 =25.4	泥質/比較的粗粒の赤色土粒を主体に混和。器面には小孔もち、ややあばた状を呈す。	内彎器形。全体的に粗雑な成形のため、口唇端上面の整形もいびつで、丸みを帯びる。粘土接合痕も比較的明瞭。	内外ともナデ調整が主体で、指圧整形痕も顕著。外面では篦削り整形痕も確認。	①にぶい橙色～にぶい黄橙色 ②にぶい黄橙色	つ-23 9層 埋葬遺構4 人骨頭部に供献

第15表　土器観察一覧(3)

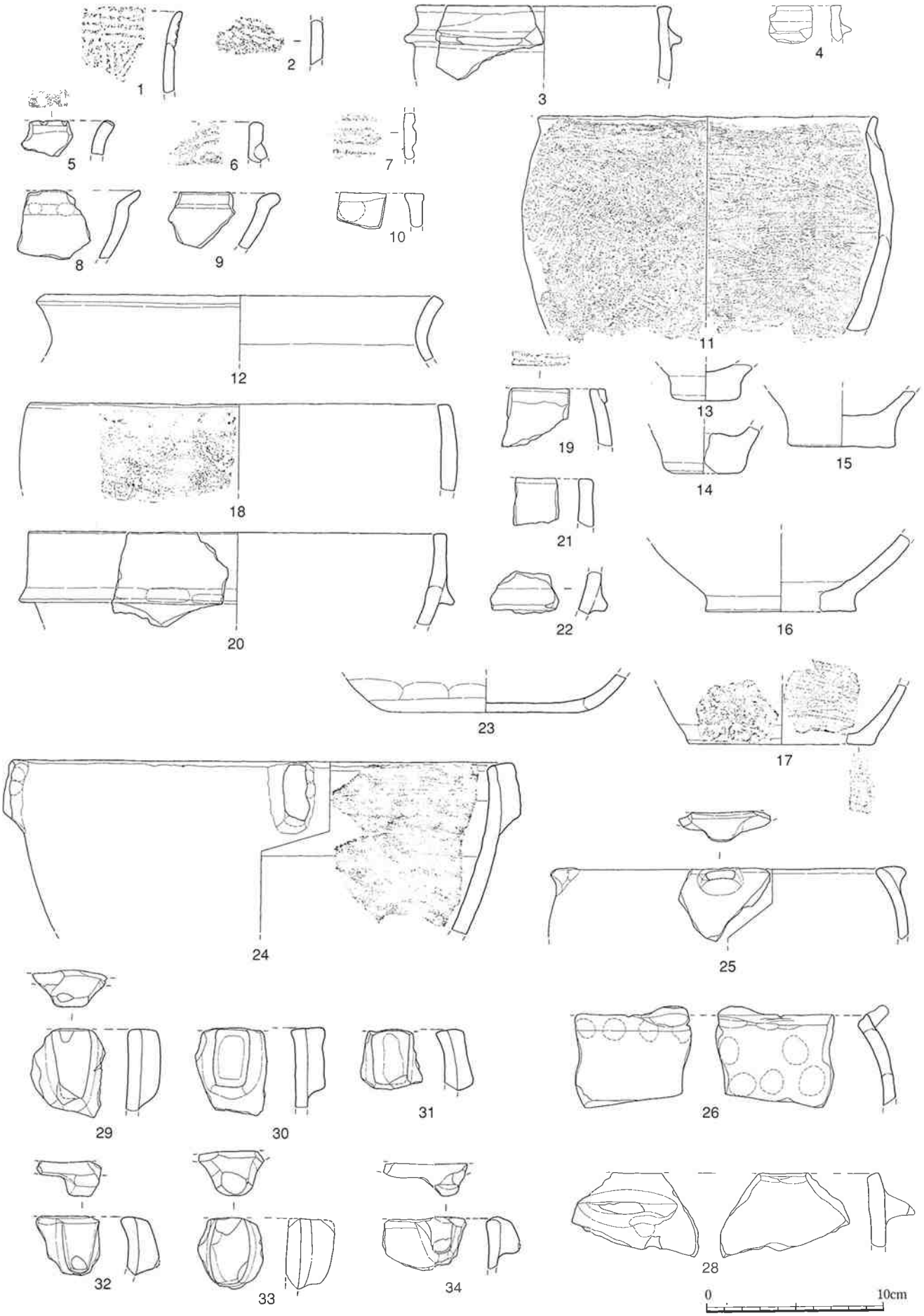
単位：cm

挿図番号 図版番号	群	土器分類	口径 底径 器高	胎土質 混和材 器面観察	器形態・成形・文様等の特徴	器面調整	色調 ①器外面 ②器内面	出土地 層/遺構
第44図46 図版15	第1群・グスク(系)土器	鍋形b－ii類	口=16.2 — —	泥質/微砂粒・石灰質粒をごく僅量ながら混入。ややあばた状を呈す器面。	緩やかな内彎器形。全体的にやや雑な成形。	器外面は保持悪く、整形不詳だが、指頭痕が顕著にみられる。内面は横位ナデで、一部に指頭痕。	①橙色 ②橙色(外面より幾分暗め)	し-25　9層 溝状遺構B 埋土15～20
第44図47 図版15		鍋形b－iii類	— — —	泥質/褐色土粒を僅かに混和。あばた状の器面をもつ。	口縁部付近の整形痕の方向等から内彎器形と類推。緩やかなカーブを描き、口縁端部を舌状に尖らす。	器外面の保持悪く、調整は不詳だが、口縁部付近に横位の篦削りを確認。内面は斜位ナデ、一部に指圧痕が残存。	①にぶい黄橙色 ②明黄褐色	し-22 6層
第44図48 図版15		鍋形b－iv類	— — —	泥質/褐色土粒・透明色鉱物粒をごく僅量混和。ややあばた状を呈した器面。	比較的薄手の内彎器形。口縁先端部を舌状に尖らすが、外側に意識的な肥厚成形(断面観は玉縁状)。	器面内外ともナデ調整を主体。外面の口縁下に篦整形痕が僅かに残存。	①明赤褐色 ②橙色	せ-24 5層
第44図49 図版15		鍋形b－iv類	口=17.6 — —	泥質/赤色土粒を主体に、微砂粒も僅量ながら混入する。	胴部から緩やかに内彎。口縁端を肥大させ、内端に突出させる。外端側部には稜をもつ。	器面内外とも横位ナデ主体。内面は横位の篦削り整形後、ナデ仕上げ。	①にぶい赤褐色 ②明赤褐色	せ-24 8層下部
第44図50 図版15		鉢形 a－i類	— — —	泥質/褐色土粒・石灰質粒をごく僅量混和する。器面には部分的に小孔をもちあばた状を呈す。	器壁は比較的厚手。緩やかな外反口縁で内面部に稜線はみられない。	外面は横位・斜位ナデ痕僅かに残存。内面保持悪いが、口縁内端に篦整形(ナデか削りか曖昧)。	①にぶい黄橙色～明黄褐色 ②にぶい黄橙色	せ-25 4層
第44図51 図版15		鉢形 a－ii類	口=22.2 — —	泥質/赤色土粒・褐色土粒を僅量混和。ややあばた状を呈す。胴上位に穿孔。	微弱に膨らむ胴部に、稜を伴う「く」字状の外反口縁。頸部屈曲部の整形によるのか口縁端がやや肥大気味。	内外とも横位・斜位ナデ主体。口頸部付近に横位の篦削りに似た整形痕。	①にぶい橙色 ②にぶい橙色	す-25 送油管溝内 (撹乱)
第44図52 図版15		鉢形 a－ii類	口=11.0 — —	泥質/赤色土粒・石灰質粒をごく僅量混入する。器面は若干、多孔質。	器体下部から口縁部へ緩やかなカーブを描く開口器形で、口縁端部は外側へ短く折れる。	内外とも篦削り整形後、横位ナデ。内面では刷毛目状条痕も確認。外面頸部以下に指圧痕並列。	①橙色 ②にぶい黄橙色(一部、浅黄橙色)	す-25　9層 溝状遺構B
第44図53 図版15		鉢形 分類不詳	— — —	泥質/赤色土粒・褐色土粒を少量混和。あばた状に似た器面。	微弱に膨らむ胴部からやや内彎し、略「く」字状を呈す外反口縁がつづく。内面屈曲部には緩い稜線をもつ。	内外とも基本的にナデ仕上げ。外面は雑な整形で、一部に篦削り痕。	①橙色(内面より赤み強め) ②橙色	こ・さ-27 9層 溝状遺構D
第44図54 図版15		鉢形b類	口=16.1 — —	泥質/赤色土粒・褐色土粒をごく僅量混和。あばた状の器面。胴上位に穿孔あり(補修孔か)。	微弱に膨らむ胴部から頸部はやや締まる。口縁部は内面立ち上がり際に不明瞭な稜を伴い、外側へ僅かに肥厚し、口唇端は内側に向く。	内外とも横位ナデ主体。外面頸部に篦削り。口縁部成形時の指圧痕が明瞭に残存。	①橙色(内面より赤み強め) ②橙色	せ-21 5層
第44図55 図版15		鉢形b類	口=13.0 胴最大 =18.6	泥質/微小な滑石粒の混和認められる。あばた状の器面。	球状に似た膨らむ胴部に、略「く」字状を呈す比較的短い口縁部がつづく器形で、最大径は胴中位付近にくる。	器外面頸部以下、口縁部内面とも篦削り痕を確認。やや雑なナデ調整。外面の口縁屈曲部には成形時の指圧痕が並列。	①灰白色 ②灰白色	す-22　7層、8層pit1、炉跡 す-25　5層 せ-20　2層 た-25　溝4
第44図56 図版15		鉢形b類	口=11.0 胴最大 =15.1	泥質/赤色土粒・褐色土粒を比較的多く混入する。	器壁厚かなり薄手で、丁寧な成形。同図55と同様、球状に近い膨らむ胴部に、「く」字状に口縁部が立ち上がる。	内外面とも比較的丁寧な整形。篦削りの後に、ナデ仕上げ。口縁部付近に指頭痕が一部残存。	①明赤褐色 ②にぶい橙色～にぶい黄橙色	す-21　9層 pit 3
第44図57 図版15		鉢形 分類不詳	— — —	泥質/微砂粒をごく僅量混和。器面はややあばた状に近い。	器体下部より口縁部へ、緩やかなカーブを描き開口。口縁端は微弱に屈曲し、口唇上に僅かな平坦面をもつ。	内外ともに篦削りの後、横位ナデ仕上げ。内面には指圧痕もみられる。	①明黄褐色 ②橙色	せ-25　9層 溝状遺構B (地山直上)
第44図58 図版15		浅鉢・皿形	— — —	泥質/微砂粒・赤色土粒を僅量混和。器外面ではあばた状呈す。胴中位に穿孔。	口唇外端がやや突出し、舌状に近い微弱な外反口縁。浅鉢の器体は下部が膨らみ底部へ移行。	内外とも、やや雑なナデ主体。器外面で部分的に篦削りらしき調整痕。	①橙色 ②明赤褐色	す-26　8層 列状pit K-L列 試掘内
第44図59 図版15		浅鉢・皿形	— — —	泥質/黒色鉱物粒ごく僅量混入。器面は多孔質。	胴部は微弱に膨らみ、口縁端部を外側へ僅かに突出させる(外端側部は尖り気味)。	器面内外とも、横位方向のナデ調整。	①にぶい褐色 ②明赤褐色(口縁部付近は外面の色調に近い)	そ-24 5層
第44図60 図版15		浅鉢形	口=17.8 胴最大 =18.1	砂泥質/褐色土粒・微砂粒を僅量混和。	微弱に膨らむ胴から、内彎気味に立ち上がる。平坦面を伴う、略「く」字状の外反口縁。口唇端部を欠失。	全体にやや雑な整形。内外ともナデ主体、器外面には指圧痕も割と顕著。	①橙色 ②橙色	そ-24 2層
第44図61 図版15		浅鉢形	— — —	泥質/透明色鉱物粒・赤色土微粒をごく僅量混和。	平坦面をもつ「く」字状の屈曲口縁をもち、同図60に似た器形が類推される。60より幾分か厚手。	器面保持あまり良くないが、外面および口唇上面に横位ナデ痕を確認。	①橙色(内面より赤み強い) ②橙色	た-23 9層 埋葬遺構3
第44図62 図版15		浅鉢形	— — —	泥質/赤色土粒・褐色土粒および黒色鉱物粒をごく僅量混入。あばた状の器面。	直口に近い器形。口縁部外端が若干肥厚し、口縁下の抉り(篦削り痕?)で強調される。	内外面ともナデ主体だが、口縁下部には部分的に篦削りらしき整形痕。	①明赤褐色 ②明赤褐色	そ-24 5層
第44図63 図版15		皿形	口=23.0 — —	泥質/赤色土粒・褐色土粒を少量混和。器面内外ともあばた状を呈する。	調整痕の方向から皿に似た器形と類推。全体に薄手成形だが、口縁部は緩やかに外傾し、僅かに厚手。	外面頸部以下および内面屈曲部に、横位の篦削り痕。全体はナデ仕上げ。	①橙色(底面部はにぶい褐色) ②にぶい橙色	し-25　9層 溝状遺構B
第44図64 図版15		皿形	— — —	砂泥質/褐色土粒を主体に、黒色鉱物粒も少量混和。外面はあばた状呈す。	口縁部付近で曲線的なカーブを描き、口縁端部は尖り気味。	器面保持悪く、調整痕は不詳。	①灰黄褐色(口縁付近は暗灰黄色) ②黄灰色	し-25　8層 溝状遺構A 埋土5～10 せ-21　5層
第44図65 図版15		皿形	— — —	泥質/黒色鉱物粒をごく僅量混入。あばた状の器面。	64と同様、開き気味の器体から、口縁部付近で緩やかな立ち上がりをもつ。口縁端までの器厚はほぼ一定。	器外面は指頭痕が比較的目立つ。内面はナデによる平滑整形。	①にぶい赤褐色 ②にぶい黄橙色	さ-27　9層 溝状遺構C 埋土30～35
第44図66 図版15		碗・杯形	口=7.4 底=4.8 高=2.6	砂泥質/黒色鉱物粒を多量に混和し、褐色土粒も僅量ながら認められる。	ややくびれた底部から口唇端へストレートに開口。推定法量からミニチュア土器に近い杯形と類推。	器面保持はあまり良くなく整形不詳だが、器外面の底部付近には横位ナデ痕が残存。	①にぶい黄橙色(一部、浅黄橙色) ②橙色	し-24 5層
第44図67 図版15		碗・杯形	— — —	泥質/赤色土粒を僅量混入。ややあばた状を呈した器面。	微弱な屈曲外反口縁をもち、断面観は略「く」字状を呈すが、内面屈曲部は緩やか。	全体に雑な整形。内外面に、部分的だがナデ痕みられる。	①灰黄褐色(内面より若干暗め) ②灰黄褐色	せ-20 7層

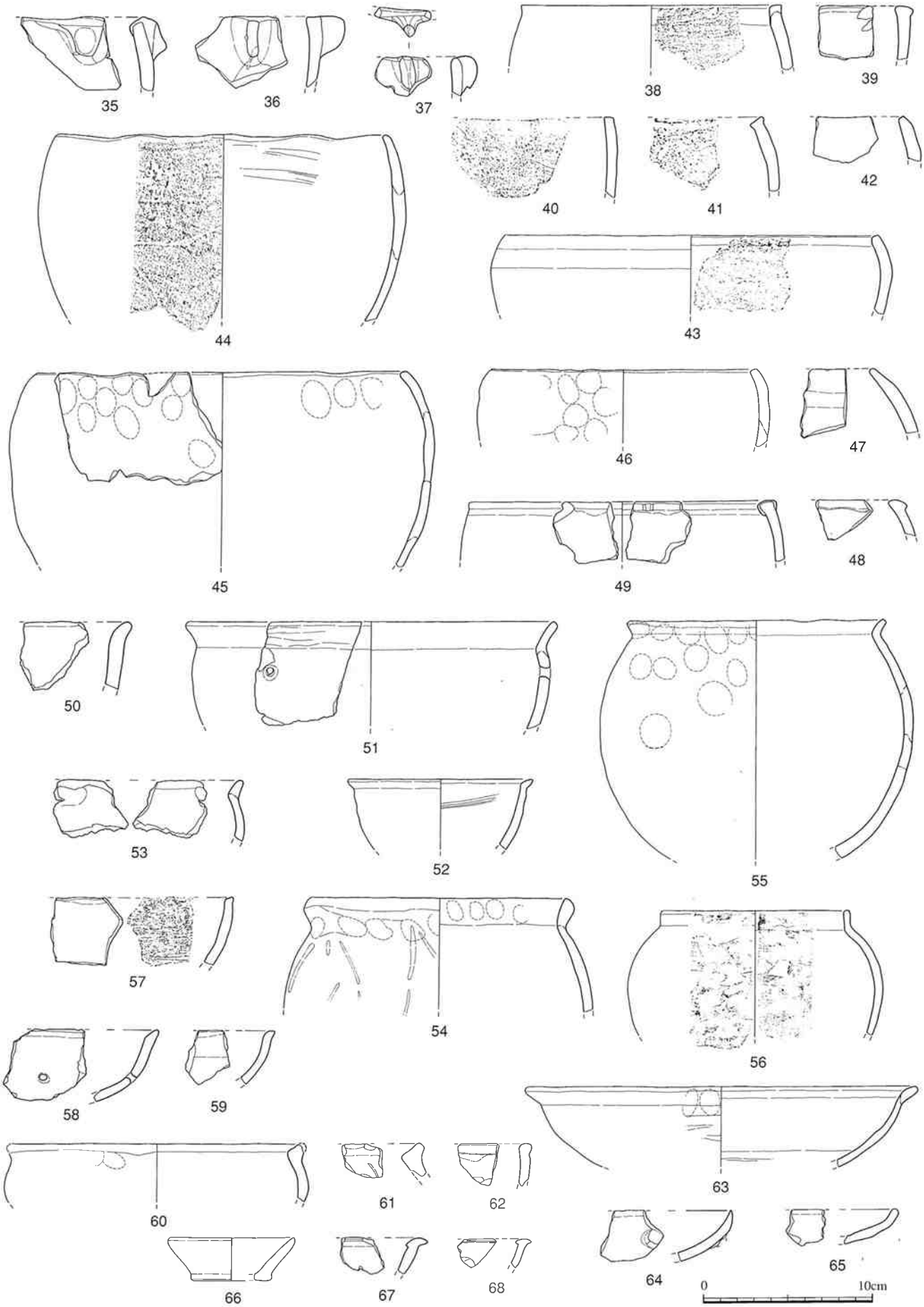
第15表　土器観察一覧(4)

単位：cm

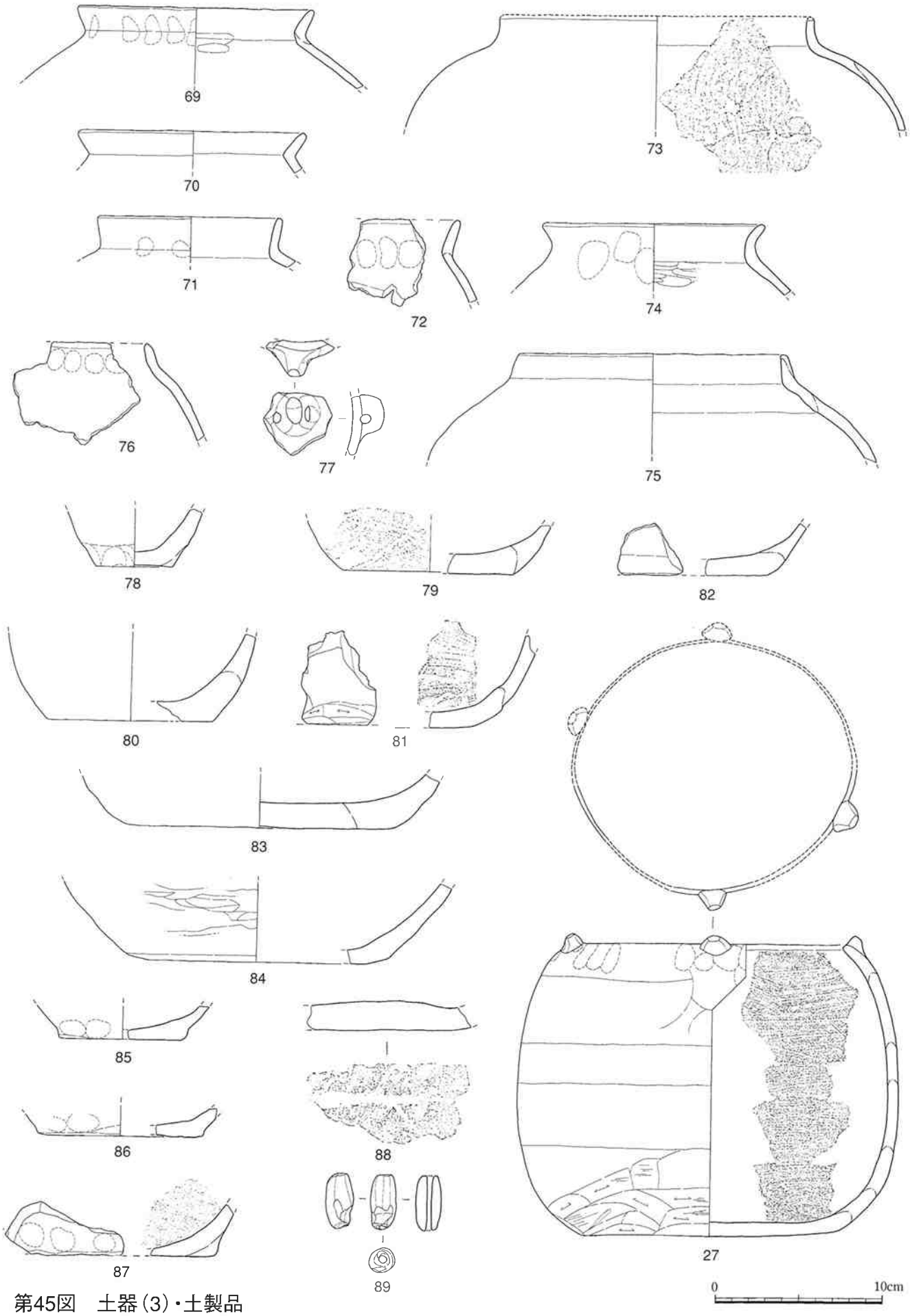
挿図番号 図版番号	群	土器分類	口径 底径 器高	胎土質 混和材 器面観察	器形態・成形・文様等の特徴	器面調整	色調 ①器外面 ②器内面	出土地 層/遺構
第44図68 図版15	第1群・グスク(系)土器	碗・杯形	— — —	泥質/微小なあばた状溶解痕が僅かに見られる。赤色土粒を少量混入。	断面観が略「T」字状を呈す口縁部。	器外面には、部分的にナデらしき整形痕。内面は器面保持悪く、不詳。	①橙色 ②橙色(外面と比べ幾分淡め)	つ-25 I 層 5~10
第45図69 図版16		壺形a類	口=14.0 — —	泥質/粗い赤色土粒・褐色土粒を多量混和し、石灰質粒も少量含む。	略「く」字状の外傾口縁で、頸部以下は直線的に移行。	内外とも、丁寧なナデ調整。外面の頸部付近には指頭痕が並列。内面には削りらしき整形痕。	①にぶい橙色~橙色 ②にぶい黄橙色	し-25　9層 溝状遺構B
第45図70 図版16		壺形a類	口=13.9 — —	泥質/褐色土粒をごく僅量混和。あばた状の器面。	頸部で「く」字状に屈曲外傾し、明瞭な稜線をもつ。	器面内外とも、横位ナデ主体。内面の口縁屈曲部に横位方向の篦削り痕。	①にぶい橙 ②にぶい橙色~橙色	そ-21　5層
第45図71 図版16		壺形a類	口=11.4 — —	砂泥質/赤色土粒・褐色土粒を少量混和し、石灰質粒もごく僅かながら含む。	「く」字状に屈曲外傾した口縁部。陵線・調整痕の方向等から、同図70より若干立ち上がる口縁部形態と類推。	全体に器面保持はあまり良好でないが、器外面に横位ナデ痕。	①橙色 ②橙色	せ-21　9層 pit10 60~75
第45図72 図版16		壺形a類	— — —	泥質/褐色土粗粒・赤色土粒を混和。器面は多孔質で、あばた状を呈する。	「く」字状の外傾口縁だが、屈曲部位の折れは緩く、明瞭な稜線をもたない。頸部以下は微弱に膨らむ。	器面保持はあまり良くないが、内外とも横位ナデ主体。外面の頸部には指頭痕が並列。	①にぶい橙色 ②浅黄橙~にぶい橙色	し-25 出土層不詳
第45図73 図版16		壺形b類	口=19.1 — —	泥質/黒色鉱物粒・褐色土粒を少量混入する。器面には僅かながら小孔みられややあばた状に。	口頸部の屈曲は緩やかで、膨らみ度合の強い胴部に移行。口唇端部を欠失。	丁寧な整形。内外とも篦削り主体(外=横位、内=縦位)。器外面は磨きに似た平滑調整。	①にぶい橙色~橙色 ②橙色	す-26　9層 溝状遺構C
第45図74 図版16		壺形b類	口=13.6 — —	泥質/赤色土粒も比較的混入。ややあばた状を呈した器面。	口頸部の屈曲は緩やかなカーブ描き、口縁端は外側に開く。頸部以下は削り整形のためか、若干薄手になる。	丁寧な整形。内外面とも横位方向の篦削りに、磨きに似たナデ仕上げ。	①橙色 ②浅黄橙~橙色	せ-25　9層 溝状遺構B 埋土0~10
第45図75 図版16		壺形c類	口=16.4 — —	泥質/赤色土粒・褐色土粒をごく僅量混入する。器面は多孔質で、あばた状を呈す。	頸部で屈曲し、直立気味に立ち上がる口縁部。外面側部の内傾度合やや強く、口唇端は尖り気味。頸部以下は微弱な膨らみをもつナデ肩器形。	全体に粗雑な器面整形。内外とも篦削りの後、ナデ仕上げ。	①赤橙~橙色 ②橙色	す-19　9層 pit 15
第45図76 図版16		壺形c類	— — —	泥質/褐色土粒・石英細粒を混和。器面は多孔質で、あばた状を呈する。	全体に薄手成形。口頸部の屈曲度合は弱く、微弱な口縁部はやや内傾気味。ナデ肩。	器面保持が悪く不詳だが、器外面及び口縁部内面に横位方向の篦整形痕(削りかナデか不詳)。	①橙色 ②灰褐色	し-25　9層 溝状遺構B 遺構内埋土
第45図77 図版16		壺肩部 外耳?	— — —	泥質/細砂粒・石英粒を主体に、赤色土粒もごく僅量混入する。	器体部の膨らみ具合及び突起部形態から壺形肩部の可能性。	器外面(外耳部分)の調整痕は不詳。内面には横位ナデ。	①橙色 ②橙色	盛土中
第45図78 図版16		底部a類	— — 底=4.6	泥質/赤色土粒・石英粒を混和。外器面は凹凸が目立ち、多孔質。	外底面からの立ち上がりが急で、明瞭な角(稜線)を形成する。底部はやや薄手な造りで、外底面が僅かにくぼむ。胴下位は微弱な彎曲をもつ。	器外面は雑な整形だが、内面は丁寧にナデ仕上げ。外底の立ち上り際には指頭痕が明瞭に残る。	①橙色 ②にぶい黄橙色(底面は褐灰色)	し-21 9層 pit10-a
第45図79 図版16		底部a類	— — —	泥質/微砂粒をごく僅量混和する。	外底面際に明瞭な角(稜線)をもつ平底器形。微弱なカーブを描き、胴部に移行。	内外とも横位・斜位の篦削り痕が部分的に残る。比較的丁寧なナデ。	①明赤褐色 ②橙色(底面部はにぶい橙色)	し-25　9層 溝状遺構B 遺構内埋土
第45図80 図版16		底部a類	— — 底=10.0	泥質/赤色土粒・黒色鉱物粒を僅量混和する。器面は多孔質であばた状を呈す。	同図79と同様、底面側部に明瞭な稜をもつ平底器形。底部付近は79に似るが、器体部の膨らみ度合は弱い。	外面は底側部に横位の篦削り、全体にやや雑なナデ。内面は丁寧なナデ。	①橙色 ②にぶい橙色	し-25　9層 溝状遺構B
第45図81 図版16		底部b類	— — —	泥質/微砂粒・黒色鉱物粒・赤色土粒を僅量混和。	底面部から胴への移行緩やかで、底面際の境は不明瞭。内面も同様に傾斜が緩やかで、稜の形成はみられず。	内外とも、横位主体の篦削り痕が認められ、内面には条痕が残る。底部付近に指頭痕もみられる。	①明赤褐色 ②にぶい黄橙色(部分的に黒褐色)	す-21 層序不明
第45図82 図版16		底部b類	— — —	砂泥質/微砂粒・石英細粒を混和し、黒色鉱物粒もみられる。器面は多孔質で、あばた状を呈す。	底部器厚に比して、胴器壁はかなり薄手。底面側部は角をもたずに、微弱にくびれ胴に移行。内底面際の傾斜も丸底に近く緩やか。	器面保持はあまり良くなく不詳だが、内面の底面際に指頭痕。	①橙色(底面部は褐灰色) ②黒褐色(内底=にぶい黄橙色)	す-21 8層
第45図83 図版16		底部b類	— — 底=16.2	泥質/褐色土粒・赤色土粒を主体に混和し、黒色鉱物粒も僅かに含む。器面は多孔質で、凹凸も顕著。	底部は肉厚(21mm前後)。底面立ち上がり際は緩く、胴部へ移行。	器外面は全体に粗雑な篦削り痕(底面には整形時の抉り有り)。内底面は丁寧なナデで平滑整形。	①橙色 ②橙色(外面より若干淡め)	し-26　9層 溝状遺構C 遺構内埋土
第45図84 図版16		底部b類	— — 底=16.0	泥質/微砂粒・透明色鉱物粒(石英?)・黒色鉱物粒をごく僅量混入する。器面は多孔質で、あばた状を呈す。	外底縁部は削られ、立ち上がりは緩やかなカーブを描く。	内外面とも横位方向の篦削りが主体(器外面には明瞭な削り痕が残存)。内外ともナデ仕上げ。	①褐灰色(底面付近は橙色) ②にぶい褐色	す-19 9層 pit15
第45図85 図版16		底部c類	— — 底=7.6	泥質/赤色土粒・褐色土粒を僅量混和。器面は多孔質で、あばた状を呈す。	外底縁部でくびれ、微弱な膨らみを帯び胴に移行。内底面際の傾斜は緩やかで、底部中央にかけ薄手となる。	底部立ち上り際に指頭痕が並列。内底面にも部分的に指頭痕みられる。	①橙色(器内面より幾分暗め) ②橙色	し-25　9層 溝状遺構B
第45図86 図版16		底部c類	— — 底=10.0	泥質/赤色粗粒・褐色土粒を主体に、黒色鉱物粒も僅量混和。器面は多孔質で、あばた状を呈す。	基本的には、同図85と同様の底部形態で、全体に比較的薄手の造り。	全体に器面保持があまり良くなく、調整は不詳。85と同様、底部の立ち上り際に指頭痕が並ぶ。	①橙色(底面部はにぶい黄橙色、褐灰色) ②橙色	す-25　9層 溝状遺構B 遺構内埋土
第45図87 図版16		底部c類	— — —	砂泥質/黒色鉱物粒・赤色土粒を比較的多く混和し、赤色土粒も少量有り。	外底縁部は指頭圧によりくびれ、胴部へあまり膨らまずに立ち上がる。底部の器厚はかなり薄手。	器面保持悪いが、底部立ち上り際に指頭痕並列。内底面際には、篦らしき調整痕が僅かにみられる(削りかナデか不詳)。	①にぶい橙色 ②灰黄褐色~にぶい黄褐色	す-20 2層上部 0~15
第45図88 図版16		底部分類 不詳	— — —	泥質/赤色土粒・微砂粒を少量混入する。器面は多孔質で、あばた状を呈す。	全体に肉厚だが、内底は底面際から中央部にかけ厚くなる(約17mm)。外底面に葉茎痕をもつ。	内底面は比較的丁寧なナデで、平滑に面調整している。	①にぶい橙色 ②にぶい黄橙色	せ-25　9層 溝状遺構B



第43図　土器1（27は第45図に移動）


35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
0
10cm

第44図　土器(2)



第45図　土器(3)・土製品

第８節　石器･石製品･石材

今回の発掘調査で得られた石器および石材は総数54点である。個体数の内訳として、石鏃１点・石斧状製品１点・凹石１点・敲打具類２点および軽石製品１点で、明瞭な加工･使用痕をもたない石材は48点である。本報告では、軽石製品を含めた「石器・石製品」と「石材」に分け、前者を第46図･図版18に示した。以下、その観察事項を簡述する。

石器・石製品

１．石鏃（第46図１）

チャート製の打製石鏃である。先端部を欠失するが、二等辺三角形を基調とした無茎･凹基の平面観を呈する。側辺部の打剥調整(チッピング)はやや粗いが、先端および基部両端の間に走る稜線も整っており、全体的に丁寧な整形といえる。現存先端部～基端凹部の長さは17㎜、基部両端の現存幅は17㎜を測る。こ-26第６層上部出土。

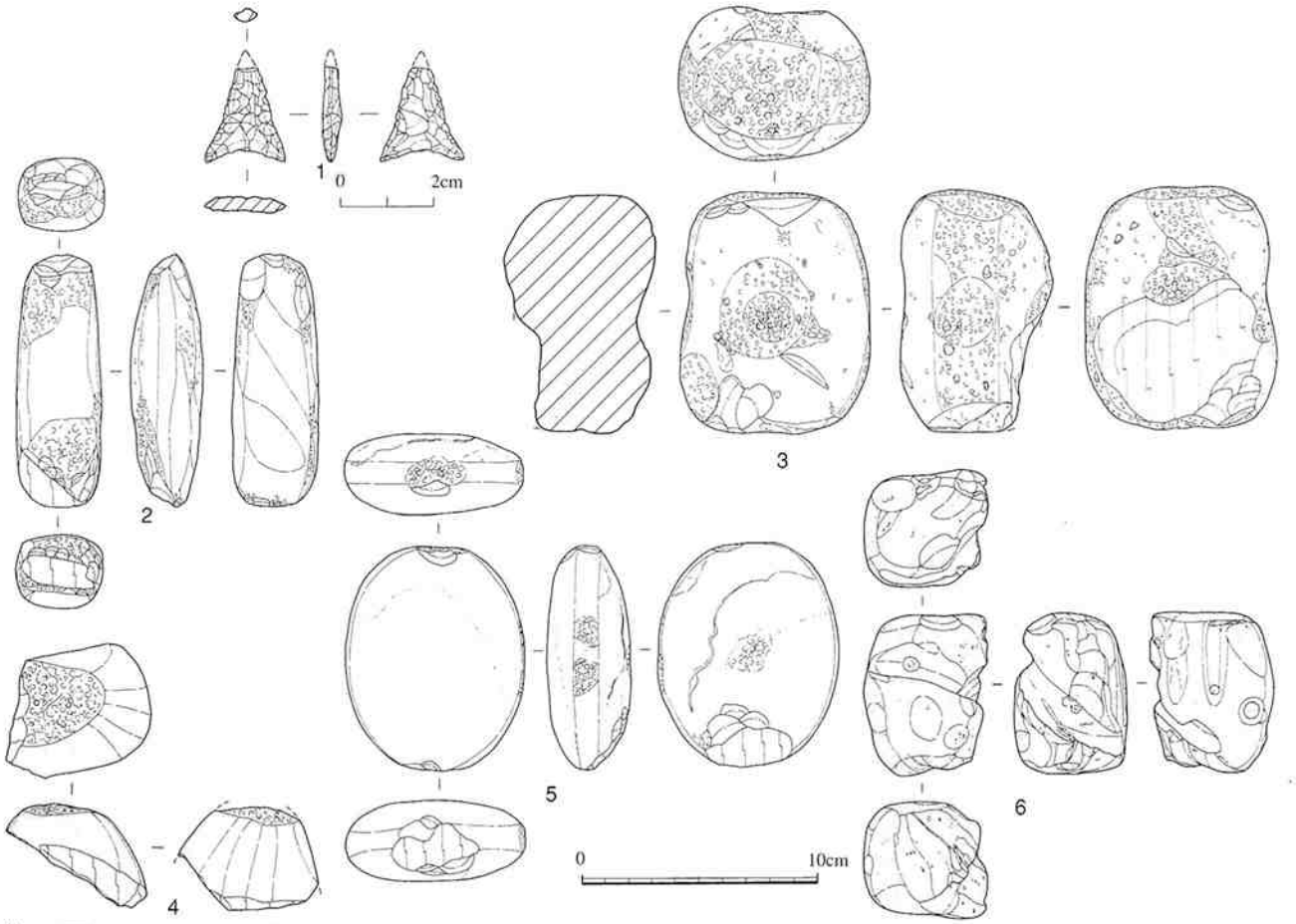
２．石斧状製品（同図２）

略長方形を呈す、小型の半磨製石斧で緑色片岩製。表裏面の大半および側面部に研磨調整が施される。刃部の裏面は使用に伴う剥離がみられ、基部も一部欠損している。現存最大長・最大幅および厚さは、各々10㎝・3.6㎝・3.1㎝で、重量は209ｇを測る。せ-26第９層面検出の溝状遺構４号内埋土出土。

３．敲打具類（同図３～５）

敲打･磨滅の痕跡が認められるものである。３はヒン岩を素材とした凹石で、裏面下半を欠失する。表裏面とも中央部に明瞭な窪みをもつ。側面部にも僅かに敲打痕らしき窪みが認められる。現存重量は748ｇ。せ-23第８層出土。

４は、敲打具の先端部と目される断片資料で、使用痕が明瞭に残る。材質は緑色片岩。５も敲打具用途の石器とみられ、裏面下端は敲打に伴う欠損がみられる。側面部中央および上端部にも敲打痕らしき剥離が認められる。火熱作用で全体に赤褐色を呈する。材質は砂岩で重量376ｇ。いずれも第９層面検出の溝状遺構Ｂ内埋土から得られたもので、前者がす-25、後者はせ-25である。



第46図　石　器・石製品

5．軽石製品（同図６）

軽石素材。深く抉れた溝が斜位方向に巡る。子供の拳大サイズで重量は37.4ｇ。せ-25第９層の溝状遺構Ｂ内埋土。今回の調査で軽石は数点検出されているが、該資料のように加工痕･使用痕をもつものは他にみられない。

石材

加工痕･使用痕は認められないが、石質観察等より遺跡外からの持込みと類推されるものを「石材」と取り扱った。材質の観点から量的趨勢をみると、緑色片岩が最も多く、チャートや砂岩が続き、閃緑岩・安山岩も少数認められる（第16表参照）。緑色片岩と閃緑岩には沖縄本島外の産出（久米島・渡名喜島産出の可能性）の蓋然性が高いものも僅量ながら見られるようである。

第９節　滑石製鍋･転用製品

今回の調査では滑石54点が出土しているが、大部分（40点余）が２㎝四方未満の小破片である。本報告では、滑石製鍋の形状を留める資料やその転用品とみられる資料など、特徴的なものを図示した（第47図･図版19）。

１は平坦な口唇面を持ちつつ、口縁部内端を突出させる内傾器形の石鍋である。推算口径26.1cm。しかし、器面内外および破損面に複数の抉りがみられることから、あるいは二次転用を意識した加工の途中であった可能性も考えられる。せ-25第６層上部より出土。

２も口縁端の把手部分と目される。せ-25第９層面検出の溝状遺構Ｂ内埋土より出土。

３は、残存形状から底面の立ち上がり付近とみられる胴部資料である。し-27第５層出土。

４も器体下部とみられる胴部資料である。器外面には縦位方向に削り痕が明瞭に認められ、内面はかなり丁寧に研磨されている。外面は火熱作用による煤付着か黒色を呈する。せ-27第Ⅱ層出土。

５は彎曲を帯びる形状から鍋破片とみられ、容器内面部には全体に丁寧な研磨が認められる。す-25第５層出土。

６～10は、滑石製鍋の形状を留めないことから、石鍋破片の二次転用品と類推される資料である。

６は、表面中央付近に長軸方向に抉りがみられる製品で、断面観が分銅に似た形状である。抉りと同方向の削り痕が認められるが、この形状を意識した調整か、あるいは転用前からのものかは不明。し-20第２層出土。

７は、中央に縦位方向の細い溝が走るもので用途は不明。計測重量は3.6ｇ。す-24第８層検出の№19pit埋土より出土。

８は上端中央部に抉りをもち、左右に穿孔された製品である。片側半部を欠損し全形は窺えないが、用途としては非実用品（垂飾具など）の蓋然性が高いように思われる。ち-22第８層出土。

９は、概報（註１）にて「バレン状製品」として紹介した滑石製品である。せ-25第９層検出の溝状遺構Ｂ埋土より出土。

類似例として、県内では銘刈原遺跡(註２）や伊良波東遺跡（註３）の出土資料などが知られる。

10は、篦状工具に似た形状が窺える断片資料である。表裏面とも非常に丁寧な研磨整形が施されており、使用部位かと思われる側部は比較的鋭利である。全体に微弱な彎曲が認められることから、鍋破片からの転用品と考えられる。す-24第８層面検出の№19pit埋土より出土。

〈註〉

註１．當銘清乃・安座間充「伊佐前原第一遺跡発掘調査概報」『南島考古だより』第65号　沖縄考古学会　2000年

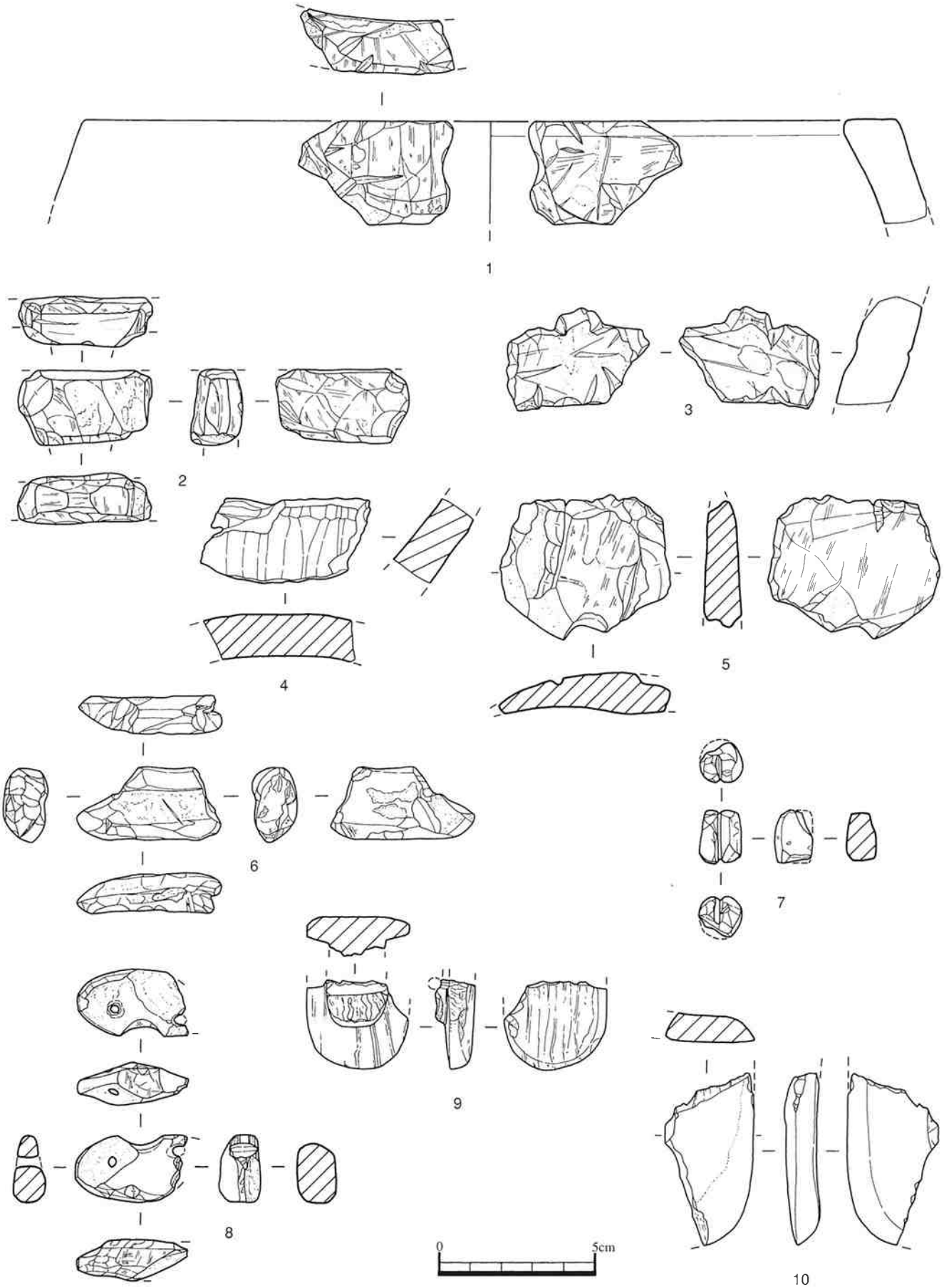
註２．島弘 他『銘苅原遺跡』那覇市文化財調査報告書第35集　那覇市教育委員会　1997年

註３．豊見城村教育委員会『伊良波東遺跡』豊見城村文化財調査報告書第２集　1987年

第16表　滑石製品･石材出土状況

種類＼出土地		1層	2層	4層	5層	6層	8層	8層 す-24 Pit19	8層 そ-22 Pit11	9層	9層 さ-21 Pit6	9層 し-20 Pit16-a	溝B	溝C	溝D	Ⅱ層	Ⅲ層	溝4	掘込1	石列2	石列4	試掘 №3	客土	攪乱	合計
滑石製品	鍋				2	1							2			1									6
	転用品		1	1			1	1																	4
合　計		0	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10
石材	緑色片岩					1	3		1				3	1										1	10
	〃（渡名喜産出？）														1										1
	〃（本島外産出）																				1				1
	砂岩						1					1	2							1		1			6
	チャート	1		1	2	1	1			2	2		4					1							15
	安山岩														1				1						2
	閃緑岩												2												2
	〃（久米島産出か）									1			1												2
	千枚岩				1																				1
	軽石												1												1
	鉄石	1			2	1										1	1						1		7
合　計		2	0	1	5	3	5	0	1	3	2	1	13	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	48

※ 溝：溝状遺構



第47図　滑石製鍋・転用製品

第10節　玉類

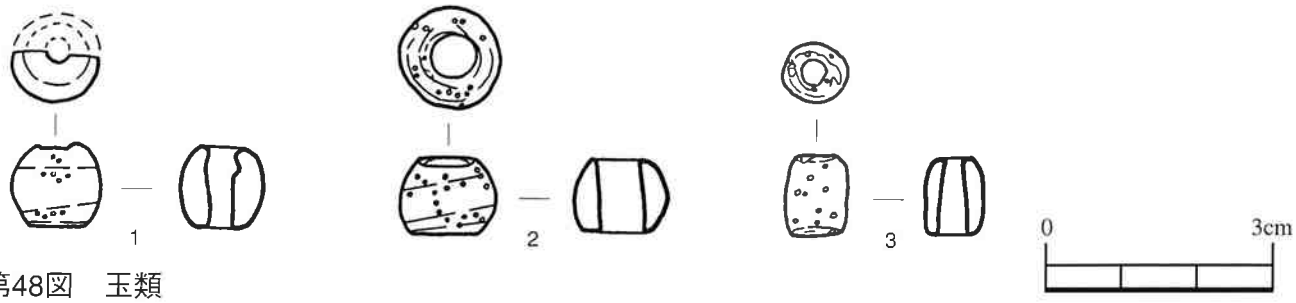
玉製品は６点出土している。そのうち保存のよい３点を第48図に示した。材質をみると、ガラス[註1]が１点、巻貝[註2]が５点である。形態から分類すると、臼形を呈するものが３点、卵形を呈するものが１点、管形を呈するものが１点、風化が著しく、形態の不明なものが１点となっている。

〈註〉
註１　神谷厚昭氏の同定による。
註２　鳥袋春美氏の同定による。

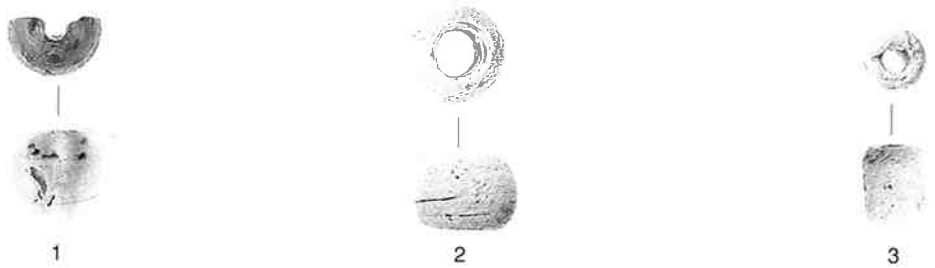
第17表　玉類観察一覧

単位：mm

図版番号	最大径	高さ	孔径	材質	観察事項	出土地
第48図図版45 1	12	11	3	ガラス	半分が欠損した状態である。また、側面も一部欠けている。形態は臼形を呈す。表面に螺旋状の筋、内部に黒い斑点が若干観察できる。色調は半透明の黄色を呈す。	す―25　溝状遺構B（9層）
第48図図版45 2	13	10	6	巻貝	形態は臼形を呈す。比較的保存状態が良好である。螺旋状の筋が明瞭に観察できる。色調は白色を呈す。	せ―22　pit 7 遺構面下45cm（9層）
第48図図版45 3	8	11	4	巻貝	形態は管形を呈す。風化して表面に粉をふいたような状態である。色調は白色を呈す。	す―26　暗褐色土（5層）
―	11	9	4	巻貝	形態は側面が一部潰れているため、ややいびつな臼形を呈す。風化が進み、表面に粉をふいたような状態。アバタが観察され、数条の筋が入っている。色調は白色を呈す。	す―22　pit 11（9層）
―	12	11	4	巻貝	形態は卵形を呈す。風化が進み、表面に粉をふいたような状態になっている。また、アバタが顕著に観察される。色調は白色を呈す。	せ―21・す―21 Pit 23③（8層）
―	―	―	―	巻貝	風化が著しいため、形態は不明である。色調は白色を呈す。	そ―23　pit 28 炉址掘方底面（9層）



第48図　玉類



図版45　玉類

第11節　鉄製品

本遺跡では3点の鉄製品と鍛冶関連遺物の滓類の可能性がある資料が出土した。機会があれば成分分析や専門家の教示を仰ぎたい資料である。図版47の1～3はX線撮影による写真である。

第49図１（図版47－1）は鉄鏃で、残存部の計測値は長さ3.7㎝・上端幅1.2㎝・中心幅0.8㎝・厚さ0.4㎝・重量3.5ｇである。せ－21グリッド７層から出土している。浦添城跡（註１）やカイジ浜遺跡（註２）などから類似資料の報告をみることができる。

第49図２（図版47－２）はX線撮影で確認した形状からは、板状で先端は丸みがあるように見える。刀子などの刃物類か火打金の可能性が考えられる。残存部の計測値は長さ2.5㎝・幅2.3㎝・厚さ0.3㎝・重量7.3ｇである。ち－23グリッド９層上面EL＝15.385ｍより検出。

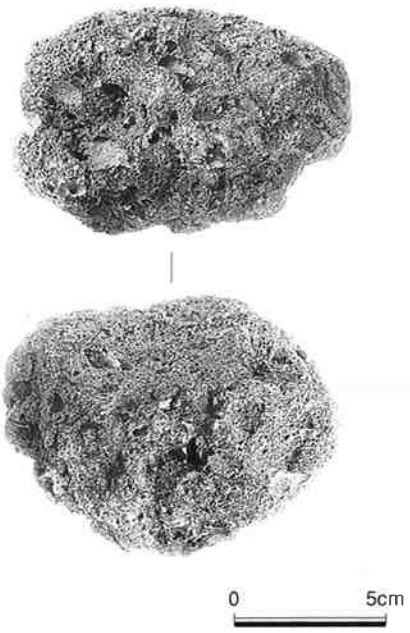
第49図３（図版47－3）は鉄釘で、残存状況を完形とみると、釘の頭がない角状で下部に向かって若干細くなる形状である。残存部の計測値は長さ4.7㎝・幅0.8㎝・厚さ0.4㎝・重量8.4ｇである。し－27グリッド６層から出土している。

図版46は鍛冶関連遺物の滓類と考えられる資料である。磁気反応があったので軽石ではないと判断した。表面は暗褐色、中は多孔質で気泡が凝縮し黒色を呈する。破損しやすく軽量である。残存部の計測値は横幅11.5㎝・縦幅8.5㎝・厚さ7.8㎝・重さ180ｇを測る。このような資料が他に数点出土したが、本資料を含めほとんどが9層の溝状遺構Cに堆積した8層からの出土である。

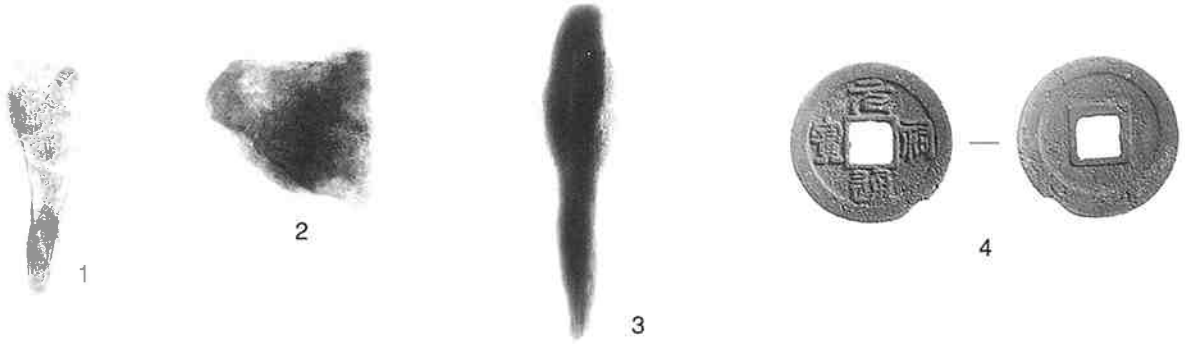
〈註〉
註1. 照屋 孝 他『浦添城跡発掘調査報告書』 浦添市文化財調査報告書第9集
浦添市教育委員会 1985年
註2. 金城亀信 他『カイジ浜貝塚』 沖縄県文化財調査報告書第115集
沖縄県教育委員会 1994年

第12節　銭貨

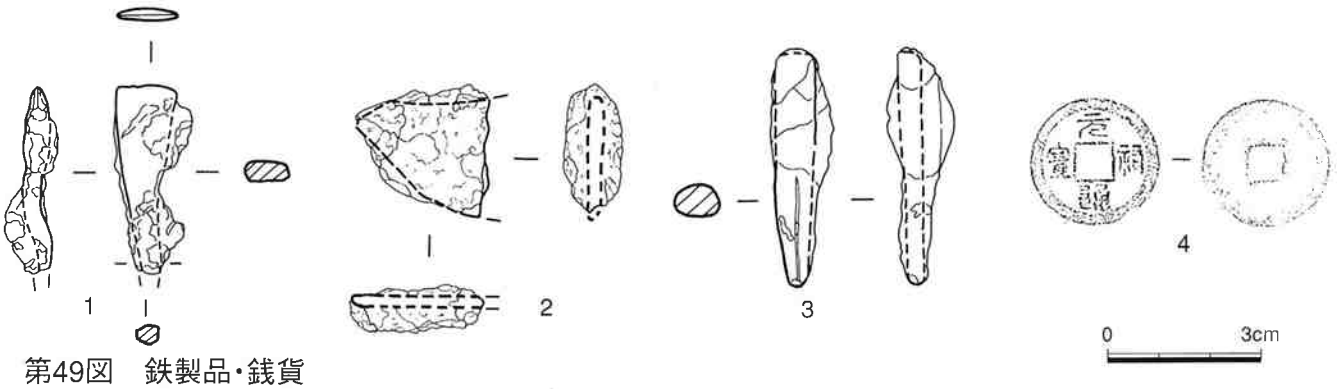
第49図４（図版47－4）は元祐通宝（鋳造年：北宋1086年）である。書体は篆書。銭径2.5㎝・内径は2㎝・孔は一辺0.7㎝の正方形を呈する。銭厚0.2㎝・重さ2.5ｇである。せ－21グリッド７層からの出土。



図版46　滓類



図版47　鉄製品・銭貨



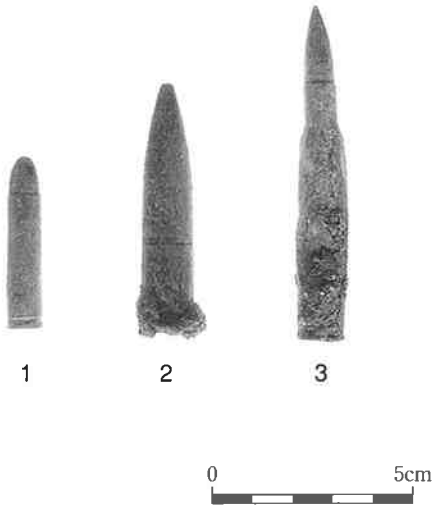
第49図　鉄製品・銭貨

第13節　近世以降の人工遺物

本節にまとめた遺物は、概ね１・２層、Ⅰ～Ⅲ層などから出土している。

出土遺物は陶磁器類が主流であるが、傾向として沖縄産陶器の占める割合が圧倒的に多い。概ね近世の範疇に収まる、中国や東南アジアを産地とする輸入陶磁器（中国染付、青磁染付、褐釉陶器など）と、近・現代の日本で生産された本土産陶磁器（本土産磁器、本土産陶器など）が、同じ割合で出土している。

その他の出土遺物としては、近世まで遡る可能性のある円盤状製品やジーファー、煙管、銭貨（寛永通宝）などが得られている。近・現代の遺物としては、ガラス瓶を加工して作られたコップ（第66図16）や、今回掲載を割愛したが、レールの一部なども出土した。当時、普天間～喜友名近辺には宜野湾製糖工場の甘藷運搬軌道が設置されていた経緯がある。戦争遺物として銃弾（図版48―1：M1カービンの弾、48―2：M1、7.62mmの弾、48―3：ブローニングマシンガン弾）や爆弾の破片、薬瓶なども出土した。各遺物の詳細については、すべて観察表に記載する。

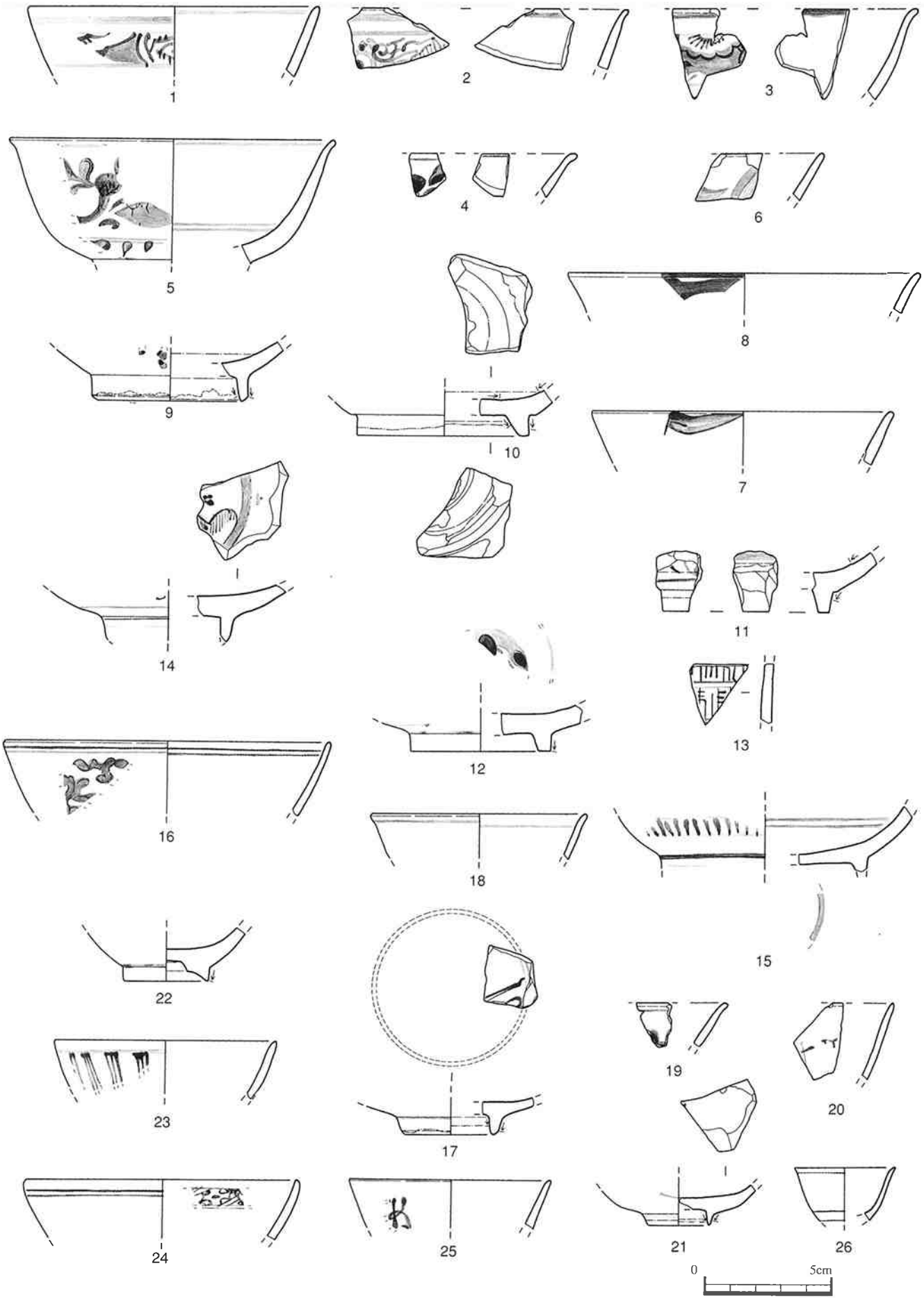


図版48　薬莢

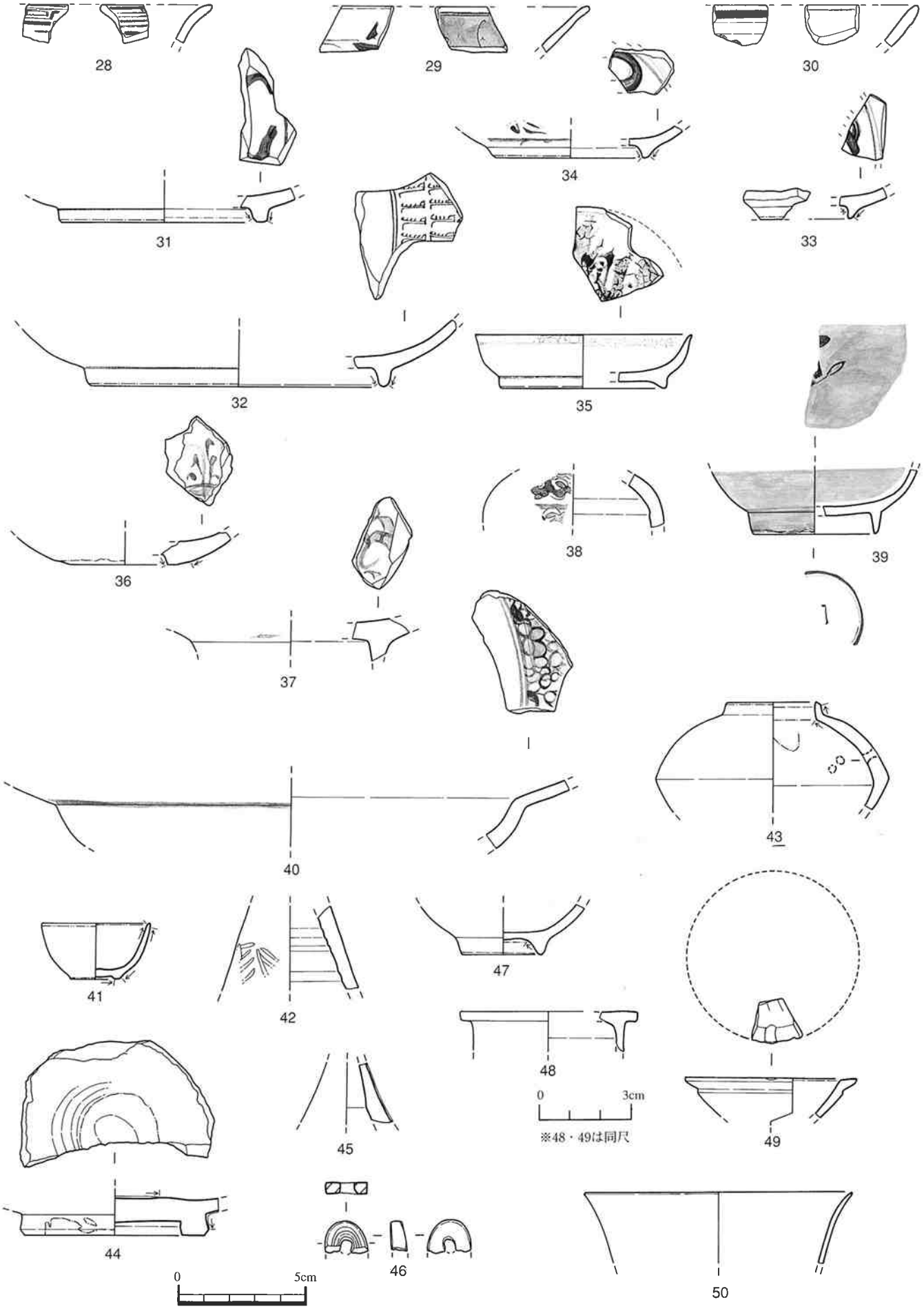
第18表　染付(1)観察一覧

挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第50図図版20	1	染付	碗	口	11.6	―	―	中国産。16～17C。	た－２０２層・上
	2	染付	碗	口	―	―	―	中国産。16～17C。	せ－２６溝４
	3	染付	碗	口	―	―	―	中国産。17～18C。	た－２０２層・上
	4	染付	碗	口	―	―	―	中国産。コンニャク印版技法の可能性。17～18C。	さ－２７１層
	5	染付	碗	口	13	―	―	中国産。外面に草花文と蓮弁文を施す。18C。	た－２５石列５
	6	染付	碗	口	―	―	―	中国産。18～19C。	グリッド不明１層
	7	染付	碗	口	12	―	―	中国産。18～19C。	ち・つ－２６溝６
	8	染付	碗	口	14	―	―	中国産。18～19C。	し－２２２層
	9	染付	碗	底	―	―	6.2	中国産（福建・広東系）。素成の碗で、見込み蛇の目釉剥ぎタイプ。17～18C。	ち－２６Ⅱ層
	10	染付	碗	底	―	―	6.8	中国産（福建・広東系）。素成の碗で、見込み蛇の目釉剥ぎタイプ。17～18C。	グリッド不明１層
	11	染付	碗	底	―	―	―	中国産（福建・広東系）。素成の碗で、見込み蛇の目釉剥ぎ。蛇の目高台。17～18C。	せ－１８２層・上
	12	染付	碗	底	―	―	5.6	中国産（福建・広東系）。素成の碗で、蛇の目高台。17～18C。	ち－２６Ⅲ層
	13	染付	筒型碗	胴	―	―	―	中国産。18～19C。	そ－２１２層・上
	14	染付	碗	底	―	―	―	中国産。18～19C。	た－２４溝２
	15	染付	碗	底	―	―	―	中国産。18～19C。	た－２４溝２
	16	染付	小碗	口	13	―	―	中国産。外面には口唇部直下に二本の圏線、胴部に草花文を施す。内面口唇部直下にも二本の圏線を施す。16～17C。	た－２１２層・上
	17	染付	小碗	底	―	―	3.5	中国産。16～17C。	ち－２５溝４
	18	染付	小碗	口	8.6	―	―	中国産。17～18C。	ち－２３撹乱
	19	染付	小碗	口	―	―	―	中国産。口禿口縁。 17～18C。	ち－２６Ⅲ層
	20	染付	小碗	口	―	―	―	中国産？年代不詳。	ち－２６Ⅱ層
	21	染付	小碗	底	―	―	2.4	中国産。17～18C。	グリッド不明Ⅰ層

※ 法量の単位はcm。



第50図　染付（1）



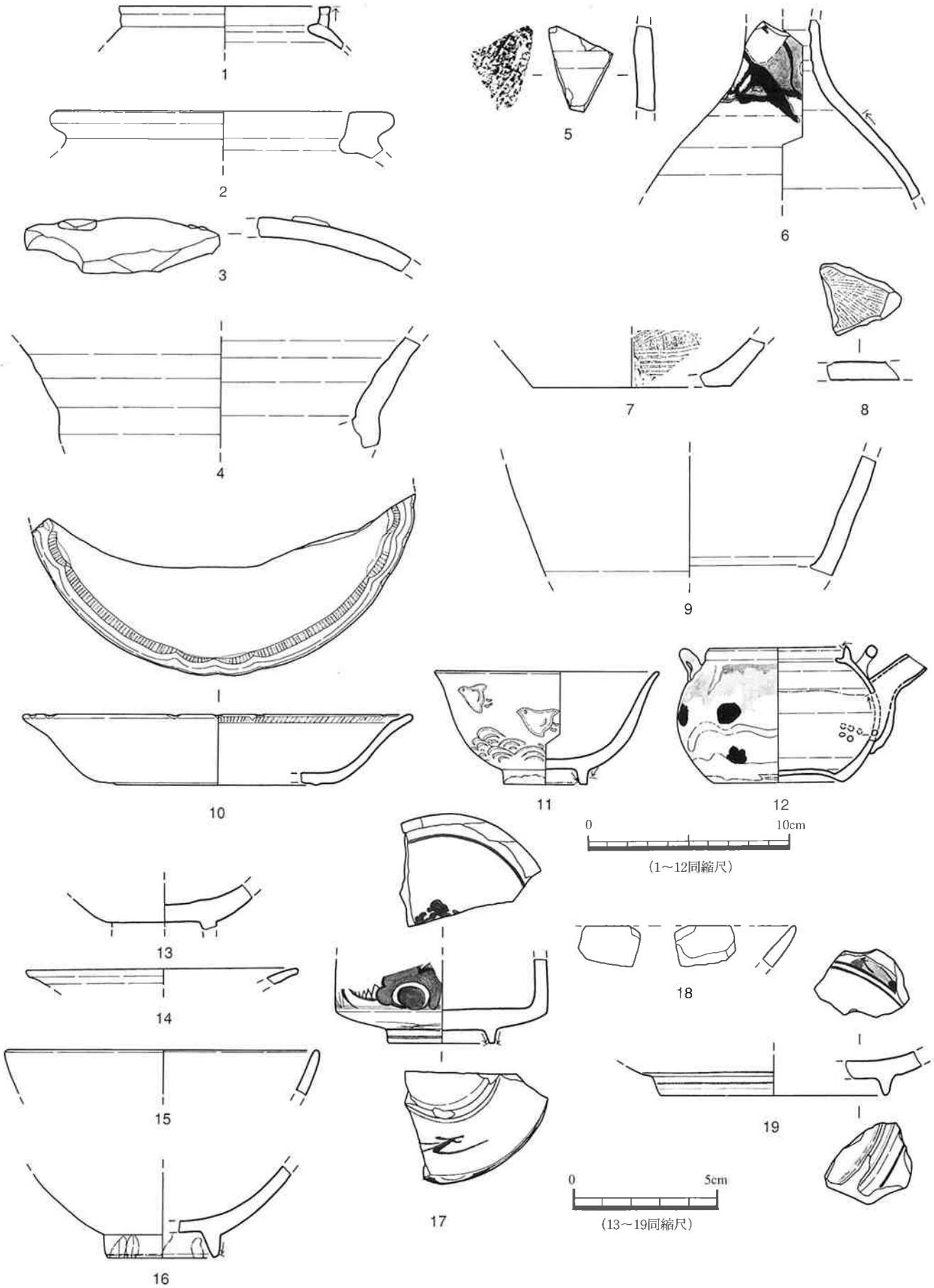
第51図　染付(2)・青磁染付・黄釉磁器・緑釉磁器・瑠璃釉磁器・近代白磁・近代青磁・中国系陶器

第19表　染付（２）・その他の中国系陶磁器　観察一覧

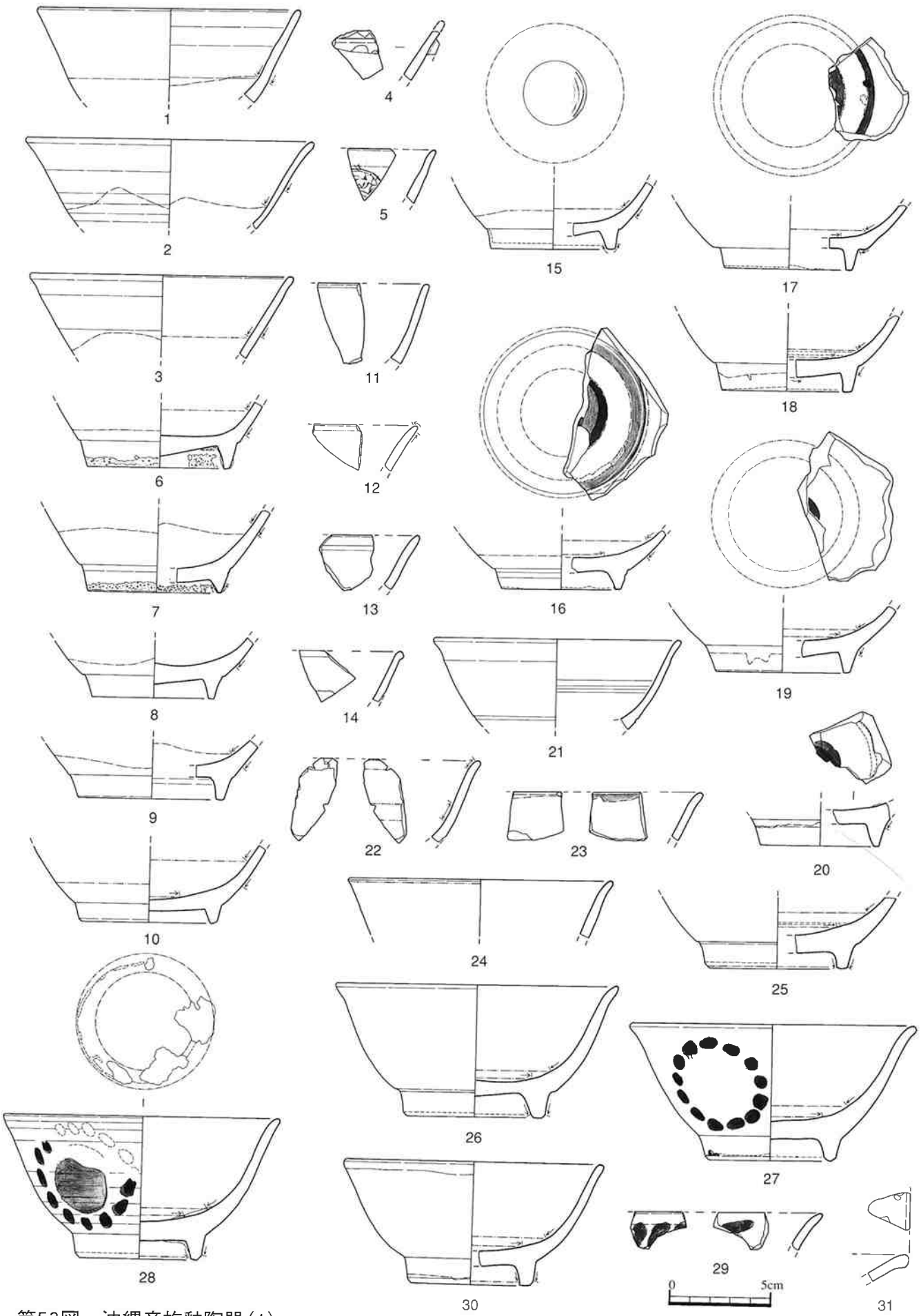
挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第50図図版20	22	染付	碗	底	－	－	3.4	中国産（福建・広東系）。蛇の目凹形高台。17～18C。	す－２７ Ⅰ層
	23	染付	碗	口	8.8	－	－	中国産。19C。	せ－２６ 溝４
	24	染付	小皿	口	10.8	－	－	中国産。年代不詳。	す－２２ ２層・上
	25	染付	小碗	口	8	－	－	中国産。口唇部に鉄釉を施す。年代不詳。	つ－２４ 覆土
	26	染付	小杯	口	4	－	－	中国産。17C。	ち－２６ Ⅲ層
第51図図版21	28	染付	Ⅲ	口	－	－	－	中国産。16～17C。	グリッド 不明試掘 No.３
	29	染付	Ⅲ	口	－	－	－	中国産。17～18C。	す－２５ 撹乱
	30	染付	Ⅲ	口	－	－	－	中国産。18～19C。	そ－２２ ２層・上
	31	染付	Ⅲ	底	－	－	8.2	中国産。16～17C。	た－２６ 溝６
	32	染付	Ⅲ	底	－	－	11.8	中国産。内面に梵字文様。16～17C前半。	た－２７ Ⅲ層
	33	染付	小皿	底	－	－	－	中国産。16～17C。	し－１９ ２層・上
	34	染付	小皿	底	－	－	6.2	中国産。年代不詳。	ち－２５ 石列４
	35	染付	小皿	口／底	8.5	2.6	6.5	中国産（徳化窯）。型成形で、口唇部釉剥ぎで畳付施釉。焼成不良で、見込み文様は不明瞭。17～18C。	つ－２６ Ⅳ層
	36	青磁染付	Ⅲ	底	－	－	4.1	中国産。碁笥底で底部釉剥ぎ。年代不詳。	せ－１８ ２層・上
	37	青磁染付	Ⅲ	底	－	－	－	中国産。年代不詳。	す－１９ ２層・上
	38	染付	合子の蓋？	蓋	－	－	－	中国産。16～17C。	す－２７ 客土
	39	黄釉磁器	碗	底	－	－		中国産（景徳鎮）。交趾釉とも呼ばれる磁器。見込みに緑と紫の線彫り花文。畳付内には呉須で圏線と不詳印が施される。18C。	す－２７ 客土
	40	青磁染付	盤	口	－	－	－	中国産。口縁部内面に呉須で文様が施される。年代不詳。	た－２５ Ⅲ層
	41	瑠璃釉	小杯	口／底	4.2	2.2	1.9	中国産。18～19C。	ち－２２ ２層・中
	42	瑠璃釉	瓶	頸	－	－	－	中国産？　外面に絵付の痕跡が残る。	ち－２４ Ⅱ層
	43	緑釉磁器	急須	口	3.8	－	－	中国産。外全面に緑釉を掛けるが、剥落が著しい。胴径＝9.1㎝。年代不詳。	そ－２２ ２層
	44	青磁	碗？	底	－	－	7.4	中国産（福建系？）。見込み蛇の目釉剥ぎ。年代不詳。	ち－２６ 不明
	45	青磁	瓶？	頸	－	－	－	中国産？　年代不詳。	し－１９ １層
	46	青磁	不明	不明	－	－	－	中国産？　年代不詳。	た－２０ ２層
	47	白磁	小碗	底	－	－	3.2	中国産（福建？）。型成形。畳付内に縮みが見られる。18～19C。	ち－２６ 堀込１
	48	中国陶器	蓋？	－	5.8	－	－	中国産。紫泥陶器で宜興窯の可能性がある。年代不詳。	す－２５ ２層・上
	49	中国陶器	擂鉢のミニチュア	口	5.6	－	－	中国産。朱泥陶器で宜興窯の可能性がある。年代不詳。	つ－２４ 覆土
	50	黄釉磁器	小碗	口	10.4	－	－	中国産？　年代不詳。	た－２０ ２層・中
第52図図版22	1	褐釉陶器？	急須？	口	10.7	－	－	素地は鈍い桃褐色で、１㎜大の白色粒が混入する。外面に褐釉を掛け、口唇部は釉剥ぎする。17～18C 頃の可能性。	せ－２７ ６層
	2	褐釉陶器	壷	口	17.4	－	－	素地は灰色で層を成し、両面ともに褐釉を施す。	す－２４ 撹乱
	3	褐釉陶器	壷	胴	－	－	－	素地は黒っぽい灰色で、白色粒と暗褐色の粗粒子が混入する。両面とも褐釉が掛かる。外面に目痕が残る。	せ－２７ 客土
	4	褐釉陶器	壷	底	－	－	－	残存部位最大胴径は8.95㎝、黒っぽい灰色で、白色粒と暗褐色の粗粒子が混入する。両面とも褐釉が掛かる。	グリッド 不明 試掘 No.３

第20表　本土産陶磁器・沖縄産施釉陶器（１）観察一覧

挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第52図図版22	5	陶器	壺？	胴	－	－	－	産地不明陶器。外面は青灰色で格子目の叩きが施される。内面は桃褐色でナデ調整。	す－２６２層・上
	6	本土産陶器	瓶	頸～胴	－	－	－	二彩唐津で、肩部に鉄釉と銅緑釉で装飾を施す。	ち－２５石列４
	7	産地不明陶器	擂鉢	底	－	－	10	素地は暗褐色で、断面には白い筋状の層がみられる。沖縄産無釉陶器の可能性もある。櫛目は間隔を空けて施す。	せ－２７Ⅲ層
	8	産地不明陶器	擂鉢	底	－	－	－	内面は暗褐色、素地は黒灰褐色で、断面には白色土粒と白い筋状の層がみられる。沖縄産無釉陶器の可能性もある。	さ－２７Ⅰ層
	9	本土産陶器	甕？	胴	－	－	－	薩摩焼の可能性。残存部位最大胴径13.0㎝、両面ともに緑がかった褐釉を施す。素地は黒灰色を呈し、粗粒である。白色粒と黒色粒、石英などが混入する。18～19C。	つ－２６石列４
	10	産地不明陶磁器	Ⅲ	口／底	19.4	3.5	10	型造りで、内面口縁部に文様を型押しする。近代。	ち－２６Ⅲ層
	11	本土産陶器	碗	口／底	11.2	5.6	4.2	関西系。型造りの外反り碗で胴部に千鳥と波の陽刻文。高台は削り出しにより、畳付は釉剥ぎする。全面に鉄釉を掛ける。19C。	ち－２４溝２
	12	本土産陶器	急須	口／底	6.8	6.7	6.4	関西系？轆轤成形後、貼り付けの文様を施す。素地は薄手で灰色を呈する。口縁部と外面底部以外に施釉し、灰釉を基調とする。釉薬の発色の特徴から沖縄産の可能性も考えられる。19C。	す－２７Ⅱ層
	13	本土産陶器	小碗？	底	－	－	－	肥前。丸碗の底部とみられる。素地、釉薬ともに乳白色を呈する。全面釉だが、高台内は無釉である。17C後半～18C。	た－２５溝４
	14	産地不明陶磁器	Ⅲ？	口	9.6	－	－	素地は乳白色、両面に艶のある茶褐色の釉薬が施される。	ち－２４１層
	15	本土産磁器	碗	口	11	－	－	肥前系。焼成不良の碗。素地は灰白色、両面ともに灰色を呈する。畳付内は釉剥ぎ。18～19C。	せ－２７客土
	16	本土産磁器	碗	底	－	－	4	第52図15と同一個体。	せ－２７客土
	17	本土産磁器	筒状碗	底	－	－	3.7	肥前の染付。見込みに圏線と五弁花文、外面に菖蒲文が描かれる。18C後半。	ち－２６Ⅲ層
	18	本土産磁器	Ⅲ	口	－	－	－	薩摩系の染付の可能性がある。17～18C。	し－２４１層
	19	本土産磁器	Ⅲ	底	－	－	8	有田の染付。17C末～18C前半。	た－２１２層・中
第53図図版24	1	沖縄産施釉陶器	碗	口	13	－	－	灰釉碗。口縁部は直口で腰部でやや丸くなる器形。施釉技法はフィガキー。素地は灰色。	せ－２７Ⅱ層
	2	沖縄産施釉陶器	碗	口	14.2	－	－	灰釉碗。直口口縁だが口唇部をやや外反させ、腰部でやや丸くなる器形。施釉技法はフィガキー。素地は灰色。	つ－２４Ⅱ層
	3	沖縄産施釉陶器	碗	口	13	－	－	灰釉碗。口唇部をやや外反させる直口口縁で、胴部から腰部にかけてはストレートな器形。素地は灰色。	ち－２６溝６
	4	沖縄産施釉陶器	碗	胴	－	－	－	灰釉碗。窯で溶着した製品とみられる。	そ－２７客土
	5	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	口縁は直口で、やや外反する。外面に鉄絵の図柄が描かれる。素地は灰白色で、白化粧に透明釉を施す。	た－２５石列５
	6	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	7	灰釉碗。フィガキー。腰部から胴部にかけてストレートに立ち上がる。素地は肌色。畳付に粗い砂が付着する。	た－２１溝１
	7	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6.6	灰釉碗。フィガキー。素地は灰色。腰部から胴部にかけてストレートに立ち上る。畳付には粗い砂が付着する。	不明
	8	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6	灰釉碗。フィガキー。腰部から胴部への立ち上がりは丸みを帯びる。見込みに薄っすらとアルミナの痕が残る。	た－２５溝４
	9	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	7	鉄釉碗。腰部から胴部にかけてストレートな立ち上がり。	た－２０２層・中
	10	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6.8	灰釉碗。蛇の目釉剥ぎでアルミナの痕が薄く残っている。腰部から胴部への立ち上がりに丸みを帯びる。素地は灰色。	せ－２７Ⅲ層
	11	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	鉄釉碗。直口タイプ。素地は灰色。	そ－１９２層・上
	12	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	鉄釉碗。口縁部はやや外反する。口唇部は釉剥ぎされる。素地は灰色。	ち・つ－２６溝６
	13	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	鉄釉碗。口縁部は外反する。素地は灰色。	せ－２０２層・上
	14	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	鉄釉碗。口唇部は小さい玉縁状になる。素地は灰色。	グリッド不明１層
	15	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6.2	銹釉碗。蛇の目釉剥ぎ。腰部から胴部にかけて、やや丸みを帯びて立ち上る。畳付にアルミナが付着する。素地は灰色。	盛土
	16	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6	鉄釉碗。下地に銹釉を掛け、蛇の目釉剥ぎにし、その上から内面上部と外面に鉄釉を施す。素地は灰色。畳付にはアルミナが残る。	ち－２６Ⅰ層



第52図　褐釉陶器・本土産陶器・本土産磁器・産地不明陶磁器



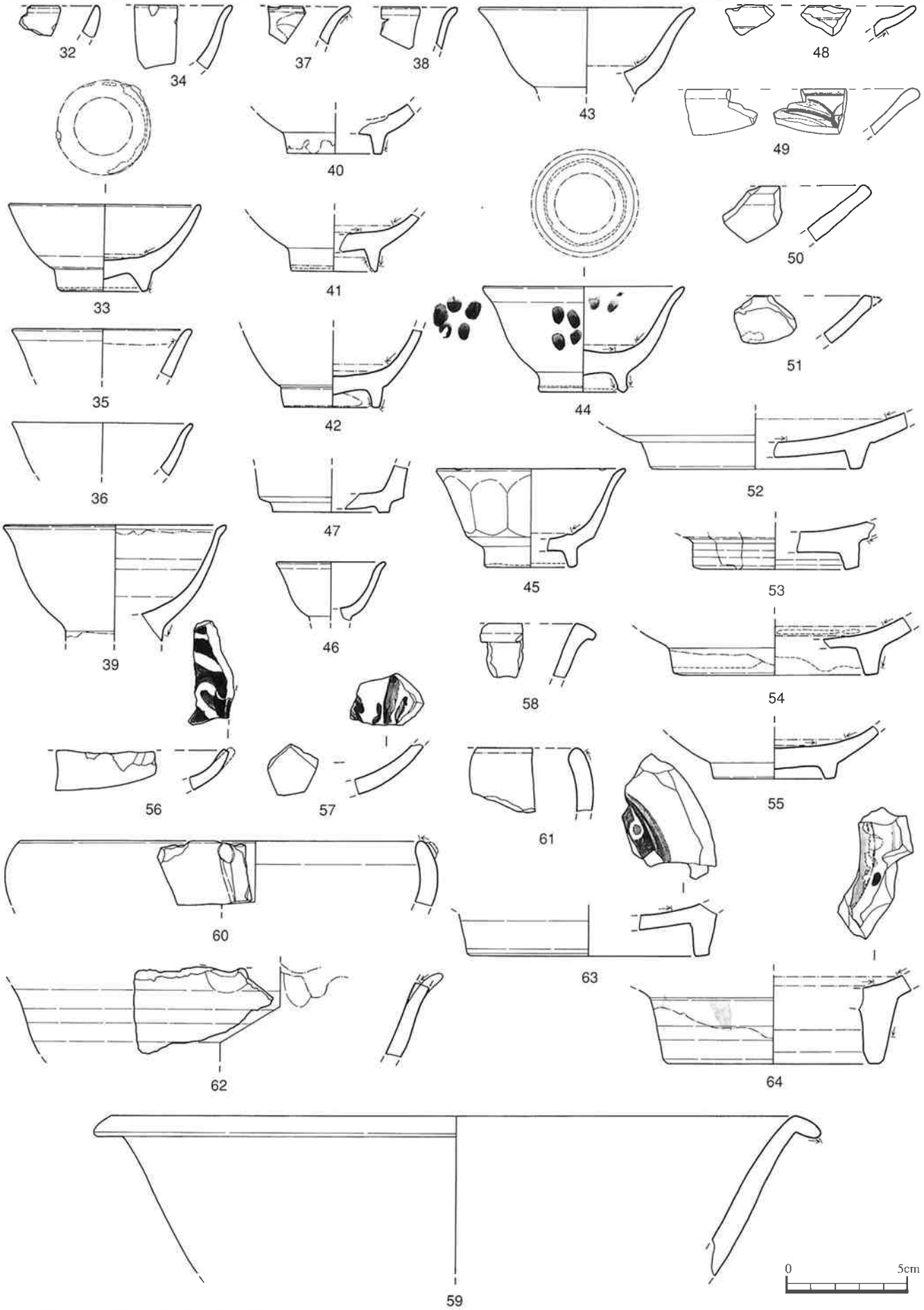
第53図　沖縄産施釉陶器(1)

第21表　沖縄産施釉陶器（２）観察一覧

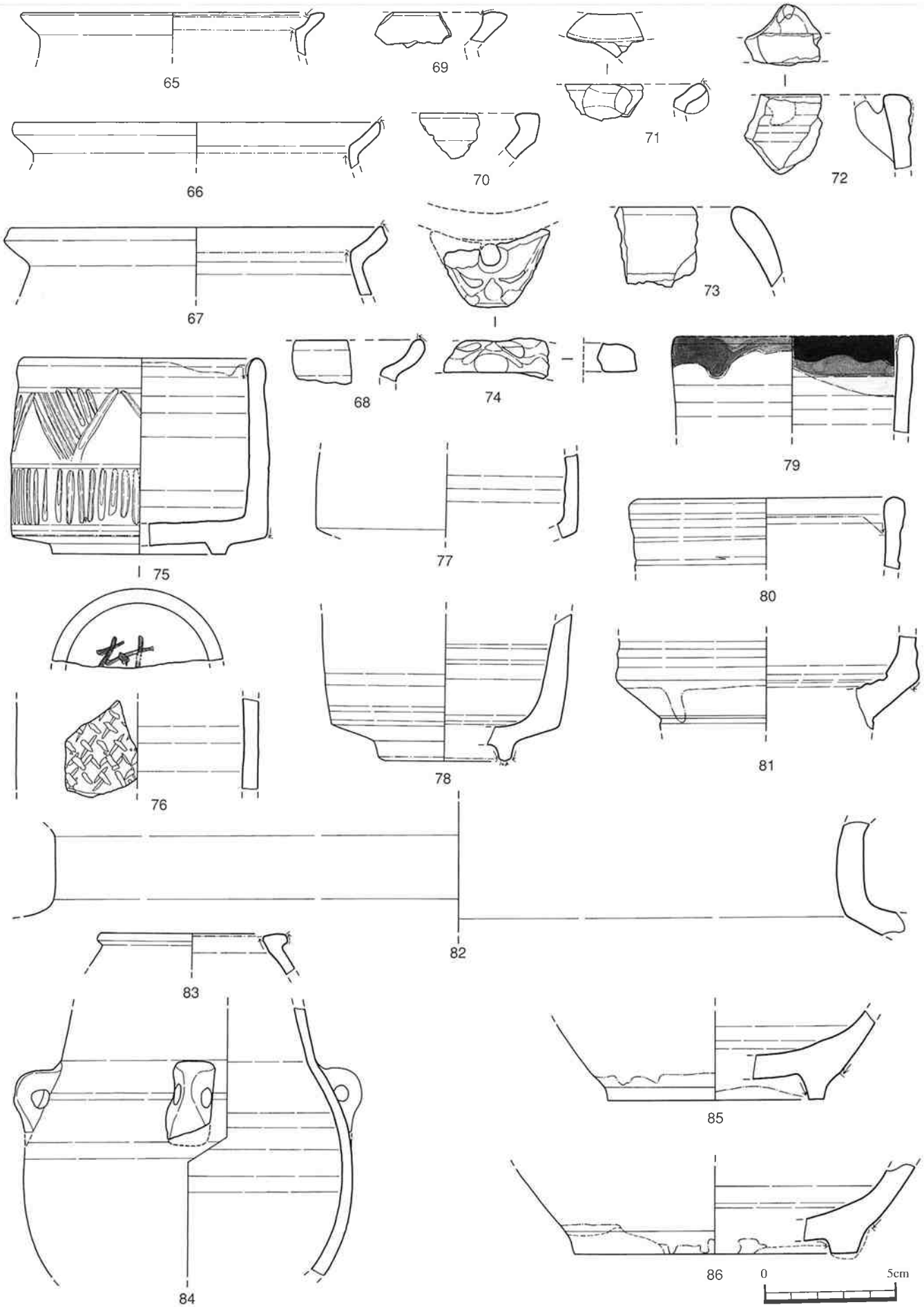
挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第53図 図版24	17	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6.3	鉄釉碗。下地に銹釉を掛け、蛇の目釉剥ぎにし、その上から内面上部と外面に鉄釉を施す。外面の鉄釉は腰部までたっぷり掛ける。素地は灰色。畳付にはアルミナが残る。	ち・つ－２６溝６
	18	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6.4	掛け分け碗。内面に白化粧を施し、蛇の目釉剥ぎをする。見込みに積み重ねの痕が残る。外面のみに銹釉を掛ける。畳付にはアルミナが残る。素地は肌色。	ち－２６Ⅲ層
	19	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6.6	掛け分け碗。器全面に白化粧を施す。外面には鉄釉を施す。内面は灰釉を掛け、蛇の目釉剥ぎをし、見込みには丸文を描く。素地は灰色。	た－２１溝１
	20	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	5.8	掛け分け碗。外面には鉄釉を施す。内面見込みに丸文を描き、灰釉を掛けている。また見込みには重ね焼きの痕が残る。素地は灰色。畳付にアルミナが付着する。	つ－２６Ⅰ層
	21	沖縄産施釉陶器	碗	口	12.2	－	－	掛け分け碗。口唇は外反する。内面は灰釉で胴部に白い横線が２本施される。外面は鉄釉を施す。素地は灰色。	せ－１９２層・上
	22	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	掛け分け碗。口唇部は外反する。外面は鉄釉を掛け、内面は白化粧を施し、口唇部と胴部中央に鉄釉で線を引く。素地は灰色。	せ－１９２層・上
	23	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	掛け分け碗。口唇部は外反する。口唇と内面に白化粧を施し、外面と内面口唇部に鉄釉を掛ける。内面は透明釉を施す。素地は灰色。	そ－２６溝４
	24	沖縄産施釉陶器	碗	口	13	－	－	掛け分け碗。口唇部は外反する。口唇と内面に白化粧を施し、外面に鉄釉を掛ける。内面は透明釉を施す。素地は灰色。	せ－２５１層
	25	沖縄産施釉陶器	碗	底	－	－	6.8	掛け分け碗。内面は白化粧の上に、透明釉を施し、蛇の目釉剥ぎする。外面は全面に鉄釉を掛けるが、畳付は釉剥ぎし、アルミナを塗る。素地は灰色。	グリッド不明試掘No.３
	26	沖縄産施釉陶器	碗	口／底	13.8	6.5	6.6	白化粧外反碗。全面に透明釉を施し、見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付はアルミナを塗る。素地は灰色。	ち－２５溝４
	27	沖縄産施釉陶器	碗	口／底	14	6.7	6	白化粧外反花文碗。全面に透明釉を施し、見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付はアルミナを塗る。素地は灰色。	つ－２５溝４
	28	沖縄産施釉陶器	碗	口／底	13.6	7	5.7	白化粧外反花文碗。花文が３つ描かれる。全面に透明釉を施し、見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付はアルミナを塗る。素地は灰色。	す－２７客土
	29	沖縄産施釉陶器	碗	口	－	－	－	白化粧外反碗。内外面に呉須で絵付けを施す。素地は肌色。	盛土
	30	沖縄産施釉陶器	碗	口／底	12.8	－	6.2	褐釉碗。口唇部が外反し、器高が浅く腰部から胴部にかけては丸みを帯びる。全面総釉掛けで、蛇の目釉剥ぎ。畳付はアルミナを塗る。素地は灰色。	す－２７Ⅰ層
	31	沖縄産施釉陶器	碗？	口	－	－	－	皿の可能性あり。両面に緑釉が掛かる。素地は灰色。	つ－２２２層・中
第54図 図版25	32	沖縄産施釉陶器	小碗	口	－	－	－	鉄釉小碗？　直口口縁。素地は灰色。	グリッド不明１層
	33	沖縄産施釉陶器	小碗	口／底	8.1	3.7	3.8	白化粧小碗。蛇の目釉剥ぎで、畳付にアルミナを施す。	ち－２６溝６ ち－２５石列４
	34	沖縄産施釉陶器	小碗	口	－	－	－	掛け分けの小碗。外反口縁。外面は鉄釉、内面は白化粧のうえに透明釉を施す。素地は灰色。	つ－２７客土
	35	沖縄産施釉陶器	小碗	口	7.6	－	－	掛け分け小碗。内面に白化粧を施し、透明釉を施す。外面と内面口唇部に銹釉を施す。素地は灰色。	グリッド不明客土
	36	沖縄産施釉陶器	小碗	口	7.6	－	－	両面ともに白化粧を施し、口唇部の内外面に緑釉を掛け、透明釉を施す。素地は灰色。	つ－２６Ⅲ層
	37	沖縄産施釉陶器	小碗	口	－	－	－	掛け分け小碗。口唇部は外反する。器に白化粧を施し、外面は灰釉を掛け、鉄絵の模様が描かれる。内面は白色釉が掛かる。素地は肌色。	し－２７Ⅱ層
	38	沖縄産施釉陶器	小碗	口	－	－	－	灰釉小碗。口縁部は外反。素地は灰色。	ち－２６Ⅰ層
	39	沖縄産施釉陶器	小碗	口	9.4	－	－	掛け分け小碗。口唇部は外反する。外面と口唇部は鉄釉が掛かる。内面は灰色。素地は灰色。	せ－２２８層
	40	沖縄産施釉陶器	小碗	底	－	－	4	灰釉小碗。高台内に粗い砂粒が付着する。素地は灰色。	ち－２６Ⅲ層
	41	沖縄産施釉陶器	小碗	底	－	－	3.6	掛け分け小碗。外面は鉄釉、内面は灰釉を施す。見込みは蛇の目釉剥ぎされ、積み痕のアルミナが薄く残る。畳付はアルミナが付着。素地は灰色。	た－２１２層・上
	42	沖縄産施釉陶器	小碗	底	－	－	4.1	掛け分け小碗。外面は鉄釉、内面は白釉を施す。見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付はアルミナが付着。素地は灰色。	ち－２６溝６
	43	沖縄産施釉陶器	小碗	口	9.2	－	－	白化粧小碗。見込みは蛇の目釉剥ぎの可能性。口唇部は外反する。素地は肌色。	す－２７客土

第22表　沖縄産施釉陶器（３）観察一覧

挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第54図図版25	44	沖縄産施釉陶器	小碗	口／底	8.6	4.45	3.8	白化粧花文小碗。口縁部は外反する。器全面に釉を掛け、見込みは蛇の目釉剥ぎする。内・外面に呉須で簡略化した花文を描く。積み痕のアルミナが薄っすら残る。畳付にはアルミナが残る。素地は灰色。	ち－２７Ⅰ層
	45	沖縄産施釉陶器	小碗	口／底	8	4.2	3.9	白化粧小碗。外反口縁で、胴部は多角形を呈する。見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付はアルミナを塗る。	た－２１溝１
	46	沖縄産施釉陶器？	小杯	口	4.6	－	－	外反口縁。素地は白色。透明釉が施される。	そ－２１２層・上
	47	沖縄産施釉陶器	筒状碗	底	－	－	5	全面に鉄釉を施す。素地は灰色。	し－１９２層・上
	48	沖縄産施釉陶器	Ⅲ？	口	－	－	－	両面に灰釉が掛かる。素地は肌色。	せ－２７客土
	49	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	口	－	－	－	鉄絵Ⅲ。両面ともに灰釉を施す。素地は灰色。	そ－２０２層・中
	50	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	口	－	－	－	灰釉Ⅲ。素地は灰色。	ち・つ－２６溝６
	51	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	口	－	－	－	掛け分け皿？　内面には灰釉、口唇部と外面には白化粧が施されるが、釉薬は剥落しているようである。素地は肌色。	た－２１２層
	52	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	底	－	－	8.9	灰釉Ⅲ？　見込み蛇の目釉剥ぎの可能性。外面腰部から底部は無釉である。素地は灰色。	ち－２６溝６
	53	沖縄産施釉陶器	Ⅲ？	底	－	－	7	畳付外側に鉄釉の釉垂れがみられる。見込み、畳付は無釉。素地は肌色。	す－１８２層・上
	54	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	底	－	－	8.6	掛け分け皿。外面は鉄釉、内面は灰釉。見込みは蛇の目釉剥ぎで積み痕がみられる。畳付は無釉でアルミナを塗る。素地は灰色。	つ－２６石列４
	55	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	底	－	－	5.1	灰釉Ⅲ？　見込みは蛇の目釉剥ぎ。外面腰部から底部は無釉、畳付はアルミナを塗る。素地は肌色。	し－１９１層
	56	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	口	－	－	－	白化粧Ⅲ。波状口縁で、内面は呉須で絵付けされる。素地は肌色。	グリッド不明１層
	57	沖縄産施釉陶器	Ⅲ	胴	－	－	－	白化粧Ⅲ。内面は呉須で絵付けする。外面は緑釉が掛かる。素地は灰色。	そ－２１２層・上
	58	沖縄産施釉陶器	鉢	口	－	－	－	鉄釉鉢。口唇部が逆「L」字状に折れる。素地は灰色。	す－２７客土
	59	沖縄産施釉陶器	鉢	口	30.6	－	－	掛け分け鉢。外面に鉄釉、口唇部と内面に白色釉が掛かる。素地は肌色。	ち－２４Ⅱ層
	60	沖縄産施釉陶器	鉢	口	16.4	－	－	内湾する器形。外面は鉄釉。内面は白色釉を施す。素地は肌色。	グリッド不明１層
	61	沖縄産施釉陶器	鉢	口	－	－	－	内湾する器形。外面は鉄釉。口唇部と内面は白色釉を施す。素地は灰色。	て－２２１層
	62	沖縄産施釉陶器	鉢	口	－	－	－	鉢の注ぎ口。口唇部と外面に鉄釉を施す。内面は灰釉が掛かる。素地は白色。	つ－２７客土
	63	沖縄産施釉陶器	鉢？	底	－	－	10.2	見込みは蛇の目釉剥ぎ。畳付は無釉。素地は肌色。	た－２５Ⅲ層
	64	沖縄産施釉陶器	大鉢	底	－	－	8.8	掛け分け鉢。外面は鉄釉、内面は灰釉。見込みは蛇の目釉剥ぎで、積み痕が残る。素地は肌色。	ち－２１２層・中
第55図図版26	65	沖縄産施釉陶器	鍋	口	11.9	－	－	口唇部と外面に、銹釉を施す。内面は灰釉が掛かる。蓋と接する部分は無釉。素地は灰色。	ち－２６溝６
	66	沖縄産施釉陶器	鍋	口	14.4	－	－	外面と内面は銹釉。蓋と接する部分は無釉。素地は灰色。	盛土
	67	沖縄産施釉陶器	鍋	口	14.6	－	－	焼成不良とみられる。内面は茶褐色、外面は黄褐色を呈する。素地は赤っぽい肌色。	す－２７客土
	68	沖縄産施釉陶器	鍋	口	－	－	－	焼成不良とみられる。内面は茶褐色、外面は黄褐色を呈する。素地は赤っぽい肌色。	た－２４Ⅱ層
	69	沖縄産施釉陶器	鍋	口	－	－	－	口唇部と外面に鉄釉が掛かる。素地は灰色。	つ－２７客土
	70	沖縄産施釉陶器	鍋？	口	－	－	－	小破片のため、別の器種になる可能性がある。残存部全面に鉄釉を施す。素地は灰色。	そ－２１２層・上
	71	沖縄産施釉陶器	鍋	口	－	－	－	鍋の口縁部に取手が付く部分。白化粧を施した上に鉄釉を掛ける。蓋が付く部分は白化粧が露出している。素地は肌色。	グリッド不明撹乱
	72	沖縄産施釉陶器	火炉	口	－	－	－	口縁部外面に２本の沈線を施す。口唇部上面は無釉、外面と内面に鉄釉が掛かる。素地は肌色。	し－１９２層・上
	73	沖縄産施釉陶器	火取？	口	－	－	－	鉢の可能性も考えられるが、内傾が著しいため、火取に分類した。残存部分は鉄釉を掛ける。素地は肌色。	ち－２６溝６
	74	沖縄産施釉陶器	火取	耳	－	－	－	火取の取手部分。獅子の顔の装飾。鉄釉が施され、素地は肌色。	た－２０２層・上
	75	沖縄産施釉陶器	火取	口／底	9.2	7.7	6.8	外面と口唇部は鉄釉を施す。底部と内面は無釉。素地は肌色。畳付にはアルミナが薄く残り、高台内面には「村」という字が墨で書かれる。	不明



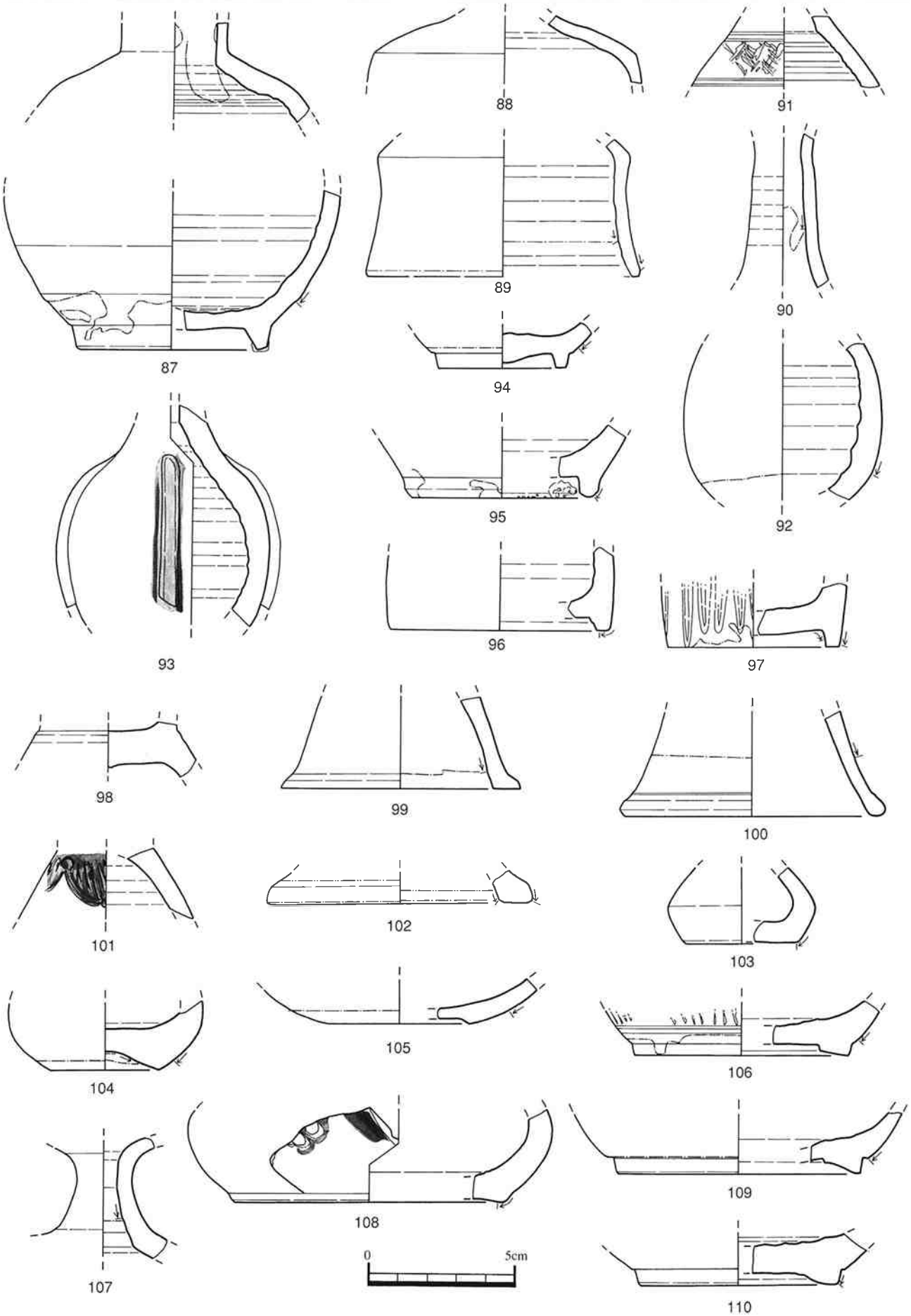
第54図　沖縄産施釉陶器(2)



第55図　沖縄産施釉陶器(3)

第23表　沖縄産施釉陶器（４）観察一覧

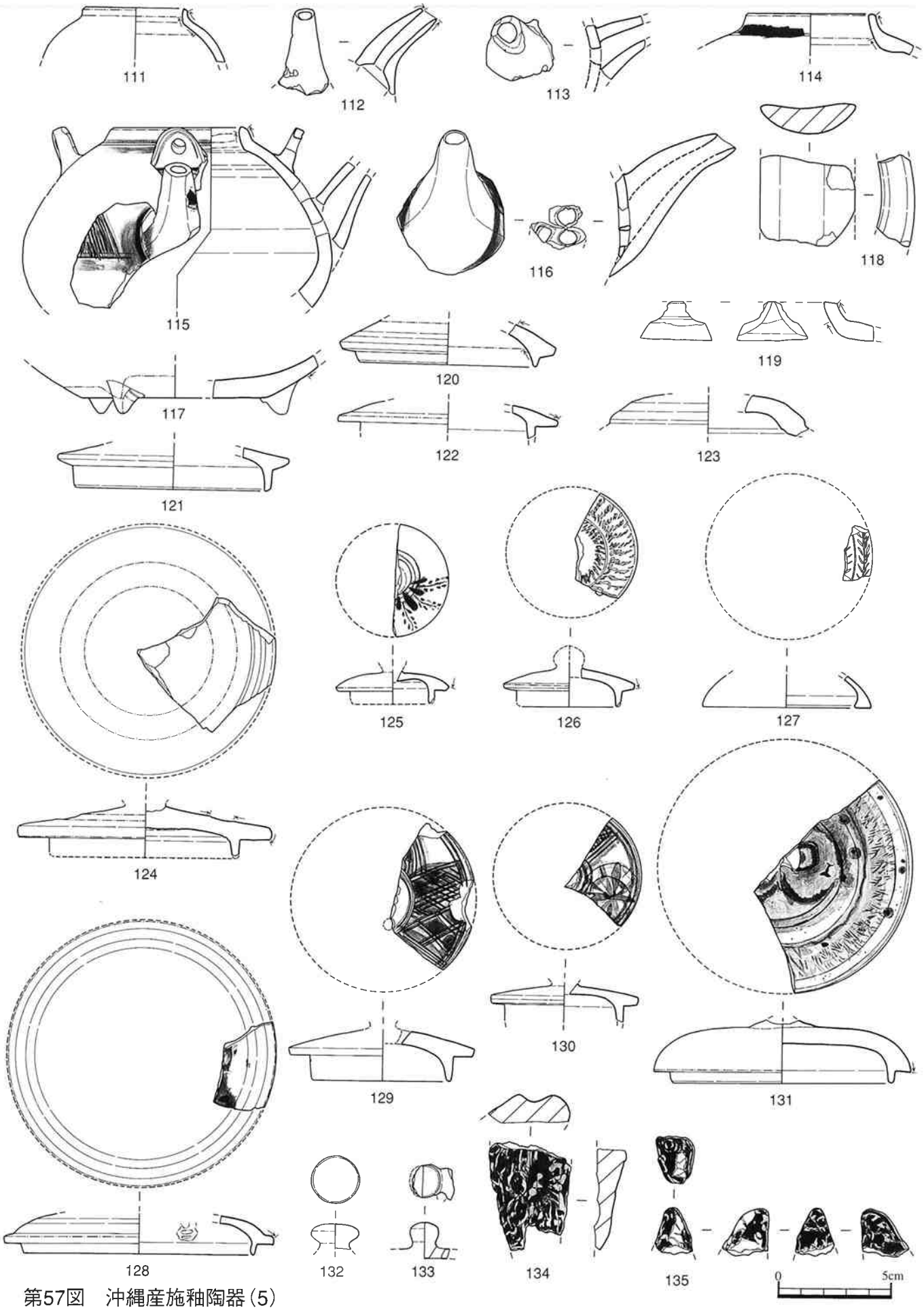
挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第55図図版26	76	沖縄産施釉陶器	火取	胴	－	－	－	内面は無釉で、外面は白化粧の象嵌で、千鳥格子のような文様を施し、灰釉を掛ける。	ち－２２２層・中
	77	沖縄産施釉陶器	筒状碗	胴	－	－	－	白化粧筒状碗。内面は透明釉、外面は瑠璃釉を施す。素地は肌色。	す－２７Ⅰ層
	78	沖縄産施釉陶器	火取	底	－	－	5.7	白化粧を全面に施し、外面は透明釉を掛け、内面は無釉。畳付は擦った痕がみられる。素地は肌色。	そ－２６Ⅰ層
	79	沖縄産施釉陶器	火取	口	9.5	－	－	全面に白化粧を施し、口縁部は呉須で縁取られている。素地は灰色。	せ－２７客土
	80	沖縄産施釉陶器	火取	口	10	－	－	外面に横方向の沈線文を入れ、口唇部から外面に褐釉を施す。内面は無釉。素地は肌色。第55図81と同一個体。	つ－２７不明
	81	沖縄産施釉陶器	火取	底	－	－	8.3	外面に横方向の沈線文を入れ、外面は腰部まで褐釉を施す。内面は無釉。見込みは轆轤痕が残る。素地は肌色。第55図80と同一個体。	グリッド不明撹乱
	82	沖縄産施釉陶器	甕？	頸	－	－	－	頸部内面は白釉、外面は鉄釉を施す。頸部径は31.6cm。素地は暗赤褐色で層を成す。	そ－２７客土
	83	沖縄産施釉陶器	小壺	口	7.2	－	－	口唇部上面は白化粧。外面と内面には鉄釉を施す。素地は灰色。	つ－２１１層
	84	沖縄産施釉陶器	壺	胴耳	－	－	－	油壺。縦耳で、両面に黒釉を施す。素地は灰色。最大胴径が12.8cm。	せ－２７客土
	85	沖縄産施釉陶器	壺	底	－	－	8.4	壺類の底部と思われる。内面には銹釉を掛け、外面と畳付内に鉄釉を施す。畳付にはアルミナを塗る。素地は灰色。	つ－２７客土
	86	沖縄産施釉陶器	壺？	底	－	－	10.9	外面と畳付内及び内面に鉄釉を施す。畳付に石灰分が付着している。素地は灰色。	た－２０２層・上
第56図図版27	87	沖縄産施釉陶器	瓶	口／底	－	－	6.6	外面に褐釉を掛ける。素地は灰色。	ち－２５Ⅱ層
	88	沖縄産施釉陶器	瓶	肩	－	－	－	外面に褐釉を掛ける。素地は灰色。	ち－２５客土
	89	沖縄産施釉陶器	袋物	胴	－	－	－	器種不明。外面は灰釉、内面は透明釉を施す。素地は灰色。胴部最大径＝9.5cm。	ち－２７Ⅳ層ち－２６Ⅲ層
	90	沖縄産施釉陶器	瓶	頸	－	－	－	外面は鉄釉、素地は肌色。	し－２７不明
	91	沖縄産施釉陶器	瓶	頸	－	－	－	外面には白化粧土を施した上に、線彫りで、横方向の沈線と崩れた格子文様を描き、灰釉を施す。内面は無釉。素地は灰色。	す－２７客土
	92	沖縄産施釉陶器	瓶	胴	－	－	－	外面は褐釉、素地は灰色。	た－２５溝４
	93	沖縄産施釉陶器	瓶	胴	－	－	－	外面は白化粧し、透明釉を掛けた後、胴部縦方向に暗茶褐色の紐状の貼り付けをする。素地は灰色。	つ－２７客土
	94	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	4.4	外面は鉄釉が掛かるが、底部は無釉。畳付は薄くアルミナの痕が残る。素地は肌色。	し－２７覆土
	95	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	6.3	外面は鉄釉を掛け、畳付は釉剥ぎされ、粗い砂粒が付着している。素地は灰色。	つ－２５Ⅲ層
	96	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	7.6	胴部から底部にかけて筒状になる器形。外面は褐釉が施され、畳付は基本的に無釉。素地は肌色と灰色の部分がある。	す－１９２層・上
	97	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	5.9	胴部から底部にかけて筒状になる器形。外面は縦方向に削り文様が施される。外面は畳付以外、灰釉が施釉される。素地は肌色。	ち－２０２層・上
	98	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	－	台付瓶の底部。外面は灰釉。素地の表面は肌色で、断面は灰色。	す－１８２層・上
	99	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	8.2	台付瓶の脚台部分。素地は白化粧を施し、外面には緑釉。脚台縁と内側は銹釉が塗られるが、畳付は釉剥ぎされアルミナが付着する。素地は灰色。	そ－２７客土
	100	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	9	台付瓶の脚台部分。外面は褐釉が掛かる。内面は無釉。素地は灰色。	し－２７Ⅲ層
	101	沖縄産施釉陶器	瓶	胴	－	－	－	台付瓶の脚台部分。外面は白化粧を施し、線刻で絵付けし、絵付け部分は緑釉を施す。内面は灰釉が掛かる。素地は肌色。	し－２７Ⅲ層
	102	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	9	台付瓶の脚台部分。全面に白化粧を施し、コバルト釉と透明釉を塗る。素地は灰色。	ち－２４Ⅱ層
	103	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	4	酒器（カラカラ）？　内外面ともに鉄釉を施す。底面は無釉。素地は灰色。	た－２１２層・上
	104	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	3.7	外面に褐釉を掛ける。腰から底部は釉剥ぎする。素地は灰色。	そ－２１２層・上
	105	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	4.8	外面は灰釉を掛ける。底部は無釉。素地は肌色。	そ－１９２層・上
	106	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	7.2	外面は白化粧に象嵌し、灰釉を施す。素地は灰色。	ち－２４１層
	107	沖縄産施釉陶器	瓶	口／胴	－	－	－	白化粧瓶。口～頸の素地は白土の陶土で、胴部は肌色の陶土を使っている。	つ－２４溝３



第56図　沖縄産施釉陶器（4）

第24表　沖縄産施釉陶器（５）・沖縄産無釉陶器（１）観察一覧

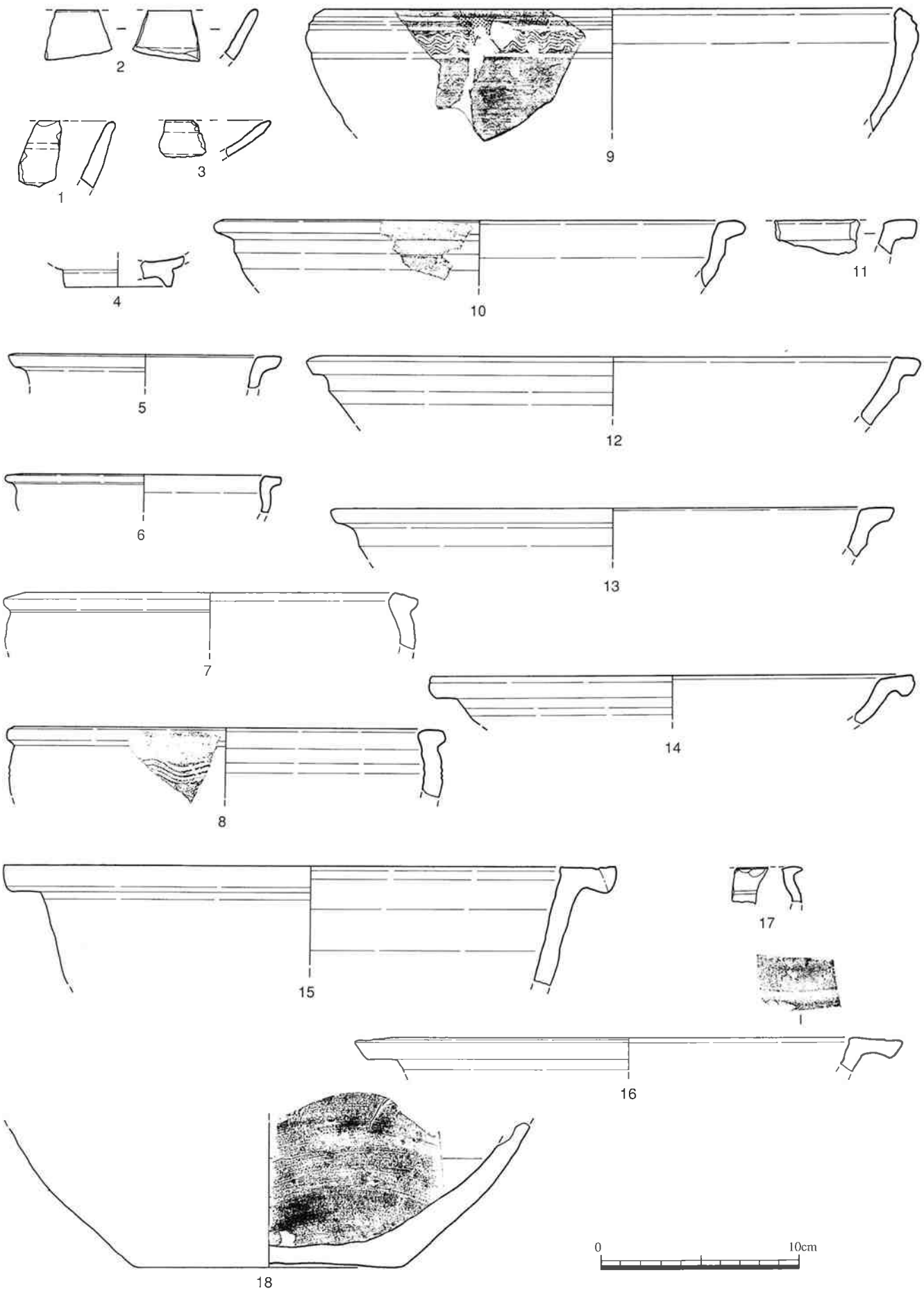
挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第56図図版27	108	沖縄産施釉陶器	瓶？	底	－	－	9.2	白化粧瓶。外面に絵付けが施されるが、不明瞭である。内面は肌色。素地は外側が灰色で内側は肌色。	す－２５撹乱
	109	沖縄産施釉陶器	瓶	底	－	－	8.2	外面は鉄釉を施し、底部と内面は無釉。素地は灰色。	つ－２２２層・上
	110	沖縄産施釉陶器	急須？	底	－	－	6.6	外面全体に白化粧を施し、透明釉を施す。素地は肌色。	し－２４１層
第57図図版28	111	沖縄産施釉陶器	急須？	口	4.8	－	－	外面に鉄釉を施し、口唇部は釉剥ぎ。素地は肌色。	た－２０２層・中
	112	沖縄産施釉陶器	急須？	注口	－	－	－	急須か酒器の注口。外面は鉄釉。素地は灰色。	ち－２２２層・下
	113	沖縄産施釉陶器	急須	注口	－	－	－	外面は鉄釉。素地は肌色。	せ－２７不明
	114	沖縄産施釉陶器	急須	口	5.9	－	－	白化粧急須。口唇部は釉剥ぎ。外面は呉須で絵付けを施す。内面も透明釉が掛けられる。素地は黒っぽい灰色。	そ－２０１層
	115	沖縄産施釉陶器	急須	口	5.9	－	－	白化粧急須。胴部に線刻で絵付けされる。内面は白化粧土が露出。素地は肌色。	ち－２６溝６
	116	沖縄産施釉陶器	急須	注口	－	－	－	白化粧急須の注口。素地は注口部分が白色で、胴部は肌色である。	盛土
	117	沖縄産施釉陶器	急須	底	－	－	8.4	底が足付きになる器形。外面腰部までは鉄釉。内面は無釉。素地表面は暗褐色だが、断面では灰色。	す－２７客土
	118	沖縄産施釉陶器	急須	取手	－	－	－	アンビンの取手。鉄釉が掛かる。素地は灰色。	た－２０２層・上
	119	沖縄産施釉陶器	急須	口	－	－	－	アンビンの口縁部の可能性。口唇部は釉剥ぎ。外面は鉄釉。	せ－２７不明
	120	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	9.8	－	－	壷類の蓋？　外面は褐釉、内面は無釉。素地は赤褐色で白色粒が混入する。	せ－１９２層・上
	121	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	10.5	－	－	急須の蓋？　外面の上部分のみ鉄釉を施す。素地は肌色。	し－１９２層・上
	122	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	10	－	－	急須の蓋？　外面の上部分のみ褐釉を施す。素地は肌色。	ち－２４２層・上
	123	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	－	－	－	壷の蓋？　外面は鉄釉。素地は灰色。	つ－２３２層
	124	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	11.5	－	－	壷の蓋。外面の上部分は褐釉を施す。素地は肌色。	そ－２０２層・上
	125	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	5.1	－	－	茶器類の蓋？　外面の上部分に、圏線と草花の鉄絵が描かれ、透明釉を掛ける。素地は灰色。	ち・つ－２６溝６
	126	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	5.9	－	－	茶器類の蓋？　外面の上部分に、飛鉋で文様が描かれ、透明釉が掛けられる。素地は灰色。	せ－１９２層・上
	127	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	7.6	－	－	茶器類の蓋？　外面は白化粧に象嵌し、透明釉を施す。素地は灰色。	つ－２４覆土
	128	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	12.1	－	－	茶器類の蓋？　外面は白化粧を施し透明釉を掛け、鉄絵で絵付けされる。素地は灰色。	ち－２１２層・中
	129	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	8.3	－	－	白化粧急須の蓋。上面に線刻の格子文様が描かれ、絵付けはコバルト釉で彩られる。素地は肌色。	つ－２６溝４
	130	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	6.6	－	－	白化粧急須の蓋。上面に線刻の格子と丸の文様が描かれ、絵付けはコバルト釉で彩られる。素地は灰色。	ち－２７Ⅲ層
	131	沖縄産施釉陶器	蓋	蓋	11.5	－	－	壷類の蓋。全面に白化粧を施し、外面に圏線と飛鉋の削り文様を施す。文様はコバルト釉、緑釉、銹釉で彩られる。つまみ部分は粘土帯の貼付。素地は灰色。	そ－２６Ⅰ層
	132	沖縄産施釉陶器	蓋	つまみ	－	－	－	白化粧急須の蓋のつまみ。外面はコバルト釉が掛かる。素地は白色。	す－１８２層・上
	133	沖縄産施釉陶器	蓋	つまみ	－	－	－	急須の蓋のつまみ。外面は鉄釉。素地は灰色。	す－２５撹乱
	134	沖縄産施釉陶器	厨子甕	蓋	－	－	－	伊佐前原古墓、２号墓出土の陶製家形厨子甕（第45図３）と接合可。蓋・正面の角部分。外面白化粧の上にコバルト釉を施す。素地は淡い赤褐色で、白色や黒色の粒子が混ざる。	グリッド不明客土
	135	沖縄産施釉陶器	厨子甕	蓋	－	－	－	伊佐前原古墓、２号墓出土の陶製家形厨子甕（第45図３）と接合可。蓋・上屋根のシャチホコの尾部分。外面白化粧の上にコバルト釉を施す。素地は淡い赤褐色で、白色や黒色の粒子が混ざる。	グリッド不明客土
第58図図版29	1	沖縄産無釉陶器	碗	口	－	－	－	口唇部は舌状を呈する。外面は暗橙褐色、内面は暗灰褐色。素地は暗灰褐色で、微粒の白色と黒色粒が混入する。	そ－２０２層・上
	2	沖縄産無釉陶器	碗？	口	－	－	－	内面に横方向の沈線がみられるが、調整痕の可能性がある。口唇部上面は平坦に作られる。内外面は暗茶褐色、素地は暗褐色で、白土が薄く筋状にみられる。	た－２１２層・上
	3	沖縄産無釉陶器	Ⅲ？	口	－	－	－	口唇部は舌状を呈する。内外面は暗橙褐色。素地は暗褐色で橙色の微粒子が混入する。	せ－２６溝４



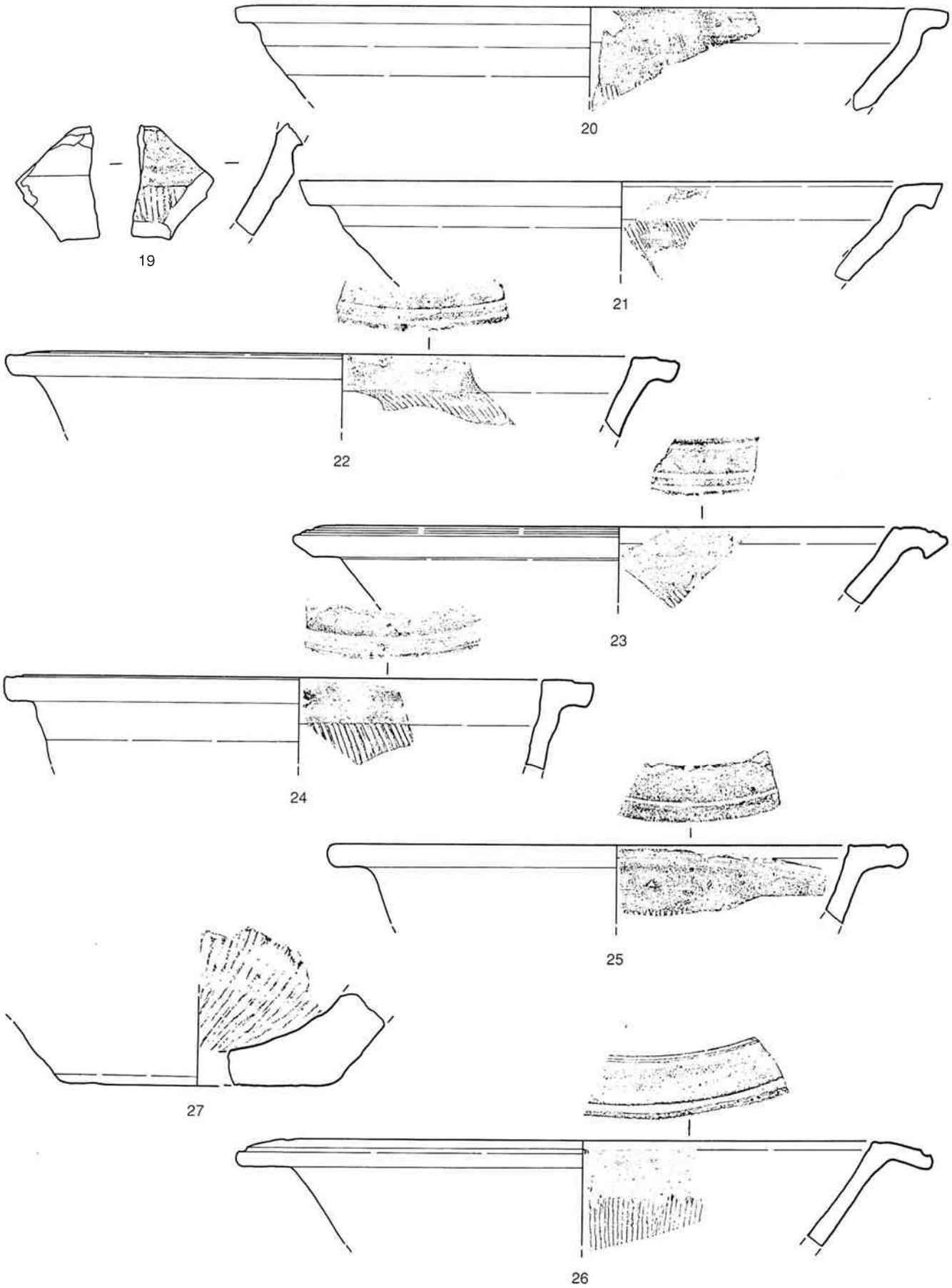
第57図　沖縄産施釉陶器(5)

第25表　沖縄産無釉陶器（２）観察一覧

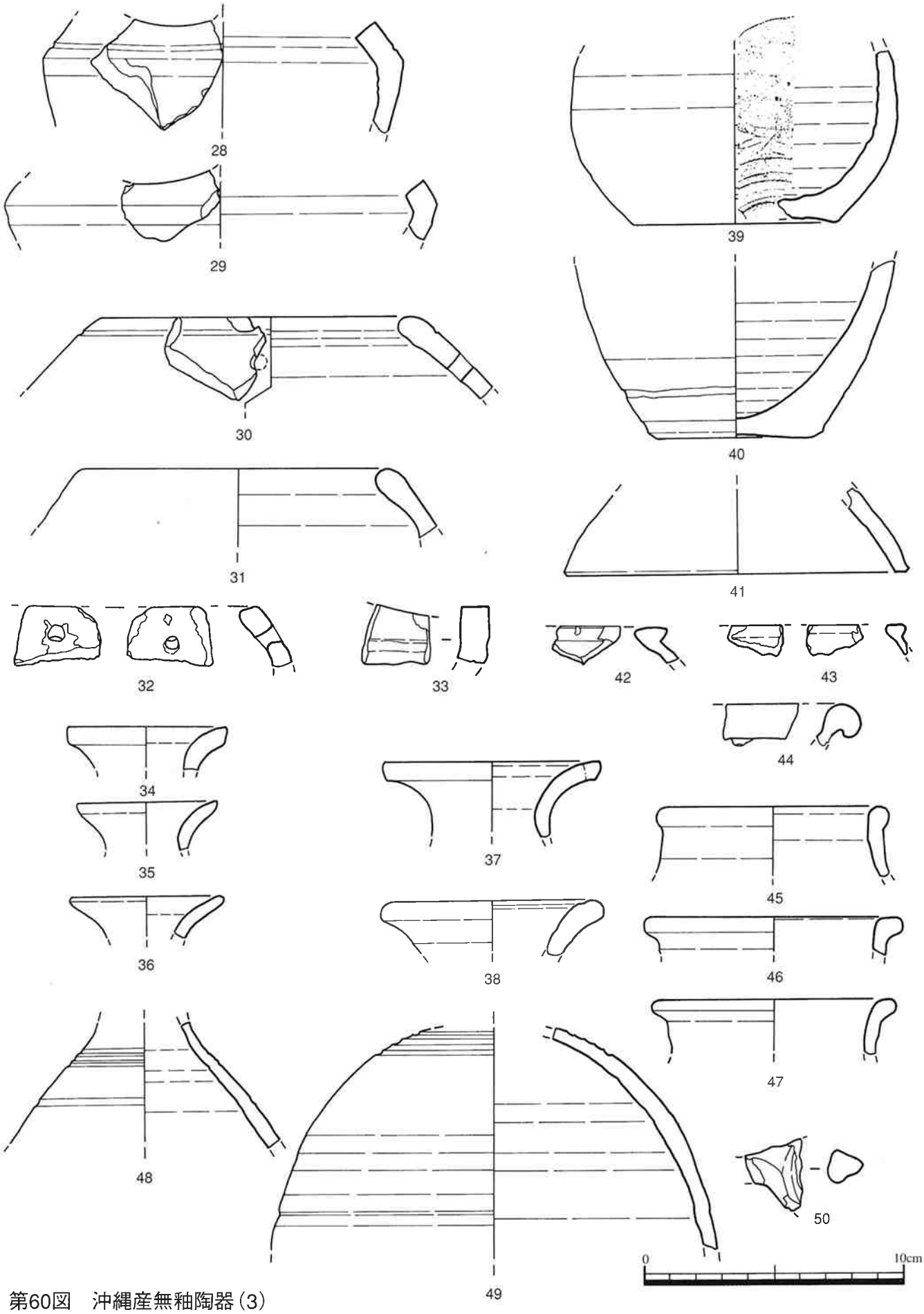
挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第58図図版29	4	沖縄産無釉陶器	碗か皿	底	—	—	5.4	高台は削り出しによる。内外面は暗桃褐色。素地は暗橙褐色で、細かい白色粒が混入する。	そ－２０２層
	5	沖縄産無釉陶器	鉢？	口	14	—	—	口縁部は逆「L」字状。内外面は暗褐色。素地は淡桃褐色で、白土が筋状にみられる。	そ－２０２層
	6	沖縄産無釉陶器	鉢	口	14.2	—	—	口縁部は逆「L」字状で、頸部で一旦くびれ、胴部で張る器形。口唇部上面と内面は淡桃褐色で、外面と素地は暗褐色。素地には白色の微粒子が混入する。	た－２２２層・上
	7	沖縄産無釉陶器	水鉢	口	21.1	—	—	口唇部端が下がる。胴部最大径部分には波状文が施される。内外面は淡橙褐色だが、口縁部は素地が露胎している。素地は暗赤褐色で、微細な白色粒が僅かに混入する。	そ－２０２層・上
	8	沖縄産無釉陶器	水鉢	口	22.4	—	—	口唇部は平坦に作られる。胴部最大径部分には波状文が施される。内外面は暗褐色、素地は暗橙褐色で、微細な白色粒が僅かに混入する。	グリッド不明１層
	9	沖縄産無釉陶器	水鉢	口	29.5	—	—	口縁部は舌状を呈する。口縁部直下、胴部の最大径部分で、沈線と波状文が施される。外面に一部煤が付着している。内外面、素地ともに橙褐色。	た－２０２層・下
	10	沖縄産無釉陶器	鉢	口	27.2	—	—	口唇部は逆「L」字状を呈し、外面胴部に２本の凸帯が施される。内外面は暗褐色。素地は灰色で、白色や黒色の細粒子が含まれる。	せ－１９２層・上
	11	沖縄産無釉陶器	鉢	口	29.8	—	—	口唇部は逆「L」字状を呈する。口唇部上面と内面は暗褐色で、外面は橙褐色。素地は暗赤褐色。	す－１９２層・上
	12	沖縄産無釉陶器	鉢	口	31.4	—	—	口唇部は逆「L」字状を呈し、胴部に凸帯を１本施す。内外面、素地ともに暗赤褐色を呈する。	そ－２７Ⅲ層
	13	沖縄産無釉陶器	鉢	口	28.8	—	—	口唇部は逆「L」字状を呈し、胴部に凸帯を１本施す。口唇部と内面は暗橙褐色、外面は暗褐色を呈する。素地は暗赤褐色。	た－２５Ⅰ層
	14	沖縄産無釉陶器	鉢	口	24.6	—	—	口唇部は逆「L」字状を呈する。内外面ともに暗橙褐色、素地は暗赤褐色。細かい白色粒が僅かに含まれる。	ち－２４石列２
	15	沖縄産無釉陶器	鉢	口	31.2	—	—	口唇部は逆「L」字状で、口唇上面に沈線が入る。外面は暗褐色、内面は暗橙褐色、口唇上面は部分的に灰色を呈している。素地は暗赤褐色で、細かい白色粒が僅かに含まれる。	せ－２７客土
	16	沖縄産無釉陶器	鉢	口	27.7	—	—	口唇部は逆「L」字状で、口唇部上面には沈線が入る。口唇部端は上下に強調される。内外面、素地ともに橙褐色。	ち－２６Ⅰ層
	17	沖縄産無釉陶器	小鉢？	口	—	—	—	小壷の可能性もある。外面胴部に横方向の沈線が入る。外面は暗褐色、口唇部及び内面は暗赤褐色。素地は暗褐色で、白土が筋状にみられ、白色の細粒子も含まれている。	ち－２２２層・上
	18	沖縄産無釉陶器	鉢	底	—	—	13.9	外面は横方向にヘラ削り成形。外面底部は橙褐色で、胴部は暗灰褐色。内面は橙褐色。素地は橙褐色で、中心部分は暗灰褐色、赤色と黒褐色の細粒子が含まれる。	す－２７客土
第59図図版30	19	沖縄産無釉陶器	擂鉢	胴	—	—	—	口唇部は逆「L」字状で、胴部に凸帯が１本施される。内外面、素地ともに暗橙褐色。素地には微粒の白色粒が含まれる。	た－２６溝６
	20	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口	28	—	—	口唇部は逆「L」字状で、胴部に微弱な凸帯が１本施される。口唇部上面及び内面は暗橙褐色。外面は暗褐色、素地は暗褐色で細粒の白色粒が含まれる。	つ－２６Ⅰ層
	21	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口	25.2	—	—	口唇部は逆「L」字状で、胴部に微弱な凸帯が１本施される。口唇部上面及び外面は暗褐色、内面は暗橙褐色。素地は暗褐色である。内面の櫛目は斜め方向に間隔を空けて施される。	ち－２５Ⅱ層
	22	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口	26.4	—	—	口唇部は逆「L」字状で、口唇部上面に２本の沈線が施される。内外面は暗褐色。素地は暗赤褐色で、白色粒が僅かに含まれる。櫛目は口縁部を除き内面全体に施される。	そ－２７客土
	23	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口	25.8	—	—	口唇部は逆「L」字状で上下端は強調される。口唇部上面に２本の沈線を施す。口唇部上面及び外面は暗褐色。内面は橙褐色。素地は暗赤褐色で、白色粒が僅かに含まれる。櫛目は斜め方向に入る。	す－２７客土
	24	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口	23	—	—	口唇部は逆「L」字状で上下端は強調される。口唇部上面に１本の沈線を施す。口唇部上面及び外面は暗褐色。内面は橙褐色。素地は暗赤褐色である。櫛目は口縁部を除く、内面全体に施される。	た－２０溝１
	25	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口	22.6	—	—	口唇部は逆「L」字状を呈する。口唇部上面に１本の沈線を施す。口唇部上面及び外面は暗褐色。内面は橙褐色。素地は暗赤褐色である。	せ－２７客土
	26	沖縄産無釉陶器	擂鉢	口	27.4	—	—	口唇部は逆「L」字状を呈する。口唇部上面に１本の沈線を施し、口唇部端は丸く成形される。内外面は暗褐色。素地は暗赤褐色で、細粒の白色粒と貝破片が混入される。櫛目は口縁部を除き、内面全体に施す。	そ－２５客土
	27	沖縄産無釉陶器	擂鉢	底	—	—	14.8	内外面・素地ともに橙褐色を呈する。素地には暗褐色の細粒が混入される。	グリッド不明撹乱



第58図　沖縄産無釉陶器(1)



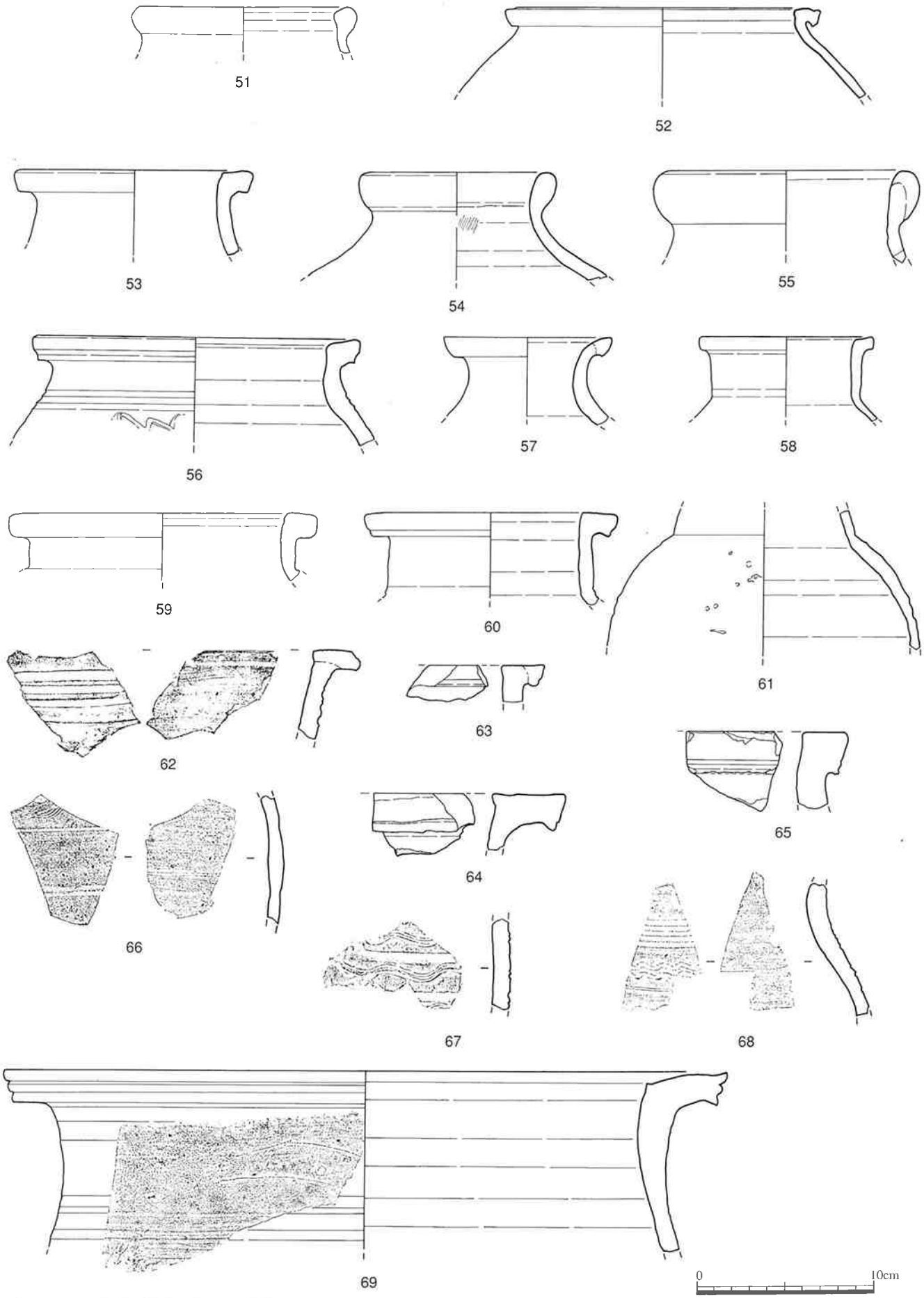
第59図　沖縄産無釉陶器(2)



第60図　沖縄産無釉陶器(3)

第26表　沖縄産無釉陶器（３）観察一覧

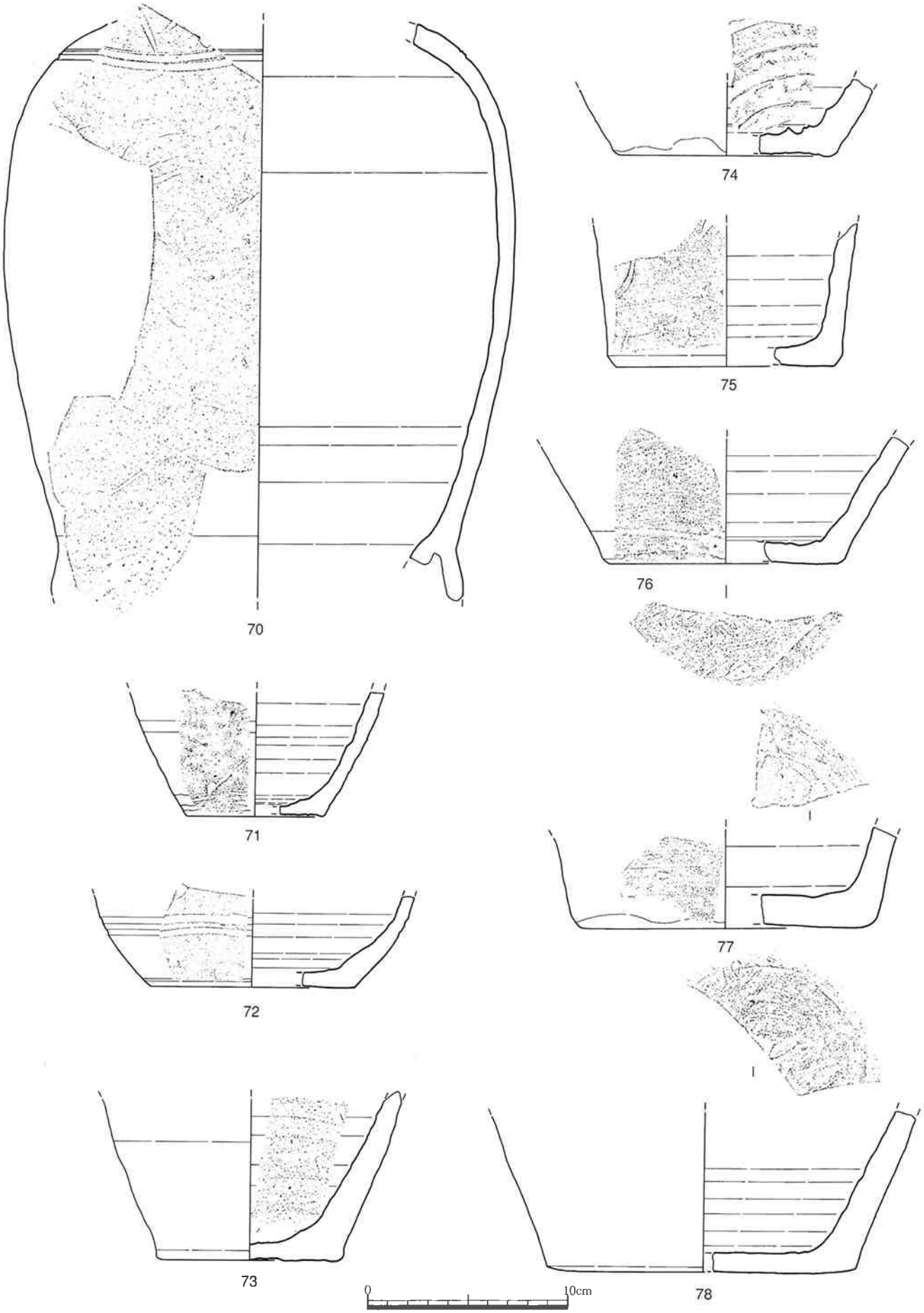
挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第60図図版31	28	沖縄産無釉陶器	火炉	口	11.8	－	－	肩部で逆「く」の字状に屈曲する器形。外面の屈曲部分は、上下に沈線が施される。内外面は暗褐色で、素地は中心部分が暗褐色で、器面側は青灰色。	す－２１不明
	29	沖縄産無釉陶器	火炉	口	15.6	－	－	肩部で逆「く」の字状に屈曲する器形。内外面は暗褐色で、素地は暗赤褐色。	ち－２６Ⅰ層
	30	沖縄産無釉陶器	火炉？	口	12.2	－	－	外面は暗褐色で、内面、素地は暗赤褐色。	た－２０２層
	31	沖縄産無釉陶器	火炉？	口	12	－	－	内外面ともに暗赤褐色、素地は橙褐色。	ち－２６不明
	32	沖縄産無釉陶器	火炉？	口	－	－	－	内外面ともに青灰色、素地は暗赤褐色。	つ－２６Ⅰ層
	33	沖縄産無釉陶器	火炉？	口	－	－	－	内外面、素地ともに橙褐色。素地には微粒な白色粒を混入する。	そ－２０２層
	34	沖縄産無釉陶器	瓶	口	6.2	－	－	ラッパ状に開く口縁。口唇部はやや方形状を呈する。素地は暗褐色で、僅かに微粒の白色粒が混入する。	ち－２４撹乱
	35	沖縄産無釉陶器	瓶	口	5.4	－	－	ラッパ状に開く口縁。口唇部は舌状を呈する。内外面は灰褐色。素地は暗褐色。	そ－２０２層・上
	36	沖縄産無釉陶器	瓶	口	6	－	－	ラッパ状に開く口縁。口唇部は舌状を呈する。内外面は灰褐色。素地は青灰褐色。	盛土
	37	沖縄産無釉陶器	瓶	口	8.2	－	－	ラッパ状に開く口縁。口唇部は方形状を呈する。口縁部と外面は灰褐色。内面は淡黒褐色。素地は暗褐色、細かい白色粒が混入する。	す－１９２層・上
	38	沖縄産無釉陶器	瓶	口	8.6	－	－	ラッパ状に開く口縁。口唇部は丸く成形する。内外面ともに灰黒褐色。素地は暗赤褐色。	せ－１９２層・上
	39	沖縄産無釉陶器	瓶	底	－	－	6.8	外面は暗褐色、内面は青灰色、素地は暗橙褐色。	た－２４Ⅰ層
	40	沖縄産無釉陶器	瓶	底	－	－	8.1	外面の底部は橙褐色、胴部は暗褐色。内面は暗黒褐色。素地は暗赤褐色。	す－２７溝４
	41	沖縄産無釉陶器	瓶	脚	－	－	13.4	台付き瓶の脚。内外面ともに暗褐色。素地は青灰褐色と暗褐色。	す－２０２層・上
	42	沖縄産無釉陶器	壺	脚	－	－	－	小壺の可能性。口唇部上面は平坦。内外面は暗褐色。素地は青灰褐色と暗赤褐色。	し－２７Ⅱ層
	43	沖縄産無釉陶器	壺	口	－	－	－	小壺の可能性。口唇部上面は平坦。口唇上面と外面は灰褐色。内面は青灰褐色。素地は暗橙褐色。	た－２５溝４
	44	沖縄産無釉陶器	壺	口	－	－	－	口唇部は丸く成形。内外面は黒褐色。素地は暗褐色。	し－１９２層・上
	45	沖縄産無釉陶器	長頸壺	口	9	－	－	口唇部は丸く成形。内外面、素地ともに暗褐色。素地には橙色の細粒子が含まれる。	せ－１８２層・上
	46	沖縄産無釉陶器	長頸壺	口	10	－	－	口唇部は逆「L」字状で、口唇部端は丸みのある方形状を呈する。内外面ともに灰色がかった暗褐色。素地は暗赤褐色。	た－２１２層・上
	47	沖縄産無釉陶器	長頸壺	口	9.4	－	－	口唇部は丸みのある方形状を呈する。内外面は灰暗褐色。素地は暗橙褐色。	せ－１９２層・上
	48	沖縄産無釉陶器	瓶	胴	－	－	－	頸部に沈線を３本廻らす。外面は暗灰褐色。内面は青灰褐色。素地は暗褐色。	そ－２７Ⅳ層
	49	沖縄産無釉陶器	瓶	胴	－	－	－	肩部に５本の沈線を廻らす。外面は灰褐色。内面は暗橙褐色。素地は暗褐色。	た－２５溝４
	50	沖縄産無釉陶器	壺類	耳	－	－	－	壺類の耳。外面は灰褐色。素地は暗褐色。	せ－２７客土
第61図図版32	51	沖縄産無釉陶器	壺	口	13	－	－	口唇部は丸く成形。内外面は暗褐色（泥釉？）。素地は橙褐色。	す－２７撹乱
	52	沖縄産無釉陶器	壺	口	18.2	－	－	口唇部は逆「L」字状で、口唇部上面は沈線が入る。内外面ともに黒褐色。素地は暗褐色。	ち－２６Ⅲ層
	53	沖縄産無釉陶器	長頸壺	口	13.8	－	－	口唇部は逆「L」字状。内外面、素地ともに橙褐色。	し・す・せ－２７不明
	54	沖縄産無釉陶器	壺	口	11.4	－	－	口唇部は縦長の玉縁状。内面頸部には一部、調整の際に入った擦痕が残る。口縁部と外面は暗褐色（泥釉？）、内面と素地は橙褐色。素地には白色の微粒子が混入。	た－２５Ⅱ層
	55	沖縄産無釉陶器	壺	口	14.6	－	－	口唇部は縦長の玉縁状。口縁部と外面は黒褐色。内面は器面が剥落している。素地は暗褐色。	せ－２７客土
	56	沖縄産無釉陶器	壺	口	18.8	－	－	口唇部は逆「L」字状。頸部直下には２本の沈線と波状文が施される。口唇部と外面は黒褐色。内面は暗赤褐色。素地も暗赤褐色で、白色の微粒子が含まれる。	た－２４Ⅰ層
	57	沖縄産無釉陶器	壺	口	9.6	－	－	口縁部がラッパ状に開く。内外面、素地ともに橙褐色。	ち－２４石列２
	58	沖縄産無釉陶器	長頸壺	口	10	－	－	口唇部は逆「L」字状。内外面は暗褐色で、素地は青灰褐色。	つ－２７不明



第61図　沖縄産無釉陶器(4)

第27表　沖縄産無釉陶器（４）・陶質土器（１）観察一覧

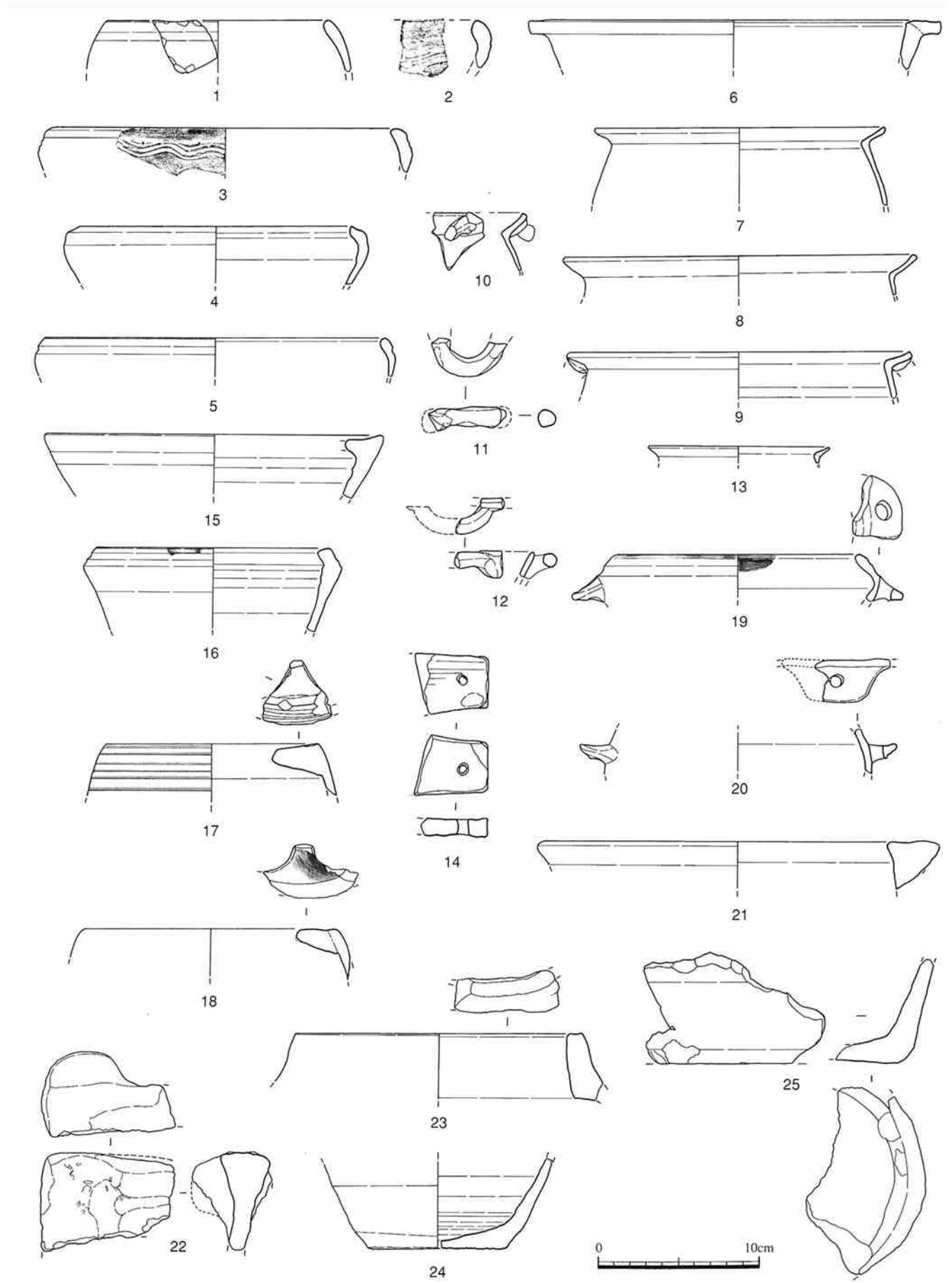
挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第61図図版32	59	沖縄産無釉陶器	長頸壷	口	17.6	—	—	口唇部は逆「L」字状。口唇部上面と外面は暗褐色で、内面は橙褐色。素地は暗褐色。	盛土
	60	沖縄産無釉陶器	長頸壷	口	14.5	—	—	口唇部は逆「L」字状。口唇部上面と内面は橙褐色。外面と素地は暗褐色。	ち－２６Ⅰ層
	61	沖縄産無釉陶器	長頸壷	胴	—	—	—	内外面は黒褐色、素地は暗褐色。	ち・つ－２６溝６
	62	沖縄産無釉陶器	甕？	口	—	—	—	口唇部が逆「L」字状で、頸長の甕になる可能性。頸部は１本の凸帯と３本の沈線が施される。外面は灰褐色、口唇部上面と内面は暗橙褐色。素地は暗赤褐色。	つ－２３１層
	63	沖縄産無釉陶器	甕？	口	—	—	—	口唇部が逆「L」字状で、口唇部外面下部は段状になる。口唇部を除く、内外面は暗橙褐色。口唇部と素地は暗赤褐色。	つ－２５Ⅲ層
	64	沖縄産無釉陶器	甕	口	—	—	—	口唇部が逆「L」字状で、口唇部外面下部は段状になる。口唇部と内面は暗茶褐色。外面と素地は暗赤褐色。	そ－２０１層
	65	沖縄産無釉陶器	甕	口	31.4	—	—	口唇部が逆「L」字状で、口唇部外面下部に２本の沈線が施される。内外面は淡橙褐色。素地は暗赤褐色で白色の微粒子が混入する。	た－２６Ⅱ層
	66	沖縄産無釉陶器	甕	胴	—	—	—	上位に波状文、その下位に横方向に沈線が間隔を空けて施される。内外面は淡赤褐色、素地は暗赤褐色。	ち－２５溝４
	67	沖縄産無釉陶器	甕	胴	—	—	—	２本一組の波状文と横方向に１本の沈線が繰り返し施される。内外面、素地ともに橙褐色。	そ－１９２層・上
	68	沖縄産無釉陶器	甕	頸～胴	—	—	—	頸部に横方向に５本の沈線、胴部には２本一組の波状文と横方向に１本の沈線が施される。内外面、素地ともに橙褐色。	ち－２１２層
	69	沖縄産無釉陶器	甕	口	41	—	—	頸部に窯印あり。口唇部は逆「L」字状で、口唇部外面に横方向の沈線が2本施される。胴部上位にも横方向に沈線を数本施すが、不明瞭である。内外面ともに暗茶褐色で、素地は中心が黒褐色。	つ－２５溝４
第62図図版33	70	沖縄産無釉陶器	壷類	胴	—	—	—	頸部に窯印あり。肩部に２本の沈線が施される。底部には焼成時の膨張がみられる。外面は灰赤褐色、内面、素地は暗橙褐色。	つ－２６Ⅰ層
	71	沖縄産無釉陶器	壷類？	底	—	—	7	内外面ともに淡暗褐色。素地は暗橙褐色。	た－２５Ⅲ層
	72	沖縄産無釉陶器	壷類？	底	—	—	10.2	外面胴部に２本の沈線が施される。外面は暗茶褐色、内面は淡橙褐色、素地は黒褐色。	し－２７客土
	73	沖縄産無釉陶器	瓶か壷類	底	—	—	9.4	内面は黒褐色、外面と素地は暗褐色。	た－２４Ⅱ層
	74	沖縄産無釉陶器	壷類？	底	—	—	11.3	内面は轆轤の凹凸が明瞭である。内外面は黒褐色、素地は暗橙褐色。	た－２６Ⅰ層
	75	沖縄産無釉陶器	壷類？	底	—	—	11	外面は暗褐色、内面と素地は淡橙褐色。	た－２４Ⅰ層
	76	沖縄産無釉陶器	壷類？	底	—	—	12.2	外面は黒褐色、内面と素地は暗赤褐色。	ち－２６Ⅲ層
	77	沖縄産無釉陶器	甕か壷	底	—	—	15.2	外面胴部は黒褐色、底部と内面、素地は暗橙褐色。	つ－２６Ⅰ層
	78	沖縄産無釉陶器	甕か壷	底	—	—	15.4	外面は灰暗褐色、内面と素地は灰橙褐色。	た－２４不明
第63図図版34	1	陶質土器	鉢	口	13.8	—	—	内湾する鉢。口唇部は舌状を呈する。内外面は肌色。素地中心は灰色。	グリッド不明１層
	2	陶質土器	鉢	口	—	—	—	内湾する鉢。口唇部は丸く厚みのある方形状を呈する。外面に波状文が施される。内外面は鈍い肌色。素地中心は暗茶褐色。	た－２１２層・中
	3	陶質土器	鉢	口	20.6	—	—	内湾する鉢。口唇部は丸い方形状を呈する。外面に波状文が施される。内外面、素地は橙褐色。	そ－２０２層・中
	4	陶質土器	鉢？	口	16.8	—	—	内湾する鉢か。口縁部の内湾が強い。内外面、素地は肌色。	つ－２５不明
	5	陶質土器	鉢	口	21.2	—	—	内湾する鉢。口縁部外面は横方向に沈線を１本廻らす。外面、素地は肌色。内面は橙褐色。	た－２５溝４
	6	陶質土器	鉢	口	25.8	—	—	口縁部は逆「L」字状を呈し、口唇部上面に沈線を施す。内外面、素地ともに橙褐色。	つ－２１１層
	7	陶質土器	鍋	口	18.2	—	—	口縁部は逆「く」の字状で、胴部へと膨らむ器形。外面、口唇部は橙褐色、内面、素地は肌色。	さ－２０不明
	8	陶質土器	鍋	口	22.1	—	—	口縁部は逆「く」の字状で、胴部へと膨らむ器形。外面は肌色、内面、口唇部は橙褐色。	せ－２０２層・上
	9	陶質土器	鍋	口	21.6	—	—	口縁部は逆「く」の字状で、胴部へと膨らむ器形。口縁直下に取手が付く。口縁部外面に一部煤が付着する。内外面、素地は肌色。	グリッド不明１層
	10	陶質土器	鍋	口	—	—	—	口縁部は逆「く」の字状で、胴部へと膨らむ器形。口縁直下に取手が付く。内外面、素地は肌色。	し－２７不明
	11	陶質土器	鍋	取手	—	—	—	取手。内外面、素地は肌色。	す－２０２層
	12	陶質土器	鍋	取手	—	—	—	口縁部と取手。内外面、素地は橙褐色。	盛土



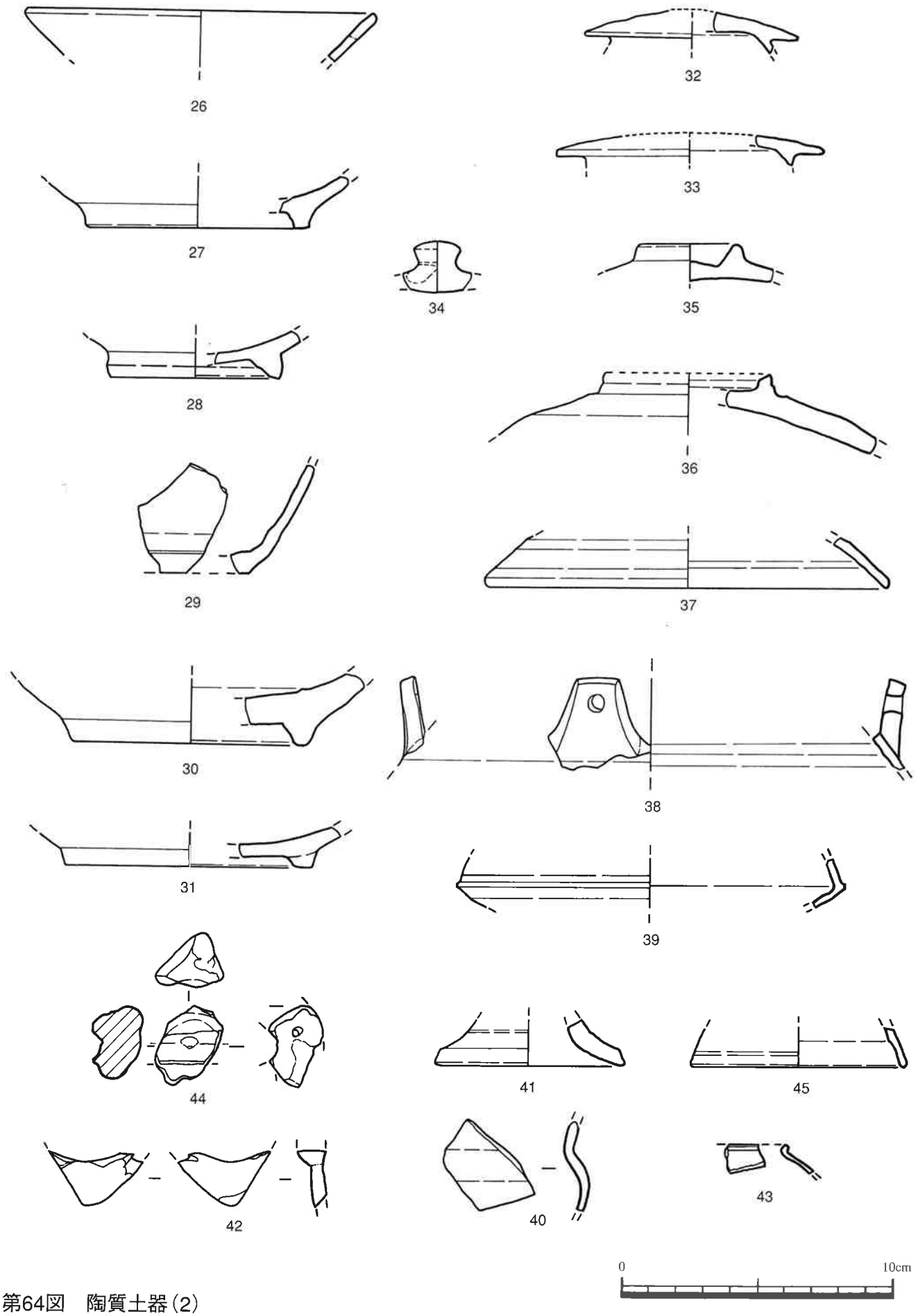
第62図　沖縄産無釉陶器(5)

第28表　陶質土器（２）観察一覧

挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第63図図版34	13	陶質土器	鍋？	口	11.3	—	—	小型の鍋か？　口縁部が逆「く」の字状になり胴部へ膨らむ器形。内外面は橙褐色、素地は灰色。	す－２５ ２層・上
	14	陶質土器	フライパン状製品	取手	—	—	—	フライパン状製品の取手。焙烙か？　内外面は鈍い肌色。素地中心は灰色。微粒の白色粒や光沢のある鉱物が含まれている。	つ－２７ 客土
	15	陶質土器	火炉	口	21	—	—	口唇部が内側に屈曲し、胴部から口縁部にかけて、逆「ハ」の字状に開く器形。内外面ともに橙褐色で、素地は灰色。細かい白色粒や光沢のある鉱物が含まれる。	た－２６ Ⅲ層
	16	陶質土器	火炉	口	14.4	—	—	口縁部が逆「く」の字状を呈し、胴部から口縁部にかけて逆「ハ」の字状に開く器形。口唇部外面には２本の沈線を廻らす。内外面、素地は鈍い肌色。	せ－２７ ２層
	17	陶質土器	火炉	口	13.2	—	—	口縁部から胴部にかけて丸く膨らむ器形。外面には横方向に白化粧の縞模様が施される。外面は橙褐色。内面、口唇部は肌色。	そ－２４ ２層・上
	18	陶質土器	火炉	口	15.6	—	—	口縁部から胴部にかけて丸く膨らむ器形。内外面は鈍い肌色。素地は灰色。	つ－２４ 客土
	19	陶質土器	火炉	取手	15	—	—	口縁部が逆「く」の字状になり、取手が付く。胴部から口縁部にかけて逆「ハ」の字状に開く器形。口唇部は煤けている。内外面、素地ともに橙褐色。	つ－２５ Ⅲ層
	20	陶質土器	火炉	取手	—	—	—	胴部が丸くなる火炉とみられる。取手が付く。内外面、素地ともに肌色。	盛土
	21	陶質土器	火炉	口	24.8	—	—	大型火炉の口縁部とみられる。口縁部内面が特に煤けている。内外面、素地ともに鈍い肌色。	そ－２０ ２層・上
	22	陶質土器	火炉	口	—	—	—	大型火炉の口縁部、突起部分とみられる。内外面、素地ともに鈍橙褐色。	た－２０ ２層・上
	23	陶質土器	火炉？	口	17.6	—	—	火炉か竈と思われる。内外面、素地ともに鈍い橙褐色。	す－２７ 撹乱
	24	陶質土器	不明	底	—	—	8.6	器種不明の底部資料。底外面には糸切りの痕が残る。内外面、素地ともに橙褐色。	ち－２６ Ⅲ層
	25	陶質土器	火炉？	底	—	—	11.2	大型火炉の底部資料とみられる。内外面、素地ともに橙褐色。	ち－２４ 撹乱
第64図図版35	26	陶質土器	碗？	口	13.1	—	—	碗か皿の口縁部。内外面、素地ともに橙褐色。	さ－２０ 不明
	27	陶質土器	碗？	底	—	—	9.6	碗か皿の底部。内外面、素地ともに橙褐色。	す－１９ ２層・上
	28	陶質土器	碗？	底	—	—	6.4	碗か皿の底部。内外面、素地ともに橙褐色。	そ－２０ ２層・上
	29	陶質土器	不明	底	—	—	—	ベタ底で深い器物。内外面ともに鈍い橙褐色で素地中心が灰色。焼成が良い資料である。	た－２０ ２層・上
	30	陶質土器	不明	底	—	—	8.8	鉢の可能性がある。見込みに圏線のような沈線が１本施される。内外面、素地ともに橙褐色。	ち・つ－ ２６溝６
	31	陶質土器	不明	底	—	—	9.2	皿の底部か。内外面、素地ともに橙褐色。	た－２６ Ⅱ層
	32	陶質土器	蓋	口	—	—	—	内外面、素地ともに橙褐色。	ち－２１ ２層・中
	33	陶質土器	蓋	口	—	—	—	蓋縁の直径7.8cm。外面、素地ともに鈍い肌色。内面は鈍い橙褐色。	し－２１ １層
	34	陶質土器	蓋	つまみ	—	—	—	蓋のつまみ。内外面、素地ともに橙褐色。	せ－１９ ２層・上
	35	陶質土器	蓋	つまみ	—	—	—	蓋のつまみ直径3.8cm。内外面・素地ともに鈍い橙褐色。	し－２７ Ⅱ層
	36	陶質土器	蓋	つまみ～口	—	—	—	つまみ部分の直径は6.2cm。内外面、素地ともに肌色。	そ－１９ 溝１
	37	陶質土器	蓋？	—	—	—	—	直径15cm。外面、素地は肌色。内面は橙褐色。	つ－２７ Ⅰ層
	38	陶質土器	急須？	取手	—	—	—	内外面、素地ともに橙褐色。	し－２４ ２層
	39	陶質土器	急須？	胴	—	—	—	内外面、素地ともに橙褐色。	不明
	40	陶質土器	瓶	脚台	—	—	6.9	内外面、素地ともに赤褐色。	せ－２０ ２層・上
	41	陶質土器	瓶？	脚台？	—	—	8	外面は灰色、内面と素地は鈍い肌色。	ち－２６ Ⅲ層
	42	陶質土器	急須？	胴	—	—	—	内外面は肌色。素地中心は灰色。	し－２７ Ⅱ層
	43	陶質土器	器種不明	口	—	—	—	ミニチュア陶器か？　内外面、素地は橙褐色。	た－２０ ２層・上
	44	陶質土器	器種不明	—	—	—	—	内外面、素地ともに鈍い橙褐色。	盛土
	45	陶質土器	器種不明	—	—	—	—	内外面、素地ともに橙褐色。	す－１９ ２層・上



第63図　陶質土器(1)



第64図　陶質土器(2)

第29表　近・現代本土産磁器観察一覧

単位：cm

図版	番号	器種	部位	口径	底径	器高	素地・釉色	施釉	文様等の特徴	技法	備考	産地	年代	出土地
図版23	1	碗	口～底	13.6	4.8	5.9	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	外反口縁。三角形を主体とした文様で構成される。胴部中央の菱形窓には円形の文様が施文される。底部の梅山窯で焼かれたもの。	型紙刷り	重ね焼きの跡がない	砥部	明治 (19世紀後半)	せ—26 溝4
	2	碗	口～底	14.2	4.7	5.7	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	外反口縁。文様は胴部中央に波線で円形の窓を設け、中に鶴を描く。その他体部には同じく波線で松、竹をあしらって、胴部下に設けた圏線まで点で充填する。1と同じく梅山窯で焼かれた。	型紙刷り	外反碗	砥部	明治 (19世紀後半)	盛土
	3	小皿	底	—	6.6	—	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	円形を中心とした緑色の文様で構成される。中央部の円形には銭を模したような文様を描き、「富貴長寿」の文字が描かれる。縁起物か？		富貴長寿			そ—26 1層
	4	小皿	口～底	11.5	6.3	2.3	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	緑色の文様で皿内面を6分割する。各部分には花弁5つの桜文が描かれるが、その周囲の描き方には2種類あり、交互に配されている。外面には文字が描かれている。	銅版転写		瀬戸・美濃	明治～大正	せ—18 1層
	5	小皿	口	11.2	—	—	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	内向口縁。内面に緑色で花文を描く。口唇部にオレンジ色の圏線？が巡る。					盛土
	6	小皿	底	—	6.4	—	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	内面は緑色の花文を描く。外面畳付けの外側脇に2条、内側脇に2条の圏線が青色で巡っている。	銅版転写		瀬戸・美濃	明治～大正	す—27 Ⅱ層
	7	火入れ	口～底	11	10.5	9.2	灰色の微粒子・灰色	外面、口唇部に施釉	胴部上方と下方に波線で1条の圏線を巡らし、中に竹を描く。口縁部から上方の圏線までは花文をモチーフにした連続文が施され、底部から下方の圏線まで異なった種類の連続文が施される。	型紙刷り	外型により成形	瀬戸・美濃	明治後半	す—27 客土
	8	小皿	口～底	10.2	6.4	1.9	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	内向口縁。内面に桜文を描き、その他の部分を点で充填する。口唇部に圏線？が巡る。	型紙刷り		瀬戸・美濃	明治	せ—27 不明
	9	小碗	口	7.2	—	—	白色の微粒子・白色	総釉、底部欠損	内向口縁。外面に菊？を描く。花は茶色、葉と竹の格子は緑色である。	銅版転写	クロム	瀬戸・美濃	明治末～大正	せ—26 Ⅱ層
	10	小碗	口～底	6.2	3.2	4.7	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	内向口縁。胴部中央に円形の窓が描かれるが個数不明。畳付け外側に2条の圏線が巡る。					つ—25 溝4
	11	小碗	口～底	6.4	3.4	4.6	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	胴部に円形の窓が3～4個描かれ、さらにその中を3分割してそれぞれ、竹・桜・梅の花文が描かれる。窓によって色が違い、確認できるのは茶色と緑色である。口唇部に青色が塗られている。					つ—25 溝4
	12	小碗	口	8	—	—	白色の微粒子・白色	総釉、底部欠損	内向口縁。外面に菊？を描き、2匹の蝶が舞う。菊花は茶色、葉と竹の格子は緑色である。蝶は1匹が茶色、もう1匹が緑色である。9と同一種である。					す—27 Ⅱ層
	13	小碗	口～底	8.6	3.2	4.6	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	内向口縁。外面に菊文を描く。花はピンク色。葉は黒色である。	銅版転写		瀬戸・美濃	大正	せ—26 Ⅱ層
	14	皿	口～底	12.4	7.4	2.7	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	内向口縁。内面に茅葺きの家・梅の木・山・夕日？といった田舎の風景を描く。梅の木は正円子である。口唇部直下に1条の圏線が巡る。	銅版転写	正円子=ピンク色、コバルトの青	瀬戸・美濃	明治末～大正頃	さ～す— 27・28 Ⅰ層
	15	皿	口～底	12.6	7	2.6	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	口縁部を外側に折り曲げる。外面には口折れ部直下に一条、畳付け外側縁に2条、内側縁に1条の圏線が巡る。内面は緑色で6と同様の花文が描かれる。口唇部は青色で塗られる。	銅版転写	クロム	瀬戸・美濃	明治末～大正	す—27 Ⅱ層
	16	小碗	口～底	8.2	3.4	4.8	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	直口口縁。口唇部直下に1条、畳付け外側縁に2条、内面縁に1条の圏線が巡る。胴部中央に六角形の窓が付く。窓内部には花文と海？が描かれている。					つ—26 石列4
	17	小碗	口～底	8.2	3.1	4.8	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	直口口縁。畳付け外側縁に2条の圏線が巡る。体部上方には菊文？が描かれている。					そ—26 不明
	18	小碗	口	7	—	—	白色の微粒子・白色	総釉、底部欠損	直口口縁。口唇部直下と胴部下方にそれぞれ1条の圏線を巡らし、体部中央に鶴を何羽か描く。					そ—26 1層
	19	小碗	口～底	7.6	3.2	4.6	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	直口口縁。口唇部直下と胴部下方にそれぞれ1条の圏線を巡らし、その中に葉の文様を幾何学的に施す。また、畳付け外側に2条、内側に1条の圏線が巡る。	ゴム版		瀬戸・美濃	昭和(戦前)	せ—26 溝4
	20	小碗	口	6	—	—	白色の微粒子・白色	総釉、底部欠損	外反口縁。外面は口唇部を除き青磁の発色をさせ手書きで花文を描く。花の色はピンク色。	銅版転写	青磁の上に絵付	瀬戸・美濃	大正～昭和	そ—26 不明
	21	小皿	口～底	7.8	3.5	2.2	完品のため不明	総釉、畳付けを掻き取る	直口口縁。内面口縁部縁に手書きで絵付けをする。2本の格子状文様内に丸凸を付ける。	手書絵付		肥前	昭和(戦前)	客土
	22	角瓶 (八角)	胴	—	—	—	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、口縁部・底部欠損	文様は唐草文に打ち出の小槌が描かれている。	銅版転写		瀬戸・美濃	大正～昭和	す—27 客土
	23	蓋		6.9	—	2.3	灰白色の微粒子・灰白色	蓋甲面総釉、裏面一部施釉	蓋甲面にコバルト釉で竹？を描く。各節々に1条の圏線を巡らす。	手書染付		瀬戸・美濃	明治	せ—27 客土
	24	小碗	口～底	7	約3.2	約4.6	灰白色の微粒子・灰白色	総釉、畳付けを掻き取る	直口口縁。胴部下半は楕円形の凹部を幾つか設ける。		青磁	瀬戸・美濃	大正以降	し—24 1層
	26	袋物	胴	—	—	—	灰白色の微粒子・灰色	総釉	編目文			肥前	17世紀	せ—19 2層・上
	27	袋物	胴	—	—	—	灰色の微粒子・灰色	総釉	2条の圏線			肥前	17世紀	そ—27 客土
	28	袋物	胴	—	—	—	灰白色の微粒子・灰白色	総釉	編目文			肥前	17世紀	た—21 2層・中
	25	皿	口～底	14.6	8	2.7	白色の微粒子・白色	総釉、畳付けを掻き取る	直口口縁。内面に桜花を5～6巡らし葉も描く。また、中央にも丸の中に同種の桜花を描く。口唇部は茶色を塗る。	銅版転写		瀬戸・美濃	大正前後 (大正中心)	盛土

第30表　円盤状製品観察一覧

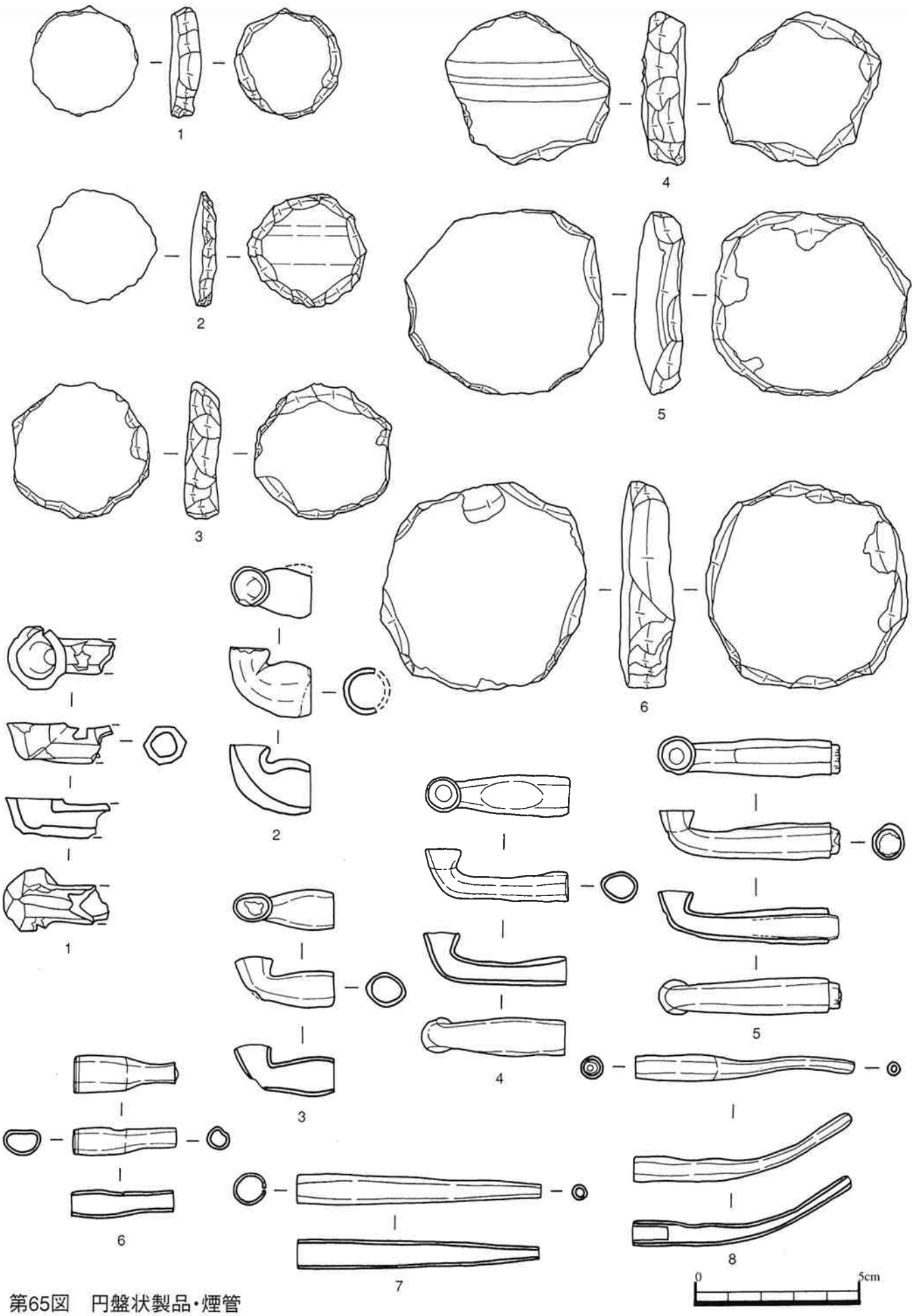
挿図図版	番号	素材	器種	部位	長径(mm)	短径(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	観察事項	出土地
第65図図版36	1	沖無釉	壺	胴部	34	32	7	10	内面から外面に向けて剥離調整。外面に自然釉。	た—21 2層・中
	2	沖施釉	瓶	胴部	37	33	5	10	内面から外面に向けて剥離調整。外面に鉄釉。	つ—25 溝4
	3	沖無釉	壺	胴部	44	4	8	20	内面から外面に向けて剥離調整。外面に自然釉。	た—20 2層・上
	4	沖無釉	壺	胴部	52	42	10	40	内面から外面に向けて剥離調整。外面に2条の圏線。	つ—26 Ⅲ層
	5	沖無釉	壺	胴部	64	56	9	50	内面から外面に向けて剥離調整。外面に自然釉。	ち・つ—26 溝6
	6	沖無釉	壺	胴部	64	62	10	80	内面から外面に向けて剥離調整。外面に自然釉。	せ—26 溝4

※ 沖無釉＝沖縄産無釉陶器、沖施釉＝沖縄産施釉陶器。

第31表　煙管・貝製品・ガラス観察一覧

挿図図版	番号	遺物	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第65図図版36	1	沖縄産無釉陶器	煙管	雁首	—	—	—	火皿内径1.2㎝、外径1.9㎝。外面は暗黒褐色、素地は暗赤褐色。	し－２２ ２層・上
	2	沖縄産施釉陶器	煙管	雁首	—	—	—	火皿内径１㎝、外径1.2㎝。羅宇接続部分内径1.1㎝、外径1.4㎝。外面は透明釉で、羅宇接続部分で釉剥ぎ。素地は灰白色。	せ－２４ １層
	3	金属製品	煙管	雁首	—	—	—	火皿内径１㎝、外径1.2㎝。羅宇接続部分内径0.8㎝、外径1.0㎝。火皿側に金属の溶着部分がある。	ち－２５ Ⅰ層
	4	金属製品	煙管	雁首	—	—	—	火皿内径0.9㎝、外径1.1㎝。羅宇接続部分内径0.7㎝、外径0.8㎝。側面に金属の溶着部分がある。	そ－２７ 客土
	5	金属製品	煙管	雁首	—	—	—	火皿内径0.9㎝、外径1.1㎝。羅宇接続部分内径0.9㎝、外径1.1㎝。羅宇接続部分胴部、上面に貼付けあり。内部に羅宇が残っている。	せ－２７
	6	金属製品	煙管	吸口	—	—	—	羅宇接続部分内径0.9㎝、外径1.1㎝。吸口内径0.5㎝、外径0.6㎝。	す－２６ ２層・上
	7	金属製品	煙管	吸口	—	—	—	羅宇接続部分内径0.8㎝、外径1㎝。吸口内径0.3㎝、外径0.4㎝。	そ－２５ 不明
	8	金属製品	煙管	吸口	—	—	—	羅宇接続部分内径0.5㎝、外径0.6㎝。吸口内径0.2㎝、外径0.3㎝。	そ－２４ １層
第66図図版37	12	貝製品	イモガイ製品		—	—	—	直径2.3㎝、孔直径0.2㎝。表面は風化している。	せ－２６ 溝４
	13	貝製品	ヒメジャコ製品？		—	—	—	貝刃か？　腹縁部分が摩耗している。長幅８㎝、短幅4.5㎝、高さ2.3㎝。	ち－２４ 客土
	14	貝製品	貝錘？		—	—	—	ハナマルユキ。全体的に摩耗しているが、手触りが滑らかである。長幅３㎝。短幅2.2㎝。高さ１㎝。	ち－２０ ２層・上
	15	貝製品	ボタン		—	—	—	直径1.5㎝。孔は２つともに0.2㎝。貝種は不明。	た－２６ Ⅰ層
	16	ガラス	コップ	口／底	5.8	8.5	6	飲料水の瓶をコップに加工した製品。戦後の資料である。色は透明。	グリット 不明客土

※ 法量の単位は㎝。



第65図　円盤状製品・煙管

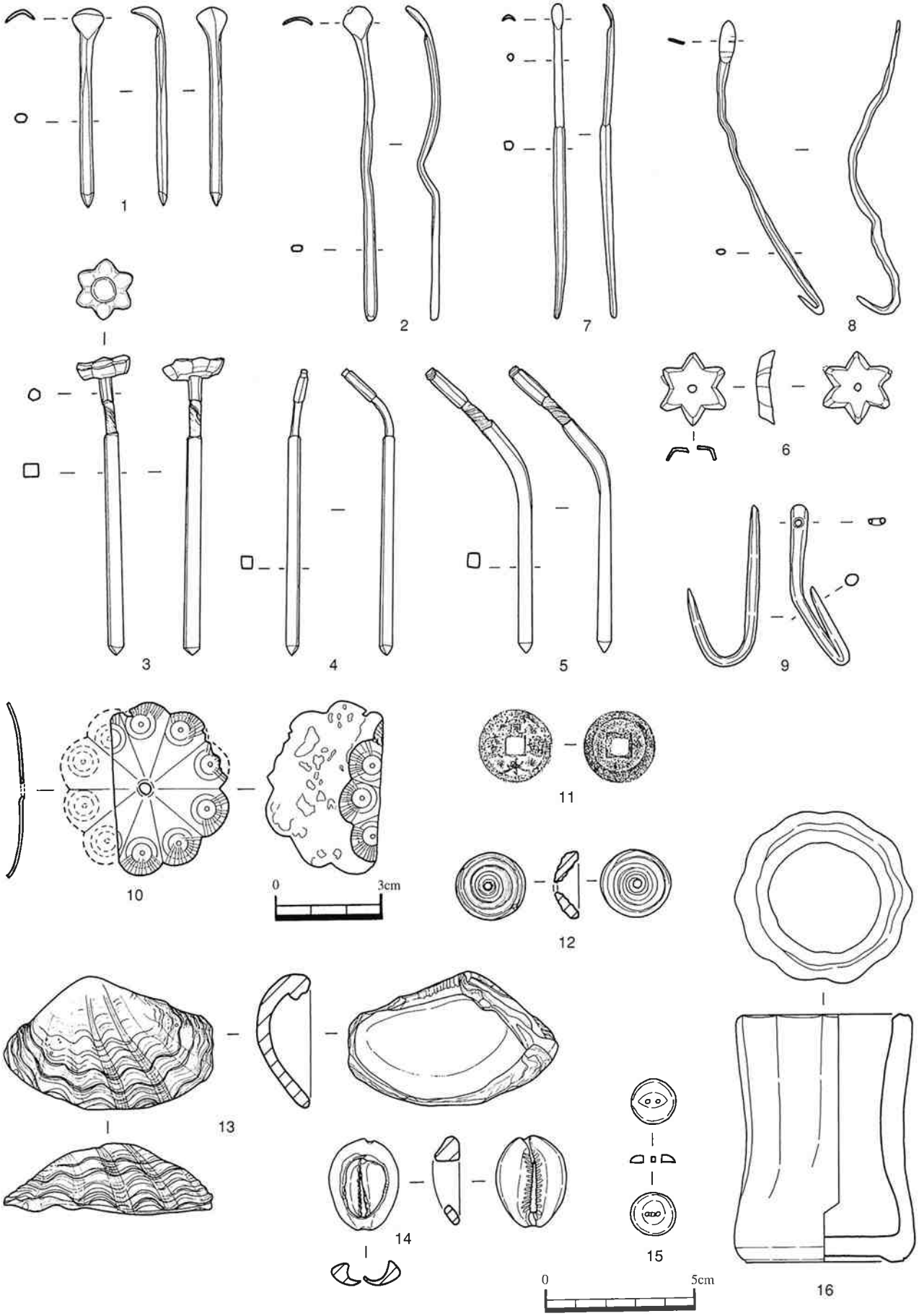
第32表　簪（ジーファー）観察一覧

挿図図版	番号	形状	材質	長さ(cm)	重量(g)	観察事項	出土地
第66図図版37	1	匙形	青銅	6.7	5.4	完形品。首部、竿部の断面形態はともに六角形だが、首部の稜線ははっきりしない。長さが短いことから男女児用と思われる。	せ—19 2層・上
	2	匙形	青銅	11.4	5.4	完形品だが、竿部で折れている。首部、竿部の断面形態はともに四角形。竿部に3箇所の曲折が確認できる。女性用本簪。	そ—21 2層・上
	3	花形	青銅	9.8	19.1	完形品。花部の花弁数が六枚で、花弁先端はやや丸みを帯びる。首部の断面形態は六角形、竿部の断面形態は四角形。ムディ部のねじりは観察できるが錆のため明瞭でない。男性用本簪。	ち—24 Ⅰ層
	4	花形	青銅	10.3	9.7	花部は欠落する。首部の断面形態は六角形、竿部の断面形態は四角形。ムディ部で曲折する。ムディ部のねじりは観察できるが、錆のため明瞭でない。全体的に細身である。男性用本簪。	つ—22 2層・中
	5	花形	青銅	11.7	16.1	花部は欠落する。首部の断面形態は六角形、竿部の断面形態は四角形。竿部で曲折する。ムディ部のねじりは明瞭に観察できる。男性用本簪。	つ—27 Ⅰ層
	6	花形	青銅	2.5	1.6	花部のみである。断面は0．4mm以下と非常に薄い。男性用本簪。	し—19 1層
	7	耳かき形	青銅	10.6	5.1	完形品。首部の断面形態は円形、竿部の断面形態は六角形だが、稜線は不明瞭。男性用副簪。	た—25 溝4
	8	耳かき形	青銅	13.2	3.9	完形品だが、全体が波状に曲折する。劣化が著しく、首部と竿部の断面形態がはっきりしないが、おそらく7と同様であろう。カブ部は潰れており、原形を留めていない。男性用副簪。	た—24 3層

第33表　青銅製品観察一覧

挿図図版	番号	種類	材質	長さ(cm)	重量(g)	観察事項	出土地
第66図図版37	9	鉤？	青銅	—	8	竿秤の、荷をかける鉤の部分であると思われる。全長約5cm、太さは0．4cm前後で、穴の直径は0．3cmを計る。鉤の大きさから、竿秤は小型であったと思われる。	さ—19 客土
	10	不明	青銅	—	8	何かの飾りと思われる。復元すると直径は4．5cm、厚さは約0．4mmをはかる。孔雀の羽を想起させる文様は10ある。中央部の穴には、文様のない面（裏面）から穿孔された後、鑢様の工具で削られた痕跡があり、直径は約0．4cmである。	そ—27 客土
	11	銭貨	青銅	—	3.0	銭径2.4cm、内径2cm、孔は一辺約0.5cmの正方形。銭厚0.1cm。銭造はⅠ期：1636～1659年（註1）。	た—20 2層・中

註1：永井久美男『日本出土銭総覧』　1996年版　兵庫埋蔵銭調査会



第66図　簪（ジーファー）・青銅製品・銭貨・貝製品・ガラス製品

第Ⅶ章　人骨

１．はじめに

沖縄県教育委員会の平成１１年度伊佐前原第一遺跡の発掘調査により、４基の土壙が確認され、それぞれ１体ずつの埋葬人骨が出土した。人骨の年代は１３世紀頃と推定されており、数少ないグスク時代の追加資料である。しかし、残念ながら人骨の保存状態は非常に悪く、４基の土壙墓のうち２基では、歯以外の人骨部分はほとんど消失していた。残りの２基も人骨だけを取り上げることができない状態で、所見の大部分は現場での情報によるものである。以下に、得られた所見を報告する。

２．人骨所見

・埋葬遺構１出土人骨

４基の埋葬人骨のなかでは最も保存状態が良かった人骨で、埋葬姿勢も良く保存されていた。頭位は北、左手を胸の上に置き、軽く曲げた膝を右側に倒した仰臥屈肢位である。顔面部を欠く頭蓋骨、頸椎片、胸椎片、腰椎、仙骨、左肋骨片、左右寛骨、左前腕骨片、左右大腿骨近位部などが検出されたが、保存状態は悪い。残存歯の歯式を下に示す。性別は寛骨の特徴から女性、年齢は歯の咬耗度（Ｂｒｏｃａの１～２度）から成年の後半（３０歳代）と推定される。

／$M^2M^1P^2P^1CI^2I^1$	$I^1I^2CP^1P^2M^1M^2$／
$M_3M_2M_1P_2P_1CI_2I_1$	$I_1I_2CP_1P_2M_1M_2M_3$

頭蓋骨のサイズは全体的に小さい。また、大腿骨も細いが、筋付着部（註１）の発達は良好である。上顎の中切歯と側切歯にシャベル状形質（註２）が認められた。

・埋葬遺構２出土人骨

保存状態が悪く、上・下顎歯のほか、脛骨と思われる四肢長骨片が検出されたが、他はほぼ完全に消失していた。歯の出土状態から頭位は東南、下肢を軽く曲げた仰臥屈肢位の埋葬姿勢だったと思われる。性別は不明。年齢は歯の咬耗度（Ｂｒｏｃａの１～２度）から成年の後半と推定される。残存歯の歯式は下に示すとおりである。

／ $M^2M^1P^2P^1C$ ／／	／ ／／／ $P^2M^1M^2M^3$
$M_3M_2M_1P_2P_1CI_2$／	／ $I_2CP_1P_2M_1M_2M_3$

・埋葬遺構３出土人骨

検出できたのは歯だけであるが、歯の保存状態も悪い。左右の小臼歯から大臼歯にかけての下顎歯と、右上顎の大臼歯部が残っていたが、大部分が取り上げた後に壊れてしまい、詳細な同定はできなかった。歯の出土状態から、埋葬姿勢は頭を南東にした仰臥位である。性別は不明、年齢は歯の咬耗度（Ｂｒｏｃａの２度）から成年後半から熟年前半程度（３０歳代～４０歳代）と推定される。

・埋葬遺構４出土人骨

頭を北西にした仰臥屈肢葬である。右手を胸の上に置き、きつく屈曲した膝は右側に倒れている。頭蓋骨の周りからは土器片が出土している。骨の保存状態は非常に悪く、土と骨の識別が困難な状態だった。識別できた人骨の部位は、頭蓋骨片、肋骨片、右前腕骨片、右大腿骨片、右頸骨片、右腓骨片等である。歯は上下顎ともに中切歯から第３大臼歯まで完全に残っている。上顎の中切歯と側切歯にはシャベル状形質が認められた。本人骨の性別は大腿骨が華奢であることから女性、年齢は歯の咬耗度（Ｂｒｏｃａの１～２度）から成年後半程度と推定される。

・その他

さ－２７から２片の人骨小片が検出された。№１７は部位不明の人骨小片、№２０はおそらく成人のものと思われる四肢長骨片であるが、詳細は不明である。

3．歯冠計測値

本遺跡出土人骨のうち、比較的保存良好だった歯の形質について報告する。歯冠計測値を第34表に示す。左右とも計測可能だった場合はその平均を、一方だけの場合は直接その値を示している。特徴を知るために、性別が判定できた女性について周辺の集団と比較した。用いた集団は、縄文人[1)]、北部九州弥生人[2)]、京都現代人[2)]で、関東現代人[1)]を基準にした偏差グラフによる比較を行った（第68図）。

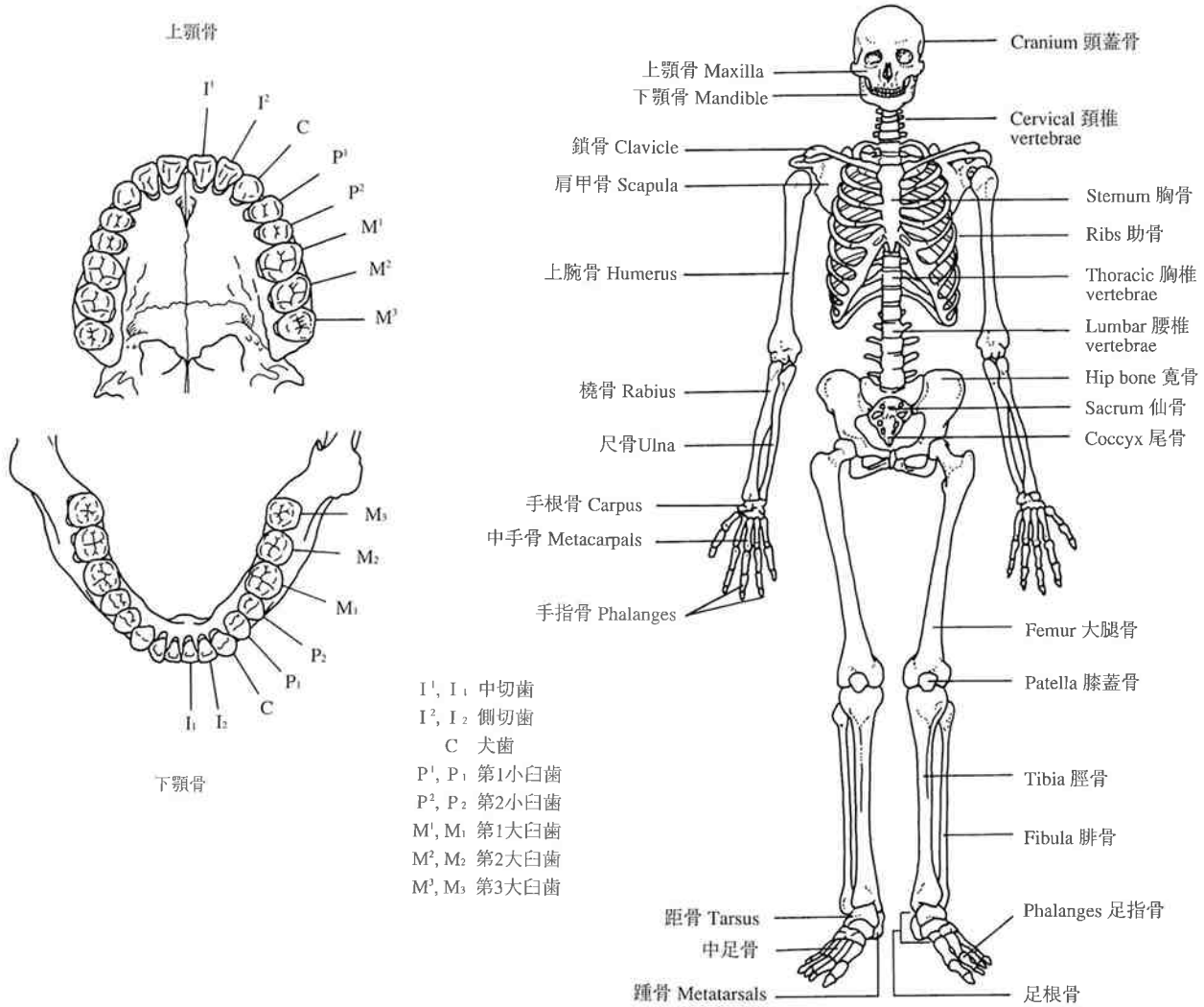
本遺跡出土人骨の歯冠測計測値はいずれも正の側に偏れており、サイズが大きいことを示している。サイズの点では弥生人よりさらに大きい傾向を示しており、シャベル状の切歯が見られたことからも、本遺跡人骨の特徴は縄文人的ではないようである。これらは、グスク時代前後における形質の時代変化が、歯の特徴からも支持される可能性を示すもので、貴重な結果と思われる。

また、埋葬された人骨の関係[3)]を推定するために、Q相関係数を求めた（第35・36表）。基準化は関東現代人[1)]のデータを用いて行った。結果は、埋葬遺構１と埋葬遺構４の女性同士の相関が低く、埋葬遺構１女性と埋葬遺構２（性別不明）の相関がやや高い傾向を示した。被葬者間の類縁関係を示すと考えられるQ相関係数は、社会構造を反映する貴重な情報であるが、いずれの結果も血縁関係に言及できるほどの高い値ではなかった。しかしながら、このような事例の蓄積は、今後の議論のために、貴重な意味をもつものと思われる。

〈註〉

註１．筋肉が付く骨の部分。この部分の発達は、その部分の筋肉も発達していたということを表している。

註２．切歯の辺縁隆線が発達して舌側面が深く凹んだもの。この形の切歯は、南方アジア系集団よりも北方アジア系集団に多く見られるといわれている。



第67図　人の骨格

第34表　伊佐前原第一遺跡人骨の歯冠計測（mm）

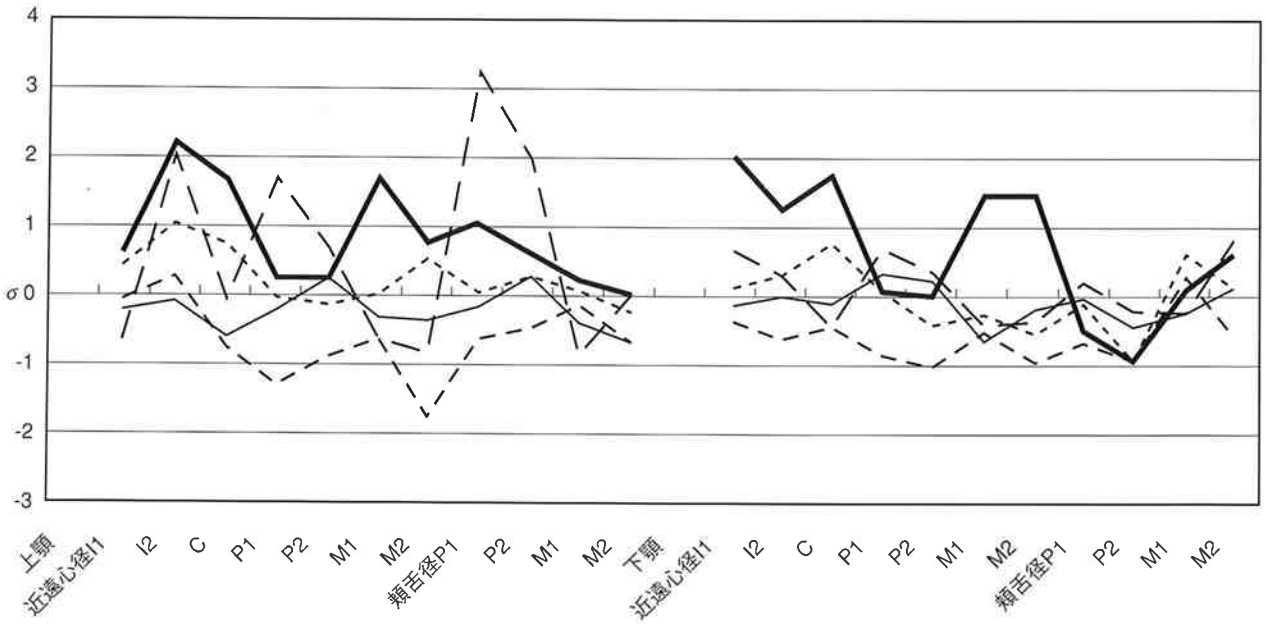
	埋葬遺構1♀	埋葬遺構2？	埋葬遺構4♀
上顎			
近遠心径I1	8.6		8.0
I2	7.7		7.6
C	8.2	8.2	7.6
P1	7.3		7.9
P2	7.0	6.8	7.3
M1	11.2	9.6	9.9
M2	9.9	9.9	9.2
頬舌径P1	9.8		10.9
P2	9.4	9.6	10.1
M1	11.6	11.2	10.9
M2	11.5	11.4	11.5
下顎			
近遠心径I1	6.1		5.6
I2	6.3		6.0
C	7.2	7.4	6.5
P1	7.0	7.0	7.3
P2	7.2	7.5	7.4
M1	12.1	11.4	11.2
M2	11.9	10.5	10.8
頬舌径P1	7.6	7.5	7.9
P2	8.0	7.8	8.3
M1	10.7	10.7	10.6
M2	10.7	10.3	10.8

第35表　歯冠計測値22項目のQ相関係数

	埋葬遺構1♀	埋葬遺構4♀
埋葬遺構1♀	1	
埋葬遺構4♀	0.088	1

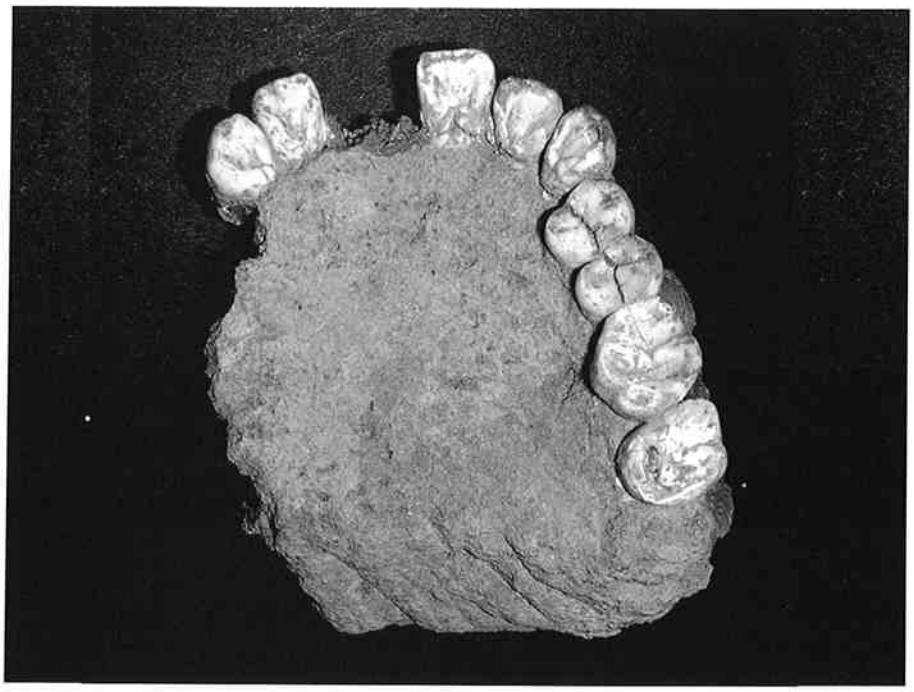
第36表　歯冠計測値16項目のQ相関係数

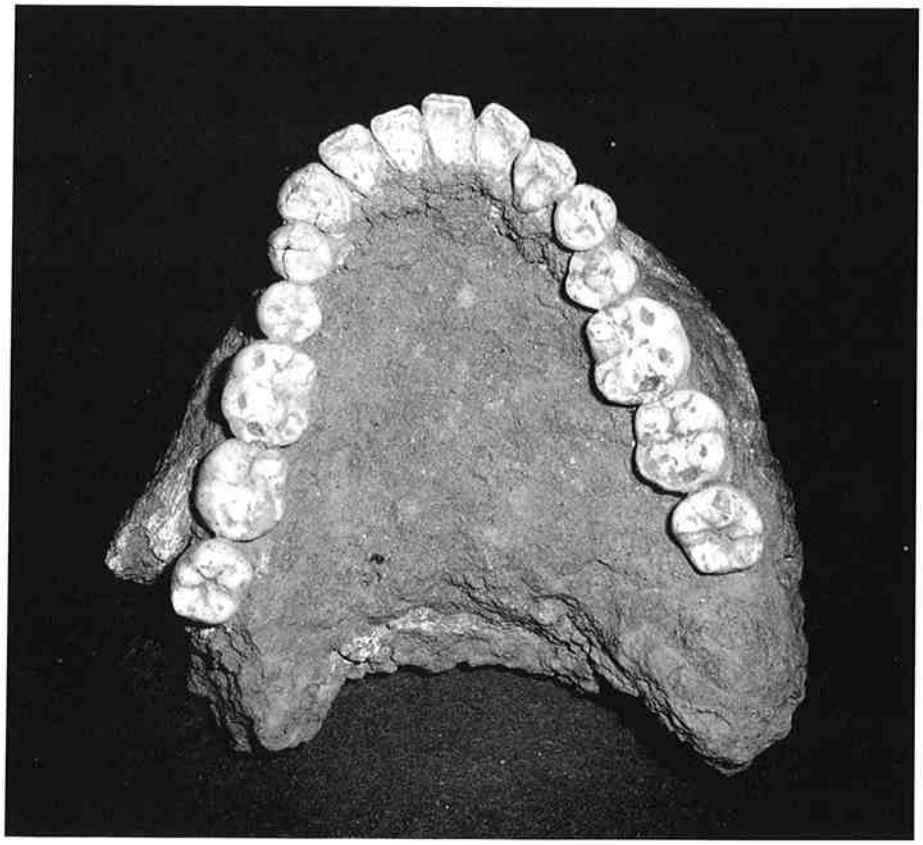
	埋葬遺構1♀	埋葬遺構2？	埋葬遺構4♀
埋葬遺構1♀	1		
埋葬遺構2？	0.430	1	
埋葬遺構4♀	-0.261	0.172	1



第68図　歯冠計測値の偏差グラフ（関東現代人基準）

埋葬遺構1♀　埋葬遺構4♀　縄文　弥生　京都





図版49　伊佐前原第一遺跡　埋葬遺構2 人骨
上段:上顎の歯　下段:下顎の歯

第Ⅷ章 自然遺物

第１節　軟体動物遺存体（貝類）

本遺跡での貝類の出土量は中型コンテナ（長60cm・幅40cm・高15cm）で２個と少なく、資料の残存状況も悪い。貝類の出土はほとんどが近世以降の包含層や溝状遺構からで、グスク時代の包含層や遺構からの出土は少ない。

貝類は156種1383体が確認され、棲息域別に見た場合、個体数の割合は海産が全体の53%、陸産が37%、淡水産が10%で、海産種は巻貝88種、二枚貝56種と多様なのに対し、陸産は５種、淡水産は５種と種が限られる。

貝類の出土状況は、海産貝では巻貝が88種377体で、なかでもマガキガイが多く出土した。二枚貝は56種361体で、その内マスオガイ、リュウキュウシラトリの出土量が多い。マガキガイ・マスオガイ・リュウキュウシラトリは、いずれも遺跡の西方に広がる伊佐浜で採取されるものである。

陸産貝は５種511体得られているが、パンダナマイマイとオキナワウスカワマイマイが圧倒的に多い。

淡水産貝は６種132体確認されたが、カワニナの出土量が目立っている。遺跡周辺にも湧水などの水源がいくつか認められることや、遺跡が立地する場所が、戦前までは水田などの田畑として利用されていたこともあり、田畑にともなう溝が棲息地となっていたことが想定される。

＊貝類個体数の算出方法

・巻貝は、完形、殻頂、破片に分けて集計し、前二者の合計を個体数とした。

・二枚貝は、右殻と左殻に分け、さらに完形、殻頂、破片に分けて前二者を合計し、多い方を個体数とした。

＊貝種の分類方法

・貝種は近隣遺跡である喜友名貝塚・喜友名グスク（註１）、喜友名泉石畳道・喜友名山川原丘陵古墓群・伊佐前原古墓群（註２）出土の貝類、図鑑等と照合しながら分類を行った。

第２節　脊椎動物遺存体

本遺跡から出土した脊椎動物遺存体は、出土量が中型コンテナ４個と少なく、骨の風化が著しいため残存状況が悪かった。遺物は客土、近世以降の包含層及び溝状遺構から88点、グスク時代の包含層及び遺構等から71点出土しているが、発掘作業中に確認できたものを取り上げたため、魚骨などの細片は見逃している可能性もある。

客土、近世以降の包含層及び溝状遺構から得られた種は魚類のハリセンボン、獣類のイノシシ、ウシ、ヤギ、ブタ、ニワトリ、トリ、ネズミなどがある。

グスク時代の包含層及び遺構等から出土した種は魚類のベラ科、ハリセンボン、獣類のイノシシ、ウシなどがあり、また検出時に骨が風化していたが、ジュゴンの可能性がある資料が溝Bから検出された。

遺構から検出した資料を概観すると、柱穴遺構からの出土は、第８層せ－22pit１でウシの下顎骨・右・下顎枝１点、肩甲骨・右・遠位端１点、上腕骨・右・遠位端１点が、まとまった状況で検出された。第９層せ－20pit５でイノシシの寛骨破片が覆土中より１点出土している。

溝状遺構では、溝Aでウシの歯骨・右・M^1が１点出土。溝Bからはウシが目立って検出し、出土資料はウシ歯骨・左・M^1が２点、やや若い成獣のウシの下顎骨・左（Ｍ３未萌出）が１点、椎体類が８点、その他四肢骨が９点であった。僅かだがイノシシ上顎骨破片が１点得られ、種不明の骨片も数個確認されている。溝Cからの出土は、成獣のウシ・上顎骨・左（M^3萌出）が１点、歯骨・右・M^1　が１点、種不明の歯骨破片１点が出土している。

近隣する喜友名貝塚・喜友名グスク（註１）では、種・量ともに本遺跡に比べ多く、遺物の残存状況も良いが、獣類の検出種は概ね同じ傾向にある。しかし魚類については本遺跡では種・量ともに各段に少ない出土状況であった。

＊脊椎動物遺存体の分類方法

・当センター所有の標本と照合して、分類を行った。

＜註＞

註１　上原清乃 他『喜友名貝塚・喜友名グスク』　沖縄県文化財調査報告書第134集　沖縄県教育委員会　1999年

註２　沖縄県教育委員会『喜友名泉石畳道・喜友名山川原丘陵古墓群・伊佐前原古墓群』　沖縄県文化財調査報告書第137集　2000年

第39表　魚類出土量

図番/科/部位		出土地	2層・上	3層	4層	5層	7層	溝B	合計
1	ベラ科	下咽頭骨						1	1
2	ハリセンボン科	歯破片	1		1	1	5		8
	種不明	破片		1					1
合　計			1	1	1	1	5	1	10

第44表　ブタ出土量

図番/部位		出土地	2層 上	2層 下	Ⅰ層	客土	盛土	合計
19	頭蓋骨	頭頂骨片・左右不明				1		1
20	上腕骨	左・遠位部		1				1
21	大腿骨	右・遠位部	1					1
22		左・遠位骨端のみ				1		1
23	脛骨	左・遠位部			〈1〉			〈1〉
24	距骨	左・完存					1	1
合　計			1	1	〈1〉	2	1	〈1〉5

※〈〉:切痕有

第42表　イノシシ歯出土量

図番/部位			出土地	1層	2層・上	8層	Ⅱ層	客土	合計
10	下顎	右	I1				1	1	2
12・13			犬歯	♂1	♀1				♂1・♀1
11		左	I1		1				1
14			M3	1		1			2
		歯片・P・左右不明			1				1
合　計				♂1・1	♀1・2	1	1	1	♂1・♀1・6

第43表　イノシシ出土量

図番/部位		出土地	2層・上	9層	9層せ-20 Pit5	溝B	Ⅰ層	Ⅱ層	溝4	不明	合計
	頭蓋骨	頭頂骨片・左右不明					1				1
	上顎骨	破片・左右不明				1					1
	椎体	破片							1		1
15	肋骨	破片						1			1
	上腕骨	左・破片	1								1
	寛骨	左・破片			1						1
16		右・腸骨部	1								1
17	大腿骨	左・骨体	1								1
18	脛骨	左・両端はずれ	1								1
		右・遠位端～骨体		1							1
	破片・左右不明			1						2	3
合　計			4	2	1	1	1	1	1	2	13

第46表　ヤギ出土量

図番/部位		出土地	1層	2層 上	2層 中	2層 下	Ⅱ層	溝4	合計
	下顎骨	左・関接突起		1					1
		右・破片					1		1
		左・破片						1	1
52	上腕骨	右・遠位部				1			1
53	尺骨	右・近位端			1				1
54	踵骨	右・近位端	1						1
55	中足骨	左右不明	1						1
56	指骨	左・基節骨		1					1
合　計			2	2	1	1	1	1	8

第45表　ヤギ歯出土量

図番/部位				出土地	1層	2層・上	Ⅰ層	Ⅱ層	溝4	撹乱	不明	合計
43	上顎	右	P4					1				1
44				dm3				1				1
44				dm4				1				1
44			M1					1				1
44			M2				1	1				2
44			M3					1				1
45		左	M1		1			1				2
46			M2								1	1
47			M3				1		1			2
48	下顎	左	切歯							1	1	2
49				dm4						1		1
49・50			M1			1				2		3
49			M2			1				1		2
51			M3						1			1
合　計					1	2	2	7	2	5	2	21

※上顎・右のdm3,4M1～3は上顎骨と、下顎・左のdm4M1,2は下顎骨と共に出土。

第41表　ジュゴン?出土一覧

部位	出土地	個数
破片・左右不明	溝B	1

第40表　ニワトリ、トリ、ネズミ出土一覧

図番	種類	部位	出土地	個数
3	ニワトリ	脛骨・右・遠位端	1層	1
4		上腕骨・右・骨体～遠位端	溝4	1
5	トリ	破片・左右不明	2層・中	1
6	ネズミ	大腿骨・左	1層	1

第51表　種不明出土量

部位	出土地	2層	2層 上	2層 中	溝B	溝C	試掘 No.3	合計
橈骨・右・骨体				1				1
橈骨?・骨体・左右不明		1						1
歯破片・左右不明						3		3
破片・左右不明			1	1	2		1	5
合　計		1	1	2	2	3	1	10

第47表　ウシ歯出土量

図番/部位			出土地	1層	2層	2層・上	2層・中	5層	7層	8層	溝A	溝B	溝C	不明	合計
25	上顎	右	P4					2							2
			M1								1		1		2
			M2											1	1
			M3					1							1
26		左	P4										1		1
			P										1		1
26			M1					1				2	1		4
26			M2										1		1
26			M3										1		1
	下顎	右	M2											1	1
28		左	P2									1			1
28			P3									1			1
27			P4	1											1
28			M1	1								1			2
28			M2									1			1
28			M3									(1)			(1)
			M			1									1
			破片			1									1
	破片・左右不明				1	1	1	4	1	1					9
合　計				2	1	3	1	8	1	1	1	(1) 6	6	2	(1) 32

※( ):未萌出、上顎・左のP4・M1～M3は上顎骨と、下顎・左のP2,3・M1,2,(3)は下顎骨と共に出土。

第48表　ウシ出土量

図番/部位		出土地	1層	2層	2層 上	2層 中	2層 下	8層	8層せ-22 Pit1	溝B	Ⅰ層	Ⅱ層	溝4	不明	合計
	下顎骨	下顎骨・右								1					1
29		下顎枝・右							1						1
		破片・左右不明												1	1
	椎体	椎体								2					2
30		頸椎								1					1
		頸椎片								1					1
31		胸椎								1					1
32		突起片								2					2
		破片			1					1					2
33	肋骨	肋骨	〈1〉		1								1		〈1〉2
		破片												1	1
34	肩甲骨	右・遠位端							1						1
		右・破片	〈1〉												〈1〉
35	上腕骨	右・遠位端							1						1
		右・遠位部						1							1
		左・破片								2					2
36	橈骨	右・近位端								1					1
	尺骨	右・破片				〈1〉					〈1〉				〈2〉
37	手根骨	右・橈側										1			1
38	中手骨	右・近位片			1										1
	大腿骨	右・骨体								1					
		左・骨体						1							1
		左・遠位骨端片								1					1
39		左・遠位部								1					1
		左・破片								1					1
40	距骨	左・破片					1								1
41	指骨	左・基節骨								1					1
42		左・中節骨								1					1
	破片・左右不明			〈1〉	〈1〉										〈2〉
合　計			〈2〉	〈1〉	〈1〉3	〈1〉	1	2	3	18	〈1〉	1	1	2	〈6〉31

※〈〉:切痕有

第49表　ウマ出土一覧

図番	部位	出土地	個数
7	歯・右上顎・P4	Ⅰ層	1
8	肋骨・左	Ⅱ層	1
9	中手骨・遠位端・左右不明	Ⅱ層	1

第50表　ウシ・ウマ出土一覧

部位	出土地	個数
下顎骨・左・関接突起	不明	1
椎体片	溝B	1
肋骨片	1層	1

第37表　貝類出土状況（巻貝）

番号	科名	貝種名	生息地	合計 完形	合計 殻頂	合計 破片	個体数
1	ニシキウズ科	ニシキウズ	Ⅰ-2-a	5	0	22	5
2		ギンタカハマ	Ⅰ-4-a	0	0	1	—
3		サラサバテイラ	Ⅰ-4-a	0	3	22	3
4	リュウテン科	チョウセンサザエ	Ⅰ-3-a	1	2	2	3
5		チョウセンサザエの蓋	Ⅰ-3-a	3	0	0	3
6		コシダカサザエ	Ⅰ-2-a	1	1	1	2
7		カンギク	Ⅱ-1-b	21	8	11	29
8		カンギクの蓋	Ⅱ-1-b	4	0	0	4
9	アマオブネ科	コシダカアマガイ	Ⅰ-1	2	2	0	4
10		キバアマガイ	Ⅰ-0-a	1	0	0	1
11		マルアマオブネ	Ⅱ-1-b	2	0	0	2
12		アマオブネ	Ⅰ-1-b	2	0	0	2
13		リュウキュウアマガイ	Ⅰ-0-a	1	0	0	1
14		カノコガイ	Ⅲ-1-e	0	1	0	1
15		アマオブネ科不明		0	1	0	1
16	ヤマタニシ科	オキナワヤマタニシ	Ⅴ-7	13	2	4	15
17	タニシ科	マルタニシ	Ⅳ-5-c	4	1	6	5
18	トウガタカワニナ科	トウガタカワニナ	Ⅳ-5	15	13	6	28
19		ネジヒダカワニナ	Ⅲ-c	2	0	6	2
20		スグカワニナ	Ⅳ-6	0	0	10	—
21		ヌノメカワニナ	Ⅳ-c	5	1	3	6
22	カワニナ科	カワニナ	Ⅳ-5、6	73	20	47	93
23	オニノツノガイ科	オニノツノガイ	Ⅰ-2-c	0	9	44	9
24		コゲツノブエ	Ⅲ-1-c	2	0	0	2
25		クワノミカニモリ	Ⅰ-1-a	30	4	21	34
26	ウミニナ科	カワアイ	Ⅲ-1-c	1	6	4	7
27		ウミニナ	Ⅱ-1-c	0	8	0	8
28		イボウミニナ	Ⅲ-1-c	0	4	5	4
29	ソデボラ科	トンボガイ	Ⅰ-2-c	0	1	0	1
30		オハグロガイ	Ⅱ-2-c	1	2	2	3
31		ムカシタモト	Ⅰ-2-c	1	1	1	2
32		マガキガイ	Ⅰ-2-c	11	59	38	70
33		ネジマガキガイ	Ⅰ-2-c	3	6	3	9
34		クモガイ	Ⅰ-2-c	1	20	151	21
35	タカラガイ科	サバダカラ	Ⅰ-1-a	0	1	0	1
36		ヒメハラダカラ		1	1	0	2
37		ヤクシマダカラ	Ⅰ-2-a	0	3	8	3
38		コモンダカラ	Ⅰ-2-a	1	0	0	1
39		ハナマルユキ	Ⅰ-3-a	3	3	4	6
40		アシダカキイロダカラ	Ⅰ-1-a	0	0	1	—
41		キイロダカラ	Ⅰ-1-a	1	0	0	1
42		ハナビラダカラ	Ⅰ-1-a	32	6	23	38
43		ホシキヌタ	Ⅰ-2-a	1	2	8	3
44		ハラダカラ	Ⅰ-4-a	0	1	1	1
45		タカラガイ科不明		0	0	1	—
46	タマガイ科	ツスガイ	Ⅰ-2-c	3	1	2	4
47		ホウシュノタマガイ	Ⅱ-1-c	1	1	0	2
48	ヤツシロガイ科	ウズラガイ	Ⅰ-2-c	0	1	0	1
49	フジツガイ科	ミツカドボラ	Ⅰ-2-a	5	1	4	6
50		シオボラ	Ⅰ-2-a	0	1	1	1
51		ホラガイ	Ⅰ-4-a	0	0	1	—
52	アクキガイ科	ヒショウラクガイ	Ⅰ-1-a	0	0	1	—
53		ツノテツレイシ	Ⅰ-1-a	0	0	1	—
54		アクキガイ科不明		0	0	1	—
55	フトコロガイ科	フトコロガイ	Ⅰ-1-a	2	0	0	2
56		ムシエビ		1	0	0	1
57	オリイレヨフバイ科	イボヨフバイ	Ⅱ-1-c	1	0	1	1
58		カニノテムシロガイ	Ⅲ-1-c	0	0	1	—
59		ヨフバイモドキ		1	0	1	1
60		ハナムシロ	Ⅰ・Ⅱ-c	1	0	0	1
61	エゾバイ科	ノシガイ	Ⅰ-1-a	1	0	0	1
62		ホラダマシ	Ⅰ-2-c	0	0	2	—
63		ツノマタガイモドキ	Ⅰ-1-a	0	0	1	—
64		エゾバイ科不明		0	1	1	1
65	イトマキボラ科	イトマキボラ	Ⅰ-2-a	0	3	7	3
66		リュウキュウツノマタガイ	Ⅰ-3-a	1	0	1	1
67		チトセボラ	Ⅰ-2-c	0	0	1	—
68	フデガイ科	イモフデガイ	Ⅰ-1-c	1	0	0	1
69		オオミノムシガイ		1	2	1	3
70	オニコブシガイ科	コオニコブシガイ	Ⅰ-3-a	0	1	2	1
71	クダマキガイ科	クダボラ	Ⅰ-1-a	1	0	0	1
72		シロオビトラフクダマキ	Ⅰ-1-c	0	1	0	1
73	イモガイ科	クロミナシ	Ⅰ-2-c	2	3	4	5
74		クロザメモドキ?	Ⅰ-2-c	0	0	1	—
75		コモンイモ?	Ⅰ-1-c	0	0	1	—
76		ミカドミナシガイ	Ⅰ-2-c	0	0	2	—
77		マダライモ	Ⅰ-1-a	2	0	6	2
78		サヤガタイモ	Ⅰ-1-a	7	2	2	9
79		アカシマミナシ	Ⅰ-2-c	0	0	1	—
80		サラサミナシ	Ⅰ-2-c	0	1	5	1
81		ヤキイモ	Ⅰ-2-c	6	7	11	13
82		カバミナシ	Ⅰ-2-c	0	0	1	—
83		ヤナギシボリイモ	Ⅰ-2-a	0	2	10	2
84		サラサミナシガイモドキ	Ⅰ-2-a	0	0	1	—
85		イボシマイモ	Ⅰ-2-a	3	2	12	5
86		ゴマフイモ	Ⅰ-1-c	0	0	1	—
87		アジロイモ	Ⅱ-2-c	2	1	0	3
88		キヌカツギ	Ⅰ-2-a	2	0	0	2
89		イモガイ科不明		1	4	33	5
90	タケノコガイ科	タケノコガイ	Ⅲ-2-c	0	0	1	—
91		ホソニクタケ?	Ⅰ-2-c	1	0	0	1
92	トウガタガイ科	オオクチキレガイ	Ⅱ-1-c	1	1	0	2
93	ナツメガイ科	ナツメガイ	Ⅰ-2-c	1	0	0	1
94	タマゴガイ科	カイコガイ	Ⅱ-1-c	0	2	1	2
95	モノアラガイ科	モノアラガイ		1	0	0	1
96	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ	Ⅴ	8	2	19	10
97	ナンバンマイマイ科	シュリマイマイ	Ⅴ-7	22	8	32	30
98	オナジマイマイ科	パンダナマイマイ	Ⅴ	217	57	122	274
99		オキナワウスカワマイマイ	Ⅴ-7	150	32	93	182
100	巻貝不明			0	3	30	3
	合計			690	331	875	1022
	個体数			1022			

出土地	合計 完	合計 殻	合計 破	個体数
1層	83	33	82	116
2層	3	5	15	8
2層・上	52	75	202	127
2層・中	5	7	20	12
2層・下	0	1	1	1
3層	2	2	2	4
4層	1	3	5	4
5層	4	3	6	7
6層	3	3	2	6
7層 (破片)			1	—
8層	2	1	31	3
溝A (破片)			1	—
溝C	1	1	7	2
Ⅰ層	68	39	69	107
Ⅱ層	114	35	68	149
Ⅲ層	44	16	51	60
Ⅳ層	3	1	6	4
溝1	4	4	18	8
溝2	0	3	3	3
溝3	0	2	3	2
溝4	148	34	97	182
溝6	7	10	19	17
石列2 (破片)			3	—
石列4	6	1	2	7
石列5 (破片)			1	—
掘込1	1	0	3	1
客土	36	11	39	47
覆土	0	1	2	1
盛土	39	8	28	47
撹乱	24	16	30	40
不明	40	17	36	57
合計	690	331	875	1022

※完：完形、殻：殻頂、破：破片、溝：溝状遺構。

第38表　貝類出土状況（二枚貝）

番号	科名	貝種名	生息地	1層					2層					2層・上					2層・中					2層・下
				完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	破片
				L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		
1	フネガイ科	オオシカノハガイ?	Ⅰ-2-a																					
2		エガイ	Ⅰ-1-a							1														
3		ベニエガイ	Ⅰ-2-a	2			1							5	2	2	1	1						
4		リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c				1	1									1	12						
5	イガイ科	リュウキュウヒバリガイ	Ⅰ-1-a																				1	
6	ウグイスガイ科	クロチョウガイ	Ⅰ-4-a					1																
7		ウグイスガイ科不明																						
8	マクガイ科	マクガイ	Ⅰ-2-a			1					1													
9		カイシアオリガイ	Ⅰ-1-a																					
10	シュモクガイ科	クロシュミセン	Ⅰ-1-c																					
11	イタヤガイ科	チサラガイ	Ⅰ-2-b																					
12		ヒナキンチャクガイ	Ⅱ-1-c															6						
13		イタヤガイ	Ⅰ-1-c																					
14		イタヤガイ科不明						1										17						1
15	ウミギク科	メンガイ	Ⅰ-2-a		1								2		1			4						
16		メンガイの一種						4					2				1	3					1	
17		ウミギク科不明																						
18	ミノガイ科	ミノガイ	Ⅰ-2-a																					
19	イタボガキ科	マガキ	Ⅱ-1-c																					
20		イタボガキ科不明			1										1		1							
21	ツキガイ科	ツキガイ	Ⅰ-2-c																					
22		ウラキツキガイ	Ⅱ-2-c																				1	
23		ヒメツキガイ	Ⅰ-2-c											3	1									
24		カブラツキガイ	Ⅱ-2-c	1									1	6	2	2	2	5	2	1				
25	キクザル科	ヒレインコガイ	Ⅰ-4-a																					
26		ケイトウガイ	Ⅰ-2-a					1																
27		シロザル	Ⅰ-2-a																					
28		キクザル	Ⅰ-3-a																					
29		キクザル科不明																						
30	トマヤガイ科	クロフトマヤガイ	Ⅰ-2-a																	1				
31	ザルガイ科	リュウキュウザルガイ	Ⅱ-2-c	1				4										9		1			1	
32		カワラガイ	Ⅱ-2-c					1										4					1	
33	シャコガイ科	シャゴウ	Ⅰ-2-c			1		1										1						
34		ヒレジャコ	Ⅰ-2-c					10					1				2	35			1		4	
35		ヒメジャコ	Ⅰ-2-a					4			1		1			1		12						
36		シャコガイ科不明																2						
37	チドリマスオガイ科	イソハマグリ	Ⅰ-1-c		2				1					1	4	1	1							
38	フジノハナガイ科	リュウキュウナミノコ	Ⅰ-1-c											1										
39	ニッコウガイ科	ヒメニッコウガイ	Ⅱ-2-c		1																			
40		サラガイ			1											1								
41		リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c				1	7					2	1	3	3	1	46					5	
42		サメザラ	Ⅰ-2-c																					
43		ニッコウガイ科不明																						
44	シオサザナミ科	マスオガイ	Ⅱ-1-c	1		1							1				3	2		1	1			
45		リュウキュウマスオガイ	Ⅱ-1-c					5										2						
46	シジミガイ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c																					
47	マルスダレガイ科	アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c																					
48		ヌノメガイ	Ⅱ-1-c					11			1		1			2		32					3	
49		ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c		1										1	2	1	2						
50		アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c		2		1	3				2		1	1	9	10	14		1	1	1		
51		ハマグリ	Ⅱ-2-c																					
52		ユウカゲハマグリ	Ⅱ-1-c				1	1			1						1	6			2		1	
53		オトコエシハマグリ	Ⅱ-1-c											1										
54		オイノカガミガイ	Ⅱ-1-c	1				1																
55		アサリ	Ⅱ-2-c	1																				
56		スダレハマグリ	Ⅱ-1-c			1	3	2										1						
57		オキシジミ	Ⅲ-1-c																					
58	二枚貝不明							1					1					3						
合計				7	9	4	8	59	1	1	4	2	12	19	16	23	25	219	2	5	5	1	18	1
個体数				17					5					44					10					—

番号	3層					5層					6層					7層	8層	9層					溝B	溝C
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	破片	破片	完形		殻頂		破片	破片	破片
	L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R				L	R	L	R			
1																								
2																								
3																								
4																								
5																								
6																								
7																								
8																								
9																								
10																1								
11																								
12																								
13																								
14																								
15															1									
16																								1
17																								
18																								
19											1													
20				1					1	1														
21																								
22																								
23																								
24							1										1							
25																								
26																								
27																								
28																								
29																								
30																								
31																	1							
32																								
33																								
34									1							1				1			3	1
35																								
36					1																			
37				1																				
38																								
39																								
40																								
41										1							1							
42																								
43																								
44																								1
45																								
46																								
47																								
48																								
49																								
50																								
51																								
52																								
53																								
54																								
55																								
56																								
57																								
58																								
合計	0	0	0	2	1	0	1	0	2	2	1	0	0	0	1	2	3	0	0	1	0	0	3	3
個体数	2					3					1					—	—	1					—	—

番号	Ⅰ層					Ⅱ層					Ⅲ層					Ⅳ層					溝1
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	破片
	L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		
1								1													
2						1	1														
3	4	1		1		1	1		1												
4		2			3					1					1						
5																					
6																					
7								1													
8																					
9																					
10																					
11																					
12					1																2
13																					
14										1					1						
15			1	1	3				1	4		1									
16					3									1							
17										1											
18																					
19																					
20				2			1														
21										1											
22																					
23										1											
24	3	3				1					3	2	2		3						
25																					
26		1																			
27																					
28																					
29																					
30	1																				
31	1		1		4					1			1		3						
32				1				1		1		1		1							1
33					1										1						
34			1		5					3					7						
35					6					1	1				1						
36																					
37						1	2						1	1							
38																					
39																					
40																					
41	3	1		3	20	6	4	2	2	4					12						
42																					
43																					
44	5	6	2	1	1	6	9	1		2		1				1					
45															2						
46					1																
47																					
48					7	1	1			2					2					1	
49										1	1		1								
50		1			2		2			2			1	1							
51							1		1	1											
52			1			1		1				1	1		1						
53																					
54		1								1					1						
55																					
56										1					1						
57					1																
58										2											
合計	17	16	6	9	58	18	22	7	5	31	5	6	7	4	36	1	0	0	0	1	3
個体数	26					29					13					1					—

番号	溝2					溝3					溝4					溝6				
	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
	L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	
1																				
2																				
3												1					1			
4															2				1	
5																				
6														1						
7																				
8																				
9													1							
10																				
11																				
12															1					
13															1					
14															5					
15				1								2		2	1					1
16																				
17																				
18																				
19																				
20									1	1		1								
21																				
22																				
23																				
24											1				1					1
25																				
26																				
27																				
28					1							1								
29														1						
30																				
31															2					1
32														1						
33																				1
34										1	1			1	4					5
35					1							1	1		6					
36													1							
37																				
38																				
39												1								
40																		2		1
41	1			2							6	8	2	1	4		1		1	4
42																				
43																				
44	1									1	14	11	5	4	6		1	1	2	
45														1						
46																				
47																				
48											1		1		1					1
49								1			1	1	1							
50													1		1	1		1		
51																				
52											1		1							1
53																				
54																				
55																				
56									1					1	1					
57																				
58															1					
合計	2	0	0	3	2	0	0	1	2	3	25	27	14	13	37	1	3	4	4	16
個体数	5					2					41					7				

番号	掘込1					掘込3	石列2					石列4					石列5
	完形		殻頂		破片	破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	破片
	L	R	L	R			L	R	L	R		L	R	L	R		
1																	
2																	
3																	
4																	1
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																3	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
30																	
31																	
32																	
33																	
34					1	2					1				1		1
35													1			2	
36											1						
37																	
38																	
39																	
40																	
41					2											3	
42																	
43																	
44											1						
45																	
46																	
47								1									
48					1	1		1			1						
49		1															
50																	
51																	
52													1				
53																	
54																	
55																	
56																	
57																	
58																	
合計	0	1	0	0	4	3	0	2	0	0	4	0	2	0	1	8	2
個体数	1					—	2					3					—

番号	科名	貝種名	生息地	客土					覆土					盛土					撹乱					不明					合計					個体数
				完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	
				L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		
1	フネガイ科	オオシカノハガイ?	Ⅰ-2-a																		1								0	0	2	0	0	2
2		エガイ	Ⅰ-1-a																					1					2	2	0	0	0	2
3		ベニエガイ	Ⅰ-2-a	1		1	1							2	2			1	1					1		1			17	8	4	5	2	22
4		リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c		3													2											0	5	0	3	23	8
5	イガイ科	リュウキュウヒバリガイ	Ⅰ-1-a																									1	0	0	0	0	2	—
6	ウグイスガイ科	クロチョウガイ	Ⅰ-4-a																										0	0	0	1	1	1
7		ウグイスガイ科不明																											0	0	1	0	0	1
8	マクガイ科	マクガイ	Ⅰ-2-a																										0	0	2	0	0	2
9		カイシアオリガイ	Ⅰ-1-a																										0	0	1	0	0	1
10	シュモクガイ科	クロシュミセン	Ⅰ-1-c																										0	0	0	0	1	—
11	イタヤガイ科	チサラガイ	Ⅰ-2-b																				1						0	0	0	0	1	—
12		ヒナキンチャクガイ	Ⅱ-1-c																										0	0	0	0	10	—
13		イタヤガイ	Ⅰ-1-c																										0	0	0	0	1	—
14		イタヤガイ科不明						1																				1	0	0	0	0	31	—
15	ウミギク科	メンガイ	Ⅰ-2-a		2		2	1									1	1				1					1		1	7	1	10	18	17
16		メンガイの一種			1			1							1	2		3					1				2	2	0	2	2	4	21	6
17		ウミギク科不明						1																					0	0	0	0	2	—
18	ミノガイ科	ミノガイ	Ⅰ-2-a																									1	0	0	0	0	1	—
19	イタボガキ科	マガキ	Ⅱ-1-c					1																					1	0	0	0	1	1
20		イタボガキ科不明			2	1	1	1				1			1		1			2	1		1						0	9	2	9	4	18
21	ツキガイ科	ツキガイ	Ⅰ-2-c																										0	0	0	0	1	—
22		ウラキツキガイ	Ⅱ-2-c											1			1	1											1	0	0	1	2	2
23		ヒメツキガイ	Ⅰ-2-c	1	1																								4	2	0	0	1	4
24		カブラツキガイ	Ⅱ-2-c	2	2			1					1			1		1	1		1								20	11	6	2	15	26
25	キクザル科	ヒレインコガイ	Ⅰ-4-a																				1					1	0	0	0	0	2	—
26		ケイトウガイ	Ⅰ-2-a																										0	1	0	0	1	1
27		シロザル	Ⅰ-2-a		1			1																					0	1	0	0	1	1
28		キクザル	Ⅰ-3-a	1																									1	1	0	0	1	1
29		キクザル科不明																											0	0	0	1	0	1
30	トマヤガイ科	クロフトマヤガイ	Ⅰ-2-a																						1				1	2	0	0	0	2
31	ザルガイ科	リュウキュウザルガイ	Ⅱ-2-c			1		2										1			1		2				1	2	2	1	4	1	33	6
32		カワラガイ	Ⅱ-2-c					1															1						0	1	1	3	10	4
33	シャコガイ科	シャゴウ	Ⅰ-2-c																									1	0	0	1	0	6	1
34		ヒレジャコ	Ⅰ-2-c					4					2			1		7					1						1	0	4	5	99	6
35		ヒメジャコ	Ⅰ-2-a			1		2						2									1			1	1	2	3	2	5	1	39	8
36		シャコガイ科不明						1																					0	0	1	0	5	1
37	チドリマスオガイ科	イソハマグリ	Ⅰ-1-c			1																2					1		3	8	3	6	0	14
38	フジノハナガイ科	リュウキュウナミノコ	Ⅰ-1-c																					1	1				2	1	0	0	0	2
39	ニッコウガイ科	ヒメニッコウガイ	Ⅱ-2-c																										1	1	0	0	0	1
40		サラガイ																											1	0	3	0	1	4
41		リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c	5	6	19	7	9										4	1	3		1	5			1		5	23	26	27	19	134	53
42		サメザラ	Ⅰ-2-c																					1					1	0	0	0	0	1
43		ニッコウガイ科不明											1				1												0	0	0	1	1	1
44	シオサザナミ科	マスオガイ	Ⅱ-1-c	1	4	16	9	2					1	1					2	1	3		1						32	34	30	19	19	64
45		リュウキュウマスオガイ	Ⅱ-1-c											1				1										1	1	0	0	1	11	2
46	シジミガイ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c					1																				1	0	0	0	0	3	—
47	マルスダレガイ科	アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c																										0	1	0	0	0	1
48		ヌノメガイ	Ⅱ-1-c					1	1									4					6					1	3	2	4	0	76	7
49		ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c			2	1			1		1		1	1							1			1				3	7	7	4	3	14
50		アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c	2		1	1										1		1				1		1			1	5	8	14	17	24	25
51		ハマグリ	Ⅱ-2-a												1														0	2	0	1	1	3
52		ユウカゲハマグリ	Ⅱ-1-c					1							1							1	2		1				2	4	7	3	13	11
53		オトコエシハマグリ	Ⅱ-1-c																										1	0	0	0	0	1
54		オイノカガミガイ	Ⅱ-1-c																										1	1	0	0	3	1
55		アサリ	Ⅱ-2-c																										1	0	0	0	0	1
56		スダレハマグリ	Ⅱ-1-c		1		1											5				1							0	1	1	7	11	8
57		オキシジミ	Ⅲ-1-c	1		1		1														1							1	0	1	1	2	2
58	二枚貝不明																	3					2					2	0	0	0	0	15	—
合計				14	23	44	23	33	1	1	0	2	5	8	7	4	5	34	6	6	7	8	26	4	5	3	6	22	135	151	134	125	652	361
個体数				67					3					13					14					11					285					

※　二枚貝の合計と個体数は必ずしも一致しない。(完形と殻頂それぞれの多い方を合計し個体数とした。)、溝:溝状遺構。

*棲息域凡例

- Ⅰ:外洋・珊瑚礁域
- Ⅱ:内湾・転石地域
- Ⅲ:河口干潟・マングローブ域
- Ⅳ:淡水域
- Ⅴ:陸域

- 0:潮上帯
- 1:潮間帯中・下部
- 2:亜潮間上縁部
- 3:干瀬
- 4:礁斜面及び下部
- 5:止水
- 6:流水
- 7:林内

- a:岩盤
- b:転石
- c:岩礫、砂底、砂泥底

第Ⅸ章　総　括

本調査は、1996年から継続的に行われてきた宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う一連の緊急発掘調査に含まれるもので、今回が最終調査となった。

これまでに、本遺跡の東南側：1992年調査（註１）と北西側：1995年調査（註２）の２ヵ所で、宜野湾市教育委員会を調査主体とする発掘調査が行われている。遺跡東南側では、グスク時代の集落跡と近・現代の遺構群が検出されている。北西側では、沖縄貝塚時代後期後半から近世までの遺物包含層が堆積する沢状凹地の地形を確認している。

過去に行われた発掘調査と今回の調査範囲から、本遺跡の中心部分については、ほぼ全面的な発掘調査が完了しているものと判断される。今回の調査により、遺跡の北西部を除いた調査区のほぼ全域で、グスク時代の集落跡と考えられる遺構群が検出され、宜野湾市が調査を行った遺跡東南側と関連する遺構群が確認されたといえる。

出土遺物から推測される本遺跡の年代は、第３層以下では新石器時代後期後半（終末？）から概ねグスク時代前半（註３）となる11世紀末～14世紀にかけての時期と考えられる。ただ、新石器時代前Ⅳ期（縄文後期相当）の土器資料が、本遺跡の発掘調査に伴って数点得られている。しかし、僅かな出土量であり、当該期の遺跡の中心は、本遺跡周辺の別の場所であると判断され、この時期のものと考えられる遺構も今回の調査では確認していない。

また、調査範囲の北西部では、窪地状の地形が確認され、グスク時代から現代までの遺物が混在した遺物包含層が堆積し、近世から現代にかけての溝状遺構とそれに伴う石積み遺構などが検出された。これらの遺構群の大部分は、戦前・戦後から1955年に米軍が土地の強制接収を行うまで営まれた、伊佐浜集落での畑作や水田農耕に関連するものと考えられる（註４）。溝状遺構については、南北方向に走るものが数基確認されたが、宜野湾市による1995年調査（註２）で検出された沢状凹地との関連性等は判然としない。また、同地点の客土中から、沖縄戦で使用された米軍戦車の砲塔が出土している。

本遺跡の調査成果については、前章までに遺構・遺物等についての詳細を述べたが、本章では、今回の調査成果を今一度整理し、本遺跡の遺構・遺物等について若干の考察を行いたい。

１．遺構について

遺構は、第６層中・第８層上面、および地山となる第９層の上面から検出されている。ここでは、検出遺構の主要な調査成果である第８層上面と第９層上面の遺構群について概要を述べ、若干の考察を試みる。以下、本遺跡の時間的変遷を理解するために、まず最下層である第９層上面から検出された遺構群の概略について述べる。

第９層（地山）上面では、調査区の中央から東側にかけて多くのピット群やいくつかの炉跡が検出され、また９本柱の掘立柱建物跡が３棟、北西から南東にかけての方向を軸に並んでいたのが確認できた（第15図）。また、調査区の中央部分で埋葬遺構が４基点在し、調査区西側には南北方向を軸に並行する数基の溝状遺構が検出された。

埋葬遺構は、土壙墓と木棺墓の可能性がある遺構が検出した。遺体の残存状況は良好とはいえなかったが、歯骨の向きやその他の残存した骨の検出状況、および土坑の大きさなどから、遺体の埋葬姿勢はすべて仰臥屈葬であった可能性が高い。

木棺墓と考えられる２基の頭位は南東を向く。その内、埋葬遺構２では、遺体が釘を用いない組み合わせ式の木棺に納められていた可能性がある（第24図）。検出された人骨は、いずれも成人であるが性別については不明である。北谷町・後兼久原遺跡（註５）でも、木棺に遺体を納めた埋葬遺構が確認され、埋葬されていたのは成人男性で、頭位は東を向いており、本遺跡で検出された埋葬遺構２基の特徴とほぼ共通している。

土壙墓については、埋葬遺構１の遺体は成人女性で、頭位は北を向く。埋葬遺構４は埋葬する際に、遺体の頭部顔面にグスク土器の破片を被せた可能性が高い。頭位は西を向いており、小柄だが成人女性であろうとのことである。頭位が西向きの例としては、北谷町・後兼久原遺跡（註５）で検出された幼児人骨があるが、平面形が楕円形の土坑内にうつ伏せの状態で確認され、遺体は石で覆われていたようである。

次に、ピット群の分布状況をみていくと、800余のピット群が南東から北西方向にかけてみられた。炉跡や平面プランが確認された掘立柱建物跡などの検出遺構は、すべてこのピット群の範囲内にある。主に、遺構の検出状況から、遺構の性格や遺構相互の新旧関係等について考えてみることにする。

まず、３棟確認された９本柱構造をもつ掘立柱建物跡について述べる。建物跡を構成する柱穴遺構のいくつか

には、その上面に数基のピットや炉跡が重複したかたちで検出されたものがあり、これらは掘立柱建物が廃棄された後に構築された遺構であると考えられる。そのため、確認された3棟の掘立柱建物跡が、本遺跡にかつて存在した集落の存続期間の中でも、新しい方に位置付けられる遺構群であるとはいえないと考える。

これらの建物跡は、長辺が南西に面しており、その規模はいずれも4m×3m程である（註6）。平面プランの四隅の柱穴は、プランを構成する他の柱穴に比べると、大きくて深いという特徴がある。また、柱穴痕から検出した、当時の柱の一部であったと考えられる木炭サンプルの分析によると、樹種は広葉樹コナラ属アカガシ亜属（ブナ科）に分類され（註7）、そのサンプルの放射性炭素年代測定の結果から、9世紀末～10世紀初頭にかけての間に切り出された柱材であることが推定されている。

このような9本柱構造の建物は、戦前まで沖縄に多く存在した高倉によくみられる建築構造である。ただ、それらの高倉の建築技法としては、礎石の上に柱を立てるのが一般的であったようで（註8）、本遺跡で確認された建物跡のような掘立柱構造のものとは、必ずしもすべての点で共通するものではない事は明らかである。これらの9本柱の建物跡については、今後調査される同時期の遺跡の遺構配置状況との比較や、沖縄以外の周辺諸地域に存在する伝統的な建物の構造にも共通するものがないか検討した上で、その機能的性格について推定すべきであろうと考える。

また、多くのピット群検出からも窺えるように、かつてはいくつかの掘立柱建物が集落内に立ち並び、検出された炉跡などはそれに伴っていたと考えられる。そ・た－23グリッドで検出された炉跡2の周辺には、木炭破片の集中がみられた。炉跡に近接して、細く短く深度の浅い溝（溝状遺構G：第19図）が検出され、溝の中からは多くの木炭破片が得られている。残念ながら、遺構周辺から鍛冶関連遺物は検出できなかったが、この溝を伴う炉跡遺構が鍛冶と関係する遺構である可能性も考えられる（註9）。

調査区西側では、南北方向に走る溝状遺構を数基検出した（第27図）。そのうち、溝C南側の一部と溝D・Eは、第8層上面検出の列状ピット群とともに平面検出されており、列状ピット群に伴う溝であった可能性がある。

本州の中世遺跡では、溝が集落周縁の区画になっている例がある（註10）。溝B・Cは、本遺跡全体の遺構配置からみると集落の末端に位置していることから、集落の境界として溝が掘られていた可能性もある。

次に、第8層上面で検出された遺構群について述べる。第8層上面では、ピット群・炉跡・柵列状遺構・列状ピット群などが検出された。調査区の東側では、中柱構造をもつ平地住居プランを構成していた柱穴と考えられるピット群や、炉跡などの人の居住に伴う遺構が検出されている。調査区西側には、堀棒による植栽痕と考えられる列状ピット群や、その周囲を巡る浅い溝が確認されている。東側の居住地と西側の耕作地と考えられる場所との間には、南北に走る柵列状遺構があり、グスク時代前半の集落構成の一端を窺わせる調査成果となっている。

今回確認できた遺構群の中で注目されるのが、植栽痕（または、植穴痕）と考えられる列状ピット群である。列状ピット群の検出範囲は約104㎡（南東側・約11m×南西側・約9.5m）を測るが、北西側は後世の掘削によって断ち切られているため、実際の耕作範囲は若干広がる可能性もある。

このような円形のピットが並列する遺構が確認されたグスク時代の遺跡は、現在のところ沖縄県全域で10余例を数えるのみである（註11）。そのうち、今回のように列状ピット群がまとまったかたちで検出された調査事例としては、名護市・宇茂佐古島遺跡（註12）、那覇市・識名シーマ御嶽遺跡（註13）などが知られている。また、このような畑遺構と考えられる列状ピット群については、最近、韓国でも類似遺構を伴う遺跡が確認され、沖縄との関連性が指摘されている（註14）。

今回の調査では、列状ピット群の土壌サンプルと、遺構の切り取り作業を行った植栽痕について理化学分析を行った（附編2）。その結果、いずれの試料からもイネのプラント・オパールが検出され、その他にオオムギやコムギなどの栽培種もわずかに認められた。

一方で、列状ピット内覆土及び遺構周辺土壌の堆積状況を知るために、遺構断面を切り取り、軟X線写真撮影を行って、土壌構造の微細形態観察を試みた。その結果、明確な栽培植物の痕跡は認められなかったものの、ピット内覆土及びその下層には、粒の大きさが1～5㎜、大きいものでは1.5㎝程となる、耕作地の土壌に認められるペッド（粒団）と称される土粒の集合体が確認された。また、覆土中にみられるイネのプラント・オパールは、稲籾殻などを堆肥利用していた為に混在したものと考えるのが妥当であるとの見解を得た。

宇田津徹郎氏による土壌分析では（註15）、列状ピット内覆土の他に、遺構検出面直上層の第7層（し－25グリッド・EL＝14.92mより採取）や、せ－25グリッド溝B内覆土（EL＝14.56mより採取）から採取したブロックサンプルについても、分析を行った。その結果、第7層土や溝B内覆土から、列状ピット内覆土中よりも高い密度のイネのプラント・オパールが検出され、これらの土壌が堆積した時期にイネの栽培が行われていた可能性が

きわめて高いという。

畑跡と考えられる列状ピット群での栽培作物については、各々のピットの大きさとその間隔から、稲作を行ったとは考えにくく、かつての集落の周辺でイネが栽培されていた期間に並行、あるいはその後に、珪酸体を形成しない作物（例えばイモなど）を栽培した畑跡である可能性が推定されるとしている。

いずれの分析結果からも、列状ピット群が畑遺構である可能性がかなり高いと考えられるが、そこでどのような作物が栽培されていたのかについては確実な証拠を得ることができなかった。今後、類例遺跡のさらなる検証が望まれる。

2．遺物について

出土遺物は、グスク土器・類須恵器・白磁・青磁などが主である。その他には、後期土器・滑石製石鍋の破片・石器・玉類・鉄製品などが得られている。

まず、主要遺物である土器では、グスク土器が出土量の大半を占めるが、新石器時代後期後半の土器（註16）も、土器総出土量の１割程を占め、各層序から一定量出土している。

次に、年代の指標となる白磁と青磁については、12世紀から14世紀にかけてのものが得られいる。白磁では12世紀から14世紀にかけての玉縁口縁碗・口折碗・口禿碗が、青磁では12世紀から13世紀にかけての劃花文碗・鎬蓮弁文碗・櫛描文皿などが得られている。

また、類須恵器も比較的多く出土しており、器種は壷類を主として、白磁の玉縁口縁碗を模したと考えられる玉縁口縁碗・鉢が得られている。壷類の口縁形態には、多様なバリエーションがみられる。壷類の個体数については、推定で約50個体分が出土している。

その他の出土遺物としては、中国の銭貨である「元祐通宝」（鋳造年1086年・北宋）が１点得られており、本遺跡の出土遺物からの年代観に合致する資料となっている。自然遺物（獣・魚骨類）では、牛骨が比較的多く出土している。グスク時代前半には、牛を用いた農耕技術がすでに定着していたことを推測させる。

3．まとめ

これまで述べてきたように、本遺跡の調査により、新石器時代後期後半からグスク時代前半にかけての時代相に関する、いくつかの重要な成果を得ることができた。

調査成果としては、葬地・居住地・耕作地等の集落の構成要素となる遺構群が検出され、グスク時代でも、中国との進貢貿易が始まる以前の集落構造の一端を窺い知ることができた。

今後に残る課題として、出土遺物から得られる遺跡の年代観には、11世紀末から14世紀の年代幅があるのに対し、放射性炭素年代測定の結果は、第６層＝1090±40BP、第８層遺構検出面（EL=14.613m）＝1140±40BP、第９層（そ－22pit22内・EL=15.500m）＝1090±40BPで、９世紀末～10世紀頃の年代が示されており（附編２参照）、両資料の示す年代に約200～300年の開きが生じている点があげられる。

出土遺物の中で９～10世紀に位置付けられる可能性があるのは、在地の後期土器と搬入品である滑石製石鍋がある。方形状の耳（または、把手）を有する滑石製石鍋は、森田勉氏の編年では９世紀末頃に出現し、10・11世紀に盛期を迎える（註17）。残念ながら、本遺跡で出土した滑石製石鍋はすべて小破片で、耳の部分が残っていないため、石鍋の型式編年と照合することはできないが、方形状の耳を有する滑石製石鍋を模倣したグスク土器は数点出土している。

なお、第９層上面及び第８層上面検出の各遺構群の解釈やセット関係などについて、さらなる検討の余地があるように感じる。これらの問題を明らかにするためにも、類例遺跡の調査事例の増加と、当該期の諸研究の進展が今後望まれる。

最後に、本遺跡の発掘調査、ならびに報告書作成に関わった多くの関係者の方々に、深く感謝の意を表したい。

＜註＞

註１　宜野湾市教育委員会『宜野湾市文化財調査報告書第17集　伊佐前原遺跡』1993年

註２　宜野湾市教育委員会『宜野湾市文化財調査報告書第28集　伊佐前原第一・第二遺跡』1998年

註３　グスク時代を12～16世紀と捉える年代観から考えれば、11世紀末～14世紀をグスク時代前半とするには、若干時間的幅が広いといえる。しかし、文章表現上の便宜もあって、ここではとりあえず「グスク時代前半」と表記しておく。

註４　宜野湾市教育委員会『宜野湾市史　第一巻　通史編』1994年

註５　北谷町教育委員会『後兼久原遺跡展』1997年10月30日

註６　北谷町後兼久原遺跡で確認された、９本柱の掘立柱建物跡の規模は約2.5ｍ×4.6ｍである。(出典：註５と同じ)

註７　広葉樹ブナ科コナラ属アカガシと同種ものとしては、現在、沖縄本島ではオキナワウラジロガシがあるが、本遺跡で得られた試料サンプルの分析から明確な種の同定を行うことは困難であるとのパリノ・サーヴェイ社からの回答があった。

註８　野村孝文『南西諸島の民家』相模書房　1961年

註９　本州中世の鋳造遺跡では、鋳造遺構の炉跡に溝が伴っている場合がある（飯村均「中世の製鉄・鋳造」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第８集』帝京大学山梨文化財研究所　1997年)。

註10　鋤柄俊夫「中世地域社会における村落の考古学的研究」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告　第８集』帝京大学山梨文化財研究所　1997年

註11　呉屋義勝「沖縄諸島の「はたけ」の検討にむけて」『はたけの考古学』日本考古学協会　2000年度鹿児島大会実行委員会（編）2000年10月

註12　名護市史編さん委員会「宇茂佐古島遺跡」『名護市史　資料編４　考古資料集』1998年３月

註13　那覇市教育委員会『識名シーマ御嶽遺跡』1997年３月

註14　工楽善通「いま　はたけの考古学に熱い視線が注がれている」『はたけの考古学』日本考古学協会2000年度鹿児島大会実行委員会（編）2000年10月

註15　2000年７月、宮崎大学農学部の宇田津徹郎氏にお会いする機会があり、伊佐前原第一遺跡採取の土壌試料サンプルの理化学分析について、ご協力頂けることになった。今回、宇田津氏のご厚意により、試料の分析結果を本報告書に掲載することができた。記して感謝申し上げる。

註16　新石器時代後Ⅳ期に位置付けられるフェンサ下層式土器については、グスク時代初期とする嵩元氏の見解がある（嵩元政秀「沖縄における原始社会の終末期」『南島史論―富村真演教授還暦記念論文集』琉球大学史学会　1972年)。

註17　森田勉「滑石製容器」『太宰府陶磁器研究―森田勉氏遺稿集』森田勉氏遺稿集・追悼集刊行会　1995年

沖縄諸島新石器時代編年と伊佐前原第一遺跡の位置

年代	時代	時期区分	沖縄諸島編年 高宮氏暫定編年		土器型式		伊藤氏様式区分	主要搬入遺物	主要遺跡
前10,000頃	旧石器時代	旧石器時代							港川フィッシャー遺跡
	縄文時代	草創期	沖縄新石器時代		野国貝塚第Ⅳ群土器		爪形文系		
		早期		前Ⅰ期	ヤブチ式土器 東原式土器				野国貝塚群 渡具地東原遺跡
前4,000頃 前3,000頃		前期		前Ⅱ期	条痕文土器 室川下層式土器 曾畑式土器 神野A式土器 神野B式土器		条痕文系	曾畑式土器(渡具知東原遺跡)	
		中期		前Ⅲ期	面縄前庭Ⅰ式土器←具志川Ⅰ式土器 面縄前庭Ⅱ式土器←具志川Ⅱ式土器 面縄前庭Ⅲ式土器←具志川Ⅲ式土器 面縄前庭Ⅳ式土器←神野C式土器 面縄前庭Ⅴ式土器←面縄前庭式土器		隆帯文系		古我地原貝塚 神野貝塚
前2,000頃		後期		前Ⅳ期	神野D式土器 神野E式土器 伊波式土器　仲泊式土器 狭堂式土器 大山式土器 室川式土器		点刻文系	出水系土器 市来式土器(浦添貝塚)	熱田原貝塚 前原遺跡 室川貝塚
前1,000頃		晩期		前Ⅴ期	室川上層式土器　カヤウチバンタ式 宇佐浜式土器 仲原式土器	仲原式土器	肥厚口縁系	黒川式併行 明刀銭(城嶽貝塚採集)	シヌグ堂遺跡
前300頃 0	弥生時代	前期		後Ⅰ期	真栄里式土器	阿波連浦貝塚第Ⅵ層土器		板付Ⅱ式土器(真栄里貝塚) 亀ノ甲類似土器(久里原貝塚)	渡具地木綿原遺跡
		中期		後Ⅱ期	具志原式土器	浜屋原式土器	無文尖底様式	入来式土器 山ノ口式土器 板状鉄斧(宇堅貝塚)	具志堅貝塚 嘉門貝塚 宇堅貝塚
		後期		後Ⅲ期	アカジャンガー式土器	大当原式土器		免田式土器(具志原貝塚)	平敷屋トウバル遺跡
後200頃 500頃	古墳時代～平安時代初頭			後Ⅳ期	フェンサ下層式土器	アカジャンガー式 フェンサ下層式	くびれ平底様式	開元通宝 本土産須恵器(那崎原貝塚) 類須恵器	那崎原遺跡 フェンサグスク
	平安時代～室町時代		古琉球	グスク時代	グスク(系)土器		広底様式	長崎産滑石製石鍋 中国産白磁玉縁碗 青磁鎬蓮弁文碗	**伊佐前原第一遺跡 第8・9層**

註：上記の表は、沖縄新石器時代に関しては高宮廣衛氏の暫定編年(高宮1978, 1991)をベースに伊藤慎二氏提示の様式区分案(伊藤1993)を加味し、新石器時代後期(弥生時代～平安初頭併行期)は最近の土器編年(岸本ほか2000ほか)もあわせて付すかたちとした。

グスク時代以降の略年表および伊佐前原第一遺跡の位置

西暦年	時代名称 日本	時代名称 沖縄	沖縄の様相	日本本土の様相	主要な遺跡
751年	飛鳥・奈良時代	新石器時代後期後半	僧鑑真ら、「阿児奈和島」に漂着と伝わる。	794年　平安京遷都 894年　遣唐使の廃止	那崎原遺跡 フェンサグスク 伊佐前原第一遺跡 第8・9層
13世紀頃 1265～78	平安時代～鎌倉時代	グスク時代	農耕社会の開始。中国陶磁・カムィヤキ・滑石製石鍋等の舶載容器類が広く流通。 この頃より各地に城塞的大型グスクが現れる。 咸淳年間、僧禅鑑が浦添に極楽寺建立。	1192年　源頼朝、鎌倉幕府開く 1274・79年　文永・弘安の役	稲福遺跡
1372年 1390年頃	南北朝	三山鼎立時代	察度が明に入貢。 宮古・八重山はじめて中山へ入貢。	1392年　南北朝合一	今帰仁城跡
1427年	室町時代		15世紀頃、沖縄への中国産陶磁器の流入ピークに。 尚巴志、沖縄本島を統一(第一尚氏時代の開始)。		座喜味城跡
1453年		第一尚氏	志魯・布里の乱により首里城消失。		
1470年			金丸、王位に就き第二尚氏が開始。	1467～77年　応仁の乱	
1492年 1529年	戦国時代	第二尚氏(前期)	円覚寺の建立(1494年竣工)。 守礼門の建立。	1573年　室町幕府滅亡	旧円覚寺跡
	織豊政権期(安土桃山)			1592年　豊臣秀吉、朝鮮出兵 1603年　家康、江戸幕府開く	
1609年	江戸時代	第二尚氏(後期)	薩摩の琉球入り。翌年に尚寧王、徳川家康と謁見。		
1616年 1623年			張献功(一六)来琉、湧田村に朝鮮式陶法伝える。 儀間真常、はじめて黒糖を製造。	1639年　鎖国令	湧田古窯
1689年 1709年			壺屋への窯場統合。 首里城が失火により炎上。		壺屋古窯
1853年 1871年			ペリー、那覇に来航し首里城を訪問(以後、5度来島)。 宮古貢納船台湾遭難事件(後の台湾出兵へ)。	1853年　黒船の浦賀来航 1868年　明治維新	伊佐前原第一遺跡 北西部
1879年	明治	沖縄県 近代	琉球処分。	1894年　日清戦争	
	大正				
1945年	昭和	米軍占領期	沖縄戦。終戦後、沖縄は米軍統治下に。	1939～45年 第二次世界大戦	
1972年	平成	復帰後	本土復帰運動 沖縄施政権、米国より日本国へ復帰。	1964年　東京オリンピック開催	

引用文献

高宮廣衛1978「沖縄諸島における新石器時代の編年(試案)」『南島考古』第6号 沖縄考古学会.

高宮廣衛1991「南島考古雑録(Ⅰ)」『南島考古』第11号 沖縄考古学会.

岸本義彦・西銘章・宮城弘樹・安座間充2000「沖縄編年後期の土器様相について」『琉球・東アジアの人と歴史-高宮廣衛先生古稀記念論集-』同論集刊行会.

伊藤慎二1993「沖縄編年の現状と諸問題」『史学研究集録』第19号 國學院大學大学院日本史学専攻大学院会.

安里進1991「沖縄歴史研究の現状と課題」『歴史評論』

参考文献

第Ⅵ章　第１節

横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『研究紀要』第４号　九州歴史資料館　福岡　1978年
金武正紀「沖縄における12・13世紀の中国陶磁器」『沖縄県立博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館　1989年

第Ⅵ章　第２節

金武正紀「沖縄における12・13世紀の中国陶磁器」『沖縄県立博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館　1989年
亀井明徳『福建省古窯跡出土陶瓷器の研究』都北印刷出版　1995年
手塚直樹・他『鹿児島県大島郡宇検村倉木崎海底遺跡発掘調査報告書』宇検村文化財調査報告書第２集　宇検村教育委員会　1999年

第Ⅵ章　第４節

池田榮史「須恵器からみた琉球列島の交流史」『古代文化』第52巻 第３号　財団法人古代学協会、2000年
佐藤仲二「南島の須恵器」『東洋文化』48・49 東洋學會 東京大学出版會　1970年
白木原和美「類須恵器集成(１)～奄美大島・徳之島・喜界島」『南日本』第６号　鹿児島短期大学南日本文化研究所　1973年
白木原和美「類須恵器の出自について」『法文論叢』第36号　熊本大学法文学会　1975年

第Ⅵ章　第６節

金武正紀「沖縄における 12・13世紀の中国陶磁器」『沖縄県立博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館　1989年
金城亀信「グスク土器の出現」『考古学ジャーナル』ニュー・サイエンス社　1991年
高宮廣衛『沖縄縄文土器研究序説』第一書房　1993年
呉屋義勝・山里昌次・豊里友哉・他『真志喜森川原遺跡』宜野湾市文化財調査報告書第18集　宜野湾市教育委員会　1994年
仲宗根啓・他『銘苅原遺跡』那覇市文化財調査報告書第35集　那覇市教育委員会　1997年
福地幸子・宮城ゆりか・他『伊佐前原第一・第二遺跡』宜野湾市文化財調査報告書第28集　宜野湾市教育委員会　1998年
當銘由嗣・他『喜友名貝塚・喜友名グスク』沖縄県文化財調査報告書第134集　沖縄県教育委員会　1999年
金城匠子「グスク(系)土器の研究」『琉球大学考古学研究集録』創刊号　琉球大学法文学部考古学研究室　1999年
山本正昭「グスク土器の基礎的研究」『地域文化論叢』第３号　沖縄国際大学大学院地域文化研究科　2000年
岸本義彦・西銘章・宮城弘樹・安座間充「沖縄編年後期の土器様相について」『東アジアの人と歴史ー高宮廣衛先生古稀記念論文集ー』上巻　高宮廣衛先生古稀記念論文集刊行会　2000年

第Ⅵ章　第12節

永井久美男編「中世の出土銭ー出土銭の調査と分類ー」兵庫埋蔵銭調査会　1994年

第Ⅶ章

1) Matsumura,H(1989) Geographical variation of dental measurements in the Jomon Population. J. Anthropological Society of Nippon 97, pp. 493-512.
2) Brace, C.L. and Nagai, M.(1982) Japanese tooth size: Past and present. Am. J.Physical Anthropology 59, pp. 399-411.
3) 土肥直美・田中良之・船越公威（1986）歯冠計測値による血縁者推定法と古人骨への応用．人類学雑誌 94，pp. 147-162.
J.W.Rohen・横地千仞・E.Lütjen-Drecoll『解剖学カラーアトラス』第４版　医学書院　1999年
藤田恒太朗・桐野忠大・山下靖雄『歯の解剖学』金原出版　1999年

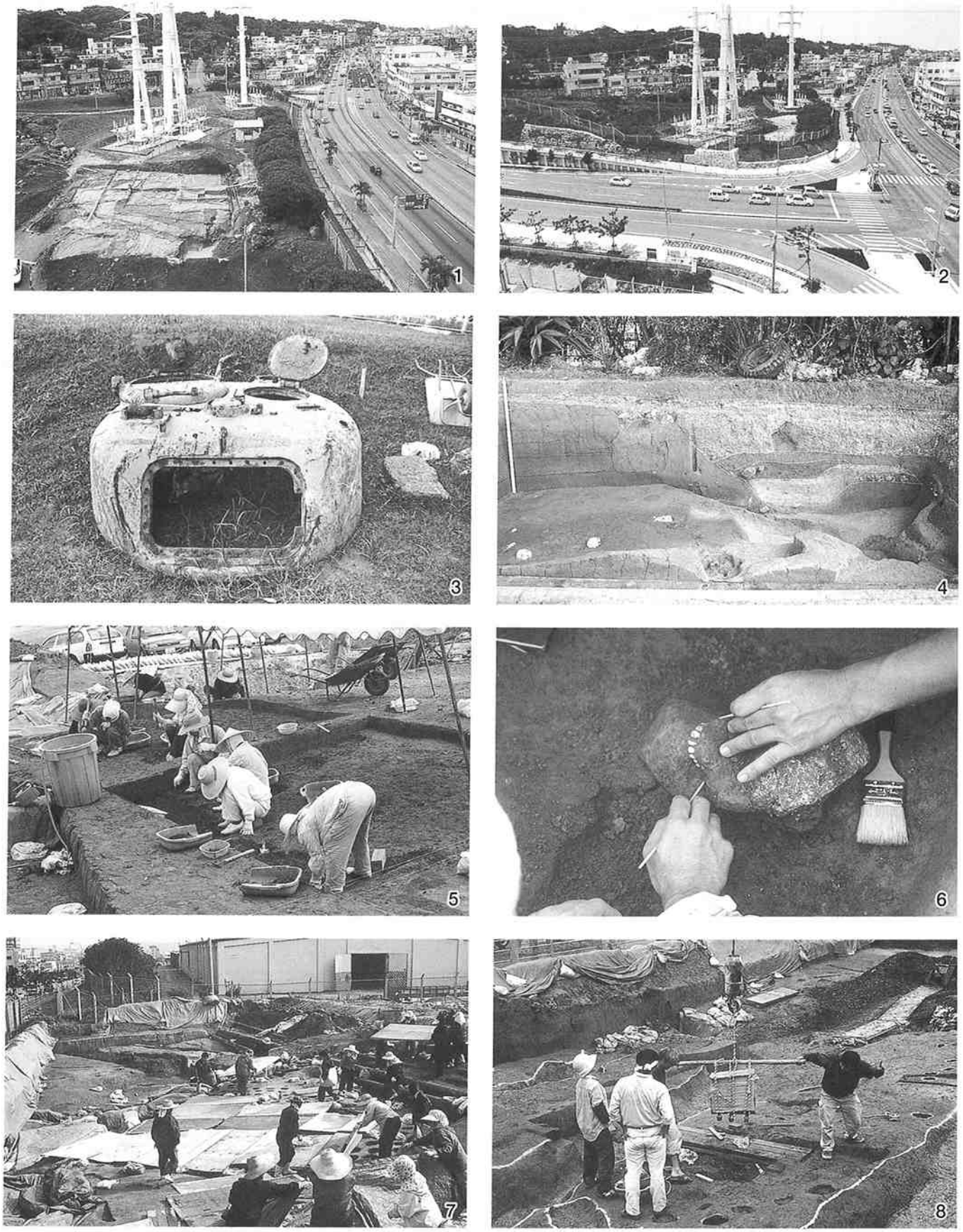
第Ⅷ章　第１節

島袋春美・他『湧田古窯跡Ⅳ』沖縄県文化財調査報告書第136集　沖縄県教育委員会　1999年
島袋春美・他『平敷屋トウバル遺跡』沖縄県文化財調査報告書第125集　沖縄県教育委員会　1996年
金城透・仲間留美・他『慶来慶田城遺跡』沖縄県文化財調査報告書第131集　沖縄県教育委員会　1997年
久保弘文・黒住耐二『生態／検索図鑑 沖縄の海の貝・陸の貝』沖縄出版　1995年
波部忠重・奥谷喬司『学研生物図鑑 貝Ⅰ 巻貝』学習研究社　1994年
波部忠重・奥谷喬司『学研生物図鑑 貝Ⅱ 二枚貝・陸貝・イカ・タコ』学習研究社　1994年

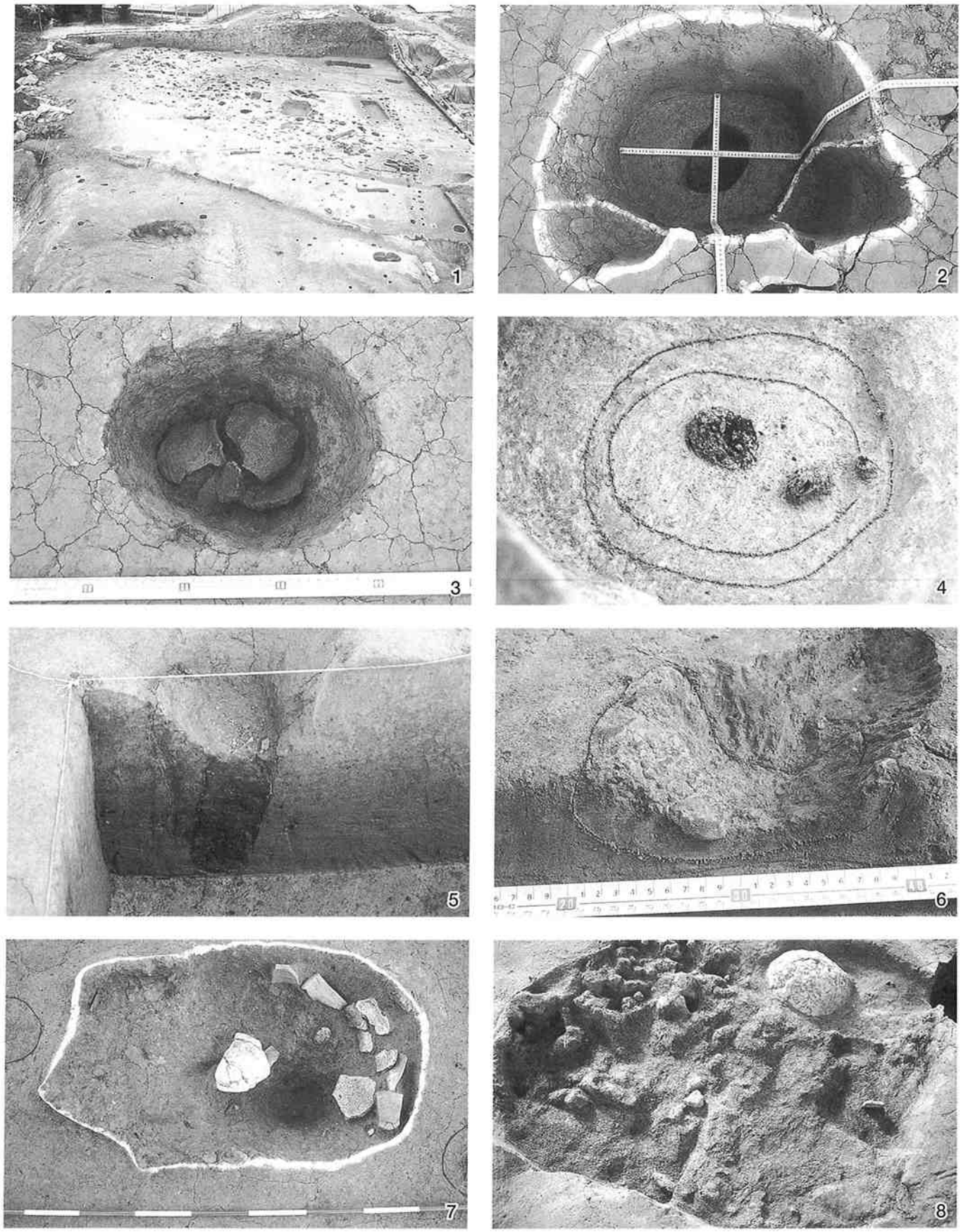
第Ⅸ章

網野善彦・石井進・福田豊彦『よみがえる中世１』平凡社　1998年
金武正紀「沖縄の中国陶磁器」『月刊考古学ジャーナル６』ニューサイエンス社　1990年
山本信夫「11・12世紀の貿易陶磁器ー1980年代の編年研究を中心として」『貿易陶磁研究 №10』日本貿易陶磁研究会　1990年
金城亀信「グスク土器の初現」『月刊考古学ジャーナル６』ニューサイエンス社　1990年
宜野湾市教育委員会『ぎのわん 宜野湾市史別冊 写真集』1991年

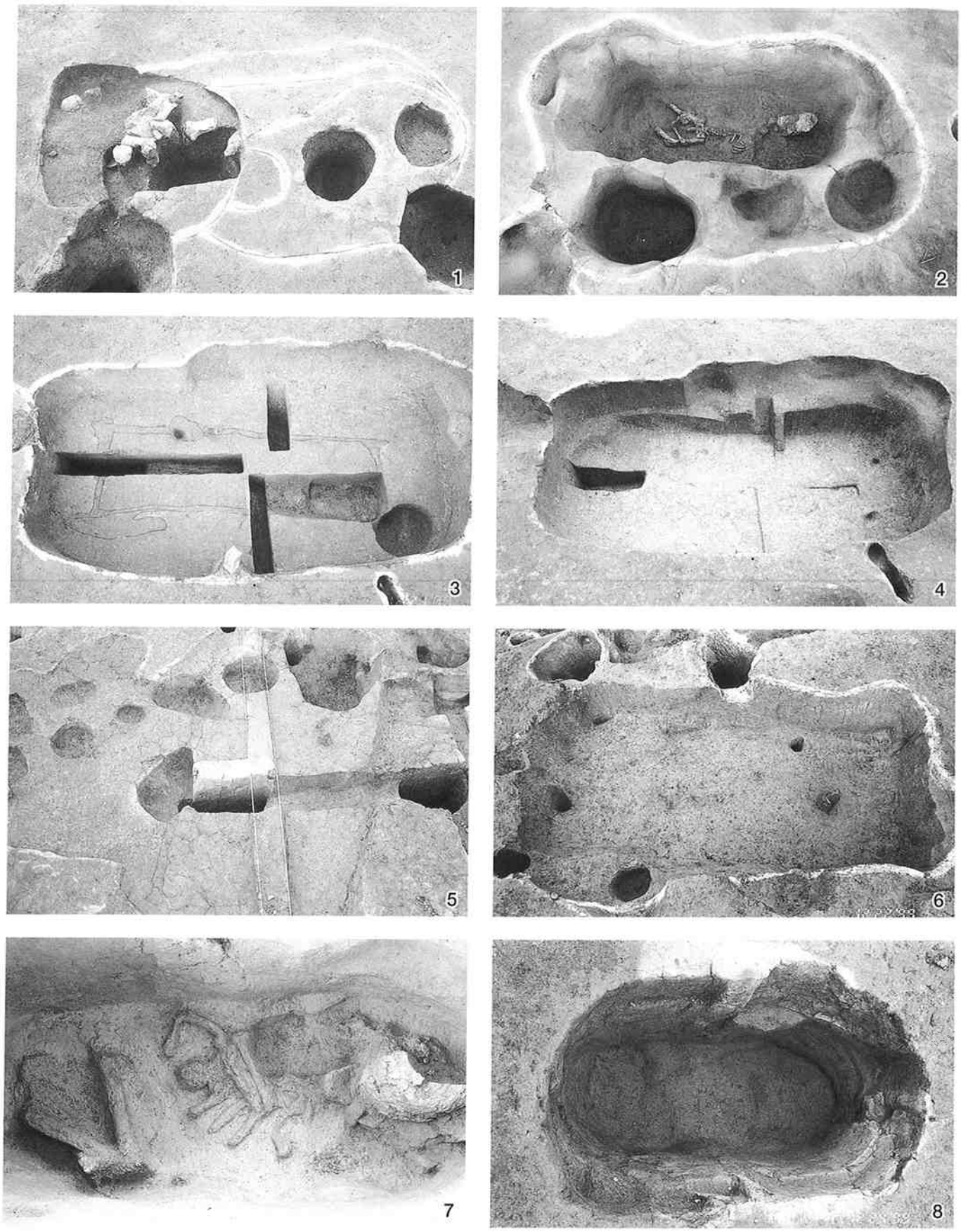
图　版



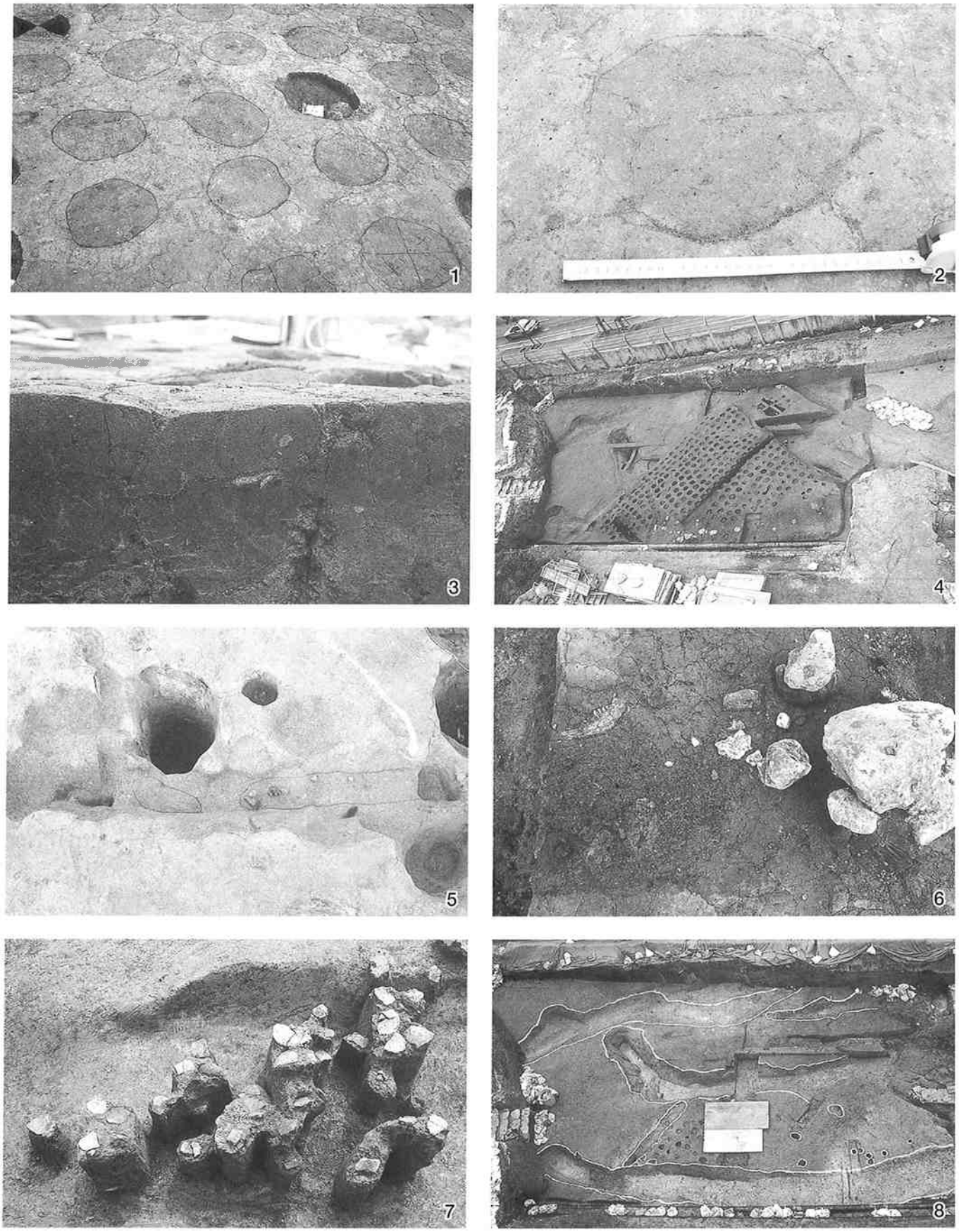
図版1　遺跡遠景・調査中(1)調査完了後(2)発見された戦車の砲塔(3)
す・せ-27層序〈東側より撮影〉(4)発掘調査風景(5～8)



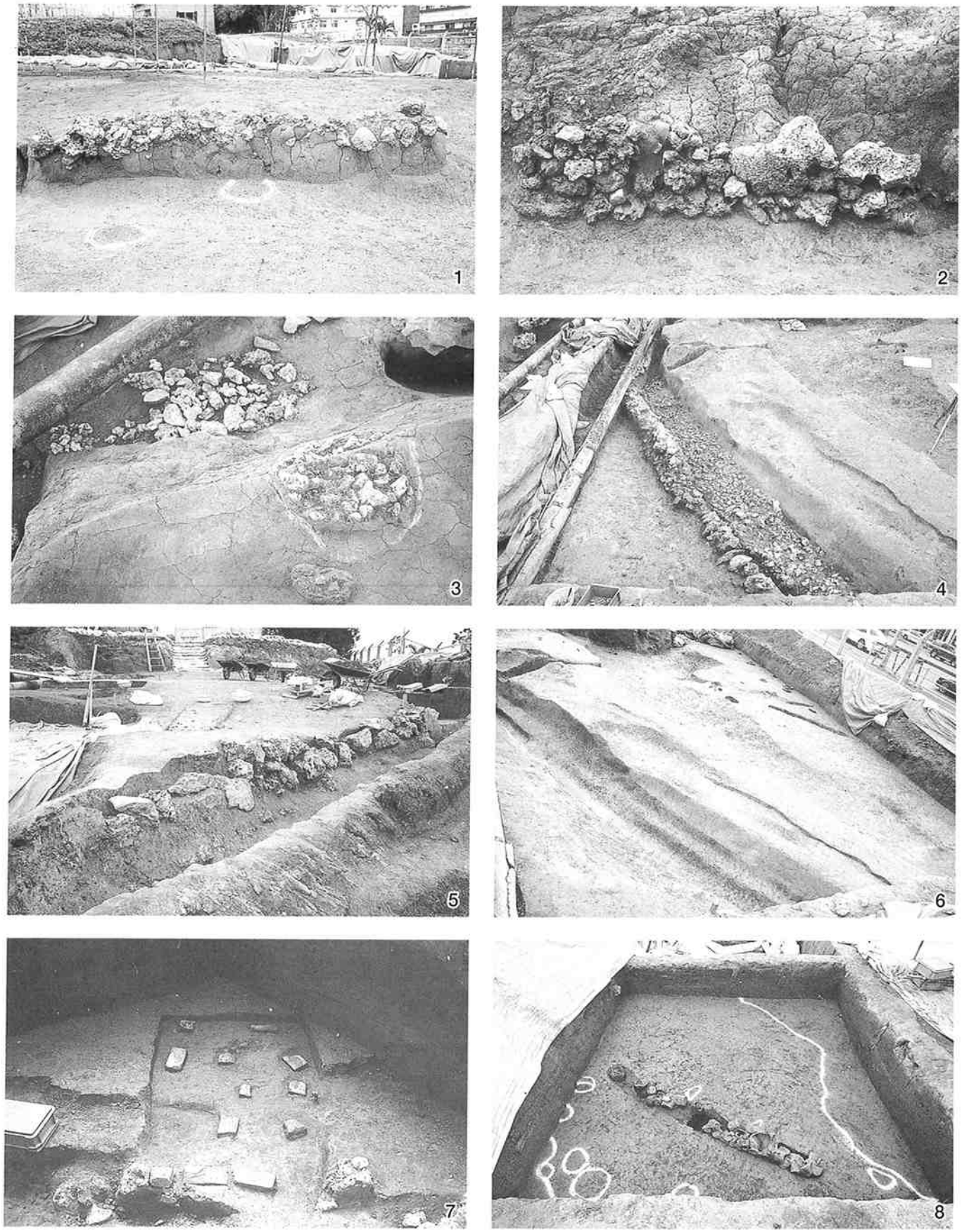
図版2　パイプラインより東側完掘状況(1)9層ピット検出状況(2～5)柱痕完掘(2)
遺物検出(3)木炭破片検出(4)ピット断面(5)6層焼土遺構(6)8層炉跡(7)9層炉跡3(8)



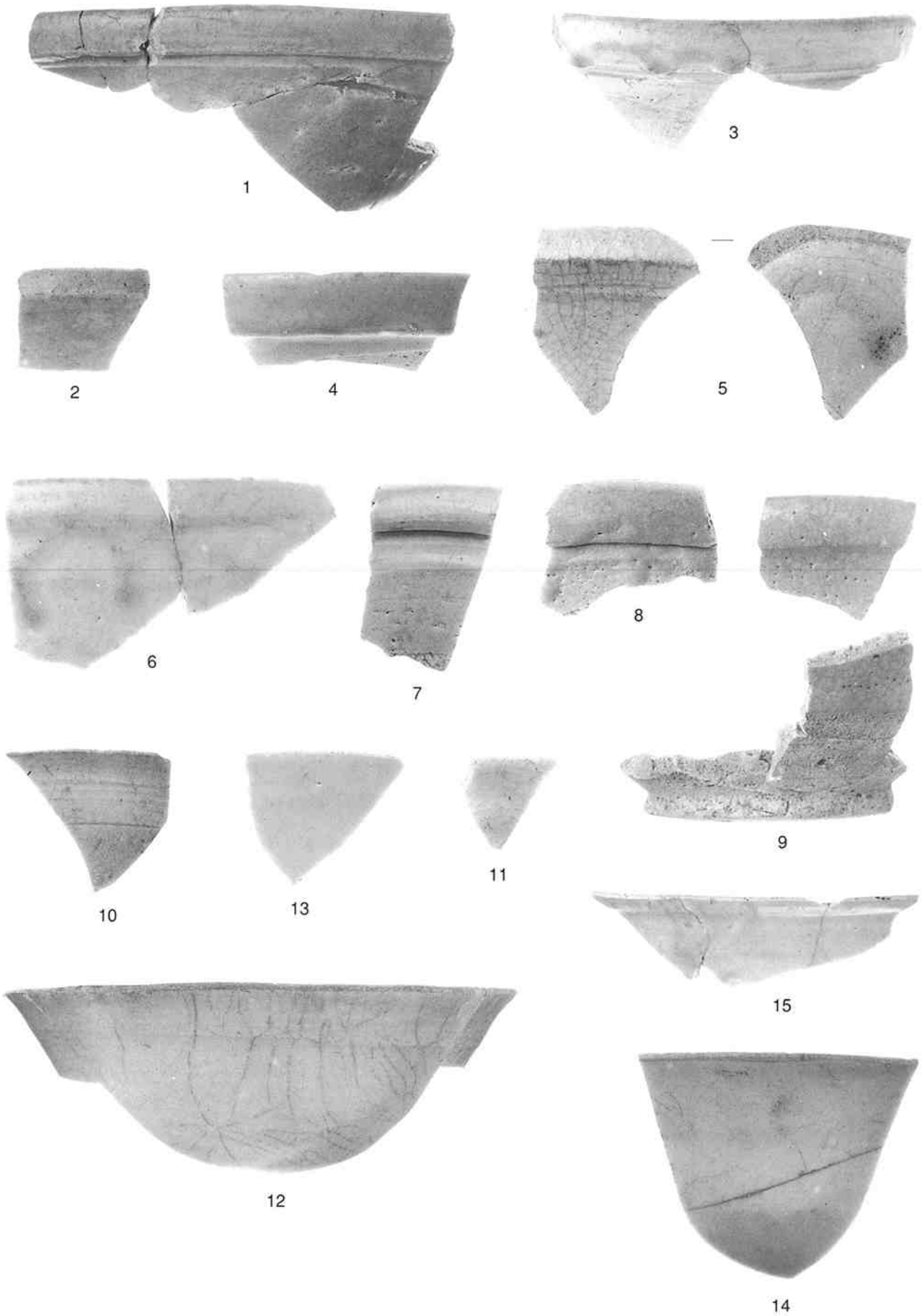
図版3　埋葬遺構1・平面検出(1)人骨検出(2)埋葬遺構2・木棺?と上下歯骨検出(3)完掘(4)
埋葬遺構3・平面検出〈天=南〉(5)上下歯骨検出〈天=北〉(6)埋葬遺構4・人骨検出(7)完掘(8)



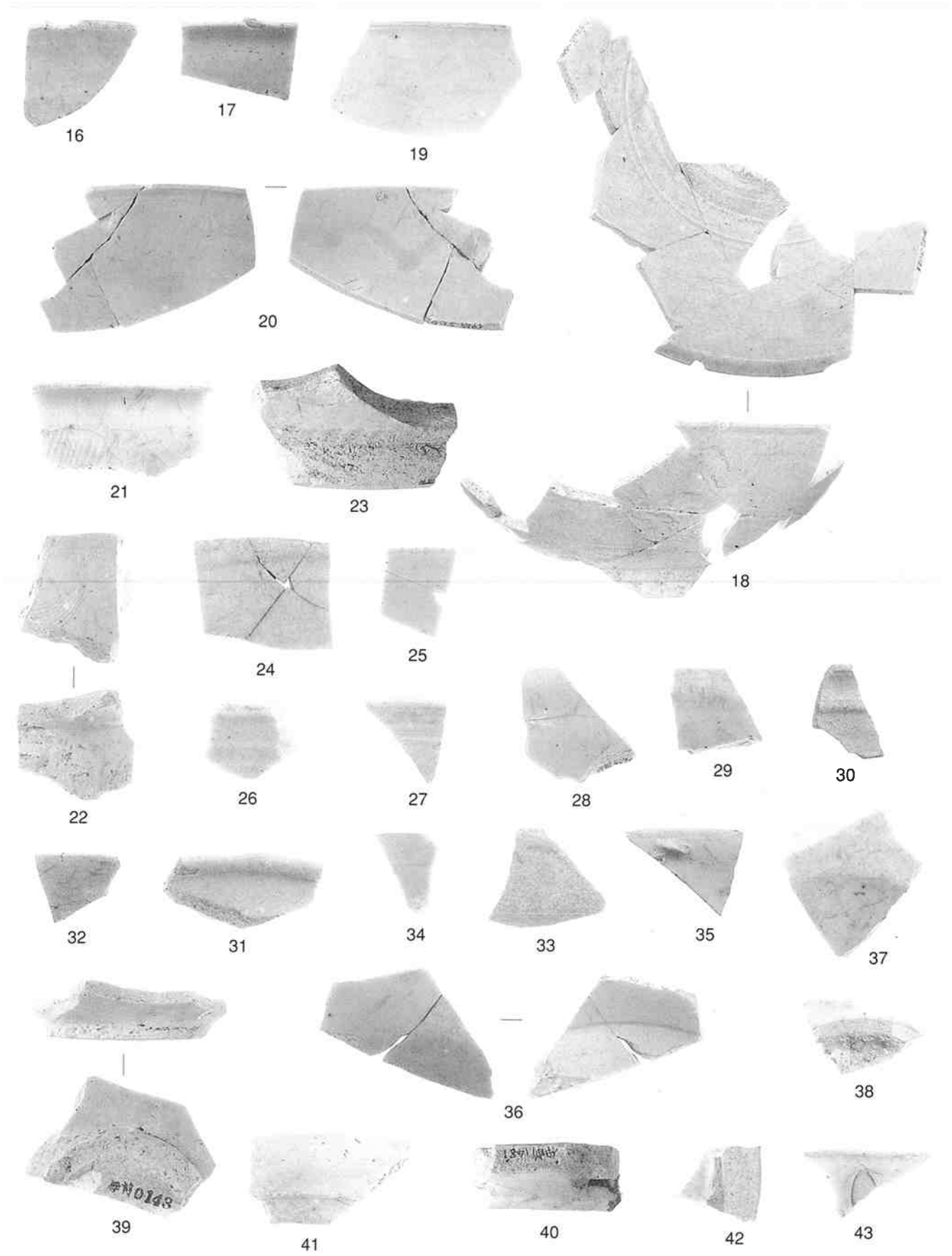
図版4　列状ピット群・近景(1・2)断面(3)完掘状況(4)
溝状遺構・溝G(5)溝B(6)溝D(7)完掘状況(8)



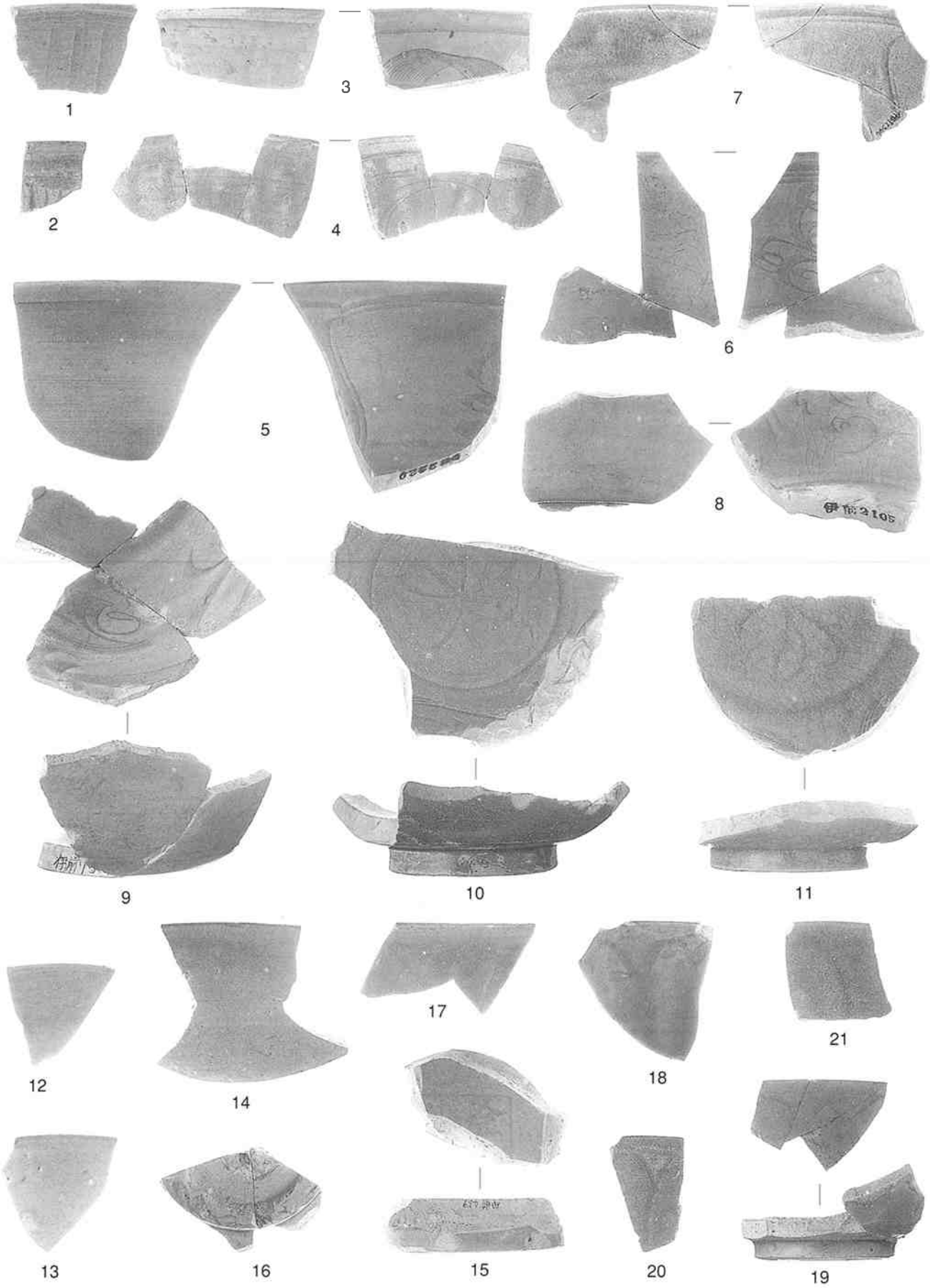
図版5　石列1-a(1)石列2(2)石列2下掘込遺構(3)石列4及び溝4(4)
石列6-a(5)溝状遺構完掘状況(6)レンガ敷遺構(7)掘込2(8)



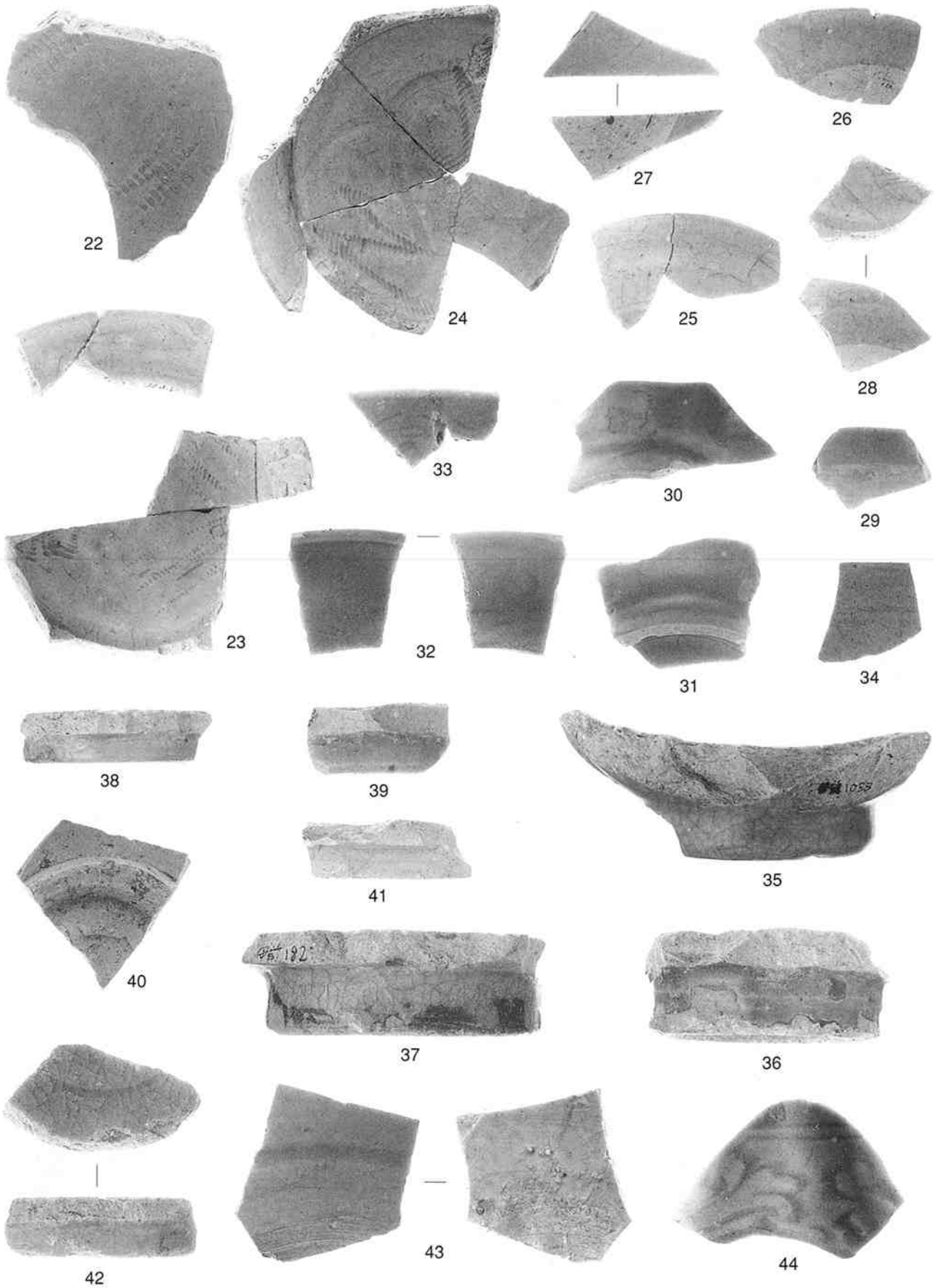
図版6　白磁(1)


16
17
19
20
21
23
18
24
25
22
26
27
28
29
30
32
31
34
33
35
37
36
38
39
41
40
42
43

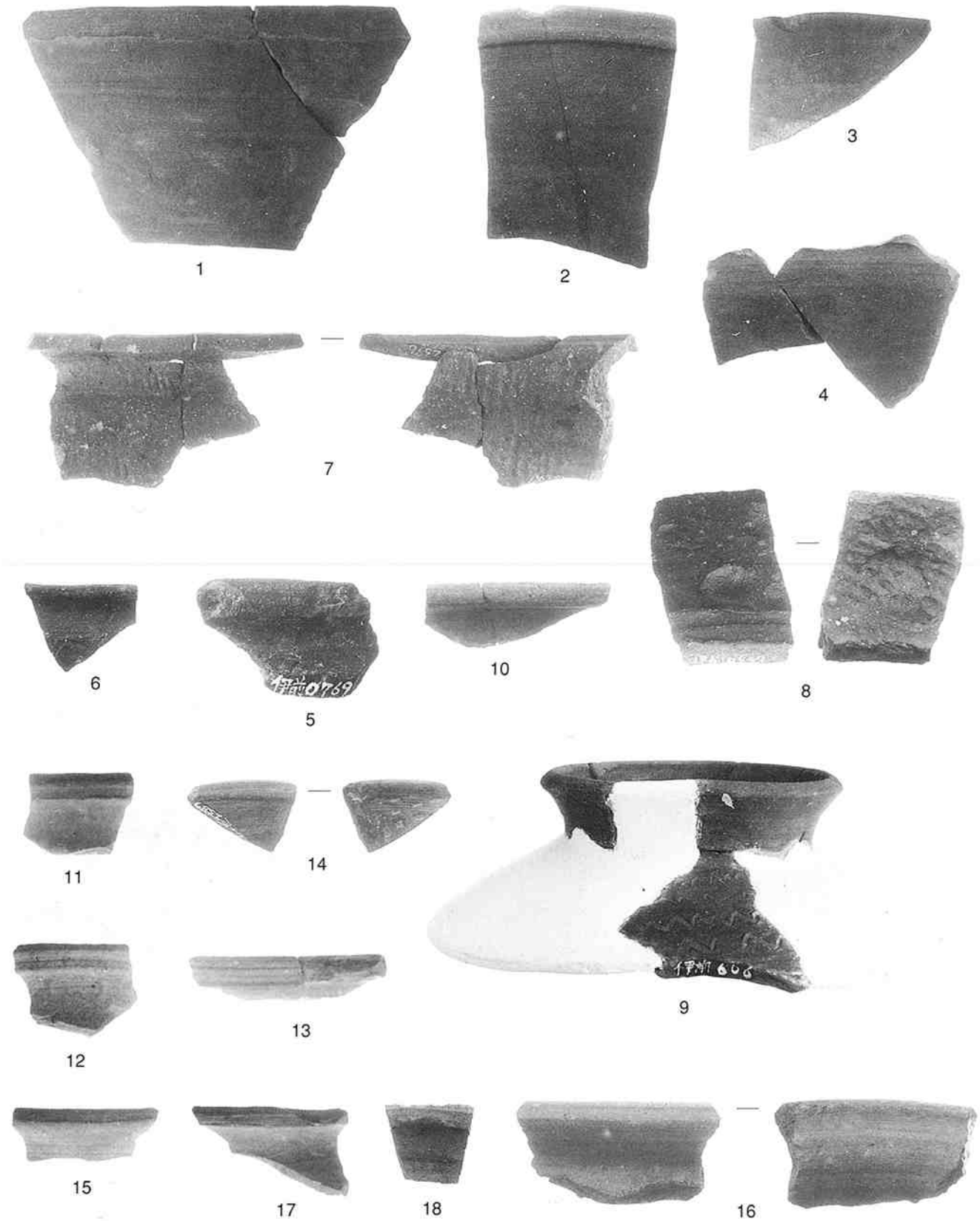
図版7　白磁(2)



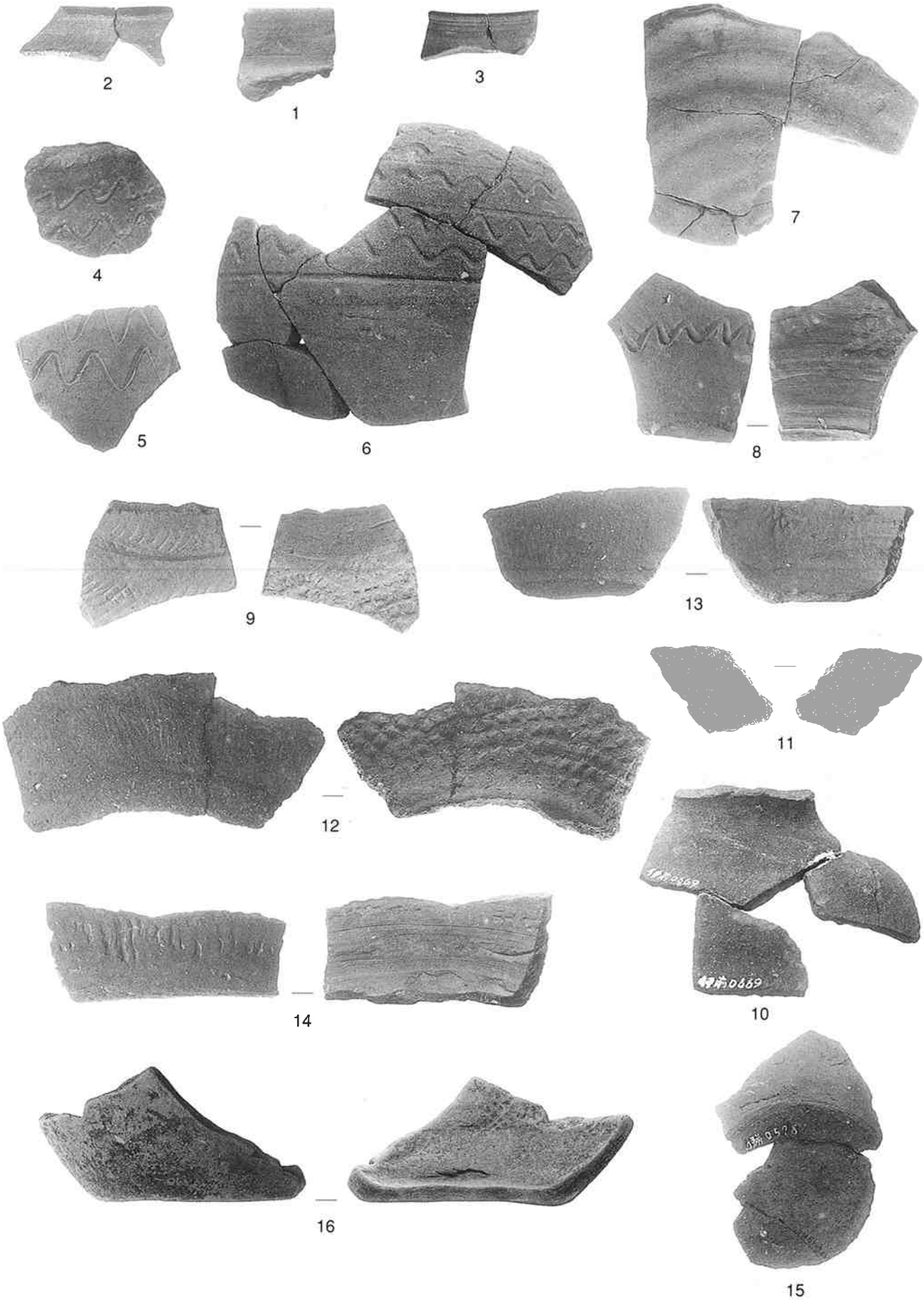
図版8　青磁(1)



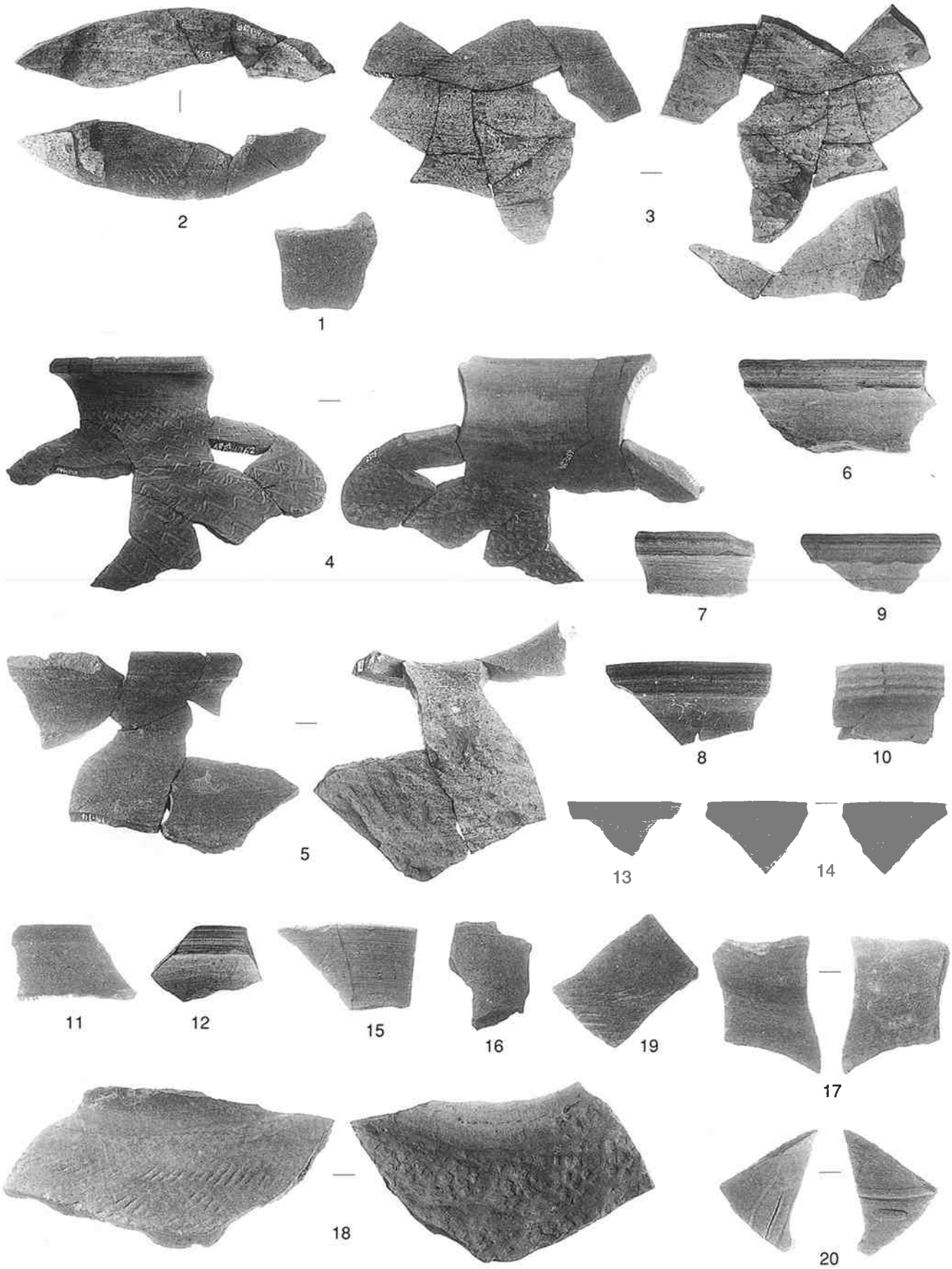
図版9　青磁(2)



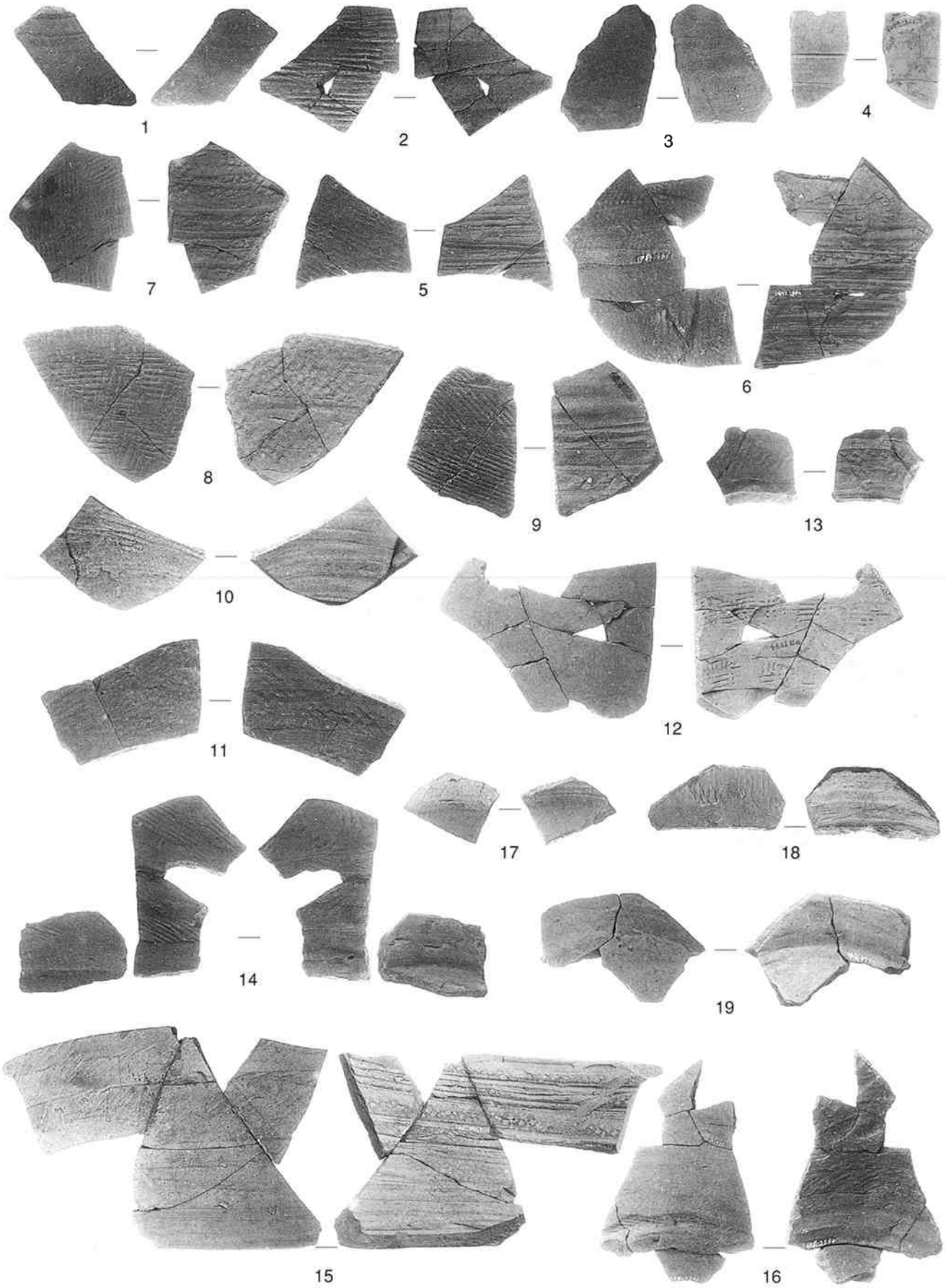
図版10　類須恵器(1)



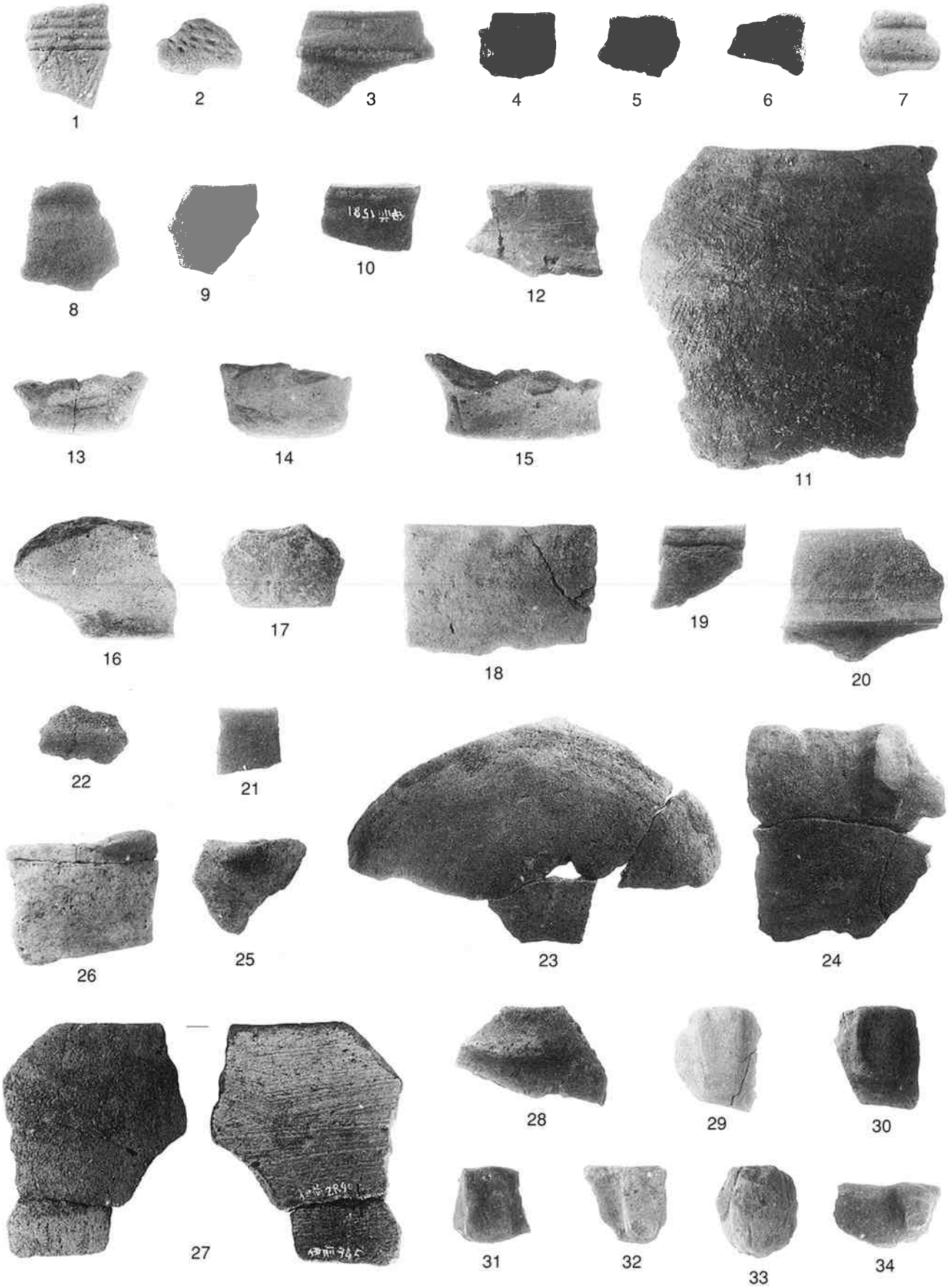
図版11　類須恵器(2)



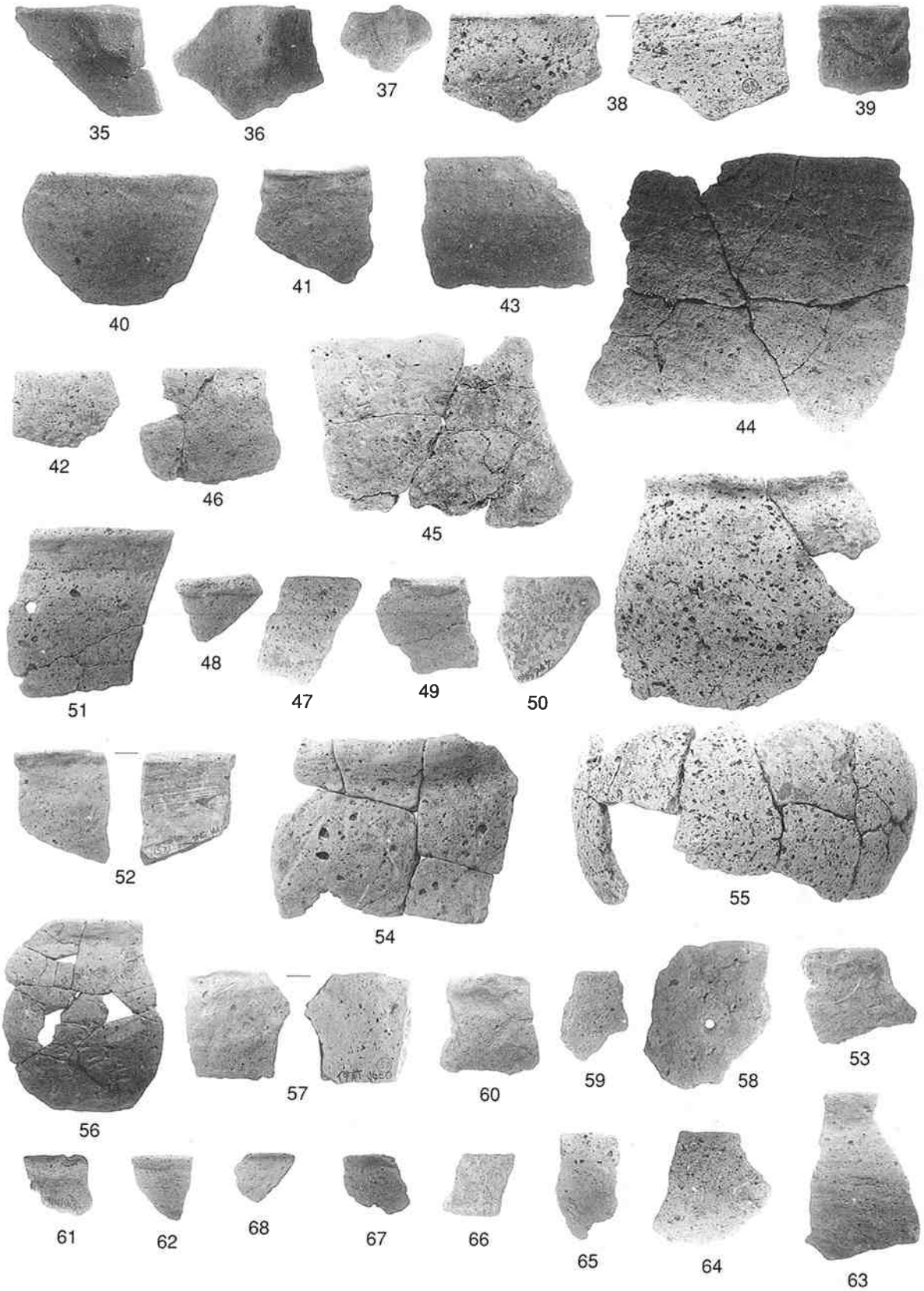
図版12　類須恵器(3)



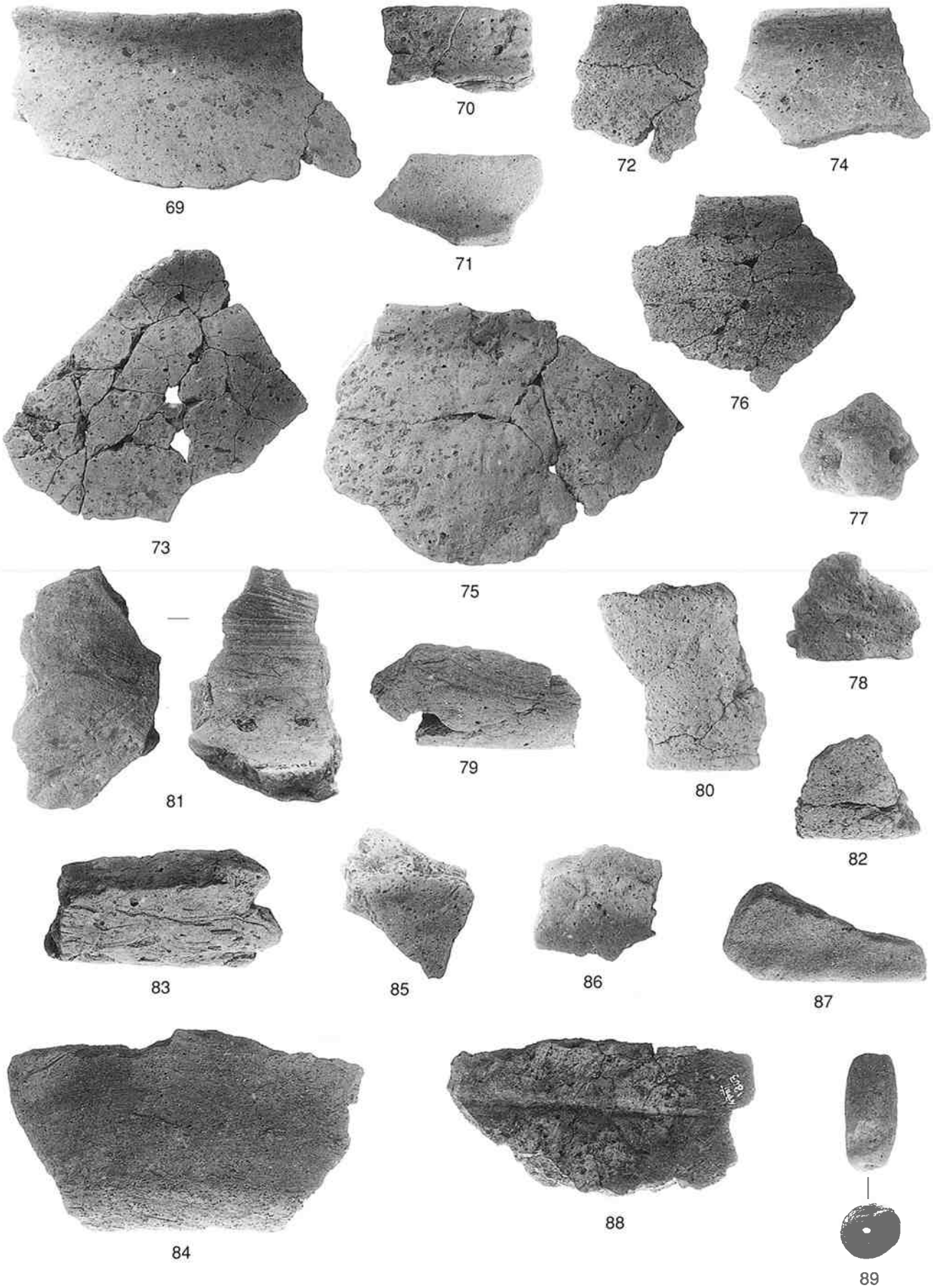
図版13　類須恵器(4)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
12
11
13
14
15
16
17
18
19
20
22
21
26
25
23
24
27
28
29
30
31
32
33
34

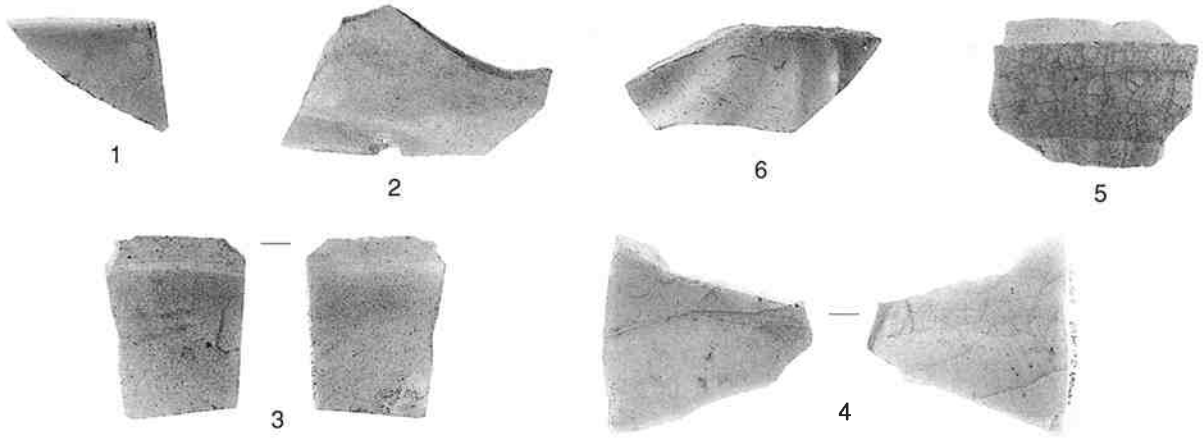
図版14　土器(1)


35
36
37
38
39
40
41
43
44
42
46
45
51
48
47
49
50
52
54
55
56
57
60
59
58
53
61
62
68
67
66
65
64
63

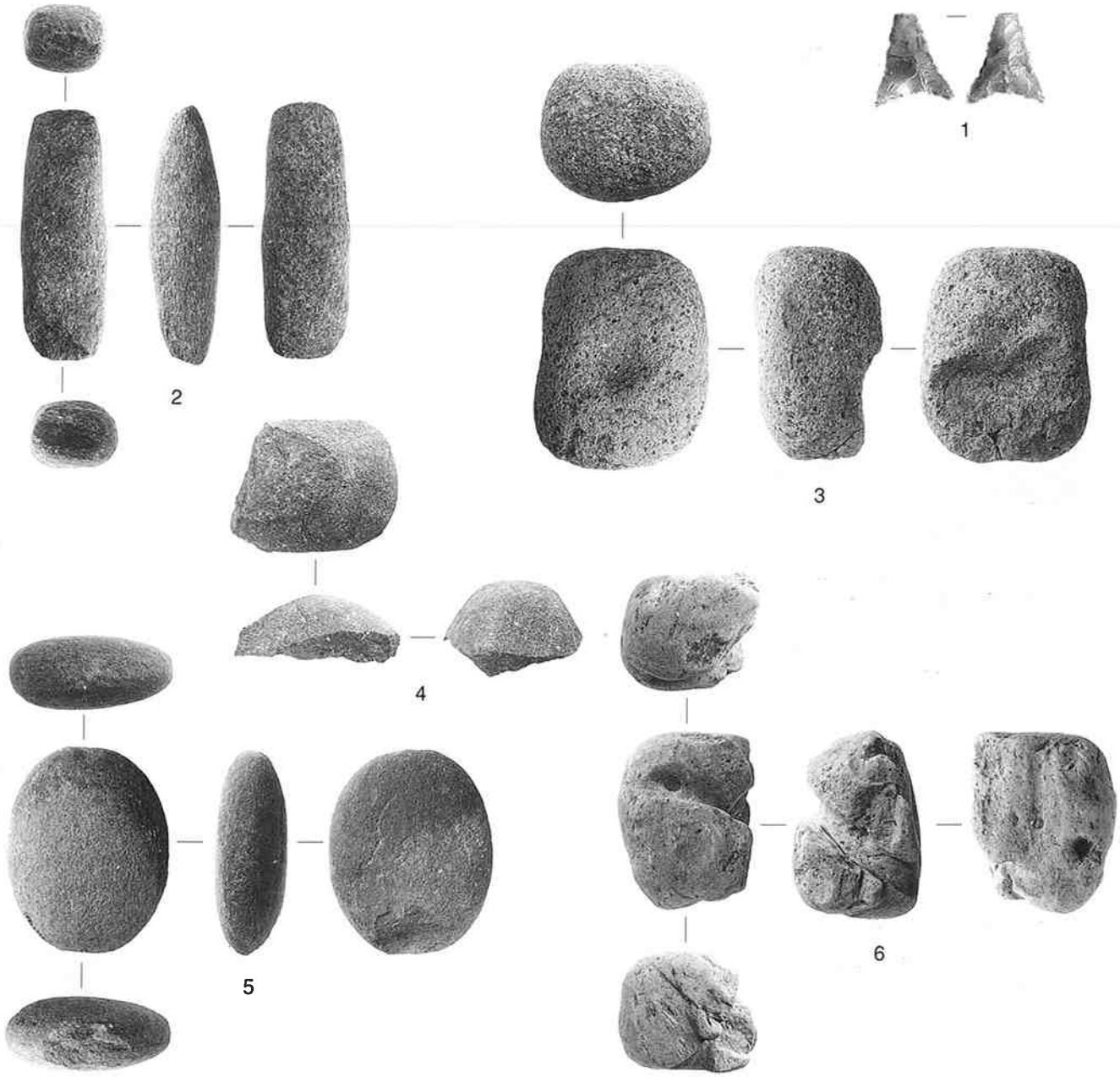
図版15　土器(2)



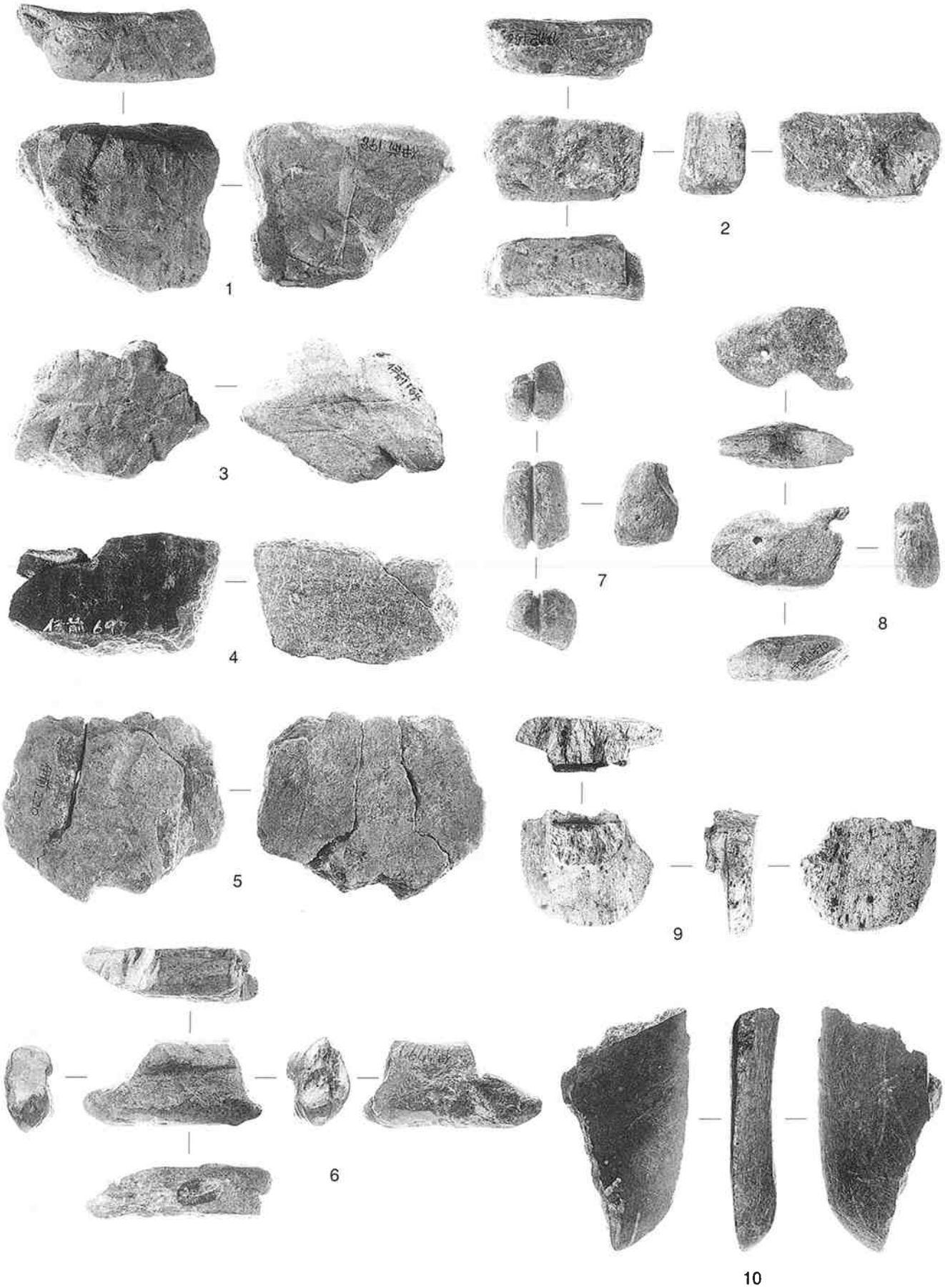
図版16　土器(3)・土製品



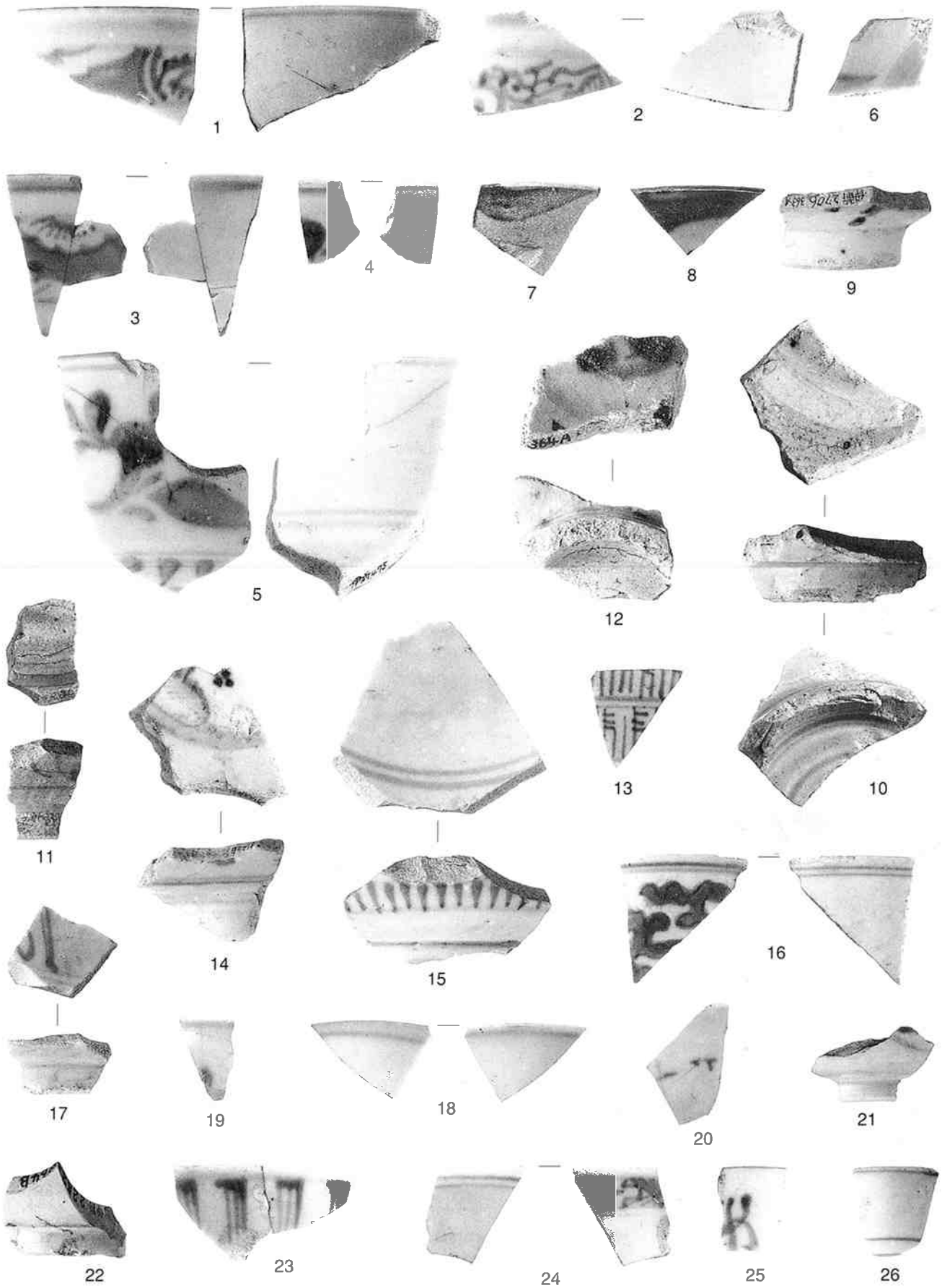
図版17　青白磁



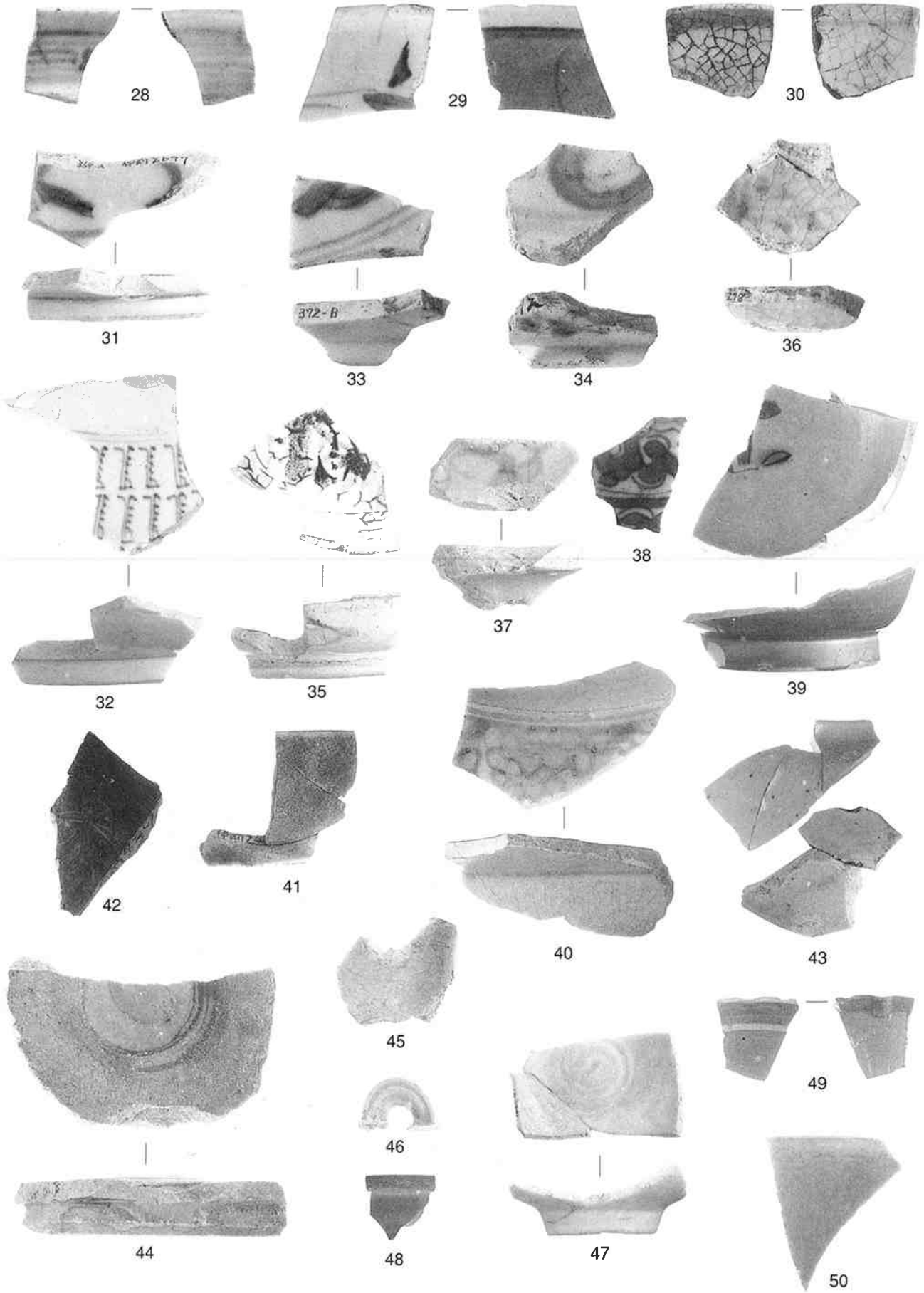
図版18　石器・石製品



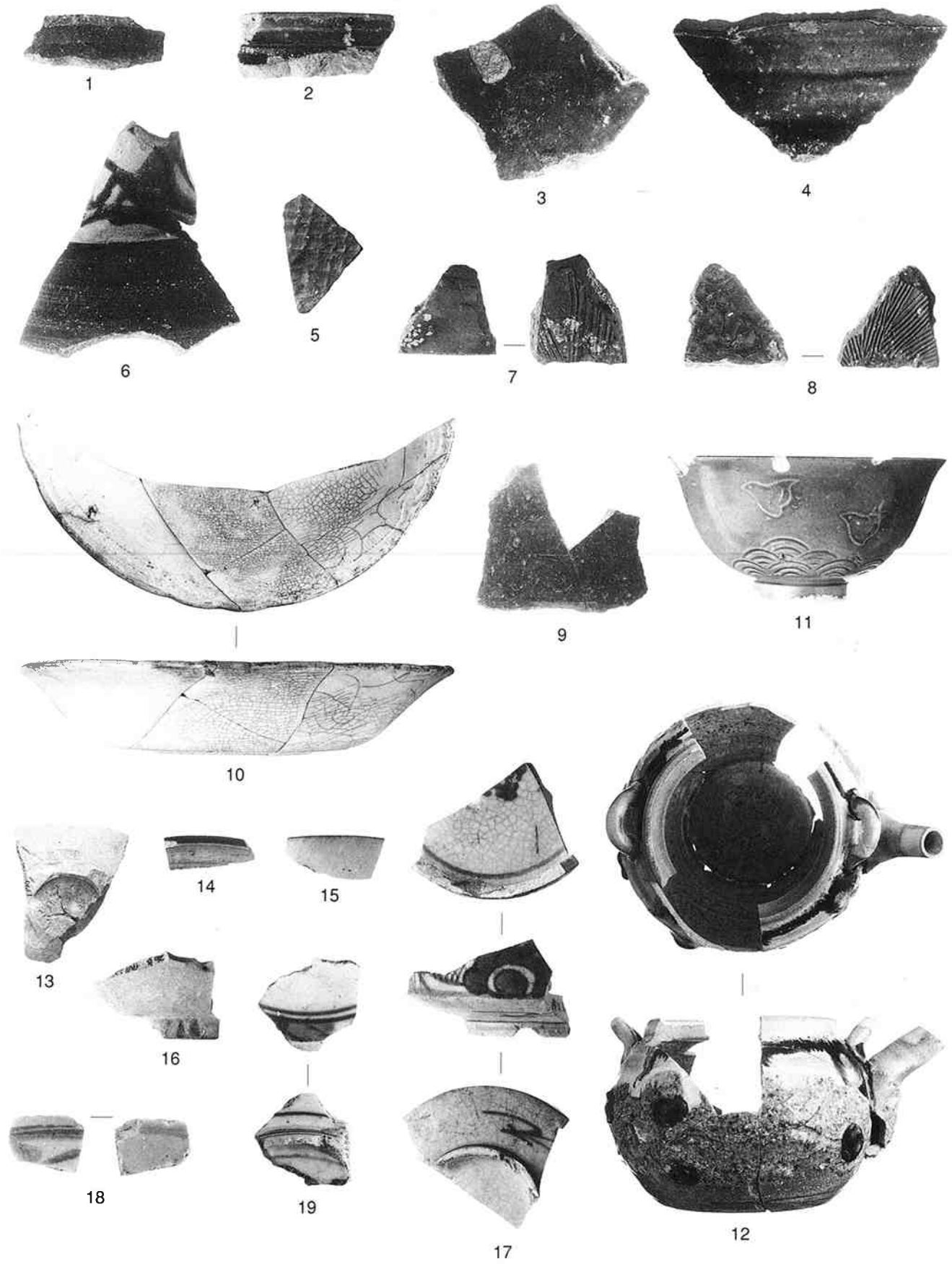
図版19　滑石製鍋・転用製品



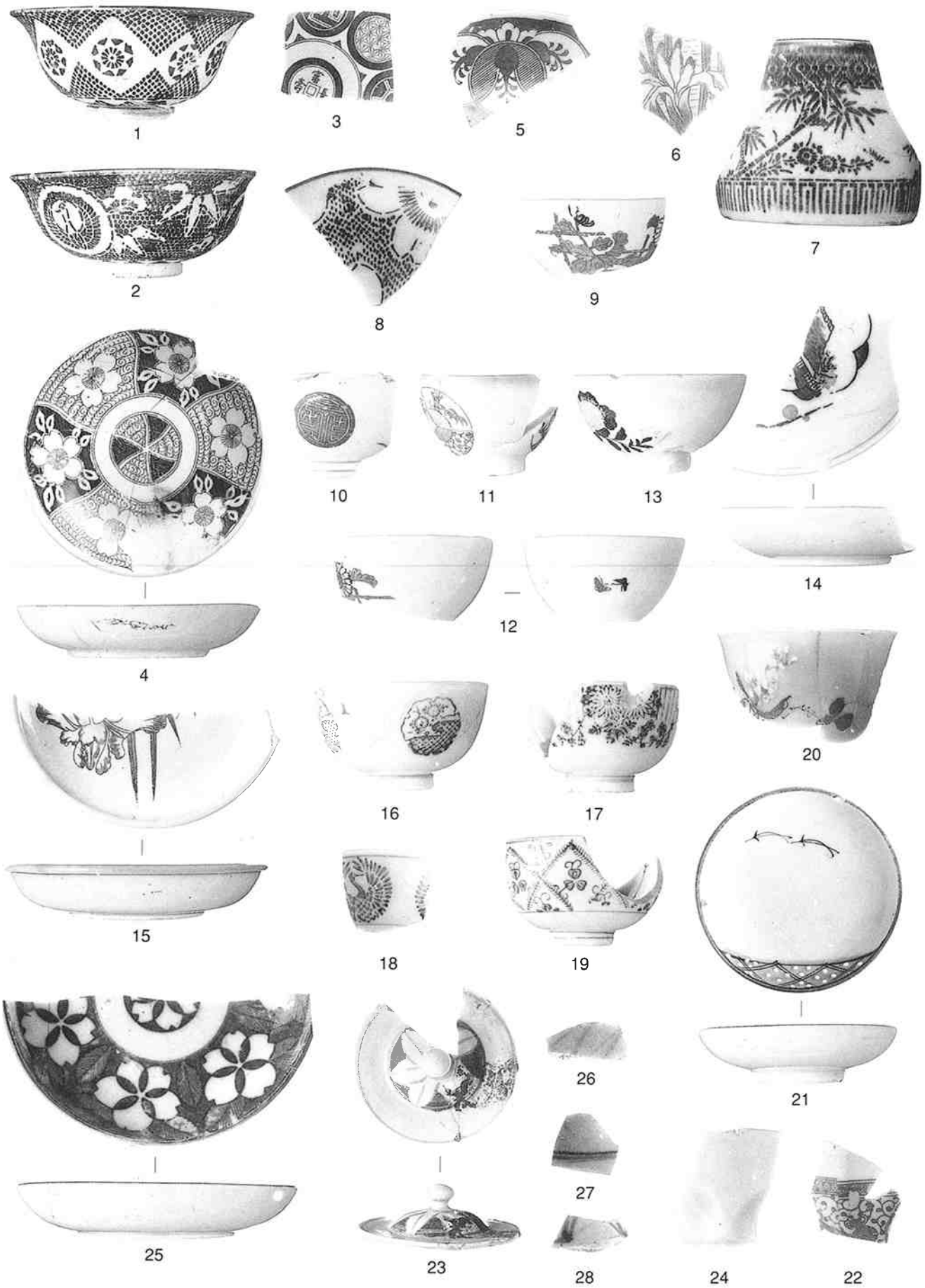
図版20　染付(1)



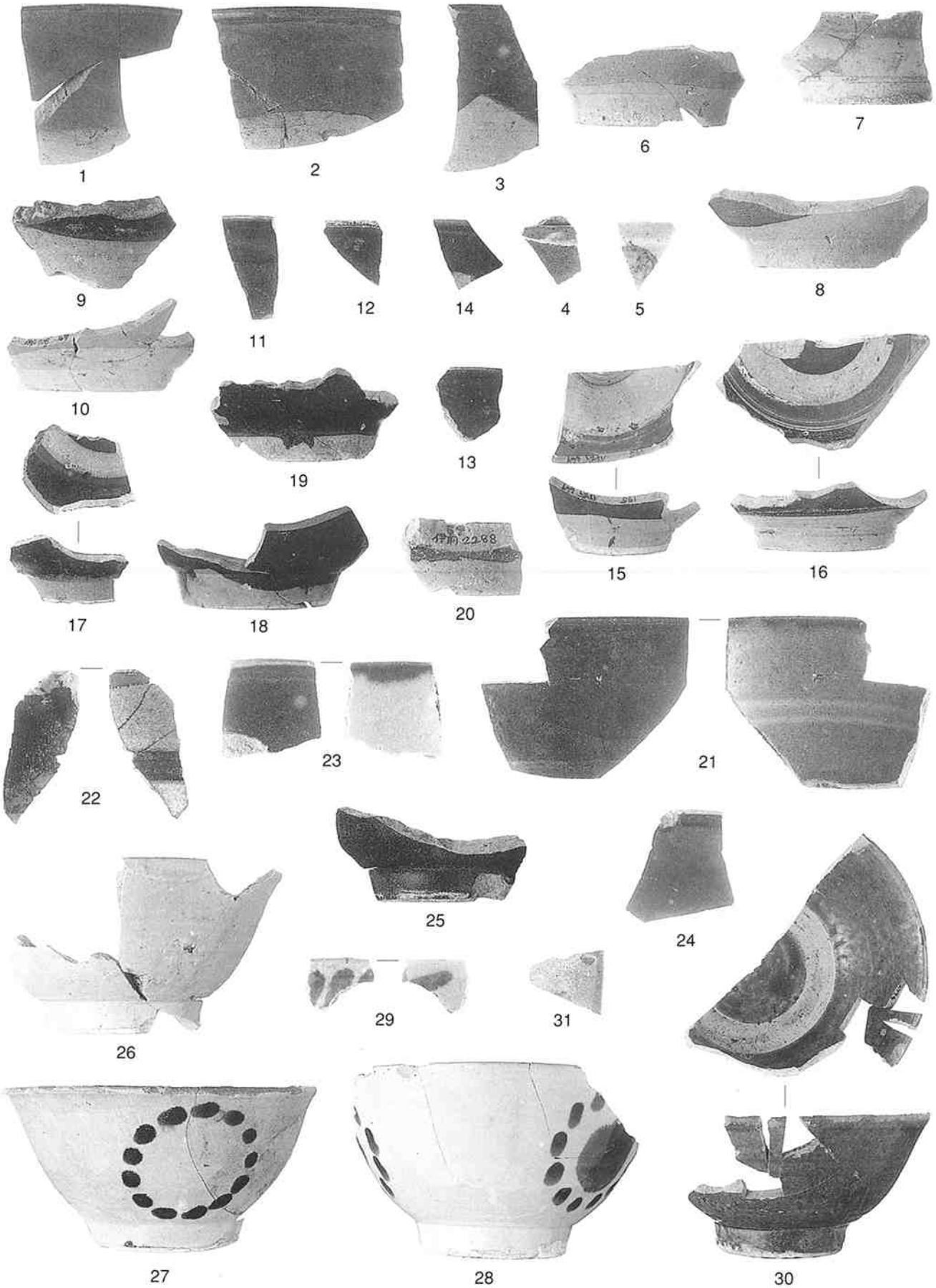
図版21　染付(2)・青磁染付・黄釉磁器・緑釉磁器・瑠璃釉磁器・近代白磁・近代青磁・中国系陶器



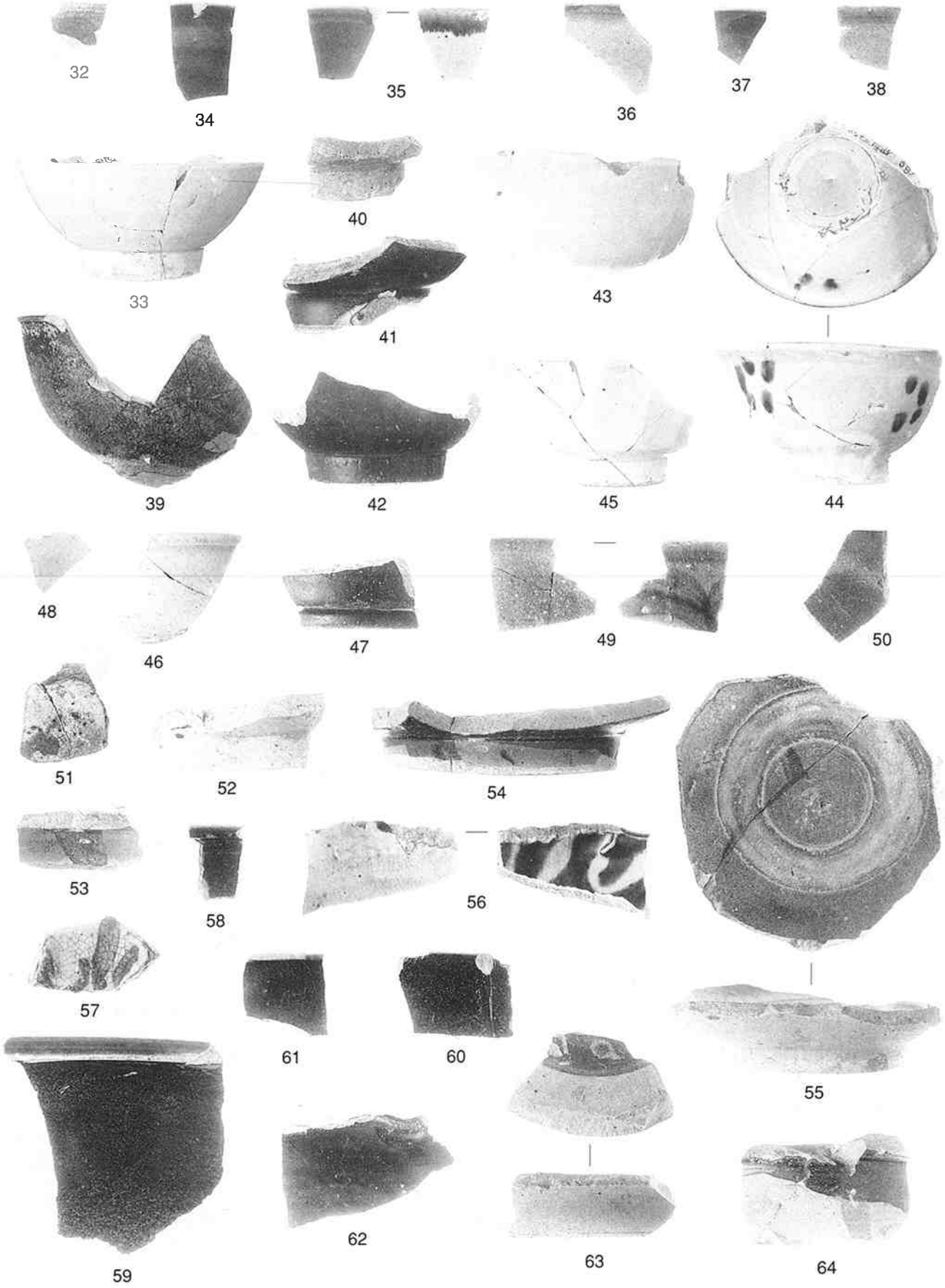
図版22　褐釉陶器・本土産陶器・本土産磁器・産地不明陶磁器



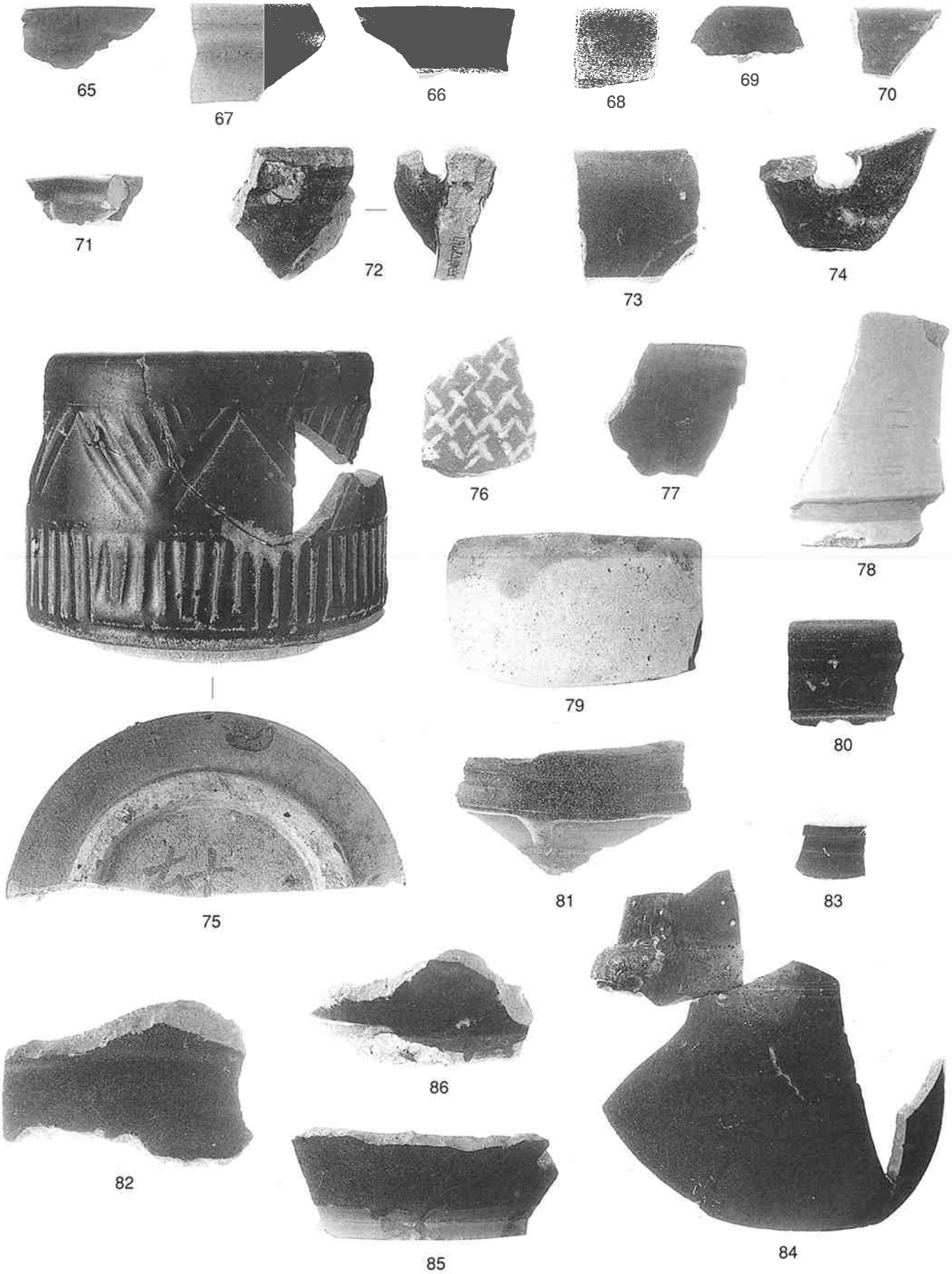
図版23　近・現代 本土産磁器



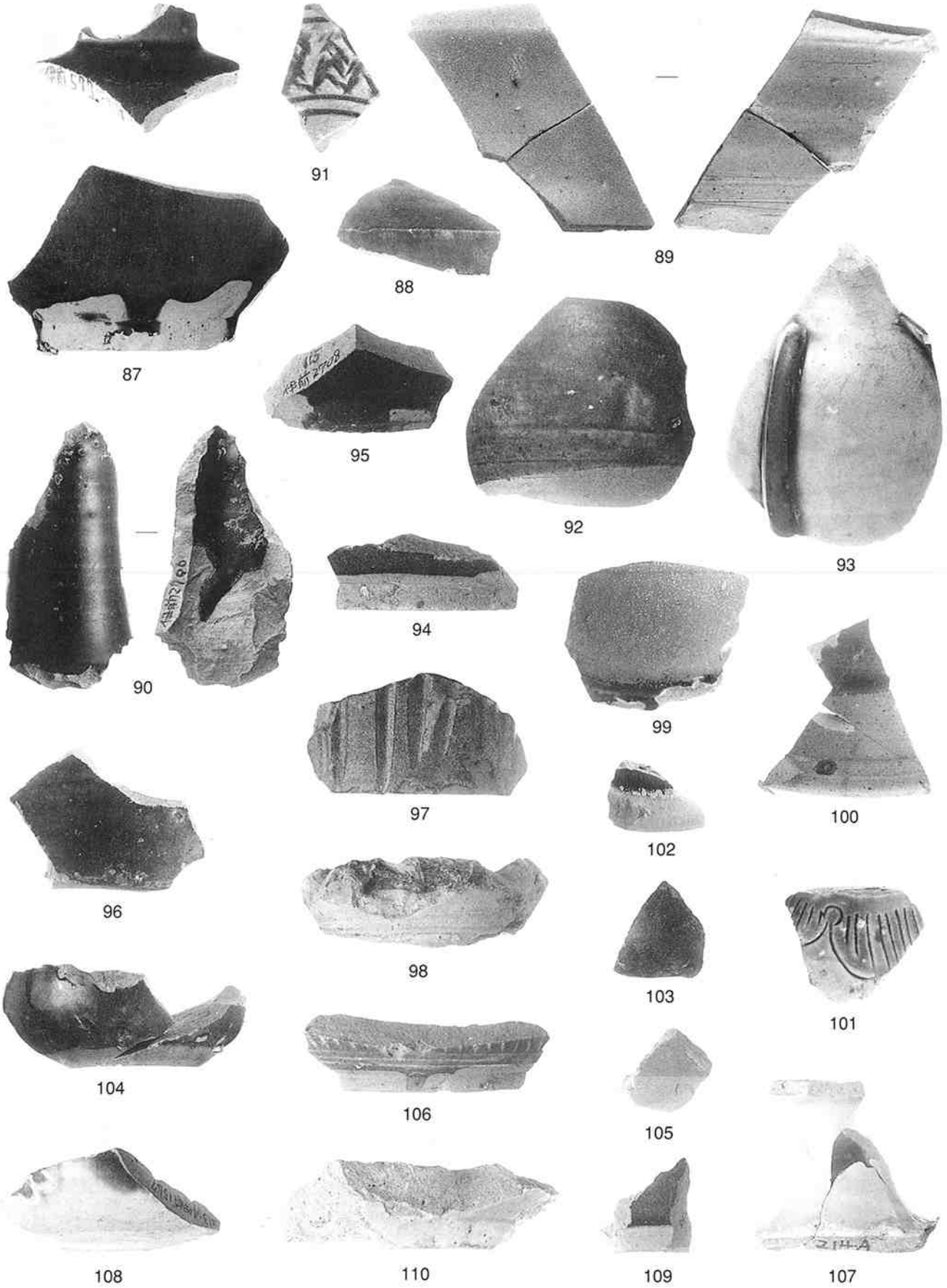
図版24　沖縄産施釉陶器(1)



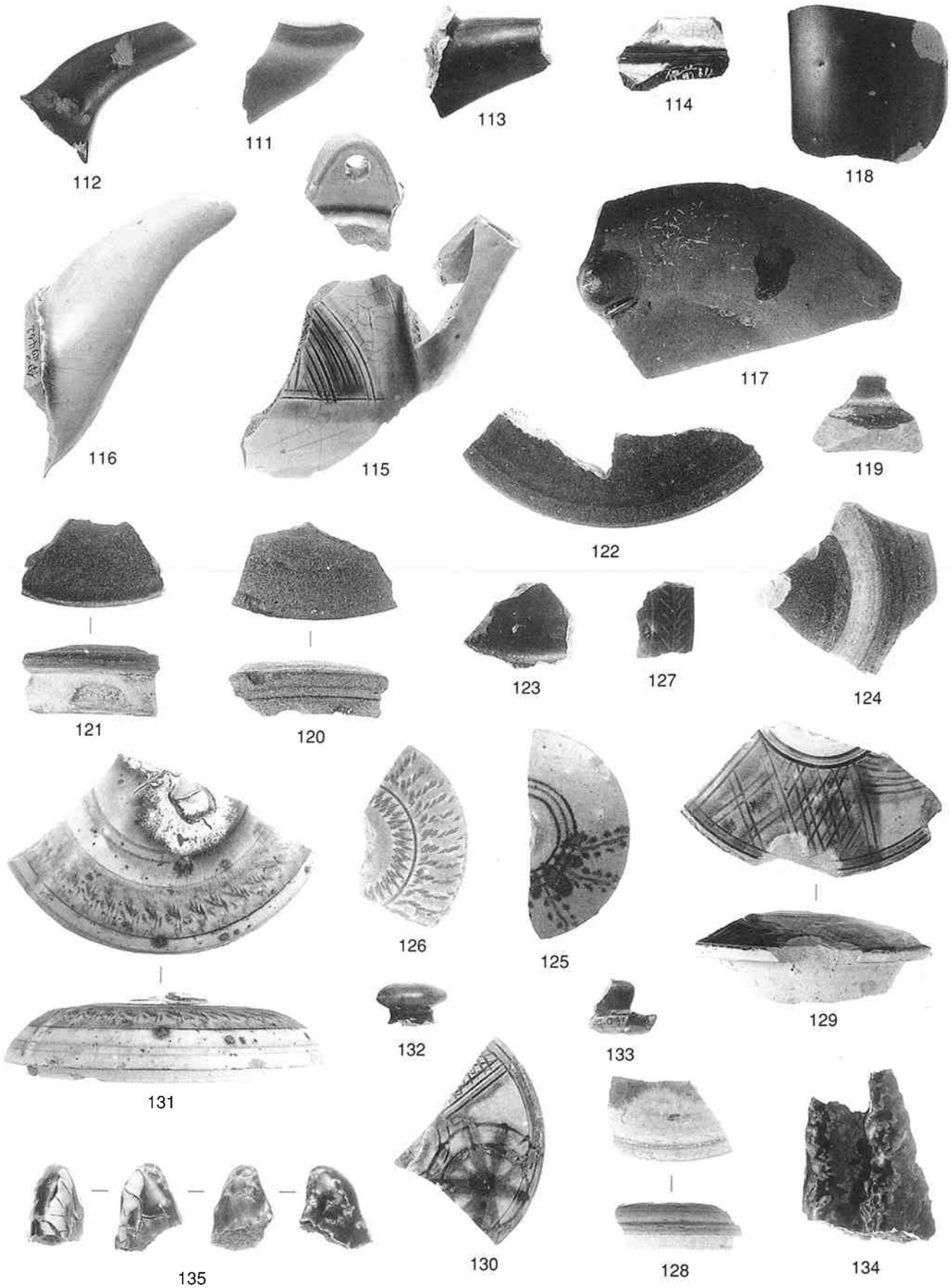
図版25　沖縄産施釉陶器(2)



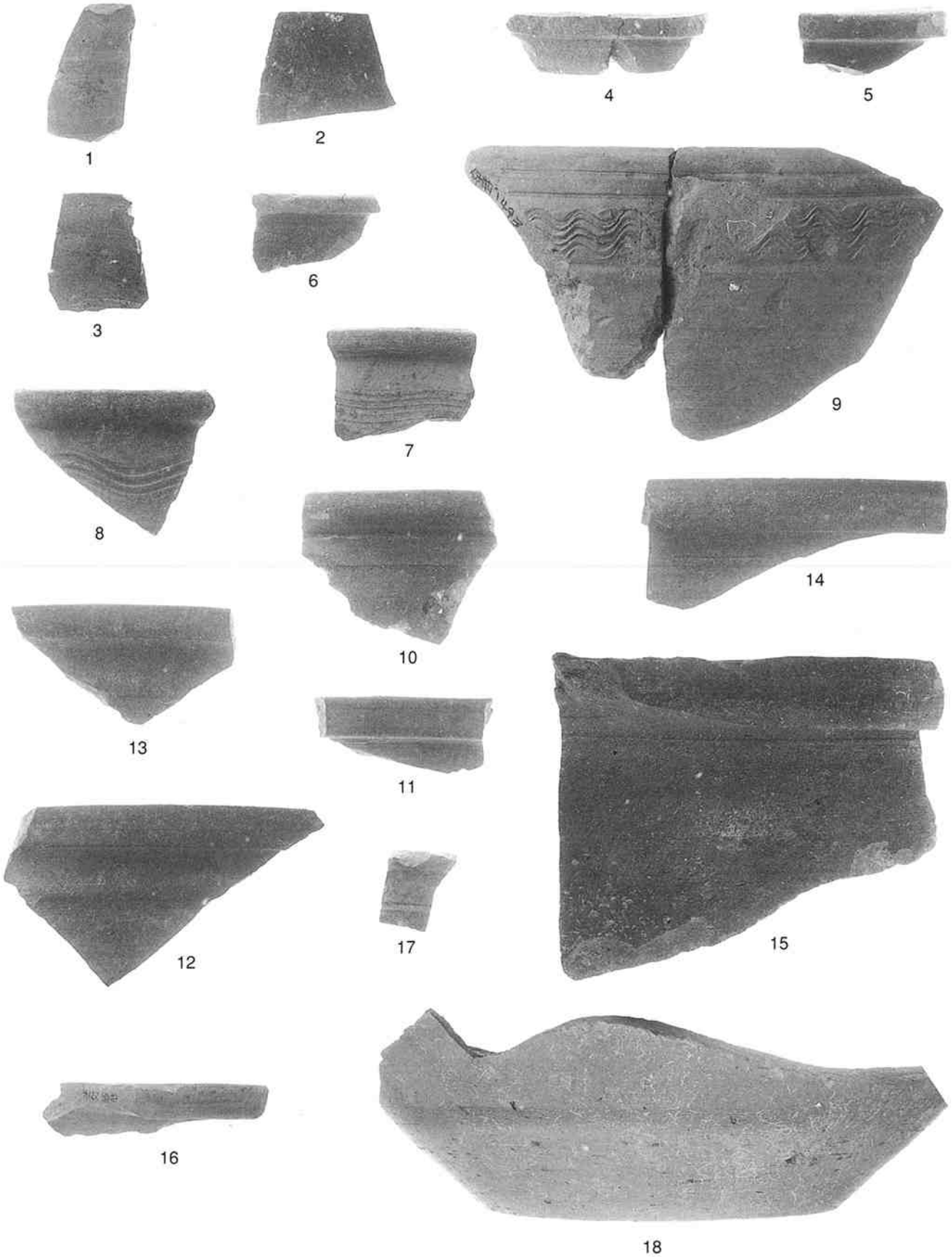
図版26　沖縄産施釉陶器(3)



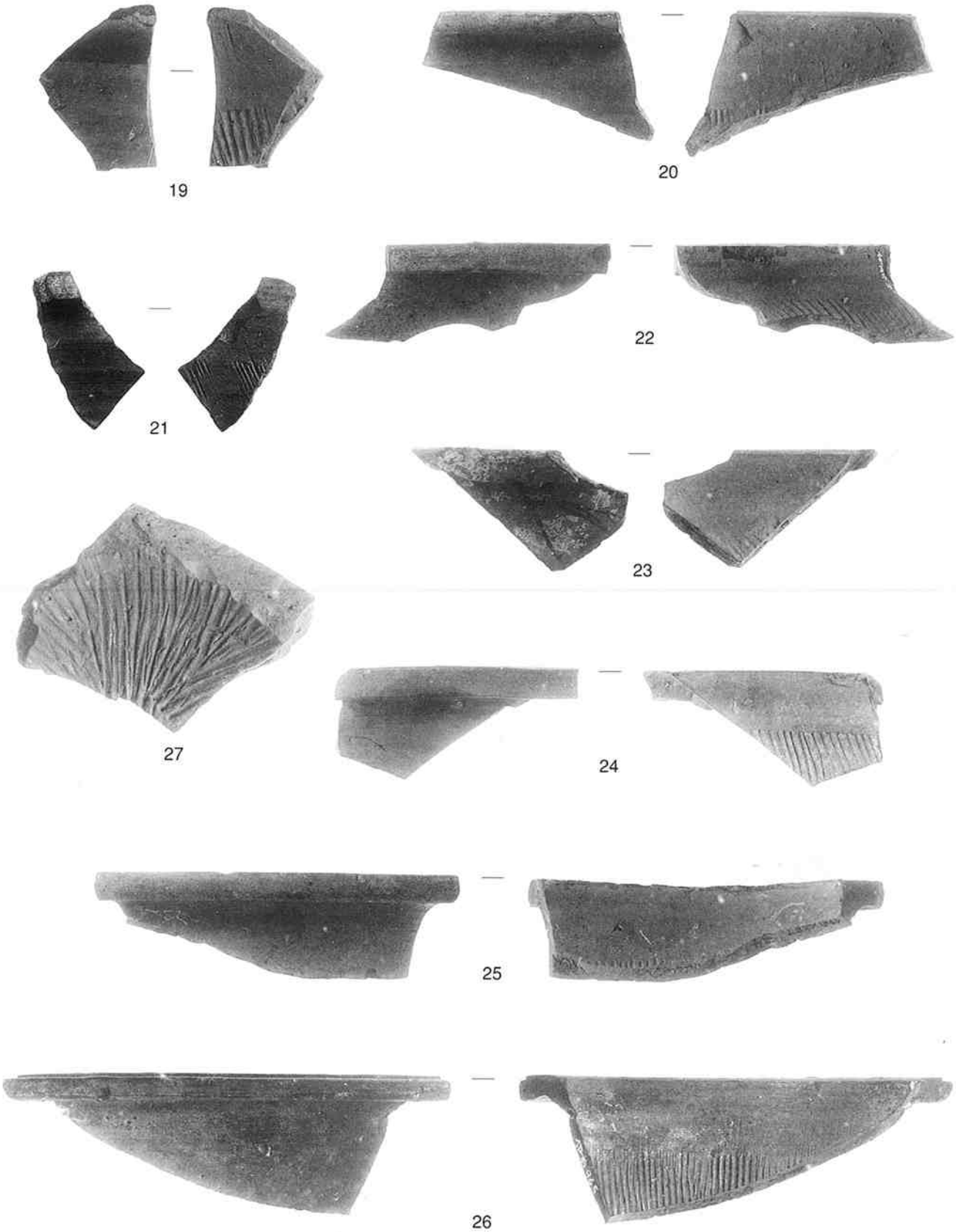
図版27　沖縄産施釉陶器（4）



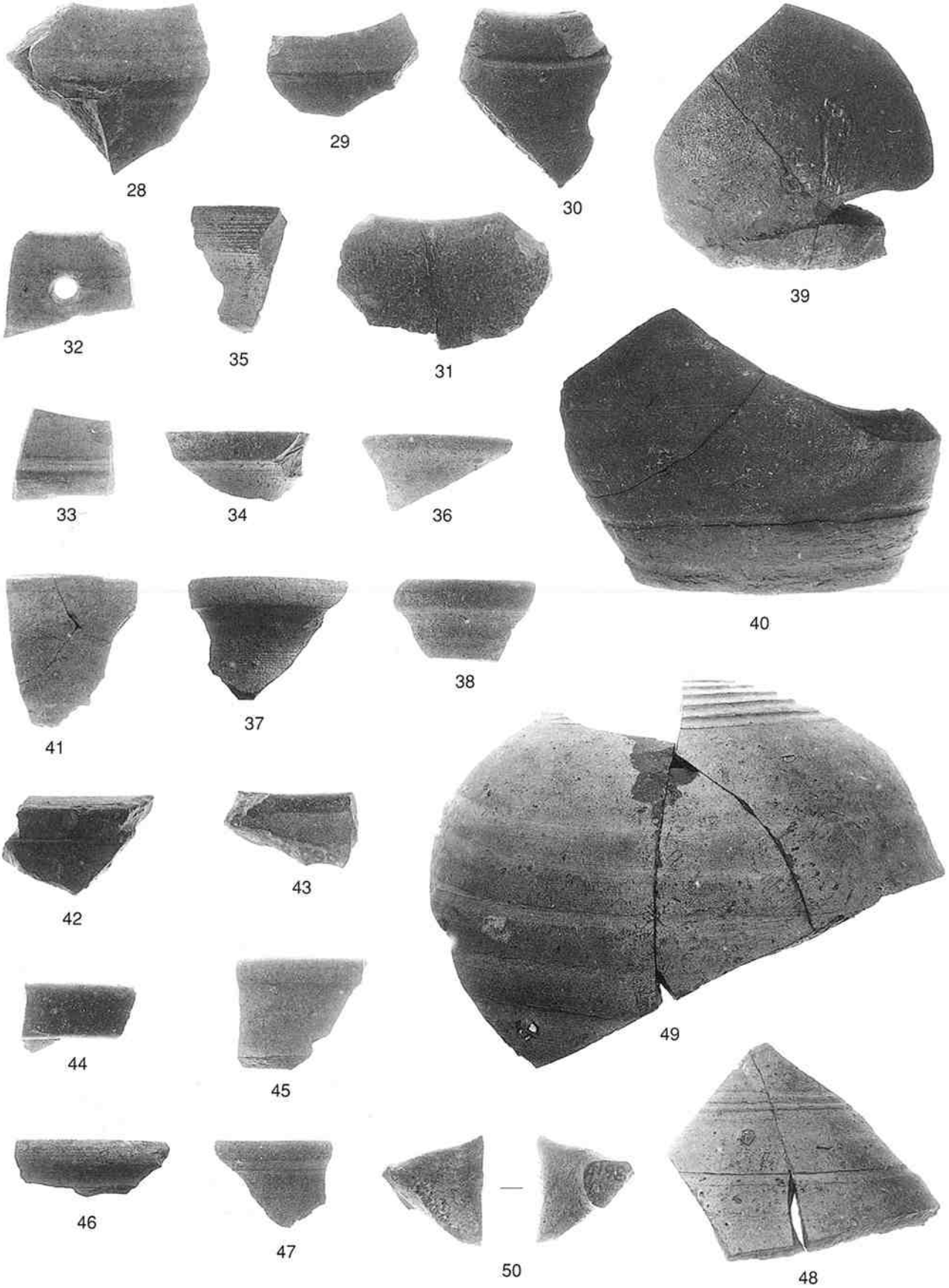
図版28　沖縄産施釉陶器（5）



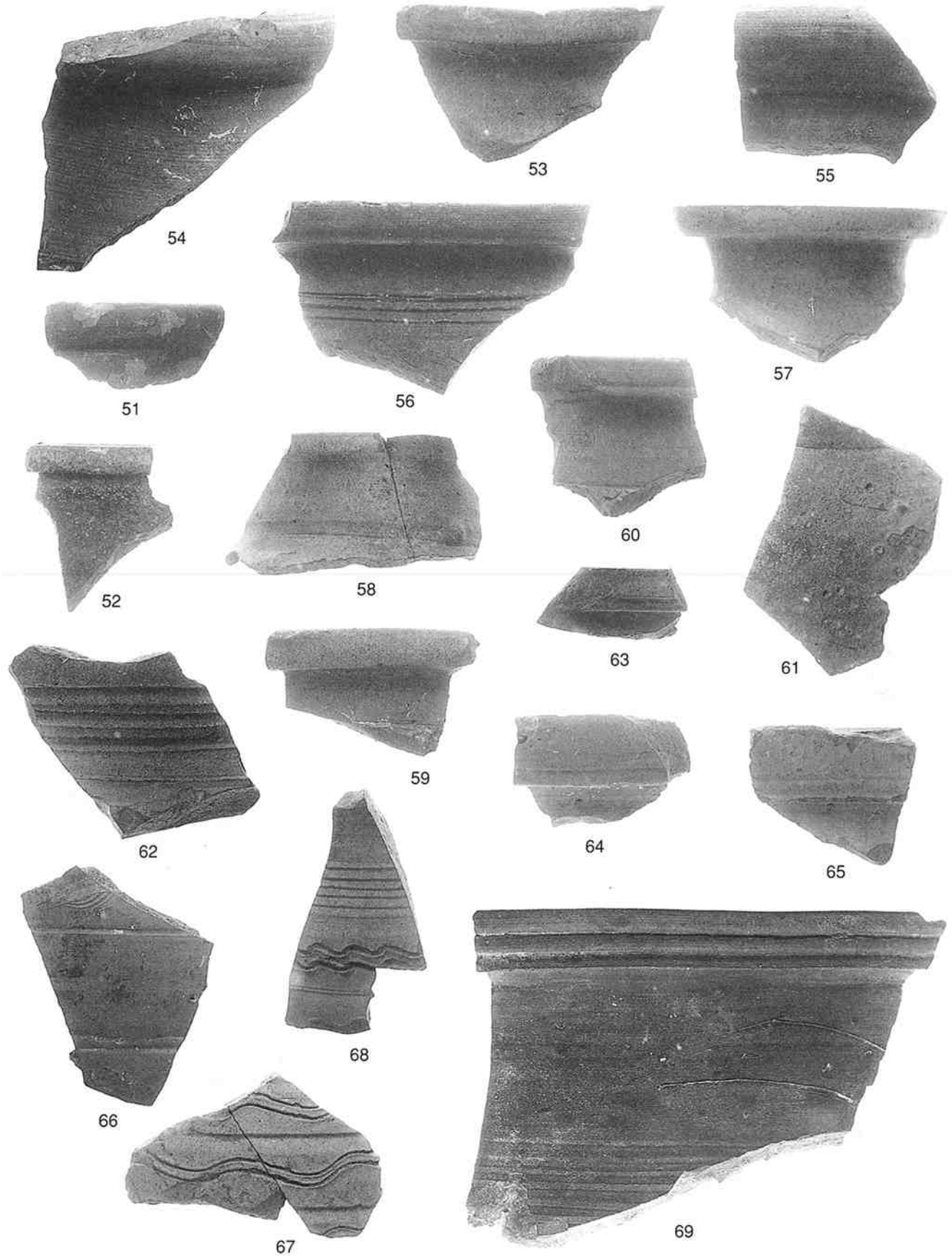
図版29　沖縄産無釉陶器(1)



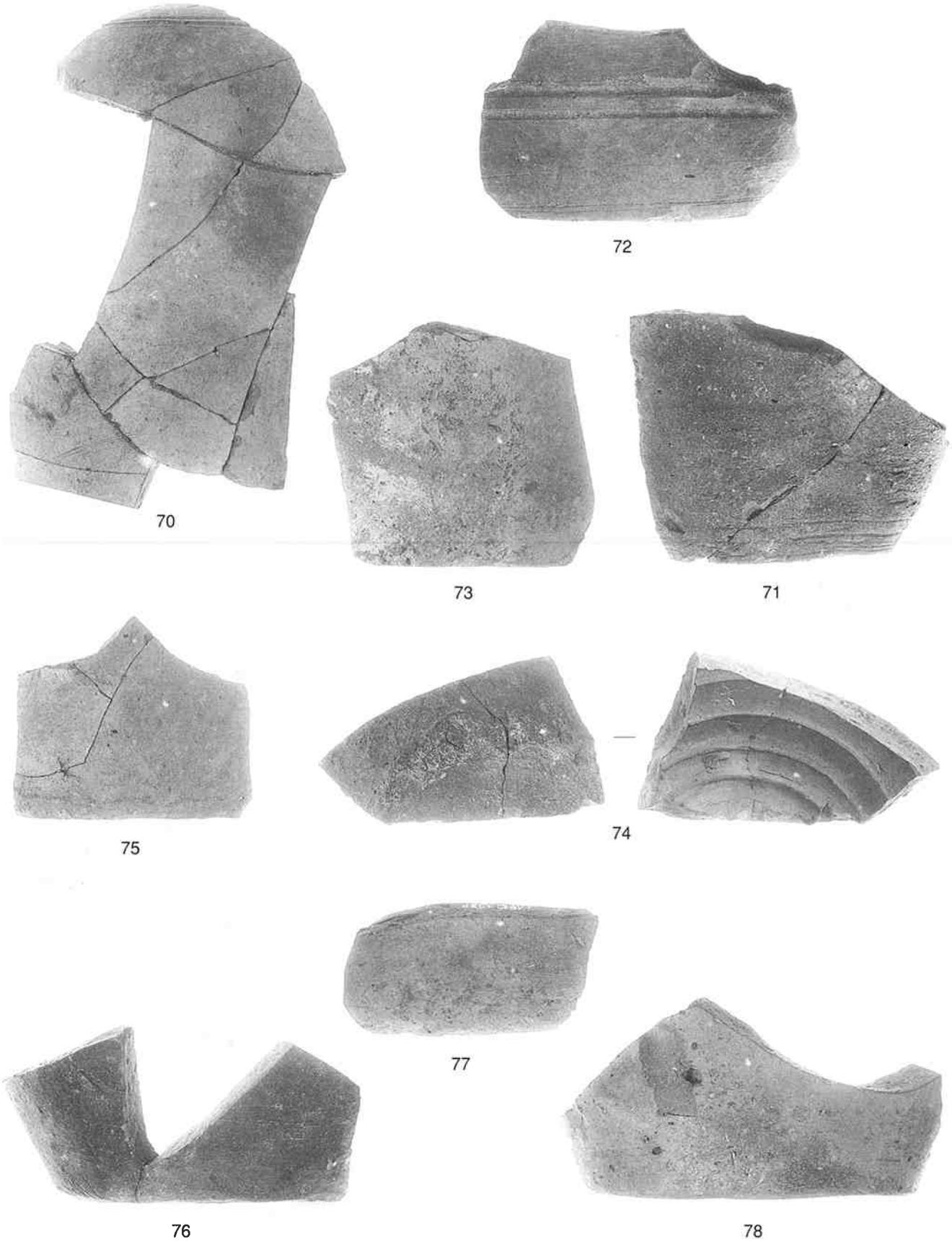
図版30　沖縄産無釉陶器(2)



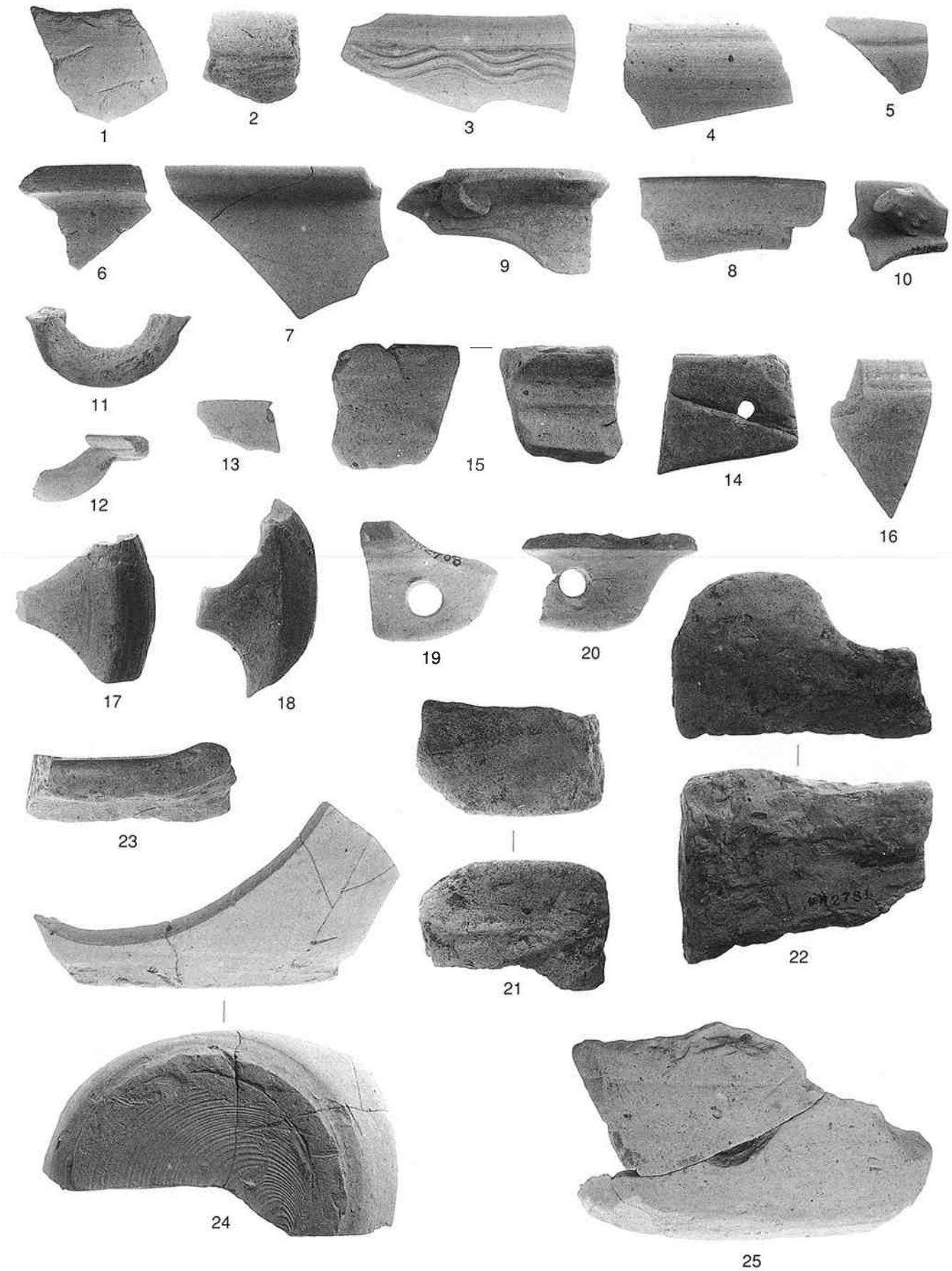
図版31　沖縄産無釉陶器(3)



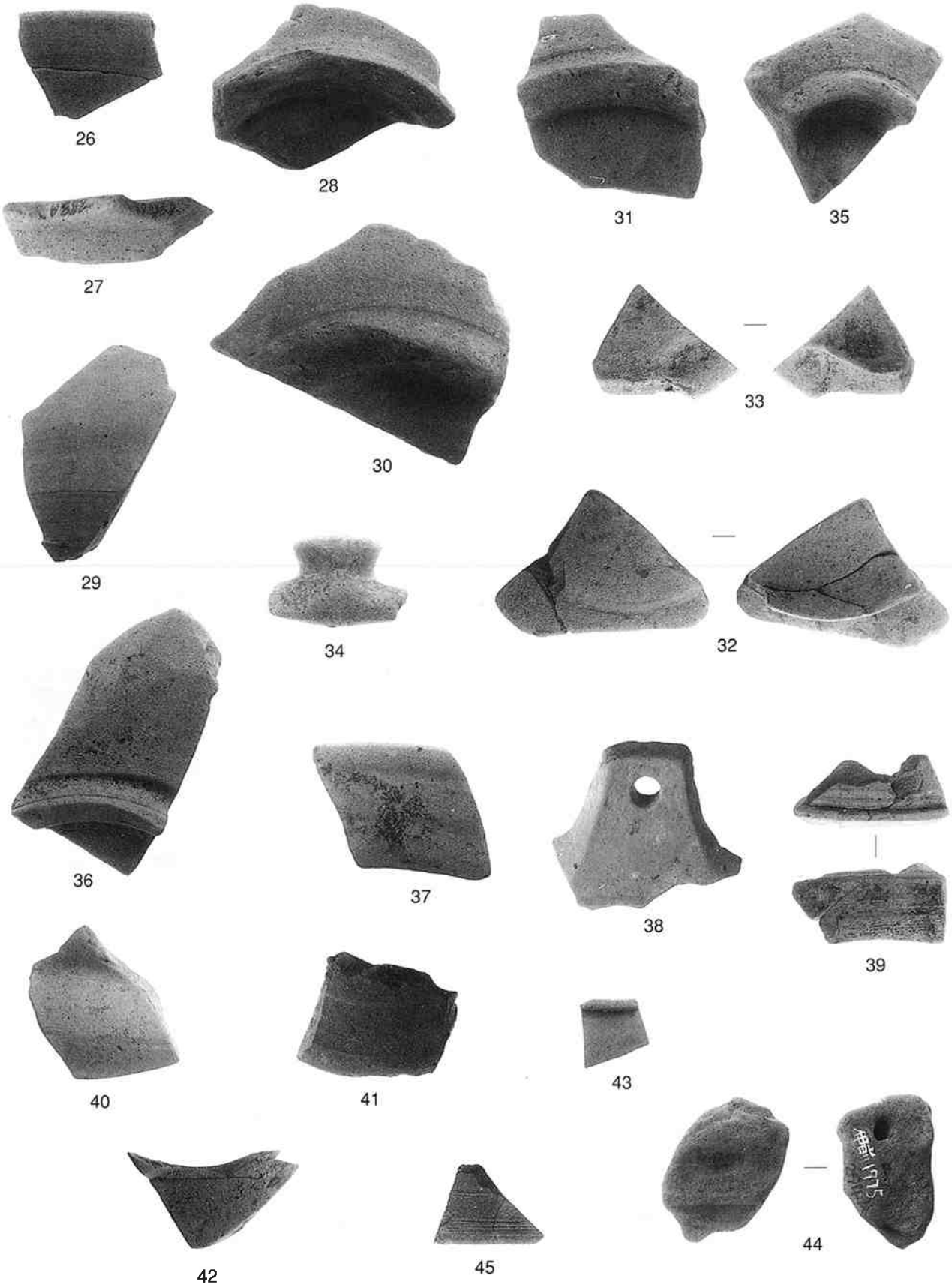
図版32　沖縄産無釉陶器(4)



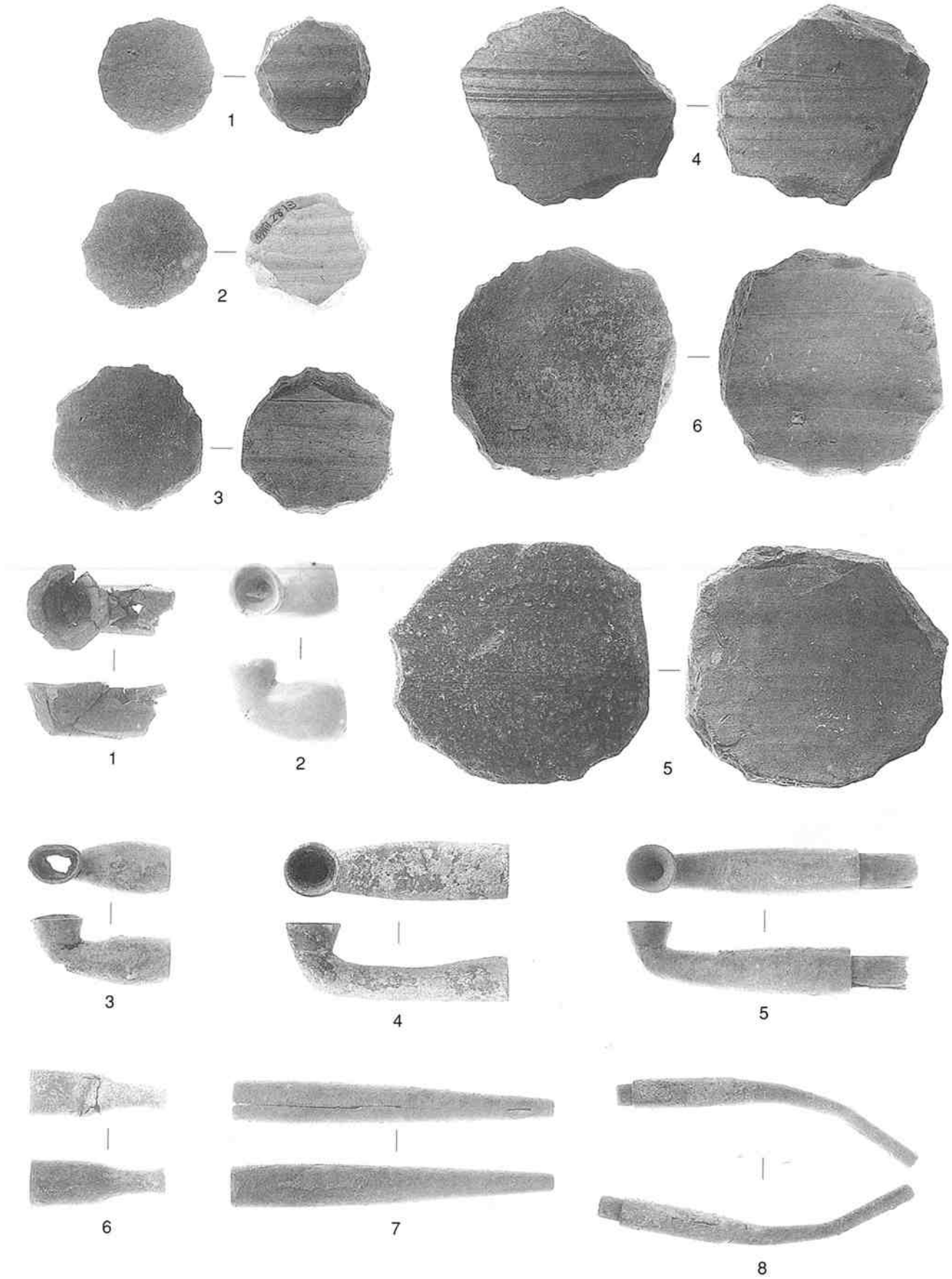
図版33　沖縄産無釉陶器(5)



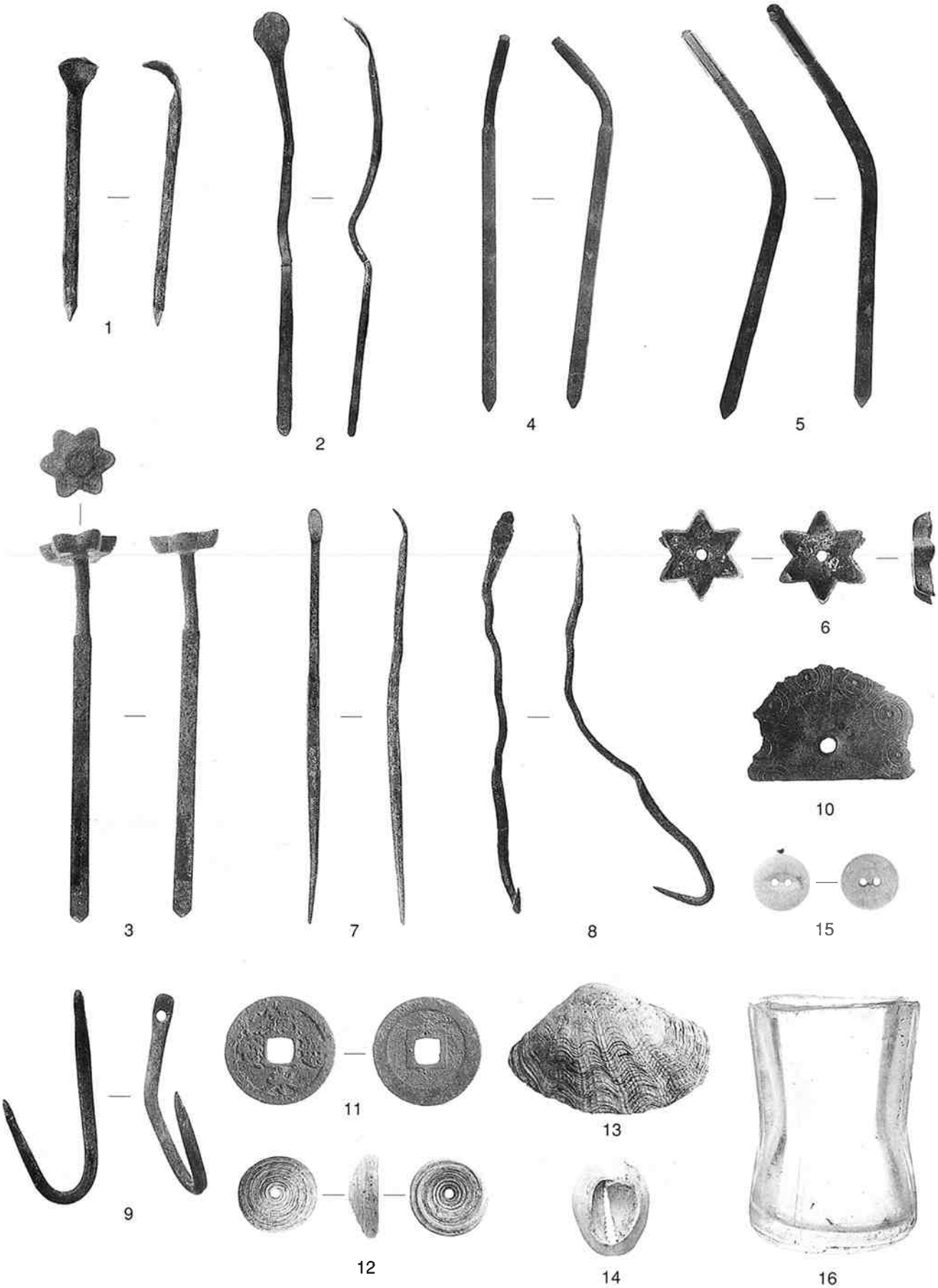
図版34　陶質土器(1)



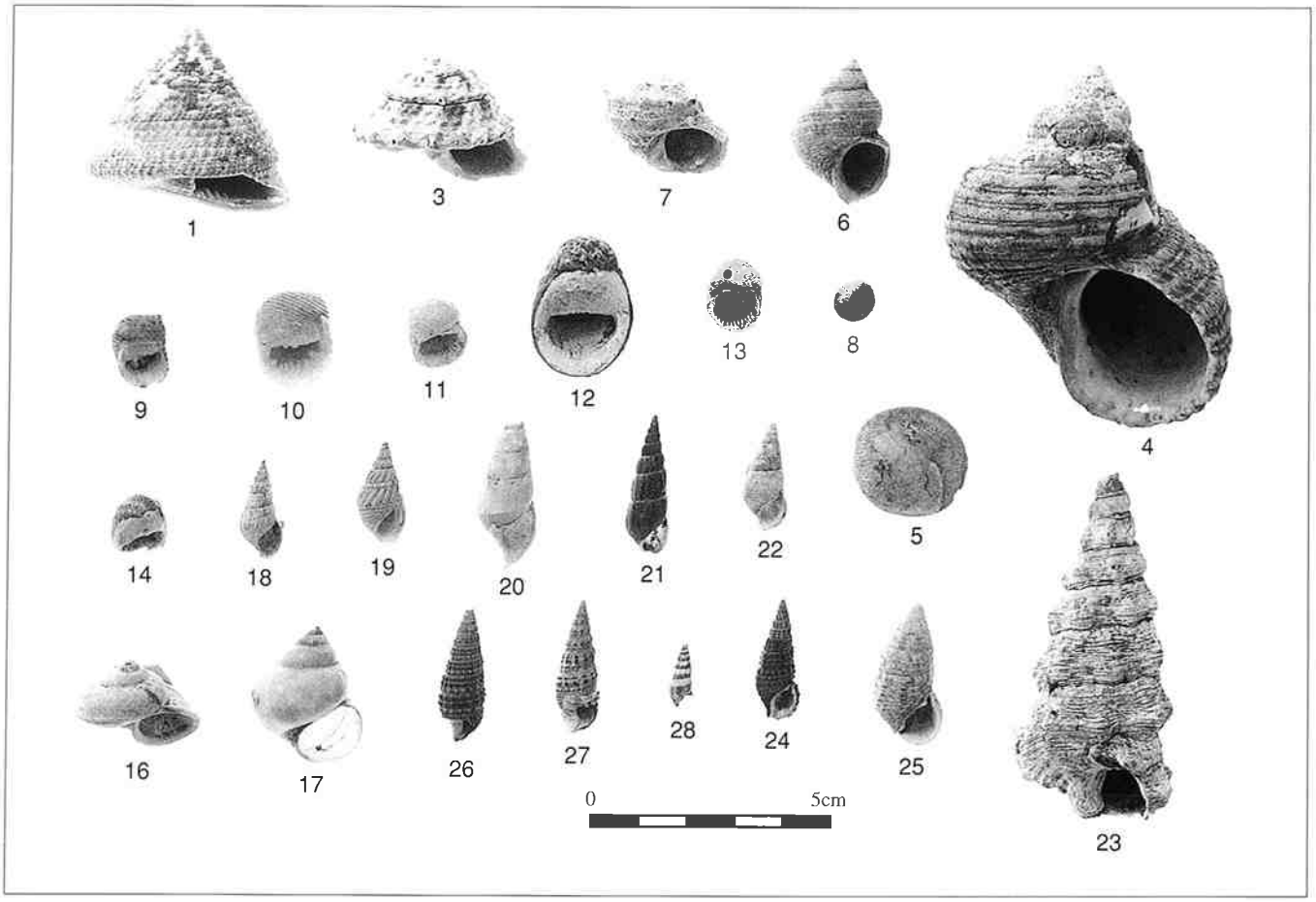
図版35　陶質土器(2)

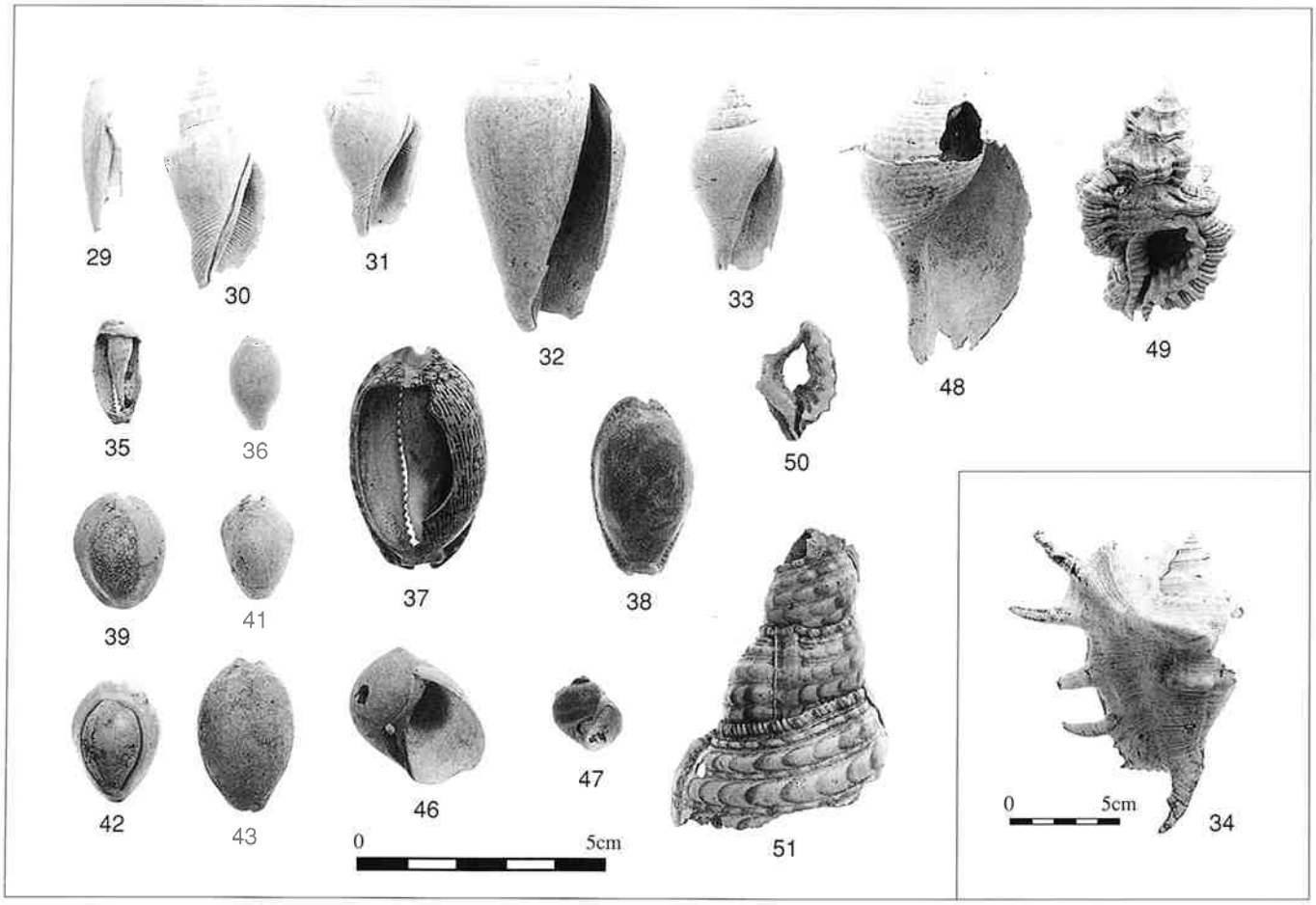


図版36　円盤状製品・煙管

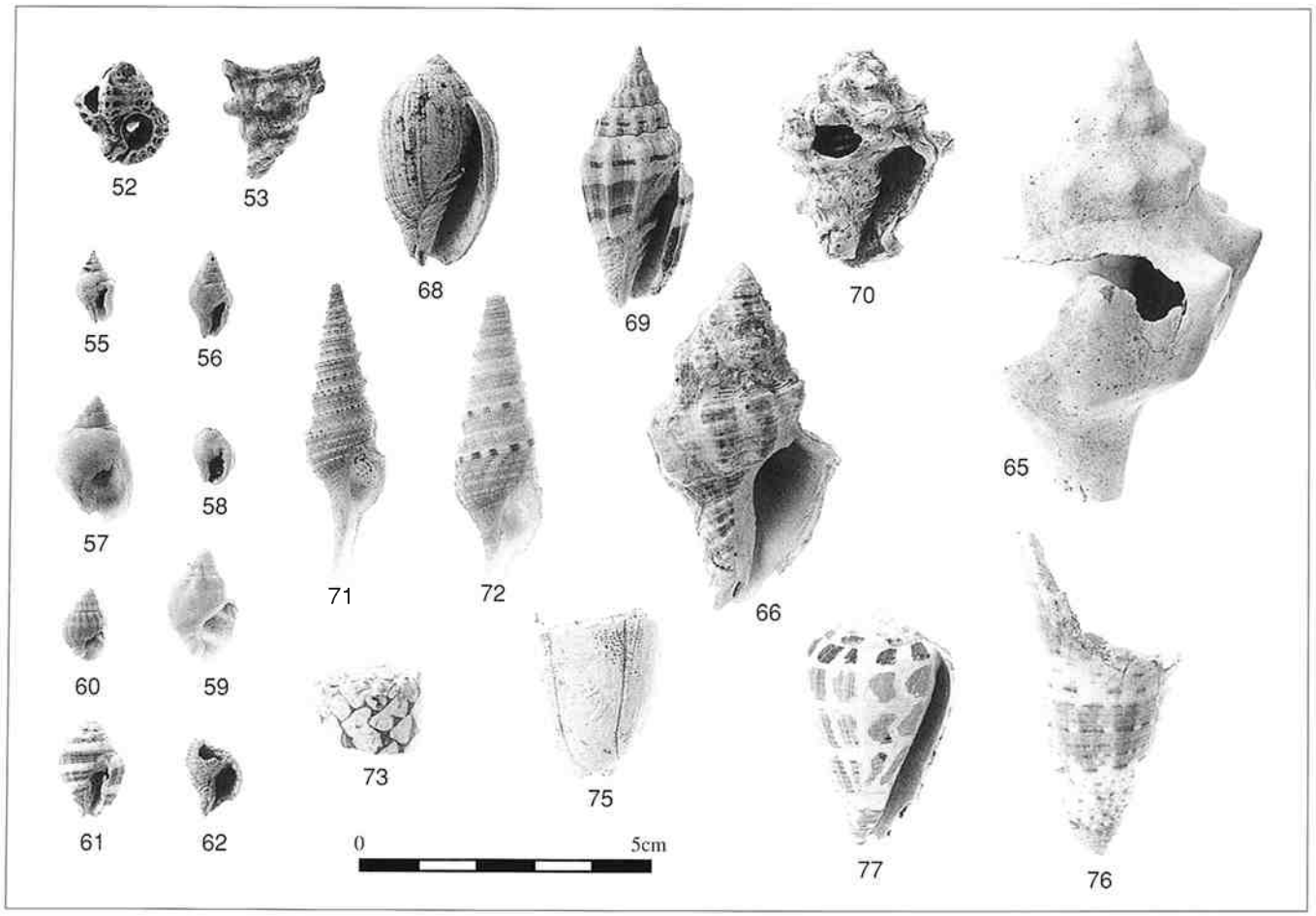


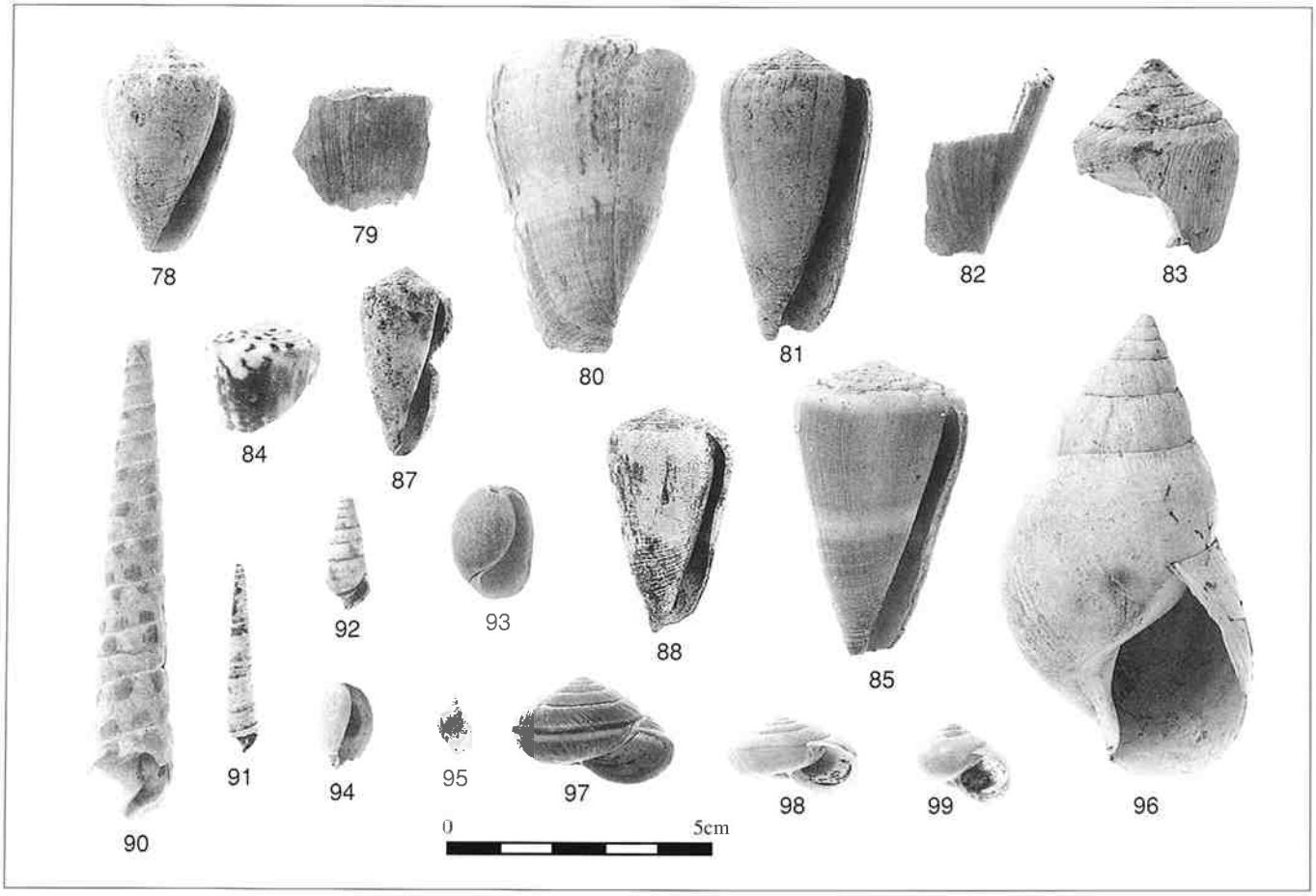
図版37　簪（ジーファー）・青銅製品・銭貨・貝製品・ガラス製品



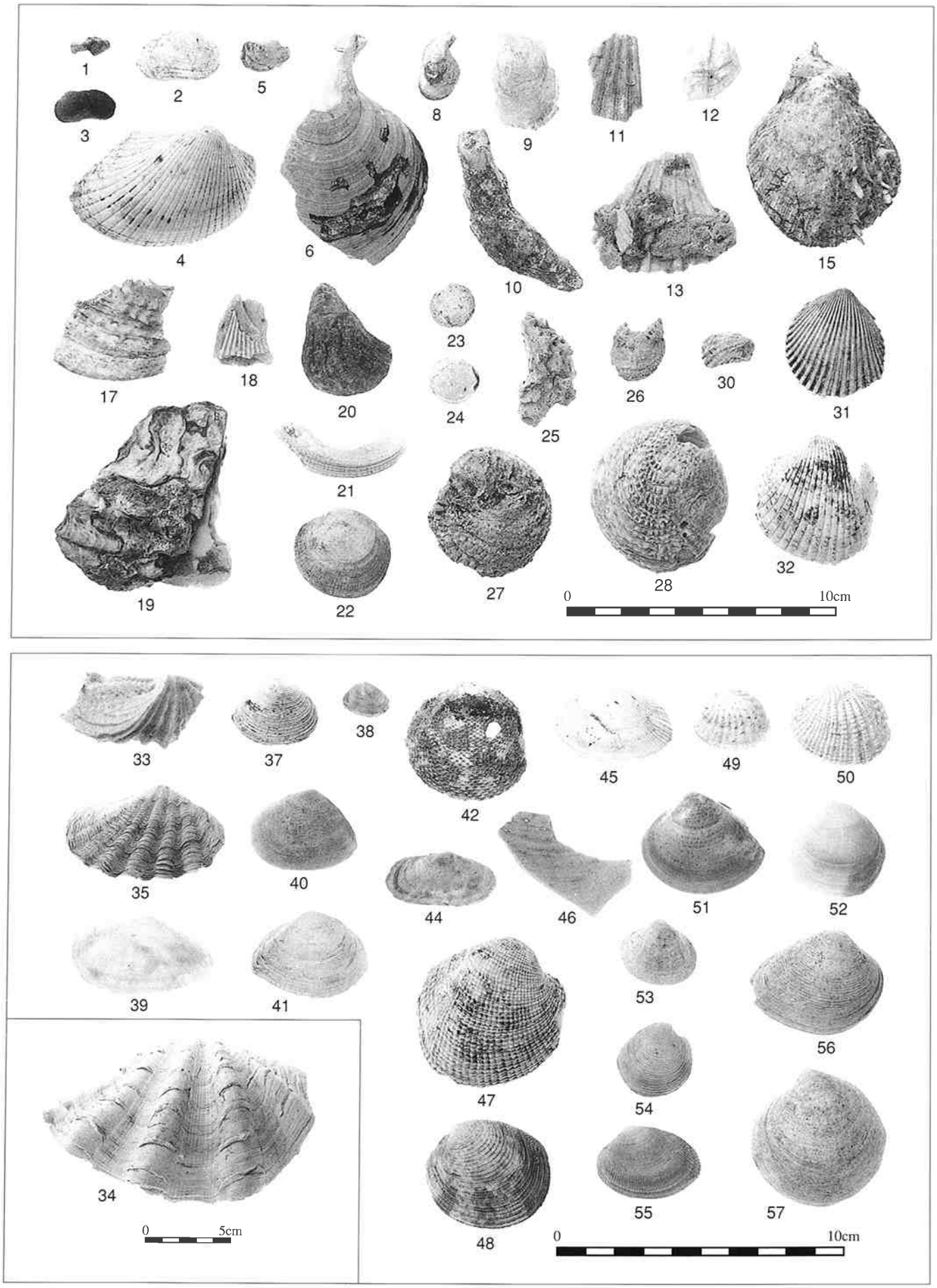


図版38　巻貝(1)　※ 番号は表と一致

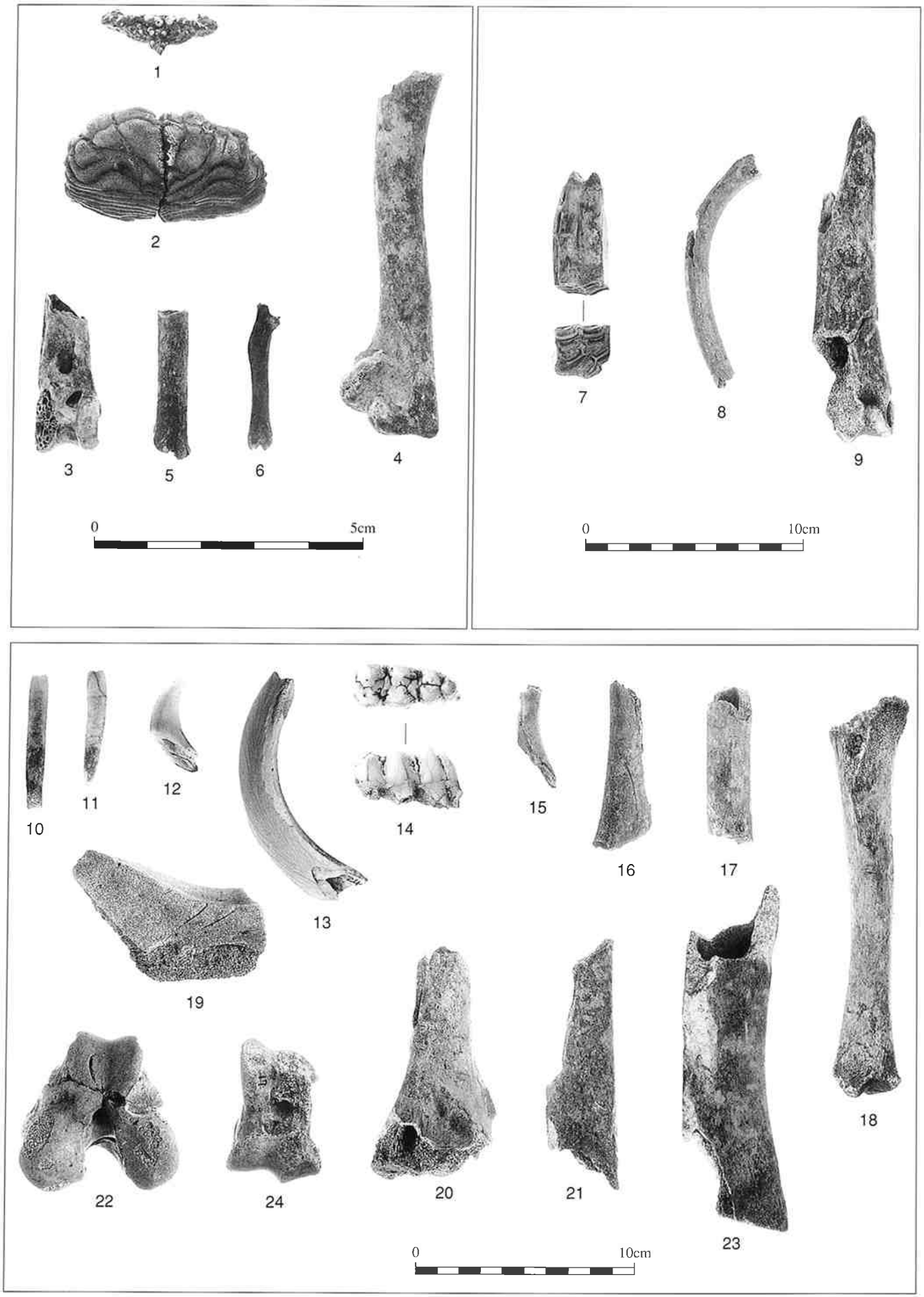




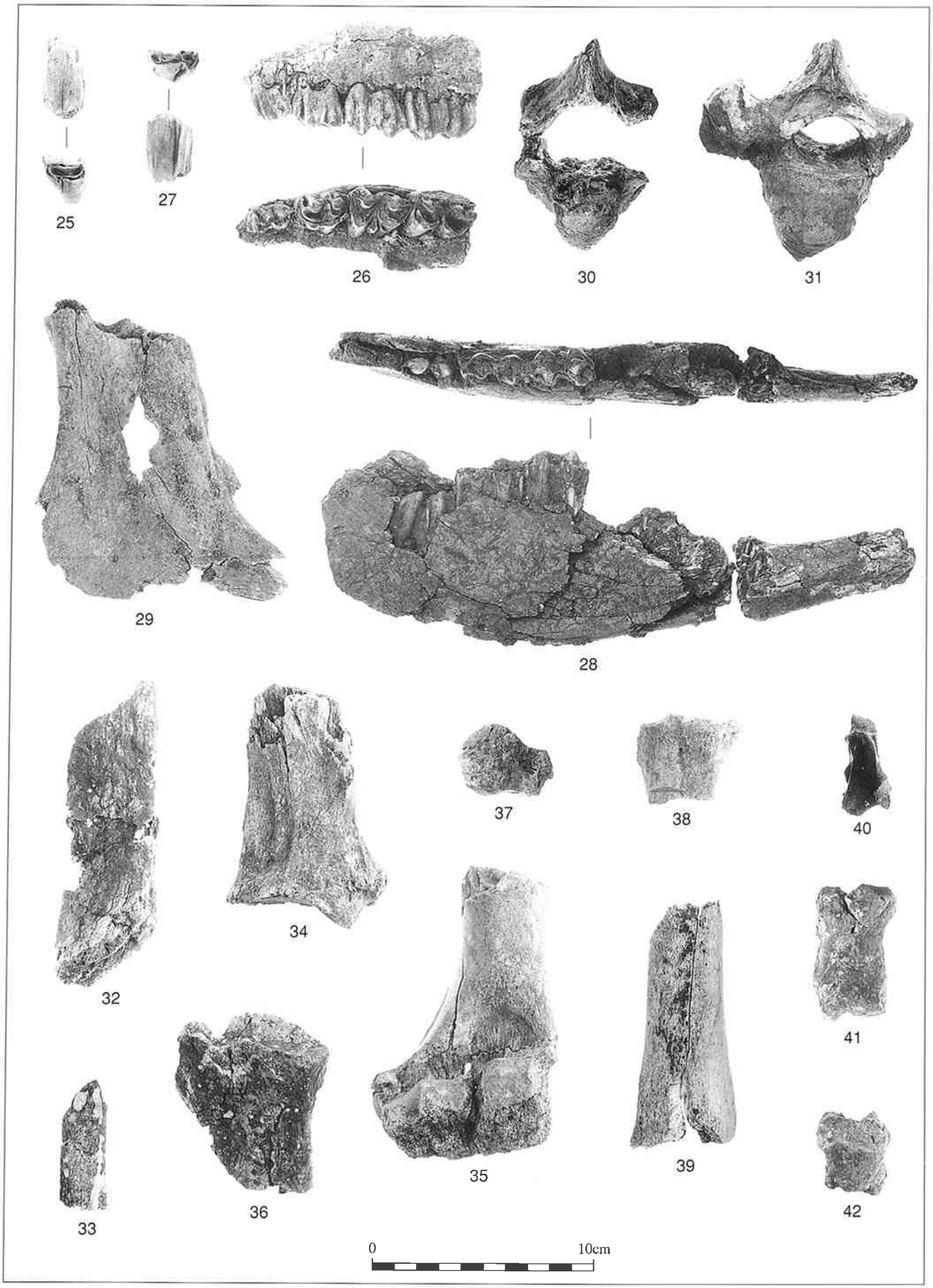
図版39　巻貝(2)　※ 番号は表と一致



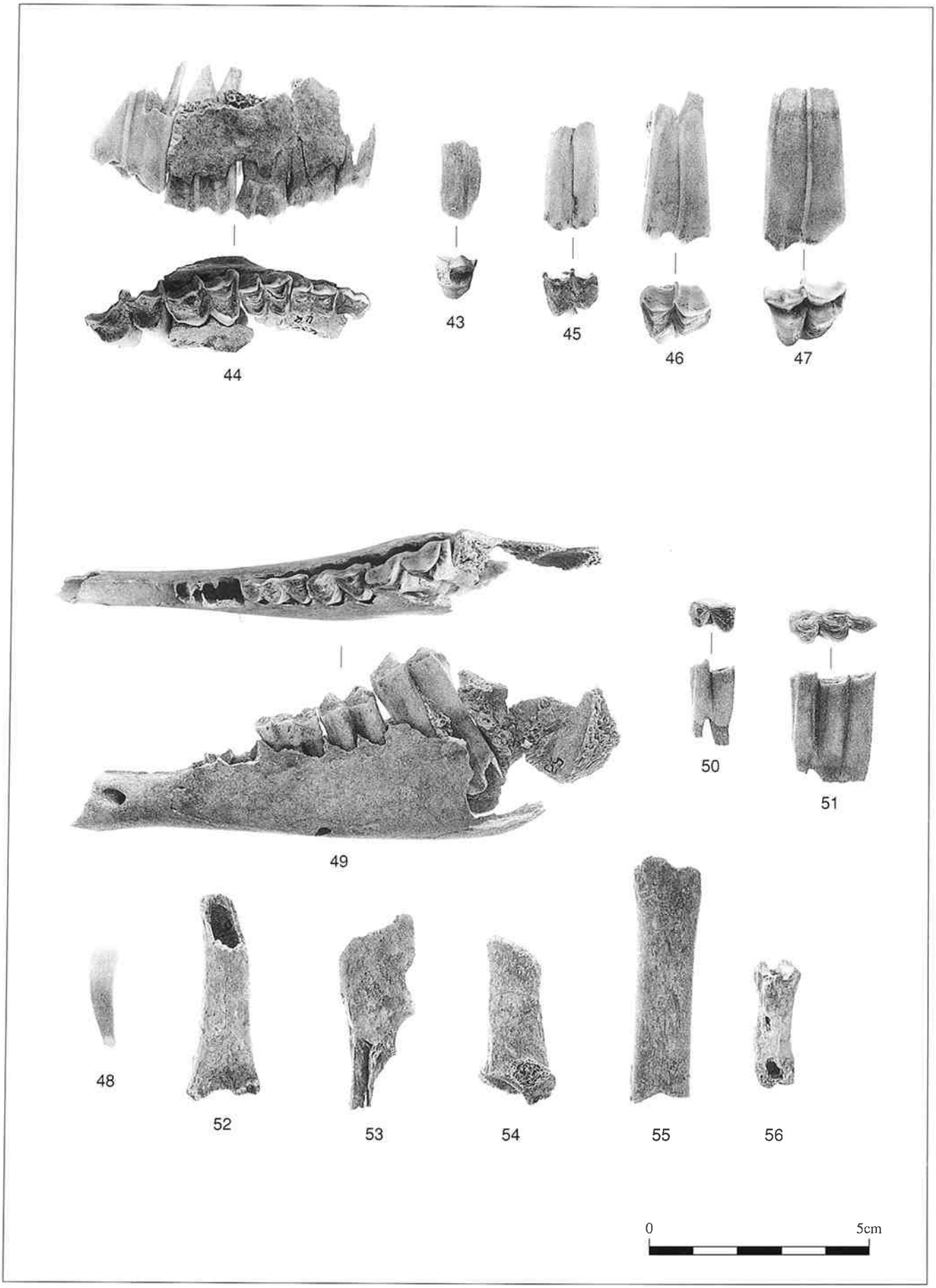
図版40　二枚貝　※ 番号は表と一致



図版41　脊椎動物遺存体(1)　※ 番号は表と一致



図版42　脊椎動物遺存体(2)　※ 番号は表と一致



図版43　脊椎動物遺存体(3)　※ 番号は表と一致

附編１

ナンバリング一覧

＊伊佐前原第一遺跡のナンバリングはすべて通番号で行った。ナンバリングの照合は次の通り

例：実際のナンバリング「伊前０００１」→一覧の表記はナンバリング項目の「１」

＊一覧での「EL」は「エレベーション」で、単位はmである。

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1	4層	せ―24			
2	2層・上	せ―20			陶質土器(鍋)ウシ
3	4層	そ―24			
4	2層・上	せ―18			中国染付(碗)青磁染付(皿)沖無(壺類)
5	2層・上	せ―20			白磁(碗・Ⅲ)イノシシ
6	1層	し―19・20			青磁(皿)
7	3層	せ―21			
8	1層	し―19			沖施(皿)鐸(ジーファー)
9	5層	す―25			
10	2層・中	そ―20			陶質土器(鉢)沖施(皿)
11	5層	せ―23			
12	1層	そ―26			
13	2層	せ―21			
14	1層	そ―20			沖施(急須)ネズミ
15	2層	そ―20			カムィヤキ(小壺)沖無(碗、火炉)
16	2層・上	せ―19			
17	5層	し―24			
18	1層	し―24			本土産磁器(皿)
19	2層・上	た―20			陶質土器(碗、蓋)沖施(壺)
20	3層	せ―21			
21	1層	不明			
22	2層・上	ち―21			
23	2層・上	せ―19			沖無(瓶)
24	1層	し―20			
25	撹乱	せ―24			
26	2層・上	た―19			ヒナキンチャクガイ
27	3・4層	そ―19	溝1号埋土		陶質土器(蓋)
28	2層	す―20			陶質土器(鍋)
29	2層・上	せ―20			沖施(碗)モノアラガイ
30	3層	そ―24			
31	2層・中	そ―19			沖施(皿)沖無(擂鉢)ヤギ
32	2層・上	せ―20			
33	1層	せ―19			アカシマミナシ
34	2層	し―22			
35	1層	せ―25			
36	Ⅱ層	そ―26	溝4号埋土		沖施(碗)
37	2層・上	そ―19			
38	2層	す―25			
39	1層	そ―26			
40	2層	し―20			カムィヤキ(碗・Ⅱ)リュウキュウツノマタ
41	5層	せ―26			
42	2層・上	そ―20			沖無(瓶)チトセボラ
43	2層・上	た―20			中国染付(碗)沖施(急須)
44	4層	せ―23			
45	2層・上	す―19			青磁(碗・Ⅴ-b)白磁(碗・Ⅲ)カムィヤキ(壺類)陶質土器(碗、器種不明)青磁染付(皿)沖施()瓶子)沖無(鉢、瓶)ヒメツキガイ
46	3層	せ―20			
47	2層・上	そ―20			陶質土器(蓋)ヤギ
48	不明	す―25			
49	4層	ち―23			
50	5層	せ―25			
51	2層・上	た―19			
52	2層・上	せ―19			沖施(蓋)
53	客土	す―27			
54	撹乱	す―27			
55	不明	し―26			カムィヤキ(鉢)陶質土器(火炉)
56	Ⅰ層	ち―25			
57	8層	す―26	S列10		
58	不明				沖無(擂鉢)
60	客土	す―27			沖無(擂鉢)
61	Ⅰ層	つ―26			マガキガイ、クモガイ
62	7層	ち―23			カムィヤキ(把手付壺)
63	5層	こ―27			
64	5層	さ―25			
66	8層	す―26	P列11		
67	2層・上	せ―19			沖施(碗)沖無(鉢)本土産陶器(甕)
68	8層	す―26	R列9		
69	1層	て―22			沖施(鉢)
70	9層	し―26	溝状遺構C		
71	Ⅰ層	つ―25			
72	撹乱	す―27			サラサミナシガイモドキ、チサラガイ
73	8層	す―25	J列9		
74	客土				
75	8層	せ―26	I列5		
76	客土				
77	客土	し―27			本土産磁器(小碗)
78	2層	こ―26			
79	Ⅰ層	つ―26			
80	1層	せ―18			
81	撹乱	す―27			
82	8層	せ―26	J列1		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
83	2層・上	そ―20			緑釉磁器(急須)沖施(蓋)沖無(水鉢)
84	Ⅰ層	つ―27			
85	Ⅱ層	し―27			陶質土器(蓋)沖施(小碗)トウガタカワニナ、イソハマグリ
86	1層	そ―26			
87	Ⅲ層	た―27			
88	1層	さ―25			
89	9層	さ―27	溝状遺構D		
90	2層・上	せ―20			陶質土器(瓶)
91	Ⅰ層	つ―27			
92	Ⅱ層	す―27			
93	1層	さ―27			中国染付(碗)
94	Ⅳ層	ち―27			
95	Ⅰ層	そ―26			沖施(火取か香炉、蓋)
96	9層	し―26	溝状遺構C		
97	不明	し―26			
98	9層	せ―27	溝状遺構F		
99	9層	さ―25	溝状遺構B		
100	2層・上	す―19			
101	8層	す―26	M列8		
102	9層	さ―27	溝状遺構E		
103	8層	す―25	I列12		
104	8層	し―26	T列10		
105	9層	し―26	溝状遺構C		
106	8層	す―26	R列9		
107	8層	し―26	R列14		
108	Ⅱ層	し―27			
109	9層	さ―27	溝状遺構E		
110	8層	す―26	M列7		
111	9層	し―26	溝状遺構C		
112	8層	す―26	O列5		
113	8層	す―26	T列9		
114	8層	し―27			
115	8層	し―27			
116	不明	ち―23			
117	8層	し―27		17.585	グスク系土器(鍋形・②)
118	8層	し―27			
119	1層	さ―26			青磁(碗・Ⅰ-b)
120	Ⅰ層	す―27			沖施(碗、筒状碗)
121	9層	さ―25	溝状遺構B		
122	Ⅲ層	す―27			
123	1層	す―26			カムィヤキ(小壺・有文、小壺、壺類)
124	Ⅲ層	し―27			
125	盛土				沖無(壺類)
126	盛土				カムィヤキ(小壺)
127	客土	す―27			
128	5層	し―26			青磁(碗・Ⅱ-b)
129	撹乱				沖施(鍋)
130	9層	さ―27	溝状遺構D		青磁(碗・Ⅲ-a)
131	不明	こ―23			
132	9層	し―27	溝状遺構D		
133	不明	つ―27			沖施(火取か香炉)沖無(壺類)
134	Ⅱ層	せ―26	溝4号埋土		
135	8層	し―27		17.585	カムィヤキ(小壺)
136	撹乱				沖施(火取か香炉)
137	9層	さ―27	溝状遺構E		
138	Ⅳ層	そ―27			
139	5層	し―27			
140	不明	し―27			カムィヤキ(鉢)陶質土器(鍋)
141	Ⅱ層	せ―27			
142	5層	す―26			カムィヤキ(壺類・Ⅲ-b)
143	撹乱	し―27			白磁(皿・Ⅳ-c)
144	撹乱	せ―26			
145	6層	し―26			青磁(碗・Ⅳ)カムィヤキ(把手付壺、壺類)
146	盛土				沖無(瓶)陶質土器(鍋)カンギク、ヌノメカワニナ、サヤダカイモ、ウラキツキガイ、リュウキュウマスオガイ
147	Ⅱ層	す―27			ヌノメガイ、ヤギ、イノシシ、ウマ
148	客土				
149	Ⅰ層	ち―27			沖無(擂鉢)
150	4層	す―26			
151	盛土				白磁(碗・Ⅰ-b-ⅰ、Ⅱ-B-b)
152	Ⅰ層	ち―26			
153	5層	し―27			
154	5層	さ―26			
155	5層	し―27			青磁(皿・Ⅰ-c)カムィヤキ(鉢)
156	Ⅱ層	す―27			本土産陶器(急須)
157	8層	し―25	イ・ウ列試掘		
158	5層	し―26			
159	客土	せ―27			
160	Ⅰ層	つ―24			
161	不明	せ―27			沖施(急須)
162	8層	し―27			
163	9層	し―27	溝状遺構D		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
164	5層	し−27			産地不明陶器A(壺)滑石製品(鍋)
165	9層	さ・し−26	溝状遺構C		
166	5層	さ−27			
167	5層	さ−25			
168	不明	し−26			カムィヤキ(壺類・Ⅰ-b、把手付壺、壺類)
169	9層	さ−27	溝状遺構E		
170	6層	す−25			カムィヤキ(把手付壺、壺類)
171	7層	そ−20			
172	8層	ち−22			
173	Ⅲ層	し−27			
174	Ⅰ層	つ−27			
175	盛土				
176	Ⅰ層	ち−27			
177	盛土				
178	4層	す−26			青磁(碗・Ⅱ-a、Ⅲ-b)カムィヤキ(小壺)
179	5層	す−25			青磁(皿・Ⅰ-b)カムィヤキ(壺類)
180	Ⅰ層	ち−27			
181	8層	ち−23			カムィヤキ(小壺)
182	Ⅰ層	つ−26			青磁(碗)沖無(火炉)
183	客土	し−27			沖無(瓶)
184	9層	さ−27	溝状遺構E		
185	6層	せ−25			
186	5層	せ−26			
187	8層	し−22			
188	2層	す−24			
189	2層	ち−20			
190	1層	つ−24			
191	5層	す−25			白磁(碗・Ⅱ-D-ⅱ)カムィヤキ(鉢・有文)
192	3層	せ−20			
193	5層	し−23			
194	5層	す−24			
195	3層	せ−22			
196	6層	せ−25			
197	4層	そ−24			
198	6層	せ−25			滑石製品(鍋)
199	7層	す−22			グスク系土器(鍋形・③)
200	7層	す−20			
201	2層・中	ち−20			
202	5層	せ−25			カムィヤキ(小壺)
203	5層	せ−25			
204	7層	す−20			
205	4層	そ−24			
206	4層	せ−24			カムィヤキ(小壺)
207	4層	す−21			
208	4層	す−22			
209	5層	た−23			
210	5層	す−23			
211	4層	す−23			
212	5層	す−25			白磁(碗・Ⅰ-b-ⅱ)カムィヤキ(小壺・Ⅰ-a)
213	7層	し−21			
214	7層	せ−20			
215	3層	せ−20			
216	5層	し−24			グスク系土器(碗・杯形)
217	3層	せ−24			
218	不明	せ−23			
219	5層	せ−25			
220	5層	す−25			滑石製品(鍋)
221	6層	せ−25			
222	3層	す−22			
223	7層	せ−22			
224	Ⅰ層	そ−24			
225	7層	せ−20			カムィヤキ(小壺・有文)
226	1層	ち−24			カムィヤキ(壺類)
227	4層	し−23			
228	3層	そ−23			
229	4層	せ−24			
230	5層	し−25			青白磁(蓋)
231	7層	そ−22			
232	6層	せ−25			
233	7層	す−22			
234	6層	せ−25			
235	4層	そ−24			
236	4層	す−25			カムィヤキ(壺類)
237	4層	す−24			
238	7層	せ−20			
239	7層	す−20			
240	3層	せ−23			
241	7層	せ−22			
242	4層	そ−24			
243	3層	し−20			グスク系土器(鍋形・①)
244	5層	そ−24			
245	3層	す−23			
246	5層	す−22			
247	2層	せ−22			
248	2層・上	ち−23			
249	5層	し−27			
250	5層	す−27			
251	5層	す−26			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
252	9層	さ−27	溝状遺構D		
253	5層	し−26			
254	盛土				
255	6層	さ−26			
256	5層	し−27			
257	5層	し−26			
258	8層	し−25			
259	5層	し−27			
260	2層	こ−27			
261	盛土				
262	8層	す−27			
263	8層	こ−27			
264	盛土				
265	6層	し−27			
266	9層	さ−27	溝状遺構E		
267	9層	さ−27	溝状遺構E		
268	盛土				
269	Ⅰ層	ち−26			沖無(瓶)
270	8層	す−25 す・せ−26	K・L列試掘		
271	8層	し−25	イ・ウ列試掘		
272	9層	さ−27	溝状遺構D		
273	8層	そ−24			
274	5層	し−27			
275	9層	さ−27	溝状遺構D		
276	6層	し−26			
277	8層	せ−26			
278	9層	し−26	溝状遺構C Dot52		
279	9層	さ−27	溝状遺構D		
280	9層	す−27	溝状遺構D		カムィヤキ(壺類・Ⅱ)
281	9層	せ−25	溝状遺構B Dot116		
282	9層	さ−25	溝状遺構B		
283	不明	す−25	Dot71		
284	5層	さ−26			
285	9層	す−25	溝状遺構B Dot91		
286	8層	し−25	溝状遺構A		
287	9層	す−25	溝状遺構B Dot62		
288	9層	せ−25	溝状遺構B		
289	9層	す−25	溝状遺構B Dot69		
290	不明	こ−27			
291	8層	す−26	Q列7		
292	盛土				陶質土器(火炉)
293	9層	さ−27	溝状遺構C		
294	9層	す−25	溝状遺構B Dot251		
295	9層	せ−25	溝状遺構B Dot114		
296	9層	す−25	溝状遺構B Dot85		
297	9層	し−27	溝状遺構D		
298	9層	す−25	溝状遺構B Dot83		
299	9層	し−27	Dot61		
300	9層	し−26			
301	9層	こ−27	溝状遺構D	14.950	
302	9層	さ−27	溝状遺構C		グスク系土器(皿形)
303	9層	す−25	溝状遺構B Dot92		
304	8層	す−26	N列8		
305	8層	し−26	溝状遺構A		
306	撹乱	す−27			
307	9層	す−25	溝状遺構B Dot68	14.501	カムィヤキ(把手付壺)
308	9層	す−25	溝状遺構B Dot86		
309	9層	し−26	溝状遺構C		
310	8層	し−25	ア列3		
311	9層	さ・し−27	溝状遺構C		
312	9層	せ−25	溝状遺構B Dot129		
313	9層	せ−25	溝状遺構B Dot120		
314	8層	す−26	K・L列試掘		
315	9層	せ−26			
316	9層	し−26	溝状遺構C		
317	9層	さ−27	溝状遺構E		
318	9層	す−25	溝状遺構B Dot48		
319	6層	し−26			
320	9層	せ−25	溝状遺構B Dot128		
321	9層	せ−25	溝状遺構B		
322	9層	さ−27	溝状遺構C		
323	9層	さ−27	溝状遺構C		
324	9層	し−27	溝状遺構D		
325	客土	し〜せ−27			カムィヤキ(碗)
326	9層	さ−27	溝状遺構C		
327	9層	さ・し−27	溝状遺構C		
328	8層	せ−26	K・L列試掘		
329	Ⅳ層	そ−27			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
330	9層	さ−27	溝状遺構C Dot21	14.355	カムィヤキ(壺類)
331	9層	す−25	溝状遺構B Dot51		
332	9層	し−26	溝状遺構C Dot53		
333	9層	さ−27	溝状遺構C		
334	客土	た−27			
335	9層	す−25	溝状遺構B Dot53		
336	Ⅱ層	す−27			
337	9層	す−25	溝状遺構B Dot75		
338	9層	し−26	溝状遺構C Dot54		
339	8層	す−27			
340	9層	す−25	溝状遺構B Dot74		
341	9層	す−25	溝状遺構B Dot67		
342	9層	し−27	Dot62	14.035	カムィヤキ(小壺・Ⅰ−a)
343	9層	す−25	溝状遺構B Dot95		
344	9層	せ−26			
345	8層	す−26	K・L列試掘		
346	9層	し−26	溝状遺構C Dot51		
347	9層	し−27	Dot57		
348	9層	し−26	溝状遺構C Dot56		
349	不明				
350	8層	し−26	溝状遺構A		
351	8層	し−25	イ列4		
352	5層	せ−26			
353	9層	さ−27	溝状遺構C Dot16		
354	9層	せ−25	溝状遺構B Dot111		
355	8層	せ−26			
356	8層	す−26	R列7		
357	9層	さ・し−27	溝状遺構C		
358	9層	さ−27	溝状遺構C Dot13		
359	9層	せ−25	溝状遺構B Dot100		
360	9層	し−26	溝状遺構C Dot55		
361	9層	さ−27	溝状遺構E		
362	9層	さ−27	溝状遺構C Dot15		
363	8層	す−26	Q列10		
364	9層	す−25	溝状遺構B	14.397	カムィヤキ(小壺)
365	9層	さ−27	溝状遺構C Dot18		
366	9層	さ・し−27	溝状遺構C		
367	9層	さ−27	溝状遺構C		
368	8層	し−25			
369	9層	す−25	溝状遺構B Dot252		
370	9層	し−27	溝状遺構D		
371	9層	す−25	溝状遺構B Dot60		
372	9層	せ−25	溝状遺構B Dot110		
373	9層	し−26	溝状遺構C Dot59		
374	9層	し−27	Dot63		
375	9層	し−26	溝状遺構C Dot58		
376	Ⅱ層	せ−26	溝4号埋土 Dot127		
377	9層	せ−25	溝状遺構B Dot104		
378	9層	さ・し−27	溝状遺構C		
379	9層	さ−27	溝状遺構D		
380	9層	す−25	溝状遺構B Dot77		
381	9層	し−26	溝状遺構C		
382	9層	し−25	溝状遺構B		
383	8層	す−25 す・せ−26	K・L列試掘		
384	8層	す−25	M列11		
385	8層	せ−27	Y列1		
386	9層	す−25	溝状遺構B Dot72		
387	9層	す−25	溝状遺構B Dot84		
388	9層	せ−25	溝状遺構B Dot130		
389	9層	す−27			
390	9層	せ−25	溝状遺構B Dot99		
391	9層	こ−27	溝状遺構D		
392	9層	し−26	溝状遺構C		
393	9層	し−26			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
394	8層	し−26	S列11		
395	9層	さ−27	溝状遺構C		
396	不明	し−25			
397	8層	す−25	L列10		
398	9層	さ−25	溝状遺構B Dot121		
399	9層	す−25	溝状遺構B Dot56		
400	9層	し−26	溝状遺構C		
401	9層	し−27	溝状遺構D		
402	9層	す−25	溝状遺構B Dot61		
403	8層	す−26	N列4		
404	8層	す−26			
405	5層	さ−26			
406	9層	せ−25			
407	9層	せ−25	溝状遺構B Dot98		
408	8層	す−26	K・L列試掘		
409	9層	せ−25	溝状遺構B Dot108		
410	8層	す−26	P列9		
411	9層	せ−25	溝状遺構B Dot126		
412	9層	し−25	溝状遺構B		
413	9層	す−25	溝状遺構B Dot73		
414	8層	す−26	P列10	14.717	青磁(碗・Ⅱ−a)
415	8層	し−26	U列7		
416	8層	す−26	K列10		
417	9層	せ−25	溝状遺構B Dot122		
418	9層	す−25	溝状遺構B Dot94		
419	9層	さ−27	溝状遺構C		
420	9層	せ−25	溝状遺構B Dot125		
421	盛土				
422	客土	そ−27			陶質土器(鍋)煙管
423	Ⅰ層	そ−27			
424	Ⅲ層	ち−27			
425	8層	し−26	溝状遺構A		
426	Ⅰ層	そ−25			
427	盛土				
428	客土	ち−25			
429	Ⅰ層	そ−27			
430	Ⅰ層	ち−26			
431	Ⅱ層	ち−25	溝4号埋土		沖施(碗)沖無(甕)
432	客土	ち−25			
433	Ⅰ層	そ−27			
434	Ⅰ層	ち−25			煙管
435	客土	た−25			ナツメガイ、ウミギク科不明、イタボガキ科不明、シロザル、キクザル、マスオガイ、シレナシジミ、スダレハマグリ、オキシジミ
436	1層	不明			
437	9層	さ−27	溝状遺構D		青磁(碗・Ⅱ−a)
438	撹乱	そ−26			
439	Ⅱ層	つ−26			
440	Ⅲ層	た−25			
441	Ⅲ層	た−27			
442	5層	し−25			白磁(碗・Ⅰ−b−ⅲ)
443	Ⅱ層	ち・つ−26	溝4号埋土		クワノミカニモリ
444	Ⅲ層	ち−24			
445	8層	す−27			
446	1層	不明			白磁(皿・Ⅰ)中国染付(碗)沖施(皿)沖無(壺類)コシダカサザエ、リスガイ、ニワトリ、ウシ
447	Ⅳ層	そ−27			沖無(瓶)
448	Ⅱ層	ち−27			
449	9層	せ−26	溝状遺構C		
450	Ⅳ層	つ−26			陶質土器(鍋)沖施(蓋)中国染付(小皿)
451	客土	た−25			
452	不明	す−27			
453	Ⅱ層	そ−25	溝4号埋土		サラサミナシ、ユウカゲハマグリ
454	Ⅱ層	せ−26	溝4号埋土		青磁(皿)中国染付(碗)沖無(皿)貝製品、チョウセンサザエ、カンギク(蓋)マルタニシ、ツノテツレイシ、ニワトリ、ヤギ
455	Ⅱ層	つ−26	溝4号埋土		
456	Ⅱ層	た−25	溝4号埋土		沖施(碗、瓶)
457	Ⅳ層	せ−27	溝6号埋土		
458	Ⅰ層	た−26			沖無(不明)ウマ
459	5層	し−27			青磁(碗・Ⅱ)
460	撹乱	す−24			褐釉陶器(壺)
461	8層	す−27			
462	盛土				沖施(急須)メンガイ
463	5層	し−25			
464	Ⅲ層	し−27			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
465	Ⅲ層	ち−27			アシロイモ、カワラガイ
466	9層	す−27			
467	Ⅱ層	せ−26	溝4号埋土		カムィヤキ(把手付壺)沖無(円盤状製品)ウシ
468	Ⅳ層	ち・つ−26	溝6号埋土		
469	Ⅱ層	た−26			沖無(甕)
470	Ⅲ層	す−27			
471	5層	す−25			
472	Ⅱ層	つ−26	溝4号埋土		イタヤガイ
473	Ⅱ層	ち−24			サラサバテイラ
474	不明				
475	Ⅱ層	た−25	溝石列5号		中国染付(碗)沖施(碗)
476	Ⅱ層	つ−27			
477	Ⅲ層	せ−27			
478	Ⅱ層	し−27			
479	覆土	つ−24			中国染付(小碗)沖施(急須、蓋)中国系陶器
480	Ⅲ層	ち−27			
481	Ⅱ層	た−27			
482	6層	せ−27			褐釉陶器(急須)
483	5層	す−27			
484	客土	ち−25			沖施(小型瓶)ハナビラダカラ
485	Ⅲ層	す−27			青磁(碗・Ⅱ−b)
486	5層	不明			
487	5層	す−27			
488	不明				
489	客土	つ−24			
490	Ⅱ層	せ−26	溝4号埋土		
491	5層	す−26			
492	5層	す−25			
493	Ⅰ層	ち−27			
494	不明	し−26			
495	Ⅱ層	し−27			
496	Ⅱ層	し−27			沖無(壺類)
497	5層	す−27			
498	5層	す−25			青磁(碗・Ⅲ−b)カムィヤキ(把手付壺)
499	客土				沖施(小碗、ずしがめ・角)ガラス
500	Ⅲ層	ち−27			
501	Ⅰ層	さ〜すー27・28			産地不明陶磁器(擂鉢)
502	5層	し−27			
503	Ⅱ層	す−27	溝4号埋土		カムィヤキ(把手付壺)
504	客土				
505	5層	し−27			
506	8層	す−26			
507	7層	そ−20			
508	撹乱	し−27			
509	5層	す−27			青磁(碗・Ⅲ−a)
510	5層	し−27			
511	客土	す−27			
512	Ⅲ層	し−27			
513	9層	さ−27	溝状遺構D		
514	5層	こ−26			
515	Ⅱ層	し−27			
516	5層	す−27			
517	6層	さ−26			
518	客土	せ−27			
519	撹乱				
520	8層	し−26	溝状遺構A		
521	8層	す−25 す・せ−26	K・L列試掘		
522	9層	こ−27	溝状遺構E		
523	6層	し−26			
524	不明				
525	5層	し−26			青磁(Ⅲ・Ⅰ−a)
526	不明				カムィヤキ(壺類・Ⅰ−a)
527	Ⅰ層	ち−24			簪(ジーファー)
528	不明	そ−27			
529	6層	さ−26			
530	Ⅱ層	せ−26	溝4号埋土		
531	客土	せ−27			
532	5層	す−27			
533	5層	し−27			
534	5層	こ・さ−27			カムィヤキ(小壺、壺類)
535	撹乱	す−27			
536	5層	し−26			
537	Ⅰ層	つ−25			キバアマガイ
538	不明	す−27			カムィヤキ(小壺)
539	9層	さ−27	溝状遺構C		青磁(碗・Ⅲ−a)
540	不明	し−27			
541	9層	さ−27	溝状遺構D		
542	客土	す−27			沖施(急須)
543	8層	し−26	溝状遺構A		カムィヤキ(小壺)
544	9層	こ−27	溝状遺構D		カムィヤキ(壺類)
545	客土	せ−27			
546	4層	そ−24			
547	7層	せ−20			
548	7層	せ−21			
549	7層	そ−20			
550	7層	し−21			
551	7層	す−20			カムィヤキ(壺類)
552	7層	し−20			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
553	5層	し−27			
554	不明	す−25			
555	2層・上	そ−22			
556	5層	せ−21			カムィヤキ(小壺)
557	5層	す−23			
558	5層	そ−24			
559	5層	せ−22			
560	7層	そ−20			
561	客土	つ−27			
562	撹乱	た−26			
563	客土	せ−27			
564	8層	し−27			
565	9層	こ−27	溝状遺構E		
566	9層	さ・し−27	溝状遺構C		
567	客土	ち−24			
568	5層	し−25			カムィヤキ(壺類)
569	9層	せ−25	溝状遺構B		
570	9層	こ・さ−27	溝状遺構D		
571	5層	し−26			
572	Ⅰ層	つ−27			簪(ジーファー)
573	9層	こ・さ−27	溝状遺構D		
574	9層	こ−27	溝状遺構D		
575	5層	し−27			
576	8層	た−27			
577	不明	ち−27			沖施(壺)沖無(瓶)
578	5層	し−26			カムィヤキ(小壺)
579	5層	し−26			カムィヤキ(小壺)
580	5層	し−26			白磁(碗・Ⅱ−c)カムィヤキ(小壺)
581	不明	た−27			
582	Ⅰ層	つ−26			沖無(壺類)ニシキウズ
583	Ⅰ層	そ−25			
584	5層	さ−27			
585	5層	す−27			
586	不明	し−25			
587	5層	さ−27			
588	5層	し−26			青磁(碗・Ⅱ−a)
589	8層	し−25	溝状遺構A		
590	5層	す−25			
591	Ⅰ層	た−25			カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ−c)沖無(鉢)ヤナギシボリイモ
592	5層	し−26			
593	6層	さ−26			カムィヤキ(把手付壺)
594	Ⅲ層	し−27			
595	6層	こ−27			カムィヤキ(小壺)
596	5層	さ−25			
597	5層	し−26			
598	5層	す−27			
599	客土	せ−27			
600	Ⅰ層	そ−27			
601	客土	そ−25			スグカワニナ、オハグロガイ、ヨフバイモドキ、ベニエガイ、リュウキュウサルボウ、マガキ
602	Ⅲ層	ち−26			中国染付(小杯)
603	不明	た−27			
604	5層	す−27			
605	Ⅲ層	し−27			
606	9層	せ−25	溝状遺構B	14.586	カムィヤキ(小壺・Ⅱ)
607	不明	せ−27			
608	Ⅲ層	し−27			
609	Ⅲ層	す−27			カムィヤキ(鉢)
610	5層	す−26			
611	Ⅲ層	ち−27			チョウセンサザエ(蓋)イモフデガイ
612	5層	さ−26			
613	客土	す−27			
614	客土	せ−27			
615	9層	こ−27	溝状遺構D		
616	Ⅲ層	す−27			
617	5層	こ・さ−27			
618	9層	さ・し−27	溝状遺構C		
619	6層	し−27			
620	不明				
621	Ⅰ層	し−26			
622	7層	す−27			
623	Ⅲ層	ち−27			白磁(Ⅲ・Ⅳ−b)
624	1層	し−27			
625	5層	せ−25			
626	8層	し−25	溝状遺構A		
627	5層	し−26			
628	8層	た−27			
629	Ⅲ層	す−27			
630	5層	し−27			
631	不明				カムィヤキ(壺類)
632	Ⅳ層	そ−26・27			
633	8層	た−22			
634	不明				
635	2層	し−27			
636	Ⅰ層	つ−25			
637	Ⅲ層	ち−24			
638	6層	し−27			
639	Ⅲ層	し−27			沖施(瓶子)
640	8層	し−26	溝状遺構A		カムィヤキ(壺類)

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
641	5層	さ－26			
642	6層	さ－26			
643	撹乱	す－27			
644	Ⅳ層	つ－24	溝3号埋土		
645	盛土				
646	1層	不明			沖施(小碗)アフリカマイマイ
647	不明	ち－26			沖無(壺類、火炉)
648	1層	さ－25			
649	Ⅲ層	た－26			陶質土器(火炉)
650	5層	ち－24			
651	Ⅱ層	ち－27			
652	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		カムィヤキ(小壺)
653	不明	し－ライン			沖施(碗)クロフトマヤガイ
654	Ⅱ層	せ－26	溝4号埋土		
655	不明	ち－24			
656	Ⅱ層	せ－26	溝4号埋土		
657	撹乱				沖無(擂鉢)
658	8層	す－24			
659	5層	し－26			
660	9層	す－24			
661	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		
662	Ⅳ層	ち・つ－26	溝6号埋土		沖施(蓋)沖無(壺類、円盤状製品)ネジマガキガイ
663	Ⅱ層	た－26			
664	Ⅲ層	す－27			
665	Ⅰ層	た－26			
666	5層	し－27			
667	Ⅱ層	た－26			
668	9層	そ－27	掘込3		
669	盛土				青磁(皿・Ⅰ-c、Ⅲ-a)カムィヤキ(壺類・Ⅰ-b、小壺、壺類)沖施(碗)
670	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		青磁(碗)
671	5層	し－27			
672	不明	そ－26			
673	Ⅱ層	た－25	溝4号埋土		
674	1層	不明			
675	Ⅱ層	つ－26			
676	Ⅱ層	た－25	溝4号埋土		グスク系土器(鉢形・b)簪(ジーファー)、シオボラ、シュリマイマイ、パンダナマイマイ、オキナワウスカワマイマイ、リュウキュウシラトリ
677	不明	せ－27			
678	Ⅱ層	た－26			陶質土器(火炉)
679	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		沖施(火炉)沖無(火炉)
680	Ⅱ層	た－25	溝4号埋土		陶質土器(鉢)ムシエビ、ホソスジイナミガイ
681	Ⅲ層	す－27			
682	Ⅱ層	た・ち－25	溝4号埋土		沖無(瓶)
683	Ⅲ層	ち－24			
684	Ⅳ層	た－26	溝6号埋土		沖無(擂鉢)
685	Ⅲ層	ち－27			
686	Ⅰ層	ち－27			白磁(碗・Ⅱ-λ-b)
687	Ⅱ層	せ－27			沖施(碗)
688	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		沖無(壺類)
689	Ⅱ層	た－26			
690	Ⅱ層	た－25			ウマ
691	不明	せ－27			オオミノムシガイ
692	Ⅳ層	ち－24	溝石列2号		
693	Ⅲ層	ち－26			中国染付(小碗)陶質土器(瓶)沖施(小碗)カワニナ、カブラツキガイ
694	撹乱	す－27			沖無(壺類)
695	Ⅲ層	つ－26			
696	Ⅱ層	た－25	溝4号埋土		
697	Ⅱ層	せ－27			滑石製品(鍋)
698	Ⅰ層	す－27			
699	Ⅱ層	た－26			
700	Ⅲ層	つ－25			
701	1層	不明			青磁(盤)本土産陶器(甕)ウミニナ、イトマキボラ
702	Ⅳ層	ち－24	溝2号埋土		
703	Ⅰ層	ち－24			本土産陶器(瓶)沖施(小碗)
704	Ⅰ層	ち－24			
705	Ⅲ層	ち－24			青磁(皿・Ⅰ-a)
706	不明	す－21			グスク系土器(底部資料・b)沖無(火炉)
707	9層	さ－27	溝状遺構D		
708	Ⅲ層	せ－27			沖施(碗)
709	Ⅲ層	せ－27			
710	Ⅲ層	す－27			
711	Ⅱ層	す－27	溝4号埋土		沖無(瓶)
712	Ⅱ層	つ－25			ヒメハラダカラ、エガイ、ハマグリ
713	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		沖施(碗)
714	Ⅲ層	し－27			陶質土器(蓋)沖施(瓶)
715	Ⅲ層	た－27			白磁(碗・Ⅰ-c-ⅱ)
716	Ⅲ層	ち－24			
717	Ⅲ層	せ－27			
718	Ⅲ層	ち－26			沖無(壺類、不明)陶質土器(火炉)本土産磁器(染付・筒碗)沖施(碗、袋物)
719	8層	ち－24			
720	不明	ち－24			
721	不明				
722	不明	ち－24			
723	9層	ち－23	Pit2		
724	Ⅳ層	ち－27			沖施(袋物)
725	Ⅱ層	す－27	溝4号埋土		
726	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土		
727	撹乱				
728	Ⅰ層	た－24			沖無(瓶、壺類、不明)
729	Ⅲ層	す－27			
730	Ⅳ層	そ－27			
731	Ⅱ層	た－26			キイロダカラ
732	Ⅳ層	ち・つ－26	溝6号埋土		陶質土器(火炉)中国染付(碗)沖施(碗、皿)沖無(壺類)サバダカラ
733	1層	不明			陶質土器(鍋)
734	7層	さ－20			
735	7層	せ－23			
736	7層	し－20			
737	3層	す－21			
738	2層	た－20			
739	3・4層	た－20	溝1号埋土		
740	8層	し－24			鉄滓
741	2層	そ－24			
742	7層	す－21			
743	7層	せ－21			鉄製品
744	2層・上	す－20			
745	7層	せ－20			
746	7層	し－21			
747	4層	せ－20			
748	3層	そ－23			
749	2層	し－19			
750	3層	せ－20			青磁(碗・Ⅱ-b)
751	2層・上	せ－21			イノシシ
752	7層	す－21			
753	1層	し－20			
754	1層	さ－21			
755	3・4層	つ－23	溝1号埋土		
756	7層	せ－20			
757	7層	せ－20			
758	2層・上	せ－21			
759	7層	す－20			
760	1層	た－20			
761	2層・上	そ－21			
762	不明	せ－21			
763	1層	せ－24			煙管
764	2層	す－20			
765	5層	そ－23			
766	7層	す－20			
767	2層・上	し－20			
768	8層	す－22	炉跡		グスク系土器(鉢形・b)
769	3層	し－21			カムィヤキ(鉢)
770	7層	し－21			
771	5層	せ－24			カムィヤキ(把手付壺)
772	7層	す－20			
773	3層	せ－22			
774	2層・上	す－25			
775	7層	せ－20			
776	3・4層	た－19	溝1号埋土		
777	不明	せ・そ－26			
778	3層	す－20			
779	4層	し－24			
780	7層	し－21			クロシュミセン
781	5層	す－22			
782	2層・上	せ－18			
783	7層	す－22			
784	4層	せ－22			
785	7層	せ－21			
786	3・4層	そ－19	溝1号埋土		
787	3層	せ－22			
788	7層	す－20			
789	5層	そ－24			グスク系土器(浅鉢形)
790	2層・上	そ－19			
791	2層	た－21			
792	3層	す－20			
793	5層	そ－24			
794	7層	し－21			
795	2層・上	せ－18			
796	2層・上	す－20			沖無(瓶)
797	2層	し－20			滑石製品(転用品)
798	5層	そ－24			
799	1層	せ－20			
800	4層	す－22			
801	5層	し－25			カムィヤキ(小壺・有文)
802	7層	す－20			
803	3層	す－22			
804	4層	す－21			
805	2層・上	そ－19			青磁(皿・Ⅲ-b)沖施(碗、瓶子)沖無(甕)

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
806	7層	す―20			
807	5層	せ―24			カムィヤキ(壺類)
808	2層・上	せ―19			簪(ジーファー)
809	7層	せ―20			
810	5層	そ―24			
811	2層・上	さ―19			青銅製品
812	7層	し―21			
813	1層	さ―20			
814	2層・中	そ―19			
815	5層	す―24			
816	2層・上	し―18			
817	2層・上	た―19			
818	2層・上	さ―20			本土産磁器(碗)
819	3層	す―24			
820	4層	せ―22			
821	2層・上	そ―19			
822	5層	そ―24			
823	撹乱	た―23			
824	4層	す―23			
825	5層	せ―24			後期系土器(有文・a)
826	2層・上	し―19			中国染付(小皿)
827	8層	す―22	Pit1		カムィヤキ(把手付壺、小壺)グスク系土器(鉢形・b)
828	3層	せ―22			カムィヤキ(壺類)
829	2層・上	せ―20			カムィヤキ(小壺)グスク系土器(鉢形・b)
830	2層・上	せ―18			アラスジケマンガイ
831	1層	し―25			
832	7層	さ―20			グスク系土器(鍋形・b-ii)
833	1層	さ―19			ヤギ、イノシシ
834	7層	そ―20			
835	4層	し―25			
836	2層・上	せ―18			
837	3層	せ―22			
838	3層	す―22			
839	3層	す―22			
840	2層・上	そ―19			沖施(カラカラ)
841	4層	し―25			
842	1層	さ―20			
843	1層	す―26			
844	2層・上	す―19			陶質土器(鍋)
845	7層	す―21			
846	3層	す―21			
847	3層	せ―22			
848	3層	す―21			
849	撹乱	し―24			
850	1層	そ―26			
851	撹乱	せ―24			
852	7層	す―21			
853	2層・上	せ―19			白磁(Ⅲ・Ⅱ)沖無(小壺)
854	5層	そ―24			
855	2層・上	せ―19			陶質土器(壺)沖施(碗、急須)瑠璃釉磁器(小杯)
856	3層	し―22			
857	7層	し―22			
858	2層	し―22			
859	8層	す―26	N列10		
860	8層	す―25	H列10		
861	9層	せ―25	溝状遺構B Dot101		
862	9層	す―25	溝状遺構B Dot49		
863	8層	し―26	U列14		
864	9層	こ―27	溝状遺構D		
865	Ⅱ層	す―27	溝4号埋土		
866	9層	さ―25	溝状遺構B		
867	8層	し―25	カ列5		
868	9層	せ―25	溝状遺構B Dot105		
869	8層	し―25	キ列3		
870	9層	さ―27	溝状遺構E		
871	9層	さ―27	溝状遺構E		
872	8層	す―26	M列1		
873	8層	せ―26	F列2		
874	8層	し―26	V列10		
875	9層	し―26	溝状遺構C		
876	不明				
877	8層	し―25	カ列4		
878	9層	す―27			
879	9層	し―26	溝状遺構C		
880	9層	し―26	溝状遺構C		
881	8層	せ―26	C列1		
882	8層	す―26	N列5		
883	8層	す―26	P列1		
884	8層	す―26	Q列8		
885	8層	す・せ―27			不詳土器
886	9層	す―27	溝状遺構D		
887	9層	し―25	溝状遺構B		
888	9層	し―26	溝状遺構C		
889	5層	す―27			
890	9層	す―25	溝状遺構B		グスク系土器(鍋形・a)
891	9層	さ―27	溝状遺構D		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
892	8層	す―26	N列12		
893	9層	し―26	溝状遺構C		
894	9層	せ―25	溝状遺構B		
895	9層	し―26	溝状遺構C		
896	8層	す―26	P列3		
897	8層	す―25	O列15		
898	8層	し―25	オ列3		
899	8層	す―27			
900	5層	さ―26			
901	8層	す―27	S列5		
902	8層	す―26	Q列12		
903	6層	し―26			
904	5層	す―27			
905	客土	た―27			
906	9層	す―25	溝状遺構B Dot54		
907	Ⅲ層	し―27			
908	4層	し―27			
909	5層	し―ライン			カムィヤキ(小壺)
910	Ⅱ層	し―27			
911	8層	し―26	V列12		
912	9層	せ―26	溝状遺構C		
913	6層	し―22			グスク系土器(鍋形・b-iii)
914	8層	し―25			
915	4層	し―24			
916	8層	す―26			
917	5層	し―27			
918	2層・上	す―26			沖無(壺類)褐釉(壺)陶質土器(急須)本土産陶器(壺)煙管、オトコエシハマグリ
919	4層	せ―24			後期系土器(有文・b)
920	9層	し―26	溝状遺構C		
921	9層	す―25	溝状遺構B		カムィヤキ(小壺)
922	7層	ち―23			
923	6層	さ―27			
924	9層	こ―27	溝状遺構D		
925	6層	こ―26			
926	不明	こ―27			
927	8層	せ―26	H列1		
928	7層	せ―20			
929	Ⅰ層	ち―27			
930	8層	せ―26	G列7		
931	8層	す―25	I列9		
932	5層	さ―26			後期系土器(無文・a-i)
933	客土	す―27			
934	8層	す―26	O列11		
935	9層	し―27	溝状遺構D		
936	9層	せ―25	溝状遺構B		
937	9層	せ―25	溝状遺構B		カムィヤキ(鉢)
938	8層	せ―26			カムィヤキ(壺類)
939	Ⅱ層	ち―24			沖施(鉢、瓶子)瑠璃釉磁器(瓶)ウズラガイ、ツキガイ
940	9層	し―26	溝状遺構C		
941	5層	す―25			グスク系土器(鉢形・b)
942	9層	せ―27	溝状遺構F		
943	9層	す―27	溝状遺構D		
944	9層	す―27	溝状遺構D		
945	7層	せ―22			
946	5層	そ―24			
947	4層	せ―25			グスク系土器(鉢形・a-i)
948	3層	す―20			
949	5層	せ―24			
950	5層	せ―25			
951	8層	す―24			
952	4層	せ―25			カムィヤキ(壺類)
953	6層	し―25			
954	7層	す―19			
955	4層	せ―24			
956	3層	す―23			
957	3層	せ―23			
958	5層	す―24			
959	7層	し―22			カムィヤキ(把手付壺)
960	3層	せ―21			
961	4層	す―24			
962	2層・上	そ―24			陶質土器(火炉)
963	3層	し―21			
964	5層	す―23			
965	客土	そ―25			沖無(擂鉢)
966	2層	せ―22			
967	3層	た―22			
968	9層	し―25	溝状遺構B	14.905	白磁(碗・Ⅱ-B-a)
969	5層	せ―24			カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c、小壺・Ⅲ-b)
970	1層	つ―21			陶質土器(鉢)沖施(小壺)
971	1層	つ―25			
972	Ⅰ層	つ―25			
973	7層	す―20			
974	4層	す―24			
975	4層	す―22			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
976	8層	す－26	K・L列試掘		グスク系土器(浅鉢形)
977	3層	し－22			
978	撹乱				
979	2層・上	た－24			
980	5層	せ－23			
981	3層	そ－21			
982	4層	せ－23			
983	5層	そ－23			
984	5層	せ－24			
985	Ⅰ層	つ－25			
986	8層	せ－22			
987	7層	す－21			
988	Ⅰ層	ち－26			
989	7層	せ－22			
990	5層	す－25			
991	5層	せ－21			
992	5層	し－24			
993	2層	せ－22			
994	Ⅰ層	た－26			ボタン
995	撹乱	そ－27			白磁(装物か)
996	4層	す－23			
997	1層	つ－23			沖無(壺類、甕、鉢)本土産磁器(碗)
998	2層・上	す－22			
999	5層	そ－23			
1000	5層	そ－23			
1001	7層	そ－22			
1002	7層	す－21			
1003	4層	そ－22			
1004	8層	さ～せ－22～24			
1005	Ⅱ層	し－27			
1006	4層	す－24			
1007	9層	し－26	溝状遺構C		カムィヤキ(小壺・有文)
1008	2層	そ－22			
1009	5層	そ－23			
1010	客土	つ－25			タケノコガイ
1011	Ⅰ層	つ－25			沖施(急須)
1012	3層	せ－23			
1013	5層	せ－24			
1014	5層	す－25			
1015	3層	す－20			
1016	客土	せ－27			
1017	5層	せ－24			
1018	Ⅰ層	つ－25			グスク系土器(碗・杯形)ミカドミナシ
1019	1層	せ－25			沖施(碗)
1020	5層	せ－24			グスク系土器(鍋形・b-iv)
1021	Ⅳ層	た－27			
1022	6層	せ－26			
1023	5層	し－23			
1024	4層	そ－21			
1025	4層	そ－24			
1026	Ⅰ層	つ－25			
1027	客土	そ－25			
1028	4層	そ－21			
1029	4層	す－23			
1030	4層	し－23			
1031	4層	す－25			
1032	4層	せ－23			
1033	5層	せ－25			
1034	4層	そ－21			
1035	4層	し－22			
1036	7層	す－20			
1037	4層	せ－24			
1038	7層	し－22			
1039	7層	し－20			
1040	3層	そ－23			
1041	1層	さ－21			
1042	4層	す－24			
1043	7層	せ－21			
1044	4層	す－24			
1045	4層	せ－23			
1046	7層	し－20			
1047	5層	せ－26			
1048	3層	す－22			
1049	1層	せ－25			コゲツノブエ、カワアイ、イボヨフバイ、シロオビトラフグダマキ、ヒメニッコウガイ、サラガイ
1050	5層	す－22			
1051	2層・上	そ－24			
1052	9層	さ－25			
1053	試掘 NO.3				青磁(碗・V-a)褐釉陶器(壺)沖施(碗)中国染付(皿)
1054	8層	そ－22	Pit5		
1055	9層	せ－21	Pit4		
1056	9層	ち－23			
1057	9層	た－22	Pit10 Dot125		
1058	9層	せ－21	Pit21		
1059	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1060	9層	た－23	埋葬遺構3		
1061	8層	す－24	Dot99		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1062	8層	す－24	Dot92		
1063	9層	そ－23	土坑1 Dot130		
1064	9層	た－22	Pit10 Dot124		
1065	9層	す－21			
1066	9層	し－22	Pit5		
1067	8層	せ－21	Pit7		
1068	9層	す－21		16.400	
1069	8層	す－20			白磁(碗・Ⅱ-C)
1070	8層	せ－24			
1071	不明	ち－23			
1072	8層	た－24	Dot63		
1073	8層	す－24	Dot93		
1074	8層	せ－24	Dot101		
1075	9層	し－22	Pit16		
1076	9層	そ－22	Dot127		
1077	9層	ち－23		15.230	カムィヤキ(壺類・Ⅰ-b)
1078	9層	た－23	埋葬遺構3		
1079	不明				
1080	9層	す－21	Pit10		
1081	8層	ち－23	Dot84		
1082	9層	た－23	土坑1		
1083	9層	そ－24	Dot129		
1084	8層	す－22	炉跡 Dot3	16.245	
1085	9層	ち－22			
1086	8層	せ－24	Pit31		
1087	撹乱	し－27			
1088	9層	ち－23	Pit13		
1089	9層	す－22	Pit14		
1090	4層	た－24			
1091	9層	そ－23	Pit17		
1092	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1093	8層	不明			不詳土器
1094	不明				
1095	8層	す－24			
1096	8層	せ－22	Pit1・2		
1097	9層	そ－23	Pit28		
1098	8層	ち－23	Dot73		
1099	8層	せ－24	Dot105		
1100	8層	せ－24	Pit7		
1101	9層	す－20	Pit4		
1102	2層	せ－25			
1103	8層	そ－23			
1104	9層	す－21	Pit43		
1105	8層	た－23			
1106	5層	た－24			
1107	撹乱				
1108	9層	ち－23			
1109	8層	す－24			
1110	9層	せ－21	Pit21		
1111	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1112	9層	し－24			
1113	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1114	8層	た－22	Pit13 Dot13		
1115	8層	せ－24	Dot104		
1116	9層	す－22	Pit5		
1117	8層	せ－24	Dot100		
1118	4層	た－24			
1119	8層	そ－23	Dot113		
1120	9層	す－22	Pit18		
1121	9層	そ－22			
1122	9層	そ－23	Pit11		
1123	8層	た－24			グスク系土器(鍋形・a)
1124	8層	た－24			
1125	8層	た－22			
1126	8層	ち－23	Dot77		
1127	8層	せ－21			
1128	8層	ち－23	Dot83		
1129	8層	そ－22			
1130	9層	ち－21	Pit2		
1131	9層	せ－21	Pit18		
1132	9層	そ－23	土坑1		
1133	9層	せ－21	Pit21		
1134	9層	た－24			
1135	9層	そ－23	Pit28		
1136	8層	ち－23	Dot80		
1137	8層	す－24			
1138	8層	せ－24	Dot96		
1139	8層	せ－24	Dot96		
1140	不明	す－25			
1141	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1142	9層	た－22	Pit10		
1143	9層	せ－24	Dot98		
1144	不明	し－25			グスク系土器(壺・a)
1145	8層	そ－23	Pit17		
1146	Ⅳ層	た－24	溝2号埋土		
1147	不明	ち－23			
1148	9層	せ－21	Pit13		
1149	9層	た－23	埋葬遺構3		
1150	9層	す－20			
1151	8層	そ－21	Pit1		
1152	9層	せ－22	埋葬遺構1		
1153	9層	せ－22	Pit18		
1154	8層	そ－24			
1155	8層	せ－24	Pit3		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1156	8層	せ－24	Pit16		
1157	9層	せ－21	Pit10		
1158	9層	そ－23	土坑1 Dot130		
1159	9層	せ－21	Pit10		
1160	8層	せ－24			
1161	8層	た－24	Dot69		
1162	8層	す－24			
1163	8層	た－23	Pit12		
1164	8層	ち－23			
1165	8層	た－23			
1166	8層	ち－23	Pit3		
1167	9層	せ－22	Dot1		
1168	9層	た－24			
1169	9層	す－22	埋葬遺構2		
1170	9層	し－21	Pit27		
1171	8層	そ－22	Pit46		
1172	8層	す－24			
1173	9層	そ－23	Pit15		
1174	8層	せ－24			
1175	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1176	5層	ち－22			
1177	8層	ち－23			
1178	8層	せ－24	Dot108		
1179	8層	せ－21	Pit7		
1180	9層	た－24			
1181	8層	す－21			
1182	8層	す－24			
1183	8層	ち－23			
1184	8層	す－22	炉跡		
1185	8層	す－22	Pit15		
1186	8層	ち－23	Dot82		
1187	8層	す－22			グスク系土器(鍋形・②)
1188	8層	す－21			グスク系土器(底部資料・b)
1189	8層	た－24			
1190	9層	ち－23			
1191	9層	そ－22	Pit22		
1192	9層	し－21	Pit37		
1193	9層	す－22	Pit1		
1194	8層	た－23	Pit17		
1195	9層	そ－23	Pit17		
1196	8層	そ－22			
1197	Ⅱ層	し－27			
1198	8層	せ－21	Pit7		
1199	8層	せ－24			グスク系土器(鍋形・b-iv)
1200	8層	た－24	Dot66		
1201	9層	そ－22	Pit1		
1202	8層	す－21			
1203	8層	そ－22	Pit22		
1204	Ⅱ層	た－24			沖施(鍋)
1205	8層	す－21			
1206	8層	せ－24	Pit27		
1207	9層	た－23			
1208	8層	せ－24			
1209	5層	た－24			
1210	8層	せ－21	Pit23		
1211	9層	せ－22	Pit7		
1212	9層	そ－23	炉跡		
1213	9層	そ－23	Pit4		
1214	9層	す－21	Pit10		
1215	9層	せ－21	Pit21		
1216	8層	ち－23	Dot7	15,290	後期系土器(無文・a-i)
1217	9層	す－22	埋葬遺構2		
1218	9層	そ－23	Pit14		
1219	9層	せ－21	Pit18	15,860	カムィヤキ(把手付壺)
1220	5層	た－24			
1221	9層	せ－21	Pit21		
1222	8層	す－24			
1223	8層	せ－21	Pit3		
1224	9層	た－22	Pit8		
1225	8層	せ－24			カムィヤキ(壺類)
1226	8層	ち－23			
1227	8層	し－23			
1228	9層	せ－21	Pit18		
1229	9層	そ－23	土坑1		
1230	8層	し－22			
1231	8層	せ－21	Pit1		
1232	8層	そ－24			
1233	9層	す－22			
1234	8層	さ－22			
1235	8層	し－22			
1236	9層	そ－23	Pit6		
1237	9層	せ－22	Pit17		
1238	8層	せ－24	Dot109		
1239	8層	た－24	Dot61		
1240	9層	す－21	Pit19		
1241	8層	そ－24			
1242	8層	せ－22			
1243	9層	せ－21	Pit10		
1244	9層	す－22	Pit1		
1245	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1246	8層	ち－23			
1247	8層	せ－22			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1248	8層	す－22	Pit19		
1249	8層	そ－22	Pit18		
1250	不明	た－24			
1251	8層	た－24			
1252	8層	し－25			
1253	Ⅳ層	た－24	溝石列2号		
1254	8層	し－21			
1255	8層	そ－24			
1256	5層	た－24			カムィヤキ(鉢)
1257	不明	た－24			沖無(不明)
1258	不明	し－25			
1259	8層	す－23			
1260	9層	す－21	Dot87		
1261	5層	た－24			
1262	9層	せ－20	Pit4		
1263	9層	ち－23			
1264	9層	た－24			
1265	8層	た－24			
1266	不明	し－25			
1267	8層	ち－23			
1268	9層	た－24			
1269	8層	し－25			
1270	9層	た－24			
1271	2層	た－24			
1272	8層	し－21			
1273	8層	そ－21	Pit8 Dot57		
1274	9層	た－24			
1275	8層	ち－23			
1276	8層	せ－23			
1277	8層	せ－24	Dot9		
1278	8層	そ－23	Pit7		
1279	8層	せ－24	Dot5		
1280	8層	そ－24	Dot19		
1281	8層	せ－24	Dot7		不詳土器
1282	8層	す－24	Dot25		
1283	8層	そ－24	Dot18		
1284	8層	せ－24	Dot10		
1285	8層	そ－24	Dot15		
1286	8層	ち－23	Dot51		
1287	8層	せ－20	Dot59		
1288	8層	そ－23			
1289	8層	す－23			
1290	8層	せ－22			
1291	8層	ち－23	Dot50		
1292	8層	せ－24	Dot12		
1293	8層	ち－23	Dot44		
1294	8層	そ－24	Dot16		
1295	8層	す－24	Dot26		
1296	9層	た－23	Dot35		
1297	9層	せ－22	埋葬遺構1		
1298	8層	た－23	Dot34		
1299	8層	す－24	Pit20 Dot3		
1300	9層	す－22	Pit1		
1301	9層	す－20			
1302	4層	た－24			
1303	8層	せ－24	Pit7		
1304	8層	せ－24	Pit31		
1305	客土	す－24	Dot27		
1306	1層	不明			
1307	8層	せ－21			
1308	8層	た－23	Dot32		
1309	8層	た－23	Dot31		
1310	8層	た－23	Dot53		
1311	8層	そ－24	Dot22		
1312	8層	ち－23	Dot48		
1313	8層	せ－23			
1314	8層	た－23	Dot33		
1315	8層	ち－23	Dot45		
1316	8層	そ－24	Dot14		
1317	8層	ち－23	Dot41		
1318	8層	す－24	Pit16 Dot1		
1319	8層	ち－23	Dot54		
1320	8層	た－23	Dot30		
1321	8層	ち－23	Dot46		
1322	8層	ち－23	Dot39		
1323	8層	す－24	Dot28		
1324	8層	ち－23	Dot49		
1325	9層	す－22			
1326	8層	た－24	Dot62		
1327	8層	た－24	Dot64		
1328	8層	せ－23			
1329	8層	ち－23	Dot85		
1330	8層	し－22			
1331	9層	せ－21	Pit21		
1332	9層	せ－21	Pit13		
1333	9層	そ－22	Pit18		
1334	8層	せ－24			
1335	9層	し－22	Pit12		
1336	8層	せ－23	Pit3		
1337	客土				
1338	8層	ち－23	Dot56		
1339	8層	そ－24	Dot24		
1340	8層	し－24			
1341	8層	す－23			
1342	8層	ち－23	Dot81		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1343	8層	せ―24	Pit12		
1344	8層	せ―20			
1345	7層	し―25			
1346	9層	そ―24	Pit13		
1347	9層	そ―22	Pit30		
1348	8層	せ―24	Dot8		
1349	9層	ち―23			鉄製品
1350	8層	す―20			
1351	9層	た―22	Dot126		
1352	8層	そ―24			
1353	8層	す―23			
1354	不明	し―25			
1355	8層	す―22	炉跡 Dot1		
1356	8層	ち―22			
1357	8層	せ―24	Dot6		
1358	8層	ち―23			
1359	8層	そ―23	Dot17		
1360	8層	そ―22			
1361	8層	せ―22	Pit3		
1362	8層	せ―24			
1363	3・4層	ち―22	溝石列1号-b		
1364	9層	ち―23	Pit6		
1365	9層	せ―21	Pit13		
1366	8層	し―22			
1367	9層	す―21	Dot90		
1368	8層	す―24			
1369	9層	せ―22	埋葬遺構1		
1370	8層	ち―23	Dot40		
1371	8層	た―23	Dot38		
1372	8層	ち―23	Dot47		
1373	8層	ち―23	Dot42		
1374	9層	ち―23			
1375	8層	せ―23	Dot11		
1376	8層	ち―23	Dot74		
1377	8層	ち―23	Dot74		
1378	8層	そ―22			
1379	5層	ち―23			
1380	9層	す―22			
1381	8層	せ―23			
1382	8層	せ―22	Pit2		
1383	8層	す―22			
1384	9層	つ―23	埋葬遺構4		
1385	9層	せ―21	Pit14		
1386	8層	す―22			
1387	8層	た―22			
1388	9層	ち―23			
1389	9層	つ―23	埋葬遺構4		
1390	8層	ち―22			滑石製品(転用品)
1391	8層	そ―24	Dot21		
1392	9層	た―23	Dot37		
1393	9層	す―22	埋葬遺構2		
1394	8層	た―23	Dot36		
1395	8層	そ―22			
1396	8層	そ―23	Pit31		
1397	8層	ち―23	Dot72		
1398	8層	せ―21			カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c)
1399	8層	せ―24			
1400	8層	ち―23	Dot79		
1401	8層	す―22	Pit19		
1402	7層	し―25			
1403	8層	ち―23	Dot76		
1404	8層	せ―21	Pit7		カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c)
1405	9層	す―21	Dot87		
1406	9層	す―21	Dot89		
1407	9層	そ―23	Pit16		
1408	9層	す―20			
1409	8層	す―21			
1410	8層	ち―23			
1411	9層	す―21			
1412	8層	そ―24	Dot20		
1413	9層	ち―23			
1414	9層	た―24	Dot17		
1415	9層	そ―23	炉跡 Dot5		
1416	9層	そ―22			
1417	9層	た―24	Dot9		
1418	9層	た―24	Dot8		
1419	8層	た―24			
1420	9層	そ―23	炉跡 Dot6		
1421	9層	た―24	Dot10		
1422	9層	た―24	Dot11		
1423	9層	た―24	Dot16		
1424	9層	た―24	Dot12		
1425	9層	た―24	Dot15		
1426	9層	そ―23	炉跡 Dot3		
1427	9層	そ―23	炉跡 Dot4		
1428	9層	た―24	Dot14		
1429	9層	そ―23	炉跡 Dot7		
1430	8層	せ―22	Pit1 Dot9		ウシ
1431	9層	た―24	Dot18		
1432	9層	た―24	Dot13		
1433	8層	せ―22	Pit1 Dot13		
1434	8層	せ―22	Pit1 Dot2		ウシ
1435	8層	せ―22	Pit1 Dot3		ウシ

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1436	9層	そ―23	炉跡 Dot2		
1437	8層	せ―22	Pit1 Dot7		
1438	9層	そ―23	炉跡 Dot1		
1439	8層	せ―22	Pit1 Dot6		
1440	8層	せ―22	Pit1 Dot5		
1441	8層	せ―22	Pit1 Dot12		
1442	8層	せ―22	Pit1 Dot4		
1443	8層	せ―22	Pit1 Dot11		
1444	3層	し―25			
1445	8層	せ―22	Pit1 Dot10		
1446	1層	そ―26			
1447	2層	せ―20			
1448	2層・上	せ―20			
1449	5層	せ―25			
1450	撹乱	す―25			沖施(蓋・つまみ)
1451	4層	そ―24			
1452	3層	せ―24			
1453	7層	せ―21			
1454	7層	し―20			
1455	8層	す―20			
1456	4層	し―25			
1457	撹乱	し―25			
1458	不明				
1459	9層	せ―22	埋葬遺構1		
1460	2層	せ―20			
1461	2層	そ―24			
1462	2層	た―20			沖無(火炉)
1463	5層	そ―23			
1464	5層	せ―23			
1465	6層	せ―25			
1466	7層	し―20			
1467	2層・上	す―18			沖施(瓶子、蓋・つまみ)
1468	5層	せ―22			
1469	1層	そ―26			
1470	6層	せ―25			
1471	6層	せ―25			
1472	1層	せ―26			縄文系土器
1473	5層	す―24			
1474	4層	し―25			
1475	7層	せ―22			グスク系土器(鍋形・④)
1476	1層	し―25			
1477	1層	せ―25			
1478	7層	す―20			
1479	撹乱	せ―24			
1480	2層	せ―26			
1481	3層	た―22			白磁(Ⅲ・Ⅳ-c)カムィヤキ(把手付壺)
1482	4層	せ―23			
1483	3層	た―23			
1484	1層	そ―21			
1485	1層	た―21			
1486	4層	そ―24			
1487	2層	せ―24			
1488	3層	す―21			
1489	7層	し―21			
1490	7層	す―22			
1491	2層・上	し―20			
1492	3層	さ―20			
1493	2層	た―20			沖無(水鉢)
1494	7層	す―20			
1495	2層	そ―20			沖無(鉢)
1496	2層・上	そ―24			
1497	撹乱	そ―25			
1498	1層	そ―26			
1499	2層・上	す―25			陶質土器(鍋)白磁(碗・Ⅲ)青白磁(碗)中国系陶器、ブタ
1500	8層	し―26	溝状遺構A		
1501	5層	し―26			
1502	5層	し―26			
1503	盛土				
1504	不明	せ―26			
1505	1層	さ―25			
1506	Ⅱ層	せ―26	溝4号埋土		
1507	8層	す―26	K・L列試掘		
1508	5層	す―27			
1509	6層	し―27			鉄製品
1510	5層	し―25			
1511	8層	し―25	溝状遺構A		カムィヤキ(小壺)
1512	客土	た―25			
1513	8層	す―25 す・せ―26	K・L列試掘		
1514	5層	し―26			
1515	Ⅲ層	し―27			
1516	9層	こ―27	溝状遺構D		
1517	5層	さ―26			
1518	盛土				グスク系土器(壺・外耳?)
1519	5層	す―25			
1520	9層	せ―25	溝状遺構B		
1521	Ⅲ層	ち―27			
1522	5層	し―27			
1523	9層	し―20	Pit37-b		
1524	9層	さ―21	Pit5		カムィヤキ(小壺・Ⅲ-b)
1525	9層	す―20	Pit6		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1526	9層	さ－20	Pit3		
1527	9層	す－19	Pit23		
1528	9層	し－21	Pit29		
1529	3層	そ－24			
1530	8層	す－25			
1531	4層	せ－23			
1532	攪乱				
1533	4層	せ－23			
1534	3層	し－22			
1535	5層	す－24			
1536	9層	す－19	Pit21		
1537	9層	す－20	Pit20		
1538	3層	し－21			
1539	9層	し－20	Pit42		
1540	4層	せ－21			
1541	9層	す－20	Pit18		
1542	9層	し－20	Pit48		
1543	3層	す－24			青磁(皿・Ⅰ-a、Ⅳ)
1544	9層	し－21	Pit10-a		グスク系土器(底部資料・a)
1545	5層	せ－21			青白磁(皿)
1546	5層	す－23			後期系土器(有文・b)
1547	9層	す－20	Pit23		
1548	1層	せ－24			
1549	9層	し－21	Pit13		
1550	7層	せ－22			
1551	9層	し－20	Pit4		
1552	不明	し－24			
1553	9層	す－20	Pit19		
1554	3層	せ－23			
1555	不明	さ－24			
1556	2層	た－24			瓮(ジーファー)
1557	4層	し－24			
1558	7層	す－21			
1559	9層	し－21	Pit19		
1560	9層	し－20	Pit27		
1561	9層	す－19	Pit15		グスク系土器(底部資料・b)
1562	5層	そ－21			
1563	2層	ち－22			
1564	9層	す－19	Pit38		
1565	9層	し－21	Pit6		
1566	9層	し－21	Pit4		
1567	攪乱	す－25			グスク系土器(鉢形・a-ⅱ)沖施(カラカラ)
1568	攪乱	す－25			中国染付(皿)ヒレインコガイ
1569	攪乱	そ－24			
1570	5層	せ－21			グスク系土器(鉢形・b)
1571	7層	さ－21			
1572	3層	し－21			カムィヤキ(小壺)
1573	5層	し－24			
1574	9層	し－20	Pit39		
1575	1層	せ－25			カムィヤキ(把手付壺、壺類)
1576	9層	す－19	Pit31		
1577	1層	ち－23			
1578	3層	せ－21			
1579	9層	す－21	Pit9		
1580	7層	せ－20			グスク系土器(鍋形・b-ⅱ、碗・杯形)
1581	3層	す－21			後期系土器(無文・b)
1582	9層	せ－20	Pit12		
1583	5層	せ－24			
1584	9層	す－21	Pit11		
1585	9層	す－19	Pit15		グスク系土器(壺・c)
1586	9層	し－20	Pit16-b		
1587	9層	し－21	Pit12		
1588	9層	し－20	Pit29		
1589	9層	し－20	Pit37-a		
1590	9層	し－21	Pit6		
1591	5層	せ－22			
1592	9層	し－20	Pit38		
1593	9層	す－20	Pit20		
1594	9層	し－19	Pit3		
1595	5層	す－24			
1596	4層	す－22			
1597	9層	さ－20	Pit16		
1598	9層	し－20	Pit21		
1599	9層	せ－20	Pit4		
1600	不明				
1601	9層	し－19	Pit8		
1602	9層	す－20	Pit10		
1603	9層	せ－20	Pit13		
1604	9層	し－20	Pit5		
1605	9層	し－19	Pit21		
1606	9層	す－20	Pit22		
1607	9層	す－19	Pit29		
1608	9層	す－20	Pit4		
1609	3層	し－21			
1610	9層	し－19	Pit9		
1611	9層	し－21	Pit7		
1612	9層	せ－21	Pit4		
1613	9層	せ－20	Pit4		
1614	9層	し－21	Pit4		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1615	9層	す－20	Pit21		
1616	9層	し－20	Pit11		
1617	9層	し－20	Pit37-b		
1618	9層	し－21	Pit9		
1619	9層	さ－20	Pit11		
1620	9層	さ－20	Pit12		
1621	9層	せ－20	Pit5		イノシシ
1622	9層	し－21	Pit23		
1623	9層	さ－21	Pit6		
1624	9層	さ－21	Pit2		
1625	9層	し－20	Pit27		
1626	4層	す－24			グスク系土器(鍋形①)
1627	9層	す－21	Pit5		
1628	9層	し－20	Pit49		
1629	2層	つ－23			沖施(蓋)
1630	7層	し－20			
1631	9層	し－20	Pit45		
1632	9層	す－19	Pit33		
1633	9層	し－20	Pit48		
1634	9層	す－20	Pit10		
1635	9層	す－25	溝状遺構B		
1636	9層	す－25	溝状遺構B		カムィヤキ(把手付壺)不詳土器
1637	8層	そ－22	Pit13		
1638	9層	し－26	溝状遺構C		グスク系土器(底部資料・b)
1639	9層	し－25	溝状遺構B		
1640	Ⅲ層	ち－27			
1641	8層	そ－21			
1642	8層	す－25	K列13		
1643	Ⅳ層	そ－27	溝6号埋土		
1644	9層	す－25	溝状遺構B		カムィヤキ(小壺)グスク系土器(鉢形・a-ⅱ)
1645	9層	せ－25	溝状遺構B		
1646	8層	ち－23			
1647	8層	そ－21			
1648	8層	せ－24	Pit26		
1649	9層	す－27			後期系土器(底部資料・a)
1650	5層	た－24			カムィヤキ(小壺・Ⅱ、Ⅲ-a)
1651	8層	す－21	Pit30		
1652	8層	せ－21	Pit7		
1653	9層	そ－23	Pit21		
1654	8層	せ－22	Pit6		
1655	9層	さ－25	溝状遺構B		
1656	9層	し－25	溝状遺構B		
1657	8層	そ－22	Pit9		
1658	8層	せ－21	Pit1		
1659	8層	た－23	Pit23		
1660	9層	せ－25	溝状遺構B		グスク系土器(鍋形・④)
1661	8層	す－24			カムィヤキ(壺類)
1662	8層	す－21	Pit13		
1663	8層	せ－21	Pit7		
1664	9層	せ－25	溝状遺構B		
1665	9層	す－26	溝状遺構C		
1666	9層	せ－26	溝状遺構C		
1667	9層	し－25	溝状遺構B	15.003	グスク系土器(壺・c)
1668	8層	せ－22			
1669	8層	せ－21			
1670	5層	た－22			
1671	8層	す－26	J列5		カムィヤキ(把手付壺)
1672	9層	せ－25	溝状遺構B		
1673	9層	す－21	Pit4		
1674	8層	せ－21	Pit7		
1675	8層	そ－22	Pit4		
1676	9層	し－25	溝状遺構B		グスク系土器(鍋形・b-ⅱ)
1677	9層	し－21	Pit10-a		後期系土器(無文・a-ⅰ)
1678	8層	た－23	Pit2		
1679	8層	せ－24	Pit5		
1680	8層	す－22	Pit11		
1681	8層	せ－21	Pit10		
1682	3層	さ－21			青白磁(碗)
1683	9層	し－20	Pit8		
1684	9層	さ－20	Pit21		
1685	7層	す－21			
1686	1層	し－21			
1687	9層	す－20	Pit11		
1688	5層	し－24			
1689	4層	せ－22			
1690	5層	し－24			
1691	8層	せ－21	Pit7		カムィヤキ(把手付壺)
1692	8層	そ－22			
1693	8層	た－22	Pit4		
1694	9層	そ－22	Pit34		
1695	9層	せ－20	Pit5		
1696	3層	す－22			
1697	7層	せ－20			
1698	2層・上	ち－21			
1699	7層	せ－21			
1700	1層	そ－24			煙管
1701	9層	す－20	Pit22		
1702	9層	す－26	溝状遺構C		カムィヤキ(把手付壺)

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1703	8層	せ－22	Pit21		
1704	8層	せ－21			
1705	2層	せ－27			陶質土器(火炉)
1706	9層	す－26	溝状遺構C	13.943	グスク系土器(壺・b)
1707	8層	せ－21			
1708	9層	せ－21	Pit21		
1709	8層	せ－21	Pit3		
1710	9層	せ－25	溝状遺構B		
1711	8層	し－22	Pit3		
1712	9層	す－26	溝状遺構C		白磁(碗・Ⅰ-b-ⅰ、Ⅱ-B-a)
1713	5層	せ－25			
1714	4層	し－24			
1715	4層	せ－25			
1716	5層	た－22			
1717	7層	す－20			
1718	8層	し－25	溝状遺構A		青磁(皿・Ⅰ-c)
1719	9層	し－20	Pit10		
1720	7層	し－20			
1721	9層	す－19	Pit24		
1722	9層	し－20	Pit37-a		
1723	8層	せ－21	Pit7		
1724	9層	そ－23	Pit7		
1725	9層	す－25	溝状遺構B		カムィヤキ(小壺)
1726	8層	そ－22	Pit17		
1727	8層	せ－21	Pit2		
1728	8層	せ－24	Pit24		
1729	9層	し－25	溝状遺構B		
1730	8層	し－23	Pit1		
1731	9層	さ－25	溝状遺構B		
1732	8層	せ－21	Pit7		
1733	8層	せ－22	Pit4		
1734	8層	そ－22	Pit42		
1735	9層	さ－25	溝状遺構B	14.256	カムィヤキ(把手付壺)
1736	9層	さ－25	溝状遺構B		
1737	8層	す－22	Pit8		
1738	8層	せ－21	Pit27		
1739	8層	そ－21	Pit10		
1740	8層	せ－23	Pit3 Dot4		石器
1741	9層	せ－27	溝状遺構F		
1742	8層	す－22	Pit9		
1743	Ⅲ層	す－27			
1744	8層	し－21			
1745	7層	し－22			カムィヤキ(壺類)
1746	Ⅱ層	せ－26	溝4号埋土		
1747	8層	そ－22	Pit29		
1748	9層	し－25	溝状遺構B		カムィヤキ(壺類)
1749	9層	す－26	溝状遺構C		
1750	8層	せ－27			
1751	9層	さ－25	溝状遺構B		
1752	9層	不明			
1753	8層	す－24	Pit19		滑石製品(転用品)
1754	9層	し－26	溝状遺構C		
1755	4層	す－24			
1756	9層	す－20	Pit12		
1757	9層	す－21	Pit23		
1758	9層	す－26			
1759	9層	し－25	溝状遺構B		青磁(碗・Ⅱ-a)
1760	9層	す－21	Pit10		
1761	9層	さ－25	溝状遺構B		
1762	9層	し－21	Pit24		カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c)
1763	9層	さ－27	溝状遺構C Dot14	13.889	カムィヤキ(碗・Ⅰ)
1764	9層	せ－25	溝状遺構B		
1765	8層	し－25	溝状遺構A		
1766	9層	す－19	Pit3		
1767	7層	せ－20			
1768	9層	し－21	Pit27		
1769	8層	せ－22			
1770	8層	し－25	ア列5		
1771	5層	し－25			グスク系土器(土錘状製品)
1772	9層	し－20	Pit37-c		
1773	8層	せ－23	Pit1		
1774	9層	せ－22	埋葬遺構1		
1775	盛土				陶質土器(器種不明)ブタ
1776	9層	せ－22	Pit3		
1777	9層	す－25	溝状遺構B Dot90		
1778	5層	し－27			
1779	8層	せ－22	Pit2		
1780	8層	そ－23	Pit7		
1781	8層	せ－22	Pit1		
1782	Ⅱ層	せ－26			
1783	8層	し－22	Pit1		
1784	8層	せ－21	Pit7		
1785	9層	し－27	溝状遺構D		
1786	8層	す－21	Pit15		
1787	9層	す－27	溝状遺構D		
1788	Ⅰ層	た－26			
1789	9層	せ－25	溝状遺構B Dot123		
1790	9層	し－26	溝状遺構C		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1791	9層	す－25	溝状遺構B Dot50		
1792	6層	し－27			
1793	8層	そ－22	Pit7		
1794	8層	せ－21	Pit1		
1795	8層	す－24	Pit19		
1796	8層	す－22	炉跡		
1797	8層	せ－24	Pit8		
1798	9層	せ－25	溝状遺構B		
1799	9層	し－25	溝状遺構B		
1800	8層	せ－21	Pit27		
1801	9層	さ－27	溝状遺構D		
1802	9層	し－26	溝状遺構C		
1803	9層	せ－25	溝状遺構B Dot124	14.534	グスク系土器(底部資料)
1804	5層	し－25			
1805	8層	せ－21			
1806	9層	す－26	溝状遺構C Dot59		
1807	9層	せ－25	溝状遺構B Dot117		
1808	5層	し－27			
1809	8層	し－25	溝状遺構A		グスク系土器(皿形)
1810	8層	せ－21			
1811	不明				カムィヤキ(小壺)
1812	5層	せ－26			
1813	9層	す－25	溝状遺構B Dot52		
1814	9層	す－27			
1815	9層	し－27	溝状遺構D Dot64		
1816	8層	せ－22			
1817	9層	せ－25	溝状遺構B Dot115		
1818	5層	す－26			
1819	9層	し－26	溝状遺構C		
1820	6層	さ－26			
1821	5層	す－27			
1822	5層	し－26			
1823	9層	せ－25			
1824	8層	し－25	ア列3		
1825	8層	す－22	Pit25		
1826	8層	不明			カムィヤキ(把手付壺)
1827	6層	し－26			
1828	8層	せ－21	Pit3		
1829	8層	そ－23	Pit4		
1830	8層	た－24			
1831	8層	ち－23			
1832	9層	そ－23	Pit5		
1833	Ⅳ層	た－24	溝石列2号		
1834	8層	そ－22	Pit20		
1835	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1836	8層	せ－24	Pit20		
1837	9層	ち－22			
1838	8層	そ－22	Pit22		
1839	9層	そ－22	Pit34		
1840	8層	せ－24	Pit23		
1841	9層	せ－22	埋葬遺構1		
1842	9層	す－21	炉跡		
1843	8層	た－24	Dot68		
1844	8層	ち－23	Dot78		
1845	8層	し－22			
1846	9層	た－24			
1847	9層	せ・そ－22	Pit7		
1848	9層	す－21	Pit11		
1849	8層	そ－23			
1850	9層	す－22	炉跡		
1851	9層	せ－22	埋葬遺構1		
1852	8層	せ－23	Pit6		
1853	9層	そ－21	Pit1		
1854	8層	せ－24	Dot103		
1855	9層	た－23	土坑1		
1856	8層	そ－23			
1857	8層	そ－24			
1858	8層	せ－21	Pit23		
1859	9層	す－21	Pit44		
1860	8層	た－24	Dot70		
1861	不明	さ－20			
1862	9層	た－23	土坑1		
1863	8層	ち－23			
1864	8層	た－24	Dot67		
1865	9層	す－21	炉跡		
1866	9層	そ－23	土坑1		
1867	9層	ち－22	Pit6		
1868	9層	せ－21	Pit3		
1869	9層	た－22	Pit20		
1870	9層	た－23	埋葬遺構3		
1871	8層	せ－24	Dot107		
1872	8層	せ－24	Pit5		
1873	8層	せ－23	Pit6		
1874	8層	せ－21	Pit7		カムィヤキ(把手付壺)
1875	8層	せ－21	Pit23		
1876	8層	す－22	炉跡 Dot4		
1877	9層	そ－23	Pit28		
1878	Ⅲ層	た－24			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
1879	8層	そ－22	Pit3		
1880	8層	た－23	Pit17		
1881	9層	そ－22	Pit5 Dot123		
1882	9層	す－22	埋葬遺構2		
1883	9層	た－23	埋葬遺構3		
1884	9層	そ－23	Pit16		
1885	9層	す－21	Pit35		
1886	9層	せ－21	埋葬遺構1		
1887	8層	そ－23	Dot110		
1888	9層	そ－23	Pit4		
1889	9層	す－22	Pit21		
1890	9層	せ－21			
1891	8層	す－22	炉跡 Dot1	16.210	
1892	9層	そ－23	土坑1		
1893	8層	す－24	Dot94		
1894	9層	た－23			
1895	8層	た－24	Dot61		
1896	8層	せ－21	Pit7		カムィヤキ(把手付壺)
1897	9層	た－23	埋葬遺構3		
1898	9層	そ－23	Pit18		
1899	9層	す－22	Dot7		
1900	8層	せ－24			
1901	9層	す－22	Pit1		
1902	8層	し－21			
1903	9層	た－23	埋葬遺構3		
1904	9層	た－23			
1905	8層	せ－22	Pit1		
1906	8層	そ－23	Pit17		
1907	9層	す－20	Pit2		
1908	5層	た－23			
1909	4層	ち－24			
1910	9層	す－21			
1911	8層	せ－22	Pit3		
1912	8層	す－22	炉跡 Dot3		
1913	5層	す－27			
1914	8層	す－21	Pit30		
1915	9層	ち－23	Pit15		カムィヤキ(小壺)
1916	8層	せ－21	Pit10		
1917	8層	す－23	Pit1		
1918	9層	た－23	土坑1		
1919	3・4層	ち－22	溝石列1号-b		
1920	8層	せ－24			
1921	8層	せ－24		15.207	カムィヤキ(小壺・Ⅰ-a)
1922	9層	た－23	埋葬遺構3		
1923	9層	し－21	Pit1		
1924	9層	せ－22	埋葬遺構2		
1925	9層	せ－21	Pit10		グスク系土器(壺・a)
1926	9層	せ－22	Pit7		
1927	8層	ち－23			
1928	客土				
1929	8層	た－21			
1930	9層	す－27	溝状遺構D		
1931	8層	せ－21	Pit10		
1932	9層	そ－23	Pit28		
1933	9層	せ－21	Pit21		
1934	8層	せ－21			
1935	9層	そ－23	土坑1		
1936	9層	す－21	炉跡		
1937	9層	そ－22	Pit6		カムィヤキ(把手付壺)
1938	9層	せ－21	埋葬遺構1		
1939	9層	す－22	炉跡		
1940	9層	そ－21			
1941	9層	す－20	Pit7		
1942	8層	そ－24			
1943	8層	そ－22	Pit11		
1944	8層	そ－22	Pit4		
1945	8層	せ－24	Pit34		
1946	9層	せ－21	埋葬遺構1		
1947	8層	す－22	炉跡 Dot2		
1948	8層	せ－22			
1949	9層	た－23	土坑1		
1950	8層	す－22	炉跡 Dot2	16.160	
1951	9層	せ－22	埋葬遺構2		
1952	8層	せ－22			カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c)
1953	8層	し－21			
1954	9層	た－23			
1955	9層	す－20			
1956	9層	す－20	Pit26		
1957	9層	た－22	Pit20		
1958	8層	す－24			
1959	9層	せ－21	Pit21		
1960	不明	た－24			
1961	9層	つ－23	埋葬遺構4		
1962	9層	た－23	埋葬遺構3		
1963	9層	そ－23	Pit28		
1964	9層	た－23	埋葬遺構3	15.440	グスク系土器(浅鉢形)
1965	9層	た－23	土坑1		
1966	8層	す－26			
1967	5層	し－26			
1968	9層	し－26	溝状遺構C		
1969	9層	す－25	溝状遺構B Dot250	14.474	カムィヤキ(壺類)
1970	9層	さ－25	溝状遺構B		
1971	9層	し－25	溝状遺構B		
1972	5層	し－27			
1973	9層	す－25	溝状遺構B Dot258	14.393	グスク系土器(鍋形・①)
1974	9層	こ・さ－27	溝状遺構D		
1975	9層	せ－25	溝状遺構B		
1976	8層	せ－26			カムィヤキ(把手付壺)
1977	9層	す－25	溝状遺構B Dot254		
1978	8層	す－26			カムィヤキ(把手付壺)
1979	不明				
1980	5層	せ－27			
1981	6層	さ－26			
1982	5層	す－26			
1983	9層	す－25	溝状遺構B		
1984	8層	せ－26			
1985	5層	さ－27			
1986	客土	し－27			
1987	9層	さ－25	Dot2	15.198	カムィヤキ(壺類)
1988	5層	こ－26			
1989	5層	し－26			
1990	9層	す－25	溝状遺構B Dot70		
1991	9層	せ－25	溝状遺構B Dot119		
1992	9層	さ－27	溝状遺構C		
1993	9層	し－25	溝状遺構B		
1994	9層	し－25	溝状遺構B		カムィヤキ(把手付壺、壺類)
1995	9層	し－26	溝状遺構C		産地不明陶器A(壺)
1996	Ⅱ層	せ－26	溝4号埋土		
1997	9層	せ－25	溝状遺構B Dot109		
1998	8層	せ－26			
1999	9層	せ－25	溝状遺構B		
2000	5層	こ・さ－27			
2001	8層	す－26			
2002	9層	し－26	溝状遺構C		
2003	8層	す－26			
2004	9層	せ－25	溝状遺構B		カムィヤキ(小壺・有文)
2005	9層	し－25	溝状遺構B		
2006	8層	し－25			
2007	8層	せ－26			
2008	9層	せ－25	溝状遺構B		
2009	9層	し－25	溝状遺構B		
2010	9層	さ－27	溝状遺構C		
2011	9層	す－25	溝状遺構B		グスク系土器(底部資料・c)
2012	5層	さ－26			
2013	9層	す－25	溝状遺構B Dot253		
2014	6層	す－27			
2015	5層	せ－25			
2016	8層	し－26			
2017	9層	せ－25	溝状遺構B		グスク系土器(壺・b)
2018	9層	す－26	溝状遺構C		白磁(碗・Ⅱ-B-a)
2019	9層	し－26	溝状遺構C		
2020	不明				
2021	9層	し－26	溝状遺構C		グスク系土器(鍋形・b-i)
2022	9層	し－26	溝状遺構C		
2023	9層	す－25	溝状遺構B		滑石混和土器(鍋・Ⅰ-a)
2024	9層	さ－27	溝状遺構E		
2025	8層	す－25	J列10		
2026	8層	し－25	E列1		
2027	8層	す－26	N列2		
2028	8層	し－26	V列11		
2029	9層	し－26	溝状遺構C		
2030	9層	し－26	溝状遺構C		
2031	Ⅰ層	つ－26			
2032	9層	さ－27	溝状遺構E		
2033	9層	さ－27	溝状遺構E		
2034	9層	し－26	溝状遺構C		
2035	客土	す－27			
2036	Ⅰ層	す－27			
2037	8層	す－26	Q列5		
2038	9層	し－26	溝状遺構C		
2039	9層	さ－27	溝状遺構E		
2040	9層	さ－27	溝状遺構E		
2041	9層	さ－27	溝状遺構E		
2042	Ⅲ層	ち－27			
2043	9層	さ－27	溝状遺構E		
2044	4層	し－27			
2045	Ⅰ層	つ－25			
2046	1層	さ－27			ヤギ
2047	Ⅱ層	し－27			
2048	不明	す－25			
2049	9層	せ－26			
2050	不明	せ－27			
2051	8層	せ－26	H列4		
2052	5層	す－27			カムィヤキ(小壺)
2053	1層	さ－27			
2054	撹乱	す－27			
2055	8層	す－26	M列9		
2056	客土	せ－27			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2057	8層	す－26	R列11		
2058	8層	す－26	S列6		
2059	9層	し－26	溝状遺構C		
2060	8層	せ－26	I列5		
2061	8層	す－25	N列13		
2062	8層	し－25・26	T列18		
2063	8層	し－26	U列15		
2064	9層	し－26	溝状遺構C		
2065	9層	し－27	溝状遺構D		
2066	9層	さ・し－26	溝状遺構C		
2067	客土	そ－25			
2068	8層	す－25	J列9		
2069	8層	す－25	O列14		
2070	9層	さ－27	溝状遺構E		
2071	9層	さ－27	溝状遺構E		
2072	9層	し－26	溝状遺構C		
2073	8層	す・せ－26	J列4		
2074	8層	し－26	U列11		
2075	9層	さ－27	溝状遺構E		
2076	9層	こ・さ－27	溝状遺構D		
2077	8層	し－25	イ列6		
2078	8層	し－26	T列11		
2079	8層	し－26	U列13		
2080	8層	せ－26	H列3		
2081	8層	し－26	T列14		
2082	9層	し－26	溝状遺構C		
2083	8層	せ－26	G列7		
2084	8層	す－26	P列8		
2085	9層	し－26	溝状遺構C		
2086	9層	し－26	溝状遺構C		
2087	9層	す－27	溝状遺構D		
2088	Ⅱ層	し－27			
2089	8層	せ－26	H列4		
2090	5層	こ・さ－27			
2091	Ⅰ層	つ－25			
2092	Ⅲ層	ち－27			
2093	客土	し－27			ブタ
2094	客土	つ－24			ブタ
2095	5層	し－26			
2096	5層	す－27			
2097	5層	す－26			
2098	5層	す－27			
2099	覆土	つ－24			
2100	8層	し－25			
2101	9層	す－27	溝状遺構D		
2102	5層	こ－26			
2103	5層	す－26			
2104	5層	す－25			カムィヤキ(小壺)
2105	8層	し－25	イ・ウ列試掘		青磁(碗・Ⅱ-a)
2106	不明	た－27			白磁(Ⅲ・Ⅳ-a)
2107	8層	た－22			
2108	5層	し－26			
2109	5層	さ－26			
2110	6層	し－26			
2111	不明	す－25			
2112	6層	し－27			
2113	5層	し－26			
2114	5層	し－27			
2115	9層	す－27	溝状遺構D		
2116	9層	す－27	溝状遺構D		
2117	5層	せ－26			カムィヤキ(把手付壺)
2118	5層	し－27			
2119	Ⅱ層	し－27			カムィヤキ(壺類)
2120	9層	こ－27	土坑1		
2121	5層	す－27			
2122	9層	し－27	溝状遺構D		
2123	客土				
2124	9層	す－25	溝状遺構B		
2125	9層	す－25	溝状遺構B		
2126	9層	す－27	溝状遺構D Dot10		
2127	9層	し－26	溝状遺構C Dot2	14.336	カムィヤキ(壺類)
2128	9層	こ－27	土坑1 Dot35		
2129	9層	し－25	溝状遺構B		
2130	9層	し－26	溝状遺構C		
2131	9層	し－26	溝状遺構C Dot1	14.439	産地不明陶器B(壺)
2132	9層	す－25	溝状遺構B		
2133	9層	す－25	溝状遺構B		
2134	9層	す－27	溝状遺構D Dot38		
2135	9層	す－27	溝状遺構D Dot7		
2136	9層	す－25	溝状遺構B		
2137	9層	す－27	溝状遺構D Dot36		
2138	9層	す－25	溝状遺構B		石器
2139	9層	し－25	溝状遺構B		
2140	9層	す－25	溝状遺構B		
2141	9層	す－27	溝状遺構D Dot14		
2142	9層	す－27	溝状遺構D Dot6		
2143	9層	こ－27	土坑1 Dot44		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2144	9層	す－27	溝状遺構D Dot32		
2145	9層	さ－25	溝状遺構B Dot43		
2146	8層	し－25	溝状遺構A Dot1		
2147	9層	こ－27	土坑1 Dot32		
2148	9層	こ－27	土坑1 Dot3		
2149	9層	す－27	溝状遺構D Dot28		
2150	9層	す－27	溝状遺構D Dot11		
2151	9層	す－27	溝状遺構D Dot31		
2152	8層	し－25	溝状遺構A Dot2		
2153	9層	す－27	溝状遺構D Dot25		
2154	9層	せ－25	溝状遺構B Dot10		
2155	9層	す－27	溝状遺構D Dot12		
2156	9層	せ－25	溝状遺構B		滑石製品(鍋)
2157	9層	こ－27	土坑1 Dot28		
2158	9層	す－27	溝状遺構D Dot23		
2159	9層	こ－27	土坑1 Dot6		
2160	9層	こ－27	土坑1 Dot29		
2161	9層	さ－26	溝状遺構C		
2162	9層	す－27	溝状遺構D Dot20		
2163	9層	こ－27	土坑1 Dot42		
2164	9層	こ－27	土坑1 Dot38		
2165	9層	さ－25	溝状遺構B Dot46		
2166	9層	こ－27	土坑1 Dot19		
2167	9層	こ－27	土坑1 Dot30		
2168	9層	せ－25	溝状遺構B Dot3		
2169	9層	す－27	溝状遺構D Dot29		
2170	9層	さ－25	溝状遺構B Dot41		
2171	9層	す－25	溝状遺構B		
2172	9層	こ－27	土坑1 Dot9		
2173	9層	し－26	溝状遺構C Dot4		
2174	9層	す－26	Dot9		
2175	9層	こ－27	土坑1 Dot41		
2176	9層	し－26	溝状遺構C Dot1		
2177	9層	せ－25	溝状遺構B Dot11		
2178	9層	せ－25	溝状遺構B		
2179	9層	せ－25	溝状遺構B Dot6		
2180	9層	し－25	溝状遺構B	14.801	カムィヤキ(壺類)
2181	9層	こ－27	土坑1 Dot24		
2182	8層	し－25	溝状遺構A Dot5		
2183	9層	こ－27	土坑1 Dot45		
2184	9層	し－27	溝状遺構D Dot3	14.108	カムィヤキ(鉢)
2185	9層	こ－27	土坑1 Dot47		
2186	9層	こ－27	土坑1 Dot39		
2187	9層	こ－27	土坑1 Dot16		
2188	9層	し－27	溝状遺構D Dot2		
2189	9層	す－27	溝状遺構D Dot13		
2190	9層	し－26	溝状遺構C		
2191	9層	す－25	溝状遺構B		
2192	9層	し－26	溝状遺構C Dot3		
2193	9層	こ－27	土坑1 Dot4		
2194	8層	し－25	溝状遺構A Dot3		
2195	9層	さ－26	溝状遺構C		
2196	9層	こ－27	土坑1 Dot11		
2197	8層	し－25	溝状遺構A Dot6		
2198	9層	こ－27	土坑1 Dot49		
2199	9層	こ－27	土坑1 Dot23		
2200	9層	し－26	溝状遺構C Dot2		
2201	9層	こ－27	土坑1 Dot33		
2202	9層	す－27	溝状遺構D Dot35		
2203	9層	こ－27	土坑1 Dot15		
2204	9層	こ－27	土坑1 Dot13		
2205	9層	こ－27	土坑1 Dot34		
2206	9層	こ－27	土坑1 Dot46		
2207	9層	こ－27	土坑1 Dot10		
2208	9層	こ－27	土坑1 Dot50		
2209	9層	せ－25	溝状遺構B		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2210	9層	すー27	溝状遺構D Dot26		
2211	9層	さー25	溝状遺構B Dot45		
2212	8層	しー25	溝状遺構A Dot4		
2213	9層	こー27	土坑1 Dot25		
2214	9層	さー25	溝状遺構B Dot42		
2215	9層	こー27	土坑1 Dot36		
2216	9層	こー27	土坑1 Dot14		
2217	9層	こー27	土坑1 Dot21		
2218	9層	こー27	土坑1 Dot37		
2219	9層	せー25	溝状遺構B Dot9		
2220	9層	すー27	溝状遺構D Dot16	13.994	青磁(碗・Ⅱ-a)
2221	9層	こー27	土坑1 Dot43		
2222	9層	すー27	溝状遺構D Dot5		
2223	9層	すー27	溝状遺構D Dot4		
2224	9層	こー27	土坑1 Dot7		
2225	9層	すー27	溝状遺構D Dot37		
2226	9層	しー27	溝状遺構D Dot1		
2227	9層	こー27	土坑1 Dot22		
2228	9層	こー27	土坑1 Dot8		
2229	9層	さー26	溝状遺構C		
2230	9層	さー25	溝状遺構B Dot40		
2231	9層	こー27	土坑1 Dot12		
2232	9層	こー27	土坑1 Dot5		
2233	9層	すー27	溝状遺構D Dot9		
2234	9層	すー27	溝状遺構D Dot15		
2235	9層	こー27	土坑1 Dot18		
2236	9層	こー27	土坑1 Dot48		
2237	9層	こー27	土坑1 Dot2		
2238	8層	しー25	溝状遺構A Dot7		
2239	9層	さー25	溝状遺構B Dot44		
2240	9層	こー27	土坑1 Dot29		
2241	9層	しー25	溝状遺構B		青磁(碗・Ⅱ-c)カムィヤキ(把手付壺)グスク系土器(底部資料・a)
2242	9層	しー26	溝状遺構C		カムィヤキ(把手付壺)
2243	9層	すー25	溝状遺構B		青磁(碗・Ⅱ-c)後期系土器(底部資料・b)
2244	9層	しー25	溝状遺構B		
2245	9層	しー26	溝状遺構C		カムィヤキ(壺類)
2246	Ⅱ層	ちー26			グスク系土器(鍋形・①)
2247	Ⅰ層	たー25			
2248	客土	つー25			
2249	不明	し・す・せー27			沖無(壺類)
2250	Ⅰ層	ちー27			沖施(小碗)
2251	盛土				白磁(皿・Ⅱ、Ⅲ-a)カムィヤキ(壺類・Ⅰ-a)クダボラ
2252	Ⅰ層	すー27			中国染付(碗)
2253	撹乱	たー27			
2254	Ⅲ層	ちー27			
2255	Ⅳ層	つー27	溝6号埋土		
2256	Ⅰ層	ちー27			
2257	Ⅱ層	すー27			
2258	5層	すー27			カムィヤキ(小壺)
2259	5層	すー26			
2260	5層	すー26			カムィヤキ(把手付壺、小壺)
2261	5層	すー27			カムィヤキ(壺類)
2262	客土	ちー24			
2263	5層	すー26			
2264	撹乱	すー27			陶質土器(火炉かかまど)
2265	5層	せー26			カムィヤキ(壺類)
2266	Ⅰ層	つー27			陶質土器(壺)ホウシュノタマガイ
2267	Ⅱ層	しー27			カムィヤキ(壺類)
2268	客土	そー25			
2269	Ⅰ層	ちー26			沖施(小碗)
2270	Ⅰ層	ちー26			
2271	覆土	しー27			白磁(皿・Ⅲ-a)沖施(瓶子)
2272	盛土				コモンイモ？、ヒメジャコ
2273	客土	すー27			中国染付(合子・壺)沖施(小碗、鍋)
2274	客土	せー27			
2275	Ⅰ層	ちー26			
2276	Ⅲ層	ちー27			
2277	不明	つー27			
2278	Ⅰ層	たー27			カイコガイ、オイノカガミガイ
2279	客土	つー24			陶質土器(火炉)
2280	Ⅰ層	つー25			
2281	撹乱	たー27			
2282	Ⅰ層	たー27			フトコロガイ、ノシガイ
2283	不明	つー27			
2284	不明				
2285	客土	そー27			沖施(碗、大鉢、火取か香炉)沖無(擂鉢、瓶)青銅製品
2286	客土	つー27			陶質土器(フライパン状)沖施(小碗、鉢、瓶、鍋、壺)カニノテムシロガイ
2287	Ⅱ層	せー26	溝4号埋土		白磁(合子)中国染付(碗)
2288	Ⅰ層	つー26			沖施(碗)沖無(擂鉢、不明)
2289	客土	せー27			沖施(碗、壺、鉢、火取か香炉)沖無(鉢、擂鉢、壺類)褐釉陶器(壺)木土産磁器(碗)トンボガイ
2290	3層	せー22			
2291	客土	すー27			沖無(鉢)
2292	客土	せー27			
2293	5層	そー22			白磁(碗・Ⅱ-C)
2294	5層	しー25			
2295	5層	そー24			カムィヤキ(小壺)
2296	3層	すー24			
2297	4層	すー22			
2298	4層	そー23			
2299	2層・上	すー18			
2300	7層	そー21			白磁(碗・Ⅲ)
2301	5層	すー24			
2302	9層	しー19	Pit17		
2303	4層	しー25			
2304	5層	すー22			
2305	不明	せー23			カムィヤキ(鉢)
2306	5層	そー24			白磁(碗・Ⅰ-d)
2307	3層	せー22			
2308	5層	せー25			
2309	5層	せー26			
2310	4層	せー24			青磁(皿・Ⅱ)
2311	7層	せー22			カムィヤキ(把手付壺)
2312	4層	しー25			
2313	5層	そー24			
2314	5層	たー23			
2315	5層	そー23			
2316	9層	しー19	Pit16		
2317	6層	せー26			青磁(碗・Ⅱ)白磁(皿・Ⅳ-a)
2318	6層	せー25			
2319	5層	すー24			
2320	4層	せー24			
2321	3層	しー25			白磁(碗・Ⅱ-A-a、Ⅱ-B-c)
2322	3層	すー22			
2323	5層	しー25			カムィヤキ(壺類・Ⅰ-c)
2324	9層	すー21	Pit2		
2325	5層	そー23			
2326	3層	すー24			
2327	4層	すー23			
2328	4層	せー23			カムィヤキ(長頸壺)
2329	5層	すー24			
2330	7層	せー21			
2331	9層	しー20	Pit40		
2332	9層	さー20	Pit10		
2333	2層・上	たー20			
2334	4層	せー24			
2335	5層	せー23			
2336	2層	すー20			
2337	3層	しー22			
2338	4層	そー22			
2339	9層	さー20	Pit18		
2340	7層	せー20			カムィヤキ(小壺・有文)
2341	不明	せー25			白磁(碗・Ⅰ-d)
2342	5層	せー26			
2343	7層	せー20			カムィヤキ(壺類)
2344	5層	せー21			
2345	7層	すー20			
2346	3層	せー22			
2347	9層	せー20	Pit2		
2348	7層	しー20			
2349	3層	すー20			
2350	7層	せー22			カムィヤキ(把手付壺)
2351	不明	せー24			
2352	4層	たー22			
2353	4層	しー24			青磁(皿・Ⅲ-a)
2354	2層・下	ちー22			
2355	4層	そー23			
2356	3層	せー21			
2357	4層	すー23			カムィヤキ(器種不明・Ⅰ-b)
2358	4層	しー24			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2359	9層	せ－19	Pit7		
2360	1層	せ－25			
2361	3層	す－23			
2362	4層	す－24			
2363	2層・上	す－19			
2364	7層	す－21			
2365	3層	せ－24			
2366	5層	そ－24			
2367	1層	不明			
2368	7層	し－20			
2369	9層	し－21	Pit26		
2370	3層	せ－23			カムィヤキ(鉢)
2371	7層	し－20			カムィヤキ(小壺)
2372	3層	せ－20			
2373	9層	し－21	Pit11		
2374	9層	し－19	Pit14		
2375	9層	せ－20	Pit7		
2376	9層	さ－20	Pit7		
2377	5層	す－23			
2378	2層・上	せ－20			青磁(碗・Ⅱ)カムィヤキ(小壺・有文)
2379	7層	さ－20			白磁(碗・Ⅱ-c)
2380	3層	し－24			
2381	5層	た－23			
2382	5層	た－22			
2383	5層	せ－21			
2384	5層	せ－23			青磁(碗・Ⅲ-b)
2385	3層	し－23			
2386	3層	せ－22			カムィヤキ(小壺)
2387	4層	そ－24			青磁(碗・Ⅱ-c)カムィヤキ(壺類・Ⅰ-b、小壺・Ⅰ-c)
2388	4層	そ－22			
2389	3層	し－24			
2390	9層	し－20	Pit4		
2391	4層	し－25			青磁(皿・Ⅰ-a)
2392	5層	せ－26			
2393	4層	せ－23			
2394	4層	た－22			
2395	3層	し－23			
2396	7層	す－21			カムィヤキ(小壺、鉢)
2397	5層	し－23			
2398	1層	不明			本土産陶器(甕)
2399	5層	し－24			白磁(蓋)
2400	7層	す－21			
2401	3層	そ－21			
2402	7層	せ－22			カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c)
2403	7層	せ－22			カムィヤキ(壺類・有文)
2404	5層	せ－23			
2405	5層	し－23			
2406	6層	せ－25			白磁(碗・Ⅱ-D-ⅰ)カムィヤキ(把手付壺)
2407	1層	不明			
2408	4層	し－24			青磁(碗・Ⅱ-a)カムィヤキ(壺類)滑石製品(転用品)
2409	5層	し－24			カムィヤキ(小壺・Ⅰ-c)
2410	5層	せ－26			
2411	3層	そ－21			
2412	3・4層	ち－22	溝1号埋土		
2413	4層	し－23			
2414	2層・上	す－21			青磁(皿・Ⅰ-a)
2415	4層	し－24			
2416	5層	た－23			
2417	2層・中	ち－22			
2418	5層	す－23			カムィヤキ(壺類)
2419	9層	す－19	Pit35		
2420	4層	た－21			
2421	5層	そ－24			青磁(碗・Ⅱ-b)
2422	3層	せ－23			
2423	3層	た－23			青磁(皿・Ⅱ)
2424	5層	す－23			
2425	4層	せ－24			白磁(碗・Ⅳ)青白磁(合子)
2426	7層	し－20			
2427	9層	す－20	Pit12		
2428	2層	ち－23			
2429	7層	し－20			
2430	9層	せ－20	Pit9		
2431	3層	す－21			カムィヤキ(壺類)
2432	6層	せ－25			白磁(碗・Ⅱ-B-a)
2433	4層	せ－23			
2434	3層	し－24			
2435	4層	す－23			青磁(碗・Ⅲ-b)
2436	2層・上	す－22			中国染付(小皿)
2437	2層・中	ち－22			瑠璃釉磁器(小杯)
2438	9層	せ－19	Pit9		
2439	3層	そ－23			
2440	5層	す－22			カムィヤキ(小壺)
2441	9層	し－20	Pit20		
2442	5層	せ－21			
2443	3層	そ－22			
2444	3層	し－21			カムィヤキ(鉢)

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2445	9層	す－19	Pit14		
2446	3層	さ－20			
2447	9層	し－20	Pit41		
2448	9層	し－21	Pit17		
2449	1層	そ－24			
2450	4層	し－24			
2451	4層	す－23			
2452	3層	す－24			
2453	9層	せ－20	Pit11		
2454	8層	そ－22			
2455	9層	せ－20	Pit1		
2456	7層	し－22			
2457	9層	せ－21	Pit3		
2458	5層	そ－21			グスク系土器(壺・a)
2459	4層	そ－21			
2460	4層	た－23			カムィヤキ(小壺・Ⅲ-a、把手付壺)
2461	7層	し－21			
2462	5層	そ－23			
2463	3層	す－22			
2464	4層	た－23			
2465	9層	さ－20	Pit27		
2466	9層	さ－20	Pit22		
2467	4層	た－23			カムィヤキ(壺類)
2468	5層	た－22			
2469	9層	す－19	Pit12		
2470	4層	ち－23			カムィヤキ(小壺・Ⅰ-a)
2471	1層	ち－23			
2472	2層・中	た－20			
2473	2層・中	つ－22			簪(ジーファー)
2474	盛土				
2475	8層	せ－24	Dot13		
2476	8層	不明			
2477	1層	不明			
2478	9層	せ－22	Pit7		
2479	8層	そ－23	Pit17		
2480	9層	す－22	埋葬遺構2		
2481	8層	た－23	Pit17		
2482	8層	せ－21	Pit7		
2483	9層	せ－23			
2484	5層	す－25			カムィヤキ(碗・Ⅰ)
2485	4層	た－24			
2486	8層	そ－23	Pit31		
2487	8層	す－22	Pit19		
2488	8層	す－22	炉跡		カムィヤキ(把手付壺)
2489	Ⅱ層	す－27			
2490	9層	そ－23	溝状遺構G		
2491	9層	そ－22			縄文系土器
2492	8層	そ－23			グスク系土器(鍋形・③)
2493	5層	す－25			
2494	8層	不明			
2495	8層	す－24	Pit19		
2496	9層	せ－21	Pit10		
2497	8層	せ－24			
2498	8層	せ－24	Dot4		
2499	5層	ち－23			
2500	5層	し－25			後期系土器(有文・a)
2501	8層	そ－24	Dot17	15.245	グスク系土器(鍋形・①)
2502	8層	す－24	Pit19		滑石混和土器(鍋・Ⅰ-a)
2503	8層	ち－23	Dot55		
2504	9層	す－22	埋葬遺構2		
2505	8層	せ－21	Pit7		カムィヤキ(壺類・有文・Ⅰ-c)
2506	8層	し－27			青磁(瓶)
2507	9層	そ－23	Pit7		
2508	8層	せ－24	Dot95		
2509	4層	た－24			
2510	8層	せ－24	Dot2		
2511	9層	せ－21	Pit2		
2512	8層	ち－22			カムィヤキ(壺類)
2513	不明	た－25			
2514	8層	せ－21	Pit10		カムィヤキ(小壺)
2515	8層	せ－24	Pit11 Dot1		
2516	8層	す－21			
2517	4層	た－24			
2518	8層	ち－23	Pit3		
2519	9層	せ－21	Pit21		
2520	1層	不明			イノシシ
2521	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土 Dot2		
2522	不明				
2523	6層	す－20			
2524	5層	そ－24			ウシ
2525	4層	す－23			カムィヤキ(鉢)
2526	9層	す－20	Pit8		
2527	6層	せ－25			
2528	9層	し－20	Pit37-c		
2529	3層	そ－22			
2530	5層	そ－24			カムィヤキ(把手付壺、壺類)
2531	7層	せ－20			
2532	4層	そ－23			
2533	2層・上	す－25			カムィヤキ(把手付壺、小壺)

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2534	7層	す－20			
2535	9層	す－19	Pit35		
2536	5層	す－24			カムィヤキ(碗・Ⅱ)
2537	5層	せ－21			
2538	5層	し－25			
2539	5層	そ－24			グスク系土器(浅鉢形)
2540	5層	せ－22			
2541	3層	せ－20			
2542	9層	し－21	Pit10-a		
2543	2層	せ－25			カムィヤキ(小壺)
2544	5層	そ－24			
2545	3層	す－23			
2546	4層	せ－23			青磁(碗・Ⅱ-a)カムィヤキ(小壺・Ⅲ-b)
2547	5層	そ－21			カムィヤキ(小壺)
2548	4層	ち－23			
2549	2層・上	た－21			
2550	9層	し－19	Pit4		
2551	9層	し－20	Pit1		
2552	8層	そ－24			
2553	3層	し－25			
2554	4層	た－22			
2555	4層	そ－24			
2556	2層・上	し－21			
2557	5層	せ－21			
2558	3層	し－21			
2559	5層	そ－23			
2560	7層	せ－21			青磁(碗・Ⅰ-a、皿・Ⅰ-b)
2561	9層	せ－19	Pit8		
2562	3層	し－22			
2563	3層	し－21			
2564	3層	そ－23			
2565	7層	そ－22			カムィヤキ(小壺・有文)
2566	9層	さ－20	Pit8		
2567	7層	し－21			
2568	9層	ち－21			
2569	3層	そ－22			
2570	7層	そ－22			カムィヤキ(把手付壺)
2571	3層	せ－22			
2572	9層	す－19	Pit15		グスク系土器(壺・c)
2573	2層	そ－22			
2574	1層	す－24			カムィヤキ(小壺)
2575	3層	せ－23			白磁(碗・Ⅰ-d)
2576	1層	し－24			青磁(碗・Ⅱ-c)
2577	7層	す－22			
2578	6層	し－25			
2579	3層	せ－21			白磁(碗・Ⅲ)カムィヤキ(小壺・有文・Ⅰ-c)
2580	3層	す－24			カムィヤキ(鉢)
2581	2層・下	た－20			
2582	4層	し－24			
2583	4層	す－24			白磁(碗・Ⅰ-d)カムィヤキ(小壺、碗Ⅰ)
2584	9層	し－20	Pit16-a		
2585	6層	し－25			
2586	7層	さ－21			
2587	9層	し－21	Pit26		
2588	5層	し－25			
2589	7層	し－20			
2590	3層	せ－21			
2591	3層	し－23			
2592	3層	そ－21			
2593	4層	そ－23			
2594	2層	そ－24			グスク系土器(浅鉢形)
2595	9層	そ－23			後期系土器(底部資料・b)
2596	4層	せ－25			白磁(碗・Ⅰ-a)
2597	9層	さ－21	Pit9		
2598	9層	す－21	Pit5		
2599	5層	せ－21			
2600	7層	そ－21			
2601	7層	せ－20			
2602	7層	し－20			グスク系土器(鍋形・a)
2603	6層	せ－25			
2604	5層	し－25			
2605	7層	し－20			
2606	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土		
2607	不明	ち－24			
2608	5層	し－26			
2609	Ⅳ層	そ－26			
2610	6層	さ－26			カムィヤキ(壺類)
2611	5層	す－25			
2612	5層	し－25			カムィヤキ(把手付壺、長頸壺)産地不明陶器A(壺)
2613	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土		中国染付(小碗)クロミナシ
2614	Ⅰ層	た－26			ヤクシマダカラ
2615	Ⅱ層	つ－25	溝石列4号		
2616	Ⅱ層	ち－25			
2617	Ⅱ層	ち－25	溝石列4号		沖施(小碗)
2618	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土 Dot3		
2619	Ⅱ層	す－27			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2620	5層	し－25			カムィヤキ(小壺、壺類)
2621	Ⅱ層	つ－25	溝4号埋土 Dot9	13,526	沖無(甕)
2622	8層	す－20			
2623	不明	し－27			白磁(碗・Ⅱ-C)
2624	Ⅱ層	た－24			沖無(不明)
2625	9層	ち－25	掘込1		
2626	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		沖施(小碗、鍋)ホラガイ
2627	6層	し－27			青磁(碗・Ⅰ-a)カムィヤキ(壺類)
2628	不明	つ－25			陶質土器(鉢)
2629	5層	し－26			
2630	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot26		
2631	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土		ムカシタモト
2632	6層	し－25			カムィヤキ(小壺・有文)
2633	5層	し－27			青磁(碗・Ⅱ-b)
2634	5層	し－27			
2635	5層	す－26			カムィヤキ(壺類・Ⅰ-b、把手付壺、壺類)
2636	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot27		ヒレジャコ
2637	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土		カイシアオリガイ、ヤギ
2638	5層	さ－26			
2639	不明	ち－24			
2640	9層	し－27	溝状遺構D		
2641	Ⅱ層	す－27			
2642	不明				
2643	Ⅱ層	せ－26	溝4号埋土		石器
2644	Ⅱ層	す－27			
2645	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot13		
2646	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot20		
2647	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot21		
2648	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot22		
2649	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot15		
2650	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot17		
2651	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土 Dot5		
2652	Ⅱ層	つ－25	溝4号埋土 Dot8		
2653	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土 Dot6		
2654	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot24		
2655	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot19		
2656	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土 Dot7		
2657	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot11		
2658	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot25		
2659	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土 Dot4	13,440	沖施(急須)
2660	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot23		
2661	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot12		
2662	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot18		
2663	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot14		
2664	9層	さ－27	溝状遺構E		
2665	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土 Dot16		
2666	9層	さ－27	溝状遺構E		
2667	盛土				
2668	9層	せ－25	溝状遺構B		
2669	5層	す－27			
2670	6層	し－27			
2671	5層	し－27			青磁(皿・Ⅰ-c)
2672	Ⅱ層	せ－26	溝4号埋土		
2673	5層	さ－25			青磁(碗・Ⅱ-a)
2674	5層	す－27			
2675	5層	し－27			
2676	5層	し－25			
2677	Ⅱ層	つ－26	溝石列4号		沖無(不明)
2678	Ⅱ層	ち－25	溝石列4号		
2679	Ⅱ層	つ－26	溝4号埋土 Dot1		
2680	Ⅱ層	す－27			カムィヤキ(把手付壺)
2681	盛土				青磁(皿・Ⅰ-b)ミツカドボラ
2682	Ⅲ層	た－25			青磁(盤)青磁染付(盤)中国染付(瓶)沖施(鉢)沖無(壺類、瓶)
2683	不明	せ－27			
2684	Ⅲ層	せ－27			産地不明陶磁器(擂鉢)
2685	Ⅲ層	ち－24			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2686	1層	不明			アサリ
2687	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		
2688	Ⅲ層	ち－26			中国染付(碗)
2689	Ⅱ層	ち－26			
2690	Ⅱ層	つ－26	溝石列4号		本土産陶器(甕)沖施(皿)
2691	Ⅲ層	た－27			中国染付(皿)
2692	Ⅲ層	ち－27			沖施(蓋)
2693	1層	不明			陶質土器(鉢)中国染付(皿)沖施(碗、鉢)沖無(水鉢、壺類)マルアマオブネ、コモンダカラ、イボシマイモ、オオクチキレガイ、マクガイ、ケイトウガイ、シャゴウ、ヤギ
2694	Ⅳ層	ち－26	溝6号埋土		沖施(皿、急須)
2695	Ⅱ層	た－25	溝4号埋土		
2696	不明	そ－25			煙管
2697	Ⅳ層	た－26	溝6号埋土		中国染付(皿)
2698	5層	た－25			
2699	Ⅱ層	ち－25			
2700	不明	し－27			沖施(瓶)
2701	Ⅰ層	つ－27			
2702	Ⅱ層	つ－25	溝4号埋土		
2703	撹乱	ち－25			
2704	4層	す－27			
2705	Ⅳ層	ち－24	溝石列2号		白磁(碗・Ⅰ－a)沖無(鉢、壺類)アラヌノメガイ
2706	Ⅱ層	ち－26			中国染付(素成碗、小碗)ウシ
2707	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土		
2708	Ⅲ層	つ－25			白磁(碗、皿・Ⅰ)陶質土器(火炉)中国染付(素成碗、甕)沖施(瓶子)沖無(鉢)
2709	Ⅱ層	す－27			
2710	Ⅱ層	た－25	溝4号埋土		
2711	撹乱	す－27			
2712	Ⅰ層	す－27			
2713	9層	ち－26	掘込1		
2714	Ⅰ層	ち－26			沖施(碗)沖無(擂鉢、壺類、火炉)
2715	不明				
2716	3層	た－24			
2717	4層	そ－23			
2718	3・4層	た－20	溝1号埋土		
2719	2層・上	た－23			
2720	撹乱	た－21			沖施(瓶子)
2721	7層	せ－20			白磁(碗・Ⅱ-C)
2722	2層・上	す－21			
2723	5層	し－25			
2724	5層	た－23			
2725	3層	た－23			
2726	5層	し－25			
2727	2層・上	せ－20			
2728	2層・上	す－23			
2729	1層	た－24			
2730	5層	た－23			
2731	2層・上	す－19			沖無(碗)
2732	4層	ち－22			
2733	3層	せ－23			
2734	2層・上	た－23			
2735	1層	た－23			
2736	4層	ち－23			
2737	2層・上	た－22			青磁(皿)
2738	3層	す－21			
2739	2層・上	ち－23			
2740	3層	せ－22			
2741	1層	た－23			
2742	4層	た－23			
2743	撹乱	ち－23			中国染付(小碗)
2744	2層・下	た－20			ブタ
2745	1層	た－22			
2746	客土	ち－24			貝製品
2747	2層	ち－23			
2748	2層・上	す－18			沖施(鉢)
2749	2層・上	し－18			
2750	2層・上	し－19			
2751	7層	し－20			
2752	2層・上	ち－21			
2753	3層	す－22			カムィヤキ(小壺)
2754	1層	す－18			
2755	3・4層	ち－22	溝1号埋土		
2756	3・4層	ち－22	溝1号埋土		沖施(小碗)
2757	2層・上	つ－22			ハリセンボン
2758	2層・下	た－20			沖無(水鉢)須恵器(小壺)ヤギ
2759	不明	せ・そ－26			
2760	4層	ち－23			
2761	2層	ち－19			
2762	不明	つ－20			
2763	2層・上	ち－24			沖施(急須)
2764	2層・中	つ－22			沖施(皿)
2765	2層	た－22			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2766	5層	そ－24			
2767	2層・上	し－19			沖施(筒状碗、火炉)
2768	撹乱				緑釉磁器(急須)
2769	3層	し－23			
2770	2層・中	ち－20			
2771	5層	せ－23			
2772	7層	せ－20			
2773	2層・中	つ－22			
2774	2層	ち－23			
2775	1層	し－18			
2776	2層・上	ち－20			
2777	2層・中	ち－20			
2778	2層・中	ち－21			沖施(蓋)
2779	2層・上	ち－24			
2780	1層	ち－23			カノコガイ、オニノツノガイ
2781	2層・上	た－20			陶質土器(急須、火炉)沖施(火炉)沖無(甕、円盤状製品)
2782	2層・下	ち－22			沖施(カラカラ)ウシ
2783	2層・上	た－21			沖無(壺類)
2784	2層・上	ち－22			青磁(皿)イノシシ
2785	2層・中	ち－21			陶質土器(蓋)沖施(大鉢)沖無(甕)
2786	2層・上	た－22			沖無(鉢)ネジヒダカワニナ、リュウキュウナミノコ
2787	2層・上	た－23			
2788	2層・中	た－20			中国産磁器(黄釉・小碗)沖施(碗、小壺)
2789	2層・中	ち－22			沖施(火取)
2790	2層・上	し－19			沖施(蓋)沖無(壺類)
2791	2層・上	ち－20			
2792	不明	そ－24			
2793	1層	不明			中国染付(小碗)本土産陶器(甕)
2794	客土	す－27			沖施(碗、鉢)
2795	撹乱	ち－24			陶質土器(火炉)沖無(瓶)
2796	2層・上	ち－22			沖無(小鉢)リュウキュウアマガイ、イボウミニナ
2797	Ⅱ層	た－25			沖無(壺類)
2798	Ⅱ層	つ－26			
2799	Ⅲ層	せ－27			
2800	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土		
2801	不明	ち－27			
2802	Ⅰ層	つ－25			
2803	Ⅲ層	つ－27			
2804	Ⅲ層	つ－26			
2805	Ⅱ層	つ－25	溝4号埋土 Dot10	13.551	沖施(碗)
2806	Ⅱ層	ち－25	溝4号埋土		
2807	Ⅲ層	せ－27			
2808	Ⅲ層	せ－27			
2809	不明				
2810	不明	た－24			カムィヤキ(小壺)
2811	Ⅲ層	せ－27			
2812	不明	そ－27			
2813	Ⅱ層	つ－25	溝4号埋土		沖無(円盤状製品)
2814	Ⅲ層	つ－26			沖施(小碗)沖無(円盤状製品)
2815	Ⅱ層	し－27			
2816	不明	た－27			
2817	Ⅲ層	つ－26			
2818	不明	ち－24			
2819	Ⅰ層	つ－24			
2820	Ⅱ層	す－27	溝4号埋土		クロチョウガイ
2821	Ⅲ層	ち－27			
2822	Ⅲ層	ち－27			
2823	Ⅲ層	し－27			
2824	Ⅱ層	ち－25			沖無(擂鉢)
2825	Ⅱ層	ち－25	溝石列4号		本土産陶器(瓶)
2826	不明				沖施(火取)
2827	Ⅲ層	つ－25			
2828	Ⅲ層	そ－27			沖無(鉢)
2829	Ⅱ層	ち－25	溝石列4号		
2830	3層	そ－23			
2831	9層	つ－24			
2832	4層	そ－23			
2833	4層	す－23			
2834	5層	せ－21			
2835	7層	す－21			
2836	7層	し－22			
2837	7層	す－21			
2838	5層	せ－21			
2839	4層	そ－23			
2840	3層	そ－23			
2841	5層	せ－21			
2842	5層	そ－21			
2843	4層	し－23			
2844	5層	そ－23			
2845	3層	そ－22			
2846	5層	そ－21			
2847	9層	し－20	Pit50-a		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2848	2層・中	たー21			陶質土器(鉢)本土産磁器(染付・皿)沖無(円盤状製品)
2849	3層	そー21			
2850	9層	しー20	Pit52		
2851	2層・中	たー21			
2852	5層	すー24			
2853	9層	さー20	Pit27		
2854	9層	しー20	Pit21		
2855	5層	すー24			
2856	9層	さー20	Pit2		
2857	9層	しー20	Pit12		
2858	9層	しー20	Pit50-c		
2859	9層	しー20	Pit31		
2860	9層	しー21	Pit2		
2861	9層	しー20	Pit50-a		
2862	3・4層	たー21	溝1号埋土		沖施(碗)
2863	9層	しー20	Pit50-b		
2864	9層	すー20	Pit10		
2865	9層	しー19	Pit14-c		ヒレジャコ
2866	3層	すー22			
2867	7層	せー22			
2868	2層・上	そー22			中国染付(筒型碗)イノシシ
2869	9層	しー20	Pit20		
2870	9層	すー21	Pit3-b		
2871	9層	しー20	Pit34		
2872	9層	すー20	Pit10		
2873	9層	さー20	Pit22		
2874	4層	しー24			
2875	9層	しー20	Pit50-a		
2876	9層	しー20	Pit50		
2877	9層	すー19	Pit15		
2878	7層	しー22			
2879	9層	さー21	Pit1		
2880	1層	すー24			
2881	8層	せー20			
2882	2層・上	そー21			中国染付(碗)沖施(皿、瓶子、鍋、小杯)簪(ジーファー)
2883	9層	しー20	Pit50-c		カムィヤキ(壺類)
2884	9層	しー20	Pit37		
2885	7層	しー22			
2886	5層	すー24			
2887	9層	すー21	Pit3-a		グスク系土器(鉢形・b)
2888	9層	すー20	Pit6		
2889	2層・上	そー20			
2890	5層	せー22			
2891	9層	すー20	Pit1		
2892	9層	しー20	Pit51		
2893	9層	すー21	Pit3-a		
2894	9層	さー20	Pit17		
2895	9層	しー19	Pit12		
2896	2層・中	つー22			
2897	9層	しー20	Pit50		
2898	4層	せー25			
2899	客土	すー27			中国産磁器(黄釉・碗)沖施(碗、瓶)マダライモ、イノシシ
2900	不明	つー27			
2901	Ⅱ層	つー25			
2902	Ⅱ層	しー27			カムィヤキ(壺類・Ⅰ-a)
2903	Ⅱ層	つー24			沖施(碗)
2904	Ⅲ層	たー27			
2905	Ⅲ層	ちー27			
2906	撹乱	すー27			オオタカノハガイ?
2907	Ⅲ層	しー27			青磁(碗・Ⅲ-b)
2908	Ⅱ層	たー25	溝4号埋土		沖無(壺類)
2909	不明	ちー25			ハナムシロ、サメザラガイ
2910	Ⅳ層	つー24	溝3号埋土		白磁(皿・Ⅰ)沖施(カラカラ)コオニコブシ
2911	Ⅳ層	つー26	溝6号埋土		ホラダマシ
2912	Ⅱ層	ちー25	溝石列4号		中国染付(小皿)本土産陶器(瓶)
2913	不明	せー27			カバミナシ
2914	撹乱	すー27			
2915	Ⅱ層	せー27			
2916	8層	しー20			
2917	8層	しー20			
2918	Ⅱ層	しー27			陶質土器(急須)
2919	Ⅰ層	しー27			
2920	Ⅱ層	しー27			後期系土器(無文・a-ii)
2921	9層	すー21			
2922	不明	せー27			
2923	Ⅱ層	つー24			アマオブネ
2924	Ⅱ層	ちー25	溝4号埋土		
2925	Ⅰ層	しー27			リュウキュウザルガイ、ブタ
2926	1層	そー24			
2927	9層	すー20	Pit3		
2928	不明	さー20			陶質土器(碗、鍋)
2929	7層	さー21			
2930	9層	すー20	Pit1		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2931	9層	しー26	溝状遺構C Dot41		
2932	9層	しー26	溝状遺構C Dot15		
2933	9層	しー26	溝状遺構C Dot3		
2934	9層	しー26	溝状遺構C Dot34		
2935	9層	しー26	溝状遺構C Dot31		
2936	9層	しー26	溝状遺構C Dot17		
2937	9層	しー26	溝状遺構C Dot18		
2938	9層	しー26	溝状遺構C Dot4		
2939	9層	しー26	溝状遺構C Dot45		
2940	9層	しー26	溝状遺構C Dot2	14.334	不詳土器
2941	9層	しー26	溝状遺構C Dot38		
2942	9層	しー26	溝状遺構C Dot11		
2943	9層	しー26	溝状遺構C Dot42		
2944	9層	しー26	溝状遺構C Dot28		
2945	9層	しー26	溝状遺構C Dot32		
2946	9層	しー26	溝状遺構C Dot12		
2947	9層	しー26	溝状遺構C Dot8		
2948	9層	しー19	Pit18-a		
2949	9層	すー19	Pit19		
2950	9層	しー20	Pit50		
2951	9層	しー26	溝状遺構C Dot44		
2952	9層	しー26	溝状遺構C Dot6		
2953	9層	しー26	溝状遺構C Dot35		
2954	9層	しー26	溝状遺構C Dot21		
2955	9層	しー26	溝状遺構C Dot9		
2956	9層	しー26	溝状遺構C Dot49		
2957	9層	しー26	溝状遺構C Dot29		
2958	9層	しー26	溝状遺構C Dot37		
2959	9層	しー26	溝状遺構C Dot40		
2960	9層	しー26	溝状遺構C		
2961	9層	しー26	溝状遺構C Dot26		
2962	9層	しー26	溝状遺構C Dot27		
2963	9層	しー26	溝状遺構C Dot30		
2964	9層	しー26	溝状遺構C Dot36		
2965	9層	しー26	溝状遺構C Dot10		
2966	9層	しー26	溝状遺構C Dot48		
2967	9層	しー26	溝状遺構C Dot16		
2968	9層	しー25	溝状遺構B Dot43		
2969	9層	しー26	溝状遺構C Dot46		
2970	9層	しー26	溝状遺構C Dot5		
2971	9層	しー26	溝状遺構C Dot7		
2972	9層	しー26	溝状遺構C Dot14		
2973	9層	しー26	溝状遺構C Dot13		
2974	8層	しー26	K・L列試掘 Dot9		
2975	9層	さー27	溝状遺構C Dot8		
2976	9層	さー27	溝状遺構C Dot2		
2977	8層	すー25 す・せー26	K・L列試掘		
2978	9層	さー27	溝状遺構C		
2979	8層	す・せー26	K・L列試掘 Dot4		
2980	8層	す・せー26	K・L列試掘 Dot3		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
2981	8層	す・せ－26	K・L列試掘 Dot15		
2982	8層	す・せ－26	K・L列試掘 Dot8		
2983	8層	す・せ－26	K・L列試掘 Dot11		
2984	8層	す・せ－26	K・L列試掘 Dot13		
2985	8層	す・せ－26	K・L列試掘 Dot12		
2986	9層	さ－27	溝状遺構C Dot1		
2987	9層	さ－27	溝状遺構C Dot4		
2988	8層	す・せ－26	K・L列試掘 Dot1		
2989	9層	さ－27	溝状遺構C Dot5		
2990	9層	さ－27	溝状遺構C Dot6		
2991	不明	し－20			
2992	9層	さ－27	溝状遺構C Dot11		
2993	9層	さ－27	溝状遺構C Dot10		
2994	9層	さ－27	溝状遺構C Dot12		
2995	9層	さ－27	溝状遺構C Dot9		
2996	9層	し－25	溝状遺構B Dot51		
2997	9層	し－25	溝状遺構B Dot22		
2998	9層	し－25	溝状遺構B Dot72		
2999	9層	し－25	溝状遺構B Dot64		
3000	9層	し－25	溝状遺構B Dot69		
3001	9層	し－25	溝状遺構B Dot7		
3002	9層	し－25	溝状遺構B Dot24		
3003	9層	し－25	溝状遺構B Dot48		
3004	9層	し－25	溝状遺構B Dot89		
3005	9層	し－25	溝状遺構B Dot33		
3006	9層	し－25	溝状遺構B Dot45		
3007	9層	し－25	溝状遺構B		
3008	9層	し－25	溝状遺構B Dot85	14,542	グスク系土器(鍋形・④)
3009	9層	し－25	溝状遺構B Dot36		
3010	9層	し－25	溝状遺構B Dot31		
3011	9層	し－25	溝状遺構B Dot62	14.646	白磁(碗・Ⅱ-C)
3012	9層	し－25	溝状遺構B Dot70		
3013	9層	し－25	溝状遺構B Dot34	14,662	後期系土器(底部資料・b)
3014	9層	し－25	溝状遺構B Dot53		
3015	9層	し－25	溝状遺構B Dot57		
3016	9層	し－25	溝状遺構B Dot6	14,921	青磁(碗・Ⅲ-b)
3017	9層	し－25	溝状遺構B Dot14		
3018	9層	し－25	溝状遺構B Dot18		
3019	9層	し－25	溝状遺構B Dot65		
3020	9層	し－25	溝状遺構B Dot75		
3021	9層	し－25	溝状遺構B Dot10		
3022	9層	し－25	溝状遺構B Dot25		
3023	9層	し－25	溝状遺構B Dot91		
3024	9層	し－25	溝状遺構B Dot44		
3025	9層	し－25	溝状遺構B Dot35		
3026	9層	し－25	溝状遺構B Dot55		
3027	9層	し－25	溝状遺構B Dot50		
3028	9層	し－25	溝状遺構B Dot56		
3029	9層	し－25	溝状遺構B Dot68		
3030	9層	し－25	溝状遺構B Dot78		
3031	9層	し－25	溝状遺構B Dot11		
3032	9層	し－25	溝状遺構B Dot80		
3033	9層	し－25	溝状遺構B Dot74		
3034	9層	し－25	溝状遺構B Dot61		
3035	9層	し－25	溝状遺構B Dot49		
3036	9層	し－25	溝状遺構B Dot66		
3037	9層	し－25	溝状遺構B Dot29		
3038	9層	し－25	溝状遺構B Dot67		
3039	9層	し－25	溝状遺構B Dot82		
3040	9層	し－25	溝状遺構B Dot19		
3041	9層	し－25	溝状遺構B Dot58		
3042	9層	し－25	溝状遺構B Dot73		
3043	9層	し－25	溝状遺構B Dot39		
3044	9層	し－25	溝状遺構B Dot47		
3045	9層	し－25	溝状遺構B Dot21		
3046	9層	し－25	溝状遺構B Dot54		
3047	9層	し－25	溝状遺構B Dot41		
3048	9層	し－25	溝状遺構B Dot92		
3049	9層	し－25	溝状遺構B Dot77		
3050	9層	し－25	溝状遺構B Dot20		
3051	9層	し－25	溝状遺構B Dot32		
3052	9層	し－25	溝状遺構B Dot63		
3053	9層	し－25	溝状遺構B Dot15		グスク系土器(壺・a)
3054	9層	し－25	溝状遺構B Dot60		
3055	9層	し－25	溝状遺構B Dot86		
3056	9層	さ－20	Pit6		
3057	9層	し－21	Pit28		
3058	2層・上	せ－21			
3059	2層・上	ち－20			沖施(瓶子)貝製品
3060	6層	せ－25			
3061	9層	す－19	Pit28		
3062	9層	さ－19	Pit2		
3063	9層	し－19	Pit31		
3064	9層	す－21	Pit11		
3065	9層	さ－20	Pit13		
3066	9層	せ－19	Pit11		
3067	9層	す－19	Pit27		
3068	9層	し－20	Pit42		
3069	9層	し－19	Pit10		
3070	9層	す－20	Pit7		
3071	9層	し－20	Pit43		
3072	9層	し－19	Pit19		
3073	9層	し－20	Pit16		
3074	9層	さ－21	Pit1		
3075	9層	し－21	Pit21		
3076	9層	し－21	Pit10-b		
3077	9層	す－20	Pit22		
3078	9層	せ－19	Pit19		
3079	9層	す－20	Pit9		
3080	9層	さ－21	Pit8		
3081	9層	し－21	Pit3		
3082	8層	し－24			
3083	5層	す－25			
3084	9層	せ－19	Pit6		
3085	9層	さ－20	Pit26		
3086	2層・上	そ－21			
3087	9層	す－20	Pit11		
3088	1層	せ－24			
3089	9層	し－21	Pit5		
3090	4層	せ－23			白磁(碗・Ⅳ)
3091	3層	そ－24			
3092	9層	さ－19	Pit4		
3093	Ⅳ層	つ－24	溝2号埋土		
3094	1層	し－21			陶質土器(甕)
3095	9層	し－20	Pit37		カムィヤキ(小壺)
3096	7層	し－21			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
3097	9層	せ―19	Pit16		
3098	9層	さ―20	Pit5		
3099	9層	せ―20	Pit6		
3100	5層	す―24			
3101	3層	さ―21			
3102	9層	す―19	Pit15		
3103	不明	し―27			
3104	2層・上	す―20			グスク系土器(底部資料・c)
3105	3・4層	た―20	溝1号埋土		沖無(擂鉢)
3106	9層	し―20	Pit26		
3107	9層	さ―20	Pit4		
3108	9層	し―21	Pit14		
3109	9層	し―20	Pit24		
3110	7層	す―21			
3111	9層	し―20	Pit16-a		
3112	3層	す―23			
3113	5層	す―25			
3114	4層	す―22			
3115	7層	し―21			
3116	9層	さ―20	Pit1		
3117	2層	し―22			中国染付(筒型碗)
3118	9層	し―20	Pit31		
3119	9層	し―20	Pit9		
3120	5層	せ―25			後期系土器(底部資料・a)
3121	9層	す―21	Pit11		
3122	9層	す―19	Pit37		
3123	9層	し―19	Pit26		
3124	9層	さ・し―19	溝状遺構H		
3125	9層	し―20	Pit3		カムィヤキ(小壺)
3126	2層・中	ち―21			
3127	9層	し―20	Pit47		
3128	1層	し―22			
3129	9層	し―21	Pit10-a		
3130	9層	し―20	Pit30		カムィヤキ(小壺)
3131	9層	し―21	Pit18		
3132	9層	す―20	Pit5		
3133	9層	さ―20	Pit24		
3134	9層	さ―19	Pit3		
3135	9層	す―21	Pit6		
3136	9層	す―21	Pit8		
3137	4層	す―25			
3138	9層	す―19	Pit30		
3139	2層	た―23			
3140	5層	そ―22			
3141	5層	せ―25			後期系土器(底部資料・a)
3142	9層	し―21	Pit31		
3143	2層・上	せ―21			
3144	4層	し―25			
3145	2層・上	そ―21			ヤキイモ
3146	1層	ち―24			本土産磁器(小碗)沖施(カラカラ)
3147	9層	す―19	Pit15		
3148	9層	す―19	Pit32		
3149	9層	さ―20	Pit2		
3150	9層	す―20	Pit24		
3151	7層	す―22			グスク系土器(鉢形・b)
3152	9層	し―20	Pit32		
3153	7層	さ―20			
3154	9層	し―21	Pit11		
3155	9層	し―20	Pit22		
3156	9層	さ―20	Pit7		
3157	9層	し―21	Pit2		
3158	9層	せ―19	Pit12		
3159	9層	し―21	Pit24		
3160	9層	さ―20	Pit20		
3161	2層・上	ち―22			
3162	7層	す―21			
3163	5層	せ―21			
3164	7層	し―21			
3165	5層	せ―21			
3166	9層	し―21	Pit21		
3167	7層	せ―22			
3168	9層	さ―20	Pit21		
3169	7層	せ―21			
3170	5層	し―25			
3171	1層	し―24			
3172	9層	し―20	Pit4		
3173	9層	さ―20	Pit12		
3174	7層	さ―20			
3175	9層	す―20	Pit12		
3176	9層	す―19	Pit15		
3177	9層	し―20	Pit37-a		
3178	4層	す―26			
3179	Ⅳ層	ち―24	溝2号埋土		本土産陶器(碗)
3180	2層	そ―22			
3181	2層	し―24			陶質土器(急須)
3182	5層	し―22			
3183	7層	し―22			
3184	3層	し―24			
3185	3層	し―22			
3186	3層	た―23			
3187	3層	そ―22			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
3188	4層	そ―23			
3189	3層	し―22			
3190	2層	せ―22			
3191	2層	す―24			
3192	2層	す―21			
3193	3・4層	つ―23	溝1号埋土		
3194	4層	そ―24			
3195	3層	す―21			
3196	7層	す―21			青磁(皿・Ⅰ-a)
3197	3層	し―23			
3198	3層	し―21			
3199	3層	そ―23			カムィヤキ(壺類)
3200	攪乱	し―22			
3201	9層	し―21	Pit30		
3202	3層	そ―22			
3203	3層	そ―22			
3204	3層	せ―22			
3205	Ⅳ層	つ―24	溝2号埋土		
3206	3層	そ―22			
3207	7層	し―21			
3208	7層	し―21			
3209	4層	そ―23			
3210	4層	し―22			
3211	3層	し―21			
3212	3層	せ―22			
3213	Ⅰ層	た―22			
3214	3層	そ―22			
3215	2層	す―23			
3216	5層	そ―22			
3217	4層	し―24			
3218	2層	そ―22			カムィヤキ(鉢)
3219	2層	せ―22			
3220	3層	そ―22			
3221	3層	す―21			
3222	4層	し―22			
3223	5層	そ―24			
3224	3層	す―21			
3225	攪乱	ち―22			
3226	1層	不明			
3227	1層	た―21			
3228	3層	し―22			
3229	5層	し―22			
3230	5層	す―25			青白磁(蓋)カムィヤキ(把手付壺)
3231	2層	す―24			
3232	2層・上	す―21			
3233	5層	そ―23			
3234	5層	そ―23			
3235	3層	し―24			
3236	3層	そ―24			
3237	7層	そ―20			
3238	2層・上	し―22			青白磁(袋物)煙管
3239	3層	そ―21			
3240	7層	す―21			カムィヤキ(把手付壺)
3241	4層	す―23			
3242	4層	し―24			
3243	2層	そ―22			
3244	4層	し―22			
3245	5層	し―23			
3246	4層	そ―22			
3247	3層	し―24			
3248	3層	す―23			
3249	3層	す―21			
3250	Ⅳ層	ち―24	溝2号埋土		沖無(鉢)
3251	3層	し―21			
3252	3層	す―21			
3253	3層	す―24			
3254	3層	し―22			
3255	2層・上	し―21			カムィヤキ(鉢)
3256	3層	し―22			
3257	5層	す―25			
3258	5層	そ―24			
3259	4層	し―24			
3260	3層	そ―22			
3261	5層	せ―21			カムィヤキ(小壺)グスク系土器(皿形)
3262	不明	す―25			
3263	3層	そ―21			
3264	3層	し―24			
3265	3層	し―22			
3266	2層	ち―22			
3267	4層	し―22			
3268	3層	す―24			
3269	4層	し―23			
3270	不明	そ―21			
3271	4層	そ―22			
3272	不明	す―25			カムィヤキ(壺類)
3273	4層	し―22			
3274	5層	そ―24			
3275	4層	し―24			
3276	1層	し―24			沖施(急須)
3277	5層	す―25			
3278	4層	す―26			
3279	4層	そ―23			
3280	3層	し―22			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
3281	2層・上	せ－22			
3282	3層	さ－21			
3283	9層	し－19	Pit14		
3284	3層	し－23			
3285	9層	せ－20	Pit3		
3286	4層	ち－23			
3287	3層	さ－21			
3288	4層	そ－23			
3289	7層	し－22			
3290	7層	す－21			
3291	5層	そ－21			
3292	9層	し－20	Pit16-a		
3293	9層	し－19	Pit14-e		
3294	2層	そ－22			緑釉陶器(急須)
3295	4層	せ－22			
3296	Ⅳ層	た－24	溝2号埋土		中国染付(碗)
3297	5層	せ－25			
3298	3層	そ－22			
3299	2層	そ－21			
3300	9層	し－20	Pit13		
3301	9層	し－20	Pit50-b		
3302	9層	さ－20	Pit2		
3303	2層	つ－21			
3304	9層	し－20	Pit3		
3305	3層	す－23			
3306	9層	し－20	Pit52		
3307	9層	し－20	Pit50		
3308	9層	さ－20	Pit4		
3309	4層	た－22			
3310	9層	し－20	Pit50-c		
3311	8層	せ－21			
3312	9層	し－19	Pit4		
3313	5層	せ－25			グスク系土器(鍋形・③)
3314	9層	す－20	Pit1		
3315	4層	せ－23			
3316	9層	し－20	Pit50-a		
3317	1層	ち－21			
3318	1層	せ－23			
3319	2層	す－22			
3320	9層	し－19	Pit15		
3321	9層	し－20	Pit50-c		
3322	2層・中	つ－23			トリ
3323	2層・上	た－22			
3324	9層	す－20	Pit23		
3325	2層・下	た－21			
3326	9層	す－20	Pit1		
3327	3層	す－23			
3328	2層・上	ち－21			
3329	4層	せ－23			
3330	7層	し－21			カムィヤキ(壺類)
3331	9層	す－19	Pit26		
3332	9層	し－20	Pit50		
3333	9層	し－20	Pit50		
3334	2層・上	つ－20			
3335	2層・上	す－22			
3336	2層	ち－23			
3337	4層	つ－21			
3338	1層	ち－23			
3339	2層・上	た－22			
3340	2層・上	つ－22			沖施(カラカラ)ホシキヌタ
3341	9層	す－21	Pit7		
3342	3層	せ－22			
3343	1層	不明			
3344	9層	し－20	Pit16-a		
3345	3・4層	た－21	溝1号埋土		沖施(碗、小碗)
3346	9層	し－20	Pit50		
3347	5層	た－22			
3348	2層・上	つ－23			
3349	2層・上	た－21			
3350	9層	し－20	Pit50		
3351	8層	せ－20			
3352	9層	さ－21	Pit10		
3353	9層	し－20	Pit4－h		
3354	9層	し－20	Pit51		
3355	2層・上	ち－24			
3356	2層・上	た－24			
3357	1層	し－21			
3358	3層	し－23			
3359	4層	た－22			
3360	9層	さ－20	Pit19		
3361	2層・上	た－21			沖施(カラカラ)
3362	9層	し－20	Pit34		
3363	2層・中	た－21			
3364	撹乱	し－25			
3365	3層	そ－23			
3366	3層	す－24			後期系土器(有文・b)
3367	2層	た－21			沖施(皿)
3368	5層	せ－23			
3369	不明	ち－20			
3370	2層・上	そ－23			
3371	2層	ち－23			
3372	3層	す－22			
3373	3層	せ－22			

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
3374	9層	す－25	溝状遺構B Dot194		
3375	7層	し－22			
3376	8層	こ～せ－25～27	Dot56		
3377	3層	し－24			
3378	2層・上	た－21			カムィヤキ(壺類)中国系陶器、ヒショウラクガイ、キヌカツギイモ
3379	2層	ち－22			カムィヤキ(小壺)沖無(甕)
3380	2層・上	た－21			中国染付(小碗)沖施(碗)沖無(碗)
3381	2層・上	そ－20			カムィヤキ(壺類)沖無(碗)陶質土器(火炉)
3382	2層・中	た－21			
3383	2層・上	そ－21			カムィヤキ(鉢)
3384	1層	そ－20			沖無(甕)
3385	9層	し－20	Pit37-c		
3386	9層	し－19	Pit14		
3387	9層	し－20	Pit50-a		
3388	不明	つ－20			
3389	9層	せ－25	溝状遺構B Dot139		
3390	9層	せ－25	溝状遺構B Dot138	14.355	石器
3391	9層	せ－25	溝状遺構B Dot209		
3392	8層	こ～せ－25～27	Dot19		
3393	9層	す－25	溝状遺構B Dot202		
3394	9層	つ－23	埋葬遺構4 Dot1		
3395	9層	す－25	溝状遺構B Dot157		
3396	8層	こ～せ－25～27	Dot39	14.512	カムィヤキ(壺類・有文)
3397	9層	し－25	溝状遺構B Dot217		
3398	8層	せ－26			
3399	8層	こ～せ－25～27	Dot46		
3400	9層	す－25	溝状遺構B		
3401	8層	こ～せ－25～27	Dot24		
3402	9層	す－25	溝状遺構B Dot203		
3403	8層	こ～せ－25～27	Dot61		
3404	8層	こ～せ－25～27	Dot40		
3405	9層	す－25	溝状遺構B Dot143		
3406	8層	こ～せ－25～27	Dot38		
3407	8層	こ～せ－25～27	Dot15		
3408	8層	こ～せ－25～27	Dot20		
3409	9層	不明	Dot216		
3410	9層	し－25	溝状遺構B Dot229		
3411	8層	こ～せ－25～27	Dot33		
3412	9層	し－25	溝状遺構B Dot204		
3413	9層	そ－23	溝状遺構G		
3414	9層	し－25	溝状遺構B Dot241		
3415	9層	し－25	溝状遺構B Dot223		
3416	9層	し－25	溝状遺構B Dot238		
3417	8層	こ～せ－25～27	Dot6	14.677	カムィヤキ(小壺、壺類)
3418	9層	し－25	溝状遺構B Dot215		
3419	8層	こ～せ－25～27	Dot55		
3420	9層	す－25	溝状遺構B Dot165		
3421	8層	こ～せ－25～27	Dot11		
3422	9層	す－25	溝状遺構B Dot167		
3423	8層	こ～せ－25～27	Dot14		
3424	9層	つ－23	埋葬遺構4 Dot6		
3425	9層	し－25	溝状遺構B Dot208		
3426	8層	こ～せ－25～27	Dot42		

ナンバリング	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
3427	9層	せ－25	溝状遺構B Dot186		
3428	9層	せ－25	溝状遺構B Dot185		
3429	9層	し－25	溝状遺構B Dot246		
3430	9層	し－25	溝状遺構B Dot231		
3431	9層	せ－25	溝状遺構B Dot188		
3432	9層	つ－23	埋葬遺構4 Dot11		
3433	9層	し－25	溝状遺構B Dot247	14.826	
3434	9層	す－25	溝状遺構B Dot176		
3435	9層	し－25	溝状遺構B Dot235		
3436	8層	こ～せ－25～27	Dot16		
3437	8層	こ～せ－25～27	Dot34		
3438	8層	こ～せ－25～27	Dot36		
3439	9層	し－25	溝状遺構B Dot245	14.824	グスク系土器(鍋形・③)
3440	9層	し－25	溝状遺構B Dot226		
3441	5層	し－26			
3442	8層	こ～せ－25～27	Dot25		
3443	9層	し－25	溝状遺構B Dot230		
3444	9層	せ－25	溝状遺構B Dot189		
3445	8層	こ～せ－25～27	Dot32		
3446	9層	つ－23	埋葬遺構4 Dot5		
3447	9層	す－25	溝状遺構B Dot177		
3448	9層	す－25	溝状遺構B Dot159		
3449	9層	せ－25	溝状遺構B Dot193	14.183	グスク系土器(鍋形・b-ii)
3450	9層	し－25	溝状遺構B Dot237	14.917	グスク系土器(皿形)
3451	9層	し－25	溝状遺構B Dot234		
3452	9層	し－25	溝状遺構B Dot206		
3453	9層	し－25	溝状遺構B Dot239		
3454	8層	こ～せ－25～27	Dot63		
3455	8層	こ～せ－25～27	Dot5		
3456	9層	せ－25	溝状遺構B Dot47		
3457	9層	す－25	溝状遺構B Dot142	14.510	カムイヤキ(壺類・有文・1-c)
3458	9層	し－25	溝状遺構B Dot236	14.841	グスク系土器(底部資料・a)
3459	9層	し－25	溝状遺構B Dot233		
3460	9層	す－25	溝状遺構B Dot141		
3461	9層	し－25	溝状遺構B Dot219		
3462	9層	つ－23	埋葬遺構4 Dot8		
3463	8層	こ～せ－25～27	Dot4		
3464	9層	し－25	溝状遺構B Dot218		
3465	8層	こ～せ－25～27	Dot18		
3466	8層	こ～せ－25～27	Dot52		
3467	9層	せ－25	溝状遺構B Dot181		
3468	9層	せ－25	溝状遺構B Dot173		
3469	9層	し－25	溝状遺構B Dot205		
3470	8層	こ～せ－25～27	Dot48		
3471	9層	す－25	溝状遺構B Dot163		
3472	9層	せ－25	溝状遺構B Dot182		
3473	8層	こ～せ－25～27	Dot45		
3474	9層	せ－25	溝状遺構B Dot190		
3475	9層	せ－25	溝状遺構B Dot191		
3476	9層	せ－25	溝状遺構B Dot192		
3477	9層	せ－25	溝状遺構B Dot187		
3478	9層	そ－23	溝状遺構G		
3479	9層	し－25	溝状遺構B Dot224		
3480	9層	す－25	溝状遺構B Dot161		
3481	8層	せ－26	E列3		
3482	9層	し－25	溝状遺構B Dot220		
3483	9層	す－25	溝状遺構B Dot175		
3484	8層	こ～せ－25～27	Dot49		
3485	8層	こ～せ－25～27	Dot12		
3486	9層	つ－23	埋葬遺構4 Dot7		
3487	9層	し－25	溝状遺構B Dot240		
3488	9層	せ－25	溝状遺構B Dot174		
3489	9層	し－25	溝状遺構B Dot207		
3490	9層	す－25	溝状遺構B Dot168		
3491	9層	す－25	溝状遺構B Dot179		
3492	9層	し－25	溝状遺構B Dot225		
3493	9層	せ－25	溝状遺構B	14.303	軽石
3494	8層	す－26	R列11		
3495	9層	す－25	溝状遺構B Dot166		
3496	8層	せ－26	G列1		
3497	不明				
3498	8層	こ～せ－25～27	Dot69	14.678	青磁(皿)
3499	9層	す－25	溝状遺構B Dot155		
3500	9層	し－25	溝状遺構B		
3501	9層	す－25	溝状遺構B Dot144		
3502	8層	こ～せ－25～27	Dot54		
3503	9層	す－25	溝状遺構B Dot146		
3504	8層	こ～せ－25～27	Dot3		
3505	9層	す－25	溝状遺構B Dot151		
3506	9層	す－25	溝状遺構B Dot158		
3507	9層	す－25	溝状遺構B Dot145		
3508	9層	す－25	溝状遺構B Dot152		
3509	8層	こ～せ－25～27	Dot13		
3510	9層	せ－25	溝状遺構B Dot183		
3511	9層	し－25	溝状遺構B Dot244		
3512	9層	し－25	溝状遺構B Dot222		
3513	9層	す－25	溝状遺構B Dot156		
3514	8層	こ～せ－25～27	Dot43		
3515	8層	こ～せ－25～27	Dot23		
3516	8層	こ～せ－25～27	Dot53		
3517	9層	せ－25	溝状遺構B Dot180		
3518	9層	す－25	溝状遺構B Dot178		
3519	8層	こ～せ－25～27	Dot30		
3520	8層	こ～せ－25～27	Dot50		
3521	9層	し－25	溝状遺構B Dot243		
3522	8層	こ～せ－25～27	Dot31		
3523	8層	こ～せ－25～27	Dot9		
3524	9層	す－25	溝状遺構B Dot196	14.456	玉(ガラス)
3525	8層	こ～せ－25～27	Dot27		

ﾅﾝﾊﾞｰﾘﾝｸﾞ	層序	グリッド	出土地	EL	遺物
3526	9層	せ－25	溝状遺構B Dot184		
3527	9層	す－25	溝状遺構B Dot169		
3528	8層	こ～せ－25～27	Dot58		
3529	9層	し－25	溝状遺構B Dot228		
3530	9層	す－25	溝状遺構B Dot162		
3531	9層	す－25	溝状遺構B Dot164		
3532	8層	こ～せ－25～27	Dot47		
3533	8層	こ～せ－25～27	Dot17	14.181	カムィヤキ(把手付壺)
3534	9層	し－25	溝状遺構B Dot221		
3535	8層	こ～せ－25～27	Dot44		
3536	9層	し－25	溝状遺構B Dot232		
3537	8層	こ～せ－25～27	Dot51		
3538	8層	こ～せ－25～27	Dot37		
3539	8層	こ～せ－25～27	Dot2		
3540	9層	す－25	溝状遺構B Dot160		
3541	9層	す－25	溝状遺構B Dot147		
3542	9層	す－25	溝状遺構B Dot154		
3543	9層	し－25	溝状遺構B Dot242		
3544	9層	し－25	溝状遺構B Dot227	14.833	グスク系土器(底部資料・c)
3545	9層	す－25	溝状遺構B Dot150		
3546	9層	す－25	溝状遺構B Dot148		
3547	8層	こ～せ－25～27	Dot35		
3548	9層	す－25	溝状遺構B Dot149		
3549	9層	す－25	溝状遺構B Dot153		
3550	8層	こ～せ－25～27	Dot41		
3551	8層	す－27	S列1		
3552	8層	す－27	T列2		
3553	8層	す－26	I列7		カムィヤキ(把手付壺)
3554	9層	不明			
3555	8層	す－26	L列3		
3556	8層	せ－26	D列4		
3557	8層	す－25	N列15		
3558	8層	し－26	S列16		
3559	9層	す－25	溝状遺構B Dot195		
3560	9層	し－25	溝状遺構B Dot248		
3561	9層	せ－25	溝状遺構B	14.392	白磁(碗・Ⅰ-c-ⅰ)
3562	9層	す－22	埋葬遺構2		
3563	8層	し－26	R列13		
3563	Ⅱ層	つ－25			
3564	9層	せ－25	溝状遺構B		
3565	9層	す－25	溝状遺構B		
3566	8層	し－25	溝状遺構A		
3567	9層	す－25	溝状遺構B		
3568	9層	つ－23	埋葬遺構4		
3569	9層	つ－23	埋葬遺構4		
3570	9層	つ－23	埋葬遺構4		グスク系土器(鍋形・b-ⅱ)
3571	9層	つ－23	埋葬遺構4		グスク系土器(鍋形・b-ⅱ)
3572	9層	つ－23	埋葬遺構4		
3573	9層	つ－23	埋葬遺構4		グスク系土器(鍋形・b-ⅱ)
3574	9層	つ－23	埋葬遺構4		
3575	8層	こ～せ－25～27			

附編２　　伊佐前原第一遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

宜野湾市に所在する伊佐前原第一遺跡は、琉球石灰岩で構成される段丘と海岸低地との間に広がる緩傾斜地上に位置している。今回の発掘調査により、グスク時代から近現代にいたるまでの人間活動の痕跡が確認された。なかでもグスク時代の遺構・遺物の検出・出土例は比較的豊富な内容を持ち、居住・耕作・埋葬といった当時の生活の様相を伝える資料が得られている。本報告では、これらの資料からより多くの情報を得ることおよびその検証を目的として、自然科学の手法を応用した分析を行う。具体的には、発掘調査所見に従って以下の課題と試料が設定された。

１）堆積層および遺構の年代について

伊佐前原第一遺跡における調査区の層序は、上位より１層から９層まで設定されている。１層は米軍による造成土、２層は米軍による土地接収以前の旧表土であり、３層以下がグスク時代の土層となっている。そのうち３層～５層はグスク土器の小片を含む包含層、６層および７層はグスク土器や青磁、白磁、類須恵器などの包含層である。８層は７層と同様の遺物包含層であるが、同時に炉跡や列状ピット群などの遺構が検出されている。９層は、調査区内では地山と称されているが、埋葬遺構や掘立柱跡などが検出されている。

各層から出土した遺物より、本遺跡のグスク時代は12～13世紀頃の年代が主体になっていると考えられている。ここでは、９層を検出面とする柱跡および溝状遺構、８層を検出面とする№26遺構、さらに６層の各遺構から炭化材の出土が認められたことから、これらを試料として放射性炭素年代を行い、考古遺物以外の年代資料を得るとともに各層位の年代差の有無についても検討する。

２）埋葬遺構の検証

グスク時代の遺構検出面で最も下位から検出された「すー22グリッド」の埋葬遺構２は、木棺の痕跡が確認され、人骨も出土した。本報告では、木棺の痕跡から実際に木材に由来する物質あるいは成分の検出を試みるとともに覆土の微細構造からも木棺の存在を検証する。方法としては、覆土中の腐植含量と腐植の形態を調べ、木棺の朽ちた影響を探る。また、朽ちた木棺の細片を検出するために花粉分析方法を応用し、分析処理後の残渣中に木材由来の組織片が認められるか確認する。この際、花粉化石が検出されれば、当時の木棺内の状況および周囲の植生に関する情報とする。さらに木棺の痕跡が認められた部分のブロック状試料について軟Ｘ線写真による土壌の微細形態の解析を行い、木棺の物理的な痕跡を探る。

また、埋葬遺構の埋葬部分からは骨が出土しているものの副葬品が全く出土しなかったことから、覆土における腐植含量、リン酸・カルシウムの成分分析を行い、埋葬状況を確認する。

３）植栽痕の検証

グスク時代の遺構検出面では、総数370余の列状ピット群が検出されている。ピットはほぼ円形を呈し、等間隔で列をなしている。列は北西ー南東方位が22列、北東ー南西方位が７列あり、ピットとピットの間隔は約10㎝、現地でのピットの大きさの一例としては直径約28㎝、深さ約12㎝を測るとされている。これまでの検出例などから、これらは農耕遺構と考えられ、植栽痕とも称されている。現時点では、何をどのように植えたのかは明らかにされておらず、その具体的な性格の解明が待たれている。ここでは、植栽痕の土壌成分、植物珪酸体組成、微細遺物の産状を明らかにすることと軟Ｘ線写真による土壌微細形態の観察を行い、植栽痕の性格に係わる情報を見出す。なお、土壌成分の分析については、植栽痕が有機物による痕跡であることを確認するために有機炭素、全窒素、全リン酸含量を求め、施肥による養分富化の検証を目的として可給態リン酸の含量を分析する。

４）周辺植生および柱材の用材選択について

先の放射性炭素年代測定の試料とした炭化材は、同時に当時の周辺植生に由来する可能性がある。したがって、その樹種を同定することにより、当時の植生に関する資料を得ることができる。また、選択された試料の中には掘立建物の柱穴跡から出土した炭化材があることから、これについては柱に用いられた可能性についても検討する。

表１　試料一覧

試料番号	試料の質	グリッド	遺構名	遺構の性格	採取位置	採取層位	備考	分析目的	分析方法(点数)						
									14C	P	土	PO	微	軟X	材
No1	炭化材	そ−22	No22Pit	掘立柱跡	柱痕中央	9層(検出面)		年代推定･用材選択	1						1
No2	炭化材	こ−26	溝状遺構B	不明	木片集中	9層(検出面)		年代推定･周辺植生	1						1
No3	土壌	す−22	埋葬遺構2	埋葬遺構	埋葬遺構木棺部分	9層(検出面)	ブロックサンプルNo4	木棺の確認		1	1		1	1	
No4	土壌	す−22	埋葬遺構2	埋葬遺構	埋葬遺構内	9層(検出面)	ブロックサンプルNo2	埋葬状況の確認			1				
No5	土壌	し−26	R−13Pit	植栽痕	植栽痕および周囲土壌切り取り	8層(検出面)	植栽痕全断面試料(軟X線写真撮影用)1点、土壌薄片観察用試料3点、土壌分析･植物珪酸体分析用試料12点	植栽痕の検証			6	6	1	1	
No6A	炭化材	せ−22	5a層			6層		層序の年代	1						1
No6B	炭化材	す−26	No26遺構			8層(検出面)	フォイル包み５点	年代推定･周辺植生	1						1
合計									4	1	8	6	1	2	4

凡例　14Ｃ：放射性炭素年代測定　Ｐ：花粉分析および微細有機物分析　土：土壌理化学分析　PO：植物珪酸体分析　微：微細遺物検出同定
軟Ｘ：軟Ｘ線写真撮影解析　薄：土壌薄片作製観察　材：炭化材樹種同定

１．試料

上述した各課題に対する試料として、発掘調査者側により試料No1～6までの試料が提供された。詳細を表１に示す。

試料No1～6のうち、試料No3および４は、約８㎝角の立方体を呈したブロックサンプルであり、試料No5は植栽痕とその周囲の土壌を含めた約７０㎝角の立方体を呈したブロックサンプルである。

試料No5については、植栽痕の縦断面の観察を目的として、厚さ約１㎝ほどの板状のブロックを整形し、軟Ｘ線写真撮影用試料とした。また、その際に整形した断面を観察して植栽痕と地山と思われる部分の分層を行った。図１にその状況を示す。この分層に基づいた試料No5-1～12を採取し、これを土壌理化学分析および植物珪酸体分析用の試料とした。分析に供した試料は、植栽痕内と考えられる試料No5-9～12と植栽痕下底の粗粒部と考えられる試料No5-5および地山とされる試料No5-7の6点を選択した。さらに整形の際に生じた土のうち、植栽痕内と考えられる部分の土を回収し、微細遺物洗い出し用の試料とした。

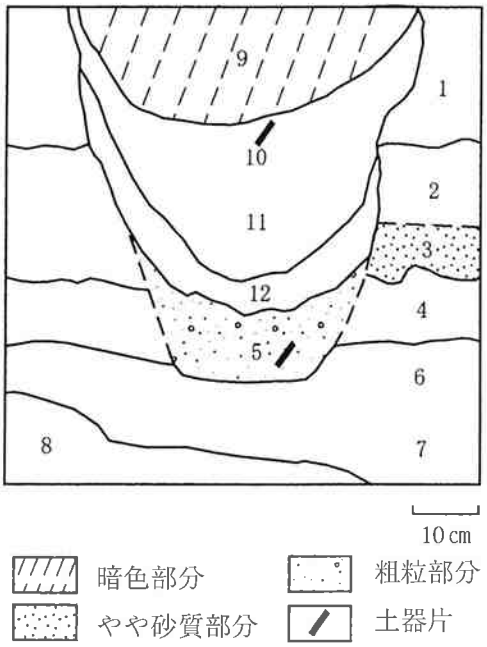


図1　植栽痕試料(試料No5)の分析試料採取位置(図中の番号)

２．分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は、(株) 地球科学研究所を通じて、アメリカ合衆国ベータ社（BETA ANALYTIC INC.）の協力を得た。放射性炭素の半減期として5,568年を使用してある。

測定結果は、測定値と補正年代値を示した。測定値は試料の14C/12C比から、現在（AD1950年）から何年前かを計算した年代（ＢＰ）である。補正年代は、試料の炭素安定同位対比（13C/12C）を測定して試料の炭素の同位体分別を知り、14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代である。また、δ13Cは試料の測定14C/12C比を補正するための13C/12C比である。

（２）花粉および微細有機物分析

試料約10ｇについて、水酸化カリウムによる泥化、篩(しべつ)別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理の順に物理・化学的処理を施して花粉および微細有機物を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する花粉や微細有機物について同定・計数する。

（３）土壌理化学分析

腐植含量および有機炭素はチューリン法、腐植酸の形態分析はMelanic Index（ＭＩ）（本名・山本，1992)、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法（土壌標準分析・測定法委員会，1986)、全窒素は硫酸分解－水蒸気蒸留法、可給態リン酸はトルオーグ法（土壌養分測定法委員会，1981）でそれぞれ行った。以下に各項目について説明する。

＜腐植含量・有機炭素量＞

土壌中に蓄積される腐植物質の給源は動植物の遺体、根、微生物などである。したがって、地表面が安定で、植生が長く維持されると表層には多くの腐植物質が集積することになる。一方、遺跡で検出される遺構などの覆土は、人為的な影響も含めて異地性のものが多く、表層から下層へ腐植物質が漸減する現象が必ずしも当てはまらない。しかし、腐植物質の多い覆土の出現が特徴的な場合、そこには給源物質として動植物遺体の存在が指摘されることもある。分析処理過程は以下の通りである。

粉砕土試料0.100～0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Ｎクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2Ｎ硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（０rg-C　乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

＜Melanic Index（ＭＩ）＞

Melanic Index（ＭＩ）は腐植物質にとって最も特徴的な波長域における２波長の比で、Pg（Ｐ型腐植酸に認められる緑色の特殊な吸収をもつ色素）によるスロープが急峻に現れる450nmと520nmの吸光度比を求める方法である。我が国の代表的な火山灰土壌についてＭＩを測定した結果、1.70を境にそれ以下がＡ型腐植酸、それ以上がＰ型腐植酸に分類され、腐植化度の高いＡ型と腐植化度の低いP型が明瞭に判別される。また数多くの分析結果から、MI≦1.7の場合はA型腐植酸、1.7＜ＭＩ≦2.0の場合はＢ型腐植酸、2.0＜ＭＩの場合はP, Rp型腐植酸と本名・山本（1992）では推定している。分析処理過程を以下に述べる。

風乾細土試料約1.0ｇを50ml容遠心管に入れ、分注器で0.5%NaOH溶液約25mlを加えた。遠心管に蓋をしてテープで密封し、室温で１時間振とうする。振とう終了後、0.1%高分子凝集剤溶液１～２滴を加え、よく振り混ぜた後、4,000rpm、15分間の遠心分離で抽出腐植溶液を得る。得られた抽出腐植溶液の約１mlを試験管にとり、0.1% NaOH溶液20mlを分注器で加える（NaOHの濃度は約0.1%となる)。この溶液について、分光光度計により450、520nmの吸光度を測定する。450nmの吸光度が１を越える場合には、さらに0.1%NaOH溶液で希釈して測定した（測定は抽出後、３時間以内)。結果の表示は、ＭＩ＝K_{450}／K_{520}で示した。

＜リン酸、カルシウム含量＞

土壌中におけるリン酸の天然賦存量は、いくつかの報告事例があるが（Bowen, 1983;Bolt･Bruggenwert,1980;川崎ほか，1991;天野ほか，1991)、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P_2O_5mg/g（川崎ほか，1991）と言う報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P_2O_5mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通１～50CaOmg/g（藤貫，1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい。以下に処理過程を述べる。

風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO_3）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

＜全窒素（Ｔ－Ｎ）＞

風乾細土試料1.00ｇをケルダール分解フラスコに秤り、分解剤約3.0ｇと硫酸10mlを加え加熱分解する。分解後、

蒸留水約30mlを加え放冷した後、分解液全量を供試し水蒸気蒸留法によって窒素を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全窒素含量（T-N乾土%）を求めた。

＜可給態リン酸＞

風乾細土1.00ｇを300ml三角フラスコに秤りとり、0.002Ｎ硫酸溶液（pH3）200mlを加え、室温で１時間振とうした後、ろ過する。ろ液一定量を試験管に採り、混合発色試薬を加えて分光光度計によりリン酸濃度を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの可給態リン酸量（P_2O_5mg/100g）を求める。

（４）植物珪酸体分析

湿重５ｇ前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，１分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表と植物珪酸体組成図として示す。植物珪酸体組成は、短細胞珪酸体が短細胞珪酸体総数、機動細胞珪酸体が機動細胞珪酸体総数をそれぞれ基数として百分率で算出した。また、試料中に見られた組織片についても＋記号で表示した。

（５）微細遺物検出同定

試料No.5からは１Kgを秤量した。数%の水酸化ナトリウム水溶液に一昼夜浸して試料を泥化させたあと、0.5mmの篩を通して泥分を洗い流し、残渣を集めた。残渣を定温で乾燥させたあと、その中から同定可能な微細遺物を抽出・同定する。

（６）堆積物微細形態解析（軟Ｘ線写真撮影）

試料No.3埋葬遺構木棺部分から採取された柱状試料を厚さ１㎝の板状に成形して軟Ｘ線写真の撮影を行った。また、試料No.5は植栽痕全体を厚さ１㎝の板状に成形し、軟Ｘ線写真の撮影を行った。この際、試料が大きかったため部分的に撮影を行い、各部分の写真を合成して観察に使用した。また、試料No.5軟Ｘ線撮影試料は、図１に示した土壌分析試料採取後に調整したものである。そのため採取試料分の厚さ分だけズレがあり調整後の断面の層序区分は図１とは異なるものになっている。なお、軟Ｘ線写真の撮影は、（株）東都文化財研究所、釜石文化財保存処理センターの協力を得た。撮影後の写真の撮影は、パーソナルコンピュータに取り込み、画像処理を行いながら、特徴的な構造の解析を行った。

（７）炭化材樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。なお、試料No.6Bには複数の炭化材が認められたので、便宜的に番号を付して同定を行った。

３．結果

（１）放射性炭素年代測定

結果を表２に示す。９層から６層までの出土層位をもつ４点間の試料の測定年代幅は比較的狭く、測定値で1,090～1,140BP、補正年代値で1,060～1,090BPの間に含まれる。

（２）花粉および微細有機物分析

埋葬遺構２の試料No.3からは、花粉および微細有機物は全く検出されなかった。

（３）土壌理化学分析

ａ）埋葬遺構２試料No.3（木棺部分）の腐植含量

分析結果を表３に示す。腐植含量は、0.54%と極めて低く、またＭＩも1.92とＢ型腐植酸の特徴を示した。これらの結果からは、本土壌中に木棺成分の残留は見出せない。

ｂ）試料No.4（埋葬部分）の腐植含量、リン酸含量、カルシウム含量

分析結果を表３に示す。試料の土性はHC（重埴土）に区分され、極めて粘質な土壌であることから、土壌のもつ潜在的な成分保持力は高いことが予想される。一方、土色については10YR5/4とにぶい黄褐色を呈することから、腐食物質の量は低いことが推察される。

表２　放射性炭素年代測定結果

試料名	試料の質	グリッド	遺構名	遺構の性格	採取位置	採取層位	時代観	測定結果			
								測定値(BP)	δ14C (‰)	補正年代	Code No.
No.1	炭化材(アカガシ亜属)	そ―22	No.22Pit	堀立柱後	柱痕中央	９層(検出面)	12世紀前後	1090±40	-26.5	1070±40	Beta-148678
No.2	炭化材(ヤシ類)	こ―26	溝状遺構B	不明	木片集中	９層(検出面)	12世紀前後	1140±40	-28.0	1090±40	Beta-148679
No.6A	炭化材(シイノキ属近似種)	せ―22	５ａ層			６層	12世紀	1090±40	-26.7	1060±40	Beta-148680
No.6B	炭化材(ヤシ類)	す―26	No.26遺構			８層(検出面)	12世紀	1140±40	-28.7	1080±40	Beta-148681

＊：測定値：現在（1950年AD）より何年前（BP）かを計算した年代。半減期として5568年を用いた。
補正年代：試料の炭素安定同位対比（13C/12C）を測定して試料の炭素同位体分別を知り、14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代

分析結果では腐植含量はやはり0.71％と低い傾向が認められ、リン酸、カルシウム含量についてもそれぞれ2.09P_2O_5mg/g、2.42CaOmg/gと低い値であることが示された。これらの値は、明らかに天然賦存量を下回る傾向にあることから、遺体成分の痕跡は認められないものと判断される。

ｃ）試料No.5（植栽痕）の分析結果

分析結果を表４に示す。有機炭素含量は試料中で最も黒色味の強い試料No.5-9で0.63％であるほかは0.30～0.49％、全窒素については全体で0.05～0.07％、可給態リン酸については10.8～18.2mg/100gと全リン酸含量を除いた各成分含量が極めて低い傾向にあることが明らかとされた。

したがって有機炭素の結果からは、暗色部である試料No.5-9において他の試料と比べてやや腐植物質が多い傾向は認められるものの、他の部分については、地山として捉えられる試料No.5-7と顕著な差異は認められないことから、有機物の痕跡を見出すことはできない。

全リン酸含量においては全体的に石灰岩土壌の特徴を反映し、リン酸の含有量が全体的に高い傾向にあるが、その中でも植栽痕内と考えられる試料No.5-10、11、12においてやや高い傾向が認められた。この結果が植栽に関わるものか、単に覆土の差異を指摘するものか、本結果のみでは判断できない。一方、可給態リン酸については全体的に含量が低い傾向にあることから、仮に施肥が行われていたとしても、本結果からその確証を得ることは難しい。

表３　埋葬遺構２採取試料の土壌理化学分析結果

試料番号	グリッド	遺構名	土性	土色		腐植含量(%)	ＭＩ	P_2O_5(mg/g)	CaO(mg/g)
No.3	す―22	埋葬遺構２	ＨＣ	10YR4/3	にぶい黄褐	0.54	1.92	―	―
No.4	す―22	埋葬遺構２	ＨＣ	10YR5/4	にぶい黄褐	0.71	―	2.09	2.42

注.（１）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
（２）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
ＨＣ（重埴土：粘土45～100％、シルト０～55％、砂０～55％）

表４　植栽痕試料（試料No.5）の土壌理化学分析結果

試料番号	採取層準	土性	土色		有機炭素(%)	全窒素(%)	全リン酸(mg/g)	可給態リン酸(mg/100g)
No.5	5	ＨＣ	10YR5/3	にぶい黄褐	0.30	0.05	2.96	12.9
	7	ＨＣ	10YR5/3	にぶい黄褐	0.32	0.05	2.84	10.8
	9	ＨＣ	10YR4/3	にぶい黄褐	0.63	0.06	2.98	12.5
	10	ＨＣ	10YR5/3	にぶい黄褐	0.49	0.07	3.56	18.2
	11	ＨＣ	10YR5/4	にぶい黄褐	0.40	0.06	3.27	12.7
	12	ＨＣ	10YR5/3	にぶい黄褐	0.31	0.05	3.03	12.6

注.（１）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
（２）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
ＨＣ（重埴土：粘土45～100％、シルト0～55％、砂0～55％）
（３）採取層準：図１参照

（4）植物珪酸体分析

結果を表5・図2に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、試料№5-9を除いて、検出個数が少ない。また、概して保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食混）が認められる。

地山の試料№5-7ではタケ亜科などがわずかに認められるに過ぎない。植栽痕下底の可能性のある試料№5-5では栽培植物であるイネ属の短細胞珪酸体がわずかに認められる。

植栽痕内と考えられる試料№5-12・11・10・9ではタケ亜科やイネ属などが検出され、特に試料№5-9でイネ属の検出個数が多い。また、この中には稲籾殻に形成されるイネ属穎珪酸体も認められる。この他、オオムギやコムギなどムギ類の分類群を含むオオムギ族もわずかに認められる。

（5）微細遺物検出同定

分析の結果、残試料のほとんどは岩片と泥化しきれなかった土塊で、同定可能な微細遺物は検出されなかった。有機物は現在のものと思われる細根が微量検出されたほか、1㎜程度の微細な炭化物が1～2個認められたにすぎない。

表5　植栽痕試料（試料№5）の植物珪酸体分析結果

種類	覆土					地山
採取層準	9	10	11	12	5	7
イネ科葉部短細胞珪酸体						
イネ族イネ属	58	6	3	4	1	—
タケ亜科	11	1	1	1	—	—
ヨシ属	1	—	—	—	—	—
ウシクサ族ススキ属	—	10	8	7	—	2
イチゴツナギ亜科オオムギ族	2	—	—	—	—	—
イチゴツナギ亜科	10	2	—	—	—	—
不明キビ型	7	26	13	17	5	3
不明ヒゲシバ型	14	1	1	6	—	1
不明ダンチク型	22	2	1	4	—	—
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
イネ族イネ属	14	3	2	7	—	—
タケ亜科	19	15	4	4	1	1
ヨシ属	1	—	—	—	—	—
ウシクサ族	42	5	2	2	—	2
不明	51	11	2	2	1	5
合計						
イネ科葉部短細胞珪酸体	125	48	27	39	6	6
イネ科葉身機動細胞珪酸体	127	34	10	15	2	8
総計	252	82	37	54	8	14
組織片						
イネ属穎珪酸体	74	5	—	1	—	—

採取層準；図1参照

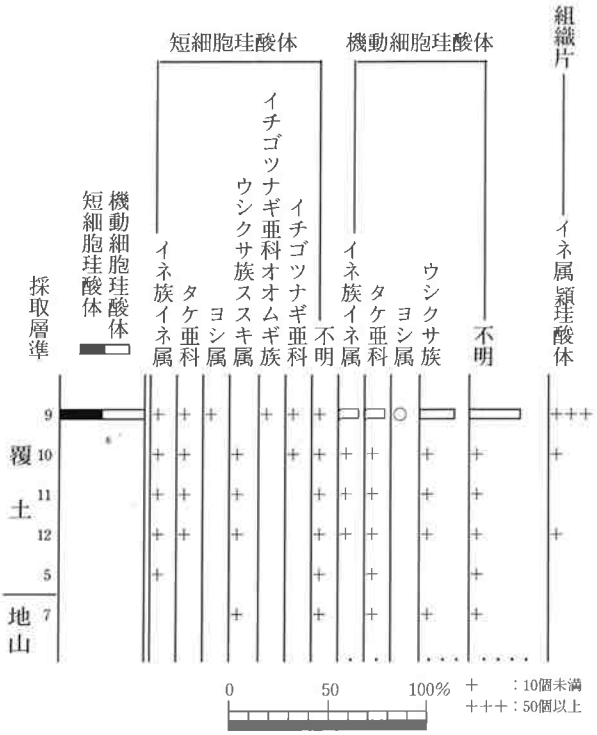


図2　植栽痕試料（試料№5）の植物珪酸体組成

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、○は1％未満の種類、＋はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個未満の試料で検出された種類を示す。また、組織片の産状を検出個数により＋記号で示す。

（6）堆積物微細形態解析（軟X線写真撮影観察）

a）埋葬遺構2試料№3（木棺部分）：図版3

試料中央部分には垂直方向に帯状に暗色部分が認められる。この暗色部分から左側はシルトを主体とする堆積物、右側が砂質シルトからなり土質に変化が認められる。これらの堆積物の構造は、大小の集合体（ペッド）から構成されている。ペッドの大きさは暗色部分でやや小さくなる。また、試料全体に細かな植物根が密に入る。

b）試料№5（植栽痕）：図版4

植栽痕が構築されている堆積物はいずれも石灰岩の風化土壌であるマージからなり、若干の層相の違いから4層に区分される。最下位より層準Aまでの層は微粒砂・シルトからなる。これら粒子の分級状況は良く揃っている。分離した粒団はほとんど認められない。また、部分的にマンガンと見られる黒色物が沈着している。また、植栽痕底部と接する部分では構造が壊れており亜角塊状に分離している。この成因としては、1）植栽痕より続

く、植物根による擾乱、２）植栽痕遺構構築時の遺構底面の整形、などの可能性が考えられる。層準Ａ～Ｂは細粒砂混じり微粒砂・シルトからなる。擾乱作用が及んでおり、分級状態はあまり揃っていない。本層上部では分離した粒団が部分的に認められる。この粒団は植栽痕側方から連続しているようにも見えることから、植栽痕機能時に形成されたものの可能性がある。層準Ｂ～Ｃの堆積物は微粒砂・シルトからなり、分級状況は良く揃っている。分離した粒団はほとんど認められない。上位から連続する縦方向の植物根が認められる。層準Ｃ～最上位の堆積物は微粒砂・シルトからなる。比較的揃った分級状況を呈するが、上部は擾乱により乱れている。上位よりのびる縦・横方向の植物根が認められる。

植栽痕覆土は、大きく４層に確認される。ここでは便宜的に上位より、埋土１、埋土２、埋土３、埋土４と呼ぶ。最下位の埋土４は、細礫～粗粒砂大の石灰岩岩片が混じる細粒砂・シルトからなる。下部ではペッド（粒団）が強度に発達しており、１～２㎜程度の粒団が集合体となって、さらに大きな径５㎜前後程度、最大1.5㎝程度の塊状粒団を形成している。各粒団は孔隙によりほぼ囲まれており、部分的に接するだけである。配向性はランダムであり、粒団の間を縫うように植物根が認められる。このような構造は畑作土で認められる粒団構造に類似する。この粒団構造は中部から上部では部分的に不明瞭となり、崩れている状況が窺える。本来存在した発達する粒団が経年変化の過程で上位から崩れてきていることを示している可能性がある。

埋土３はシルト・微粒砂の占める割合が高くなり、細粒化している。分級はあまり揃っていない。粒団構造は埋土１のように発達せず、分離した粒団は部分的に認められるにすぎない。本来存在した粒団が経年変化の過程で崩れてきていることを示している可能性がある。また、植物根が密に配置する。特に本層準では比較的太い植物根（植物遺体の可能性もある）が目立つようになる。

埋土２は埋土３同様シルト・微粒砂からなるが岩片等の混入が目立つ。細かな植物根と太い横方向の植物根（植物遺体の可能性もある）が多くなる。また、分離した粒団は少なく、下部のように発達せず、くずれている状況が窺える。また、層準によっては細礫が水平方向に連続して配列する構造が認められる。このような構造は、遺構機能時に土壌を掘り返し、埋め戻しといった一連の行程で生じたものの可能性がある。

埋土１は植栽痕覆土最上部の暗色部分に相当する。堆積物は埋土２・３と類似し、微粒砂～シルトからなるが岩片が多く混入する。粒団構造が顕著に発達する。粒団の形状は基本的には埋土４下部で認められたものと同様である。この粒団の間を縫うように細かな植物根が密に配置する。

（７）炭化材樹種同定

樹種同定結果を表６に示す。試料№6B-1は、道管が認められることから広葉樹材であるが、保存状態が悪く種類の同定には至らなかった。また、試料№6B-5は組織を観察することができず、不明とした。その他の試料は、広葉樹２種類（コナラ属アカガシ亜属・シイノキ属近似種）とヤシ類に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・シイノキ属近似種（cf. *Castanopsis*）　ブナ科

試料には年輪界が認められない。実体顕微鏡による観察では、やや大型の道管が配列した後、緩やかに管径を減じて、火炎状に配列する様子が確認できた。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、

表６　炭化材樹種同定結果

試料番号	グリッド	遺構名	層位	採取位置	時代観	樹種	
№1	そ－22	№22Pit	下部	柱痕中央	12世紀前後	コナラ属アカガシ亜属	
№2		溝状遺構B		木炭集中	12世紀前後	ヤシ類	
№6A	せ－22	5a層	６層		12世紀	シイノキ属近似類	
№6B	す－26	№26遺構面	８層		12世紀	1	広葉樹
						2	ヤシ類
						3	ヤシ類
						4	ヤシ類
						5	不明

注：No.6Bには複数の種類が認められたため便宜的に番号を付して同定した。

単列、１～20細胞高。

以上の特徴から、落葉性のコナラ節、クリ、常緑性のシイノキ属のいずれかと考えられる。現在の沖縄には、シイノキ属は生育しているが、コナラ節とクリは自生していない。このことから、シイノキ属の可能性が高く、シイノキ属近似種とした。

・ヤシ類

維管束が基本組織中に散在する不在中心柱を持つ。

現生標本との比較では、ヤシ類に近いが、タコノキ属（タコノキ・アダン）等他にも似た組織を有する種類があり、種類の同定には至らなかった。

4．考察

（1）堆積層および遺構の年代について

年代測定の行われた４点の炭化材は、放射性炭素年代測定の誤差幅を考慮すれば、同時期のものであるといってよい。すなわち、４点の試料は、同時期に生息していた樹木に由来する炭化材である。樹種同定結果によれば、これらの試料の中で樹齢が数百年を超える可能性のある樹木は、試料№１のアカガシ亜属と試料№6Aのシイノキ属近似種であるが、そのうちの試料№1は、柱材に使用された可能性のあることから、樹齢数百年の材であった可能性は低い。試料№2と6Bはいずれもヤシ類であり、これらはおそらく長くても樹齢数十年程度の樹木であると考えられる。

以上のことから、試料№6Aは不明であるが、測定年代はいずれも切り出された年代を示唆している可能性が高く、４点の試料の木材が切り出された年代についても同時性が高い。補正年代値からみて、約1050年前頃（９世紀末～10世紀初頭頃）に切り出されたことが推定される。また、このような同時性の高い炭化物を包含することから、各試料が採取された各遺構は互いに同時性が高く、またそれらの検出層位を含む９層上面から６層に至るまでの層位については、かなり短期間での形成が考えられる。これは、包含層の形成に人為が関わっている可能性のあることも示唆される。

一方、測定年代と遺物から推定されている時代観とでは、各層・遺構がおよそ12世紀頃とされていることから、200～300年程度の開きが認められることになる。過去から現在まで大気中の14Ｃ濃度が一定とする前提の基に計算されている放射性炭素年代は、様々な記録から確かめられている年代（いわゆる暦年代）とは一致しないことは周知のことである。しかし、そのずれは、いくつかの測定例をみると最大でも100～200年程度であり、今回のような200～300年に及ぶずれを暦年代との違いだけで説明することは難しい。また、放射性炭素年代測定の試料が炭化材の場合には、一つの材における樹齢分の年代の違いが誤差の説明に用いられることが多いが、これは前述した樹種の理由から、今回の試料№2・№6Bには当てはまらない。現時点では、遺物から推定される時代観との差を説明することができないが、古材などが利用されていたとすれば、今回の結果は矛盾するものではなくなる。後述するように植栽痕が栽培施設として利用されていた可能性が高いこと、沖縄県内で農耕が確実視されるのが12～13世紀頃であることから、遺物が示す年代よりも若干古い遺構が存在する可能性を安易に想定することもできない。今回の測定結果は、本遺跡および本地域の人間活動の年代観を検討する上で重要であり、発掘調査成果および周辺遺跡の情報を含めて総合的に評価する必要がある。

（2）埋葬遺構の検証

今回の土壌理化学分析では、木棺部分についても埋葬部分についても、その痕跡を明瞭に示すような結果を得ることができなかった。分析は元素や微化石など微小な痕跡を検出しようと試みたものであるが、遺跡の立地と埋葬遺構が構築されている土壌層の特性および気候等を考慮すれば、微小な痕跡は土壌中には残りにくかったと考えられる。ここであげた遺跡の立地とは段丘崖下の緩傾斜地という地形であり、土壌層の特性とは土壌深が浅く下位に琉球石灰岩があることで雨水等の浸透水が石灰岩の割れ目から流失し易いという性質（渡嘉敷，1993）であり、気候は高温多雨という性質である。これら全てが、土壌中の微小物の分解と流失を促進させる条件となっている。

このように土壌成分では木棺の有無等に関する情報は得られなかったが、軟Ｘ線写真による微細構造の観察では、試料のほぼ中央の垂直方向に幅１㎝程度の暗色の帯が確認された（図版3）。この帯部分の構造はその回りの構造と比較して、集合体（ペッド）の大きさが小さい傾向が認められた。このような違いが直接木棺構築材に起因するものと断定することはできないが、発掘調査時に木棺が存在すると考えられていた部分に相当することを考慮すると、その可能性は高いといえる。また、この暗色の帯周囲の土壌は大・小の集合体からなり、その配向

性はランダムであった。後世の擾乱作用の影響もあるが、人為的に埋め戻された土壌の構造として捉えることも可能である。

（3）植栽痕の検証

植栽痕覆土の腐植含量は、植栽痕が掘り込まれている堆積物の値と比較して大差ないが、若干覆土の方が高い傾向にあった。このことは何らかの有機物の富化が植栽痕内にあったことを示している可能性がある。今回のように腐植含量が基本的に低い土壌は、沖縄本島における気候的な条件から腐植の分解と流失が比較的早いことを示唆している。また、今回得られたリン酸含量は、これまでの島尻マージの分析例（渡嘉敷，1993）と比べても特に高いということはなく、一般的な特性であるといえる。

以上の分析結果に対して、植物珪酸体分析では、植栽痕覆土においてやや特異な状況が見て取れる。いずれの試料についても稲籾殻や稲藁が混在していた可能性が示唆される。このような産状の原因としては、1）覆土中に稲藁やイネ籾殻などを堆肥として利用した可能性と、2）植栽痕の覆土に利用された土壌が水田等の稲作地の土壌を利用している可能性、3）植栽痕内で稲作が行われていた可能性が考えられる。

植栽痕の軟X線観察では特徴的な構造が認められた。植栽痕覆土は、構造および粒径の違いなどから上位より埋土1～埋土4の4層に区分された。埋土1・4は粒団が著しく発達していた。このような粒団構造は人為的な攪乱を強く受けた、畑作土のような良くこなされた土壌の特徴に類似するものである。したがって、本遺構は人為的な擾乱が及ぶ、農耕施設であった可能性が高い。土壌構造を見る限り畑作土壌の可能性が高い。植物根の形状は縦方向・横方向に密に配置していることから、イネ属などが栽培されていた可能性は低いと判断される。上記したように覆土中に取り込まれているイネ属の植物体は堆肥として利用されていたと考えるのが妥当である。

今回の粒団構造の発達する層準は植栽痕覆土の最下部と最上部であった。その間の埋土2と3については本来粒団が形成されていた可能性もあるが、構造的には異なっていた。特に横方向の太い植物根（植物体）の存在は、本遺構の利用状況を考える上で興味深い結果である。この植物体がイネ属など堆肥に由来するものだとすれば耕作土への堆肥は耕土中部に施していたことになる。また、これらの層準には遺構外に土壌を掘り返し、埋め戻している可能性を示唆する構造も認められている。

このように微細形態的観察からは遺構の性格を検討する多くの情報が得られた。ただし、これらの傾向が検出されている植栽痕全てに普遍的な傾向なのかは今後の課題としたい。

（4）周辺植生および柱材の用材選択について

炭化材にはアカガシ亜属、シイノキ属近似種、ヤシ類が認められた。このうち、アカガシ亜属は柱痕中央からの出土であり、柱材の一部が炭化・残存した可能性がある。アカガシ亜属の木材は、比較的強度が高いことから、柱材としての利用が可能と考えられる。実際に、柱材や住居構築材等にも多数確認されている（島地・伊東，1988；伊東，1990）。これらの結果から、本遺跡においてもアカガシ亜属が柱材として利用されていた可能性がある。

その他の木材については、用途などの詳細は不明である。このうち、シイノキ属近似種（シイノキ属と考えられる）は、スダジイ（オキナワジイ）が沖縄の常緑広葉樹林の主構成種である。また、ヤシ類では、ヤシ科のビロウやタコノキ科のアダンが沖縄本島に生育している。本遺跡で行われた調査結果では、シイノキ属とともに常緑広葉樹林を構成するタブノキ属の炭化材が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1998）。これらの結果から、基本的には現在と同様の常緑広葉樹を主とした植生が見られたと考えられる。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信（1991）『中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量』．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.28－36，

Bowen,H.J.M.(1983)『環境無機化学－元素の循環と生化学－』．浅見輝男・茅野充男訳，297p.，博友社
[Bowen,H.J.M(1979) *Environmental Cemistry of Elements*].

Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M.(1980)『土壌の化学』．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行訳，309p.，学会出版センター
[Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.(1976) *SOIL CHEMISTRY*],p.235-236.

土壌養分測定法委員会編（1981）「土壌養分分析法」．440p.，養賢堂．

土壌標準分析・測定法委員会編（1986）『土壌標準分析・測定法』．354p.，博友社．本名俊正・山本定博（1992）『腐植の簡易分析法』．日本土壌肥料学会編「土壌構成成分解析法」，126p．博友社：p7-35．

伊東隆夫（1990）「日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ」．木材研究・資料，26,p.91－189，京都大学木材研究所．

川崎弘・吉田　澪・井上恒久（1991）『九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量』．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，149p．：p.23－27．

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）「植物珪酸体分析，その特性と応用」．第四紀研究，25，p.31－64．

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）『新版標準土色帖』．

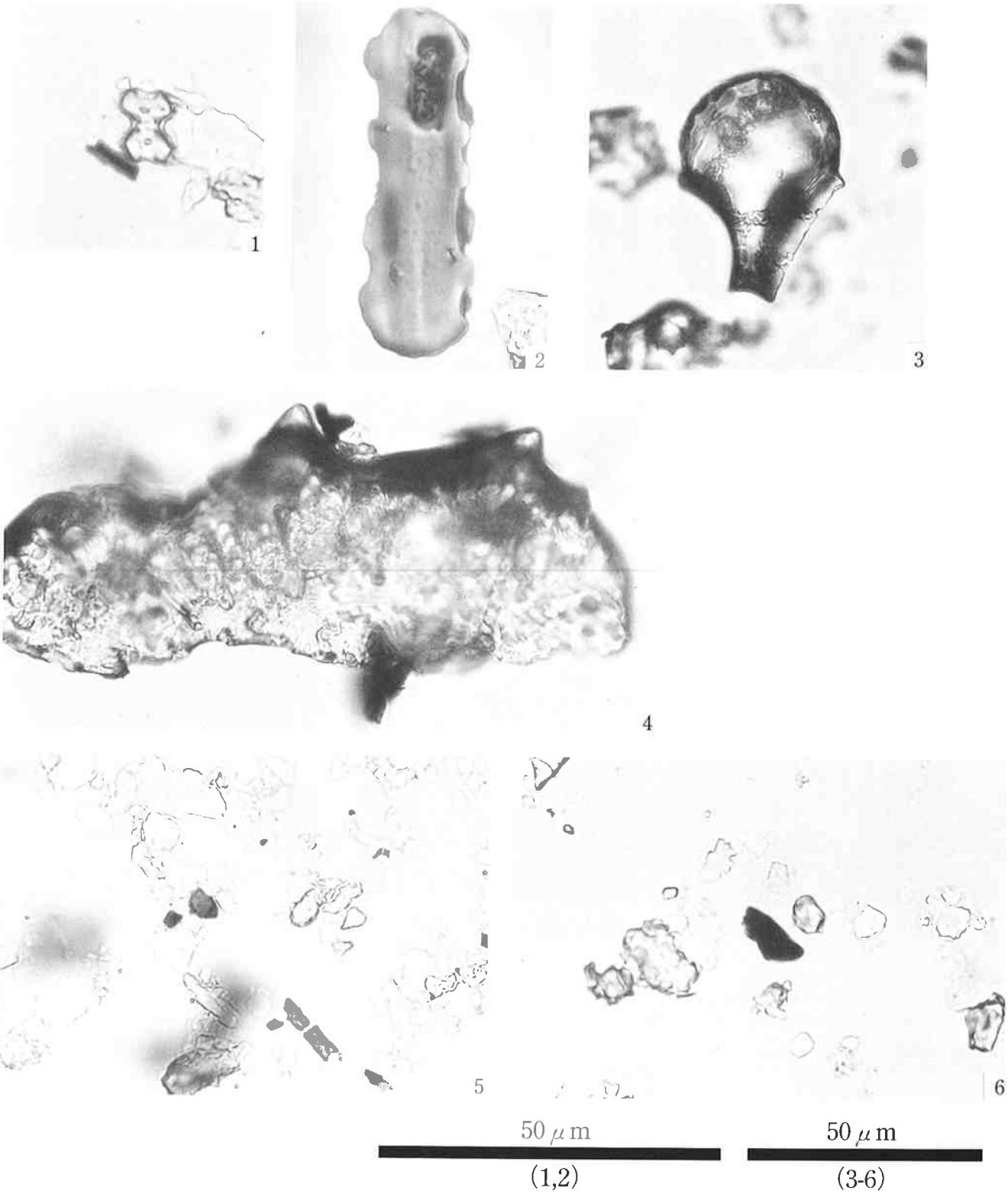
大羽　裕・本名俊正（1984）「黒ボク土判定のための腐植の分析法」．土肥誌，p.55－61．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1998）「伊佐前原第一遺跡における古環境復元」．宜野湾市文化財調査報告書第28集「伊佐前原第一・第二遺跡　キャンプ瑞慶覧基地内の陸軍貯油施設送油管整備工事に係る緊急発掘調査報告書」，p.127－141．沖縄県宜野湾市教育委員会．

島地　謙・伊東隆夫編（1988）『日本の遺跡出土木製品総覧』．296p．雄山閣．

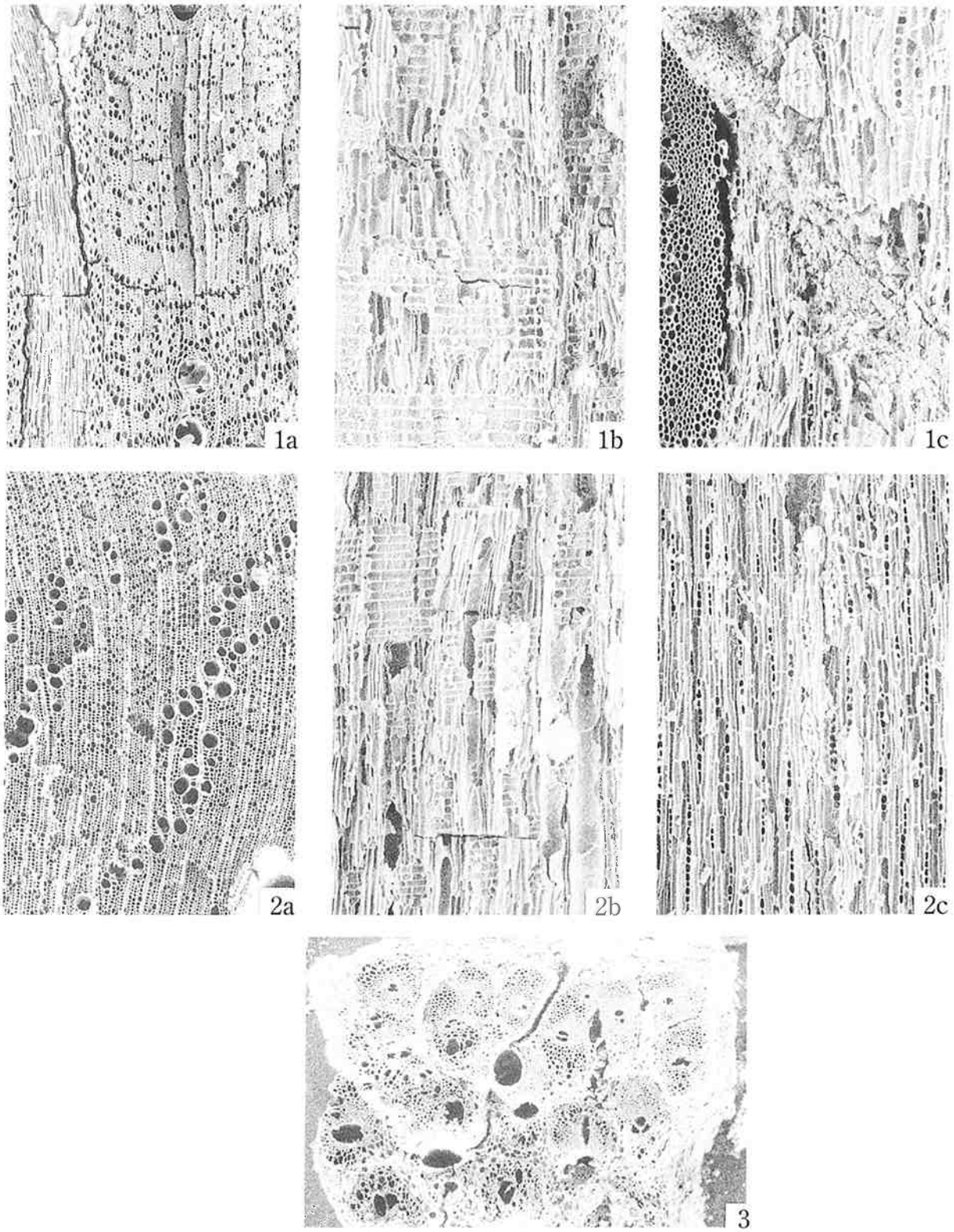
渡嘉敷義浩（1993）「沖縄に分布する島尻マージおよびジャーガルの土壌特性．」ペドロジスト，37，p.99-112

図版1　植物珪酸体



1. イネ属短細胞珪酸体（No.5-9）
2. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（No.5-9）
3. イネ属機動細胞珪酸体（No.5-9）
4. イネ属穎珪酸体（No.5-9）
5. プレパラート内の状況写真（No.5-10）
6. プレパラート内の状況写真（No.5-13）

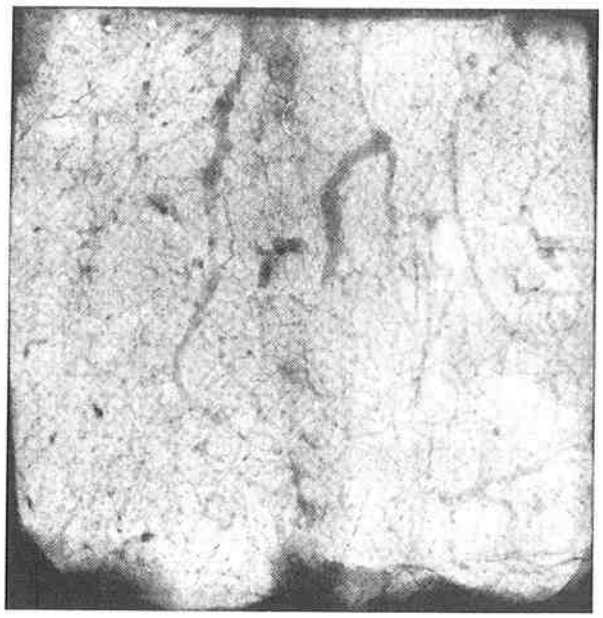
図版2　炭化材

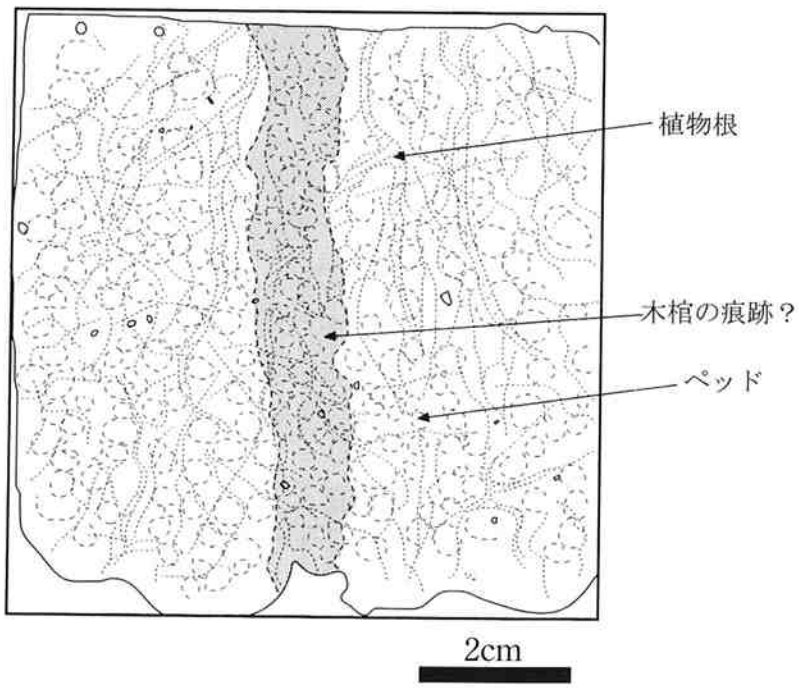


1. コナラ属アカガシ亜属（No.1）　a：木口，b：柾目，c：板目
2. シイノキ属近似種（No.6A）　a：木口，b：柾目，c：板目
3. ヤシ類（No.6B-2）　横断面

200 μm：a,3
200 μm：b,c

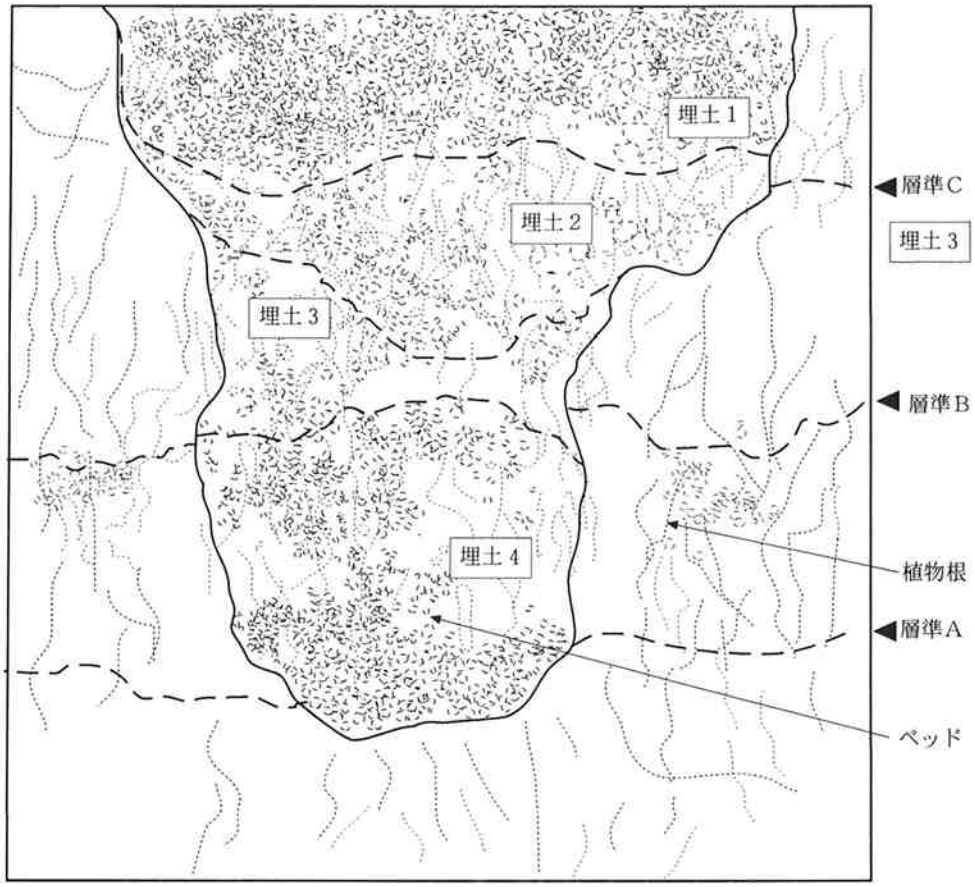
図版3　軟X線写真（1）





埋葬遺構２　試料No.3埋葬遺構木棺部分
試料中央部には垂直方向に暗色の構造が認められる（網掛け部分）
全体に縦方向・横方向の細かな植物根が密に入る

図版4　軟X線写真（2）



試料No.5　植栽痕

10cm

附編２ー用語解説

放射性炭素年代測定(radiocarbon dating)
放射性炭素14Ｃは、大気中では時・所にかかわらず濃度が一定である。しかしいったん樹木や貝殻、有機物の中に固定されると時間の経過とともに14Ｃ濃度が減衰していく。この現象を利用して炭素を含んだ物質の絶対年代測定を行うのが放射性炭素年代測定である。

リン酸(phosphoric acid) H3ＰＯ4
リン脂質は微生物界・植物界・動物界などに広く分布し、生物の生体膜を構成する重要成分である。

カルシウム(calcium)Ｃａ
骨・歯などの主成分である。そのため、カルシウムの含量を調べることによって動物やヒトの遺体痕跡の立証につながる。

軟Ｘ線写真撮影(soft X-rays radiography)
透過力の弱いＸ線で行う写真撮影。有機物などを確認するために有効である。

窒素・リン酸(nitrogen・phosphoric acid)
窒素・リン酸はともに肥料に不可欠な成分である。窒素はたんぱく質として細胞の原形質を形成し、植物の葉の育成に役立つ。リン酸は、リンが細胞膜の成分であり、根の育成に役立つ。

重液(heavy solution)
混合物の分離選別に用いられる比重の大きい液。

フッ化水素酸(hydrofluoric acid)
多くの無機および有機化合物を溶かす。

クロム酸混液(chromic acid mixture)
有機物を酸化する。60～70℃に熱したものが効果的である。

砂浴(sand bath)
薄い鉄板でつくった皿に砂を入れ、これに目的物を埋めて下から加熱する方式。徐々に加熱して簡単に高温を得たいときに用いる。

フェニルアントラニル酸液(phenyl anthranilic acid solution)
定量に用いられる液。

指示薬(indicator)
滴定における当量点の判定に用いられる。溶液の化学的性質を指示する試薬の総称。

滴定(titration)
濃度が既にわかっている溶液を用いて溶液中の物質濃度を決定する容量分析法。

高分子凝集剤(polymer coagulant)
粒子を中和・集合させる高分子量の薬品。高分子物質を介して粒子が接着される。

遠心分離(sentrifugal separation)
遠心力を利用して液体中あるいは気体中に浮遊する液滴あるいは個体粒子を分離する操作。

吸光度(absorbance)

光学密度ともいう。試料物質に対する入射光の強さと透過光の強さから求められる。光を吸収する物質の濃度に比例する量。

硝酸(nitric acid)HNO3

リンなどの非金属を酸化して溶かす。

加熱分解(superheating decomposition)

試料である化合物を加熱して2種類以上のより簡単な物質に変化させる。

原子吸光分析(atomic absorption analysis)

試料を原子化させ、光を通過させて波長を選別し、目的元素による吸光度を測定する。これより試料中の元素の濃度を求めることができる。

水蒸気蒸留法(steam distillation)

比較的沸点の高い、水と溶け合わない有機化合物の蒸留に用いられ、混合物を各成分ごとに分離する操作である。

＜参考文献＞

・渡辺義一『学校理科薬品の利用と管理』黎明書房　1974

・『化学辞典(普及版)』森北出版　1999

文責：青山奈緒（奈良大学大学院）

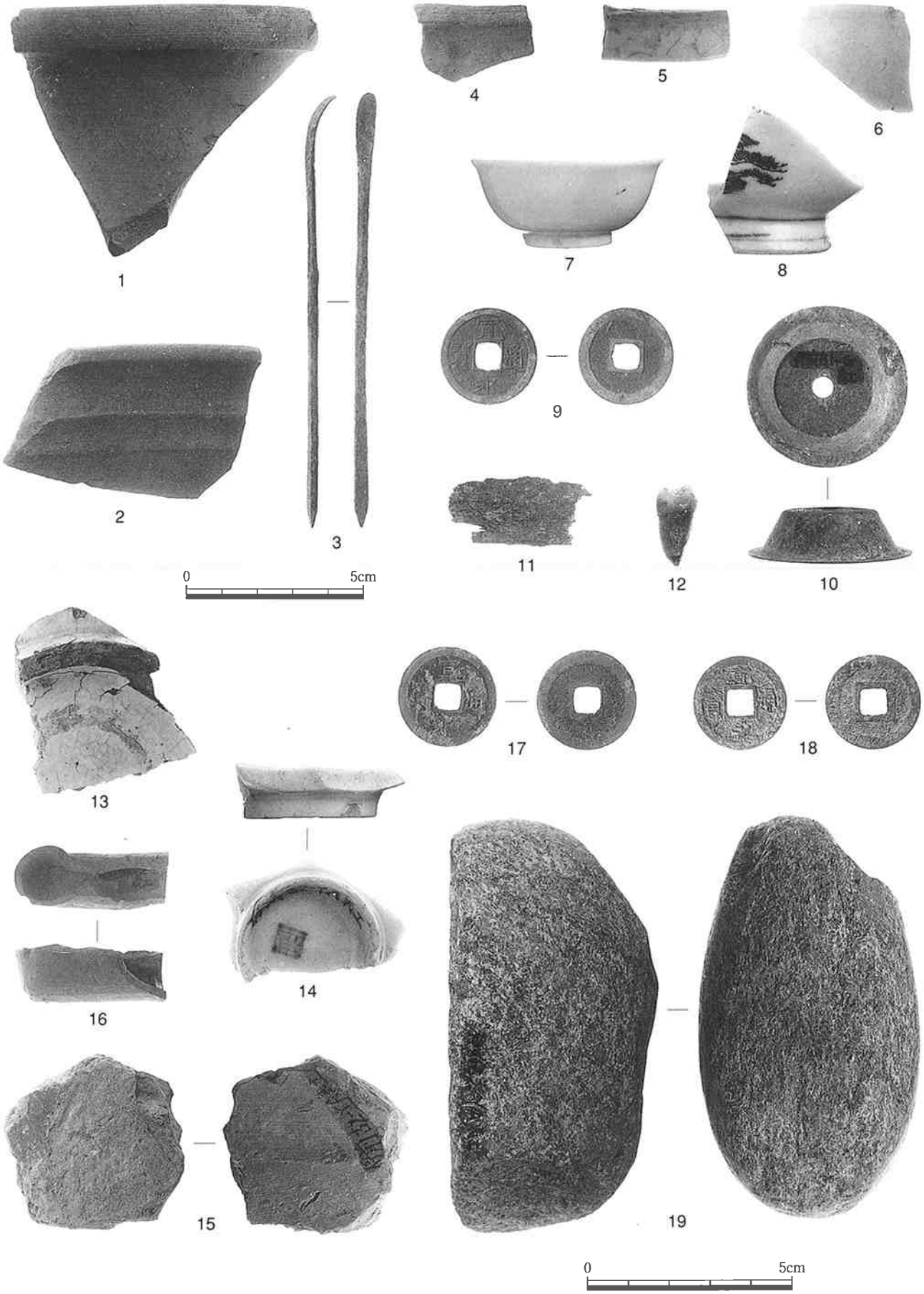
附編３　伊佐前原古墓群（追補報告）

『喜友名泉石畳道・喜友名山川原丘陵古墓群・伊佐前原古墓群－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅱ）－』（沖縄県文化財調査報告書第137集・沖縄県教育委員会・2000年）の巻末でもふれたが、本報告書作成のための資料整理作業を行っているときに、その遺物収納コンテナから、前記の報告書で報告した伊佐前原古墓群の出土遺物が紛れ込んで出てきた。これは、隣接する伊佐前原第一遺跡と伊佐前原古墓群の調査が同時並行で実施されたために起きたわけで、現地調査の段階で、出土遺物の保存管理の徹底ができなかったことに起因する。その後、当埋蔵文化財センターでは、現地調査における出土品等の保存管理体制の見直しを行い、今後、このような事態が起こらないように発掘調査業務に当たることを調査員各自が再確認した。このような経緯で、本報告書において、上述の未報告出土遺物の写真を一括で掲載することになった。しかし、あくまで付編であることから、本書の項数等の都合により、ここで取り上げた遺物の詳細な分析や計測の記録の掲載ができない。ここに記してお詫びします。

伊佐前原古墓出土遺物一覧表

図版番号	遺物番号	遺　物	種　類	部　位	法　量	備　考	出　土　地
図版1	1	沖縄産無釉陶器	壺	口縁部	口径 12.0		1号墓　墓庭　大型壙内
	2	沖縄産無釉陶器	すり鉢	口縁部	口径 21.0		1号墓　屋根上　表土
	3	ジーファー	—	—	残存長 12.6		1号墓　墓庭外前面　表土中
	4	陶質土器	壺？	口縁部	—		1号墓　墓庭　表土
	5	白磁	碗	口縁部	—	玉縁	1号墓　墓庭　表土
	6	白磁	小碗	口縁部	—		1号墓　墓庭　表土
	7	本土産磁器	小杯	口縁部	口径 4.6 底径 2.0 器高 2.0	見込みに色絵の痕跡あり	1号墓　墓庭　表土
	8	本土産磁器	小碗	底部	底径 3.6	銅版刷り	1号墓　屋根上　表土
	9	銭貨	寛永通寶	—	直径 2.9		1号墓　墓庭　岩盤直上
	10	金属製品	不明	—	上径 2.3 下径 4.1 器高 1.1		1号墓　墓庭　表土
	11	人骨	—	—	—		1号墓　墓内　2号石棺内
	12	人骨	歯骨		歯冠幅 10.2 歯冠厚 6.8	上顎・左第2小臼歯	1号墓　墓内　2号石棺内
		人骨	—	—	—	図版なし	1号墓　墓内　2号石棺内
	13	沖縄産施釉陶器	壺類	底部	—		2号墓　屋根上周辺　表土
	14	染付	小碗	底部	底径 3.2		2号墓　屋根上周辺　表土
	15	円盤状製品	—	—	直径 4.5 厚さ 1.3	沖縄産無釉陶器	2号墓　屋根上周辺　表土
	16	煙管	—	雁首	火皿外径 1.4 全長 3.5	沖縄産無釉陶器	2号墓　屋根上　造成土(茶褐色混ﾚｷ土)
	17	銭貨	寛永通寶	—	直径 2.3		2号墓　墓庭　表土
	18	銭貨	寛永通寶	—	直径 2.5		2号墓　墓庭　岩盤直上
		銭貨	寛永通寶	—	直径 2.2	図版なし	2号墓　墓庭　岩盤直上
		銭貨	寛永通寶	—	直径 2.3	図版なし	2号墓　墓庭　表土
	19	石器	—	—	長さ 10.1 厚さ 5.6 幅 5.1		2号墓　屋根上周辺　表土

※法量の単位：cm、歯骨のみmmで表示。



古墓1・2号

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第４集

伊佐前原第一遺跡

―宜野湾北中城線(伊佐～普天間)道路改築事業に伴う
緊急発掘調査報告書(Ⅲ)―

平成13年(2001年)3月

発　行　沖縄県立埋蔵文化財センター
編　集　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125　中頭郡西原町字上原 193-7
TEL 098(835)8751～8752

印　刷　株式会社　近代美術
〒901-1111　南風原町字兼城206

© 沖縄県立埋蔵文化財センター　2001　Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。